

大坂城跡発掘調査報告Ⅰ

— 大阪府庁舎・周辺整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

本 文 編

2 0 0 2

財団法人 大阪府文化財センター



1. 調査地と大阪城（2C調査区）



2. 調査地周辺航空写真



3. 江戸時代 礎石建物 (5A調査区)



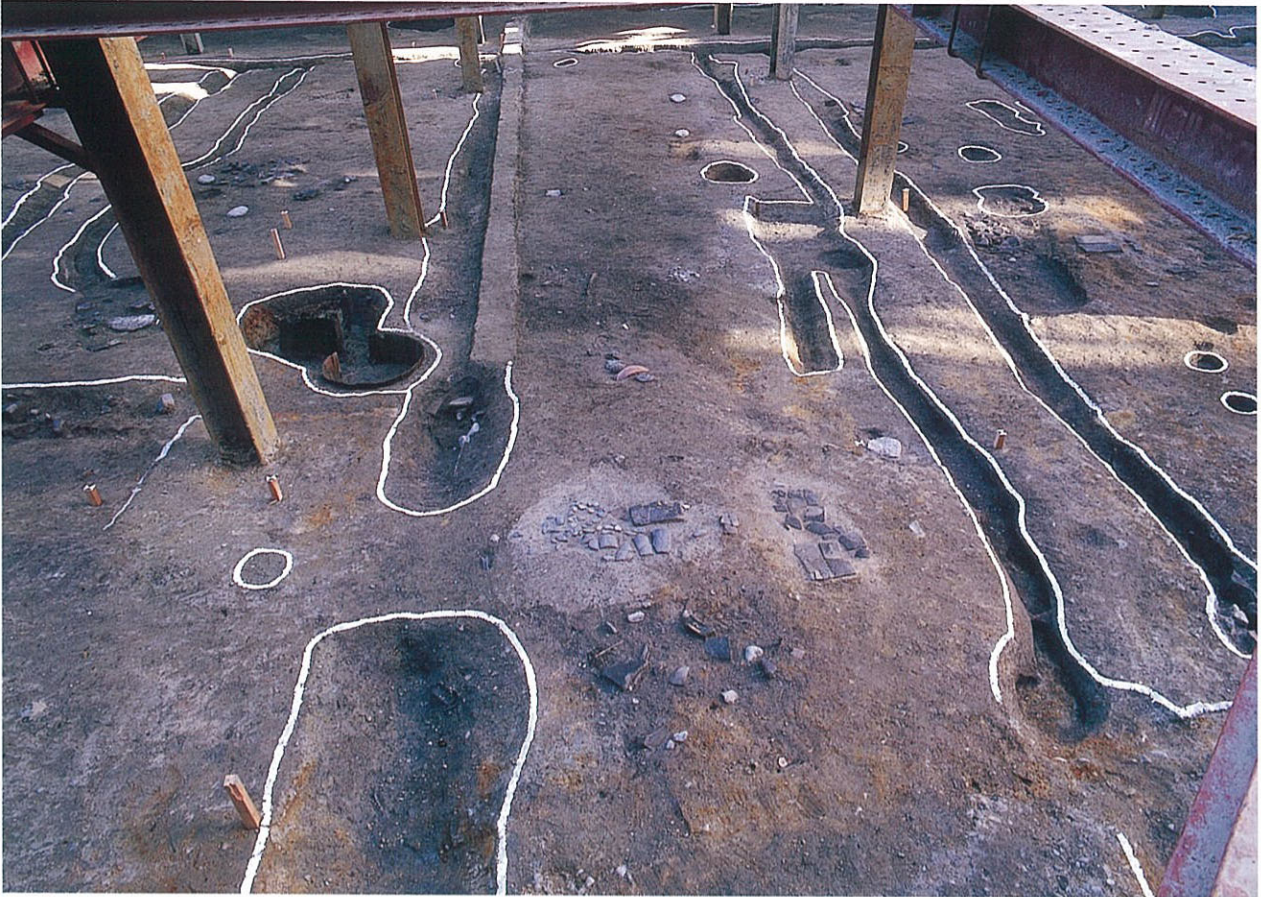
4. 江戸時代 土人形



5. 豊臣後期 屋敷 2 (1A調査区)



6. 大坂夏の陣の焼土层と三の丸の盛土



7. 豊臣前期 屋敷6・7 (3A調査区)



8. 豊臣前期 屋敷1 (1A調査区)



9. 豊臣 扇に月丸紋軒丸瓦



10. 豊臣 家紋系瓦



11. 豊臣 陶磁器・将棋駒・慶長丁銀・小柄他



12. 豊臣 漆器 (左上：現在の漆器)



13. 古代 新羅綠釉蓋 (2B 調査区)



14. 古代 蔓草鳳麟鏡 (5B 調査区 墓 1)



15. 古代 海獸葡萄鏡 (6A調査区 墓2)



16. 古代 墓2 (6A調査区)

序 文

大阪は、明治の始めまでは“大坂”と表記される事が多かった。“阪”の字が広く使われるようになったのは、明治時代になってからである。江戸後期の歌舞伎狂言作家である浜松歌国の「撰陽奇観」の中に、土にかえる“坂”は縁起が悪いから、盛んを意味するこざと偏の“阪”を使用する旨の記載があるが、一般には普及しなかった。江戸時代の大坂は天下の台所として大いに繁栄しており、そうした縁起をかつぐ必要はなかったのであろう。

ところが、明治維新の際の新政府の政策が京阪富豪からの三百万両御用金調達、銀目廃止、蔵屋敷撤廃など大坂に不利なものが多く、大坂城の焼失も相まって大坂の経済があつという間に疲弊してしまった。そこで、縁起をかつがざるを得なくなったために、“阪”の使用が再意識されたのであろう。大阪府の設置が慶応4(1868)年5月であるが、同年8月に太政官から下付された大阪府印に“阪”の字が使用されており、公的には早い段階から“大阪”に変わっていたらしい。ただ、明治10年頃までは公文書にも両者が混用されており、徐々に“大阪”という表記が普及していったようである。本書は、豊臣・徳川大坂城を主な調査対象としているために、あえて“坂”を使用している。

“大坂”という地名が文献にはじめて登場するのは、本願寺8世蓮如の明応6(1497)年11月25日付け門徒あての書状である。この書状には、前年秋に“大坂”に一字の坊舎を営んだ事を記しているが、石山御坊とか大坂御坊と呼ばれるこの坊舎の建立が今日の大坂発展の礎となった。その後、天文元(1532)年～天正8(1580)年までの石山本願寺時代を経て、天下人となった豊臣秀吉の天正11(1583)年からの大坂城築城で、天下の中心としての大坂の地位が確立する。

大坂の地は、西に瀬戸内、東に淀川・大和川がひかえ、水運の拠点として非常に優れた立地条件を備えている。そのため、元和元(1615)年の大坂夏の陣で豊臣氏が滅亡し、政治的な実権を喪失した徳川時代においても、経済的には中心的地位を保っていた。8世紀末の延暦年間に難波宮が廃されて以来衰退していた大坂であるが、蓮如の坊舎建立をきっかけに再び繁栄の道をたどる事になる。

このように大阪の歴史を考える上で、石山本願寺と豊臣大坂城は重要な位置を占めているが、その実態となると不明な点だらけである。その原因は、それらの遺構が元和6(1620)年から寛永6(1629)年にかけて築城された徳川大坂城下に完全に埋没しており、その痕跡すら止めていないためである。近年、大阪城周辺で実施されている発掘調査により、ようやく地中深く残されたそれらの遺構が検出され始め、徐々にその様相が明らかになりつつあるというのが現状である。

今回の発掘調査は、大坂城三の丸跡地での府庁舎建替えによる庁舎周辺整備事業に伴うものであるが、豊臣大坂城の実態に触れる恰好の機会となった。三の丸築造前後の多数の遺構・遺物が検出されたが、中でも家紋瓦の出土から常陸の大名佐竹氏の屋敷地を特定できた事が大きな成果であった。また、古代の建物群や墓なども検出され、優れた立地条件を有するこの地域の豊かな歴史が明らかとなった。

これも、ひとえに大阪府教育委員会、大阪府総務部庁舎周辺整備室を始めとする関係各位のご指導・ご協力の賜物と感謝している。今後とも当センターへのご支援を賜るよう切に希望する。

平成14年6月

財団法人 大阪府文化財センター
理事長 水野正好

胎土・釉薬・漆器・金属分析：井上 巖（第四紀地質研究所株式会社）

金属分析：大澤正己（たたら研究会）

8、調査・整理の過程で多くの方々よりご教示をいただいた。記して謝意を表します（敬称略、いずれも所属は当時）。

既往の調査：佐久間貴士（大阪府教育委員会）、大手前女子学園、松尾信裕・鈴木秀典・積山

洋・森 毅・南 秀雄・佐藤 隆をはじめとする(財)大阪市文化財協会の方々

墨書・金箔瓦・家紋瓦および大坂城全般の文献史研究：渡辺 武・中村博司・北川 央・宮本裕

次・跡部 信（大阪城天守閣）、内田九州男（愛媛大学）

木簡：大橋信弥（滋賀県立安土城考古博物館）、松下 浩（安土城郭調査研究所）

土器・陶磁器類：吉岡康暢・小野正敏・高橋照彦（国立歴史民俗博物館）、森村健一（堺市教育

委員会）、大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館）、藤澤良祐（瀬戸市教育委員会）、前川 要

（富山大学）、近藤義行（城陽市教育委員会）、江浦 洋（大阪府文化財調査研究センター）

漆器：四柳嘉章（石川県立工業高等学校）

平安時代以降の瓦：市本芳三（大阪府文化財調査研究センター）

石庖丁：禰宜田佳男（大阪府教育委員会）、若林邦彦（大阪府文化財調査研究センター）

韓式系土器：田中清美（大阪市文化財協会）

製塩土器と弥生土器：三好孝一（大阪府文化財調査研究センター）

鍛冶・製鉄関係：潮見 浩（広島大学）、河瀬正利・安間拓巳（広島大学）、村上恭通（愛媛大学）、

穴澤義功（たたら研究会）

石塔：藤沢一夫、水野正好（奈良大学）、仁木 宏（大阪市立大学）

刻印石など：藤井重夫（古城友の会）

地震痕跡：寒川 旭（通産省）

硯・碁石・砥石の石材鑑定：佐藤隆春（大阪府立三国ヶ丘高等学校）

玩具と土人形：奥村寛純（伏見郷土玩具資料館）

佐竹氏関係資料：小松正夫・日野 久（秋田市教育委員会）、阿久津 久（茨城県事業団）、高根

信和（茨城県歴史館）、天徳寺、浅野晴樹（埼玉県教育委員会）

鏡と墓：勝部明生（五條市博物館）、久保智康（京都国立博物館）、黒崎 直・杉山 洋・巽淳一

郎（奈良国立文化財研究所）、柴原永遠男（大阪市立大学）、藤原 学（吹田市立博物館）、中

尾芳治（帝塚山学院大学）、藤澤一夫、藤澤典彦（元興寺文化財研究所）、前園実知雄（奈良芸

術短期大学）、今津節生・松田真一（奈良県立橿原考古学研究所）、前田洋子（大阪市立博物館）、

水野正好（奈良大学）、森 浩一・松藤和人（同志社大学）、森田 稔（文化庁）、成瀬正和

（正倉院事務所）

また、成瀬正和、森村健一、藤澤良祐、金子健一、寒川 旭の各氏にはご多忙の中、第4章 考察に玉稿をいただいた。重ねて謝意を表します。

なお鍛冶・製鉄関連遺物、金属製品他の実測とレイアウトは新海正博、古代の土師器・須恵器のレイアウトは後藤信義、古代瓦の実測・レイアウトは島崎久恵各氏の手を煩わせた。記して謝意を申し上げます。

9、発掘調査参加者

三島良治・小松英雄・谷口博紀・堀田 智・堤 昌子・大喜多真季・井口友子・田中靖子・高木香織・新名 強・堺 弓子・水永貴丸・田村正智・斎藤梨佳・佐々木和重・東 徹志・藤原智勝・渡辺富彦・近澤 元・利川恭子・斉藤陽子・浅川永子・林田道子・佐藤陽子・川崎直子・江口慶子・吉見美貴子・大畑裕代・永野純子・内山暁子・宮川恵津子・吉武砂織・高橋あゆみ・石垣有紀・岡垣内美保・中尾昌美・福島由美・福添博美・中尾昌美・杉山真弓・田中美貴・山川かおり・吉田綾子・鶴山まり・久木眞美・辻井こずえ・新井一江・浅井良子・奥村めぐみ・杵川真知・小寺 律・滝川重徳・清水妙香・河北洋子・山西徳美・林 千花・古川美砂・港屋海人・永井 宏・岡村寛子・松本みゆき・辻 信広・滝下由紀子・宮下祐子・清喜裕二・大川千賀・小川早月・高松昭江・信田美津・山下芽津子・吉武弘子・紙本淳子・山下優子・鹿島真由美・平田麻希

報告書作成参加者

福岡正春・森川 実・佐藤友美・木下知子・久木眞美・木南アツ子・小泉陽子・斉藤梨佳・斉藤陽子・正司真理子・近澤 元・長尾 恵・信田美津・浜田保子・山下茅津子・吉武弘子

- 10、本書の執筆分担については第2章II-2（P.32）に記したとおりである。編集は平成9年4月1日から平成11年3月31までを鋤柄がおこない、平成10年4月1日から平成13年3月31日までは小林和美がこれを助けた。なお平成11年3月31日で、文章・図表作成等の基礎作業を終了し、平成14年度に印刷製本作業を行った。
- 11、本調査に関わる遺物・写真・カラースライド・実測図等は(財)大阪府文化財センターにおいて保管している。広く利用されることを希望する。

凡 例

- 1、本書で用いた北は国土座標第IV座標系の座標北であり、座標の記載は全てm単位である。
- 2、標高は東京湾平均海面（T. P. ）を基準としている。
- 3、土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帳』に準拠した。
- 4、本書では、本文中の挿図および写真図版の番号は、全体を通しての通し番号としていない。本文第1章～第3章・第5章までは通し番号を付与し、第4章のみ各論考ごとに「図4-I-1」というように表記している。これは写真図版についても同様である。
- 5、挿図における遺物番号は各時代内で完結する番号を付与している。
- 6、遺物実測図の縮尺は錢貨の2/3を除き、1/4を基本としている。ただ一部の遺物は必ずしもこの限りではない。各々の縮尺率については、各スケールに縮尺率を明示しているので、そちらを参照されたい。
- 7、木簡の写真はいずれも赤外写真である。
- 8、土器類の断面については、須恵器を黒塗り、その他は白抜きとした。

目 次

巻頭図版

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 調査地と大阪城 | 2. 調査地周辺航空写真 |
| 3. 江戸時代 礎石建物（5 A調査区） | 4. 江戸時代 土人形 |
| 5. 豊臣後期 屋敷2（1 A調査区） | 6. 大坂夏の陣の焼土層と三の丸の盛土 |
| 7. 豊臣前期 屋敷6・7（3 A調査区） | 8. 豊臣前期 屋敷1（1 A調査区） |
| 9. 豊臣 扇に月丸紋軒丸瓦 | 10. 豊臣 家紋系瓦 |
| 11. 豊臣 陶磁器・将棋駒・慶長丁銀・小柄他 | 12. 豊臣 漆器 |
| 13. 古代 新羅緑釉蓋（2 B調査区） | 14. 古代 蔓草鳳麟鏡（5 B調査区 墓1） |
| 15. 古代 海獣葡萄鏡（6 A調査区 墓2） | 16. 古代 墓2（6 A調査区） |

序 文
例 言
凡 例
目 次

本文編

第1章 位置と環境

- | | |
|-------------|----|
| I 地理的環境 | 1 |
| II 歴史的環境 | 4 |
| III 大坂城跡の調査 | 10 |

第2章 調査に至る経緯と経過

- | | |
|----------------------|----|
| I 調査に至る経緯 | 27 |
| II 調査の経過と成果の概要 | 28 |
| 1、調査の方法と経過 | 28 |
| 2、正報告書作成の方針とその仕様について | 29 |

第3章 調査成果

- | | |
|-----------------|----|
| I 考古学的調査 | 33 |
| 1、層序 | 33 |
| （1）基本層序 | 33 |
| （2）調査区毎の層序概要 | 34 |
| 2、遺構と遺物 | 45 |
| （1）徳川氏による大坂城再築後 | 45 |

| | |
|----------------------------|-----|
| A-1、5 A 調査区以外の遺構 | 51 |
| A-2、5 A 調査区の遺構 | 67 |
| B、遺物 | 75 |
| a、漆器・土器・陶磁器 | 75 |
| b、焼塩壺 | 89 |
| c、木製品 | 94 |
| d、下駄 | 95 |
| e、金属製品 | 97 |
| f、羽口 | 100 |
| g、埴埴類 | 102 |
| h、土人形・土製品 | 102 |
| i、銭貨 | 112 |
| j、石製品 | 112 |
| k、瓦 | 113 |
| (2) 大坂夏の陣終結後、徳川大坂城再築直前 | 119 |
| A、遺構 | 121 |
| (3) 三の丸築造以降、大坂夏の陣直前 | 123 |
| A-1、5 A 調査区以外の遺構 | 128 |
| A-2、5 A 調査区の遺構（三の丸築造以前も含む） | 159 |
| B、遺物 | 170 |
| a、漆器・土器・陶磁器 | 170 |
| b、木製品 | 193 |
| c、金属製品 | 197 |
| d、羽口 | 199 |
| e、埴埴類 | 202 |
| f、土人形 | 202 |
| g、銭貨 | 207 |
| h、石製品 | 207 |
| i、瓦 | 210 |
| (4) 豊臣大坂城築造以降、三の丸築造直前 | 225 |
| A、5 A 調査区以外の遺構 | 231 |
| B、遺物 | 251 |
| a、漆器・土器・陶磁器 | 252 |
| b、木製品 | 273 |
| c、金属製品 | 279 |
| d、鋳型 | 283 |
| e、羽口 | 284 |
| f、埴埴類 | 289 |

| | |
|-------------------------------|-----|
| g、土人形 | 292 |
| h、錢貨 | 292 |
| i、石器・石製品・石塔 | 292 |
| j、瓦 | 295 |
| (5) 豊臣大坂城築造以前 | 309 |
| A-1、5A調査区以外の遺構 | 313 |
| A-2、5A調査区の遺構 | 333 |
| B、遺物 | 335 |
| a、土器類 | 335 |
| b、土製品 | 372 |
| c、金属製品 | 372 |
| d、羽口 | 374 |
| e、錢貨 | 379 |
| f、石器・石製品 | 379 |
| g、瓦 | 380 |
| (6) 遺物の出土位置と内容 | 387 |
| A、徳川氏による大坂城再築後の漆器・土器・陶磁器 | 387 |
| B、三の丸築造以降、大坂夏の陣直前の漆器・土器・陶磁器 | 394 |
| C、豊臣大坂城築造以降、三の丸築造直前の漆器・土器・陶磁器 | 406 |
| D、豊臣大坂城築造以前の土器類 | 415 |
| E、漆器椀 | 422 |
| F、下駄 | 446 |
| G、焼塩壺 | 459 |
| H、木製品 | 471 |
| I、金属製品 | 476 |
| J、羽口 | 487 |
| K、埴塼類 | 490 |
| L、土人形 | 491 |
| M、錢貨 | 504 |
| N、硯 | 512 |
| O、石器・石製品 | 514 |
| P、基石 | 516 |
| Q、石臼・刻印石・石鉢 | 517 |
| R、石塔・石仏 | 518 |
| S、徳川氏による大坂城再築後の瓦 | 519 |
| T、大坂夏の陣終結後、徳川大坂城再築直前の瓦 | 530 |
| U、三の丸築造以降、大坂夏の陣直前の瓦 | 531 |
| V、豊臣大坂城築造以降、三の丸築造直前の瓦 | 541 |
| W、豊臣大坂城築造以前の瓦 | 551 |

自然科学・考察編

II 自然科学的調査

| | | | |
|-----|-----------------------------|---------------------------|-----|
| 1 | 放射性炭素年代測定 | (山田 治) | 1 |
| 2 | 大坂城跡(その2) 出土土器内採集土壌の脂肪分析 | (中野寛子・明瀬雅子・ 長田正宏・中野益男) | 3 |
| 3 | 花粉分析 | (パリノ・サーヴェイ 株式会社) | 11 |
| (1) | 大阪府庁舎建設に伴う自然科学調査1 | | 11 |
| (2) | 大阪府庁舎建設に伴う自然科学調査2 | | 22 |
| (3) | 大坂城跡から検出された豊臣期の鋤溝状遺構の性格について | | 61 |
| (4) | 大坂城跡の古植生と畑作の検討 | | 65 |
| 4 | 胎土分析 | (井上 巖) | 71 |
| 5 | 釉薬の化学分析 | (井上) | 112 |
| 6 | 漆器の化学分析および薄片作成 | (井上) | 125 |
| 7 | 金属分析 | (井上) | 146 |
| 8 | 大坂城跡出土鍛冶・鋳造関連遺物の金属学的調査 | (大澤正己・鈴木瑞穂) | 148 |
| 9 | 大坂城跡出土の植物遺体 | (山口誠治) | 286 |
| 10 | 大坂城跡出土の動物遺体 | (山口) | 290 |

第4章 考察

| | | | |
|------|------------------------------|-------------|-----|
| I | 古代の鉄器生産遺構 | (新海正博) | 307 |
| II | 3A・5B調査区出土の子持ち勾玉について | (新海) | 319 |
| III | 遺跡立地からみた古代の上町台地—台地北半部を中心として— | (小林和美) | 327 |
| IV | 聖武朝難波京の構造と平安時代前期の上町台地 | (鋤柄俊夫) | 335 |
| V | 三の丸築造以前の基準資料 | (鋤柄) | 349 |
| VI | 大坂城跡6A調査区検出の地震痕跡について | (鋤柄・寒川 旭) | 369 |
| VII | 大坂城跡府庁地点出土の瀬戸・美濃産陶磁器について | (藤澤良祐・金子健一) | 379 |
| VIII | 福建省漳州窯系陶磁器(スワトウ・ウエア)について | (森村健一) | 389 |
| IX | 大坂城跡出土の漆器について | (亀井 聡) | 405 |
| X | 大坂城跡の竈跡について | (合田幸美) | 417 |
| XI | 大坂城三の丸地点出土の鏡と銭の金属材質調査 | (成瀬正和) | 435 |
| XII | 舎密局関連遺構について | (合田) | 441 |
| XIII | 大阪陸軍幼年学校について | (小林) | 449 |
| XIV | 旧大手前之町における明治～昭和時代の土地利用変遷 | (小林) | 455 |

| | | |
|--------|------|-----|
| 第5章 総括 | (鋤柄) | 467 |
|--------|------|-----|

目 次

本文編図目次

| | | | | | |
|-----|-------------------------------|-------|------|-------------------------|---------|
| 図1 | 大阪城の位置 | 1 | 図66 | 木製品 2 | 94 |
| 図2 | 地形分類図 | 2 | 図67 | 下駄 | 95 |
| 図3 | 等高線図 | 3 | 図68 | 金属製品 1 | 96 |
| 図4 | 大坂城周辺の遺跡分布図 | 5 | 図69 | 金属製品 2 | 96 |
| 図5 | 既往の調査地点 | 11 | 図70 | 羽口 | 97 |
| 図6 | 調査区の位置 | 30 | 図71 | 埴埴類 | 98 |
| 図7 | トレンチ配置図 | 31 | 図72 | 土人形 1 | 99 |
| 図8 | 基本層序模式図 | 33 | 図73 | 土人形 2 | 100 |
| 図9 | 1 A 調査区東西縦断面図 | 34 | 図74 | 銭 1 | 101 |
| 図10 | 調査区南北縦断面図 | 41・42 | 図75 | 銭 2 | 102 |
| 図11 | 遺構配置図 (5 A 調査区は除く) | 45・46 | 図76 | 硯 | 103 |
| 図12 | 6 A 調査区 炉 1・2 平面・断面図 | 52 | 図77 | 石製品 | 104 |
| 図13 | 6 A 調査区 瓦敷き平面・断面図 | 53 | 図78 | 石塔 1 | 104 |
| 図14 | 5 C 調査区 石列平面図 | 54 | 図79 | 石塔 2 | 105 |
| 図15 | 2 C 調査区 石組 1・6 A 調査区 石垣 1 平面図 | 54 | 図80 | 軒丸瓦計測位置図 | 106 |
| 図16 | 1 A 調査区 土坑 4 平面図 | 54 | 図81 | 巴紋様の数量化によるデンドログラム | 106 |
| 図17 | 1 A 調査区 土坑 16 平面図 | 54 | 図82 | 巴紋様属性数値の群別比較 | 106 |
| 図18 | 3 B 調査区 土坑 11 平面図 | 56 | 図83 | 瓦 1 | 106 |
| 図19 | 3 B 調査区 土坑 14 平面図 | 56 | 図84 | 瓦 2 | 107 |
| 図20 | 1 A 調査区 石組 1 平面・立面図 | 56 | 図85 | 瓦 3 | 108 |
| 図21 | 1 A 調査区 石組 2 平面・立面図 | 56 | 図86 | 瓦 4 | 109 |
| 図22 | 1 A 調査区 石組 4・5 平面図 | 57 | 図87 | 瓦 5 | 110 |
| 図23 | 1 A 調査区 石組 6 平面・立面図 | 57 | 図88 | 瓦 6 | 111 |
| 図24 | 1 A 調査区 溝 4 平面・断面図 | 58 | 図89 | 瓦 7 | 112 |
| 図25 | 3 B 調査区 石列 1・2・3 平面図 | 59 | 図90 | 瓦 (包含層) 8 | 113 |
| 図26 | 2 C 調査区 井戸 12 平面・立面図 | 60 | 図91 | 瓦 (包含層) 9 | 114 |
| 図27 | 1 A 調査区 炉床平面・立面図 | 60 | 図92 | 瓦 (包含層) 10 | 115 |
| 図28 | 4 A 調査区 溝 11 断面図 | 60 | 図93 | 瓦 (包含層) 11 | 115 |
| 図29 | 4 A 調査区 溝 39・47 断面図 | 61 | 図94 | 瓦 (包含層) 12 | 116 |
| 図30 | 4 A 調査区 溝 49・61 断面図 | 61 | 図95 | 遺構配置図 | 119 |
| 図31 | 4 A 調査区 溝 68・69 断面図 | 61 | 図96 | 3 A 調査区 竈 22 平面図 | 122 |
| 図32 | 5 C 調査区 溝 13 断面図 | 62 | 図97 | 3 A 調査区 竈 23 (24) 平面図 | 122 |
| 図33 | 5 C 調査区 土坑 55 断面図 | 62 | 図98 | 3 A 調査区 竈 25 平面図 | 122 |
| 図34 | 6 A 調査区 土坑 165 内石列平面・立面図 | 63 | 図99 | 3 A 調査区 竈 26 平面図 | 122 |
| 図35 | 2 C 調査区 土坑 38 平面図 | 63 | 図100 | 遺構配置図 (5 A 調査区を除く) | 123・124 |
| 図36 | 遺構配置図 (5 A 調査区) | 67 | 図101 | 3 A 調査区 井戸 2 平面・立面図 | 130 |
| 図37 | 5 A 調査区 土坑 22・23 平面・断面図 | 70 | 図102 | 5 C 調査区 井戸 2 平面図 | 130 |
| 図38 | 5 A 調査区 土坑 190 平面・断面図 | 70 | 図103 | 1 A 調査区 溝 14 平面・断面図 | 130 |
| 図39 | 5 A 調査区 礎石建物平面図 | 71 | 図104 | 3 A 調査区 溝 17 平面図 | 131 |
| 図40 | 5 A 調査区 建物 1 平面図 | 72 | 図105 | 1 A 調査区 溝 15・16 断面図 | 131 |
| 図41 | 5 A 調査区 建物 2 平面図 | 73 | 図106 | 1 A 調査区 溝 7 断面図 | 132 |
| 図42 | 5 A 調査区 炉 3 平面図 | 73 | 図107 | 3 B 調査区 池 1 平面・立面図 | 132 |
| 図43 | 5 A 調査区 炉 5 断面図 | 73 | 図108 | 3 B 調査区 池 1 断面図 | 132 |
| 図44 | 5 A 調査区 炉 4 平面・断面図 | 73 | 図109 | 1 A 調査区 土坑 63 平面・断面図 | 133 |
| 図45 | 5 A 調査区 炉 8・9 平面・断面図 | 73 | 図110 | 1 A 調査区 土坑 64 平面・断面図 | 133 |
| 図46 | 5 A 調査区 胞衣壺 1 平面・立面図 | 74 | 図111 | 2 C 調査区 土坑 53 断面図 | 134 |
| 図47 | 5 A 調査区 胞衣壺 2 平面・立面図 | 74 | 図112 | 2 C 調査区 土坑 65 平面・断面図 | 134 |
| 図48 | 漆器・陶磁器・土器 1 | 77 | 図113 | 2 C 調査区 羽釜周辺平面図 | 134 |
| 図49 | 漆器・陶磁器・土器 2 | 78 | 図114 | 2 C 調査区 土坑 67 断面図 | 134 |
| 図50 | 漆器・陶磁器・土器 3 | 79 | 図115 | 2 D 調査区 土坑 27・28 平面・断面図 | 135 |
| 図51 | 漆器・陶磁器・土器 4 | 80 | 図116 | 2 D 調査区 土坑 29 平面・断面図 | 135 |
| 図52 | 漆器・陶磁器・土器 5 | 81 | 図117 | 3 A 調査区 土坑 185 平面・断面図 | 136 |
| 図53 | 漆器・陶磁器・土器 6 | 82 | 図118 | 3 A 調査区 土坑 208 平面・断面図 | 137 |
| 図54 | 漆器・陶磁器・土器 7 | 83 | 図119 | 3 B 調査区 土坑 38 平面・断面図 | 137 |
| 図55 | 漆器・陶磁器・土器 8 | 84 | 図120 | 1 A 調査区 建物 1 平面・断面図 | 138 |
| 図56 | 漆器・陶磁器・土器 9 | 85 | 図121 | 1 A 調査区 建物 2 平面・断面図 | 138 |
| 図57 | 漆器・陶磁器・土器 10 | 86 | 図122 | 1 A 調査区 建物 3 平面・断面図 | 139 |
| 図58 | 漆器・陶磁器・土器 (包含層) 11 | 87 | 図123 | 1 A 調査区 建物 4 平面・断面図 | 139 |
| 図59 | 漆器・陶磁器・土器 (包含層) 12 | 88 | 図124 | 1 A 調査区 建物 5 平面・断面図 | 140 |
| 図60 | 焼塩壺 1 | 89 | 図125 | 1 A 調査区 建物 6 平面・断面図 | 140 |
| 図61 | 焼塩壺 2 | 90 | 図126 | 1 A 調査区 建物 7 平面・断面図 | 141 |
| 図62 | 焼塩壺 3 | 91 | 図127 | 1 A 調査区 建物 8 平面・断面図 | 141 |
| 図63 | 焼塩壺 4 | 91 | 図128 | 1 A 調査区 建物 9 平面・断面図 | 142 |
| 図64 | 特殊土製品 | 92 | 図129 | 1 A 調査区 建物 10 平面・断面図 | 142 |
| 図65 | 木製品 1 | 93 | 図130 | 1 A 調査区 建物 11 平面・断面図 | 142 |

| | | | | | | |
|------|----------------|---------------------|-----|------|--------------------------|---------|
| 図131 | 1 A 調査区 | 建物12平面・断面図 | 142 | 図203 | 漆器・陶磁器・土器（包含層）12 | 184 |
| 図132 | 1 A 調査区 | 建物13平面・断面図 | 143 | 図204 | 漆器・陶磁器・土器（包含層）13 | 185 |
| 図133 | 1 A 調査区 | 建物14平面・断面図 | 143 | 図205 | 焼塩壺 | 186 |
| 図134 | 1 A 調査区 | 建物15平面・断面図 | 143 | 図206 | 木製品1 | 187 |
| 図135 | 1 A 調査区 | 建物16平面・断面図 | 143 | 図207 | 木製品2 | 188 |
| 図136 | 1 A 調査区 | 建物17平面・断面図 | 144 | 図208 | 木製品3 | 189 |
| 図137 | 1 A 調査区 | 建物18平面・断面図 | 144 | 図209 | 木製品4 | 190 |
| 図138 | 1 A 調査区 | 建物19平面・断面図 | 143 | 図210 | 木製品5 | 191 |
| 図139 | 1 A 調査区 | 柵列1平面・断面図 | 145 | 図211 | 木製品6 | 192 |
| 図140 | 1 A 調査区 | 柵列2平面図 | 145 | 図212 | 木製品7 | 193 |
| 図141 | 1 A 調査区 | 柵列3平面・断面図 | 145 | 図213 | 下駄 | 194 |
| 図142 | 1 A 調査区 | 柵列4平面・断面図 | 145 | 図214 | 金属製品1 | 195 |
| 図143 | 3 B 調査区 | 建物11平面図 | 146 | 図215 | 金属製品2 | 196 |
| 図144 | 3 B 調査区 | 建物11埋篋平面図 | 146 | 図216 | 金属製品3 | 199 |
| 図145 | 5 B 調査区 | ピット列平面・断面図 | 146 | 図217 | 羽口・埴塙類 | 200 |
| 図146 | 1 A 調査区 | 屋敷2平面図 | 147 | 図218 | 土人形 | 200 |
| 図147 | 1 A 調査区 | 屋敷3平面図 | 147 | 図219 | 銭1 | 201 |
| 図148 | 1 A 調査区 | 土坑288・道路1・溝52平面・断面図 | 148 | 図220 | 銭2 | 202 |
| 図149 | 6 A 調査区 | ピット133平面・断面図 | 148 | 図221 | 硯・石製品 | 203 |
| 図150 | 3 B 調査区 | 瓦列1平面図 | 148 | 図222 | 石臼（石鉢）1 | 203 |
| 図151 | 6 A 調査区 | ピット412平面・断面図 | 149 | 図223 | 石臼2 | 204 |
| 図152 | 6 A 調査区 | 瓦溜まり3平面図 | 149 | 図224 | 石臼3 | 205 |
| 図153 | 1 A 調査区 | 石組7平面図 | 149 | 図225 | 石塔（石仏） | 206 |
| 図154 | 4 A 調査区 | 建物1・谷1平面図 | 150 | 図226 | 瓦1 | 207 |
| 図155 | 2 D 調査区 | 堀2平面図 | 151 | 図227 | 瓦2 | 208 |
| 図156 | 2 D 調査区 | 堀2横断面図 | 151 | 図228 | 瓦3 | 209 |
| 図157 | 2 D 調査区 | 堀1縦断面図 | 151 | 図229 | 瓦4 | 210 |
| 図158 | 2 D 調査区 | 景観復原 | 152 | 図230 | 瓦5 | 211 |
| 図159 | 2 D 調査区 | 堀1・3 C 調査区 堀2横断面図 | 153 | 図231 | 瓦6 | 212 |
| 図160 | 遺構配置図 | （5 A 調査区） | 155 | 図232 | 瓦7 | 213 |
| 図161 | 5 A 調査区 | 溝21断面図 | 159 | 図233 | 瓦8 | 214 |
| 図162 | 5 A 調査区 | 溝45断面図 | 159 | 図234 | 瓦9 | 215 |
| 図163 | 5 A 調査区 | 溝110平面図 | 159 | 図235 | 瓦10 | 216 |
| 図164 | 5 A 調査区 | 瓦組導水管2平面図 | 160 | 図236 | 瓦11 | 217 |
| 図165 | 5 A 調査区 | 土坑94・95平面図 | 160 | 図237 | 瓦（包含層）12 | 218 |
| 図166 | 5 A 調査区 | 土坑154断面図 | 161 | 図238 | 瓦（包含層）13 | 219 |
| 図167 | 5 A 調査区 | 土坑155平面・断面図 | 161 | 図239 | 瓦（包含層）14 | 220 |
| 図168 | 5 A 調査区 | 土坑159断面図 | 161 | 図240 | 瓦（包含層）15 | 221 |
| 図169 | 5 A 調査区 | 土坑269断面図 | 161 | 図241 | 瓦（包含層）16 | 222 |
| 図170 | 5 A 調査区 | 土坑299断面図 | 161 | 図242 | 遺構配置図 | 225・226 |
| 図171 | 5 A 調査区 | 土坑316断面図 | 162 | 図243 | 2 D 調査区 井戸1断面図 | 232 |
| 図172 | 5 A 調査区 | 土坑309平面・断面図 | 162 | 図244 | 2 D 調査区 井戸4断面図 | 233 |
| 図173 | 5 A 調査区 | 土坑393断面図 | 162 | 図245 | 3 A 調査区 溝37・溝90断面図 | 234 |
| 図174 | 5 A 調査区 | 土坑324断面図 | 162 | 図246 | 3 A 調査区 溝36・溝37・溝90断面図 | 234 |
| 図175 | 5 A 調査区 | 土坑404断面図 | 162 | 図247 | 3 A 調査区 溝77内石組平面図 | 235 |
| 図176 | 5 A 調査区 | 土坑423断面図 | 163 | 図248 | 5 B 調査区 土坑73平面・立面図 | 235 |
| 図177 | 5 A 調査区 | 土坑415断面図 | 163 | 図249 | 6 A 調査区 土坑177平面・断面図 | 236 |
| 図178 | 5 A 調査区 | 土坑426平面・断面図 | 163 | 図250 | 1 A 調査区 屋敷1遺物出土状況図 | 236 |
| 図179 | 5 A 調査区 | 建物12平面図 | 163 | 図251 | 1 A 調査区 礎石群平面・断面図 | 237 |
| 図180 | 5 A 調査区 | 建物10平面・断面図 | 164 | 図252 | 3 A 調査区 屋敷3平面図 | 238 |
| 図181 | 5 A 調査区 | 建物11平面・断面図 | 165 | 図253 | 3 A 調査区 屋敷4・5平面図 | 239 |
| 図182 | 5 A 調査区 | ピット群・溝109平面図 | 165 | 図254 | 3 A 調査区 屋敷6・7平面図 | 240 |
| 図183 | 5 A 調査区 | 礎石群平面図 | 166 | 図255 | 3 A 調査区 屋敷8～11平面図 | 241 |
| 図184 | 5 A 調査区 | 土師器皿群平面図 | 166 | 図256 | 3 A 調査区 屋敷1平面図 | 242 |
| 図185 | 5 A 調査区 | 溝45・溝48・礎石平面・断面図 | 167 | 図257 | 3 A 調査区 屋敷2平面図 | 243 |
| 図186 | 5 A 調査区 | 柵列平面・断面図 | 167 | 図258 | 3 A 調査区 礎石建物平面図 | 244 |
| 図187 | 5 A 調査区 | 柵列平面・断面図 | 167 | 図259 | 3 A 調査区 礎石建物平面図 | 244 |
| 図188 | 5 A 調査区 | 柵列平面・断面図 | 167 | 図260 | 1 A 調査区 屋敷4～6平面図 | 245 |
| 図189 | 5 A 調査区 | 石列3平面図 | 168 | 図261 | 1 A 調査区 屋敷5平面図 | 246 |
| 図190 | 5 A 調査区 | 炉1・2平面・断面図 | 168 | 図262 | 1 A 調査区 竈1～3平面図 | 246 |
| 図191 | 5 A 調査区 | 瓦敷3平面図 | 169 | 図263 | 3 A 調査区 竈15～18平面図 | 247 |
| 図192 | 漆器・陶磁器・土器 | 1 | 171 | 図264 | 3 A 調査区 竈15平面図 | 247 |
| 図193 | 漆器・陶磁器・土器 | 2 | 172 | 図265 | 3 A 調査区 竈16平面図 | 247 |
| 図194 | 漆器・陶磁器・土器 | 3 | 175 | 図266 | 3 A 調査区 竈17平面図 | 247 |
| 図195 | 漆器・陶磁器・土器 | 4 | 176 | 図267 | 3 A 調査区 鋳造関連遺構群配置図 | 248 |
| 図196 | 漆器・陶磁器・土器 | 5 | 177 | 図268 | 3 A 調査区 溶解炉3断面図 | 248 |
| 図197 | 漆器・陶磁器・土器 | 6 | 178 | 図269 | 3 A 調査区 溶解炉4断面図 | 248 |
| 図198 | 漆器・陶磁器・土器 | 7 | 179 | 図270 | 3 A 調査区 建物5平面・断面図・鋳型・炉壁 | 249 |
| 図199 | 漆器・陶磁器・土器 | 8 | 180 | 図271 | 3 A 調査区 土師皿出土状況図 | 250 |
| 図200 | 漆器・陶磁器・土器（包含層） | 9 | 181 | 図272 | 3 A 調査区 土坑310周辺土師器皿出土状況図 | 250 |
| 図201 | 漆器・陶磁器・土器（包含層） | 10 | 182 | 図273 | 3 B 調査区 石列平面・断面図 | 250 |
| 図202 | 漆器・陶磁器・土器（包含層） | 11 | 183 | 図274 | 漆器・陶磁器・土器1 | 255 |
| | | | | 図275 | 漆器・陶磁器・土器2 | 256 |

| | | |
|------|---------------------------|---------|
| 図276 | 漆器・陶磁器・土器 3 | 257 |
| 図277 | 漆器・陶磁器・土器 4 | 258 |
| 図278 | 漆器・陶磁器・土器 5 | 259 |
| 図279 | 漆器・陶磁器・土器 6 | 260 |
| 図280 | 漆器・陶磁器・土器 7 | 261 |
| 図281 | 漆器・陶磁器・土器 8 | 262 |
| 図282 | 漆器・陶磁器・土器 9 | 263 |
| 図283 | 漆器・陶磁器・土器 (包含層) 10 | 264 |
| 図284 | 漆器・陶磁器・土器 (包含層) 11 | 265 |
| 図285 | 漆器・陶磁器・土器 (包含層) 12 | 266 |
| 図286 | 漆器・陶磁器・土器 (包含層) 13 | 267 |
| 図287 | 5 A 調査区出土土器器皿口径ヒストグラム | 268 |
| 図288 | 木製品 1 | 269 |
| 図289 | 木製品 2 | 270 |
| 図290 | 木製品 3 | 271 |
| 図291 | 木製品 4 | 271 |
| 図292 | 木製品 5 | 273 |
| 図293 | 下駄 1 | 274 |
| 図294 | 下駄 2 | 275 |
| 図295 | 金属製品 1 | 276 |
| 図296 | 金属製品 2 | 277 |
| 図297 | 金属製品 3 | 278 |
| 図298 | 金属製品 4 | 281 |
| 図299 | 鋳型 1 | 282 |
| 図300 | 鋳型 2 | 283 |
| 図301 | 羽口 | 284 |
| 図302 | 埴埴類 | 285 |
| 図303 | 土人形 | 285 |
| 図304 | 銭 1 | 286 |
| 図305 | 銭 2 | 287 |
| 図306 | 銭 3 | 288 |
| 図307 | 銭 4 | 289 |
| 図308 | 硯・石製品 | 290 |
| 図309 | 石塔 1 | 291 |
| 図310 | 石鉢 | 291 |
| 図311 | 石塔 2 | 292 |
| 図312 | 石塔 3 | 293 |
| 図313 | 石塔 4 | 294 |
| 図314 | 瓦 1 | 295 |
| 図315 | 瓦 2 | 296 |
| 図316 | 瓦 3 | 297 |
| 図317 | 瓦 4 | 298 |
| 図318 | 瓦 5 | 299 |
| 図319 | 瓦 6 | 300 |
| 図320 | 瓦 7 | 301 |
| 図321 | 瓦 8 | 302 |
| 図322 | 瓦 (包含層) 9 | 303 |
| 図323 | 瓦 (包含層) 10 | 304 |
| 図324 | 瓦 (包含層) 11 | 305 |
| 図325 | 瓦 (包含層) 12 | 306 |
| 図326 | 遺構配置図 (5 A 調査区を除く) | 309・310 |
| 図327 | 6 A 調査区 溝 1・溝30断面図 (北端) | 314 |
| 図328 | 6 A 調査区 溝 1・溝30断面図 (南端) | 314 |
| 図329 | 2 C 調査区 溝 8 平面・断面図 | 314 |
| 図330 | 1 A 調査区 土坑170・土坑180平面・断面図 | 314 |
| 図331 | 2 B 調査区 土坑 8 断面図 | 315 |
| 図332 | 2 C 調査区 土坑 1 平面・断面図 | 315 |
| 図333 | 2 C 調査区 土坑 8 平面・断面図 | 316 |
| 図334 | 6 A 調査区 土坑107平面・断面図 | 316 |
| 図335 | 6 A 調査区 土坑108平面・断面図 | 317 |
| 図336 | 6 A 調査区 土坑152平面・断面図 | 317 |
| 図337 | 6 A 調査区 建物 2・3・5・6 平面・断面図 | 318 |

| | | |
|------|---|-----|
| 図338 | 6 A 調査区 建物 4 平面・断面図 | 319 |
| 図339 | 6 A 調査区 建物 8・9 平面・断面図 | 319 |
| 図340 | 5 B 調査区 建物 1 平面・断面図 | 320 |
| 図341 | 5 B 調査区 遺構配置図 | 321 |
| 図342 | 5 B 調査区 鍛冶炉平面・断面図 | 322 |
| 図343 | 3 A 調査区 土器溜まり・鍛冶炉検出状況図・鍛冶炉 6 断面図・椀形滓実測図 | 323 |
| 図344 | 3 A 調査区 土器溜まり 2 出土状況図 | 324 |
| 図345 | 2 B 調査区 谷 1 内遺構配置図 | 325 |
| 図346 | 2 B 調査区 谷 1 断面図 | 325 |
| 図347 | 2 B 調査区 谷 1 内土器群 3・4 出土状況図 | 326 |
| 図348 | 5 B 調査区 墓 1 (土坑180) 平面・断面図 | 327 |
| 図349 | 6 A 調査区 墓 2 (ピット308) 平面・断面図 | 328 |
| 図350 | 6 A 調査区 墓 3 (土坑121) 平面・断面図 | 329 |
| 図351 | 6 A 調査区 墓 4 (土坑188) 平面・断面図 | 330 |
| 図352 | 遺構配置図 (5 A 調査区) | 331 |
| 図353 | 5 A 調査区 溝78平面・断面図 | 333 |
| 図354 | 5 A 調査区 溝108平面・断面図 | 333 |
| 図355 | 5 A 調査区 掘立柱建物 1 平面・断面図 | 334 |
| 図356 | 5 A 調査区 掘立柱建物 2 平面・断面図 | 334 |
| 図357 | 5 A 調査区 掘立柱建物 3 平面・断面図 | 334 |
| 図358 | 5 A 調査区 掘立柱建物 4 平面・断面図 | 334 |
| 図359 | 須恵器・土師器など 1 | 337 |
| 図360 | 須恵器・土師器など 2 | 338 |
| 図361 | 須恵器・土師器など 3 | 341 |
| 図362 | 須恵器・土師器など 4 | 342 |
| 図363 | 須恵器・土師器など 5 | 343 |
| 図364 | 須恵器・土師器など 6 | 344 |
| 図365 | 須恵器・土師器など 7 | 345 |
| 図366 | 須恵器・土師器など 8 | 346 |
| 図367 | 須恵器・土師器など 9 | 347 |
| 図368 | 須恵器・土師器など 10 | 348 |
| 図369 | 須恵器・土師器など 11 | 349 |
| 図370 | 須恵器・土師器など 12 | 350 |
| 図371 | 須恵器・土師器など 13 | 353 |
| 図372 | 須恵器・土師器など 14 | 354 |
| 図373 | 須恵器・土師器など 15 | 355 |
| 図374 | 須恵器・土師器など 16 | 356 |
| 図375 | 須恵器・土師器など 17 | 357 |
| 図376 | 須恵器・土師器など 18 | 358 |
| 図377 | 須恵器・土師器など 19 | 359 |
| 図378 | 須恵器・土師器など 20 | 360 |
| 図379 | 須恵器・土師器など 21 | 361 |
| 図380 | 須恵器・土師器など 22 | 362 |
| 図381 | 須恵器・土師器など 23 | 363 |
| 図382 | 須恵器・土師器など 24 | 364 |
| 図383 | 須恵器・土師器など 25 | 367 |
| 図384 | 須恵器・土師器など 26 | 368 |
| 図385 | 須恵器・土師器など 27 | 369 |
| 図386 | 土製品 | 370 |
| 図387 | 金属製品 1 | 373 |
| 図388 | 金属製品 2 | 374 |
| 図389 | 羽口 | 375 |
| 図390 | 銭 | 376 |
| 図391 | 石器・石製品 1 | 377 |
| 図392 | 石器・石製品 2 | 378 |
| 図393 | 瓦 1 | 381 |
| 図394 | 瓦 2 | 382 |
| 図395 | 瓦 3 | 383 |
| 図396 | 瓦 4 | 384 |
| 図397 | 瓦 5 | 385 |

自然科学・考察編 目次

| | | |
|------|---------------------------|----|
| 図398 | 土器群出土状況および試料採取地点 | 9 |
| 図399 | 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成 | 9 |
| 図400 | 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成 | 9 |
| 図401 | 試料中に残存する脂肪のステロール組成 | 9 |
| 図402 | 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図 | 10 |
| 図403 | 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関 | 10 |

| | | |
|------|---|----|
| 図404 | 大坂城跡 1 A ⑧ 深掘り最下層花粉化石群集 | 19 |
| 図405 | 調査地点位置 | 34 |
| 図406 | 各地区の模式柱状図と珪藻・花粉分析試料採取位置 | 35 |
| 図407 | 2 D 地区堀 1 北壁セクション (基盤層11層) の模式柱状図と珪藻・花粉分析試料採取位置 | 36 |
| 図408 | 各地区の主要珪藻化石群集の層位分布 | 42 |

| | | | | | |
|----------|---|-----|-----------|--------------------------|---------|
| 図409 | 2 D地区堀1北壁セクション(基盤層11層)の主要珪藻化石群集の層位分布 | 50 | 図4-V-2 | 3 A溝90出土瀬戸・美濃窯陶器 | 352 |
| 図410 | 各地区の花粉化石群集の層位分布 | 52 | 図4-V-3 | 3 A溝90出土備前窯陶器 | 352 |
| 図411 | 2 D地区堀1北壁セクション(基盤層11層)の花粉化石群集の層位分布 | 54 | 図4-V-4 | 3 A溝90出土土師器・瓦器製品 | 354 |
| 図412 | 各地区の珪藻帯と花粉帯の特徴 | 55 | 図4-V-5 | 3 A溝90出土輸入磁器と丹波・信楽窯製品 | 354 |
| 図413 | 花粉化石組成 | 68 | 図4-V-6 | 3 A溝90出土漆器椀 | 354 |
| 図414 | 三角ダイヤグラム位置分類図 | 85 | 図4-V-7 | 3 A溝37(上)・3 A溝36(下)出土遺物 | 355 |
| 図415 | 菱形ダイヤグラム位置分類図 | 85 | 図4-V-8 | 3 A溝90出土遺物の定量グラフ | 358 |
| 図416 | 平成3年度 胎土分析グラフ | 102 | 図4-V-9 | 三の丸築造以前の遺構および包含層出土漆器 | 358 |
| 図417 | 平成3・4年度 胎土分析グラフ | 103 | 図4-V-10 | 三の丸築造以前の漆器分類図 | 359 |
| 図418 | 平成4年度 胎土分析グラフ | 104 | 図4-V-11 | 漆器椀の時期別法量グラフ | 361 |
| 図419 | 平成5年度 胎土分析グラフ1 | 105 | 図4-V-12 | 京都・旧二条城跡堀A出土の漆器と木地椀 | 362 |
| 図419 | 平成5年度 胎土分析グラフ2 | 106 | 図4-V-13 | 京都出土の16世紀後半～17世紀初頭の陶磁器 | 364 |
| 図420 | 平成6年度 胎土分析グラフ | 107 | 図4-V-14 | 聚楽第堀出土遺物 | 365 |
| 図421 | 平成6・7年度 胎土分析グラフ2 | 109 | 図4-VI-1 | 調査区位置図 | 369 |
| 図421 | 平成7年度 胎土分析グラフ3 | 110 | 図4-VI-2 | 遺構変遷図 | 370 |
| 図421 | 平成7年度 胎土分析グラフ4 | 111 | 図4-VI-3 | 出土遺物 | 371 |
| 図422 | 平成3年度 釉薬化学分析1 | 121 | 図4-VI-4 | 中央部南北断面図 | 372 |
| 図422 | 平成3年度 釉薬化学分析2 | 122 | 図4-VI-5 | 地滑りに直交する2つのトレンチ | 373 |
| 図423 | 平成4・5年度 釉薬化学分析 | 123 | 図4-VI-6 | トレンチA西側壁面の断面図 | 373 |
| 図424 | 平成5年度 釉薬化学分析 | 124 | 図4-VI-7 | トレンチAの西側壁面上部 | 373 |
| 図425 | 漆器分析グラフ1 | 134 | 図4-VI-8 | トレンチB西側壁面上部の断面図 | 374 |
| 図425 | 漆器分析グラフ2 | 135 | 図4-VI-9 | トレンチBの西側壁面 | 374 |
| 図426 | 紡錘車(OKS-2) 銹化鉄中非金属介在物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 190 | 図4-VI-10 | トレンチB西側壁面下部の断面図 | 375 |
| 図427 | 円盤状鉄製品(OKS-3) 鉄中非金属介在物及び片状黒鉛のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 190 | 図4-VI-11 | トレンチBの西側壁面下部 | 375 |
| 図428 | 摘鎌(OKS-4) 銹化鉄中非金属介在物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 191 | 図4-VI-12 | L3層の粒度分析結果 | 376 |
| 図429 | 鏝(OKS-5) 銹化鉄中非金属介在物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 191 | 図4-VI-13 | 大阪平野周辺の活断層 | 376 |
| 図430 | 椀形滓(OKS-7-1) 鉍物相のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 192 | 図4-VII-1 | 陶磁器の産地別組成 | 382 |
| 図431 | 椀形滓(OKS-7-2) 鉍物相のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 192 | 図4-VII-2 | 大坂城跡の瀬戸・美濃焼時期別搬入状況 | 383 |
| 図432 | 椀形滓(OKS-8-1) 鉄中非金属介在物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 193 | 図4-IX-1 | 漆器の観察概念 | 406 |
| 図433 | 椀形滓(OKS-8-2) 鉍物相のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 193 | 図4-IX-2 | 時期別の口径・器高 | 409 |
| 図434 | 鏝(OKS-22) 鉄中非金属介在物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 194 | 図4-IX-3 | 時期別の器厚・底部厚 | 410 |
| 図435 | 小柄(OKS-24-1) 鉄中非金属介在物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 194 | 図4-IX-4 | 時期別の高台部傾き・高さ | 411 |
| 図436 | 小柄(OKS-24-2) 鉄中非金属介在物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 195 | 図4-IX-5 | 時期別の塗色量比 | 412 |
| 図437 | 金箸(OKS-25) 鉄中非金属介在物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 195 | 図4-IX-6 | 時期別の漆器出土遺構の分布 | 414 |
| 図438 | 金箸(OKS-26) 鉄中非金属介在物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果 | 196 | 図4-X-1 | 豊臣前期 屋敷に伴う竈 | 420 |
| 図439 | 袋状鉄斧(OKS-1) ピッカース断面硬度 | 196 | 図4-X-2 | 豊臣前期 等間隔で並ぶ竈・瓦敷竈・流し枡に伴う竈 | 421 |
| 図4-I-1 | 6世紀後半～7世紀初頭の地形景観 | 307 | 図4-X-3 | 豊臣前期 大型竈・一般的な竈 | 423 |
| 図4-I-2 | 鍛冶関連遺構群平面図 | 309 | 図4-X-4 | 畑の時期 豊臣後期 近代の竈 | 424 |
| 図4-I-3 | 出土鉄滓重量分布図 | 310 | 図4-X-5 | 周辺の大坂城跡調査における竈 | 426 |
| 図4-I-4 | 鍛冶炉・炭窯平面規模分布図 | 312 | 図4-X-6 | 中世～近世の竈 | 430・431 |
| 図4-I-5 | 鉄滓実測図 | 313 | 図4-XI-1 | 蛍光X線スペクトル | 436 |
| 図4-II-1 | 3 A・5 B地区出土子持ち勾玉 | 319 | 図4-XII-1 | 舎密局建物 | 441 |
| 図4-II-2 | 大阪府出土子持ち勾玉(1) | 320 | 図4-XII-2 | 舎密局建物の位置 | 442 |
| 図4-II-3 | 大阪府出土子持ち勾玉(2) | 321 | 図4-XII-3 | 舎密局建物に関連する平面図 | 444 |
| 図4-II-4 | 大阪府出土子持ち勾玉(3) | 322 | 図4-XII-4 | 舎密局建物平面図 | 445 |
| 図4-II-5 | 子持ち勾玉出土遺跡 | 323 | 図4-XII-5 | 近代遺構平面図と舎密局平面図とその位置 | 446 |
| 図4-III-1 | 上町台地とその周辺 | 327 | 図4-XII-6 | 6 A調査区平面図 | 447 |
| 図4-III-2 | 地山の傾斜と深度 | 328 | 図4-XII-7 | 出土遺物 | 448 |
| 図4-III-3 | 縄文・弥生時代の遺物出土地点 | 329 | 図4-XIII-1 | 調査地と大阪陸軍幼年学校 | 449 |
| 図4-III-4 | 古墳時代の遺物出土地点 | 330 | 図4-XIII-2 | 幼年学校関連地図 | 450 |
| 図4-III-5 | 飛鳥・奈良時代の遺物出土地点 | 331 | 図4-XIII-3 | 幼年学校校内配置図と建物 | 451 |
| 図4-IV-1 | 調査地の位置 | 335 | 図4-XIII-4 | 幼年学校関連遺物 | 452 |
| 図4-IV-2 | 奈良時代～平安時代前期における大阪府下の墓 | 339 | 図4-XIV-1 | 「大阪市中央区町名改正絵図」(明治5年) | 456 |
| 図4-IV-3 | 古代～中世における上町台地北端の遺跡分布 | 341 | 図4-XIV-2 | 「新撰大阪府管内区別図」(明治8年) | 456 |
| 図4-V-1 | 3 A調査区三の丸築造以前の遺構変遷 | 350 | 図4-XIV-3 | 「実測大阪市街全図」(明治18年) | 457 |
| | | | 図4-XIV-4 | 「内務省大阪実測図」(明治21年) | 457 |
| | | | 図4-XIV-5 | 「大阪市街図」(大正3年) | 458 |
| | | | 図4-XIV-6 | 「大阪市図」(大正4年) | 458 |
| | | | 図4-XIV-7 | 「大阪市東区図」(昭和6年) | 460 |
| | | | 図4-XIV-8 | 「最新東区詳細図」(昭和22年) | 461 |
| | | | 図4-XIV-9 | 4 A調査区近代遺構平面図 | 464 |
| | | | 図4-XIV-10 | 近代遺構平面図と内務省大阪実測図 | 464 |
| | | | 図4-XIV-11 | 土地利用変遷概念図 | 465 |
| | | | 図440 | 古代～中世の遺構配置 | 472 |

目 次

本文編表目次

| | | | | | |
|-----|-------------------------|---------|-----|-------------------------------------|---------|
| 表1 | 大坂城とその周辺の歴史 | 7 | 表23 | 硯観察表 1～2 | 512・513 |
| 表2 | 既往の調査成果 1～12 | 15～26 | 表24 | 石器・石製品観察表 1～2 | 514・515 |
| 表3 | 調査区南北縦断面土層 1～3 | 38～40 | 表25 | 碁石観察表 | 516 |
| 表4 | 遺構掲載番号表(5 A 調査区を除く) 1～4 | 47～50 | 表26 | 石臼・刻印石・石鉢観察表 | 517 |
| 表5 | 遺構掲載番号表(5 A 調査区) 1～3 | 68～70 | 表27 | 石塔観察表 | 518 |
| 表6 | 遺構掲載番号表 | 120 | 表28 | 瓦観察表 凡例 1～2 | 519・520 |
| 表7 | 遺構掲載番号表(5 A 調査区を除く) 1～3 | 125～127 | 表28 | 瓦観察表 江戸掲載番号表 1～3 | 521～523 |
| 表8 | 遺構掲載番号表(5 A 調査区) 1～3 | 156～158 | 表28 | 瓦観察表 江戸巴文軒先瓦 1～3 | 524～526 |
| 表9 | 遺構掲載番号表(5 A 調査区を除く) 1～4 | 227～230 | 表28 | 瓦観察表 江戸軒平瓦 1～2 | 527・528 |
| 表10 | 遺構掲載番号表(5 A 調査区を除く) 1～2 | 311・312 | 表28 | 瓦観察表 江戸その他瓦 1 | 529 |
| 表11 | 掘立柱建物表 | 320 | 表28 | 瓦観察表 江戸その他瓦 2・畑その他瓦 1・畑軒平瓦 1・畑軒先瓦 1 | 530 |
| 表12 | 遺構掲載番号表(5 A 調査区) 1 | 332 | 表28 | 瓦観察表 豊臣後期掲載番号表 1～3 | 531～533 |
| 表13 | 陶磁器・土器観察表 1～35 | 387～421 | 表28 | 瓦観察表 豊臣後期巴文軒先瓦 1～3 | 534～536 |
| 表14 | 漆器観察表 凡例 | 422 | 表28 | 瓦観察表 豊臣後期軒平瓦 1～3 | 537～539 |
| 表14 | 漆器観察表 1～23 | 423～445 | 表28 | 瓦観察表 豊臣後期その他瓦 1 | 540 |
| 表15 | 下駄・焼塩壺観察表 凡例 | 446 | 表28 | 瓦観察表 豊臣前期掲載番号表 1～4 | 541～544 |
| 表15 | 下駄観察表 1～12 | 447～458 | 表28 | 瓦観察表 豊臣前期軒先瓦 1～2 | 545・546 |
| 表16 | 焼塩壺観察表 1～12 | 459～470 | 表28 | 瓦観察表 豊臣前期軒平瓦 1～3 | 547～549 |
| 表17 | 木製品観察表 1～5 | 471～475 | 表28 | 瓦観察表 豊臣前期その他瓦 1 | 550 |
| 表18 | 金属製品観察表 凡例 | 476 | 表28 | 瓦観察表 古代平瓦 | 551 |
| 表18 | 金属製品観察表 1～10 | 477～486 | 表28 | 瓦観察表 古代丸瓦・重圏文軒先瓦・重郭文軒平瓦 | 552 |
| 表19 | 羽口観察表 1～3 | 487～489 | 表28 | 瓦観察表 古代蓮華文軒先瓦・唐草文軒平瓦 | 553 |
| 表20 | 埴輪類観察表 | 490 | | | |
| 表21 | 土人形観察表 1～13 | 491～503 | | | |
| 表22 | 銭観察表 1～8 | 504～511 | | | |

自然科学・考察編表目次

| | | | | | |
|-----|----------------------------------|---------|----------------|---------------------|---------|
| 表29 | 測定結果表 | 2 | 表56 | 供試材の履歴と調査項目 | 180～183 |
| 表30 | 土壌試料の残存脂肪抽出量 | 8 | 表57 | 出土遺物の調査結果のまとめ | 184 |
| 表31 | 土壌試料に分布するコレステロールとシトステロールの割合 | 8 | 表58 | 供試材の組成 | 185～187 |
| 表32 | 大坂城跡 1 A ⑧深掘り地点における微化石分析試料表 | 11 | 表59 | 弥生時代以降チタン系鉱物含有遺物一覧表 | 188・189 |
| 表33 | 珪藻の生態分類 | 14 | 表60 | 植物遺体同定結果一覧表 | 286～288 |
| 表34 | 淡水生種の各生態性に対する適応性 | 14 | 表61 | ネコの出現頻度表 | 292 |
| 表35 | 大坂城跡 1 A ⑧深掘り最下層珪藻分析結果 | 15 | 表62 | イヌの出現頻度表 | 292 |
| 表36 | 大坂城跡 1 A ⑧深掘り最下層花粉分析結果 | 18 | 表63 | イノシシの出現頻度表 | 292 |
| 表37 | 各地区の珪藻・花粉分析試料表 | 37 | 表64 | シカの出現頻度表 | 292 |
| 表38 | 珪藻の生態性説明 | 38 | 表65 | ウシの出現頻度表 | 293 |
| 表39 | 各地区の珪藻分析結果 | 39～41 | 表66 | ウマの出現頻度表 | 293 |
| 表40 | 2 D 地区堀 1 北壁セクション(基盤層11層)の珪藻分析結果 | 43～49 | 表67 | ネコの計測値 | 294 |
| 表41 | 各地区の花粉分析結果 | 51 | 表68 | イヌの計測値 | 294 |
| 表42 | 2 D 地区堀 1 北壁セクション(基盤層11層)の花粉分析結果 | 53 | 表69 | イノシシの計測値 | 294 |
| 表43 | 鋤溝遺構試料の花粉分析結果 | 62 | 表70 | シカの計測値 | 295 |
| 表44 | 花粉分析結果 | 67 | 表71 | ウシの計測値 | 295 |
| 表45 | 胎土分析資料 | 86～91 | 表72 | ウマの計測値 | 296～298 |
| 表46 | 胎土性状表 | 91～96 | 表73 | ウマの体高の推定値 | 299 |
| 表47 | 化学分析表 | 96～101 | 表74 | 動物遺体同定結果一覧 | 300～303 |
| 表48 | 化学分析表(釉薬) | 117～120 | 表 4 - I - 1 | 鍛冶関連遺構表 | 309 |
| 表49 | 漆器分析資料 | 128・129 | 表 4 - I - 2 | 鉄滓観察表 | 314 |
| 表50 | 平成 3 年度成果報告 | 129・130 | 表 4 - II - 1 | 大阪府下出土子持ち勾玉一覧 | 325 |
| 表51 | 平成 4 年度成果報告 | 130 | 表 4 - VII - 1 | 遺構別土器・陶磁器組成表 | 380・381 |
| 表52 | 平成 5 年度成果報告 | 130・131 | 表 4 - IX - 1 | 塗膜分析済漆器の一覧 | 407 |
| 表53 | 化学分析表(漆-外側) | 131・132 | 表 4 - X - 1 | 竈遺構一覧 | 418・419 |
| 表54 | 化学分析表(漆-内側) | 132・133 | 表 4 - X - 2 | 中世～近世の竈一覧 | 429・433 |
| 表55 | 元素分析表 | 147 | 表 4 - XI - 1 | 鏡および銭の定性分析結果 | 438 |
| | | | 表 4 - XII - 1 | 舎密局関連年表 | 442 |
| | | | 表 4 - XIII - 1 | 幼年学校関連年表 | 450 |
| | | | 表 4 - XV - 1 | 旧大手前之町関連年表 | 462・463 |

写真図版目次

写真図版編目次

| | | |
|---------|----------------|--------------|
| 写真図版 1 | 調査前風景 | |
| 写真図版 2 | 調査前風景 | |
| 写真図版 3 | 深礎掘削風景・近代・江戸時代 | 遺構全景 |
| 写真図版 4 | 近代・江戸時代 | 遺構全景 |
| 写真図版 5 | 近代・江戸時代 | 遺構全景 |
| 写真図版 6 | 近代・江戸時代 | 遺構全景 |
| 写真図版 7 | 近代・江戸時代 | 遺構全景 |
| 写真図版 8 | 近代・江戸時代 | 遺構全景 |
| 写真図版 9 | 近代・江戸時代 | 遺構全景 |
| 写真図版10 | 近代・江戸時代 | 遺構全景 |
| 写真図版11 | 近代・江戸時代 | 遺構全景 |
| 写真図版12 | 近代・江戸時代 | 遺構全景 |
| 写真図版13 | 近代・江戸時代 | 遺構全景 |
| 写真図版14 | 近代・江戸時代 | 遺構全景 |
| 写真図版15 | 江戸時代 | 井戸・溝 |
| 写真図版16 | 近代・江戸時代 | 溝 |
| 写真図版17 | 江戸時代 | 土坑 |
| 写真図版18 | 江戸時代 | 土坑 |
| 写真図版19 | 江戸時代 | 土坑 |
| 写真図版20 | 近代・江戸時代 | 土坑・建物関連遺構 |
| 写真図版21 | 近代・江戸時代 | 建物関連遺構 |
| 写真図版22 | 近代・江戸時代 | 建物関連遺構・竈 |
| 写真図版23 | 江戸時代 | ピット・堅穴 |
| 写真図版24 | 江戸時代 | 埋桶 |
| 写真図版25 | 近代・江戸時代 | 炉 |
| 写真図版26 | 江戸時代 | 炉 |
| 写真図版27 | 江戸時代 | 胞衣壺 |
| 写真図版28 | 近代・江戸時代 | その他 |
| 写真図版29 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版30 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版31 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版32 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版33 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版34 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版35 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版36 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版37 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版38 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版39 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版40 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版41 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版42 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版43 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版44 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版45 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版46 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版47 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版48 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版49 | 豊臣後期 | 遺構全景 |
| 写真図版50 | 豊臣後期 | 井戸 |
| 写真図版51 | 豊臣後期 | 井戸・溝 |
| 写真図版52 | 豊臣後期 | 溝 |
| 写真図版53 | 豊臣後期 | 溝 |
| 写真図版54 | 豊臣後期 | 溝 |
| 写真図版55 | 豊臣後期 | 溝 |
| 写真図版56 | 豊臣後期 | 溝・土坑 |
| 写真図版57 | 豊臣後期 | 土坑 |
| 写真図版58 | 豊臣後期 | 土坑 |
| 写真図版59 | 豊臣後期 | 土坑・建物関連遺構 |
| 写真図版60 | 豊臣後期 | 建物関連遺構 |
| 写真図版61 | 豊臣後期 | 建物関連遺構 |
| 写真図版62 | 豊臣後期 | 建物関連遺構・礎石 |
| 写真図版63 | 豊臣後期 | 礎石・ピット |
| 写真図版64 | 豊臣後期 | ピット・炉・竈 |
| 写真図版65 | 豊臣後期 | 炉・竈 |
| 写真図版66 | 豊臣後期 | 竈・瓦組・瓦集積 |
| 写真図版67 | 豊臣後期 | 瓦組・瓦集積 |
| 写真図版68 | 豊臣後期 | 石組・石集積 |
| 写真図版69 | 豊臣後期 | 石組・石集積 |
| 写真図版70 | 豊臣後期 | 石組・石集積・堀 |
| 写真図版71 | 豊臣後期 | 堀 |
| 写真図版72 | 豊臣後期 | 堀 |
| 写真図版73 | 豊臣後期 | 堀 |
| 写真図版74 | 豊臣後期 | その他・墓 |
| 写真図版75 | 豊臣後期 | 墓・地滑り痕跡 |
| 写真図版76 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版77 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版78 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版79 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版80 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版81 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版82 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版83 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版84 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版85 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版86 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版87 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版88 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版89 | 豊臣前期 | 遺構全景 |
| 写真図版90 | 豊臣前期 | 井戸 |
| 写真図版91 | 豊臣前期 | 井戸 |
| 写真図版92 | 豊臣前期 | 溝 |
| 写真図版93 | 豊臣前期 | 溝 |
| 写真図版94 | 豊臣前期 | 溝 |
| 写真図版95 | 豊臣前期 | 溝 |
| 写真図版96 | 豊臣前期 | 溝 |
| 写真図版97 | 豊臣前期 | 溝 |
| 写真図版98 | 豊臣前期 | 溝・土坑 |
| 写真図版99 | 豊臣前期 | 土坑 |
| 写真図版100 | 豊臣前期 | 土坑 |
| 写真図版101 | 豊臣前期 | 土坑 |
| 写真図版102 | 豊臣前期 | 土坑・建物関連遺構 |
| 写真図版103 | 豊臣前期 | 建物関連遺構 |
| 写真図版104 | 豊臣前期 | 建物関連遺構 |
| 写真図版105 | 豊臣前期 | 建物関連遺構 |
| 写真図版106 | 豊臣前期 | 建物関連遺構・礎石 |
| 写真図版107 | 豊臣前期 | 礎石・囲炉裏 |
| 写真図版108 | 豊臣前期 | 竈 |
| 写真図版109 | 豊臣前期 | 竈 |
| 写真図版110 | 豊臣前期 | 竈 |
| 写真図版111 | 豊臣前期 | 竈・铸造溶解炉 |
| 写真図版112 | 豊臣前期 | 铸造溶解炉・瓦組・瓦集積 |
| 写真図版113 | 豊臣前期 | 石列・石集積・埋桶 |
| 写真図版114 | 豊臣前期 | 埋桶・その他・出土状況 |
| 写真図版115 | 豊臣前期 | 埋桶・その他・出土状況 |
| 写真図版116 | 古代・中世 | 遺構全景 |
| 写真図版117 | 古代・中世 | 遺構全景 |
| 写真図版118 | 古代・中世 | 遺構全景 |
| 写真図版119 | 古代・中世 | 遺構全景 |
| 写真図版120 | 古代・中世 | 井戸・溝 |
| 写真図版121 | 古代・中世 | 溝 |
| 写真図版122 | 古代・中世 | 溝・土坑・建物関連遺構 |
| 写真図版123 | 古代・中世 | 建物関連遺構 |
| 写真図版124 | 古代・中世 | 建物関連遺構・ピット |
| 写真図版125 | 古代・中世 | ピット・鍛冶関連遺構 |
| 写真図版126 | 古代・中世 | 鍛冶関連遺構 |
| 写真図版127 | 古代・中世 | 鍛冶関連遺構・石列 |
| 写真図版128 | 古代・中世 | 谷 |
| 写真図版129 | 古代・中世 | 谷・出土状況 |
| 写真図版130 | 古代・中世 | 出土状況 |

| | | | | | |
|---------|------|---------|---------|------|-------------|
| 写真図版275 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版320 | 豊臣前期 | 金属生産関連 |
| 写真図版276 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版321 | 豊臣前期 | 金属生産関連 |
| 写真図版277 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版322 | 豊臣前期 | 金属生産関連 |
| 写真図版278 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版323 | 豊臣前期 | 金属生産関連 |
| 写真図版279 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版324 | 豊臣前期 | 金属生産関連 |
| 写真図版280 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版325 | 豊臣前期 | 金属生産関連 |
| 写真図版281 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版326 | 豊臣前期 | 金属生産関連・金属製品 |
| 写真図版282 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版327 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版283 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版328 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版284 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版329 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版285 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版330 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版286 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版331 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版287 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版332 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版288 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版333 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版289 | 豊臣前期 | 陶磁器 | 写真図版334 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版290 | 豊臣前期 | 瓦 | 写真図版335 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版291 | 豊臣前期 | 瓦 | 写真図版336 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版292 | 豊臣前期 | 瓦 | 写真図版337 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版293 | 豊臣前期 | 瓦 | 写真図版338 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版294 | 豊臣前期 | 瓦 | 写真図版339 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版295 | 豊臣前期 | 瓦 | 写真図版340 | 豊臣前期 | 金属製品 |
| 写真図版296 | 豊臣前期 | 瓦 | 写真図版341 | 古代 | 須恵器・土師器など |
| 写真図版297 | 豊臣前期 | 漆器 | 写真図版342 | 古代 | 須恵器・土師器など |
| 写真図版298 | 豊臣前期 | 漆器 | 写真図版343 | 古代 | 須恵器・土師器など |
| 写真図版299 | 豊臣前期 | 漆器・木製品 | 写真図版344 | 古代 | 須恵器・土師器など |
| 写真図版300 | 豊臣前期 | 木製品 | 写真図版345 | 古代 | 須恵器・土師器など |
| 写真図版301 | 豊臣前期 | 木製品 | 写真図版346 | 古代 | 須恵器・土師器など |
| 写真図版302 | 豊臣前期 | 木製品 | 写真図版347 | 古代 | 須恵器・土師器など |
| 写真図版303 | 豊臣前期 | 木製品 | 写真図版348 | 古代 | 須恵器・土師器など |
| 写真図版304 | 豊臣前期 | 木製品 | 写真図版349 | 古代 | 須恵器・土師器など |
| 写真図版305 | 豊臣前期 | 木製品 | 写真図版350 | 古代 | 瓦 |
| 写真図版306 | 豊臣前期 | 木製品 | 写真図版351 | 古代 | 瓦 |
| 写真図版307 | 豊臣前期 | 木製品 | 写真図版352 | 古代 | 石製品 |
| 写真図版308 | 豊臣前期 | 木製品 | 写真図版353 | 古代 | 石製品 |
| 写真図版309 | 豊臣前期 | 下駄 | 写真図版354 | 古代 | 石製品 |
| 写真図版310 | 豊臣前期 | 下駄 | 写真図版355 | 古代 | 石製品 |
| 写真図版311 | 豊臣前期 | 下駄 | 写真図版356 | 古代 | 石製品・金属生産関連 |
| 写真図版312 | 豊臣前期 | 下駄 | 写真図版357 | 古代 | 金属生産関連 |
| 写真図版313 | 豊臣前期 | 下駄・石製品 | 写真図版358 | 古代 | 金属製品 |
| 写真図版314 | 豊臣前期 | 石製品 | 写真図版359 | 古代 | 金属製品 |
| 写真図版315 | 豊臣前期 | 石製品 | 写真図版360 | 古代 | 金属製品 |
| 写真図版316 | 豊臣前期 | 石製品 | 写真図版361 | 古代 | 金属製品 |
| 写真図版317 | 豊臣前期 | 石製品・土人形 | 写真図版362 | 古代 | 金属製品 |
| 写真図版318 | 豊臣前期 | 金属生産関連 | 写真図版363 | 古代 | 金属製品 |
| 写真図版319 | 豊臣前期 | 金属生産関連 | 写真図版364 | 古代 | 金属製品 |

自然科学・考察編写真図版目次

| | | | |
|---------|-------------|---------|--------------------------------|
| 写真図版365 | 珪藻化石の顕微鏡写真 | 写真図版388 | 鉄滓の顕微鏡組織 |
| 写真図版366 | 花粉化石の顕微鏡写真 | 写真図版389 | 鉄滓の顕微鏡組織 |
| 写真図版367 | 珪藻化石の顕微鏡写真1 | 写真図版390 | 鉄滓の顕微鏡組織 |
| 写真図版368 | 珪藻化石の顕微鏡写真2 | 写真図版391 | 鉄滓の顕微鏡組織 |
| 写真図版369 | 珪藻化石の顕微鏡写真3 | 写真図版392 | 鉄滓の顕微鏡組織 |
| 写真図版370 | 花粉化石の顕微鏡写真1 | 写真図版393 | 硬度測定圧痕組織写真 |
| 写真図版371 | 花粉化石の顕微鏡写真2 | 写真図版394 | 鉄滓及び包丁の顕微鏡組織 |
| 写真図版372 | 花粉化石の顕微鏡写真3 | 写真図版395 | 鉄鍋の顕微鏡組織 |
| 写真図版373 | プレパラート状況写真 | 写真図版396 | 鉄釘の顕微鏡組織 |
| 写真図版374 | 花粉化石の顕微鏡写真1 | 写真図版397 | 鉄釘の顕微鏡組織 |
| 写真図版375 | 花粉化石の顕微鏡写真2 | 写真図版398 | 鉄製品（金具）の顕微鏡組織 |
| 写真図版376 | 漆膜断面顕微鏡写真1 | 写真図版399 | 鉄製品（金具）の顕微鏡組織 |
| 写真図版377 | 漆膜断面顕微鏡写真2 | 写真図版400 | 包丁と小柄（外装銅）の顕微鏡組織 |
| 写真図版378 | 漆膜断面顕微鏡写真3 | 写真図版401 | 埴埴内面溶融物の顕微鏡組織 |
| 写真図版379 | 漆膜断面顕微鏡写真4 | 写真図版402 | 埴埴内面溶融物の顕微鏡組織 |
| 写真図版380 | 漆膜断面顕微鏡写真5 | 写真図版403 | 埴埴内面溶融物と鉄塊（銑鉄）の顕微鏡組織 |
| 写真図版381 | 漆膜断面顕微鏡写真6 | 写真図版404 | 鉄滓（鍛冶滓）と溶解炉炉壁の顕微鏡組織 |
| 写真図版382 | 漆膜断面顕微鏡写真7 | 写真図版405 | 羽口片の顕微鏡組織 |
| 写真図版383 | 漆膜断面顕微鏡写真8 | 写真図版406 | 各供試材埋込み試料のマクロ組織 |
| 写真図版384 | 漆膜断面顕微鏡写真9 | 写真図版407 | 鉄釘（OOSA-2）鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値 |
| 写真図版385 | 漆膜断面顕微鏡写真10 | 写真図版408 | 鉄釘（OOSA-3）鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値 |
| 写真図版386 | 鉄滓の顕微鏡組織 | | |
| 写真図版387 | 鉄滓の顕微鏡組織 | | |

- 写真図版409 鉄製品(金具)(OOSA-4-1)鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値
- 写真図版410 鉄製品(金具)(OOSA-4-2)鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値
- 写真図版411 包丁(OOSA-5)鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値
- 写真図版412 小柄(OOSA-6)外装銅部分の特性X線像
- 写真図版413 坩堝(OOSA-7)内面溶融ガラス質滓中の微小析出物の特性X線像
- 写真図版414 坩堝(OOSA-8-1)内面溶融ガラス質滓中に貫入する銅素地の特性X線像
- 写真図版415 坩堝(OOSA-8-2)内面溶融ガラス質滓中の微小析出物の特性X線像
- 写真図版416 坩堝(OOSA-9)内面溶融ガラス質滓中に貫入する銅及び微小析出物の特性X線像
- 写真図版417 坩堝(OOSA-10)内面溶融ガラス質滓中に貫入する銅素地の特性X線像
- 写真図版418 炉壁(OOSA-13)内面溶融ガラス質滓中に晶出する微小鉄粒の特性X線像
- 写真図版419 炉壁(OOSA-14)内面溶融ガラス質滓中に晶出する微小鉄粒の特性X線像
- 写真図版420 鉄製品の顕微鏡組織
- 写真図版421 鉄製品の顕微鏡組織
- 写真図版422 鉄製品の顕微鏡組織
- 写真図版423 鉄滓の顕微鏡組織
- 写真図版424 鉄片入り鉄滓の顕微鏡組織
- 写真図版425 鉄滓の顕微鏡組織
- 写真図版426 鉄滓の顕微鏡組織
- 写真図版427 鉄滓の顕微鏡組織
- 写真図版428 鉄滓の顕微鏡組織
- 写真図版429 鉄滓の顕微鏡組織
- 写真図版430 鉄滓の顕微鏡組織
- 写真図版431 鉄滓の顕微鏡組織
- 写真図版432 鉄製品の顕微鏡組織
- 写真図版433 鉄製品の顕微鏡組織
- 写真図版434 鉄製品の顕微鏡組織
- 写真図版435 鉄製品の顕微鏡組織
- 写真図版436 鉄製品の顕微鏡組織
- 写真図版437 鉄製品の顕微鏡組織
- 写真図版438 鉄製品の顕微鏡組織
- 写真図版439 鉄製品の顕微鏡組織
- 写真図版440 鉄製品の顕微鏡組織
- 写真図版441 鉄滓の顕微鏡組織
- 写真図版442 鉄滓の顕微鏡組織
- 写真図版443 鉄滓の顕微鏡組織
- 写真図版444 鉄製品のマクロ組織
- 写真図版445 鉄製品のマクロ組織
- 写真図版446 鉄製品のマクロ組織
- 写真図版447 鉄製品のマクロ組織
- 写真図版448 紡錘車(OKS-2)錆化鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値
- 写真図版449 円盤状鉄製品(OKS-3)鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値及び片状黒鉛の特性X線像
- 写真図版450 摘鎌(OKS-4)錆化鉄中の銅粒の特性X線像と定量分析値
- 写真図版451 鋸(OKS-5)錆化鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値
- 写真図版452 椀形滓(OKS-7-1)鉍物相の特性X線像と定量分析値
- 写真図版453 椀形滓(OKS-7-2)鉍物相の特性X線像と定量分析値
- 写真図版454 椀形滓(OKS-8-1)鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値
- 写真図版455 椀形滓(OKS-8-2)鉍物相の特性X線像と定量分析値
- 写真図版456 鋸(OKS-22)鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値
- 写真図版457 小柄(OKS-24-1)鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値
- 写真図版458 小柄(OKS-24-2)鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値
- 写真図版459 金箸(OKS-25)鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値
- 写真図版460 金箸(OKS-26)鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値
- 写真図版461 袋状鉄斧(OKS-1)外観写真
- 写真図版462 袋状鉄斧(OKS-1)側面マクロ組織写真
- 写真図版463 袋状鉄斧(OKS-1)刃先先端から10mm断面マイクロ組織写真
- 写真図版464 非金属介在物写真
- 写真図版465 A部拡大マイクロ組織
- 写真図版466 B部拡大マイクロ組織
- 写真図版467 C部拡大マイクロ組織
- 写真図版468 D部拡大マイクロ組織
- 写真図版469 非金属介在物写真
- 写真図版470 鋸(OKS-23)顕微鏡組織
- 写真図版471 非金属介在物写真
- 写真図版472 植物遺体
- 写真図版473 動物遺体1
- 写真図版474 動物遺体2
- 写真図版475 動物遺体3
- 写真図版4-VII-1 5A調査区出土美濃窯製品
- 写真図版4-VII-2 5A・5B調査区出土瀬戸・美濃窯製品
- 写真図版4-VII-3 5A調査区出土瀬戸・美濃窯製品
- 写真図版4-VII-4 5A・5B・1B調査区出土瀬戸・美濃窯製品
- 写真図版4-VII-5 5A・1B調査区出土瀬戸・美濃窯製品
- 写真図版4-VIII-1 2D・1A調査区出土陶磁器
- 写真図版4-VIII-2 1A調査区出土陶磁器
- 写真図版4-VIII-3 1A・3B調査区出土陶磁器
- 写真図版4-VIII-4 1A調査区出土陶磁器
- 写真図版4-VIII-5 1A調査区出土陶磁器
- 写真図版4-VIII-6 1A調査区出土陶磁器
- 写真図版4-VIII-7 1A調査区出土陶磁器
- 写真図版4-VIII-8 1A・3B調査区出土陶磁器
- 写真図版4-VIII-9 1A調査区出土陶磁器
- 写真図版4-VIII-10 1A調査区出土陶磁器
- 写真図版4-VIII-11 1A調査区出土陶磁器
- 写真図版4-VIII-12 1A調査区出土陶磁器
- 写真図版4-IX-1 出土漆器の塗膜断面
- 写真図版4-XI-1 海獣葡萄鏡・蔓草鳳麟鏡・隆平永宝
- 写真図版4-XIII-1 陸軍標柱
- 写真図版4-XIV-1 航空写真(昭和3年)
- 写真図版4-XIV-2 航空写真(昭和23年)

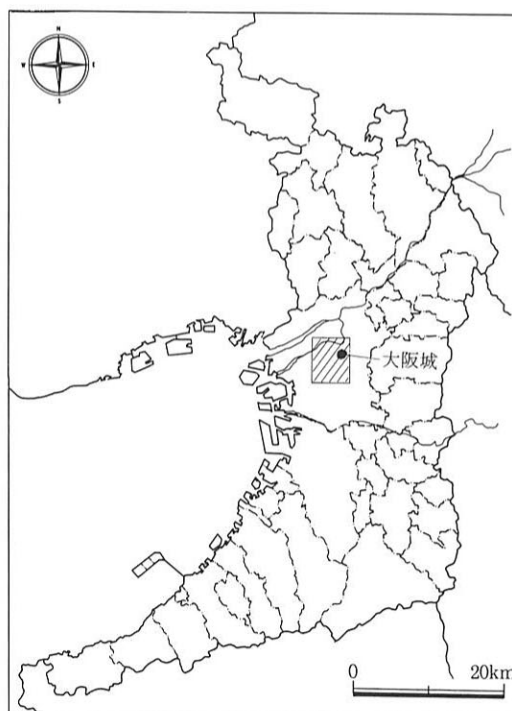
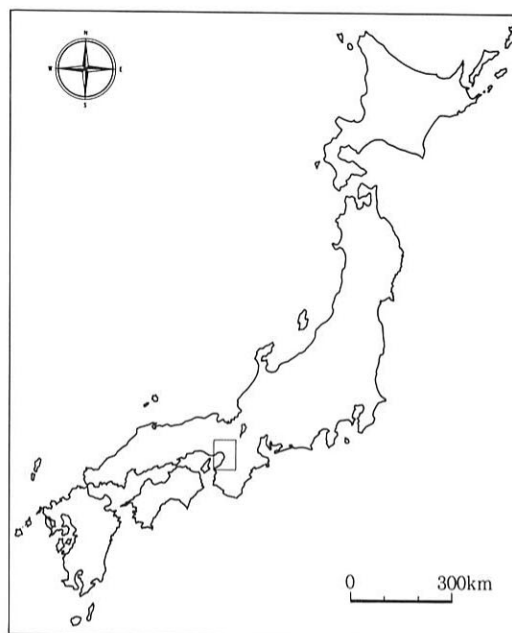
第1章 位置と環境

I 地理的環境

大阪城の立地を巨視的にみると、南の和泉山地から泉北丘陵へと徐々に北に向かって高度を減じ、さらに大和川をこえて大阪平野に突き出た上町台地の先端に大阪城は立地する。台地の北は淀川低地帯に切れ大川に面しているが、東は縄文海進以降、淀川と旧大和川の著しい沖積作用によって形成された大阪平野が広がり、西には沿岸流が運んできた砂によってできた幅2kmの天満砂堆を主とする低地が上町台地に沿った形で北へと伸びている。つまり台地の東西には標高5mに満たない低地帯が広がっており、南北長20km、東西幅約2km、標高10~25mを測る細長い上町台地はまさに大阪市域を南北に貫く脊梁ともいうべき姿を示す(図2)。

上町台地の地質は大阪層群の上に不整合を覆う形で段丘礫層である上町累層が堆積しており、大阪層群には台地の西縁を走る上町断層のズレが残されている。上町断層は、北は千里丘陵の仏念寺山断層に南は泉佐野方面にのびる一続きの断層であり、東から西に向かって突き上げる高角度の逆断層である。したがって断層より東側は隆起帯となっているため、台地の西側は比高5~10mの急崖によって画されるが、東側はなだらかな緩斜面となって低地部へ移行する傾動地塊の形を呈す。台地北端が最も高く、南に向かって低くなる点も地塊としての地盤運動の影響である。上町台地の大阪層群は隆起によって陸化した後、海食崖・海食台が形成される。さらに最終間氷期に海面が上昇し、大阪層群の上に上町累層が堆積したが、つづく最終氷期には再び海水準が低下し、空堀や細工谷にみられるような大規模な浸食谷が発達した。こうして大阪城の舞台となる上町台地は海水準変動と隆起運動が重なり合った結果、現在みられるような複雑な地形が形成され、人々の生活に大きな影響を及ぼすこととなった。

図3は昭和36年測図の大阪市地形図(1:3000)より作成した上町台地の1m間隔の等高線図である(註1)。



(斜線部は図4の範囲に相当)

図1 大阪城の位置

昭和36年には上町台地はすでに市街地化されているが、高度成長期の大規模開発が及ぶ以前の上町台地の全体像を細部まで読みとることが可能である。言うまでもなく、上町台地は古代より難波宮造営や大坂城築城になど幾度も地形改変がなされており、各時期の地形環境復原が必要であるが、大阪城が立地する上町台地の歴史的環境を理解する手がかりとして、以下図3より上町台地全体の地形を概観する。

北は比高7 m程の急崖をもって大川に接しており、おそらく大阪城もこのような急崖を利用して台地の先端に立地しているものと思われる。大阪城の西側には標高約15m前後の平坦地が広がっているが、後述するようにこの付近一帯は文献史料から古代の難波館などの公的施設の立地が想定され、発掘調査においても奈良三彩や和同開珎・隆平通宝などが出土している。また台地先端の「石町」という地名は摂津国府の書き誤りが由来とされるなど大阪城と並んで、歴史上重要な施設が立ち並んでいた可能性がある。

大阪城に南接した法円坂一帯は上町台地で最も標高が高い地域であり、標高25mの最高所では難波宮大極殿跡が地下から発見されるなど難波宮がかつて営まれた地域である。その東西は傾斜地となっており、特に東側では緩やかに下降する斜面に空堀などの大規模な浸食谷が上町台地の奥深くまで達している。西側斜面では方位に合わせた直線的な等高線が顕著であるが、これは近世の絵図に記されている瓦土取りなどの著しい人工改変の痕跡と思われる。

法円坂の難波宮大極殿跡付近を起点とする上町台地の分水界は、南へいくに従い高度を下げながら台

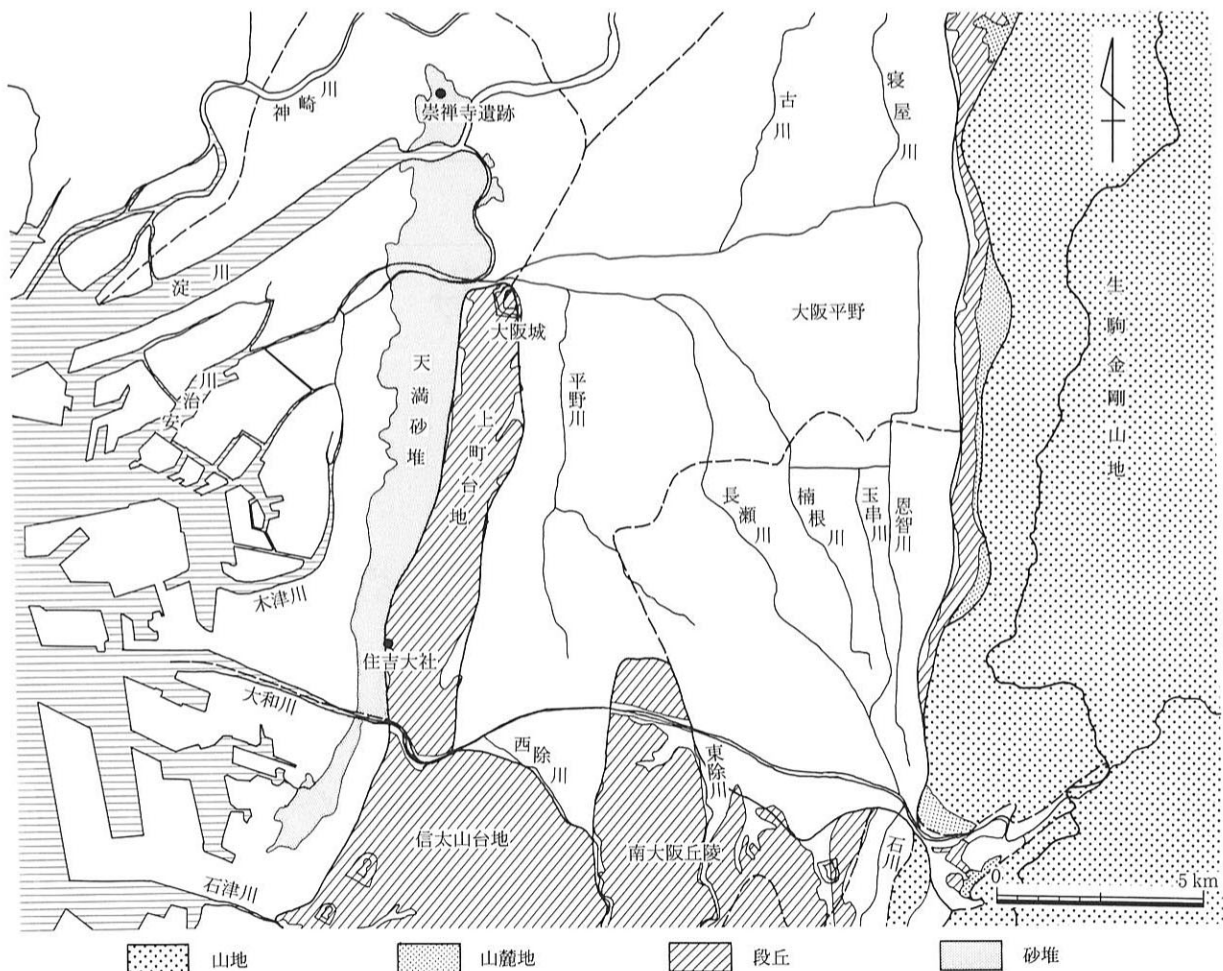


図2 地形分類図

地西縁へと寄り、上本町以南では先述した東へ傾く傾動地塊の様相を呈す。上本町以南の台地西縁は石段や愛染坂や口縄坂といった急坂がみられるように、比高10mの急崖が迫っている。また複数の小規模な浸食谷が急崖を刻んでいる。南へいくに従い標高が下がるため、台地西縁の崖もしだいに低くなり、南端の住吉大社付近では穏やかな傾斜で低地へ移行する。一方、上本町以南の東側斜面は北東部と同様に細工谷など大規模な浸食谷がみられるが、南東部ではJR阪和線沿いにみられる桃ヶ池や長池を痕跡とする南北方向の谷によって狭義の上町台地（東）と我孫子台地（西）に分かれ、南の信太山台地に続く。

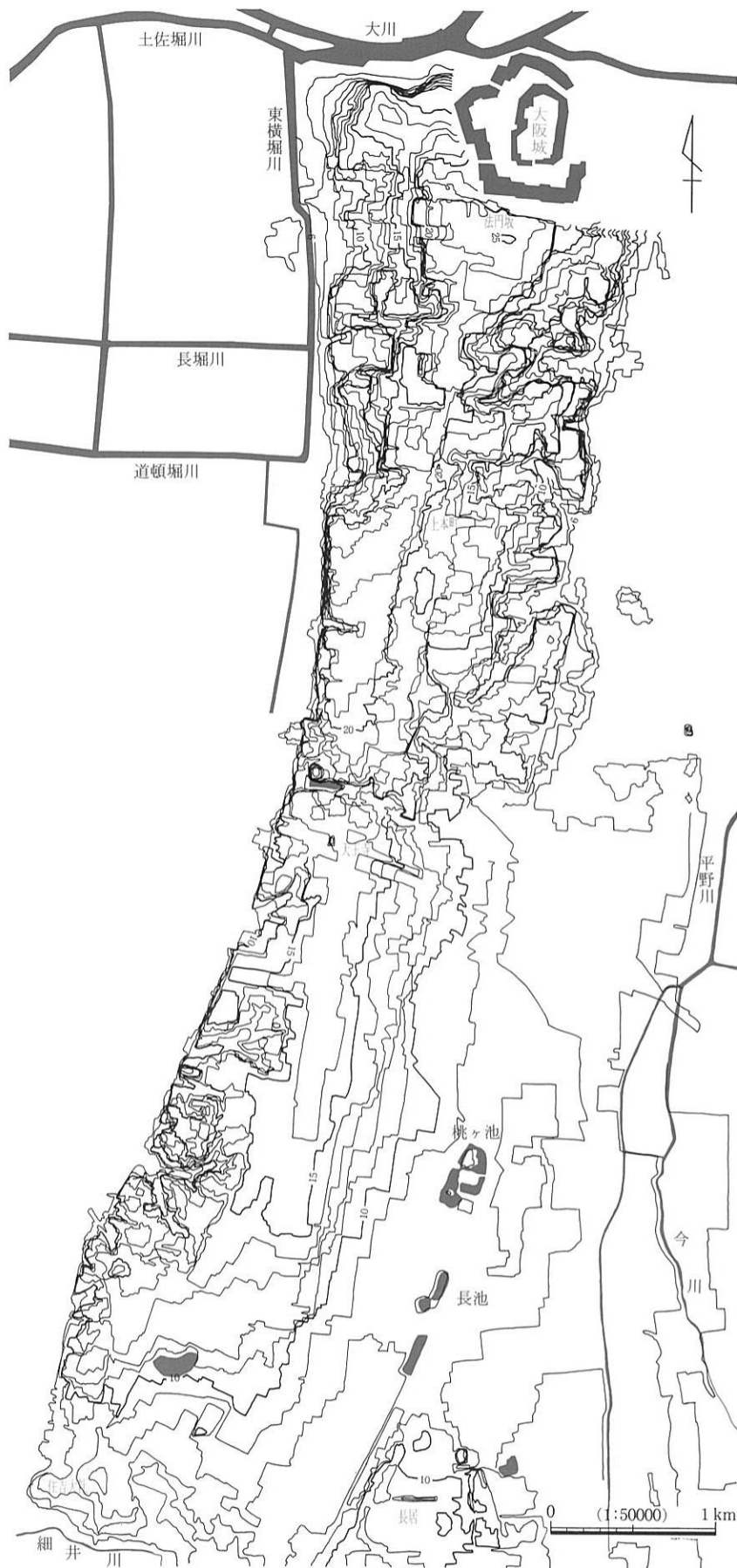


図3 等高線図

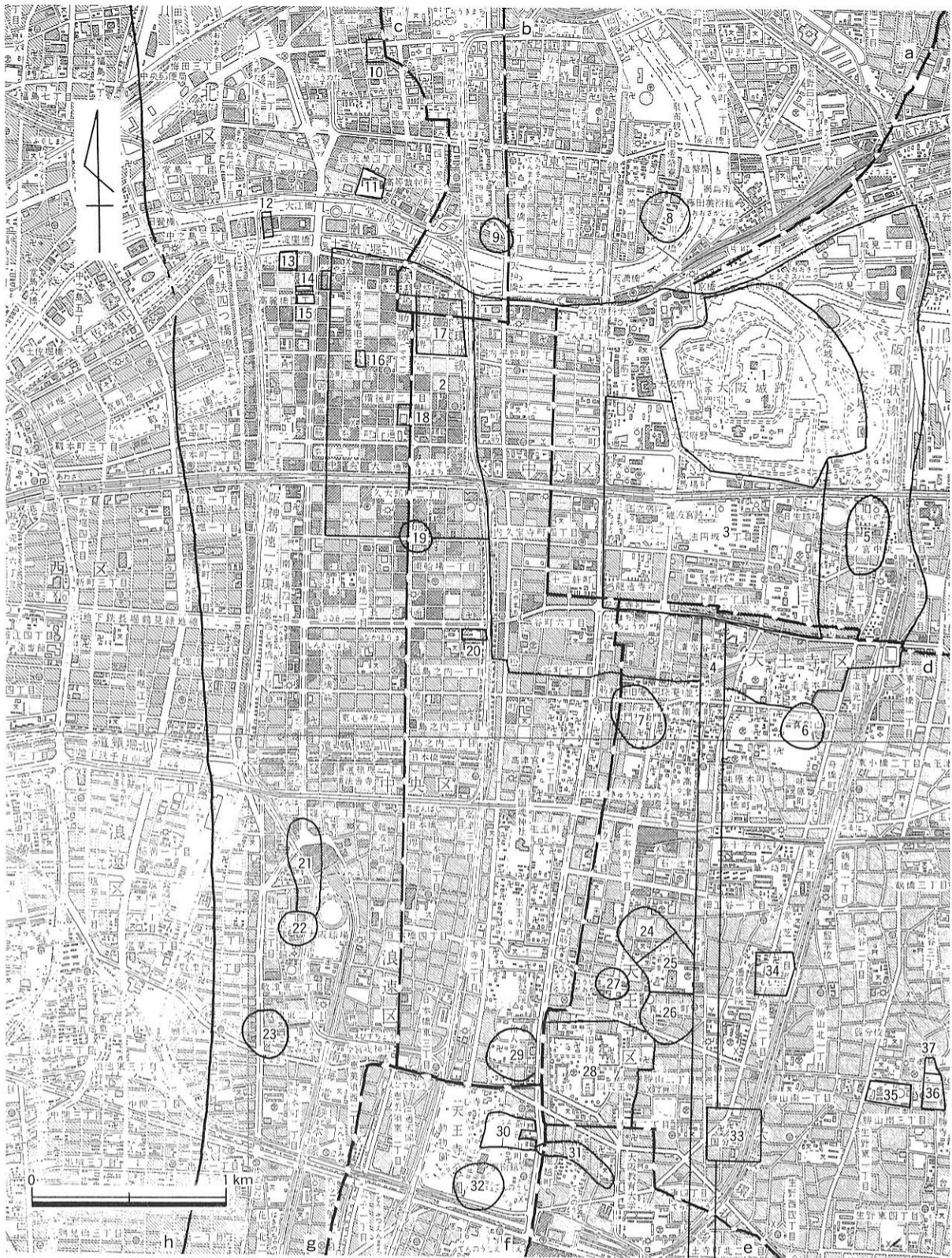
II 歴史的環境

縄文海進によって再度海水準が上昇し、汀線が生駒山西麓まで及ぶ河内湾の時代を迎えた縄文時代中期に、上町台地では森の宮遺跡において人々の暮らしが本格的に開始される。台地の東斜面に位置する森の宮遺跡に形成された大規模な貝塚は、貝層の堆積がマガキからセタシジミへと変化しており、縄文時代後期から弥生時代中期にかけておこった河内湾から河内湾への変遷を如実に示す（5-22：図5・表2の22に対応、以下同様）。森の宮遺跡から約1km南にある宰相山遺跡では、開析谷の埋積土から大阪市内最古とされる縄文早期の高山寺式から前期、中期の土器や晩期の長原式と木葉文をもつ弥生前期の土器が出土している（5-286）。また上町台地の西側縁辺部の船場地域でも弥生土器が若干出土しており（5-287・338）、上町台地縁辺部では縄文海進以後、陸化した低地において集落が営まれていたと思われる。しかし、縄文・弥生時代を通じて上町台地上では検出される遺構・遺物が稀少であり、実態は不明である。

古墳時代初頭も同様に台地上の情報はいくつか少ないが、天満砂堆の先端に位置する崇禅寺遺跡では、弥生時代末から古墳時代初頭にかけて東海や近江、吉備、山陰系など多量の各地の土器や舶載品と考えられる鉄製の素環刀が出土しており、立地条件を反映した遺跡の性格が看取できる。また上町台地にも古墳が築かれるが、御勝山古墳などを除き難波宮造営や大坂城築城にあたって大半が消滅してしまい、地名や埴輪片などから存在を想定するのみである。『記紀』によれば前期難波宮建設に際して「宮の地に入れむが為に、丘墓を壊られたる」とあり、また四天王寺創建に際しても『日本書紀』に推古元年（593）のこととして、「始めて四天王寺を難波の荒陵に造る」と記され、境内には現在も長持形石棺の蓋が保存されている。考古学的にも難波宮下層遺跡や当遺跡などから水晶製の三輪玉や滑石製の白玉、ガラス製小玉、金環など古墳の副葬品と思われる遺物や円筒埴輪、家形埴輪片が出土する例が増加しており、消滅した古墳の存在が明らかになりつつある（5-7・225・232など）。

古墳時代中期以降、上町台地には古市古墳群や百舌鳥古墳群の巨大古墳の被葬者とされる応神天皇の大隅宮や仁徳天皇の高津宮があったと推定されている。これらはいくまでも推定の域をでないが、台地北端に難波の堀江が掘削され、難波津を中心に政権の重要拠点として発展していったことは確かであろう。難波の堀江は現在の大川と考えられているが、難波津の位置については千田稔氏の三津寺町説と日下雅義氏の高麗橋説にわかれ、論争が繰り返されてきたが定説をみるに至っていない。また上町台地南端では、海の神としてひろく信仰を集めていた住吉大社のもと住吉津が政権の保護を受けて栄えていた。これに対して難波津には住吉大社のような神社はなかったが、難波の堀江の開削によって淀川、旧大和川の水運を利用して河内だけでなく山城・近江・大和などと結びつき、住吉津にかわって畿内の玄関口として発展していく。周辺には集散する物資を収納、管理、輸送する難波屯倉が設置されていたと推定されるが、難波宮下層遺跡で発見された5世紀代の大型倉庫群は難波津の繁栄を具体的に示すものといえる。

難波津は経済面だけでなく外交面でも重要な役割を果たし、外交をつかさどる役所の大郡や宿泊設備の難波館が設けられていた。そこには百濟、新羅、隋など諸外国の使節が迎えられ、儀式や宴会が執りおこなわれ渡来人たちで賑わっていたであろう。『日本書紀』によれば、上町台地において新羅系氏族である難波吉士の活躍が記されており、上町台地上で比較的多く出土する韓式系土器からもそのような外交の一端がうかがえる（5-217・230など）。また西国支配のための役所である小郡も難波にあったと



1. 大坂城跡 2. 大坂城下町跡 3. 難波宮跡 4. 難波京朱雀大路跡 5. 森の宮遺跡 6. 宰相山遺跡
 7. 上本町4丁目所在遺跡 8. 天満本願寺跡 9. 天神橋遺跡 10. 安曇寺跡推定地 11. 佐賀藩蔵屋敷跡 12. 中ノ島2丁目所在遺跡
 13. 北浜4丁目所在遺跡 14. 今橋4丁目所在遺跡 15. 高麗橋4丁目所在遺跡 16. 平野町3丁目所在遺跡 17. 大坂魚市場跡
 18. 備後町2丁目所在遺跡 19. 馬喰町遺跡 20. 住友銅吹所跡 21. 難波貝層遺跡 22. 船出遺跡 23. 敷津遺跡 24. 上之宮遺跡
 25. 小宮町遺跡 26. 真法院遺跡 27. 上本町9丁目所在遺跡 28. 四天王寺旧境内遺跡 29. 伶人町遺跡 30. 茶臼山古墳
 31. 河内川堀江推定地 32. 天王寺公園遺跡 33. 摂津国分寺跡 34. 堂ヶ芝廃寺 35. 勝山南遺跡 36. 御勝山古墳 37. 勝山遺跡
- a. 京街道 b. 三島街道 c. 能勢街道 d. 暗越奈良街道 e. 奈良街道 f. 熊野街道 g. 紀州街道 h. 5世紀の海岸線

図4 大坂城周辺の遺跡分布図

され、難波の地には集中して公的諸施設が整備されていたのだった。さらには6世紀中葉以降の有力氏族であった物部氏や蘇我氏が宅を設け、難波津を利用して経済活動を行っていた。折しも難波の堀江を舞台とした崇仏・廃仏抗争を経て、上町台地の一角では四天王寺の造営が始まっており、仏教文化の花が開こうとしていた。四天王寺は聖徳太子によって建立され、大和の飛鳥寺などと並んで最古級の寺院であり、四天王寺以外にも堂ヶ芝廃寺、阿部寺廃寺、安曇寺跡などで白鳳期の瓦が出土し、上町台地には古代寺院が密集していた。まさに上町台地は外交、経済、文化の中心として繁栄し、この繁栄がこの地に遷都を実現した要因であったであろう。

皇極4年(645)、中大兄皇子らによって蘇我氏が滅ぼされた乙巳の変を発端として数々の政策が打ち出されるが、そのひとつが飛鳥から難波長柄豊碕宮への遷都であった。孝徳天皇はすでにあった大郡や小郡などを利用しながら白雉元年(650)から新宮の建設に着手し、白雉3年(652)に完成した宮は言葉に尽くしがたいほど壮麗であったという。難波長柄豊碕宮の所在地については江戸時代以来、上町説と下町説があり長年にわたって論争が繰り返されてきたが、山根徳太郎氏を中心とする発掘調査の結果、上町台地上の法円坂町一帯に中軸線を同じくする前期、後期二時期の宮殿跡が発見され、論争に終止符を打った。発掘調査によって明らかにされた前期難波宮の構造は曲折して南北にのびる回廊の内側は、内裏南門によって北の内裏と南の朝堂院に二分され、中軸線上には正殿や門が並び、その左右には東西棟、南北棟が左右対称に整然と配置されていた。前期難波宮は朱鳥元年(686)の失火によって焼失したと『日本書紀』に記されているが、前期難波宮の遺構は火災で焼けた痕跡を残しており、文献の記述を裏付けている(5-69・300など)。

孝徳天皇の死後、都は飛鳥に戻るが、難波の地は難波津を中心とした外交機能は有しており、神亀3年(726)、再び聖武天皇によって難波宮が造営される。後期難波宮は平城宮の内裏・第2次大極殿院と酷似し、屋根には重圏文軒瓦が葺かれていた。前期難波宮と同じく内裏、朝堂院の東西には掘立柱建物群が検出され、官衙域と推定されている(5-303など)。

これらの宮に伴う京城であるが、前期難波宮に関しては京城の存在について否定的な見解が多いが、後期難波宮に関しては、文献から存在した可能性が高いとされている。条坊の復原には遺存地割や小字による復原と発掘調査による復原を重層的におこなう必要があるが、上町台地は古代以降の開発と近代の著しい都市化によって復原を困難なものとし、条坊については不明な点が多い。

このように奈良時代の上町台地上には難波宮が営まれ、台地北端の難波の堀江一帯には、東大寺の新羅江荘や勅旨省の新羅荘など皇族・貴族・寺院が荘や宅を設け、経済活動の拠点としていた。とりわけ難波館に滞在した各国使節の中で最も多かった新羅使との交易は盛んであったと思われ、当遺跡から出土した新羅緑釉蓋は示唆的である(5-222)。

交通の要所としてその隆盛を極めた難波津であるが、8世紀には淀川・旧大和川の堆積作用によってその港湾機能が衰える。さらに緊縮財政による複都制の廃止や皇統の変化など政治情勢も拍車をかけ、延暦3年(784)に「水陸の便を以て」長岡京へ遷都されると難波宮も解体され移築される。翌年、淀川と三国川(神崎川)をつなぐため、摂津国の神下・梓江・鯨生野に水路が開削されると難波津の繁栄も三国川の河尻や淀川と三国川の接点の江口に移り、難波の地は歴史的地位の低下を招くこととなる。

平安時代以降、台地北端の渡辺(現在の天満橋付近)は平安京から淀川を下る航路の船着き場であり、平安末期に流行した熊野・高野山・四天王寺・住吉大社などの寺社参詣ルートの起点として藤原道長や源頼朝ら多くの皇族、貴族が立ち寄っている。中世に盛行する熊野参詣では、京を出発して淀川から上

表1 大坂城とその周辺の歴史

| 西暦 | 年号 | 事項 | 西暦 | 年号 | 事項 |
|------|---------|-----------------------|------|------|-------------------------------------|
| 593 | | 四天王寺建立 | 1583 | 天正11 | 羽柴秀吉、大坂城（本丸）築造に着手 |
| 600 | | 第1回遣隋使派遣 | | | 平野郷の移転、中島の開発 |
| 607 | | 聖徳太子、小野妹子を隋に派遣 | 1585 | 天正13 | 初代天守竣工。秀吉関白となる。天満本願寺の建立 |
| 608 | | 隋の使者裴世清、小野妹子とともに難波に上陸 | 1586 | 天正14 | 二の丸築造・聚楽第造営工事に着手。秀吉、太政大臣となる |
| 630 | | 第1回遣唐使派遣 | 1589 | 天正17 | 内裏の造営を始める |
| 645 | | 乙巳の変 | 1590 | 天正18 | 全国統一完成、京都の町割りの改変 |
| 650 | 白雉元 | 難波長柄豊碓宮の造営開始 | 1591 | 天正19 | 秀吉、関白職を秀次に譲り、太閤となる |
| 660 | 斉明6 | 百済救済軍発進のため、難波宮へ行幸 | 1592 | 文禄元 | 朝鮮出兵（文禄の役） |
| 679 | 天武8 | 難波に羅城を築く（天武朝難波宮） | 1594 | 文禄3 | 惣構築造・伏見城築造に着手 |
| 683 | 天武12 | 複都制の詔、難波を副都とする | 1595 | 文禄4 | 関白秀次、自害。聚楽第破却 |
| 686 | 朱鳥元 | 難波宮大蔵省から失火、宮室全焼 | 1596 | 慶長元 | 慶長伏見の大地震 |
| 710 | 和銅3 | 平城京遷都 | 1597 | 慶長2 | 朝鮮出兵（慶長の役） |
| 726 | 神亀3 | 難波宮再建に着手（聖武朝難波宮） | 1598 | 慶長3 | 三の丸築造に着手 |
| 741 | 天平13 | 行基、難波に堀川、橋、布施屋等を造る | | | 船場の開発、天満堀川の開削 |
| 754 | 天平勝宝6 | 鑑真、唐より難波津に到着 | | | 秀吉、伏見城で死去 |
| 762 | 天平宝字6 | 新遣唐使船、難波江口で浅瀬にのり上げ破損 | 1600 | 慶長5 | 関ヶ原の合戦で豊臣方敗れる |
| 784 | 延暦3 | 長岡京遷都 | 1603 | 慶長8 | 徳川家康が江戸幕府を開く |
| 785 | 延暦4 | 摂津国神下等に堀を通し、三国川と結ぶ | 1611 | 慶長16 | 大坂冬の陣起こる。和睦を結び惣構・外堀を埋める |
| 793 | 延暦12 | 難波宮を廃す | 1612 | 慶長17 | 大坂夏の陣起こる |
| 794 | 延暦13 | 摂津職の廃止 | 1615 | 元和元 | 大坂城落城、全城焼亡し、豊臣氏滅ぶ |
| 805 | 延暦24 | 平安京遷都 | | | 松平忠明、大坂城主となり、焼跡整理と市街地復興につとめる。道頓堀の開削 |
| 806 | 大同元 | 難波津の酒甕を封印 | 1619 | 元和5 | 幕府、大坂を直轄地化 |
| 935 | 承平5 | 紀貫之、難波津に停泊 | 1620 | 元和6 | 幕府、大坂城再築に着手（二の丸の西・北・東部） |
| 1023 | 治安3 | 藤原道長一行、渡辺より乗船して帰京 | 1624 | 寛永元 | 本丸再築に着手 |
| 1025 | 万寿2 | 渡辺綱、没す | 1628 | 寛永4 | 二の丸南面再築に着手 |
| 1185 | 文治元 | 渡辺番、西国へ行く源義経を送る | 1629 | 寛永6 | 大坂城再築完成 |
| 1192 | 建久3 | 源頼朝が鎌倉幕府を開く | 1837 | 天保8 | 大塩平八郎の乱 |
| 1201 | 建仁元 | 重源、渡辺浄土寺で迎講を行う | 1867 | 慶応3 | 大政奉還 |
| 1335 | 延元3・暦応元 | 足利尊氏が室町幕府を開く | 1868 | 明治元 | 明治維新の城中大火で大坂城ほぼ焼失 |
| 1467 | 応仁元 | 応仁の乱が起こる | 1871 | 明治4 | 政府、大阪城に鎮台を設置 |
| 1496 | 明応5 | 本願寺第8世蓮如、大坂に坊舎を建立 | 1877 | 明治21 | 大阪鎮台を第四師団とする |
| 1532 | 天文元 | 山科本願寺が焼かれ本山を石山に移す | 1931 | 昭和6 | 市民の浄財によって天守閣復興 |
| 1570 | 元亀元 | 石山合戦が始まる | 1941 | 昭和16 | 太平洋戦争が始まる |
| 1580 | 天正8 | 本願寺、信長と和睦し、紀州へ退去 | 1945 | 昭和20 | 太平洋戦争により大阪城古建造物焼失 |
| 1582 | 天正10 | 本能寺の変で信長死す | 1948 | 昭和23 | 終戦後、大阪城は米軍に接収 |
| | | | | | 米軍撤収、大阪城は大阪市に返還される |
| | | | 1954 | 昭和29 | 難波宮の発掘調査始まる |
| | | | 1955 | 昭和30 | 大阪城地帯、特別史跡に指定される |
| | | | 1959 | 昭和34 | 大阪城総合学術調査を実施 |

陸し最初に拝する窪津王子の置かれた場所であり信仰の上で重要な地であった。王子とは沿道に設置された熊野神の分霊を勧請した社のことで、熊野街道には多くの王子が設置され熊野九十九王子といわれるほどであった。また渡辺は源平合戦で源義経の屋島急襲部隊を運んだ船団として知られる渡辺党が本拠を置いていた。12世紀末には東大寺再建のため重源が渡辺浄土堂と木材倉庫である「木屋敷地」を設け、東大寺の知行国である周防国から海路運ばれてきた木材を川舟に積み替えていたことから、渡辺津が中継基地として機能していたことがうかがえる。

この地が再び歴史の表舞台となるのは、明応5年（1496）の本願寺第8世宗主蓮如による大坂御坊の建立、翌明応6年（1497）の御坊を核とした寺内町の建設まで待たなければならない。大坂御坊が建立された地は「摂津東成郡生玉庄内大坂」（『御文章』）と記され、ここに初めて「大坂」の名が文献に登場する。大坂御坊と寺内町の位置をめぐっては山根氏の法円坂説、岡本良一氏、伊藤毅氏の二の丸説、仁木氏の上町台地説が提示されているが、いずれも文献史料を中心に論が展開された概念的なものであった。近年、文献だけでなく地籍図や絵図、旧地形、考古学的成果を総合的に検討した天野太郎氏によって具体的に地形図上に清水谷町を中心とする復原プランが提示され、大坂寺内町研究に新たな展開をみせている。天野氏も着目した考古学的成果は、秀吉の大坂城下町建設の大規模な土木工事によって削平された可能性があり、現状で確実に大坂本願寺期の遺構といえるものは追手門学院小学校の敷地で検出された天正8年（1580）焼失の瓦葺き建物など限られているが（5-105）、三の丸各所で検出される幅6m、深さ2.5m以上の断面V字形の薬研堀遺構も多くは大坂本願寺期と考えられている。

天文元年（1532）の山科本願寺の焼き討ち以後、大坂石山に本願寺が移されると寺内町は城塞化が進められ、一向宗の本拠として強大な勢力を保持した。この動きは、天下統一を目指す織田信長との対立を余儀なくし、武力対決へと突入していく。10年にわたる石山合戦は第11世宗主顕如が大坂を明け渡し紀州へ移ることで終結するが、顕如の長男である教如は徹底抗戦を主張し、大坂にとどまって戦い続けた。このときの対立が東西本願寺の分立を招くのだが、やがて教如も大坂を退去する際に寺内から出火し、大坂本願寺のみならず一向宗の本拠として繁栄した寺内町も全て焦土と化したのだった。こうして大坂寺内町は壊滅するが、その自治的運営方法は近世へと受け継がれ、商業都市大坂の基盤となってゆく。

一向宗をようやく制圧し、天下統一を目前にした織田信長も本能寺の変によって倒れ、信長の天下統一の夢を引き継いだのが羽柴秀吉であった。秀吉は天下統一事業を様々な政策でもって押し進めていくが、最もビジュアル的にそれを示すものは、全国支配の自らの拠点とした京都・大坂の大改造であり、その膨大な土木工事はまさに秀吉の「天下人」としての象徴であった。天正11年（1583）9月、秀吉は大坂城築城に着手し、まず本丸が竣工された。ポルトガル人の宣教師ルイス・フロイスによると工事に従事する数は月に2、3万人、後には5万人にも達したという。そして天正13年（1585）4月、着工からわずか2年足らずで完成した本丸はいくつもの曲輪からなり、5層からなる天守閣は本瓦葺きで鯰瓦や軒瓦、飾り瓦には金箔が貼られた壮麗なものであった。同年7月、関白の地位に上り詰めた秀吉は、本丸を囲む二の丸工事に着手する。この工事は本丸のおよそ5倍ほどに大坂城の規模を拡張する大規模なものであったが、同時に京都では旧内裏跡の内野に聚楽第の建設が並行して進められており、さらには九州平定の大軍をも動かしていた。天正15年（1587）9月大坂城から聚楽第に移った秀吉は、翌年陽成天皇の行幸を仰ぎ、天下に秀吉の世であることを誇示したのであった。

一方大坂では、本丸・二の丸の築城と並行して城下町の建設も着々と進められていった。天正11年

(1583)には、熊野街道で結ばれた四天王寺・住吉・堺を城下町と直結させるため、大坂城と四天王寺を結ぶライン上に平野郷の住民を強制的に移住させた。これによって天王寺付近まで町屋が建ち並び、堺は大坂の外港として機能することとなる。秀吉の大坂城下町建設は当初、遷都を視野に入れた壮大な構想ものであり、内裏と五山並びに都の主要寺院の移転が計画されていた。その用地として新たに中島（現在の天満）の開発をはじめ城下の北端と南端には、それぞれ天満東寺町、八丁目口の寺町が建設され、大坂の大改造が次々と行われていった。結果的に大坂遷都は実現しなかったが、大坂寺内町を越える規模の都市基盤が整備されつつあった。

京都では秀吉が皇居の大修理を天正19年（1591）には完成させ、さらに公家・武家・寺院の移転、屋敷替えに伴い新たに短冊型の町割も行われた。そしてこれら全てを包括する御土居が同年4月に完成したことによって、秀吉の首都としての京都大改造は終了し、新たな都として甦ったのだった。

京都大改造を終え、関東・東北を平定した秀吉は、名実ともに天下統一を成し遂げ、天正19年（1591）には関白職を秀次に譲り太閤となる。文禄3年（1594）、秀吉は伏見城の築城と並行して、大坂城の城郭を強化するため惣構の建設を命じた。これによって北は大川、南は空堀、東は猫間川、西は新たに掘削した東横堀によって画された広大な大坂城下町が完成する。惣構に囲まれた内町は商工業者で賑わい、大きく繁栄するのだった。

こうして完成した大坂城下町は、都市として順調に発展していたが、慶長3年（1598）、病床の秀吉は新たに三の丸の築造を命じたのだった。この工事は惣構内に三の丸を築いて大名屋敷を伏見から移転させるため、すでにあった町屋を新たに惣構の外に整備した船場へ移すという大規模なものであった。船場には現在も「太閤下水」として残る下水網が整備されており、船場の開発の計画性の高さを伺い知ることができる。同時に天満も新たに天満堀川が掘削されるなど城下町の整備、拡張が行われ、船場、天満は城下町として発展し、内町と合わせて後の大坂三郷の繁栄の下地を形成する。

同年8月、秀吉は伏見城にて62年の生涯を閉じ、慶長19年（1614）の大坂冬の陣では、徳川家康の知略によって本丸を除く堀は全て埋められ、翌年の大坂夏の陣でついに難攻不落を誇った大坂城も、豊臣氏の命運とともに灰燼に帰したのだった。

廃墟と化した大坂だったが、元和6年（1620）から10年の歳月をかけて松平忠明が徳川幕府の畿内および西国支配の拠点として本丸と二の丸を復興する。しかし、それは膨大な盛土に象徴されるように豊臣期の面影を完全に払拭したものであり、豊臣期の遺構は地下深くに眠ることとなる。復興は旧市街地の再興にとどまらず、新たに船場の西側は木津川沿岸まで、南は道頓堀沿岸まで開発され、大坂は幕府の直轄都市として拡張整備される。道頓堀が元和元年（1615）に完成したのをはじめ、元和～寛永年間（1615～1644）に集中して江戸堀川、京町堀川、海部堀川、長堀川、立売堀川、薩摩堀川など次々と開削され、さらに貞享元～3年（1684～1686）淀川河口の直流を妨げていた九条島を幕府主導によって開削して新川（安治川）を通したことによって市中の洪水を緩和し、水運の発達と町場の拡張を促し、水の都が成立したのだった。諸大名は中之島や堂島の川辺に蔵屋敷を設け経済活動の拠点とした。また寛永11（1634）年には三代将軍家光が大坂に入り、市中の地子免除を打ち出し、商工業者の集住を促した。その結果市街地は北組、南組、天満組に組織された大坂三郷と呼ばれ、18世紀中頃の最盛期には人口40万人を誇る商都として繁栄する。

一方、大坂の統治体制は大坂城主である徳川将軍にかわって有力な譜代大名が大坂城代として派遣され、その配下に二名の定番、二名の大番頭、四名の加番が大坂城警備役人として常駐し、二名の町奉行

が町政を取り仕切った。定番や町奉行の下にはその家来達のほか、下級役人として多数の与力と同心が組織され、大坂城付近の旧三の丸跡などに居住した。貞享4年(1687)の古地図によると、現在の大阪府警本部や府庁一帯は、京橋口定番松平縫殿頭乗次家中屋敷および同与力屋敷などに占められている。また古地図にみえる谷町筋以西、東横堀川以東の内淡路町、内本町などは、かつての豊臣期の惣構の内側といういわゆる「内町」意識の名残で今日まで町名に残っている。

寛文5年(1665)、落雷によって大坂城天守閣は焼失し、慶応4年(明治元)幕末の動乱の中、本丸から出火した火は城中大火となり再び大坂城は落城する。その後大坂城域とその一帯は、古代より重視されてきた立地条件から大阪鎮台や大阪砲兵工場など軍施設が立ち並ぶ官有地となり、三の丸跡にも第三高等学校(後の京都大学)の前身である舎密局が設置される。大阪鎮台は明治21年(1888)、第四師団と改称され、大阪は軍都として色合いを強めていった。昭和6年(1931)には軍用地の中心に全額市民の浄財によって大阪城天守閣が再建されるが、日増しに不安が募る時代に秀吉期の繁栄の再来を願ったものであった。やがて太平洋戦争も終戦を目前にして、東洋一の軍事工場とうたわれた大阪城一帯は激しい爆撃を受け、徳川期の建築物も多くが焼失した。終戦後、辛くも戦火をくぐり抜けた天守閣と中部軍区司令部は、新たに大阪城天守閣博物館と大阪市立博物館に生まれ変わり、大阪城一帯は史跡公園として整備され都心のオアシスとなって今に至る。

III 大坂城跡の調査

先述したように、戦前大坂城とその一帯は軍施設が立ち並び、終戦直後は昭和23年(1948)まで米軍に接収されていたため、発掘調査が実施されるようになったのは昭和34年(1959)以降のことである。それ以後、今日まで城郭および城下町において数多くの調査が行われ、ビルが林立する市街地の地下からそれらの規模や構造だけでなく城下町を支えた人々の様々な暮らしが明らかになりつつある(図5・表2)。

昭和34年(1959)に実施された調査は、歴史学・考古学・建築史学・土木工学・地質学などの専門家によって組織された大坂城総合学術調査団によるものであった(5-214)。この調査では地下約7.3mを上場とする高さ4m以上の石垣が発見された。当初、この石垣は野面積で貧弱なものであったため、大坂石山本願寺期のものも考えられたが、その後のボーリング調査と合わせてこの石垣が豊臣期大坂城本丸の石垣であることが確実となり、現在の大阪城の地下深くに豊臣期の遺構が眠っていることが明らかにされた。1984年から実施された城内配水場改良工事に伴う調査では、大坂夏の陣の焼土層に覆われた本丸詰の丸、中の段地表面のほか、高さ6mにも及ぶ詰の丸外郭外廻り石垣などが検出されている(5-213)。豊臣期本丸に関しては、このような発掘調査以外にも絵図や文献史料が豊富でその規模や構造はおおよそ解明されつつある。

しかし、二の丸は平和資料館建設に伴う調査で南面する石垣が検出されたのみで不明な点が多い(5-77)。さらに三の丸となると文献史料も少なく、かつては二の丸や惣構と混同されることもあった。しかし、1980年渡辺武氏によって大坂冬の陣における大坂城の構造と東西両軍の配陣の概略を描いた『偃台武鑑』が発見され、二の丸、惣構とは別に独立して三の丸が存在していたことが明らかになった。発掘調査においても『偃台武鑑』の記載とほぼ一致する位置で石垣が検出され(5-97・105・198・218)、『偃台武鑑』の信頼性を高めている。また三の丸内部の調査も進展し、府立大手前高校校舎新築に伴う

調査では、三の丸築造前後の二時期の地表面が検出され、三の丸築造を境にした土地利用の差が判明した(5-215)。

惣構内部においても大坂夏の陣で焼け落ちた土蔵や武家屋敷が発見され、町屋や武家の日常生活の一端をかいま見ることができた(5-106・125)。労働センター建て替えに伴う調査では、夏の陣で焼失した武家屋敷の遺構だけでなく桔梗文鬼瓦が出土し、加藤清正もしくは清正ゆかりの屋敷と推定されている(5-129)。

城下町にあたる船場地域で発見された約330点を数える魚市場に関連する荷札木簡は、商都「船場」の実態に迫る発見であり、大きな注目を集めている(5-284)。近年では天満地区においても造幣局を中心に調査が進展しており、秀吉が招いた天満本願寺の実態や、天満地区の開発の状況が明らかになりつつある。

註

- 1 大阪城本丸南端ライン以北は、1:10000地形図(平成3年発行)より作成し合成した。上本町以南の台地西縁は急傾斜地であるため、部分的に等高線は2m間隔である。なお今回使用した大阪地形図には標高5m以下の等高線は記載されていなかったが、標高点の数値をみる限り、図中の上町台地の東西には標高3~5mの平坦地が広がっていることがうかがえる。

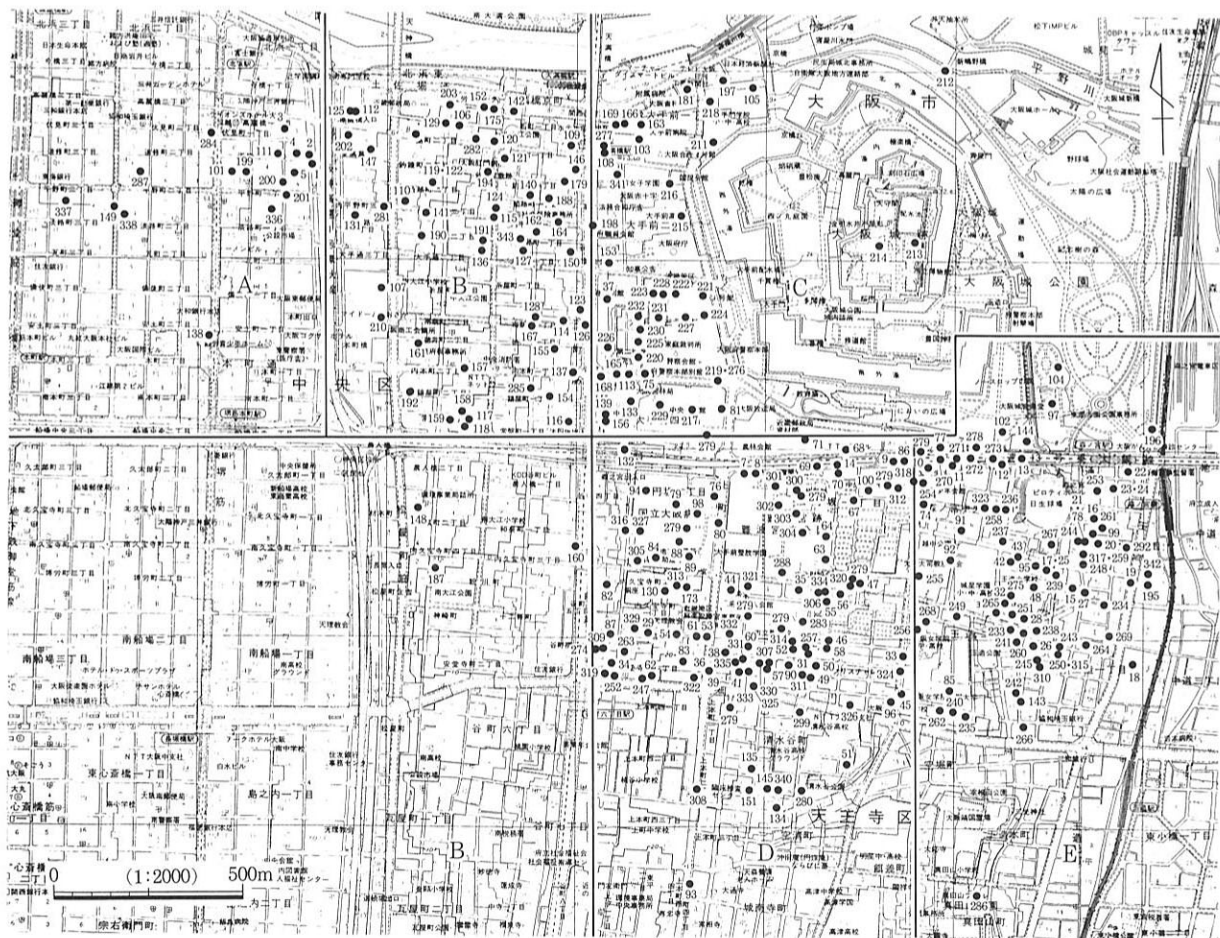


図5 既往の調査地点

参考文献

- 1 『難波宮址の研究』(研究予察報告第1) 1956 難波宮址研究会
- 2 『難波宮址の研究』(研究予察報告第2) 1958 難波宮址研究会
- 3 『難波宮址の研究』(研究予察報告第3) 1960 難波宮址研究会
- 4 『難波宮址の研究』(研究予察報告第4) 1961 難波宮址研究会
- 5 『難波宮址の研究』(研究予察報告第6) 1970 難波宮址研究会
- 6 『森の宮遺跡第1・2次調査報告』 1972 森の宮遺跡発掘調査団
- 7 『難波宮跡研究調査年報』(1971) 1972 難波宮址顕彰会
- 8 『難波宮跡研究調査年報』(1972) 1973 難波宮址顕彰会
- 9 『難波宮跡研究調査年報』(1973) 1974 難波宮址顕彰会
- 10 『難波宮跡第75次調査説明会資料』 1976 高速大阪東大阪線難波宮跡調査会
- 11 『難波宮跡第93次調査説明会資料』 1976 高速大阪東大阪線難波宮跡調査会
- 12 『森の宮遺跡第3次調査概報』 1976 大阪市教育委員会
- 13 『難波宮跡研究調査年報』(1974) 1976 難波宮址顕彰会
- 14 『難波宮跡第100次調査説明会資料』 1977 高速大阪東大阪線難波宮跡調査会
- 15 『難波宮跡発掘調査概報』 高速大阪東大阪線難波宮跡調査会
- 16 『昭和53年度難波宮跡緊急発掘調査報告書』 1980 大阪市文化財協会
- 17 『難波宮址の研究』(第7) 1981 大阪市文化財協会
- 18 『昭和54年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1981 大阪市文化財協会
- 19 『難波宮跡研究調査年報』(1975~1979.6) 1981 難波宮址顕彰会
- 20 『大坂城三の丸跡』1 1982 大手前女子大学
- 21 『昭和56年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1983 大阪市文化財協会
- 22 『大坂城三の丸跡』2 1983 大手前女子大学史学研究所
- 23 『昭和58年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1984 大阪市文化財協会
- 24 『昭和57年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1984 大阪市文化財協会
- 25 『難波宮址の研究』(第8) 1984 大阪市文化財協会
- 26 『特別史跡大坂城跡』 1985 大阪市文化財協会
- 27 森毅「[船場]道修町の発掘調査」『葦火』5 1986 大阪市文化財協会
- 28 『昭和59年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1986 大阪市文化財協会
- 29 『大坂城惣構・西町奉行所跡発掘調査概要』 1986 大阪府教育委員会
- 30 松尾信裕「玉造小学校内で発見された酒造遺構」『葦火』9 1987 大阪市文化財協会
- 31 鈴木秀典「発掘された豊臣期大名屋敷」『葦火』11 1987 大阪市文化財協会
- 32 松尾信裕「豊臣氏大坂城発見の乳児棺」『葦火』8 1987 大阪市文化財協会
- 33 『大坂城跡(OS87-40)発掘調査現地説明会資料』 1987 大阪市文化財協会
- 34 『昭和60年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1987 大阪市文化財協会
- 35 『豊田日生ビル新築に伴う近世魚市場跡発掘調査現地説明会資料(AZ87-5)』 1987 大阪市文化財協会
- 36 『中央館(仮称)新築工事に伴う大坂城跡発掘調査現地説明会資料(OS87-78)』 1987 大阪市文化財協会
- 37 『特別史跡一 大坂城跡2』 1987 大阪市文化財協会
- 38 八木久栄「[永禄五天]のへら描きのある丸瓦」『葦火』16 1988 大阪市文化財協会
- 39 森毅「[船場]出土の木製人形など」『葦火』12 1988 大阪市文化財協会
- 40 松尾信裕「大坂城三の丸に見つかった防御施設」『葦火』15 1988 大阪市文化財協会
- 41 森毅「大坂城三の丸出土の金箔瓦」『葦火』13 1988 大阪市文化財協会
- 42 宮本佐知子「大坂城跡出土の秤と錐」『葦火』12 1988 大阪市文化財協会
- 43 森毅「大阪府大坂城跡一 大阪市道修町の町屋の調査」『日本考古学年報』39 1988
- 44 植木久「発掘された豊臣時代大坂城二の丸の堀」『葦火』17 1988 大阪市文化財協会
- 45 『大坂城跡3』 1988 大阪市文化財協会
- 46 『平和資料館(仮称)建設に伴う大坂城跡発掘調査現地説明会資料』 1988 大阪市文化財協会
- 47 『追手門学院小学校校舎建替に伴う大坂城跡(OS88-78)現地説明会資料』 1988 大阪市文化財協会
- 48 『昭和61年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1988 大阪市文化財協会
- 49 『第4合同庁舎建設計画に伴う大坂城跡発掘調査(OS87-112)現地説明会資料』 1988 大阪市文化財協会
- 50 『大坂城三の丸跡』3 1988 大手前女子大学史学研究所
- 51 田中清美「豊臣期武家屋敷出土の桔梗紋鬼瓦」『葦火』18 1989 大阪市文化財協会
- 52 藤田幸夫「豊臣氏大坂城三の丸から出土した桃山時代の刀」『葦火』22 1989 大阪市文化財協会

- 53 森毅「豊臣時代の犬の土人形」『葦火』23 1989 大阪市文化財協会
- 54 『難波宮跡大坂城跡発掘調査中間報告』 1989 大阪市文化財協会
- 55 『昭和62年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1989 大阪市文化財協会
- 56 『大阪市中央体育館地域における難波宮跡・大坂城跡発掘調査第3期(NW89-1)1次調査現地説明会資料』 1989
大阪市文化財協会
- 57 『よみがえる中世』2 1989 平凡社
- 58 清水ひかる「豊臣時代の板留め溝」『葦火』28 1990 大阪市文化財協会
- 59 森毅「上町にあった豊臣前期の大名屋敷」『葦火』27 1990 大阪市文化財協会
- 60 伊藤純「大坂夏の陣の証人」『葦火』23 1990 大阪市文化財協会
- 61 『住友銅吹所跡発掘調査(DB90-1)現地説明会資料』 1990 大阪市文化財協会
- 62 『住友銅吹所跡発掘調査(DB90-1)第2回現地説明会資料』 1990 大阪市文化財協会
- 63 『難波宮跡大坂城跡発掘調査中間報告』2 1990 大阪市文化財協会
- 64 『佐賀藩大坂蔵屋敷船入り石垣発掘調査現地説明会資料(OS90-75)』 1990 大阪市文化財協会
- 65 『大阪市中央体育館地域における難波宮跡・大坂城跡発掘調査第3期(NW89-1)2次調査現地説明会資料』 1990
大阪市文化財協会
- 66 『大阪市中央体育館地域における難波宮跡・大坂城跡発掘調査第3期(NW89-1)3次調査現地説明会資料』 1990
大阪市文化財協会
- 67 『昭和63年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1990 大阪市文化財協会
- 68 『大坂城跡発掘調査概要』2 1990 大阪府教育委員会
- 69 『中世末から近世のまち・むらと都市』 1990 埋蔵文化財研究会
- 70 黒田慶一「球状の鋳型」『葦火』32 1991 大阪市文化財協会
- 71 南秀雄「大坂城下町出土の将棋の駒」『葦火』30 1991 大阪市文化財協会
- 72 藤原里香「日本に来たポルトガル向けの青花大皿」『葦火』34 1991 大阪市文化財協会
- 73 宮本佐知子「梵字瓦からみた中世の大坂」『葦火』35 1991 大阪市文化財協会
- 74 『大阪市中央体育館地域における発掘調査(NW91-5)現地公開資料』 1991 大阪市文化財協会
- 75 『平成元年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1991 大阪市文化財協会
- 76 『平成2年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1991 大阪市文化財協会
- 77 『旧佐賀藩大坂蔵屋敷船入遺構調査報告』 1991 大阪市文化財協会
- 78 『第10回 大阪の歴史を掘る』 1991 大阪市文化財協会
- 79 『大坂城跡発掘調査概要』 1991 大阪府教育委員会
- 80 『大坂城跡の発掘調査』1 1991 大阪文化財センター
- 81 森毅「大坂で使われたベトナム製陶磁器」『葦火』41 1992 大阪市文化財協会
- 82 伊藤純「大坂の陣のころのうつわ」『葦火』41 1992 大阪市文化財協会
- 83 宮本佐知子「大坂城跡の分銅」『葦火』41 1992 大阪市文化財協会
- 84 松尾信裕「道修谷から道修町へ」『葦火』39 1992 大阪市文化財協会
- 85 『難波宮址の研究』9 1992 大阪市文化財協会
- 86 『大坂城下町跡発掘調査(OJ92-18)現地説明会資料』 1992 大阪市文化財協会
- 87 『平成3年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1992 大阪市文化財協会
- 88 『第11回 大阪の歴史を掘る』 1992 大阪市文化財協会
- 89 『大坂城跡の発掘調査』2 1992 大阪文化財センター
- 90 森毅・豆谷浩之「船場商人の屋敷跡」『葦火』42 1993 大阪市文化財協会
- 91 伊藤純「大坂城下町のベネチアングラス」『葦火』42 1993 大阪市文化財協会
- 92 岡本良一『大坂城』 1970 岩波書店
- 93 村川行弘『大坂城の謎』 1970
- 94 松尾信裕「船場成立以前」『ヒストリア』139 1993
- 95 森毅「豊臣期から江戸期にかけての船場の考古学的調査」『ヒストリア』139 1993
- 96 『大坂城跡の発掘調査』3 1993 大阪文化財センター
- 97 『大坂城跡の発掘調査』4 1994 大阪文化財センター
- 98 『天満本願寺跡発掘調査報告』1 1995 大阪市文化財協会
- 99 渡辺武「豊臣時代大坂城の三の丸と惣構について」『大坂城の諸研究』 1982 名著出版
- 100 松尾信裕「豊臣期大坂城の規模と構造」『大阪市文化財論集』 1994 大阪市文化財協会
- 101 松本啓子「豪族の邸宅? -清水谷町の調査から-」『葦火』43 1993 大阪市文化財協会
- 102 松本啓子「大坂出土のオレンジ色絵壺」『葦火』45 1993 大阪市文化財協会

- 103 伊藤純・金村浩一「上町台地にあった焼物工房」『葦火』46 1993 大阪市文化財協会
- 104 佐藤隆「前期難波宮朱雀門?跡の調査」『葦火』47 1993 大阪市文化財協会
- 105 『森の宮遺跡II』 1996 大阪市文化財協会
- 106 河村健史「大坂城出土の蒔絵の香道具」『葦火』49 1994 大阪市文化財協会
- 107 積山洋「古代難波の外来系土器」『葦火』50 1994 大阪市文化財協会
- 108 趙哲済「森ノ宮の地下にうもれた遺跡」『葦火』48 1994 大阪市文化財協会
- 109 平田洋司「弥生時代の森の宮遺跡」『葦火』48 1995 大阪市文化財協会
- 110 松尾信裕・積山洋「河内湾の岸辺から一天王寺区宰相山遺跡出土の縄文土器」『葦火』63 1996 大阪市文化財協会
- 111 『第12回 大坂の歴史を掘る』 1993 大阪市文化財協会
- 112 『近畿ブロック埋文情報』 1
- 113 南秀雄「豊臣から江戸時代の町屋の発達—船場道修町の調査から」『葦火』48 1995 大阪市文化財協会
- 114 『近畿ブロック埋文情報』 2
- 115 佐藤隆・宮本佐知子「前期難波宮朝堂院の調査」『葦火』60 1996 大阪市文化財協会
- 116 『大坂城跡の調査』 6 1996 大阪府文化財調査研究センター
- 117 『近畿ブロック埋文情報』 6
- 118 『近畿ブロック埋文情報』 10
- 119 平田洋司「谷町筋にあった大坂城三の丸の西端」『葦火』71 1997 大阪市文化財協会
- 120 平田洋司「埋められた箱と台車」『葦火』73 1998 大阪市文化財協会
- 121 『近畿ブロック埋文情報』 11
- 122 宮本佐知子「後期難波宮朝堂院東第2堂」『葦火』72 1998 大阪市文化財協会
- 123 『近畿ブロック埋文情報』 12
- 124 佐藤隆・李陽浩「巨石を用いた前期難波宮の石組み溝」『葦火』73 1998 大阪市文化財協会
- 125 佐藤隆・李陽浩「池状水溜め、水溜め木枠」『葦火』74 1998 大阪市文化財協会
- 126 天野太郎「大坂石山本願寺寺内町プランの復原に関する研究」『人文地理』48-2 1996
- 127 積山洋「上町台地の北と南」『大阪市文化財論集』 1994 大阪市文化財協会
- 128 『熊野・紀州街道—論考篇—』 1987 大阪府教育委員会
- 129 『熊野・紀州街道—調査報告篇—』 1987 大阪府教育委員会
- 130 『新修大阪市史』第一巻 1988 大阪市
- 131 『新修大阪市史』第二巻 1988 大阪市
- 132 『新修大阪市史』第三巻 1989 大阪市
- 133 『天満本願寺跡発掘調査報告II』 1997 大阪市文化財協会
- 134 『天満本願寺跡発掘調査報告III』 1998 大阪市文化財協会
- 135 京嶋覚「難波地域出土の土師器とその地域色」『韓式系土器研究』II 1989
- 136 田中清美「上町台地北部出土の韓式系土器」『韓式系土器研究』II 1989
- 137 田中清美「上町台地北部地域出土の韓式系土器と異形須恵器」『韓式系土器研究』IV 1993
- 138 『古代を考える 難波』 1992 吉川弘文館
- 139 『大阪平野のおいたち』 1986 青木書店
- 140 『よみがえる中世』2 1989 平凡社
- 141 『まちに住まう 大阪都市住宅史』 1989 平凡社
- 142 『大阪府史』第一巻 1978 大阪府
- 143 『大坂城下町跡I』 1994 大阪市文化財協会
- 144 黒田慶一「大坂城跡の『てつはう』木簡」『葦火』58 1995 大阪市文化財協会
- 145 松本啓子「海を渡ってきた壺—いわゆるトラディスカント壺—」『葦火』58 1995 大阪市文化財協会
- 146 伊藤純「大坂城下町 北浜でみつかった<茶屋>」『葦火』70 1997 大阪市文化財協会
- 147 上田正昭「荒陵寺と難波吉土」『古代探求』 1998 中央公論社
- 148 『平成4年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1993 大阪市文化財協会
- 149 『平成5年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1995 大阪市文化財協会
- 150 『平成6年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』 1996 大阪市文化財協会
- 151 『難波宮址の研究』10 1995 大阪市文化財協会
- 152 『近畿ブロック埋文情報』 8

表2 既往の調査成果1

| 番号 | 地区 | 地点名・記号 | 調査番号 | 旧地表の高さ | 古代以前 | 中世 | 豊臣前期 | 豊臣後期 | 豊臣 | 江戸前期 | 備考 | 文献番号 |
|----|----|--------|---------|-------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|---------------------|----------------------|---------------------------------------|-----------------------|----------------|-------------|
| 2 | A | AZ | 87-04 | T.P. 1mで豊臣 | 6~7世紀土器、隆平永寶12枚、奈良~平安土器・土鏡・製塩土器、緑釉陶器 | 14世紀瓦器碗、15世紀土器器皿 | | | 羽口、銚型、スラグ | | | 55 |
| 3 | A | AZ | 87-05 | | | | 池、板組溝 | 礎石建物3、埋藏、地下蔵(2.6×4m) | | ゴミ穴、魚骨札、人形100、齋口、備前甕8 | | 35 |
| 4 | A | AZ | 87-06 | T.P.1.5mで豊臣 | 奈良人面書土器 | 室町土器 | | | 羽口、銚型、スラグ | | | 55 |
| 5 | A | AZ | 89-02 | | | | | | 礎石、柱穴、瓦敷、溝3面、瀬戸灰釉皿集中出土 | | | 75 |
| 6 | D | AZ | 90-02 | | | | | | 礎石建物、溝、井戸 | | | 78 |
| 7 | D | MP | 1 | | 難波宮下層建物・溝、子持ち勾玉、白玉 | | | | 土坑、溝、井戸、桔梗文瓦、建物 | | | 11、14、17 |
| 8 | D | MP | 2 | | 難波宮下層建物、白玉 | 瓦器 | | | 金箔瓦、溝 | | | 14、17 |
| 9 | D | MP | 4 | | | | | | 桔梗文瓦、溝、柱列 | | | 17 |
| 10 | E | MP | 5 | | 難波宮下層建物 | 瓦器 | | | 井戸、瓦溜め、桔梗文瓦、溝、柱穴 | | | 11、14、17 |
| 11 | E | MP | 6 | | 難波宮下層建物、須恵器、土師器 | 瓦器碗13~14世紀、13世紀土師器土釜、瓦器足釜、中世溝・欄列 | | | 大和釜、火鉢、V字溝(幅2m)、人形首 | 折敷三の字文瓦 | | 11、14、17 |
| 12 | E | MP | 8 | O.P.14.5m | | | | 火災礎石建物、杭溝、石列 | 備前大甕 | | | 11、14、15、17 |
| 13 | D | MP | 9 | | | | | | 礎石、1.2m幅道路、瓦排水施設 | | | 11、14、15、17 |
| 14 | E | MP | 中央盛土D区 | | 白玉 | | | | 鳳凰文、三つ巴文瓦、将棋駒、井戸、溝、柱穴 | | | 17 |
| 17 | E | MR | 82-04 | T.P.1.4mで地山、T.P.2m付近で古墳 | 弥生中期土坑、須恵器 | | | | 砂層 | | | 24、100 |
| 20 | E | MR | 86-03 | G.L.-0.5mで豊臣 | | | | 焼土 | 溝? | | 南東から北西へ下降(人為的) | 48 |
| 21 | E | MR | 88-06 | | | | | 東西溝 | | | 北へ傾斜 | 48 |
| 22 | E | MR | 94-08 | | 縄文土器・漆塗り堅楯・集石遺構、飛鳥土器・瓦、前期難波宮関連祭祀遺構 | 瓦器、「永正十六年七月」記年銘木簡 | 瀬戸美濃焼天日碗、土師器皿、犬型土製品 | | 金箔瓦 | 古草永通寶(1636年初鋳) | 河内湾から河内湖への変遷 | 105 |
| 23 | E | MR | 001 | | 奈良瓦 | | | | 金箔瓦(桐)、天下一銘桐菊桔梗文鏡、蓄銭、東西溝(刀傷頭骨、加工痕跡散骨) | | 芳櫛会館 | 12 |
| 24 | E | MR | 002・003 | | 縄文土器、弥生土器、奈良瓦 | 室町井戸・瓦器羽釜 | | | 金箔瓦(桐・菊) | | 芳櫛会館 | 6 |
| 25 | E | MR | 141 | | | 瓦器 | | | | | | 16 |

表2 既往の調査成果2

| 番号 | 地区 | 地点名・記号 | 調査番号 | 旧地表の高さ | 古代以前 | 中世 | 豊臣前期 | 豊臣後期 | 豊臣 | 江戸前期 | 備考 | 文献番号 |
|----|----|--------|-----------------|---------------------------|-------------------------------|----------|------|--------------------|--|----------|------|--------|
| 27 | E | NW | 80-13 | | 奈良瓦 | | | | | | | 100 |
| 29 | D | NW | 81-02 | T.P.13.7mで豊臣、 12.7mで地山 | 6世紀須恵器、7世紀土器・瓦 | 魚住稲鉢 | | | | | 開析谷 | 21 |
| 30 | | NW | 81-04 | | 6世紀植輪、奈良井戸・瓦・製 土器・墨書土器「米家」 | | | | | | | 21 |
| 31 | D | NW | 81-12 | G.L.-0.5~0.6mで地山 | | | | | 刻印石 | 溝、塚、土坑 | | 21 |
| 32 | E | NW | 81-18 | | 奈良建物・須恵器 | | | | | | 北へ傾斜 | 21 |
| 34 | D | NW | 81-31 | | 前期難波宮朝堂院南門東半部 | | | | | | | 23 |
| 35 | D | NW | 83-06 | | 須恵器、植輪 | 13世紀魚住稲鉢 | | | 柱穴、土坑 | | 西へ傾斜 | 23 |
| 36 | D | NW | 83-20 | T.P.18mで地山 | | | | | 柱穴、陶磁器 | 江戸初期の堆積層 | | 23 |
| 37 | C | NW | 83-26・ 27・34 | | | | | | | | | 28 |
| 38 | D | NW | 84-10 | T.P.19.5mで地山 | 難波宮建物 | 室町土器 | | | | | | 28 |
| 41 | D | NW | 84-48 | G.L.-0.6mで地山 | 弥生石鏝、奈良建物 | | | 南北石垣、火災瓦 (屋敷地) | | | | 28 |
| 42 | E | NW | 84-55 | | 奈良瓦 | | | 南北石垣 (屋敷地) | | | | 34 |
| 43 | E | NW | 85-17 | | | | | 瓦溜め | | | | 34 |
| 44 | D | NW | 85-19 | T.P.20mで地山 | | | | | | | | 34 |
| 45 | D | NW | 85-33 | | 須恵器 | 瓦器 | | | | | | 34 |
| 46 | D | NW | 86-02 | 北部T.P.21mで地山 | 難波宮関係柱列、南部に急激な 落込み | | | | 東面する石垣 | | | 76、100 |
| 47 | D | NW | 86-12 | | 前期難波宮建物 | | | | | | | 48 |
| 51 | D | NW | 87-18 | T.P.17mで地山 | 古墳須恵器 | | | | 南北水路 (幅2m)、溝、 掘立柱建物 天目茶碗墨 書「道貞？」 | | | 55 |
| 52 | D | NW | 87-45 | T.P.17.5mで地山 | 須恵器、瓦 | | | 焼土 | 土坑 | | 南へ傾斜 | 55 |
| 53 | D | NW | 88-02 | | | | | | | 刻印石 | | 67 |
| 54 | D | NW | 88-04 | G.L.-1.6mで豊臣 | | | | | | 刻印石 | | 67 |
| 55 | D | NW | 88-10 | | 奈良瓦・土器 | 室町瓦 | | | | | | 67 |
| 56 | D | NW | 88-18 | T.P.20.5mで地山 | 前期難波宮朝堂院回廊 | | | | | | | 75 |
| 57 | D | NW | 89-03 | G.L.-0.9mで豊臣 | 難波宮建物 | | | | | | | 76 |
| 58 | D | NW | 90-02 | T.P.14.5mで地山 | 前期難波宮建物 | | | | | | | 78 |
| 59 | | NW | 90-07 | | 韓式系土器 | 南北溝、金箔瓦 | | | | | | 76 |
| 60 | D | NW | 90-20 | G.L.-0.055mで豊臣 | 古代建物 | | | | 南北柱列 (N-5-E) | 製鉄、鍛冶 | | 76 |
| 61 | D | NW | 90-29 | T.P.17.1mで豊臣、 16mで地山 | 韓式系土器、初期須恵器、7世 紀盛土1m | 盛土、北に谷 | | 南北礎石建物、火災、 灰溜まり | | 石切り場 | 北へ下降 | 76 |

表2 既往の調査成果3

| 番号 | 地区 | 地点名・記号 | 調査番号 | 旧地表の高さ | 古代以前 | 中世 | 豊臣前期 | 豊臣後期 | 豊臣 | 江戸前期 | 備考 | 文献番号 |
|----|----|--------|-----------------|------------------|-----------------------------------|------------------|------|-----------------------------------|------------------|-------------|---------------|---------|
| 62 | D | NW | 91-03 | G.L.-0.4mで地山 | 難波宮建物 | | | | | | | 87 |
| 63 | D | NW | 97-03 | | 前期難波宮石組み溝、水溜め、木簡、舟形木製品、重國文軒瓦 | | | | 井戸、建物、瓦溜、五輪塔転用石列 | | | 123~125 |
| 64 | D | NW | 97-12 | | 後期難波宮朝堂院東第2堂、重國文軒瓦 | | | | | | | 121、122 |
| 65 | NW | | 金谷邸 | | | 室町瓦 | | | | | | 8 |
| 66 | NW | | 森の宮ランプ | | | 室町瓦 | | 東西石垣 | | 「渡辺備中守基綱」木簡 | | 7 |
| 67 | D | NW | 003 | | | 14世紀瓦器碗 | | | 大和型土釜 | | | 1 |
| 68 | D | NW | 007 | | 奈良建物 | 室町瓦、焼土、朱鉄、石垣、中世池 | | 陶磁器流し溜め穴 | | | | 2 |
| 69 | D | NW | 010・011 | | 飛鳥瓦、難波宮建物、7世紀土器、建物基壇 | 鎌倉土堺 | | | 溝溝 | | | 4 |
| 70 | D | NW | 010 | | 難波宮建物 | | | | 石垣、基壇、石敷 | | | 3 |
| 71 | D | NW | 016~018・021・031 | | 前期・後期難波宮建物、7世紀土器、欵斧 | | | | | | | 5 |
| 72 | NW | | 043 | | | 瓦器、中世溝 | | | 東西3段石垣? | | 越中町870 | 8 |
| 73 | NW | | 055 | | | | | | | | | 9 |
| 74 | E | NW | 056 | | | 瓦器 | | | | | | 9 |
| 76 | D | NW | 067 | G.L.-2mで地山 | 奈良瓦 | 瓦器 | | | | | | 25 |
| 77 | E | NW | 071 | | | 瓦器、溝 | | | 石段、石垣、塙、道 | 石組溝 | | 19 |
| 78 | E | NW | 077 | | | | | | 金箔瓦 | | | 19 |
| 79 | D | NW | 081-1 | | | | | | 金箔瓦、備前大甕 | | | 25 |
| 80 | D | NW | 082-34 | | 後期難波宮土坑 | | | | 金箔瓦、矢板溝 | | | 25 |
| 81 | C | NW | 087・111 | | | | | | | 土坑 | | 19 |
| 82 | D | NW | 090 | | | | | | 石垣? | | | 19 |
| 83 | D | NW | 094 | | | | | | | 羽口など | | 19 |
| 84 | D | NW | 097 | | 紡錘車、白玉、韓式系土器、5~7世紀土器、白鳳瓦、後期難波宮整地層 | 瓦器 | | | | | 西へ傾斜、谷頭 | 19、25 |
| 85 | E | NW | 115 | | | | | | 深さ3mの掘り込み溝 | | | 19 |
| 86 | D | NW | 116-2 | | | | | | | | | 19 |
| 89 | D | NW | 122 | G.L.-1.8~3.4mで地山 | 韓式系土器、6~7世紀須恵器、奈良瓦 | 瓦器 | | 石垣、幅4mの東西V字溝、上面に焼土、刀傷器骨、羽口、埴埴、金箔瓦 | | | 南西へ傾斜(比高1.2m) | 19、25 |
| 90 | D | NW | 124-2 | | | 瓦器 | | | | | | 19 |
| 91 | E | NW | 124-8 | G.L.-1mで地山 | | 瓦器 | | | | 瓦 | | 19 |

表2 既往の調査成果4

| 番号 | 地区 | 地点名・記号 | 調査番号 | 旧地表の高さ | 古代以前 | 中世 | 豊臣前期 | 豊臣後期 | 豊臣 | 江戸前期 | 備考 | 文献番号 |
|-----|----|--------|--------|-----------------------|------------------------|----------------|----------------------------|----------------------|------------------|--------------|---------|----------|
| 92 | E | NW | 127 | | | | | | | 徳川初期盛土2m | | 19 |
| 93 | D | NW | 137 | | 奈良溝・瓦 | | | | | | | 19、16 |
| 95 | E | NW | 141 | | 弥生土器、土師器、須恵器 | 瓦器 | | | | | | 19、16 |
| 97 | E | NW | 153 | | 奈良瓦 | | | | 淺、金箔瓦、南北石垣(墨書あり) | | | 19、16 |
| 98 | D | NW | 155 | G.L.-1.6mで地山 | 後期難波宮建物・溝・井戸 | | | | | | | 25 |
| 99 | E | NW | 158-8 | G.L.-2.8mで地山 | | 室町瓦 | | | | | | 18 |
| 100 | D | O J | 府警察 | | | | | | 金箔瓦 | | 1953年調査 | 8 |
| 101 | A | O S | 92-18 | | 7～9世紀土器 | 12～13世紀土器、中世井戸 | | 礎石建物、土蔵、分銅、織部、屋敷境 | | ベネチアアンガラス、木簡 | 東から西へ傾斜 | 86、143 |
| 103 | C | O S | 81-03 | | | | 東西石垣 | | | 石垣 | | 21 |
| 105 | C | O S | 83-15 | T.P.5mで豊臣 | | 本願寺期礎石建物・溝 | | 溝・柱穴 | 互敷遺構、建物、備前大甍、羽口 | 櫛列、溝、柱穴、炉 | 追手門小 | 38、45、69 |
| 106 | B | O S | 85-28 | | | | 町屋(東西南北の板溝、掘立柱建物、竈、埋鏡3列、塚) | 石垣で囲まれた土蔵、井戸ゴミ穴 西入り口 | | | | 69 |
| 109 | B | O S | 86-06 | T.P.11mで地山 | | | 幅7m深さ3mの東西溝 | | | | | 100 |
| 110 | B | O S | 86-17 | G.L.-2.3mで豊臣 | | | | 柱穴、南北溝、礎石、基石 | | | | 48 |
| 111 | A | O S | 86-20 | | | 14～15世紀集落、南北溝 | 掘立柱建物1 鋳造関連炉、工房 | 礎石建物2、ゴミ穴、魚荷札300 | | 埋鏡12 | | 27、43、69 |
| 113 | C | O S | 86-34 | | | | 掘立柱建物、溝 | 大型礎石建物、溝、小児棺、瓦管、配石 | | | | 69 |
| 114 | B | O S | 86-35 | | 奈良瓦 | 14世紀瓦器碗、羽釜、土坑 | | | 金箔瓦 | | | 48 |
| 115 | B | O S | 86-70 | T.P.14mで地山、14.5mで焼土 | 7世紀土器 | | 南北溝 | | 東へ下がる段、櫛列 | 基石、焼土 | 北隣87-39 | 55 |
| 116 | B | O S | 87-013 | T.P.13.2mで焼土、12.7mで地山 | 6世紀植輪、7世紀須恵器 | 瓦器片 | | 彼熱南北2段石垣、柱穴 | | | | 55 |
| 118 | B | O S | 87-018 | T.P.9.5mで地山 | 奈良井戸 | | | | | | | 55 |
| 120 | B | O S | 87-026 | T.P.11.8mで豊臣 | | 壱町溝、白磁四耳壺、瓦器羽釜 | | 礎石 | | | | 55 |
| 121 | B | O S | 87-029 | T.P.12.5mで地山 | 奈良井戸・製塩土器・墨書土器「根」・奈良三彩 | | | | 礎石建物、東西櫛、南北溝 | | 119と同一 | 55 |
| 122 | B | O S | 87-033 | T.P.5.6mで地山 | 植輪、7世紀土器、埴輪、下駄 | | | | 井戸出土金箔菊瓦 | | | 55 |
| 123 | B | O S | 87-037 | G.L.-1.5mで地山 | 7～9世紀瓦 | | | | | | | 55 |

表2 既往の調査成果5

| 番号 | 地区 | 地点名・記号 | 調査番号 | 旧地表の高さ | 古代以前 | 中世 | 豊臣前期 | 豊臣後期 | 豊臣 | 江戸前期 | 備考 | 文献番号 |
|-----|----|--------|--------|--------------------------|------------------------|---------------|----------------------------|-----------------------------------|-----------|--------------|-----------|-----------|
| 124 | B | O S | 87-089 | | | | | 武家屋敷 (40×50m以上)、10~11連蔵、建物7 | 東へ振れる櫓、建物 | | | 69 |
| 125 | B | O S | 87-040 | | | | | | | | | 33 |
| 126 | B | O S | 87-056 | | 須恵器、瓦 | 瓦器 | | | | | 北から南への崖 | 55 |
| 127 | B | O S | 87-066 | T.P.11.5mで地山 | 6世紀末須恵器 | | | | 礎石 | | 北東から南西へ下降 | 55 |
| 129 | B | O S | 87-078 | | | | 小型礎石建物、ゴミ穴、駒先、魚荷札、挑載陶器、鉄鎌 | 南北築地基礎、瓦葺礎石建物、鉄釜、刀サマスタ、門、鬮門、桔梗紋鬼瓦 | | | | 36、51、69 |
| 132 | C | O S | 87-112 | T.P.18.5mで豊臣 | | | 櫓、大名屋敷 | 櫓 | | | | 40、69、100 |
| 133 | C | O S | 87-123 | | | | 井戸、溝、耕作地 | 建物、井戸 | | 畑 | | 69 |
| 134 | D | O S | 87-124 | | 7世紀土器、建物 | | | | | | | 55 |
| 137 | B | O S | 87-152 | | 須恵器、土師器 | | | | 石組東西溝 | | | 67 |
| 138 | A | O S | 87-153 | | | | | 礎石建物、道路(0.8m)、小柄 | | | | 69 |
| 139 | C | O S | 87-155 | T.P.15mで地山 | 埴輪、須恵器、土師器 | 瓦器 | | | | | 西へ下降 | 67 |
| 141 | B | O S | 88-002 | | | | | | | 備前埋蔵 石組 炉、礎石 | | 67 |
| 142 | B | O S | 88-008 | | | | | | 木簡 | | | 76 |
| 143 | E | O S | 88-012 | T.P.3.9mで豊臣 | T K208須恵器 | | | | | | | 67 |
| 145 | D | O S | 88-029 | G.L.-0.8mで地山 | 須恵器 | | | | | | | 67 |
| 146 | B | O S | 88-081 | G.L.-1.2mで豊臣 | 7~9世紀土器、和同開珎、開元通寶、隆平永寶 | 14世紀瓦器碗、櫓、耕作溝 | | | | | | 67 |
| 147 | B | O S | 88-056 | T.P.3.5~4mで大坂夏の陣、2.7mで豊臣 | | | 大型蔵 | 備前埋蔵 | | | | 69、60、100 |
| 148 | B | O S | 88-073 | | | | | | 矢板溝 | 耕作地 | | 67 |
| 150 | B | O S | 88-083 | T.P.14.7mで豊臣 | 奈良瓦・溝 | | | 幅4.5m東西溝 | | | | 67 |
| 152 | B | O S | 88-113 | | | | 陶磁器 | 火災 | | | | 76 |
| 155 | B | O S | 89-007 | T.P.8mで地山 | 7世紀土器、黒色土器 | 中世耕作地幅45m、瓦器 | ゴミ穴多数径1m、瓦質変、茅41本、溝幅1m、焼土塊 | | | 溝 | 谷の南肩 | 75 |
| 156 | C | O S | 89-008 | | | | | 鞆羽口、スラグ、埴塀、人骨、刀、土坑 | | | | 52、69 |
| 159 | B | O S | 89-024 | | | | | | | 畑平 | 西へ下降 | 75 |

表2 既往の調査成果6

| 番号 | 地区 | 地点名・記号 | 調査番号 | 旧地表の高さ | 古代以前 | 中世 | 豊臣前期 | 豊臣後期 | 豊臣 | 江戸前期 | 備考 | 文献番号 |
|-----|----|--------|--------|-----------------------|---------------------|--------------|--------------------------------------|-------------------------------|---------|------------|----|-------|
| 161 | B | O S | 89-041 | T.P.4.8mで豊臣 | | 13世紀山茶碗、斜面地形 | 盛土、石垣、東の平坦地と西の低地に板塀と瓦葺み | 三の丸盛土1m、礎石建物、巴飾り瓦大和釜 | | 鍛冶、竈 | | 75 |
| 162 | B | O S | 89-088 | T.P.13.6mで豊臣、12.5mで地山 | | | | | | 2連小型竈掘立柱建物 | | 75 |
| 164 | B | O S | 89-088 | G.L.-1.7mで豊臣 | | | | | 大型土坑、井戸 | 井戸、竈、柱穴 | | 75 |
| 165 | C | O S | 89-074 | | | | | | 柱列 | | | 69 |
| 169 | C | O S | 89-082 | G.L.-2mで豊臣 | | 土塁状 | 瓦多量、朝鮮陶器、大型礎石 井戸、6連竈、大型ゴミ穴 | 南北柱列、西側にゴミ穴、東西掘 朝鮮陶器、唐津、志野、基石 | | | | 75 |
| 170 | | O S | 89-148 | | | | | 焼土、礎石建物、砲弾鋳型 | | | | 78 |
| 171 | | O S | 89-149 | | | 本願寺期礎石 | | | | | | 78 |
| 173 | D | O S | 90-007 | T.P.16m付近で豊臣 | | | 南北溝 | | | | | 100 |
| 174 | | O S | 90-015 | | | | 石組溝 | | | | | 78 |
| 175 | B | O S | 90-020 | T.P.4mで豊臣 | | | 礎石壁建物2、粘土貼穴竈 ベトナム白磁、朝鮮雑釉、大型瓦、茶系陶器、相瓦 | | | | | 76 |
| 176 | | O S | 90-027 | | | | | 土坑、溝、柱穴、焼け瓦 | | | | 78 |
| 177 | | O S | 90-031 | | 中世土釜井戸、溝 | | 建物、溝 | 厚い盛土 | | | | 78 |
| 178 | | O S | 90-047 | | 中世礎石建物 | | 溝、掘立柱建物 | | | | | 78 |
| 179 | B | O S | 90-050 | | 7~9世紀建物、竈、井戸 | | | | | | | 69、78 |
| 180 | | O S | 90-051 | | 奈良建物群、溝、土坑 | | | | | | | 78 |
| 182 | | O S | 90-064 | | | | | | | | | 78 |
| 183 | | O S | 90-066 | | | | | | | | | 78 |
| 185 | | O S | 90-083 | G.L.-1mで豊臣 | | | | 焼土、礎石 | | | | 78 |
| 186 | | O S | 90-108 | | | | | 現代の町割と違う礎石建物 | | | | 78 |
| 187 | B | O S | 90-109 | G.L.-2.6mで中世 | 5世紀植輪 | | | | | 柱穴 | | 76、78 |
| 189 | | O S | 90-112 | | 植輪、7~8世紀土器、奈良溝・奈良三彩 | 本願寺期溝 | | | | | | 78 |
| 190 | B | O S | 90-142 | T.P.5.8mで豊臣 | | | 配石 | 陶磁器 | | | | 87 |
| 191 | B | O S | 91-016 | T.P.12mで地山 | 須恵器、土師器、古代瓦、砥石、鉄滓 | | | 将棋駒、基石 | | | | 87 |

表2 既往の調査成果7

| 番号 | 地区 | 地点名・記号 | 調査番号 | 旧地表の高さ | 古代以前 | 中世 | 豊臣前期 | 豊臣後期 | 豊臣 | 江戸前期 | 備考 | 文献番号 |
|-----|----|--------|------------|-----------------------|---|------------|----------------------|--------------------|---------------------|--------|--------------|----------|
| 192 | B | O S | 91-020 | G.L.-2 mで豊臣 | 土師器 | | | 南北溝、井戸、土坑 | | | | 87 |
| 193 | | O S | 92-006・012 | T.P.9.5mで豊臣、8.5~6mで地山 | | 中世包含層 | 金箔瓦、土坑、礎石建物、掘立柱建物、埋藏 | 南北溝 | | | | 88 |
| 194 | B | O S | 93-025 | | | | | | 道路敷、瓦 | | | 111 |
| 195 | E | O S | 94-020 | | 弥生中期木製品 | | | | | | | 109 |
| 196 | E | O S | 94-074 | | | | | ゴミ穴、箸、漆器、陶磁器、蒔絵製品片 | 石垣 | | 河内湾から河内湖への変遷 | 106、108 |
| 197 | C | O S | 96-032 | | | | | 礎石建物、木樋、刀の鞘 | | | | 117 |
| 198 | C | O S | 97-001 | | | | | 罫、櫛、礎石列、家紋瓦、金箔瓦 | 銅銭、分銅、箸、台車 | | 三の丸外郭堺 | 123~125 |
| 199 | A | O S | | | | | | 高級陶磁器 | | | | 82、88、90 |
| 200 | A | O S | | | | | | | 分銅 | | | 82 |
| 201 | A | O S | | | | 水田、谷? | | | | | | 83 |
| 202 | B | O S92 | | | | | | | 砲弾跡型 | | | 70 |
| 205 | | O S92 | 04地点 | T.P.7 mで地山 | | 中世井戸 | | | | 墨屋 | | 88 |
| 206 | | O S92 | 05地点 | | | | | | | | | 88 |
| 207 | | O S92 | 07地点 | | | | | 武家屋敷 | | | | 88 |
| 208 | | O S92 | 08地点 | | | 水田? | | | | | | 88 |
| 209 | | O S92 | 10地点 | | | | | | 魚名木簡大量 | | | 88 |
| 210 | B | マイドム | | | | 溝? | 町屋、道路、側溝、屋地 | 岩 | | | | 29 |
| 211 | C | 大坂城 | 三の丸京橋口 | G.L.-6 mで豊臣 | | | | | 錆、錠、包丁、魚型木製品、金箔瓦、木簡 | | 追手門学院 | 20 |
| 212 | C | 大坂城 | 新鶴野橋南 | G.L.-5 mで豊臣 | 古墳須恵器 | | | | 金箔瓦 | 石垣 | | 37 |
| 213 | C | 大坂城 | 本丸 | G.L.-7.1~7.3mで豊臣 | 須恵器、土師器 | 瓦器 | 石垣 | | 金箔瓦、石組溝 | 徳川盛土6m | | 26 |
| 214 | C | 大坂城 | | | | | | | 石垣ほか | | | 92、83 |
| 215 | C | 大手前高校 | | | | | | 武家屋敷 | | | | 57 |
| 216 | C | 大手前女子 | 三の丸大手前 | G.L.-4 mで豊臣 | 古墳~奈良須恵器 | 室町石敷・水路・杭列 | 町屋、道路、建物 | | | | 南へ傾斜 | 22、50 |
| 217 | C | 中央体育館 | | | 樽式系土器、5世紀大型建物群、5世紀末堅穴住居、前期・後期難波宮建物、火葬墓、製塩土器 | 溝、畑 | 大名屋敷、金箔瓦 | | | | | 54、63、85 |
| 218 | | 婦人センター | | | | 礎石建物? | 石垣、建物 | | | | | 57 |

表2 既往の調査成果8

| 番号 | 地区 | 地点名・記号 | 調査番号 | 旧地表の高さ | 古代以前 | 中世 | 豊臣前期 | 豊臣後期 | 豊臣 | 江戸前期 | 備考 | 文献番号 |
|-----|-------|--------|------|--------------|--------------------------------------|-----------------------------|-------------------|-------------|-----------|-----------------|--------|---------|
| 219 | C | 府警 | 飯庁舎 | | | | | 南北堀 | | | 276と同一 | 79 |
| 220 | C | 府庁 | 1 A | T.P.15mで地山 | 韓式系土器、5～7世紀須恵器、種輪、古代瓦 | | | 大名屋敷、武家屋敷 | | 3～4 m盛土 | 北へ傾斜 | 80 |
| 221 | C | 府庁 | 1 B | | | | 井戸 | 堀 | | | | 80 |
| 222 | C | 府庁 | 2 B | T.P.15.5mで地山 | 7世紀包合層、羽口、スラグ、新羅緑釉蓋 | 青磁、瓦器 | | 礎石群 | | | | 89 |
| 223 | C | 府庁 | 2 C | | 土坑、柱穴、溝、須恵器、奈良瓦 | 溝、青磁 | | 武家屋敷 | | | | 89 |
| 224 | C | 府庁 | 2 D | | 奈良瓦 | | 井戸 | 堀 | | | | 89 |
| 225 | C | 府庁 | 3 A | T.P.11.5mで地山 | 弥生土器、石包丁、子持ち勾玉、種輪、紡錘車、羽口、スラグ、緑釉炉 | 瓦器碗 | 町屋、武家屋敷、職人、羽口、スラグ | 大名屋敷 | | 畑 | | 96 |
| 226 | C | 府庁 | 3 B | T.P.12.5mで地山 | 緑釉陶器、奈良瓦 | 井戸、瓦器碗、土釜 | | 埋蔵群、池 | | 畑 | 北へ傾斜 | 96 |
| 227 | C | 府庁 | 3 C | | | | | 堀 | | | | 96 |
| 228 | C | 府庁 | 4 A | T.P.18mで地山 | | | | | | | | 97 |
| 229 | C | 府庁 | 5 A | T.P.20.8mで地山 | 6世紀種輪、7～8世紀建物、古代建物 | 13～14世紀踰溝、青磁碗、瓦器碗 | 町屋・武家屋敷 | 武家屋敷・金箔・家紋瓦 | 四面石仏 | | | 本書 |
| 230 | C | 府庁 | 5 B | T.P.17.2mで地山 | 韓式系土器、製塩土器、墓、蔓草鳳麟鏡、数珠玉、銭貨 | | | | | | 北へ傾斜 | 116 |
| 231 | C | 府庁 | 5 C | | | | | | | | | 本書 |
| 232 | C | 府庁 | 6 A | T.P.19.3mで地山 | 弥生石器、子持ち勾玉、白玉、製塩土器、羽口、竈、陶硯、火葬墓、海獣福留鏡 | | | | | | | 116 |
| 279 | C D E | | | T.P.20m以上で地山 | | T.P.10mで中世末のV字溝(幅9m、深さ4.1m) | | | | | 9地点あり | 100 |
| 280 | D | | | | 7世紀建物、厩 | | | | | | | 101 |
| 281 | B | | | | | | | | | オランダ色絵煙草葉文細水指 | | 102、111 |
| 282 | B | | | | | | | | | 竈道具、未製品、製品 | | 103 |
| 283 | D | | | | 前期羅波宮朱雀門? | | | | | | | 104 |
| 284 | A | | | | 韓式系土器 | | | | 魚市場木簡 | 魚市場木簡 | | 107、111 |
| 285 | B | | | | 韓式系土器 | | | | | | | 107 |
| 286 | E | | | | 縄文土器(早期・前期・晩期)、弥生前期土器、勾玉、種輪、7世紀末礎石建物 | | | | | | | 110 |
| 287 | A | | | | 弥生後期土器、7～8世紀須恵器・土師器 | 15～16世紀前半溝 | | | 建物、ゴミ穴、井戸 | 建物、既未製品、海亀甲羅、鹿角 | | 112、113 |

表2 既往の調査成果9

| 番号 | 地区 | 地点名・記号 | 調査番号 | 旧地表の高さ | 古代以前 | 中世 | 豊臣前期 | 豊臣後期 | 豊臣 | 江戸前期 | 備考 | 文献番号 |
|-----|----|-----------------|--------------|------------------|-------------------------------------|----|----------|------|-----------|------|---------------|----------|
| 288 | D | 大阪女学院 道修町1丁目 | | | 前期難波宮朝堂院西第6堂 | | | | | | | 114, 115 |
| 289 | | 北浜 | | | | | 「てっはう」木簡 | | | | | 144 |
| 290 | | | | | | | | | トラディスカント壺 | | | 145 |
| 291 | | | | | | | | | 茶屋 | | | 146 |
| 292 | E | MP | | | 弥生土器、奈良時代井戸 | | | | | | | 111 |
| 293 | | MP | 121 | | 難波宮下層建物、溝 | | | | | | | |
| 294 | | MP | 7 | | | | | | 井戸、溝 | 墨書石 | | |
| 295 | | MP | 75地区 中央トレ | | 難波宮下層建物、土器棺 | | | | | | | |
| 296 | | MP | 中央盛土 A | | | | | | 建物 | | | |
| 297 | | MP | 中央盛土 B・E | | | | | | 溝 | | | |
| 298 | | NS | 中央盛土 C | | | | | | 溝、柱穴 | | | |
| 299 | D | NW | 90-14 | | 奈良瓦、7～8世紀土器、12世紀土師器 | | | | | | | 76 |
| 300 | D | NW | 033・034 | | 5世紀後半土器嵯成土坑、ON46須恵器、前期・後期難波宮建物、新羅土器 | | | | | | | 151 |
| 301 | D | NW | 035 | | 難波宮下層建物・溝、前期・後期難波宮建物 | | | | | | | 151 |
| 302 | D | NW | 036 | | 前期・後期難波宮建物 | | | | | | | 151 |
| 303 | D | NW | 037 | | 前期・後期難波宮建物（後期大極殿） | | | | 桐文・巴文金箱瓦 | | | 151 |
| 304 | D | NW | 039 | | 四天王寺創建同范瓦、後期難波宮建物 | | | | | | | 151 |
| 306 | D | NW | 132 | | 土師器、須恵器 | | | | | | | 16 |
| 307 | D | NW | 134 | | 土師器、須恵器 | | | | | | | 16 |
| 308 | D | NW | 135 | G.L.-1.2~1.9mで地山 | 土師器、須恵器 | | | | | | | 16 |
| 309 | E | NW | 136 | | 6世紀須恵輪、8世紀羽釜、奈良瓦 | | | | | | 西北へ傾斜、8世紀以降埋積 | 16 |
| 311 | D | NW | 148 | | 縄文晩期土器、弥生土器、7世紀須恵器・土師器 | | | | | | 南へ下降 | 16 |
| 312 | D | NW | 150 | | 難波宮建物 | | | | | | | 16 |
| 313 | D | NW | 156 | | 難波宮下層土坑、難波宮建物 | | | | | | | 18 |

表2 既往の調査成果10

| 番号 | 地区 | 地点名・記号 | 調査番号 | 旧地表の高さ | 古代以前 | 中世 | 豊臣前期 | 豊臣後期 | 豊臣 | 江戸前期 | 備考 | 文献番号 |
|-----|----|--------|--------|------------------|--|----|---------------|-------|-----------|-----------|--------|------|
| 315 | B | NW | 158-1 | | | | | | 瓦 | | | 18 |
| 318 | D | NW | 158-7 | G.L.-1.5mで地山 | 難波宮建物 | | | | | | | 18 |
| 320 | D | NW | 160 | | 後期難波宮溝、須恵器 | | | | | | | 18 |
| 321 | D | NW | 163 | | 前期難波宮東西溝、後期難波宮土坑 | | | | | | | 18 |
| 324 | D | NW | 169 | T.P.15mで地山 | | | | | | 礎石跡 | 南西へ傾斜 | 18 |
| 325 | D | NW | 170 | G.L.-0.5~1mで地山 | 後期難波宮建物・溝 | | | | 金箔瓦、木簡、下駄 | | 北東へ傾斜 | 18 |
| 326 | D | NW | 171 | | | | | | | | | 25 |
| 327 | D | NW | 172 | | 難波宮下層建物、須恵器、土師器 | | | | | | | 25 |
| 328 | | NW | 80-12 | | 後期難波宮建物・溝 | | | | | | | 24 |
| 329 | D | NW | 82-05 | | 前期難波宮掘立柱回廊、奈良瓦 | | | | | | | 24 |
| 330 | D | NW | 82-16 | | 前期難波宮建物 | | | | | | | 24 |
| 331 | D | NW | 82-41 | | 難波宮建物 | | | | | | | 148 |
| 332 | D | NW | 92-11 | | 難波宮建物、須恵器、土師器 | | ゴミ穴 | | 櫛 | | | 149 |
| 333 | D | NW | 93-08 | | 難波宮建物 | | | | | | | 149 |
| 334 | D | NW | 93-21 | G.L.-1.5mで地山 | 難波宮建物、奈良瓦 | | | | | | | 150 |
| 335 | D | O J | 94-7 | | 難波宮溝 | | | | | | | 148 |
| 336 | A | O J | 92-19 | G.L.-2.0~2.3mで豊臣 | | | 区画溝(幅2.5m)、土坑 | 礎石、柱穴 | | 土坑 | | 148 |
| 337 | A | O J | 92-22 | | 庄内蔵、7世紀須恵器、平安前期土坑・柱穴・黒色土器・緑釉陶器・「隆平永寶」・瓦・瓦器 | | 土坑、井戸 | | | | | 148 |
| 338 | A | O S | 92-36 | | 弥生柱穴 | | | 柱穴、土坑 | | 羽口、鉄滓、鉄製品 | | 148 |
| 339 | | O S | 90-130 | | 飛鳥~奈良柱穴・溝 | | | | | | | 78 |
| 340 | D | O S | 92-07 | | 6世紀末~7世紀建物・大溝・礎石・櫛・ゴミ穴・羽口 | | | | | | 豪族の邸宅? | 148 |
| 341 | C | O S | 92-41 | | 韓式系土器 | | | | 削平 | | | 148 |
| 342 | E | O S | 93-07 | T.P.10mで地山 | 弥生~奈良柱穴・土器、土馬、奈良井戸・製塩土器 | | | | | | | 149 |
| 343 | B | | 93-20 | | 須恵器 | | 土坑、建物、櫛 | | | | 南西へ傾斜 | 149 |

表2 既往の調査成果11

| 番号 | 地区 | 地点名・記号 | 調査番号 | 旧地表の高さ | 備考 | 文献番号 |
|-----|----|--------|-----------|-----------------------------------|--------------|---------|
| 1 | A | AZ | 87-03 | | | 100 |
| 15 | E | MR | 80-02 | T.P.4m付近で黄色粘土の地山 | | 100 |
| 16 | E | MR | 80-03 | T.P.4m付近で近世初頭 | | 100 |
| 18 | E | MR | 84-06 | T.P.1m付近で17世紀初頭 | | 100 |
| 19 | E | MR | 85-03 | T.P.1.5m付近で中世 | | 100 |
| 26 | E | NW | 80-03 | T.P.8m付近で地山 | 南へ傾斜 | 100 |
| 28 | E | NW | 80-25 | T.P.8.3m付近で地山 | | 100 |
| 33 | D | NW | 81-30 | T.P.14.5m付近で地山 | | 100 |
| 39 | D | NW | 84-11 | T.P.19.5m付近で地山 | | 28 |
| 40 | D | NW | 84-42 | G.L.-0.8m付近で地山 | | 28 |
| 48 | E | NW | 86-25 | T.P.12.5m付近で地山 | | 100 |
| 49 | D | NW | 87-02 | T.P.14m付近で地山 | | 55 |
| 50 | D | NW | 87-07 | T.P.14m付近で地山 | | 100 |
| 75 | C | NW | 082 | | ルーテル | 13 |
| 87 | D | NW | 117 | | 西へ傾斜 | 19 |
| 88 | D | NW | 119 | | | 19, 25 |
| 94 | D | NW | 138 | G.L.-0.4m付近で地山 | | 25, 16 |
| 96 | D | NW | 142 | G.L.-1.5m付近で豊臣、T.P.11m付近で地山 | 北へ傾斜 | 19, 16 |
| 102 | E | OS | 81-02 | T.P.17.5m付近で地山 | | 100 |
| 104 | E | OS | 88-03 | | | 100 |
| 107 | B | OS | 85-36 | | | |
| 108 | C | OS | 86-02 | | | |
| 112 | B | OS | 86-22 | T.P.3.5m付近で大坂夏の陣、2.2m付近で推定石山期 | | 100 |
| 117 | B | OS | 87-014 | T.P.9m付近で豊臣 | | 100 |
| 119 | B | OS | 87-023 | | 122と同一 | 55 |
| 128 | B | OS | 87-069 | | | |
| 130 | D | OS | 87-081 | T.P.2.8~3.4m付近で豊臣 | | 100 |
| 131 | B | OS | 87-100 | T.P.3.8m付近で大坂夏の陣、2.2~3.3m付近で豊臣 | | 100 |
| 135 | D | OS | 87-135 | T.P.18m付近で地山 | | 100 |
| 136 | B | OS | 87-147 | T.P.12.4m付近で地山 | | 100 |
| 140 | B | OS | 88-001 | T.P.13.7m付近で豊臣後期、13.2m付近で豊臣前期 | | 100 |
| 144 | E | OS | 88-023 | T.P.12m付近で地山 | | 100 |
| 149 | A | OS | 88-082 | T.P.0.2m付近で大坂夏の陣 | | 100 |
| 151 | D | OS | 88-097 | T.P.18.5m付近で地山 | | 100 |
| 153 | C | OS | 88-121 | T.P.15m付近で大坂夏の陣、135m付近で地山 | | 100 |
| 154 | B | OS | 89-006 | | | |
| 157 | B | OS | 89-019 | | | |
| 158 | B | OS | 89-023 | | | |
| 160 | B | OS | 89-040 | T.P.11~12m付近で地山 | | 100 |
| 163 | C | OS | 89-064 | | | |
| 166 | C | OS | 89-080 | | | |
| 167 | B | OS | 89-086 | | | |
| 168 | C | OS | 89-090 | 東T.P.12.4m、西11.5m付近で地山 | | 100 |
| 172 | | OS | 90-001 | | 谷斜面 | 78 |
| 181 | C | OS | 90-058 | | | 100 |
| 184 | | OS | 90-075 | | 旧佐賀藩 | 77 |
| 188 | B | OS | 90-110 | T.P.14.9m付近で地山 | | 69, 76 |
| 203 | B | OS | | | | |
| 204 | | OS | | | | |
| 233 | C | | 101-1 | 北部T.P.8.5m付近で地山、南部ではT.P.6mでも確認できず | 地山が急激に南に低くなる | 100 |
| 234 | E | | 101-2 | T.P.3.5m付近で地山 | | 100 |
| 235 | E | | 105 | 北部T.P.12~13m付近で地山、南部は2m低い | 南へ傾斜 | 100 |
| 236 | E | | 110 | T.P.14m付近で地山 | | 100 |
| 237 | E | | 114-5 | T.P.12.9m付近で近世、地山はT.P.10mより深い | | 100 |
| 238 | E | | 120 | T.P.7~8m付近で地山 | | 100 |
| 239 | E | | 123 | T.P.12.5m付近で地山 | 現状は東に低くなる急斜面 | 100 |
| 240 | E | | 124-11 | T.P.12~13m付近で地山 | | 100 |
| 241 | E | | 124-3 | T.P.6mでも地山確認できず | | 100 |
| 242 | E | | 124-4 | T.P.5m付近で地山 | | 100 |
| 243 | E | | 124-7 | | | 100 |
| 244 | E | | 133 | T.P.3.5m付近で地山 | | 100 |
| 245 | E | | 140 | T.P.4.5m付近で地山 | | 100 |
| 246 | | | 141 | T.P.12.5m付近で地山 | | 100 |
| 247 | D | NW | 152 | G.L.-0.6m付近で地山 | | 100, 16 |
| 248 | E | | 154-2 | | | 100 |
| 249 | E | | 154-3 | T.P.10m付近で地山 | | 100 |
| 250 | E | | 158-1 | T.P.2mより下位にも近世 | 100 | 100 |
| 251 | E | | 158-2 | T.P.11m付近で地山 | | 100 |
| 252 | D | | 159 | G.L.-0.5m付近で地山 | | 100 |
| 253 | E | | 2 LMR 3・4 | T.P.3.2m付近で豊臣、西端ではT.P.4.2m付近で地山 | | 100 |

表2 既往の調査成果12

| 番号 | 地区 | 地点名・記号 | 調査番号 | 旧地表の高さ | 備考 | 文献番号 |
|-----|----|--------|------------|-----------------------------|-----------|------|
| 254 | E | | 43・47・56 | | 東へ急激に低くなる | 100 |
| 255 | E | | 55 | | | 100 |
| 256 | E | | 55 | | | 100 |
| 257 | D | | 57 | T.P.17.3m付近で難波宮整地層 | | 100 |
| 258 | E | | 70 | T.P.14m付近で地山 | 北へ傾斜 | 100 |
| 259 | E | | 77 | | | 100 |
| 260 | E | | 81 | T.P.7m付近で地山 | | 100 |
| 261 | E | | 83 | T.P.2.7m付近で縄文～弥生の貝層 | | 100 |
| 262 | E | | 84 | T.P.12～13m付近で地山 | | 100 |
| 263 | D | | 85 | 南部T.P.15mで地山 | 北へ傾斜 | 100 |
| 264 | E | | 86 | T.P.2m付近で地山 | | 100 |
| 265 | E | | 88 | T.P.12.5m付近で地山 | | 100 |
| 266 | E | | 91-1 | T.P.5m付近で地山 | | 100 |
| 267 | E | | 91-2 | T.P.8m付近で地山? | | 100 |
| 268 | E | | 91-3 | | 南へ傾斜 | 100 |
| 269 | E | | 91-4 | T.P.2m付近で地山 | | 100 |
| 270 | E | | 93・100・112 | T.P.18.8mで地山 | | 100 |
| 271 | E | | 93・100・112 | T.P.14mで近世 | | 100 |
| 272 | E | | 93・100・112 | T.P.13m付近で大坂夏の俣 | | 100 |
| 273 | E | | 93・100・112 | T.P.13m付近で大坂夏の俣 | 北へ傾斜 | 100 |
| 274 | D | | 96 | G.L.-0.5mで地山 | | 100 |
| 275 | E | | 98 | T.P.12.5m付近で軟弱な砂の地山 | | 100 |
| 276 | C | | 府教委調査地 | T.P.19m付近で地山 | 219と同一 | 100 |
| 277 | C | | 府教委調査地 | | | 100 |
| 278 | E | | | T.P.10m付近で近世初頭、T.P.8m付近にも近世 | | 100 |
| 305 | D | NW | 089 | G.L.-2.6～-7.5mで地山 | 東へ傾斜 | 25 |
| 310 | D | NW | 140 | G.L.-0.6mで地山 | | 16 |
| 314 | D | NW | 157 | G.L.-0.2～-0.5mで地山 | | 18 |
| 316 | D | NW | 158-2 | G.L.-0.65mで地山 | 南へ傾斜 | 18 |
| 317 | E | NW | 158-4 | G.L.-1mで地山 | | 18 |
| 319 | D | NW | 159 | T.P.23.5mで地山 | 南へ傾斜 | 18 |
| 322 | D | NW | 165 | G.L.-0.7～-1.2mで地山 | 南へ傾斜 | 18 |
| 323 | E | NW | 168 | G.L.-1.7mで豊臣 | 南へ傾斜 | 18 |

第2章 調査に至る経緯と経過

I 調査に至る経緯

大阪府が設置されたのは、慶応4年(1868)年5月2日(旧暦)である。同年9月8日(旧暦)に明治に改元されるが、この前後堺県や河内県、摂津県などの設置や統廃合が目まぐるしく繰り返され、最終的に現在の管轄地になったのは明治20年11月4日の奈良県の分離によってである。

最初の府庁舎は、旧東区内本町橋詰町にあった西町奉行所跡(跡地は現マイドームおおさか)を使用した。明治5年、新庁舎を官民共同費用で建築する事が決議され、明治7年7月7日、旧西区江ノ子島上之町に府下最初の西洋式建築と言われた府庁新庁舎(跡地は大阪府立産業技術総合研究所に利用されていたが、移転後は未利用)が落成し、同19日に開庁式が執り行われた。

江ノ子島の府庁舎は、大阪府の発展に伴って事務量が増大したため手狭になり、幾回か増築を行った。ところが、第1次世界大戦以降の大阪の急激な発展により事務量がさらに急増したため、新庁舎の建設が急務となった。そこで、旧東区大手前之町の大坂城三の丸跡地にある不要な陸軍用地を買収し、新府庁用地とする事になった。大正10(1921)年12月の通常府会で建設が決定し、同12(1923)年5月12日に着工、同15(1926)年10月31日に竣工し、同11月7日に開庁式が執り行われている。

この府庁本館は、大阪大空襲をくぐり抜け、今なお威容を誇っているが、建築後70余年を経て老朽化が著しい。また、第二次大戦後、本館も手狭になったため、別館や労働部庁舎など幾つかの建物を増築したが、庁舎の分散化に伴う事務の非効率化が目立つ事になった。一方、政治・経済をはじめとする各分野のグローバル化やOAの進展に伴う高度情報化社会への対応など、府庁舎に新たな機能を付加しないと府民サービスに影響を及ぼす事態にもなってきた。

そこで、大阪府は、府庁舎の建て替えを計画し、昭和62(1987)年9月に「庁舎・周辺整備計画」を発表した。翌63(1988)年9月、基本計画提案競技要綱と参加者を発表し、平成元(1989)年4月に黒川紀章建築都市設計事務所作品を最優秀と決定、発表した。同10月、大阪府庁舎・周辺整備基本計画が策定され、大阪府庁舎周辺整備事業として府庁舎の建て替えが開始される事になった。この建て替えは、現在の府庁舎の機能を保持しながら、同じ敷地内に新庁舎を建築するという難工事であり、既存建物の撤去と仮移転、庁舎建築と入居を繰り返す計画になっている。最初に建築されるのは、新別館となった。

この府庁の敷地は、豊臣大坂城の三の丸跡地にあたる。新庁舎は、駐車場など大規模な地下施設の設置により地中深く掘削されるため、三の丸関連の遺構やその上に築城された徳川大坂城の遺構を大きく破壊する事になる。そこで、建て替え事業を遂行する大阪府総務部庁舎周辺整備室と大阪府教育委員会文化財保護課との間で協議が行われ、財団法人大阪文化財センターにより発掘調査を実施する事になった。平成2(1990)年4月1日、庁舎周辺整備室とセンターの間で同年度末までを工期とする第1次調査の委託契約が締結された。以降、平成8(1996)年3月29日まで5次の発掘調査が継続された。

ところが、府財政の悪化に伴い、新別館完成以降の庁舎建設スケジュールが見直され、行政棟や議会議場の建設が遅延された。発掘調査も中断されたため、平成9年度より3ヵ年の予定で1～5次分の遺物整理事業が行われる事になった。ただ、府財政のさらなる悪化により、平成11年度の遺物整理事業が中断される事態になり、脱稿直前の本報告の刊行も見送られた。その後、版下などの劣化を考慮し、平成12年度に印刷費用のみ予算化し、平成14年6月をもって本書を刊行した。

参考文献 「大阪百年史」 1968 大阪府

II 調査の経過と成果の概要

1、調査の方法と経過

調査は大阪府庁の業務を妨げない条件の下、建築計画にあわせて進められ、平成2年度からの6年間で14カ所の調査区が設けられた。なお調査区の名称は、（調査回次：平成2年度を第1回目の回次とした）＋（同じ年度内でのトレンチ記号：A・B・C・・・）＋（同じ調査区内で細分したトレンチの番号：1・2・3・・・）で表現される。

1 A 調査区は整備地区の南西隅に位置する。面積は約4300㎡である。試掘により、豊臣期の遺構面が地表下約6メートルの深さにあることが判明したため、必要な土留め工法として、調査区を外周部と中央部に分けた二重矢板方式が採用された。調査は外周部の江戸時代面からおこなわれ、その後に土留め作業と併行しながら、外周部の豊臣期面でおこなわれた。中央部の調査は外周部の埋め戻し工程にあわせて西側からおこなわれ、その成果の一部を2月16日の現地説明会で公開した。

1 B 調査区は大手通りと上町通りの交差点南西に位置する。面積は約1800㎡である。1 A 調査区と同様に豊臣期の遺構面までの深さが5 mを越える状況が考えられ、二重矢板方式の土留めが採用された。

1 C 調査区は大手通りの北側で、職員会館（当時）の建つ南側の広場の一部にあたる。江戸時代面のみの調査である。

2 B 調査区は大阪府・庁舎周辺整備地区のほぼ中央に位置し、北は大手通りに面する。面積は782㎡である。本調査区は労働部庁舎として前年度まで使用されていた場所であり、地表下約2 mまではその基礎で削平されていた。また調査の過程で、調査区の中央部以南で基盤層の浅くなる状況がわかり、土留め2段梁の設定は北部のみとなった。4～10月の調査である。

2 C 調査区は大阪府庁別館の東にあたり、北は大手通りに面する。面積は1718㎡である。なお中央部の450㎡は地下室により削平されていた。調査は北側からすすめられ、近世以降で3面、中世以前で2面の遺構検出面を確認した。なお、中央部から南は基盤層が地表下2 m未満で確認され、一方北端からは谷が確認された。5月～1月の調査である。

2 D 調査区は周辺整備地区の東部中央に位置し、平成2年度調査の2 B地区に北接する。面積は1798㎡である。工程の調整により南北を2分し、それぞれについてさらに東西に2分したトレンチが設定された。前年度調査区と同様に、江戸時代面の下には層厚3～4 mにおよぶ江戸時代初期の盛土が確認され、その下から豊臣期の堀などが検出された。11月～3月の調査である。

3 A 調査区は整備地区の南西隅に位置し、南を1 A 調査区に接する。面積は2781.3㎡である。前年度までの調査成果により、古代を含めた3 A 調査区の最終掘削深度は地表面から11.5 m下がることが予測されたため、必要な土留め工法としてアースアンカー方式と栈橋を用いた矢板切り梁工法が採用された。なお周辺整備事業全体の工程調整により3 A・3 B 調査区は平成5年度6月までを工期とする債務事業となった。調査は建築工事との工程調整により南北の2分割でおこなわれ、南側のトレンチ（6・7）は4～12月、北側のトレンチは12～6月のスケジュールとなった。

3 B 調査区は1 A 調査区の西に位置する。面積は746.8㎡である。調査区の中央部分にビルが建てていたため江戸期の面は大半が失われていたが、豊臣期から下の遺構は、夏の陣の焼土層を含めてほとん

ど残されていた。12～6月の調査である。

3 C調査区は周辺整備地区の北東で、2 D調査区に東接する。アースアンカー工法で土留めをおこなった。面積は1392.4㎡である。調査区の西半部は基盤層が高く、土留め段数が減少した。4～10月の調査である。

4 A調査区は整備地区の北ほぼ中央部に位置し、西を2 C調査区、東を2 B調査区に接する。面積は3219.1㎡である。調査は掘削土の仮置き場所を確保するために南北に分割した形でおこなわれ、調査地は北側のトレンチから順次移動していくこととなった。このうち1～10トレンチの東西面と11～15トレンチの東面については、2 B・C調査区で打設した鋼矢板をそのまま土留めに再利用した。一方11～15トレンチの西面については、隣接するトレンチの調査結果により基盤層までの深さが1 m程度であることがわかったため、斜面による土留めとなった。また16トレンチについては、隣接する地区の遺構検出面が深い位置にあることが予測できているため、鋼矢板による土留めをおこなった。

5 A調査区は整備地区の南中央に位置し、東は大阪府中央体育館、西は大阪府立東中学校にはさまれている。両者共に大阪府文化財協会による調査がおこなわれ、前者からは江戸時代の武家屋敷・豊臣前期の大名屋敷が発見されている。敷地の中央部は旧営林局舎の地下室および基礎で削平されており、またその周囲も同舎建築に際しておこなわれた掘削工事により削平されている。面積は3219.1㎡である。なお全体の地形は概ね平坦であるが、北東部に谷地形をもち、西部は上町台地の西斜面として緩やかに下降している。面積は2562.1㎡である。

5 B調査区は整備地区のほぼ中央に位置し、東は5 C、南は3 A調査区に接する。面積は2399.5㎡である。試掘により、調査区の北は11層までの深さが2 m程度、南は深さ8 m程の3 A調査区に接していることがわかったため、3 A調査区に近い幅約8 mの部分については切梁工法による土留めを、その北側については一方が自立、一方がアースアンカーによる土留め工法をとった。

6 A調査区は5 B調査区の北に位置し、東は4 A調査区、北は2 C調査区に接する。掘削土の仮置き場と調査前の調整により、北から分割してトレンチを設定した。地形は概ね平坦である。

なお紙数の関係で詳述することができなかったが、5 C調査区は面積は1758.3㎡である。

2、正報告書作成の方針とその仕様について

平成2年から6年間にわたり調査されてきた延べ調査面積は11万8261㎡、遺構数は1万以上、撮影枚数は6×7サイズで約2万枚、出土遺物の登録番号は19381であり、それより推定される遺物の総破片数は50万点を越える。これらの成果の一部についてはさきにあげた調査概要1～6と図録1～5で既に年度毎に公開してきたが、当然ながら遺構の総合化と、とくに木製品と三の丸築造以前の一括資料の整理が不足していた。

そこで本書では、限られた作業延べ時間の中、これらの膨大なデータに対し、現状の研究課題に対し、十分ではないが不足することのない事実報告の完了をめざし、1 A～6 Aの全ての調査区を大きく以下の5時期に分けて編集し、各時期の特徴を示す遺構を軸に、その説明をおこなうこととした。

第1期・・・徳川氏による大坂城再築後（基本的に後述の第4層上面）

第2期・・・大坂夏の陣集結後、徳川大坂城再築直前（第5層除去後に現れる畑などの耕作面）

第3期・・・三の丸築造以降、大坂夏の陣直前（いわゆる豊臣後期または三の丸期）

第4期・・・豊臣大坂城築造以降、三の丸築造直前（いわゆる豊臣前期または惣構期など）

第5期・・・豊臣大坂城築造以前（古代を含む）

これまでの概要報告で述べてきたように、これらの時期区分は当該調査区を通じて確認できる膨大な盛土層を基準としている。ところが最も南に位置する5A調査区ではそれらの盛土層がみられず、厳密な層位関係において、それ以外の調査区と共通して扱うことができない状況にある。そこで本書では、5A調査区については調査区内での遺構の先後関係はあるものの、それをそのほかの調査区と連動させることは止め、便宜的には第3期に該当する節に属させてはいるが、それらと切り離して第2期～第4期を区分することなく説明することにした。さらにこれは5A調査区の遺物についても同様であるため、5A調査区の遺物は、本来三の丸築造以前の時期に属するものであったとしても、一部を除き便宜的に、

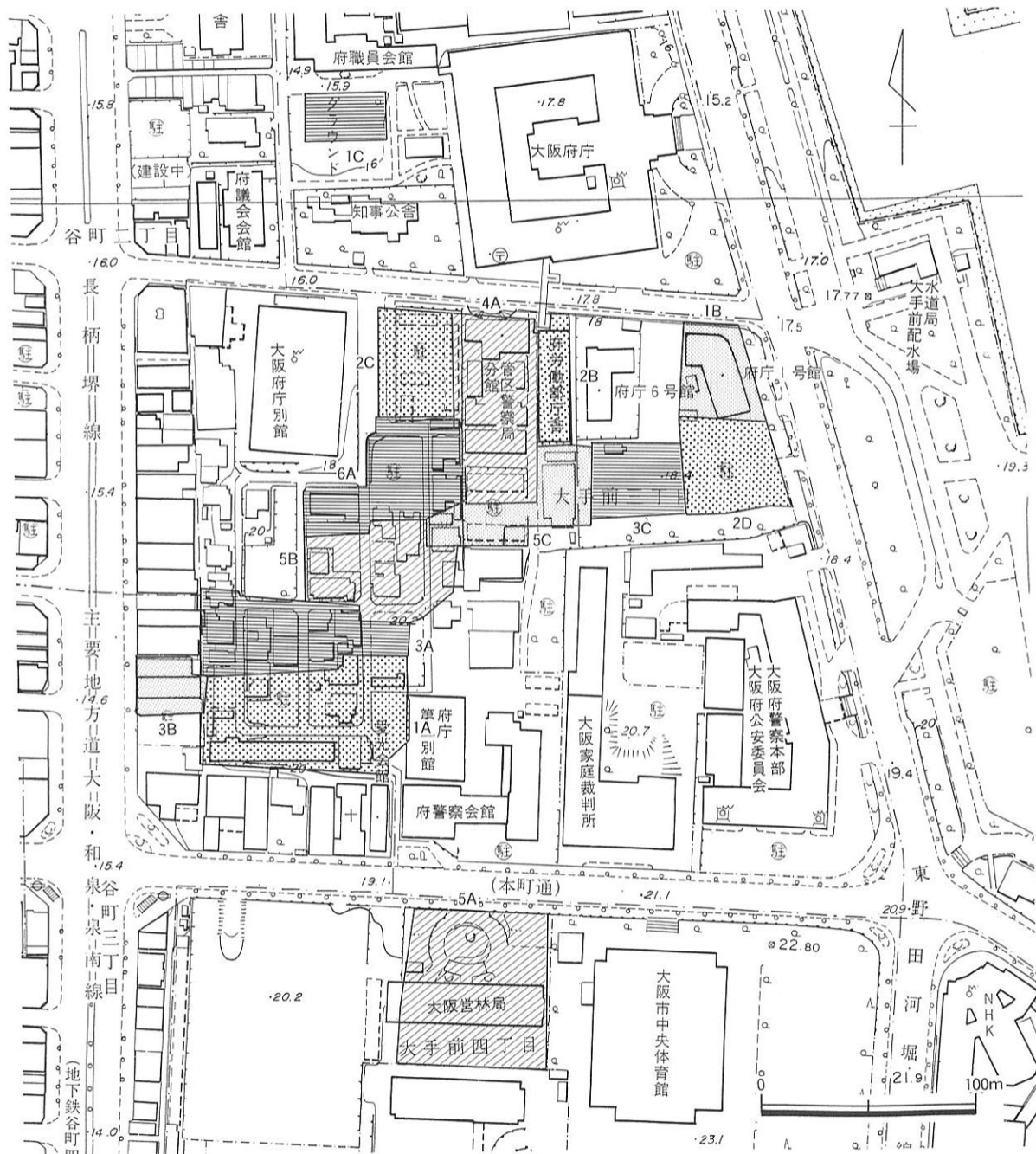


図6 調査区的位置

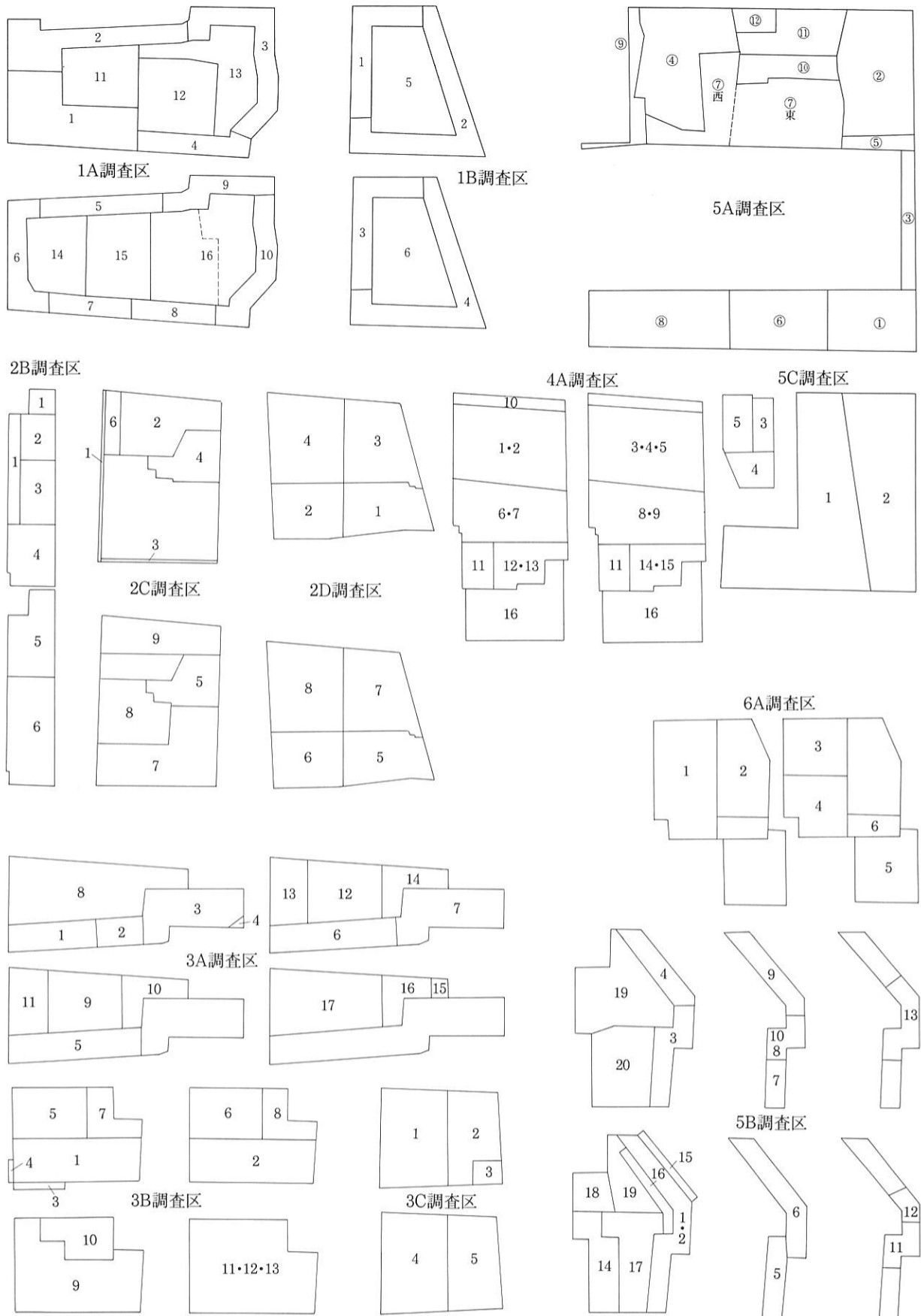


図7 トレンチ配置図

三の丸築造以後の説明の中で触れられることになっている。ご了承いただきたい。

遺構の説明については、これらの条件を前提として、各時期の最初に全ての調査区を統合した遺構配置図をインデックスとして設け、この図に概要報告に掲載している遺構とその後の整理で報告されることになった遺物を出土した遺構を優先し、それらに通し番号を付与している。個々の遺構の名称・国土地座標・深さについてはこの図に続く表を参照されたい。また遺構の説明は、おおむね井戸・溝・土坑・ピット・その他の順としているが、多少の前後はある。

さらに紙数の関係で概要報告に提示しながら非掲載となった遺構と、部分的な遺構配置の詳細図もある。その大部分は現時点での当該遺跡研究に支障となるものではないと考えるが、その一部が将来屋敷地の内部構造の解明に障害となる可能性も否定はできない。その意味で本書は、厳密にはこれまでの概要報告の全てを網羅し、それを更新したものとは言えず、研究者各自の問題意識において、必要に応じた概要報告との併用はおこなっていただきたい。

加えて概要報告にも本書にも掲載しきれないデータは、各種の図面として膨大に蓄積されている。本書の刊行によって遡及される問題に対して、これらのデータの活用方法が今後の課題として残されている。そしてもちろんこの問題が遺構図面だけに留まるものでないことは言うまでもない。

遺物については、これまでの概要報告の中で、とくに木製品と三の丸築造以前の一括資料が不足していたため、公開してきたデータの編集に加え、平成9年度の前半で漆器および木製品の実測（534点）を、後半では三の丸築造以前の一括資料（293点）の実測を集中的におこない、これを補った。

なおこれらの遺物の内、土器・陶磁器・漆器類の掲載は、共伴関係と、とくに出土状況を重視する観点から、原則的に井戸・溝・土坑・建物関連などの順としている。

またそれと同じ視点により、大坂夏の陣の焼土の整地層と考える6 a層と、その上に堆積している徳川大坂城築造に際しての盛土（5層）の狭間で検出された遺物（5・6層）については、調査者による無意識の選別を避け、遺物に帰属する時期の厳密性を高めるために、全て5層の形成された1629年までに現位置を離れたものとして、豊臣期ではなく、それ以降の時期の出土状況あつかいとした。第1期として掲載している遺物に、豊臣期の遺物が多く含まれているのは、その理由による。

なお遺構の部分で述べたような公開できるデータ量の物理的な限界をできるだけ軽減するために、本書では原則的に遺物個々の煩雑な説明は避け、データリストとしての観察表を多く作成した。これにより図化できなかった遺物についても、写真または法量および分類の特徴などにより、最低限の情報は公開できたものとする。これらが第3章-2-(6)の各表にあたる。

文章については、第1章の位置と環境が小林和美、第2章Iの調査に至る経緯が赤木克視、第3章-2-(4)-B-aの内、基盤層直上で検出され、明らかに豊臣期でも古い段階あるいはそれ以前に遡る可能性も考えられる5 A土器群については福岡正春が、各時期の金属製品と羽口については新海正博が執筆し、下駄と焼塩壺の分類については佐藤友美が鋤柄を補助した。

そしてそれ以外の全ての文章の編集は鋤柄がおこなった。ただし概要報告での内容に異同の無い場合は、遺構・遺物共にできるだけそのデータを再録することに努めたため、本来の執筆分担についてはそれぞれの時点の概要報告に遡るのが望ましいだろう。

これにより、6年間におよぶ発掘調査すべてのデータを網羅できたわけではないが、本書は現時点で求められる当該時期の研究に対し、この時期最大量の情報を提供できたものとする。

第3章 調査成果

I 考古学的調査

1、層序

(1) 基本層序

大坂城跡の層序の特徴は盛土の繰り返しによる造成の歴史に表現される。そこで層序の整理においては、複数確認される遺構面および生活面を、その時代の基盤層とされた盛り土（b層）と、生活面上に堆積した層（a層）（ここでは、流水などで形成された二次的な包含層ではない当時の生活の過程で形成された、という意味で「生活包含層」という用語を用いた。）の二層一組で考えることにしている。

ただし、8層については造成の規模が小さく、上記2層の峻別が実際には不可能な場合が多いため、9層については当初規定した時代区分に対して、他地区の調査でそれを細分する層が確認されたため、これらの記号をそれぞれの層の細分についても用いている。

以下に述べる基本層序は、上記の条件をふまえた上で、平成2年度におこなわれた1A調査区の堆積状況をモデルに、時期的な属性を加えて編集したものである。

1層 現代の盛土。層厚は約0.5～1mである。

2層 明治後半から昭和初期の包含層と考える。層厚は約0.5mである。

3層 江戸時代後期から幕末期の包含層。層厚は約0.5mである。

4・5層 前述の整地層および盛土である。4層上面が江戸時代後期の遺構検出面である。このうち4層は生活基盤層として土質も安定しており、比較的遺物の包含も認められる。5層は無遺物状態に近く土質も軟弱な状況を目安とした。1・3A調査区などでは層厚は3～5mであるが、5A調査区では西端の谷肩部でのみ明確に確認され、5C調査区では東部の傾斜面などで部分的に確認されたのみである。なお1A調査区の西端は、この盛土による段差がそのまま残され、現在もその一部は石垣として見ることができる。

6層 基本的に焼土（a層）と盛り土（b層）を一組にした構成からなるが、全ての調査区で明瞭なa層が検出されるわけではない。ただし、5A調査区では3層を除去した段階で複数の焼土混じりの整地層および盛り土層が確認され、これを当該層および7層に相当させた部分もある。いずれも層厚はおおむね0.1～0.2mである。

7層 基本的に生活包含層または焼土（a層）と盛り土（b層）を一組にした構成からなる。いわゆる三の丸築造による盛土で層厚は

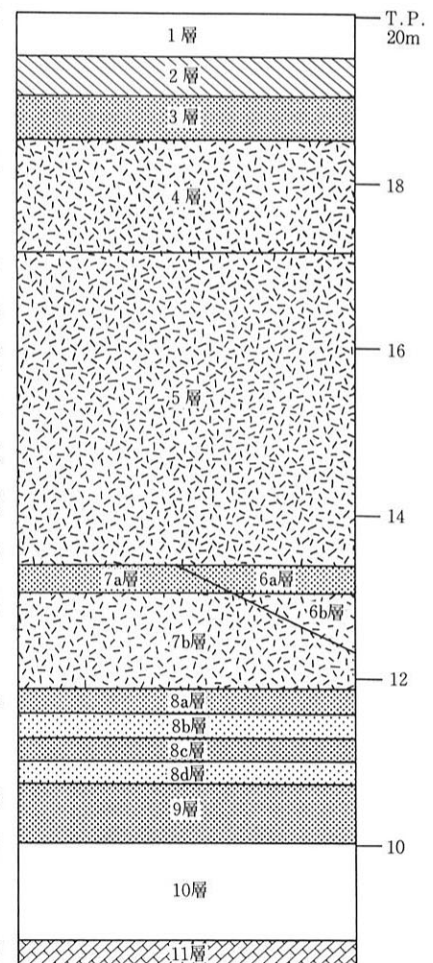


図8 基本層序模式図

1 m程である。5 A 調査区では焼土混じりの盛土が相当すると考えられる。

8層 豊臣前期を構成する層として、3 A 調査区では a (新) または黄褐色砂層・ a・b・c 層 (2 B 調査区は d 層まで) に分層した。ただし傾斜地形により、各層の全てが全体に認められるわけではなく、逆に谷底部にあたる 3 B 調査区では部分的により細分されるところもあった。層厚は 0.1~0.3m である。

5 A 調査区で複数の焼土混じりの整地層および盛土層として確認している。

9層 1・3 A 調査区では谷の包含層として確認された。2 B 調査区の堆積にならい、おおむね a (中世)、b (平安) c (7・8 世紀) 層の細分をおこなっている。5 A 調査区では 1・6・8 トレンチを中心とした基盤層上面で a・c 層が確認されている。

10層 6 世紀後半を中心とした包含層としている。

11層 基盤層。

(2) 調査区毎の層序概要

A、1 A 調査区

調査区西端に石積みが築かれているが、その掘り方には明治期の遺物が含まれており、その時期を知る手がかりになる。3 層は 18 世紀後半から幕末の遺物を含む層であり、調査区西端には石垣などの施設をもたない。調査区全面に分布する。4 層は江戸期の整地層である。場所により差はみられるが、層厚は 1 m 前後を測る。5 層は層厚 4.5 m の盛土である。

6 層は焼土の整地層および生活包含層とその基盤層である。焼土の整地層は調査区の西北を中心に検出された。7 層は調査区の北西部と 10 トレンチで、谷の埋土を基盤層として確認された。8 層は 10 トレンチでその上面を検出し、礎石群とあわせて屋敷 1 とした。なお 10・と 6 トレンチの谷斜面および、14・

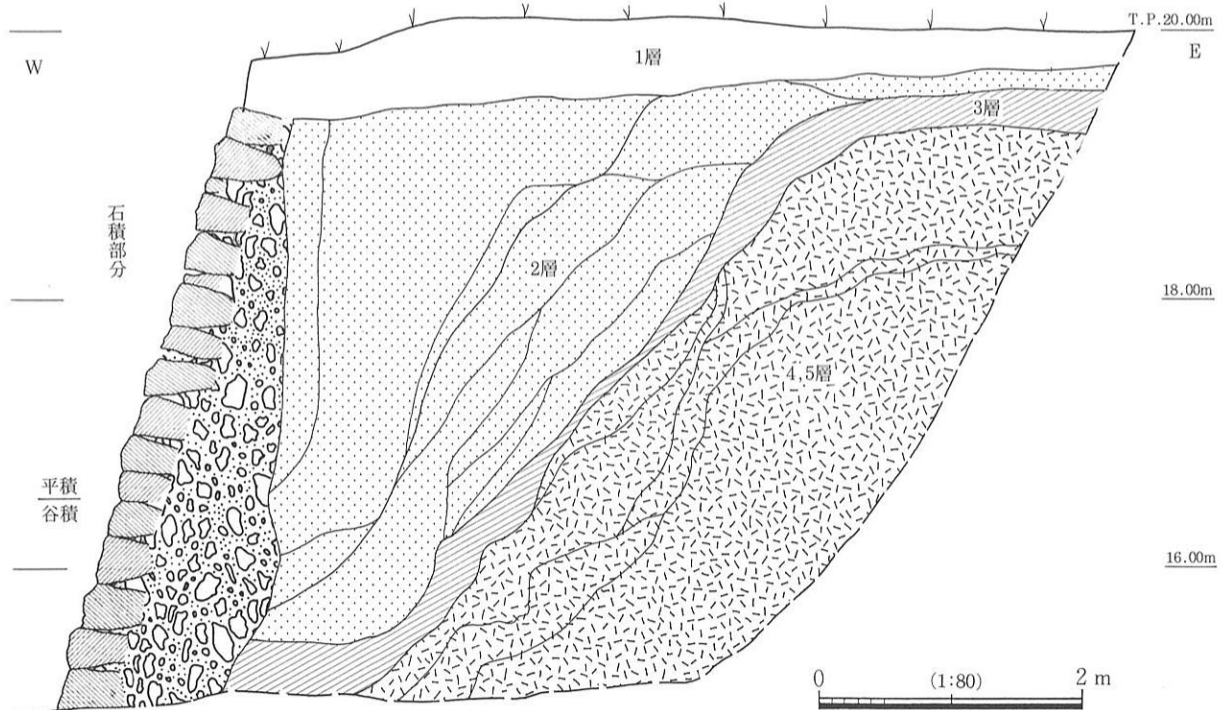


図9 1 A 調査区東西縦断面図

15トレンチの谷に近い基盤層上面の窪み部分から9・10層も検出されている。

B、2D調査区

1・2層は明治期以降の層と考えられ、層厚は0.5～1m前後を測る。両層ともに軟弱な砂混じり粘土およびシルトであり、礫・材・瓦などを不均一に含んでいる。盛土または整地によるもので、遺構は検出されなかった。3層は江戸時代後期～明治初期と考えられる。層厚は0.5m前後である。やはり礫・材・瓦などを不均一に含む粘土およびシルト層である。砂混じりシルトを基調とした比較的安定した層（4層）を基盤層として、土坑・溝などが検出されている。4層は層厚が約1mほど、さらにその下にシルト、粘土のブロックがランダムに含まれる5層（層厚2～3m）が認められる。

5層除去後の状況は、調査区の東西で大きく二分される。

西半部は北側で砂層と11層のブロックを含む6b層、南側で比較的安定した11層のブロックを含む6b層がみられ、いずれもこれらが堀の埋土となっている。堀は11層を基盤とし、下層に黒色粘土と砂層からなる7層および暗灰色シルトの8層をもつ。堀埋土である6b層からの遺物の出土は僅少であり、遺物は主に7層上面および7層内から出土し、わずかに8層中からも確認されている。

東半部は北側で均一な砂層（層厚1m前後）が見られる部分、南側で複次堆積の砂層がみられる部分もあったが、大半は不整形な起伏を呈して直接11層に達している。

C、3A調査区

1～5層はこれまでの調査区と同様である。

6層は調査区の南西隅のみで確認された。溝17の埋土の一部であり、上面に焼土（a層）が堆積し、b層上面では礎石の抜き取り痕跡がみられた。7層は全面で確認された。a層は北部で焼土を整地した層が広がり、南部は黒色シルトの生活包含層となっている。概ね平坦な地形である。なおb層の厚さは約2mである。

8層はa～cの3層に分けられる。ただし北から南へ下がる傾斜地形を呈するため、調査区の北側ではa層のみの確認となり、調査はa層上面およびa層掘削後の11層上面の2面となっている。また調査区の南半部ではa層の上に黄褐色砂層と黒色粘土が堆積しており、遺構は黄褐色砂層の上面からも確認されている。なお中世期に比定できる9層上面の段階で調査区の中央部に東西方向にはしる段があり、その南側の低地を埋め立てることにより平坦面を拡張していった状況が、c層～黄褐色砂層の堆積の状況により観察される。

9層は大きく平安時代以降と奈良時代の層に分けられる。前者の遺構は確認されなかったが、後者は土器溜りとして生活面を調査することができた。

10層は特に調査区の東端で南東へ下降する斜面肩部で確認された。6世紀後半を中心として、鍛冶炉・土器溜りなどが検出されている。

D、3B調査区

1・2層は近代以降の盛土であり、地表面から約0.8mで3層に達する。江戸時代後期～幕末の遺物を含む3層は当該調査区で焼土層として検出された部分が多い。今後火災記録との対照が必要とされる。なお3層の層厚は約0.2mである。

基本層序で4・5層としたもののうち、本調査区では一括盛土である5層が大半を占め、江戸期の整地層である4層はほとんど確認されなかった。層厚は約1.5mである。

6層は火災整地層である6a層と盛土の6b層から構成される。6a層は調査区北東部にあたる池状

遺構（池1）の堆積部分以外はすべて確認された。6 b層は黄褐色のシルトを基調とし層厚0.5m程で池状遺構以外に堆積している。なお南端の部分は6 a層を除去した時点で奈良時代の包含層（10層）および11層がみえる。

7層は池1を形成する石垣の基盤層となっているもので、7 a層が褐色シルト、7 b層の大半は明褐色の細砂層、一部は粘土・シルトのブロックから構成される盛土となっている。ただし、7 a層は層厚が0.1m未満と薄く、確認された範囲も全面ではなかった。今回は調査区東部で検出された瓦組導水管、点在する礎石と柱痕跡によりその存在を知ることができた。なお7 b層の層厚は1.5mである。

8層はa～d層に細分され、一部はさらに細かな堆積を示す部分もあった。8 a層は、調査区北よりでは7 b層掘削後に現れる黒色粘土の下に、南よりでは7 b層除去直下にあらわれる。黒褐色シルトを基調とし、層厚は0.1～0.2m程である。8 b層以下は、各面の基盤層である盛土（いずれも層厚は0.1m未満）を除去することによって確認し、設定していった。

9・10層は青灰色シルトを基調として谷部の流路を含む。層厚は谷の中心に近い部分が最大で約1.4mを測る。

E、4 A 調査区

1～4・5層の状況は全トレンチにおいて共通する。1・2層は明治期以降の層と考えられ、層厚は0.5～0.8m前後を測る。両層ともに基本的に軟弱な砂混じりシルトであり、礫・材・瓦などを不均一に含む。2層の一部にはコクス殻が厚さ5cm程度敷き詰められている。盛土または整地によるもので、2層上面で昭和初期の土坑が数基検出された。3層は幕末～明治初期と考えられる。層厚は0.1～0.2mを測る。堅く締まった青灰色の砂混じりシルト層である。砂混じりシルトを基調とした比較的安定した層（4層）を基盤として溝・土坑が多数検出された。4層は層厚が0.2～0.3mである。5層は明確に4層と分けることができなかったが、4層の下に粘土・シルトのブロックが含まれる層があり、これを5層とした。

6層は調査区の南側の一部でのみ確認できた。炭を多量に含む青灰色粘土および砂混じりシルトである。6層特有の焼土層は見られない。この層は地山上の自然の窪みを埋めるかたちで堆積したものと考えられる。層厚は0.1～0.3m程度である。

9層は調査区の北側の一部で確認できた。検出された範囲も2×5m程度であり明瞭な広がり確認できなかった。層厚は0.2mを測る。

基盤層（11層）は西から東、北から南へと緩やかに傾斜するが、ほぼ平坦である。

F、5 A 調査区

北側調査区と南側調査区では堆積状況が大きく異なる。北側は後世の削平が著しく、全体的に基盤層までの堆積は薄い。一方、南側（特に南西側）では非常に厚い堆積が認められ、結果として多くの遺構面が確認されることとなった。

1～2層は全トレンチで見られる。近現代の整地層である。3層は江戸後期～幕末頃の焼土層で、北側の一部と南側の東部にのみ確認できる。4～5層は江戸時代の整地層である。ほぼ全トレンチで確認できるが、明瞭ではない。6～8層は豊臣期の整地及び包含層である。これらは南調査区を中心に検出され、北側では部分的に残る程度である。9層は中世～古代の包含層で南調査区を中心に検出された。北側にも僅かに分布する。なお基盤層は東から西・北から南に向け緩やかに傾斜する。

G、5 B・6 A 調査区

谷部と丘陵部が確認され、6 A 調査区の全面と 5 B 調査区の北半を占める丘陵部分では、後世の削平が著しく、全体に基盤層までの堆積は薄い。一方、5 B 調査区の南半にあたる谷部分では、3 A～1 A 調査区につながる厚い堆積が認められた

1～2層は全域でみられた。近現代の整地層である。3層は江戸後期～幕末頃の焼土・炭を含む整地層である。丘陵部の中央から南側で確認できる。4～5層は江戸時代の整地層である。全域で確認でき、特に谷部では非常に厚い堆積をみせる。6～8層は豊臣期の整地及び包含層である。これらは丘陵部南側から谷部を中心に確認された。なお、丘陵部北側では4～8層の遺存状況は良好でない。9～10層は中世～古代の包含層でほぼ全トレンチで検出された。特に谷部での堆積は厚く遺物の包含量も多い。基盤層は丘陵部で東から西・北から南に向け緩やかに傾斜し、南側に広がる谷部の肩より急激に落ち込む。

表3 調査区南北縦断面土層1

| | | | |
|----|---|-----|--|
| 1 | 2.5Y5/1 黄灰色 粗砂混じりシルト(礫多く含む) | 61 | 10Y R4/2 灰黄褐色 砂混じりシルト(須恵器・土師器・炭を多く含む) |
| 2 | 10Y R8/6 黄褐色 粗砂混じりシルト | 62 | 10Y R6/6 明黄褐色 砂混じりシルト・粗砂の互層 |
| 3 | N5 灰色 粗砂混じりシルト(炭・焼土を多く含む) | 63 | 10Y5/2 オリーブ灰色 粗砂混じりシルト |
| 4 | 10Y R6/3 にぶい黄褐色 シルト(炭を僅かに含む) | 64 | 10Y5/1 灰色 砂混じりシルト(溝埋土) |
| 5 | N6 灰色 シルト | 65 | 10Y3/1 オリーブ黒色 粗砂混じりシルト |
| 6 | 10Y R6/1 褐灰色 砂混じりシルト(須恵器・土師器を含む) | 66 | 8 a層 |
| 7 | 2.5Y6/1 黄灰色 砂混じりシルト | 67 | 5Y5/3 灰オリーブ色 砂混じりシルト(炭を僅かに含む、8 b層) |
| 8 | 5Y6/2 灰オリーブ色 粗砂混じりシルト | 68 | 10Y6/1 灰色 粘土(炭含む) |
| 9 | 10Y R5/3 にぶい黄褐色 砂混じりシルト(須恵器・土師器を含む) | 69 | 7.5Y5/2 灰オリーブ色 粗砂混じり細砂(1~5 cm大の礫・シルトブロックを含む、下層に植物遺体あり) |
| 10 | 10Y R5/2 灰黄褐色 粗砂混じりシルト | 70 | 5Y4/1 灰色 粗砂混じり細砂(土器片を多く含む、pit埋土) |
| 11 | 5Y5/1 灰色 粗砂 | 71 | 10Y7/1 灰白色 砂混じりシルト |
| 12 | 10Y R5/2 灰黄褐色 粗砂混じりシルト(小礫を多量に含む) | 72 | 7.5Y5/1 灰色 細砂・シルト(溝埋土) |
| 13 | 7.5Y R4/1 褐灰色 砂混じりシルト(焼土塊・小礫を含む) | 73 | 2.5Y5/3 黄褐色 粗砂混じり細砂(土器片・炭を含む) |
| 14 | 10Y R6/6 明黄褐色 砂混じり粘土 | 74 | 2.5Y5/4 黄褐色 中砂混じり細砂(1 cm大の礫・土器片・炭を含む) |
| 15 | 10Y R5/2 灰黄褐色 粗砂混じりシルト(小礫・瓦を含む) | 75 | 2.5Y4/2 暗灰黄色 粗砂混じり細砂(炭・土器片・鉄滓を含む) |
| 16 | 7.5Y R7/8 黄褐色 粗砂 | 76 | 7.5Y R5/8 明褐色 砂混じりシルト |
| 17 | 10Y R5/1 褐灰色 シルト | 77 | 10Y R5/2 灰黄褐色 砂混じりシルト |
| 18 | 10Y R4/1 褐灰色 粗砂混じりシルト | 78 | 2.5Y5/6 黄褐色 砂混じり粘土 |
| 19 | 10Y R5/1 褐灰色 砂混じりシルト | 79 | 2.5Y7/6 明黄褐色 砂混じり粘土 |
| 20 | 7.5Y R4/3 褐色 シルト | 80 | 10Y R5/6 黄褐色 砂混じりシルト |
| 21 | 10Y R6/8 明黄褐色 砂混じり粘土 | 81 | 2.5Y6/6 明黄褐色 砂混じり粘土 |
| 22 | 10Y R5/1 褐灰色 砂混じりシルト(瓦・焼土・炭を含む) | 82 | 10Y R7/6 明黄褐色 粗砂混じりシルト |
| 23 | 7.5Y R7/8 黄褐色 粗砂 | 83 | 2.5Y4/4 オリーブ褐色 砂混じりシルト |
| 24 | 10Y R7/4 にぶい黄褐色 砂混じりシルト | 84 | 7.5Y R6/6 橙色 砂混じりシルト |
| 25 | 10Y R5/6 黄褐色 砂混じり粘土 | 85 | N5 灰色 粘土 |
| 26 | 7.5Y R6/8 橙色 砂混じり粘土 | 86 | 10Y5/2 オリーブ灰色 粘土 |
| 27 | 7.5Y R7/8 黄褐色 粘土 | 87 | 5Y5/1 灰色 粗砂(薄く粘土を含む) |
| 28 | 2.5Y5/2 暗灰黄色 砂混じり粘質シルト | 88 | 5Y R5/6 明赤褐色 強く締まった砂質土(細砂・粘土ブロックを多く含む) |
| 29 | 5Y7/3 浅黄色 砂混じり粘質シルト(炭を僅かに含む) | 89 | 2.5Y5/3 黄褐色 強く締まった砂質土(3 cm大の礫を含む) |
| 30 | 10Y R5/1 褐灰色 砂混じりシルト(10Y R8/2灰白色細砂ブロック・微量の炭を含む) | 90 | 2.5Y8/6 黄色 シルト・細砂の互層(上層)、粗砂(下層) |
| 31 | 2.5Y6/4~6/6 にぶい黄色~明黄褐色 砂混じりシルト | 91 | 5Y8/6 黄色 強く締まった砂質土・粗砂 |
| 32 | 10Y R6/6 明黄褐色 強く締まった砂混じりシルト | 92 | 10Y R3/1 黒褐色 強く締まった砂質土・粗砂 |
| 33 | 2.5Y5/4 黄褐色 細砂混じりシルト | 93 | 2.5Y4/2 暗灰黄色 強く締まった砂質土・粗砂 |
| 34 | 7.5Y R6/6 橙色 砂混じり粘質シルト | 94 | 5Y3/1 オリーブ黒色 砂質土 |
| 35 | 10Y R5/1 褐灰色 砂混じりシルト | 95 | 5Y3/2 オリーブ黒色 強く締まった砂質土(粘性無) |
| 36 | 2.5Y5/3 黄褐色 細砂混じりシルト(細砂主体) | 96 | 7.5Y3/2 オリーブ黒色 粘質土(大型の礫や瓦を多く含む) |
| 37 | 10Y R4/3 にぶい黄褐色 シルト(焼土を含む) | 97 | 7.5Y7/2 灰白色 砂質土(中粒砂が主体) |
| 38 | 10Y R3/2 黒褐色 シルト | 98 | 7.5Y4/2 灰オリーブ色 粘質土(上部で粗砂混じる) |
| 39 | 10Y R6/8 明黄褐色粗砂・10Y R4/3にぶい黄褐色シルト | 99 | 7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘質土(粘質弱、中粒砂を含む) |
| 40 | 10Y R4/2 灰黄褐色 シルト | 100 | 10Y4/1 灰色 中粒砂 |
| 41 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト | 101 | 7.5Y6/1 灰色 細砂(粘土薄く含む) |
| 42 | 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト | 102 | 5Y4/2 灰オリーブ色 粘質土(粘性弱、中粒砂を含む) |
| 43 | 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト | 103 | 5Y4/3 暗オリーブ色 粘質土(粘性弱、中粒砂を含む) |
| 44 | 2.5Y4/1 黄灰色 シルト | 104 | 7.5Y5/2 灰オリーブ色 粘質土(粗砂を含む) |
| 45 | 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト | 105 | 7.5Y4/2 灰オリーブ色 砂質土 |
| 46 | 10Y R4/6 褐色 シルト | 106 | 5Y4/3 暗オリーブ色 粘質土(細砂を含む) |
| 47 | 10Y R5/2 灰黄褐色 中粒砂混じり細砂(小礫を含む) | 107 | 10Y R4/4 褐色 粒質土(中粒砂を含む) |
| 48 | 10Y R4/3 にぶい黄褐色 細砂(直径5 mm程度の小礫を含む) | 108 | 10Y4/2 オリーブ灰色 粘質土(粗砂を含む) |
| 49 | 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 中粒砂混じり細砂(径0.5~1 cm程度の小礫・土師器を含む) | 109 | 2.5Y5/3 黄褐色 強く締まった砂質土 |
| 50 | 10Y R8/8 黄褐色 シルト混じり細砂(10GY7/1明緑灰色シルトブロックを含む) | 110 | 5Y4/3 暗オリーブ色 粒質土(粘性がやや強い) |
| 51 | 5Y4/1 灰色 粗砂混じりシルト(10GY7/1明緑灰色粘土ブロックを含む) | 111 | 10Y6/2 オリーブ灰色 細砂(粘性がある) |
| 52 | 7.5Y R6/8 褐色 非常に強く締まった粘土(小礫を多く含む) | 112 | N3 暗灰色 粘質土(大型礫・瓦を含む) |
| 53 | 7.5Y R5/6 明褐色 粗砂混じりシルト(瓦を含む) | 113 | 2.5Y5/3 黄褐色 砂質土(中粒砂が主体) |
| 54 | 5Y5/3 灰オリーブ色 強く締まったシルト | 114 | 2.5Y7/6 明黄褐色 粗砂(部分的に粘土を含む) |
| 55 | 10Y R5/6 黄褐色 粗砂混じり粘土 | 115 | 5B G3/1 暗青灰色 粘土 |
| 56 | 10Y R3/4 暗褐色 細砂混じりシルト(7.5Y R6/8橙色細砂混じりシルトブロックを含む) | 116 | 5Y5/2 灰オリーブ色 粘質土(中粒砂を含む) |
| 57 | 2.5Y R4/6 赤褐色 細砂混じりシルト | 117 | 7.5Y4/1 灰色 粘質土(青灰色粘土ブロックを含む) |
| 58 | 2.5Y5/3 黄褐色 砂混じりシルト(2.5Y7/4浅黄色粘土ブロックを多く含む、礫が多い) | 118 | 5B G5/1 青灰色 粘土(上部に細砂がのる) |
| 59 | N4 灰色 砂混じりシルト | 119 | 2.5G Y2/1 黒色 中粒砂(やや粘性あり) |
| 60 | 10Y R6/6 明黄褐色 粗砂混じりシルト(10Y R6/1褐灰色粗砂混じり粘土を含む) | 120 | 5G4/1 暗緑灰色 細砂 |
| | | 121 | 10G3/1 暗緑灰色 細砂(やや粘性あり) |
| | | 122 | 2.5Y8/6 黄色 強く締まった砂質土・粗砂(木質を含む) |

表3 調査区南北縦断面土層2

| | | | |
|-----|-------------------------------------|-----|---|
| 123 | 7.5Y R7/8 黄橙色 砂・シルト | 191 | 10Y R5/3 にぶい黄褐色 シルト |
| 124 | 10Y R6/3 にぶい黄褐色 粘質土(粗砂・小礫を含む) | 192 | 10Y R4/2 灰黄褐色 シルト |
| 125 | 2.5Y6/3 にぶい黄褐色 砂混じりシルト | 193 | 10Y R6/6 明黄褐色 粗砂 |
| 126 | 2.5Y5/2 暗灰黄色 砂混じりシルト(中粒砂を含む) | 194 | ザラメ |
| 127 | 2.5Y5/2 暗灰黄色 砂混じり粘質土 | 195 | 5Y8/4 淡黄色 粘質土(粗砂を多く含む) |
| 128 | 5Y7/3 浅黄色 砂層 | 196 | 5Y R7/6橙色細砂・7.5Y7/1灰白色細砂の互層(部分的に中粒粗砂を含む)、上層はN5灰色シルト(粘性強い) |
| 129 | 5Y6/1 灰色 シルト(中粒砂を多く含む) | 196 | 焼土盛土 |
| 130 | 10Y R4/1 褐灰色 砂混じりシルト・細砂 | 198 | 7.5Y R3/1 黒褐色 粘土(腐植物含む) |
| 131 | 7.5Y8/1 灰白色 砂層(中粒砂を含む) | 199 | 水平堆積、粘土 |
| 132 | 2.5Y8/2 灰白色 堆積層 | 200 | 粘土 |
| 133 | 砂と粘土の互層 | 201 | 粘土、7.5Y R4/6褐色砂混じりシルトを部分的に含む |
| 134 | 10Y R4/1褐灰色シルト・10Y R6/3にぶい黄褐色細砂の互層 | 202 | 7.5Y6/2 灰オリブ色 シルトブロック・粗砂 |
| 135 | 10Y R6/4 にぶい黄褐色 粗砂(最下部に炭を含む) | 203 | 粘土(細砂・微砂を含む) |
| 136 | 10Y R5/4 にぶい黄褐色 粗砂 | 204 | 7.5Y R4/5 褐色 砂混じりシルト |
| 137 | 10Y R5/3 にぶい黄褐色 粗砂とシルトのブロック | 205 | 10Y R4/1 褐灰色 砂混じりシルト(粘土ブロック・焼土・炭を含む) |
| 138 | 10Y R6/3 にぶい黄褐色 粗砂と腐植物 | 206 | N4 灰色 砂混じりシルト |
| 139 | 10Y R3/1 黒褐色 腐植物 | 207 | 7.5Y5/1 灰色 砂混じりシルト |
| 140 | 10Y R5/3 にぶい黄褐色 シルト | 208 | 7.5Y6/3 オリブ黄色 粗砂混じりシルト(粗砂が主体) |
| 141 | 10Y R5/6 黄褐色 粗砂・ブロック | 209 | 7.5G Y6/1 緑灰色 細砂・シルト・中粒砂・粗砂の互層 |
| 142 | 10Y R4/2 灰黄褐色 シルト | 210 | N5 灰色 砂混じり粘土 |
| 143 | 10Y R4/2 灰黄褐色 シルト(互混じり) | 211 | 7.5G Y4/1 暗緑灰色 木片・炭・焼土灰(粘土ブロックを含む) |
| 144 | 10Y R5/2 灰黄褐色 シルト(土師器含む) | 212 | 7.5Y8/2 灰白色 灰下部に5mm程度の炭層あり |
| 145 | 10Y R4/1 褐灰色 シルト | 213 | 5P B3/1 暗青灰色 砂混じりシルト |
| 146 | 10Y R4/2 灰黄褐色 シルトブロック | 214 | 5P B5/1青灰色シルト・5Y8/2灰白色細砂の互層 |
| 147 | N4 灰色 シルト(土師器含む) | 215 | N5 灰色 砂混じりシルト(植物質含む) |
| 148 | 10Y R5/1 褐灰色 砂混じりシルト(高坏含む) | 216 | 5Y R7/6 橙色 細砂・粗砂・シルトの互層 |
| 149 | 10Y R5/1 褐灰色 シルト | 217 | 10Y R8/2 灰白色 粗砂 |
| 150 | 10Y R6/3 にぶい黄褐色 粗砂 | 218 | 5P B6/1 青灰色 中粒砂・細砂の互層 |
| 151 | 10Y R6/1 褐灰色 細砂・粗砂 | 219 | 5P B6/1 青灰色 砂混じりシルト(鉄分の影響により粘性あり) |
| 152 | 2.5Y5/4 黄褐色 粘土混じり粗砂 | 220 | 10Y6/1 灰色 砂混じりシルト(下部に腐植物土を含む) |
| 153 | 2.5Y3/1 黒褐色 粘土混じり粗砂 | 221 | 5Y4/1 灰色 強く締まった砂混じりシルト(炭・小石含む) |
| 154 | 2.5Y3/2 黒褐色 粘土混じり粗砂 | 222 | 2.5Y5/2 暗灰黄色 砂混じりシルト |
| 155 | 5Y3/1 オリブ黒色 粗砂混じり粘土 | 223 | 5Y4/1 灰色 強く締まった砂混じりシルト(炭・腐植物を含む、下半部は粗砂が見られる) |
| 156 | 7.5Y3/1 オリブ黒色 粗砂混じり粘土 | 224 | 2.5Y5/1 青灰色 砂混じりシルト(炭を含む) |
| 157 | 2.5Y8/4 淡黄色 細砂(7.5Y3/1オリブ黒色粘土を含む) | 225 | 5Y7/4 浅黄色 強く締まった粗砂 |
| 158 | 7.5Y5/1 灰色 粗砂混じり粘土 | 226 | 10G Y6/1 緑灰色 シルト・粗砂 |
| 159 | 7.5Y3/1 オリブ黒色 粘土(2.5Y8/4淡黄色細砂を含む) | 227 | 5Y6/2 灰オリブ色 強く締まった砂混じりシルト |
| 160 | 10Y R3/1 黒褐色 粘土混じり粗砂 | 228 | 10Y R3/1 黒褐色 強く締まった砂混じりシルト |
| 161 | 10Y R5/2 灰黄褐色 粘土混じり粗砂 | 229 | N3 暗灰色 強く締まったシルト |
| 162 | 10Y R2/2 黒褐色 粗砂混じり粘土 | 230 | 10Y6/1 灰色 強く締まった中粒砂(シルトを含む) |
| 163 | 10Y R5/1 褐灰色 粘土混じり粗砂 | 231 | 5Y4/1 灰色 強く締まったシルト |
| 164 | 10Y R3/1 黒褐色 粗砂混じり粘土 | 232 | 2.5G Y8/1 灰白色 中粒砂・粗砂 |
| 165 | 5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土 | 233 | 10G Y7/1明緑灰色シルト(上層)、5R7/1明赤灰色灰(下層) |
| 166 | 10Y R7/3にぶい黄褐色粗砂・10Y R4/1褐灰色粗砂混じり粘土 | 234 | 5Y6/1 灰色 粗砂混じりシルト |
| 167 | 2.5Y8/2 灰白色 細砂(5Y4/1灰色粘土混じり粗砂を含む) | 235 | 5Y5/1 灰色 強く締まった砂混じりシルト(小石を多く含む) |
| 168 | 10Y R4/1 褐灰色 粗砂混じり粘土 | 236 | 2.5Y6/2 灰黄色 強く締まった砂混じりシルト |
| 169 | 10Y R2/1 黒色 粗砂混じり粘土 | 237 | N3 暗灰色 砂混じりシルト(炭・木片を含む) |
| 170 | 2.5Y7/4 浅黄色 細砂 | 238 | 7.5Y8/3 淡黄色 強く締まった粗砂 |
| 171 | 7.5Y5/1 灰色 粘土混じり粗砂 | 239 | 2.5Y4/1 黄灰色 砂混じりシルト(炭・腐植物を含む) |
| 172 | 2.5Y7/2 灰黄色 粘土混じり粗砂 | 240 | 5P B4/1 暗青灰色 砂混じりシルト |
| 173 | 10Y R4/1 褐灰色 粗砂混じり粘土(粘土ブロック含む) | 241 | 2.5G Y4/1 暗オリブ灰色 砂混じりシルト |
| 174 | 2.5Y4/1 灰色 粘土混じり粗砂 | 242 | 5Y8/6 黄色 強く締まった粗砂 |
| 175 | 7.5Y4/1 灰色 粘土混じり粗砂 | 243 | 2.5Y5/1 黄灰色 強く締まった粗砂混じりシルト(木炭を含む) |
| 176 | 5Y4/1 灰色 粘土混じり粗砂 | 244 | 5G Y5/1 オリブ灰色 砂混じりシルト |
| 177 | 2.5Y8/3 淡黄色 細砂 | 245 | 5Y8/2 灰白色 中粒砂 |
| 178 | 2.5Y6/3 にぶい黄色 粗砂 | 246 | 5Y8/3 淡黄色 中粒砂(小石を含む) |
| 179 | 10Y R3/2 黒褐色 粗砂混じり粘土 | 247 | 5Y5/2 灰オリブ色 砂混じりシルト(炭・粘土ブロックを含む) |
| 180 | 10Y R7/2 にぶい黄褐色 粗砂 | 248 | 5Y6/3 オリブ黄色 砂混じりシルト(砂が主体、上面に5mm程度の腐植物層) |
| 181 | 10Y R3/3 暗褐色 粘土混じり粗砂 | 249 | 5Y5/1 灰色 砂混じりシルト |
| 182 | 10Y R5/2 灰黄褐色 粗砂 | 250 | 5P6/1 紫灰色 砂混じりシルト |
| 183 | 10Y R2/2 黒褐色 粗砂 | | |
| 184 | 10Y R2/2 黒褐色 細砂 | | |
| 185 | 5Y7/2 灰白色 粗砂 | | |
| 186 | 5Y2/1 黒色 粘土(5Y7/2灰白色粗砂を含む) | | |
| 187 | 10Y R7/3 にぶい黄褐色 粗砂 | | |
| 188 | 5Y6/1 灰色 細砂 | | |
| 189 | 2.5Y5/2 暗灰黄色 粘土混じり粗砂 | | |
| 190 | 2.5Y8/3 淡黄色 細砂 | | |

表3 調査区南北縦断面土層3

| | | | |
|-----|--|-----|---|
| 251 | 7.5Y4/1 灰色 砂質土(1 cm程度の小礫・微量の炭を含む、やや粘性がある) | 312 | N6 灰色 砂混じりシルト(5GY7/1明オリブ灰色粘土ブロックを含む) |
| 252 | 2.5GY4/1 暗オリブ灰色 粘質土(中粒砂・微量の炭を含む) | 313 | 10YR6/1 褐灰色 細砂・中粒砂・シルトの互層 |
| 253 | 7.5Y6/1 灰色 砂質土(中粒砂が主、僅かに炭を含む) | 314 | 5Y8/2 灰白色 細砂・中粒砂・シルトの互層(小礫・腐植物を含む) |
| 254 | 5Y5/1 灰色 中粒砂(腐植物多い) | 315 | 5GY6/1 オリブ灰色 細砂 |
| 255 | 7.5Y8/2 灰白色 強く締まった中粒砂 | 316 | 5Y5/1 灰色 砂混じりシルト(土器片を含む) |
| 256 | 5GY8/1 灰白色 強く締まった中粒砂(上面に1 cm程度の腐植物層あり) | 317 | N5 灰色 砂混じりシルト(炭化物・小礫を含む) |
| 257 | 2.5Y7/6 明黄褐色 中粒砂 | 318 | 5Y8/2 灰白色 細砂・中粒砂・シルトの互層 |
| 258 | 2.5Y6/4 にぶい黄色 砂混じりシルト(腐植物を含む) | 319 | 10Y5/1 灰色 砂混じりシルト(微砂) |
| 259 | 5R7/1 明赤灰色 灰(炭・腐植物を含む) | 320 | 10BG6/1 青灰色 砂混じりシルト(粘性あり) |
| 260 | 5Y3/1 オリブ黒色 灰(多量の炭化物を含む) | 321 | 7.5GY7/1 明緑灰色 粘土 |
| 261 | 5Y7/6 黄色 粗砂混じりシルト | 322 | 5Y8/1 灰白色 細砂・中粒砂・シルトの互層 |
| 262 | 10Y5/1 灰色 強く締まった粗砂 | 323 | 10Y4/1 灰色 中粒砂混じりシルト(砂が主体) |
| 263 | 5Y7/1 灰白色 粗砂・中粒砂 | 324 | 7.5Y7/1 灰白色 細砂・中粒砂の互層(腐植物含む) |
| 264 | 2.5GY6/1 オリブ灰色 強く締まったシルト | 325 | 2.5Y8/1 灰白色 細砂・中粒砂・粗砂・シルト・礫の互層(鉄滓・土器片を含む) |
| 265 | 5Y8/4 淡黄色 強く締まった中粒砂 | 326 | 2.5Y6/1 黄灰色 中粒砂混じりシルト(腐植物・炭化木を含む) |
| 266 | N4 灰色 シルト | 327 | 7.5Y7/1 灰白色 細砂・中粒砂 |
| 267 | 5Y5/3 灰オリブ色 シルト(炭を含む、粘性あり) | | |
| 268 | 5GY5/1 オリブ灰色 シルト・細砂・中粒砂・粗砂の互層 | | |
| 269 | 2.5Y8/4 淡黄色 中粒砂 | | |
| 270 | N6 灰色 砂混じりシルト | | |
| 271 | 7.5Y7/2 灰白色 粗砂・中粒砂 | | |
| 272 | 5Y8/4 淡黄色 中粒砂 | | |
| 273 | 10YR6/4 にぶい黄褐色 砂混じり粘土 | | |
| 274 | 5YR5/4 にぶい赤褐色 砂混じりシルト | | |
| 275 | 2.5Y6/4 にぶい黄色 砂混じりシルト | | |
| 276 | 2.5Y5/2 暗灰黄色 中粒砂混じりシルト(腐植物多い) | | |
| 277 | 10GY6/1 緑灰色 粗砂混じりシルト(粘土ブロック含む、上面に厚1 cm程度の腐植物層あり) | | |
| 278 | 5YR7/6 橙色 粗砂 | | |
| 279 | 5YR7/6橙色・7.5GY7/1明緑灰色粗砂 | | |
| 280 | 5Y8/3 淡黄色 中粒砂 | | |
| 281 | 5R7/1 明赤灰色 炭混じりの灰 | | |
| 282 | 5GY6/1 オリブ灰色 細砂 | | |
| 283 | N4 灰色 砂混じりシルト(炭を含む、粘性強い) | | |
| 284 | 2.5Y6/3 にぶい黄色 砂混じりシルト(木片を含む) | | |
| 285 | 2.5Y7/3 浅黄色 砂混じりシルト | | |
| 286 | 2.5Y6/1黄灰色~6/4にぶい黄色 砂混じりシルト(砂が主体、粘土ブロックを含む) | | |
| 287 | 2.5Y5/2 暗灰黄色 中粒砂 | | |
| 288 | 2.5Y4/1 黄灰色 強く締まった砂混じりシルト | | |
| 289 | 2.5Y6/4 にぶい黄色 砂混じりシルト | | |
| 290 | 2.5Y7/6 明黄褐色 中粒砂 | | |
| 291 | 2.5Y8/6 黄色 中粒砂 | | |
| 292 | 10Y2/1 黒色 砂混じりシルト(腐植物を含む、粘性あり) | | |
| 293 | 5PB4/1 暗青灰色 砂混じりシルト(粘性弱い) | | |
| 294 | 2.5Y4/3 オリブ褐色 砂混じりシルト(砂が主体) | | |
| 295 | 5Y3/2 オリブ黒色 粘土 | | |
| 296 | 5Y4/1 灰色 中粒砂・粗砂 | | |
| 297 | 2.5Y5/2 暗灰黄色 砂混じりシルト(上部は粘性強い、下部は弱く砂質) | | |
| 298 | 7.5Y2/1 黒色 粘土(腐植物含む) | | |
| 299 | 10Y3/1 オリブ黒色 砂混じりシルト(粘性あり) | | |
| 300 | 5Y4/1 灰色 強く締まった砂質土 | | |
| 301 | 5B5/1 青灰色 砂混じりシルト(やや締まる) | | |
| 302 | 7.5Y6/3 オリブ黄色 中粒砂混じりシルト(砂が主体) | | |
| 303 | 5GY7/1 明オリブ灰色 砂混じりシルト | | |
| 304 | 5B7/1 明青灰色 細砂 | | |
| 305 | 7.5Y7/1 灰白色 中粒砂 | | |
| 306 | 5B7/1 明青灰色 粗砂混じりシルト | | |
| 307 | 5GY7/1 明オリブ灰色 砂混じりシルト(粘性弱い) | | |
| 308 | 5GY7/1 明オリブ灰色 砂混じりシルト(粘性あり) | | |
| 309 | N5 灰色 粘質シルト・砂混じりシルトの互層 | | |
| 310 | N4 灰色 粘質シルト(炭化物含む) | | |
| 311 | 2.5Y5/1 黄灰色 粘質シルト | | |

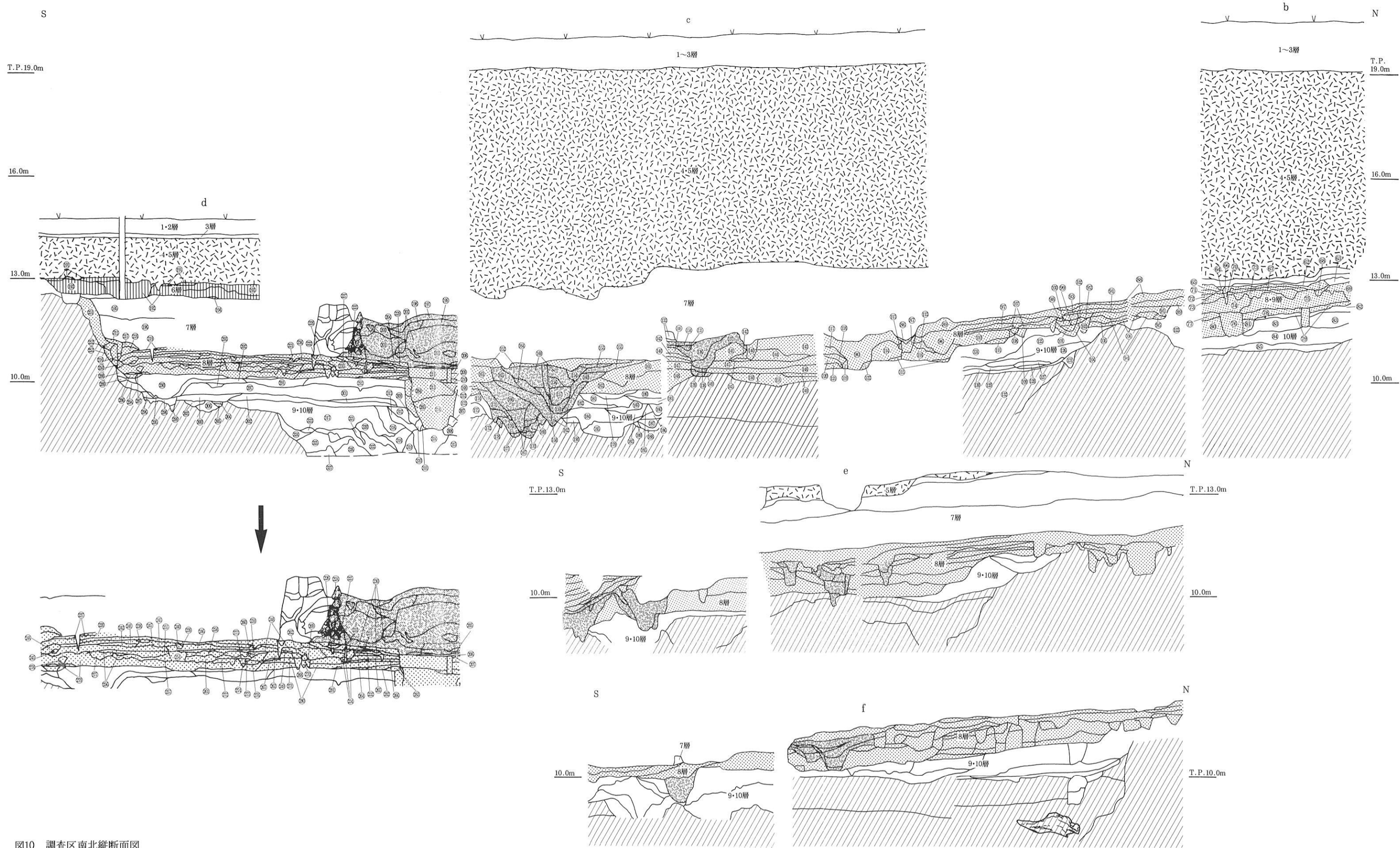
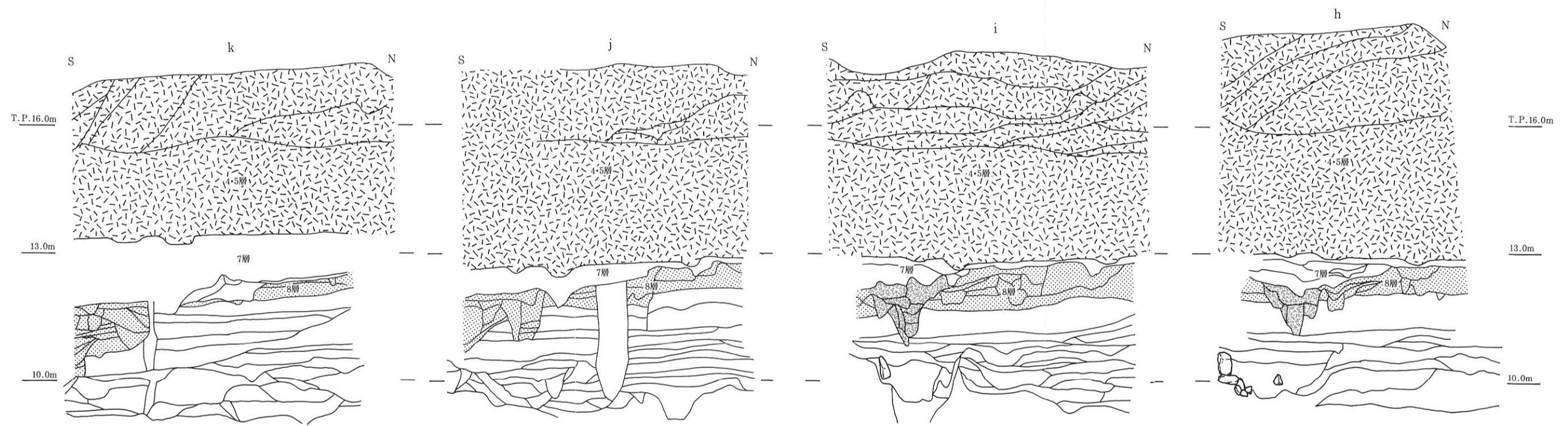


図10 調査区南北縦断面図



2、遺構と遺物

(1) 徳川氏による大坂城再築後



図11 遺構配置図 (5 A 調査区は除く)

表4 遺構掲載番号表(5A調査区を除く)1

| 番号 | 遺構名 | 時期 | X座標 | Y座標 | 深さ | | | | | |
|----|-----------------|----|---------|--------|------|-----|---------------|----|---------|--------|
| 1 | 2C石組 | 近代 | -146061 | -43798 | | 68 | 1A井戸01 | 江戸 | -146258 | -43832 |
| 2 | 3B井戸19 | 近代 | -146215 | -43937 | | 69 | 1A井戸02 | 江戸 | -146256 | -43872 |
| 3 | 4Aピット050 | 近代 | -146069 | -43773 | 0.12 | 70 | 1A井戸03(土坑9) | 江戸 | -146256 | -43897 |
| 4 | 4Aピット188 | 近代 | -146117 | -43761 | 0.22 | 71 | 1A井戸04 | 江戸 | -146233 | -43826 |
| 5 | 4A井戸01 | 近代 | -146060 | -43780 | | 72 | 1A井戸05 | 江戸 | -146245 | -43846 |
| 6 | 4A井戸09 | 近代 | -146127 | -43761 | | 73 | 1A井戸06 | 江戸 | -146243 | -43849 |
| 7 | 4A溝02 | 近代 | -146075 | -43785 | 0.04 | 74 | 1A井戸07 | 江戸 | -146247 | -43890 |
| 8 | 4A溝03 | 近代 | -146075 | -43781 | 0.12 | 75 | 1A井戸09(土坑272) | 江戸 | -146246 | -43860 |
| 9 | 4A溝04 | 近代 | -146075 | -43773 | 0.11 | 76 | 1A井戸16 | 江戸 | -146255 | -43911 |
| 10 | 4A溝05 | 近代 | -146075 | -43767 | 0.13 | 77 | 1A井戸17 | 江戸 | -146247 | -43905 |
| 11 | 4A溝08 | 近代 | -146069 | -43771 | 0.09 | 78 | 1A井戸18 | 江戸 | -146222 | -43886 |
| 12 | 4A溝36 | 近代 | -146094 | -43788 | 0.11 | 79 | 1A井戸19 | 江戸 | -146256 | -43872 |
| 13 | 4A溝38 | 近代 | -146095 | -43770 | 0.07 | 80 | 1A井戸20 | 江戸 | -146243 | -43852 |
| 14 | 4A焼土塊 | 近代 | -146121 | -43768 | | 81 | 1A井戸21 | 江戸 | -146260 | -43847 |
| 15 | 4A土坑012 | 近代 | -146074 | -43784 | 0.31 | 82 | 1A溝01 | 江戸 | -146224 | -43903 |
| 16 | 4A土坑038 | 近代 | -146058 | -43789 | | 83 | 1A溝04 | 江戸 | -146258 | -43846 |
| 17 | 4A土坑217 | 近代 | -146088 | -43787 | | 84 | 1A石組1 | 江戸 | -146255 | -43899 |
| 18 | 4A土坑262 | 近代 | -146111 | -43762 | 1.25 | 85 | 1A石組2 | 江戸 | -146253 | -43886 |
| 19 | 4A土坑263 | 近代 | -146132 | -43759 | 0.20 | 86 | 1A石組4 | 江戸 | -146217 | -43856 |
| 20 | 4A土坑266 | 近代 | -146123 | -43767 | | 87 | 1A石組5 | 江戸 | -146219 | -43855 |
| 21 | 4A道路1 | 近代 | -146065 | -43784 | | 88 | 1A石組6 | 江戸 | -146259 | -43866 |
| 22 | 4A道路2 | 近代 | -146080 | -43770 | | 89 | 1A石組8 | 江戸 | -146236 | -43886 |
| 23 | 4A道路3 | 近代 | -146087 | -43776 | | 90 | 1A土坑002 | 江戸 | -146258 | -43898 |
| 24 | 4A炉1 | 近代 | -146064 | -43793 | | 91 | 1A土坑004 | 江戸 | -146246 | -43893 |
| 25 | 4A炉2 | 近代 | -146087 | -43770 | | 92 | 1A土坑010 | 江戸 | -146246 | -43886 |
| 26 | 4A炉3 | 近代 | -146109 | -43770 | | 93 | 1A土坑016 | 江戸 | -146248 | -43871 |
| 27 | 5Cピット017 | 近代 | -146129 | -43750 | 0.19 | 94 | 1A土坑03 | 江戸 | -146244 | -43900 |
| 28 | 5Cピット020 | 近代 | -146135 | -43752 | | 95 | 1A土坑038 | 江戸 | -146221 | -43873 |
| 29 | 5Cピット021 | 近代 | -146135 | -43755 | 0.19 | 96 | 1A土坑042 | 江戸 | -146218 | -43889 |
| 30 | 5Cピット022 | 近代 | -146135 | -43754 | 0.25 | 97 | 1A土坑043 | 江戸 | -146218 | -43874 |
| 31 | 5Cピット025 | 近代 | -146138 | -43753 | 0.21 | 98 | 1A土坑044(土坑45) | 江戸 | -146226 | -43857 |
| 32 | 5Cピット026 | 近代 | -146141 | -43752 | | 99 | 1A土坑046 | 江戸 | -146215 | -43859 |
| 33 | 5Cピット027 | 近代 | -146124 | -43753 | 0.13 | 100 | 1A土坑047 | 江戸 | -146217 | -43882 |
| 34 | 5Cピット028 | 近代 | -146122 | -43752 | | 101 | 1A土坑048 | 江戸 | -146216 | -43886 |
| 35 | 5Cピット034 | 近代 | -146148 | -43749 | 0.49 | 102 | 1A土坑049 | 江戸 | -146247 | -43829 |
| 36 | 5Cピット035 | 近代 | -146144 | -43751 | 0.39 | 103 | 1A土坑051 | 江戸 | -146219 | -43848 |
| 37 | 5Cピット037 | 近代 | -146130 | -43741 | 0.12 | 104 | 1A土坑052 | 江戸 | -146262 | -43833 |
| 38 | 5C井戸4 | 近代 | -146128 | -43744 | | 105 | 1A土坑053 | 江戸 | -146262 | -43837 |
| 39 | 5C溝01 | 近代 | -146140 | -43768 | 0.22 | 106 | 1A土坑055 | 江戸 | -146261 | -43846 |
| 40 | 5C溝02 | 近代 | -146140 | -43760 | 0.16 | 107 | 1A土坑056 | 江戸 | -146261 | -43844 |
| 41 | 5C溝04 | 近代 | -146145 | -43766 | 0.43 | 108 | 1A土坑254 | 江戸 | -146238 | -43889 |
| 42 | 5C溝10 | 近代 | -146125 | -43742 | 0.82 | 109 | 1A土坑257 | 江戸 | -146230 | -43878 |
| 43 | 5C溝11 | 近代 | -146118 | -43738 | 0.69 | 110 | 1A土坑258 | 江戸 | -146240 | -43884 |
| 44 | 5C溝12 | 近代 | -146135 | -43734 | 0.19 | 111 | 1A土坑259 | 江戸 | -146238 | -43876 |
| 45 | 5C石列 | 近代 | -146143 | -43735 | | 112 | 1A土坑260 | 江戸 | -146221 | -43876 |
| 46 | 5C土坑04 | 近代 | -146144 | -43764 | 0.75 | 113 | 1A土坑262 | 江戸 | -146229 | -43872 |
| 47 | 5C土坑18 | 近代 | -146127 | -43757 | 0.38 | 114 | 1A土坑263 | 江戸 | -146227 | -43870 |
| 48 | 5C土坑24 | 近代 | -146123 | -43749 | 0.13 | 115 | 1A土坑265 | 江戸 | -146237 | -43873 |
| 49 | 5C土坑38 | 近代 | -146124 | -43744 | 0.31 | 116 | 1A土坑266 | 江戸 | -146230 | -43876 |
| 50 | 5C土坑41 | 近代 | -146128 | -43740 | 0.51 | 117 | 1A土坑268 | 江戸 | -146229 | -43863 |
| 51 | 5C土坑42 | 近代 | -146115 | -43740 | 0.33 | 118 | 1A土坑273 | 江戸 | -146249 | -43843 |
| 52 | 5C土坑45 | 近代 | -146140 | -43738 | 0.28 | 119 | 1A炉床 | 江戸 | -146241 | -43876 |
| 53 | 5C土坑47 | 近代 | -146139 | -43740 | 0.49 | 120 | 1B溝2 | 江戸 | -146062 | -43680 |
| 54 | 5C土坑48 | 近代 | -146138 | -43744 | 0.58 | 121 | 1B刻印石(丸) | 江戸 | -146079 | -43676 |
| 55 | 6Aピット078(土坑078) | 近代 | -146115 | -43827 | | 122 | 1B刻印石(几) | 江戸 | -146066 | -43668 |
| 56 | 6A井戸5 | 近代 | -146101 | -43817 | | 123 | 1B土坑1 | 江戸 | -146085 | -43663 |
| 57 | 6A瓦敷(瓦敷1) | 近代 | -146115 | -43822 | | 124 | 1B土坑2 | 江戸 | -146098 | -43671 |
| 58 | 6A瓦溜まり | 近代 | -146130 | -43815 | | 125 | 1B土坑3 | 江戸 | -146074 | -43670 |
| 59 | 6A溝17 | 近代 | -146113 | -43798 | 0.03 | 126 | 1C集石部 | 江戸 | -146957 | -43844 |
| 60 | 6A溝23 | 近代 | -146111 | -43831 | 0.27 | 127 | 1C土坑02 | 江戸 | -146952 | -43833 |
| 61 | 6A溝56 | 近代 | -146121 | -43827 | 0.09 | 128 | 1C土坑04 | 江戸 | -146955 | -43867 |
| 62 | 6A石垣1 | 近代 | -146113 | -43796 | | 129 | 1C土坑06 | 江戸 | -146962 | -43840 |
| 63 | 6A石列 | 近代 | -146106 | -43822 | | 130 | 1C土坑15 | 江戸 | -146958 | -43866 |
| 64 | 6A土坑029(土坑65) | 近代 | -146120 | -43803 | 0.24 | 131 | 2B井戸1 | 江戸 | -146059 | -43748 |
| 65 | 6A炉1 | 近代 | -146113 | -43833 | | 132 | 2B井戸3 | 江戸 | -146079 | -43749 |
| 66 | 6A炉2 | 近代 | -146113 | -43829 | | 133 | 2B井戸4 | 江戸 | -146076 | -43748 |
| 67 | 6A炉3 | 近代 | -146113 | -43834 | | 134 | 2B井戸5 | 江戸 | -146080 | -43751 |
| | | | | | | 135 | 2B土坑1 | 江戸 | -146057 | -43746 |

表4 遺構掲載番号表(5A調査区を除く)2

| | | | | | | | | | | | |
|-----|---------------|----|---------|--------|------|-----|----------------|----|---------|--------|------|
| 136 | 2B土坑2 | 江戸 | -146074 | -43750 | 1.18 | 204 | 3A土坑176 | 江戸 | -146187 | -43849 | 0.07 |
| 137 | 2B土坑4 | 江戸 | -146102 | -43754 | 0.41 | 205 | 3A土坑177 | 江戸 | -146191 | -43845 | 0.17 |
| 138 | 2B土坑5 | 江戸 | -146062 | -43744 | 0.71 | 206 | 3A土坑178 | 江戸 | -146196 | -43868 | 1.53 |
| 139 | 2C井戸03 | 江戸 | -146064 | -43816 | | 207 | 3A土坑179 | 江戸 | -146199 | -43868 | 1.30 |
| 140 | 2C井戸05 | 江戸 | -146063 | -43808 | | 208 | 3A土坑180(土坑213) | 江戸 | -146196 | -43864 | 1.12 |
| 141 | 2C井戸10 | 江戸 | -146054 | -43808 | | 209 | 3B井戸01(井戸13) | 江戸 | -146230 | -43923 | |
| 142 | 2C井戸12 | 江戸 | -146060 | -43817 | | 210 | 3B井戸02(井戸21) | 江戸 | -146227 | -43939 | |
| 143 | 2C井戸13 | 江戸 | -146063 | -43801 | | 211 | 3B井戸03(井戸10) | 江戸 | -146224 | -43938 | |
| 144 | 2C土坑14 | 江戸 | -146098 | -43829 | 0.20 | 212 | 3B井戸04(井戸09) | 江戸 | -146226 | -43943 | |
| 145 | 2C土坑28 | 江戸 | -146060 | -43802 | 0.08 | 213 | 3B井戸05(井戸14) | 江戸 | -146232 | -43923 | |
| 146 | 2C土坑30 | 江戸 | -146064 | -43804 | | 214 | 3B井戸06(井戸18) | 江戸 | -146209 | -43932 | |
| 147 | 2C土坑38 | 江戸 | -146067 | -43804 | | 215 | 3B井戸07 | 江戸 | -146209 | -43937 | |
| 148 | 2C土坑51 | 江戸 | -146079 | -43800 | 0.40 | 216 | 3B井戸16 | 江戸 | -146215 | -43926 | |
| 149 | 2C土坑54 | 江戸 | -146078 | -43801 | 0.53 | 217 | 3B井戸17 | 江戸 | -146213 | -43930 | |
| 150 | 2C土坑57 | 江戸 | -146090 | -43800 | 0.30 | 218 | 3B井戸24(井戸19) | 江戸 | -146215 | -43937 | |
| 151 | 2C土坑58 | 江戸 | -146091 | -43800 | 0.24 | 219 | 3B石列1 | 江戸 | -146230 | -43916 | |
| 152 | 2C土坑59 | 江戸 | -146095 | -43802 | 0.15 | 220 | 3B石列2 | 江戸 | -146213 | -43940 | |
| 153 | 2C土坑69 | 江戸 | -146093 | -43801 | 0.07 | 221 | 3B石列3 | 江戸 | -146216 | -43927 | |
| 154 | 2C土坑74 | 江戸 | -146051 | -43818 | 0.48 | 222 | 3B土坑001 | 江戸 | -146230 | -43918 | 0.60 |
| 155 | 2D杭列 | 江戸 | -146138 | -43670 | | 223 | 3B土坑005 | 江戸 | -146231 | -43923 | 0.76 |
| 156 | 2D溝1 | 江戸 | -146142 | -43667 | 0.91 | 224 | 3B土坑006 | 江戸 | -146230 | -43932 | 1.18 |
| 157 | 2D溝2 | 江戸 | -146135 | -43675 | 0.69 | 225 | 3B土坑007 | 江戸 | -146232 | -43933 | 1.36 |
| 158 | 2D土坑03 | 江戸 | -146129 | -43663 | | 226 | 3B土坑009 | 江戸 | -146230 | -43939 | 0.70 |
| 159 | 2D土坑12 | 江戸 | -146134 | -43681 | 0.04 | 227 | 3B土坑011 | 江戸 | -146227 | -43943 | 0.10 |
| 160 | 2D土坑13 | 江戸 | -146115 | -43678 | 0.17 | 228 | 3B土坑013 | 江戸 | -146231 | -43943 | 1.31 |
| 161 | 2D土坑14 | 江戸 | -146110 | -43658 | 0.13 | 229 | 3B土坑014 | 江戸 | -146230 | -43929 | 1.22 |
| 162 | 2D土坑15 | 江戸 | -146118 | -43652 | 0.19 | 230 | 3Cピット8 | 江戸 | -146125 | -43697 | |
| 163 | 2D土坑16 | 江戸 | -146126 | -43650 | 0.13 | 231 | 3C溝1 | 江戸 | -146130 | -43707 | 1.33 |
| 164 | 2D土坑17 | 江戸 | -146113 | -43654 | 0.10 | 232 | 3C土坑1 | 江戸 | -146117 | -43727 | 1.11 |
| 165 | 2D土坑19 | 江戸 | -146128 | -43667 | 0.27 | 233 | 4Aピット095 | 江戸 | -146056 | -43778 | |
| 166 | 3Aピット015 | 江戸 | -146200 | -43906 | | 234 | 4Aピット208 | 江戸 | -146130 | -43770 | 0.28 |
| 167 | 3A井戸01(井戸04) | 江戸 | -146200 | -43842 | | 235 | 4Aピット529 | 江戸 | -146127 | -43769 | |
| 168 | 3A井戸07 | 江戸 | -146199 | -43862 | | 236 | 4A井戸03 | 江戸 | -146074 | -43780 | |
| 169 | 3A井戸15(土坑172) | 江戸 | -146188 | -43890 | | 237 | 4A井戸04 | 江戸 | -146075 | -43782 | |
| 170 | 3A井戸33(土坑402) | 江戸 | -146202 | -43901 | | 238 | 4A井戸06 | 江戸 | -146095 | -43770 | |
| 171 | 3A井戸34(土坑450) | 江戸 | -146197 | -43889 | | 239 | 4A井戸10(土坑265) | 江戸 | -146126 | -43778 | |
| 172 | 3A井戸35(土坑213) | 江戸 | -146196 | -43864 | | 240 | 4A井戸12 | 江戸 | -146072 | -43792 | |
| 173 | 3A井戸36(土坑181) | 江戸 | -146201 | -43867 | | 241 | 4A溝10 | 江戸 | -146062 | -43776 | 0.53 |
| 174 | 3A溝001 | 江戸 | -146209 | -43882 | | 242 | 4A溝11 | 江戸 | -146080 | -43776 | 1.08 |
| 175 | 3A溝007 | 江戸 | -146208 | -43906 | 0.25 | 243 | 4A溝18 | 江戸 | -146061 | -43770 | 0.12 |
| 176 | 3A溝013 | 江戸 | -146209 | -43874 | 0.64 | 244 | 4A溝20 | 江戸 | -146070 | -43794 | 0.45 |
| 177 | 3A溝015 | 江戸 | -146196 | -43858 | 0.32 | 245 | 4A溝22 | 江戸 | -146069 | -43768 | 0.28 |
| 178 | 3A溝016 | 江戸 | -146196 | -43846 | 0.36 | 246 | 4A溝24 | 江戸 | -146067 | -43783 | 0.26 |
| 179 | 3A土坑004 | 江戸 | -146206 | -43892 | | 247 | 4A溝39 | 江戸 | -146090 | -43782 | 1.15 |
| 180 | 3A土坑029 | 江戸 | -146211 | -43887 | | 248 | 4A溝41 | 江戸 | -146090 | -43789 | 0.08 |
| 181 | 3A土坑038? | 江戸 | -146216 | -43899 | | 249 | 4A溝42 | 江戸 | -146090 | -43787 | |
| 182 | 3A土坑042 | 江戸 | -146210 | -43869 | | 250 | 4A溝43 | 江戸 | -146084 | -43792 | 0.31 |
| 183 | 3A土坑055 | 江戸 | -146209 | -43908 | | 251 | 4A溝46(土坑240) | 江戸 | -146092 | -43778 | 0.67 |
| 184 | 3A土坑056 | 江戸 | -146208 | -43891 | 0.30 | 252 | 4A溝47 | 江戸 | -146087 | -43779 | 0.59 |
| 185 | 3A土坑058 | 江戸 | -146201 | -43893 | | 253 | 4A溝49(溝61・71) | 江戸 | -146100 | -43766 | 1.18 |
| 186 | 3A土坑079 | 江戸 | -146212 | -43875 | | 254 | 4A溝50 | 江戸 | -146088 | -43770 | 0.30 |
| 187 | 3A土坑081 | 江戸 | -146207 | -43867 | 0.55 | 255 | 4A溝51 | 江戸 | -146090 | -43773 | 0.24 |
| 188 | 3A土坑083 | 江戸 | -146207 | -43865 | 0.34 | 256 | 4A溝52 | 江戸 | -146094 | -43768 | 0.32 |
| 189 | 3A土坑085 | 江戸 | -146212 | -43865 | 0.91 | 257 | 4A溝60 | 江戸 | -146108 | -43777 | 0.91 |
| 190 | 3A土坑088 | 江戸 | -146211 | -43869 | | 258 | 4A溝61(溝49・71) | 江戸 | -146118 | -43775 | 0.86 |
| 191 | 3A土坑097 | 江戸 | -146212 | -43855 | 1.21 | 259 | 4A溝62 | 江戸 | -146110 | -43778 | 0.05 |
| 192 | 3A土坑098 | 江戸 | -146213 | -43859 | 0.61 | 260 | 4A溝64 | 江戸 | -146111 | -43783 | |
| 193 | 3A土坑100 | 江戸 | -146200 | -43854 | 0.85 | 261 | 4A溝68 | 江戸 | -146134 | -43769 | 2.57 |
| 194 | 3A土坑106 | 江戸 | -146202 | -43845 | 0.72 | 262 | 4A溝69 | 江戸 | -146123 | -43767 | 1.88 |
| 195 | 3A土坑107 | 江戸 | -146205 | -43836 | 0.45 | 263 | 4A溝70 | 江戸 | -146125 | -43785 | 0.42 |
| 196 | 3A土坑111 | 江戸 | -146194 | -43823 | 0.53 | 264 | 4A溝71(溝49・61) | 江戸 | -146116 | -43768 | 1.26 |
| 197 | 3A土坑114 | 江戸 | -146197 | -43824 | 0.63 | 265 | 4A土坑082 | 江戸 | -146068 | -43772 | |
| 198 | 3A土坑117 | 江戸 | -146200 | -43840 | 0.37 | 266 | 4A土坑096 | 江戸 | -146063 | -43766 | |
| 199 | 3A土坑166下層 | 江戸 | -146191 | -43907 | 0.82 | 267 | 4A土坑100 | 江戸 | -146083 | -43772 | |
| 200 | 3A土坑167 | 江戸 | -146192 | -43904 | 0.22 | 268 | 4A土坑104 | 江戸 | -146082 | -43770 | 0.47 |
| 201 | 3A土坑170 | 江戸 | -146189 | -43886 | 1.14 | 269 | 4A土坑105 | 江戸 | -146076 | -43774 | |
| 202 | 3A土坑173 | 江戸 | -146189 | -43894 | 0.83 | 270 | 4A土坑107 | 江戸 | -146074 | -43777 | |
| 203 | 3A土坑175 | 江戸 | -146183 | -43868 | 0.70 | 271 | 4A土坑108 | 江戸 | -146078 | -43783 | 0.21 |

表4 遺構掲載番号表(5A調査区を除く) 3

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----------------|----|---------|--------|------|-----|----------|----|---------|---------|------|
| 272 | 4A土坑109 | 江戸 | -146069 | -43777 | | 340 | 5Cピット044 | 江戸 | -146116 | -43740 | 0.32 |
| 273 | 4A土坑115 | 江戸 | -146074 | -43774 | 0.45 | 341 | 5C井戸5 | 江戸 | -146117 | -43745 | |
| 274 | 4A土坑120 | 江戸 | -146076 | -43767 | | 342 | 5C溝03 | 江戸 | -146149 | -43762 | 0.09 |
| 275 | 4A土坑130 | 江戸 | -146055 | -43778 | 0.26 | 343 | 5C溝05 | 江戸 | -146134 | -43753 | 2.30 |
| 276 | 4A土坑135 | 江戸 | -146066 | -43791 | 0.92 | 344 | 5C溝06 | 江戸 | -146129 | -43752 | 0.04 |
| 277 | 4A土坑137 | 江戸 | -146068 | -43786 | 0.36 | 345 | 5C溝07 | 江戸 | -146123 | -43753 | 1.96 |
| 278 | 4A土坑139 | 江戸 | -146080 | -43760 | 1.01 | 346 | 5C溝13 | 江戸 | -146125 | -43742 | 1.45 |
| 279 | 4A土坑140 | 江戸 | -146077 | -43762 | 0.25 | 347 | 5C溝14 | 江戸 | -146126 | -43744 | 1.09 |
| 280 | 4A土坑143 | 江戸 | -146071 | -43767 | 0.77 | 348 | 5C溝15 | 江戸 | -146118 | -43736 | 0.80 |
| 281 | 4A土坑144 | 江戸 | -146074 | -43768 | 0.40 | 349 | 5C溝16 | 江戸 | -146139 | -43742 | 0.60 |
| 282 | 4A土坑145 | 江戸 | -146075 | -43767 | 0.53 | 350 | 5C土坑02 | 江戸 | -146142 | -43760 | 0.65 |
| 283 | 4A土坑154 | 江戸 | -146071 | -43773 | 0.33 | 351 | 5C土坑05 | 江戸 | -146147 | -43768 | 0.21 |
| 284 | 4A土坑157 | 江戸 | -146073 | -43776 | | 352 | 5C土坑06 | 江戸 | -146141 | -43772 | 0.18 |
| 285 | 4A土坑167 | 江戸 | -146074 | -43764 | 0.27 | 353 | 5C土坑07 | 江戸 | -146141 | -43767 | 0.24 |
| 286 | 4A土坑177 | 江戸 | -146073 | -43779 | 0.81 | 354 | 5C土坑08 | 江戸 | -146140 | -43762 | 0.12 |
| 287 | 4A土坑223 | 江戸 | -146088 | -43785 | 0.45 | 355 | 5C土坑09 | 江戸 | -146141 | -43770 | 0.53 |
| 288 | 4A土坑224 | 江戸 | -146083 | -43785 | 0.82 | 356 | 5C土坑11 | 江戸 | -146144 | -43760 | 0.21 |
| 289 | 4A土坑226(土坑245) | 江戸 | -146098 | -43776 | 0.08 | 357 | 5C土坑13 | 江戸 | -146141 | -43762 | 0.19 |
| 290 | 4A土坑230 | 江戸 | -146101 | -43780 | | 358 | 5C土坑17 | 江戸 | -146141 | -43758 | 0.70 |
| 291 | 4A土坑234 | 江戸 | -146101 | -43758 | 0.74 | 359 | 5C土坑22 | 江戸 | -146125 | -43748 | 0.76 |
| 292 | 4A土坑264 | 江戸 | -146129 | -43790 | 0.51 | 360 | 5C土坑50 | 江戸 | -146118 | -43740 | 0.36 |
| 293 | 4A土坑270 | 江戸 | -146134 | -43779 | 0.45 | 361 | 5C土坑53 | 江戸 | -146153 | -43776 | 1.10 |
| 294 | 4A土坑272 | 江戸 | -146117 | -43761 | 0.11 | 362 | 5C土坑54 | 江戸 | -146157 | -43787 | 0.73 |
| 295 | 4A土坑273 | 江戸 | -146114 | -43763 | 0.62 | 363 | 5C土坑55 | 江戸 | -146145 | -43793 | 0.57 |
| 296 | 4A土坑276(土坑280) | 江戸 | -146130 | -43769 | | 364 | 5C土坑58 | 江戸 | -146146 | -43807 | 0.87 |
| 297 | 4A土坑278 | 江戸 | -146132 | -43775 | 0.45 | 365 | 6Aピット038 | 江戸 | -146114 | -43807 | 0.11 |
| 298 | 4A土坑279 | 江戸 | -146128 | -43770 | 0.47 | 366 | 6Aピット093 | 江戸 | -146113 | -43805 | 0.11 |
| 299 | 4A土坑280(土坑276) | 江戸 | -146129 | -43769 | 0.33 | 367 | 6Aピット282 | 江戸 | -146128 | -43824 | 0.12 |
| 300 | 5B井戸01(土坑11) | 江戸 | -146187 | -43824 | | 368 | 6Aピット285 | 江戸 | -146121 | -43821 | 0.77 |
| 301 | 5B井戸11 | 江戸 | -146169 | -43849 | | 369 | 6Aピット286 | 江戸 | -146122 | -43822 | 0.05 |
| 302 | 5B土坑001 | 江戸 | -146175 | -43864 | 0.59 | 370 | 6Aピット287 | 江戸 | -146122 | -43816 | 0.29 |
| 303 | 5B土坑002 | 江戸 | -146179 | -43866 | 0.38 | 371 | 6Aピット291 | 江戸 | -146112 | -43823 | 0.23 |
| 304 | 5B土坑004 | 江戸 | -146181 | -43861 | 0.39 | 372 | 6Aピット294 | 江戸 | -146100 | -43829 | 0.51 |
| 305 | 5B土坑007 | 江戸 | -146183 | -43849 | 0.73 | 373 | 6Aピット296 | 江戸 | -146102 | -43824 | 0.10 |
| 306 | 5B土坑010 | 江戸 | -146187 | -43828 | 0.21 | 374 | 6Aピット299 | 江戸 | -146102 | -43821 | 0.17 |
| 307 | 5B土坑012 | 江戸 | -146185 | -43821 | 0.80 | 375 | 6Aピット301 | 江戸 | -146100 | -43821 | 0.19 |
| 308 | 5B土坑013 | 江戸 | -146181 | -43816 | 0.48 | 376 | 6Aピット303 | 江戸 | -146100 | -43822 | 0.14 |
| 309 | 5B土坑014 | 江戸 | -146178 | -43813 | 0.09 | 377 | 6Aピット304 | 江戸 | -146100 | -43824 | 0.12 |
| 310 | 5B土坑094(土坑112) | 江戸 | -146156 | -43834 | 0.19 | 378 | 6Aピット305 | 江戸 | -146100 | -43823 | 0.17 |
| 311 | 5B土坑095 | 江戸 | -146152 | -43831 | 0.45 | 379 | 6Aピット314 | 江戸 | -146103 | -43816 | 0.15 |
| 312 | 5B土坑096 | 江戸 | -146152 | -43834 | 0.25 | 380 | 6Aピット315 | 江戸 | -146102 | -43816 | 0.02 |
| 313 | 5B土坑098 | 江戸 | -146181 | -43826 | | 381 | 6Aピット317 | 江戸 | -146100 | -43818 | 0.28 |
| 314 | 5B土坑099 | 江戸 | -146170 | -43812 | 0.63 | 382 | 6Aピット318 | 江戸 | -146102 | -43818 | 0.31 |
| 315 | 5B土坑101 | 江戸 | -146175 | -43834 | 0.86 | 383 | 6Aピット325 | 江戸 | -146106 | -43828 | |
| 316 | 5B土坑102 | 江戸 | -146175 | -43843 | 0.61 | 384 | 6Aピット333 | 江戸 | -146110 | -43826 | 0.19 |
| 317 | 5B土坑103 | 江戸 | -146174 | -43857 | 0.49 | 385 | 6Aピット338 | 江戸 | -146108 | -43826 | 0.20 |
| 318 | 5B土坑104 | 江戸 | -146170 | -43864 | 0.51 | 386 | 6Aピット342 | 江戸 | -146109 | -43819 | 0.05 |
| 319 | 5B土坑110 | 江戸 | -146174 | -43863 | 0.41 | 387 | 6Aピット361 | 江戸 | -146110 | -43830 | |
| 320 | 5B土坑114 | 江戸 | -146159 | -43823 | 0.81 | 388 | 6Aピット363 | 江戸 | -146113 | -43825 | 0.05 |
| 321 | 5B土坑115 | 江戸 | -146155 | -43819 | 0.75 | 389 | 6Aピット373 | 江戸 | -146107 | -43828 | 0.16 |
| 322 | 5B土坑117 | 江戸 | -146153 | -43826 | 0.04 | 390 | 6Aピット378 | 江戸 | -146109 | -43817 | 0.22 |
| 323 | 5B土坑119 | 江戸 | -146149 | -43811 | 0.19 | 391 | 6Aピット380 | 江戸 | -146112 | -43824 | 0.08 |
| 324 | 5B土坑129 | 江戸 | -146156 | -43811 | 0.26 | 392 | 6Aピット381 | 江戸 | -146113 | -43824 | 0.07 |
| 325 | 5B土坑130 | 江戸 | -146154 | -43811 | 0.11 | 393 | 6Aピット383 | 江戸 | -146111 | -43817 | 0.24 |
| 326 | 5B土坑135 | 江戸 | -146169 | -43824 | 0.15 | 394 | 6Aピット409 | 江戸 | -146106 | -43819 | |
| 327 | 5B土坑136 | 江戸 | -146164 | -43815 | 0.43 | 395 | 6Aピット521 | 江戸 | -146121 | -43835 | 0.36 |
| 328 | 5B土坑138 | 江戸 | -146167 | -43824 | 0.21 | 396 | 6Aピット523 | 江戸 | -146118 | -43834 | 0.25 |
| 329 | 5B土坑139 | 江戸 | -146169 | -43815 | 0.69 | 397 | 6Aピット549 | 江戸 | -146138 | -43858 | 0.43 |
| 330 | 5B土坑141 | 江戸 | -146166 | -43812 | 0.19 | 398 | 6Aピット566 | 江戸 | -146130 | -43835 | 0.17 |
| 331 | 5B土坑142 | 江戸 | -146173 | -43819 | 0.79 | 399 | 6Aピット567 | 江戸 | -146132 | -43831 | 0.05 |
| 332 | 5B土坑143 | 江戸 | -146175 | -43826 | 0.06 | 400 | 6Aピット568 | 江戸 | -146130 | -43831 | 0.11 |
| 333 | 5B土坑162 | 江戸 | -146174 | -43818 | 0.28 | 401 | 6Aピット569 | 江戸 | -146129 | -43831 | 0.33 |
| 334 | 5B土坑163 | 江戸 | -146177 | -43801 | 0.56 | 402 | 6Aピット572 | 江戸 | -146128 | -43830 | |
| 335 | 5B土坑164 | 江戸 | -146189 | -43814 | 0.45 | 403 | 6Aピット573 | 江戸 | -146130 | -43835 | 0.46 |
| 336 | 5Cピット001 | 江戸 | -146140 | -43761 | 0.15 | 404 | 6Aピット575 | 江戸 | -146127 | -43833 | 0.10 |
| 337 | 5Cピット003 | 江戸 | -146140 | -43771 | 0.16 | 405 | 6Aピット576 | 江戸 | -146127 | -43835 | 0.14 |
| 338 | 5Cピット006 | 江戸 | -146140 | -43762 | 0.26 | 406 | 6Aピット578 | 江戸 | -146143 | -43838 | 0.14 |
| 339 | 5Cピット024 | 江戸 | -146138 | -43756 | | 407 | 6A井戸1 | 江戸 | -146102 | -438010 | |

表4 遺構掲載番号表（5A調査区を除く）4

| | | | | | |
|-----|---------|----|---------|--------|------|
| 408 | 6A井戸2 | 江戸 | -146107 | -43809 | |
| 409 | 6A瓦溜まり2 | 江戸 | -146128 | -43837 | |
| 410 | 6A瓦溜まり4 | 江戸 | -146151 | -43859 | |
| 411 | 6A溝26 | 江戸 | -146122 | -43807 | 0.13 |
| 412 | 6A溝77 | 江戸 | -146138 | -43837 | 0.15 |
| 413 | 6A溝92 | 江戸 | -146127 | -43834 | 0.20 |
| 414 | 6A土坑015 | 江戸 | -146102 | -43822 | 0.17 |
| 415 | 6A土坑023 | 江戸 | -146108 | -43804 | 0.42 |
| 416 | 6A土坑025 | 江戸 | -146109 | -43804 | 0.40 |
| 417 | 6A土坑027 | 江戸 | -146114 | -43827 | |
| 418 | 6A土坑028 | 江戸 | -146111 | -43801 | |
| 419 | 6A土坑038 | 江戸 | -146121 | -43798 | 0.04 |
| 420 | 6A土坑039 | 江戸 | -146113 | -43808 | |
| 421 | 6A土坑041 | 江戸 | -146112 | -43810 | 0.06 |
| 422 | 6A土坑044 | 江戸 | -146118 | -43804 | 0.08 |
| 423 | 6A土坑045 | 江戸 | -146123 | -43804 | 0.21 |
| 424 | 6A土坑048 | 江戸 | -146123 | -43810 | 0.02 |
| 425 | 6A土坑063 | 江戸 | -146123 | -43804 | 0.18 |
| 426 | 6A土坑069 | 江戸 | -146113 | -43799 | 0.42 |
| 427 | 6A土坑070 | 江戸 | -146108 | -43806 | 0.30 |
| 428 | 6A土坑088 | 江戸 | -146144 | -43816 | 0.53 |
| 429 | 6A土坑100 | 江戸 | -146111 | -43811 | 0.06 |
| 430 | 6A土坑139 | 江戸 | -146130 | -43820 | 0.11 |
| 431 | 6A土坑142 | 江戸 | -146120 | -43833 | 0.75 |
| 432 | 6A土坑144 | 江戸 | -146121 | -43822 | 0.16 |
| 433 | 6A土坑146 | 江戸 | -146120 | -43822 | 0.03 |
| 434 | 6A土坑147 | 江戸 | -146121 | -43820 | 0.23 |
| 435 | 6A土坑148 | 江戸 | -146121 | -43821 | |
| 436 | 6A土坑149 | 江戸 | -146118 | -43824 | 0.36 |
| 437 | 6A土坑151 | 江戸 | -146122 | -43824 | 0.07 |
| 438 | 6A土坑155 | 江戸 | -146112 | -43816 | 0.70 |
| 439 | 6A土坑165 | 江戸 | -146148 | -43863 | |
| 440 | 6A土坑166 | 江戸 | -146146 | -43865 | 0.43 |
| 441 | 6A土坑180 | 江戸 | -146126 | -43832 | 0.13 |
| 442 | 6A土坑182 | 江戸 | -146136 | -43856 | 0.66 |
| 443 | 6A土坑183 | 江戸 | -146137 | -43850 | 0.66 |
| 444 | 6A土坑190 | 江戸 | -146143 | -43835 | 0.27 |
| 445 | 6A土坑282 | 江戸 | -146109 | -43823 | 0.14 |

A-1、5A調査区以外の遺構

主に明治時代以降の再開発の違いにより、調査区毎で検出される遺構の内容は異なったものとなっている。南に位置する1A・3A・5B調査区と、東に位置する1B・2D・3C調査区はおおむね同様な状況を示し、江戸時代に形成された複数の整地層を基盤層として、その一部である廃棄土坑とその後の再開発でも削平されにくかった石組みなどの遺構が部分的に残存しているのみである。その点で言えば、概要報告当初、大形の溝として取り上げていたものの大半は整地の段階を示す層離面をとらえたものであり、廃棄土坑のいくつかについても、整地層の中で遺物の集中部を、そのように捉えていた部分もあったことが、その後の検討の中で確認された。

その結果地下構造を意識して構築し、その痕跡から当時の景観を復原できる遺構としては、2D・3C調査区にまたがる多角形溝および、1A・3A・5B調査区に点在する地下式貯蔵穴などの少数に限られるものとなっている。

これに対して北に位置する2B・2C・6A・5C調査区では、2B・2C調査区が、調査の直前まで建っていた庁舎の基礎によりほとんど削平されていた以外、基盤層までの深さが浅かったにも関わらず、以下に述べる種々の遺構を確認することができた。これは「京橋口御城番屋敷」とされた江戸時代以降におけるこの地区一帯の土地利用の違いを示すものであり、将来おこなわれるであろう近世以降の大坂城下町の復原に、大きな手がかりを与える可能性がある。なお調査区内におけるこの時期の地形景観は基本的に平坦である。

以下、図化された主な遺構を中心に説明をすすめる。

6A竈3・4（炉1・2）（65・66） 6A調査区の北西に位置する。北側に炊き口をもった3連の竈であり、2.2mを隔てて東西に3基並んで構築されていた。規模は、3連で東西が2.6m、南北1.6m、深さは検出面より0.6mを測る。また焚き口の外側には、3基の竈をつなぐかたちの前庭部が通路状に配されている。幅は0.9m、長さは10m以上でレンガ敷きである。竈はレンガとその外側を粘土で構築されており、燃焼室の南外側には、焚き口側右手前の通気坑（？）につながる空間をもつ（煤の付着は認められなかった）。

6A瓦敷（57） 6A調査区の北西部で検出された。幅1.3mで平瓦を縦並べにしたもので、東西軸と南北軸およびそれに続いて多角形を構成する平面形を呈する。断面の観察によれば、深さ0.2mの掘り方をつくり、半裁または破砕した平瓦を縦位に埋め込んでいることがわかる。また東西軸の西端で石列の排水溝に切られ、南北軸はその東辺が土管を切って平行する。上面は多少凹凸をもつが概ね平坦である。

5C石列（45） 5C調査区東端に位置する。溝内に配置された石列である。溝の規模は、幅0.8m、確認された長さは延長で13.6mを測る。石列は1辺0.5m程度の切り石で、途中数カ所の脱落はあるが、連続して置かれている。また石列の中に、徳川氏によって構築された時期の刻印石（「一〇」）が転用されて混在しており、それによってこの石列の構築時期の上限を知ることができる。なお石列の除去後、同じ位置関係でその下面から杭列が検出された。

6A石垣1（62） 6A調査区の東端に位置する南北の溝および石垣である。軸はN-5-Wであり、本調査区内で確認された長さは約20mを測るが、その北延長上に2C調査区の石組1が存在するため、

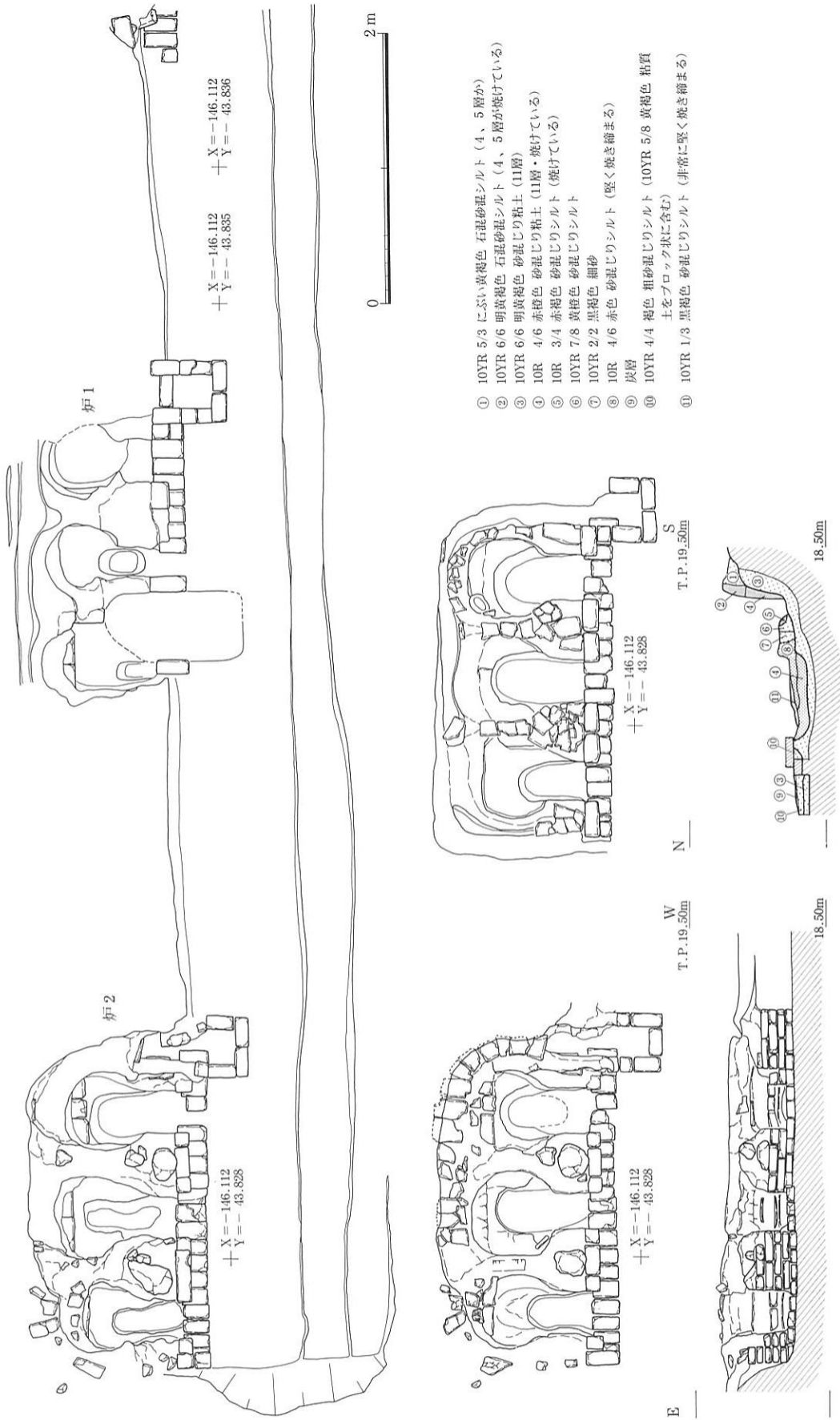


図12 6 A 調査区 炉1・2 平面・断面図

本来の長さはさらに延長される可能性が高い。石垣部分は面を東にもち、西側に裏込めを設けている。石垣は現状で2段まで確認でき、東の面から裏込め掘り方までの幅は1.3mである。また軸を平行して東西2列の石垣が構築されているが、その時期差は不明である。

1 A 土坑 4 (91) 1 A 調査区の南西に位置する。平面形は直径1.7m程の不整形な円形で、全面から礫が検出された。深さは15cmである。共伴する遺物は認められない。出土状況からは、礫が廃棄されたというより、敷かれた可能性が指摘できる。近世の巴文軒瓦が出土している。

1 A 土坑 16 (93) 1 A 調査区南中央に位置する。東西に長い長方形の土坑であり、その北西上面に集

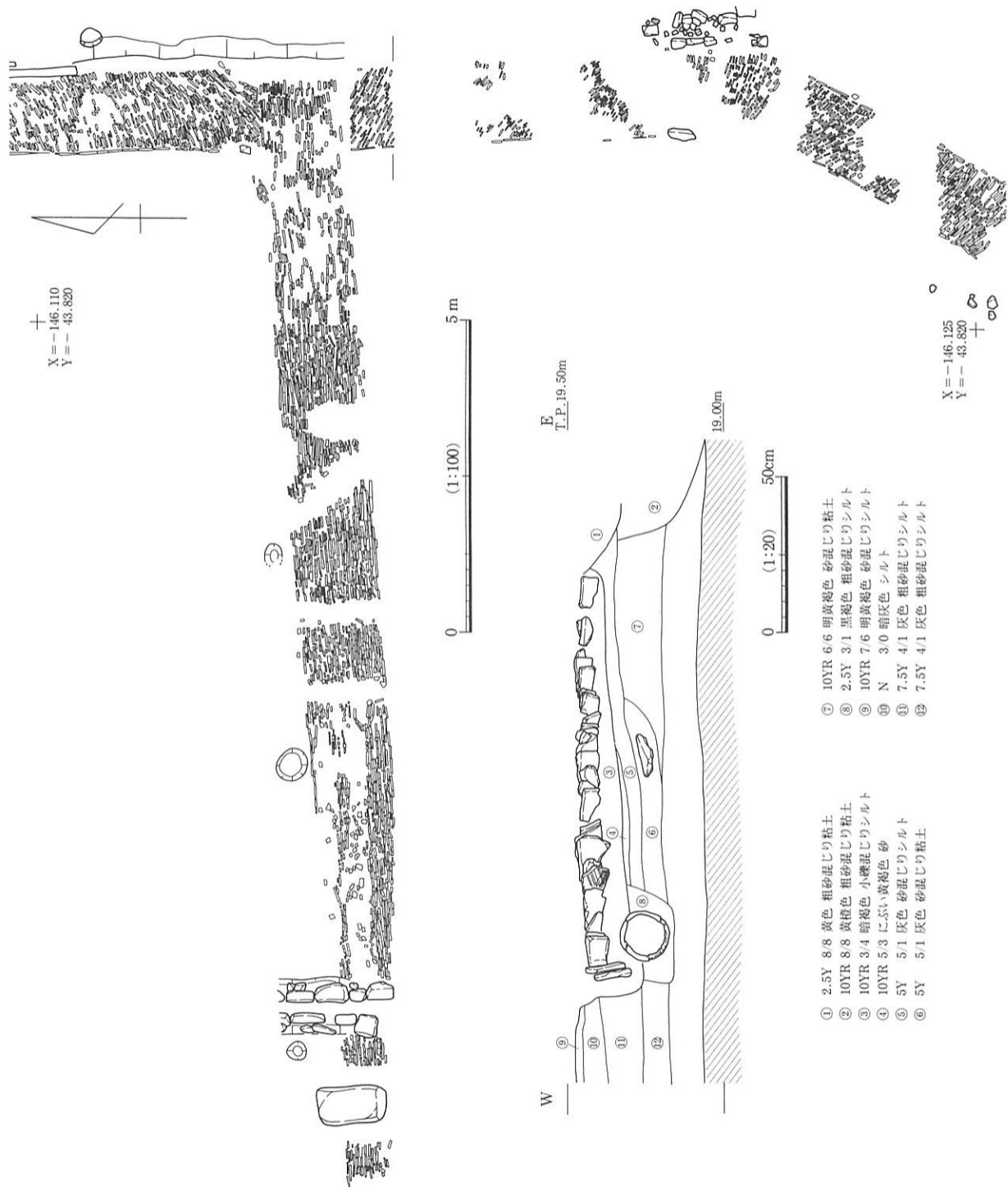


図13 6 A 調査区 瓦敷き平面・断面図

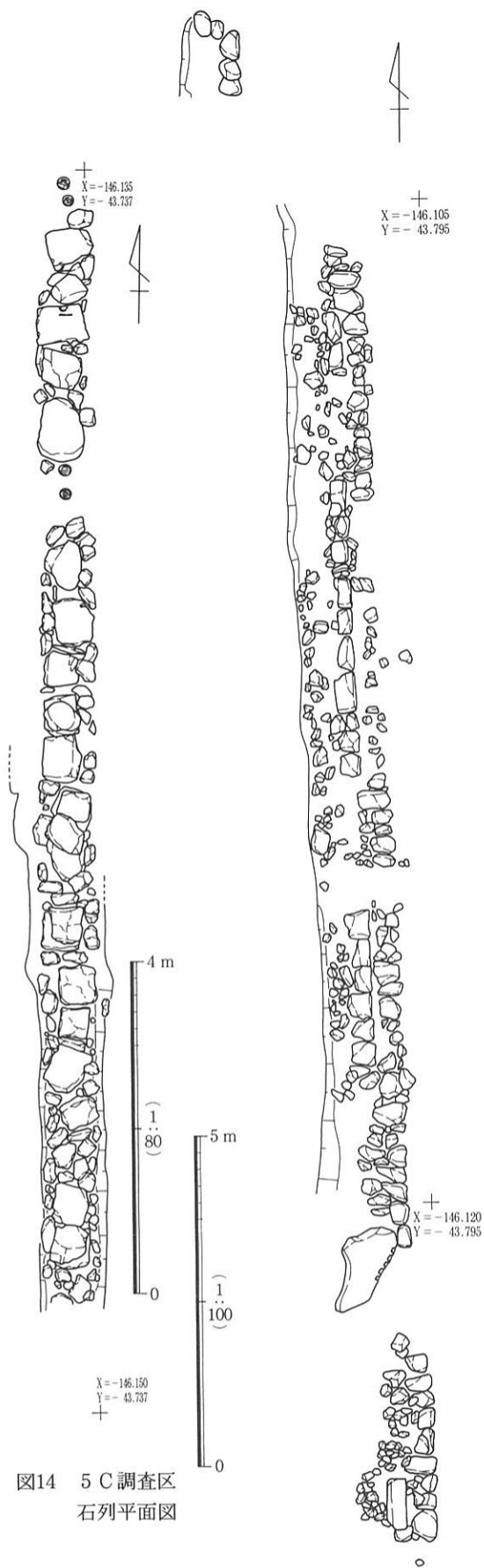


图14 5 C 調査区
石列平面図

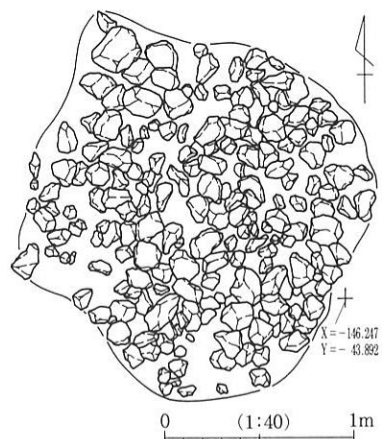


图16 1 A 調査区 土坑4 平面図



图17 1 A 調査区 土坑16 平面図

图15 2 C 調査区 石組1・
6 A 調査区 石垣1 平面図

石を伴う。軒丸瓦、18世紀代の肥前系磁器小鉢・青磁碗、煙管、京焼き系鉢、肥前系陶器碗、焼塩壺の蓋などが出土している。

3 B 土坑11 (227) 3 B 調査区の南西隅に位置する。平瓦を横積みにして壁を構築した貯蔵穴である。平面形は東西に長い長方形で、規模は東西0.9m、南北0.5m、深さ0.4mを測る。壁面には漆喰が塗られ、その痕跡がわずかに残る。底部には特別な床構造はみられない。なお土坑11の南辺の延長上に当たる東には東西方向の石列が約1m続いている。

3 B 土坑14 (229) 3 B 調査区の南中央に位置する。南北に長い方形の地下式貯蔵庫である。素掘りでつくられており、灰色粘土を床として、壁を垂直に築いている。規模は南北2.5m、東西1.8m、深さ1.5mを測る。埋土には瓦片などが混濁した状態で含まれているが、底面から丹波窯の甕が押しつぶされた状態で出土した。破片は飛び散った状況ではなく、本遺構内に設置されていた甕が廃棄された可能性も考えられる。

1 A 石組1 (84) 1 A 調査区南西隅で、南側へ下降する平坦面の先端に位置する。遺構の南半分は斜面で崩壊しており、全体の規模は明らかにしえない。現状で幅1.8m、深さ0.7mを測る。北側の壁面に1辺0.2~0.3mの礫を用いてつくられた4段以上の石積みが残る。巴文軒丸瓦が出土している。

1 A 石組2 (85) 1 A 調査区の南西部で、南側斜面より5m以上北側に位置する。東半部が削平されているが、平面形は楕円で、規模は東西約2m、南北約1.5mを測る。土坑掘り方の内部に1辺0.4m程の大形の礫を方形に並べている。1段のみの検出である。馬形の土人形が出土している。

1 A 石組4・5 (86・87) 1 A 調査区の北西中央に位置する。平行して並んだ石組みであり、北の列を石組4、南の列を石組5とした。共にほぼ東西を軸とし、南に面をもつ。また石組4の北側には、近接して平行する礎石列がみられる。

石組4の規模は長さが4.6m、幅0.25mで、このうちの西側1.6m部分には1辺0.15m程度の礫が密集し、東側には1辺0.3m程の礫が並べられている。石組5の規模は長さ1.6mであり、礫の大きさは1辺0.4m程である。周辺より巴文軒丸瓦が出土している。

なお、これらの石組は、大形の廃棄土坑である1 A 土坑44を基盤層としている。

1 A 石組6 (88) 1 A 調査区の南中央東よりに位置する。遺構の南辺は調査区外にのびる。平面形は東西に長い長方形で、規模は東西2m、南北1m以上である。北面と東面に1辺0.1~0.2mの礫を用いた石積みが築かれ、東側の上面にはさらにその礫がひろがっている。狐形土人形、軒平瓦、菊文軒丸瓦、備前窯系挿鉢、瀬戸・美濃窯系天目茶碗および近世雑器と矢立が出土している。

1 A 溝4 (83) 1 A 調査区の南東に位置する。調査区の南東隅が攪乱により削平されており不明であるが、ほぼその位置から西へ軸をとって約25m西進し、北へ直角に折れる。ただし調査区中央部ではその痕跡は認められなかった。規模は幅1m、深さ1mである。底部には滞水性の粘土が堆積している。

また溝4の北側一部と南側全面に礫の散布がみられ、その分布は調査区の中央までひろがり、さらに溝4の北側延長上では西に面を揃えた南北軸の石列が複数検出された。なお溝4からは軒平瓦を少量出土したのみである。

3 B 石列1・2・3 (219・220・221) 石列1は3 B 調査区の南東隅に位置する。南北方向を軸として東に面を合わせている。長さは4m残存しており、石の大きさは長辺で0.15~0.20mである。

石列2は3 B 調査区の北西隅に位置する。南北方向を軸とする3列の石列から構成され、北の列は東に面を合わせている。北列と南列を合わせた長さは5.5mである。各列の内、北の列が最も整っており

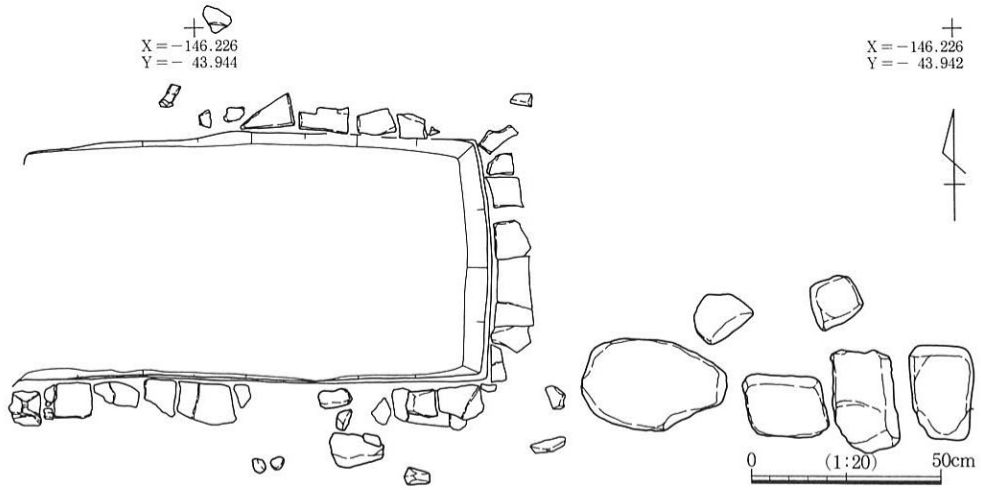


図18 3 B調査区 土坑11平面図

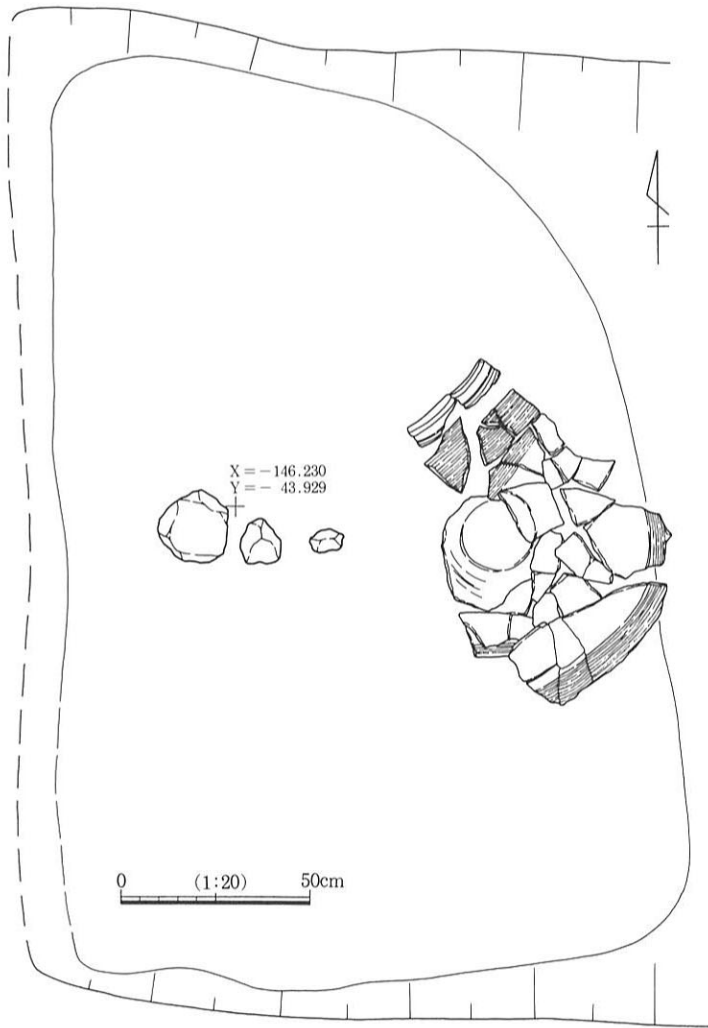


図19 3 B調査区 土坑14平面図

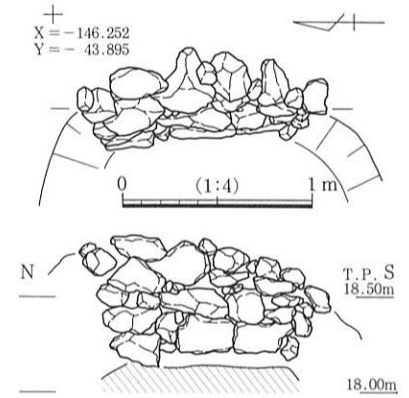


図20 1 A調査区 石組1平面・立面図

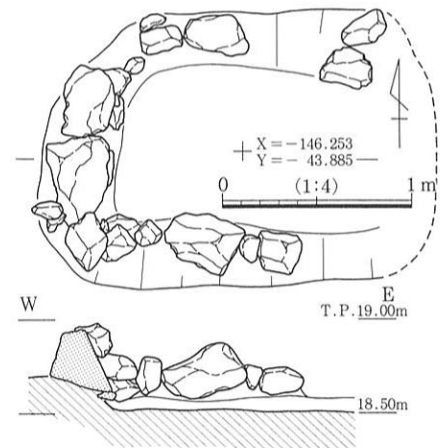


図21 1 A調査区 石組2平面・立面図

石材も大形（長辺で0.4m）であるが、軸のずれた南の2列は西列が一部の石の並びにより面を西に合
わせている可能性があり、東列は石材も不揃いで面もはっきりしていない。

石列3は3B調査区の中央北側に位置する。東西方向を軸として北に面をあわせている。2列並んで
検出されたが、いずれも大形の石材を用いており、大きさは長辺で0.4~0.5mを測る。

2C井戸12（142） 2C調査区北端の中央やや南に位置する。検出時の平面形は直径2.2mを測る円で
あったが、上層の埋土を除去した結果円形の掘り方内から方形の木製枠とさらにその内側に据えられた
桶形の井筒が検出された。近世磁器と下駄、曲物などの木製品が出土している。

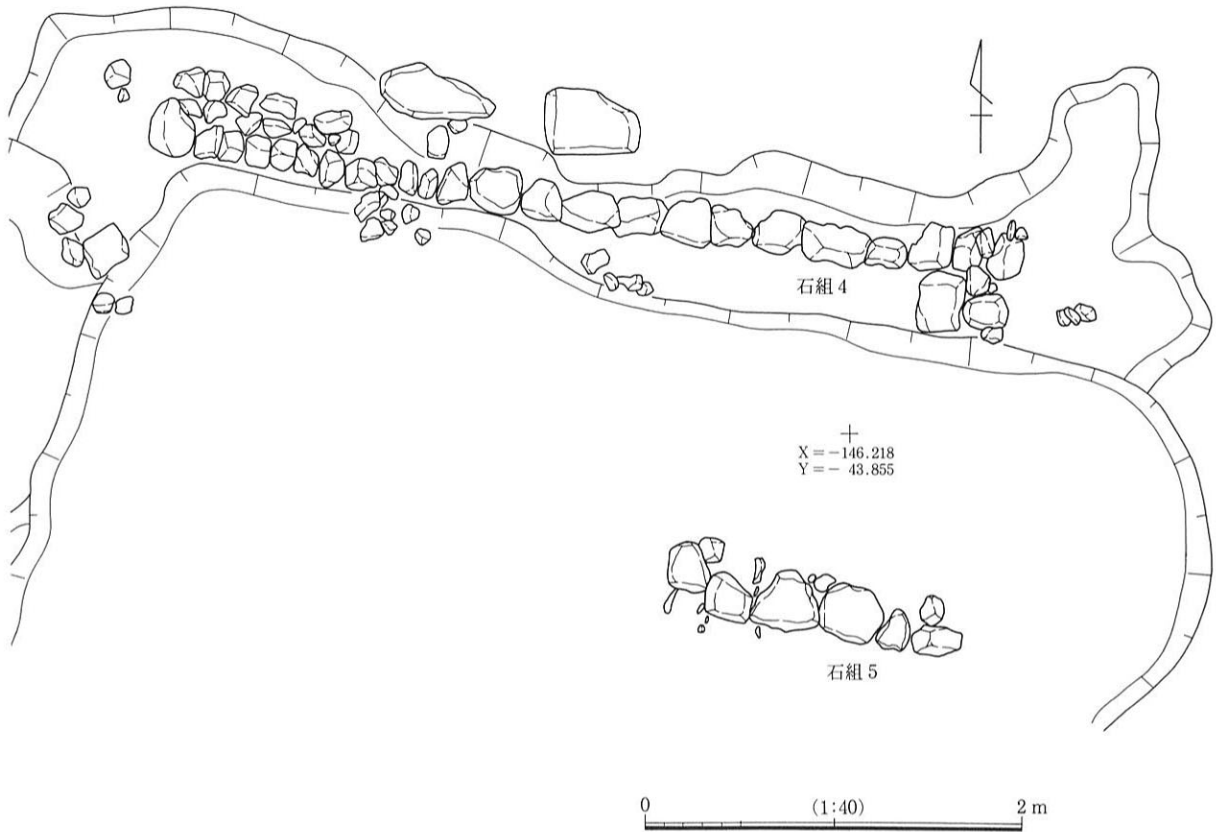


図22 1A調査区 石組4・5平面図

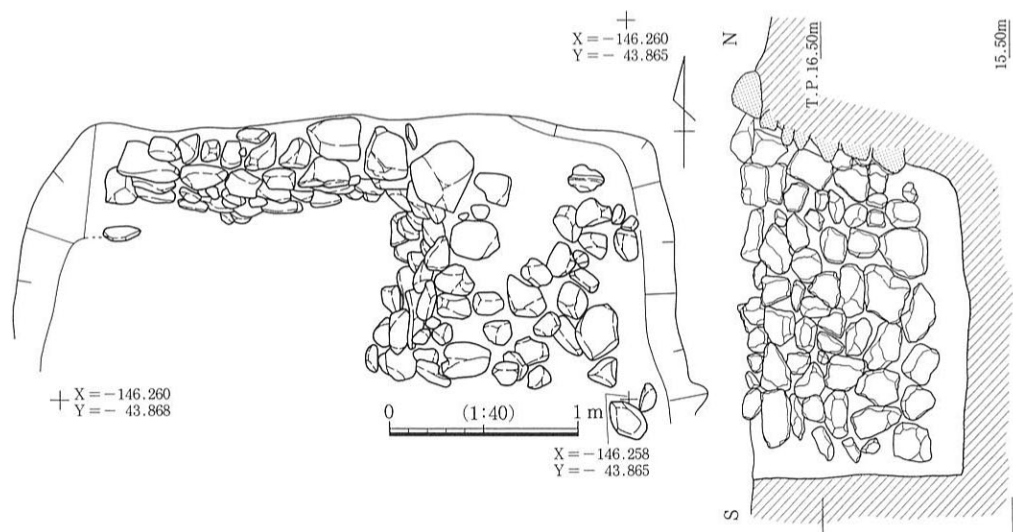


図23 1A調査区 石組6平面・立面図

1 A 炉床 (119) 1 A 調査区の中央南よりで検出された。南北0.8m、東西0.9mの楕円形の掘り方に、直径0.15m程度の礫を丁寧にならべ、壁面はさらに大形の礫を立てて作り出している。熱を受けた痕跡はみられない。上部は削平されており、残存している深さは約0.3mである。石組内より椀形滓・炭化物・鞆羽口が出土した。

またこの炉床の周囲南北7m、東西13mの範囲には、不定形ではあるが、炭化物やスラグが散布しており(1 A 土坑258)、これらも炉床と関連付けて考えることが可能である。なお土坑258焼土域からは肥前系磁器染付蛸唐草、スラグ、羽口、肥前系陶器碗、土師器火鉢、丹波窯鉢、飾り瓦が、土坑258東石組周辺からは菊文軒丸瓦、肥前系陶器皿・碗、瀬戸・美濃窯志野鉢、肥前系青磁、スラグ、軒丸瓦、中国製染付碗、土坑258からは土師器皿、軒丸瓦、肥前系陶器碗・皿、丹波窯鉢、鉄匙・鉄鎌、羽口、肥前系磁器瓶などが出土している。

4 A 溝11 (242) 4 A 調査区の中央に位置する。上端幅3.2m、下端幅1.4m、深さ1.1mを測る。断面形は逆台形を呈する。北側の壁(傾斜角60度)に比べて南側の壁は緩やかな傾斜(傾斜角40度)になっている。またこの溝は調査区の中央やや西寄り以南に向かって屈曲する。底面には幅0.4m、深さ5cm

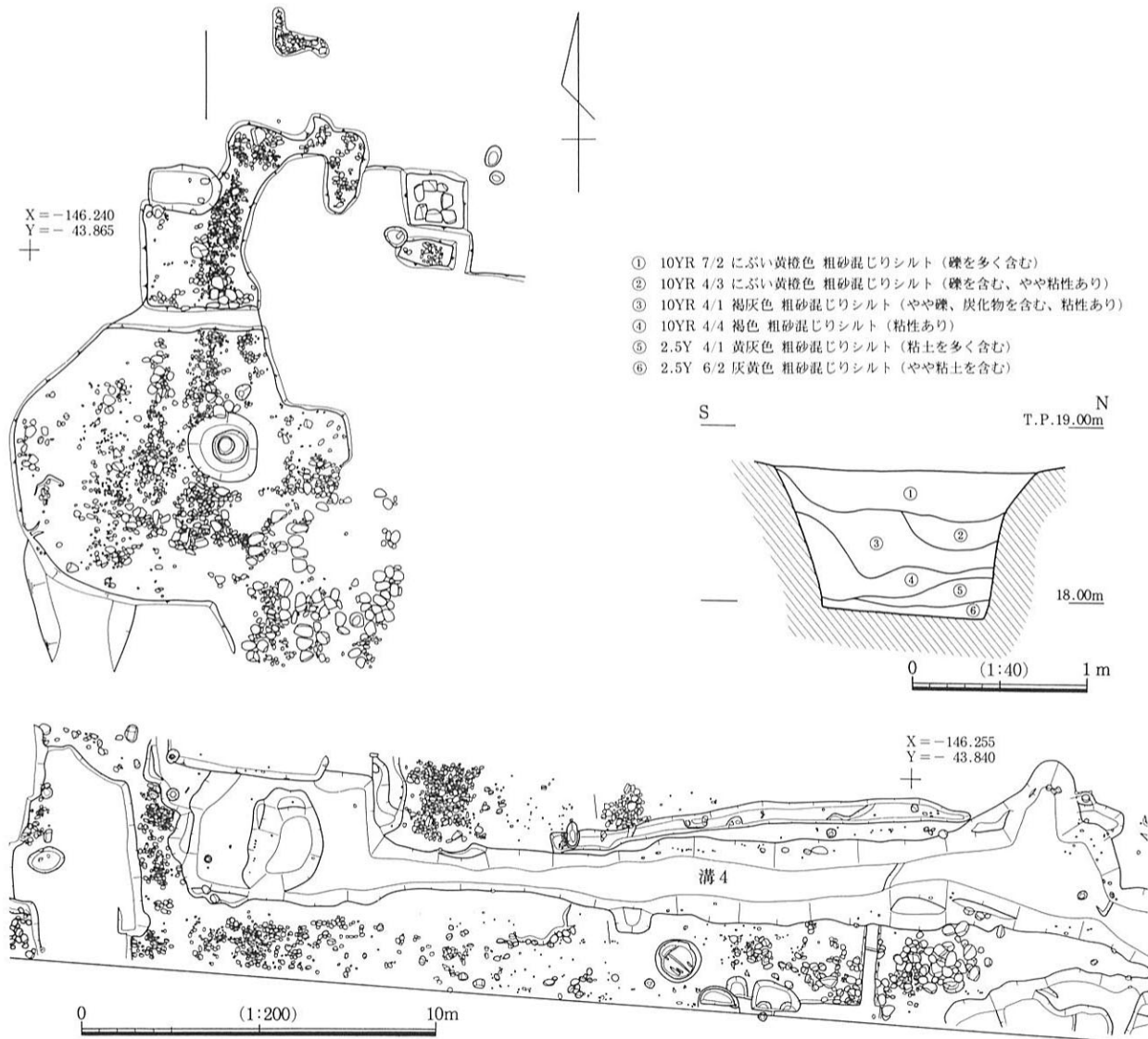


図24 1 A 調査区 溝4 平面・断面図

の浅い溝がある。埋土は他の溝と同様に黄褐色の砂混じりシルトである。底面には僅かに粘土が見られた。なお、埋土には瓦、肥前系などの陶磁器、小礫が多量に含まれている。陶磁器は18世紀前半の資料が主体である。

4 A 溝39・47 (247・252) 調査区の中央部では逆「く」の字状に曲がるものが4条(溝39・47・51・52)確認できた。溝47は上端幅1.1m、下端幅0.4~0.5m、深さ0.85mを測る。断面形は逆台形を呈する。調査区北端中央部からトレンチ中央部にかけては北西から南東に向かい、中央部で屈曲し南西に向かってはしる。北西から南東に向かう部分は長さ約9m、北東から南西にはしる部分の長さは約15mを測る。溝47の屈曲点は溝46(土坑240)と切り合い関係を持つ。また、南西に向かってはしる部分の西壁は溝39によって切られる。埋土は黄褐色の砂混じりシルトで肥前系などの陶磁器、小礫などを多く含

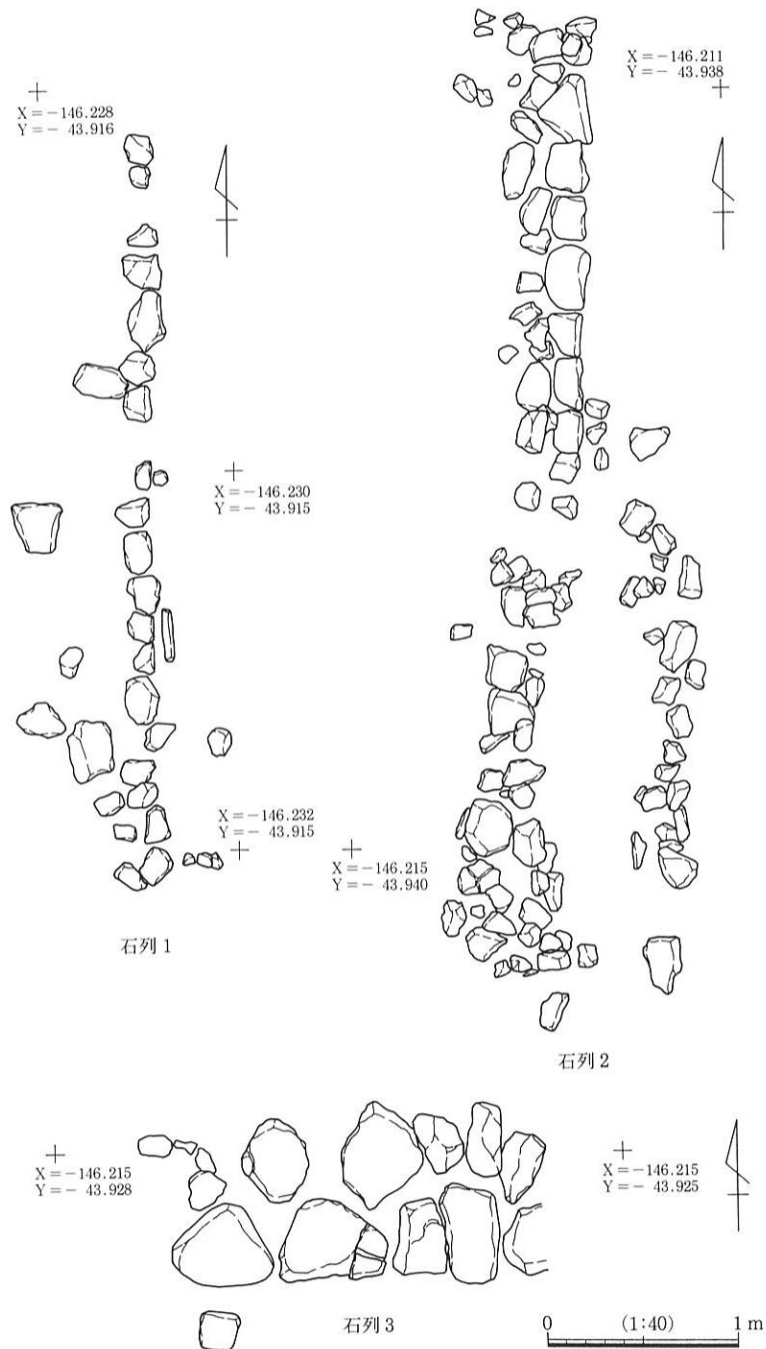


図25 3 B調査区 石列1・2・3平面図

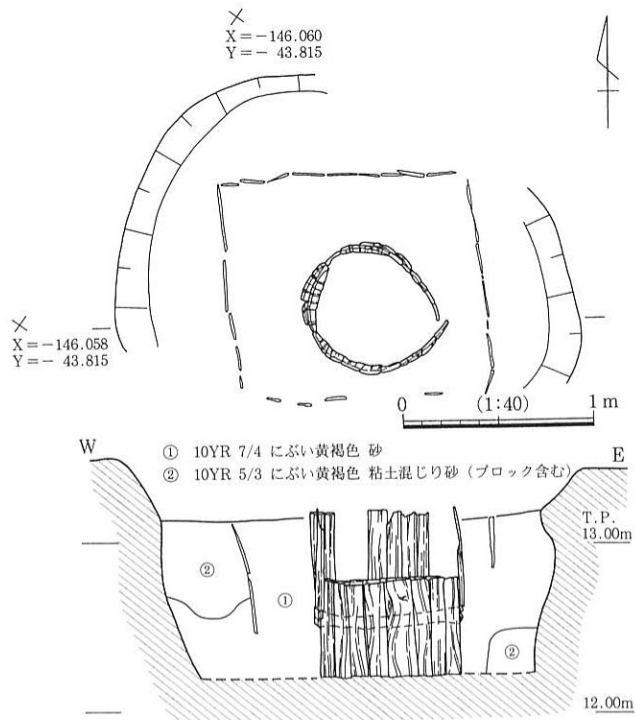


図26 2 C 調査区 井戸12平面・立面図

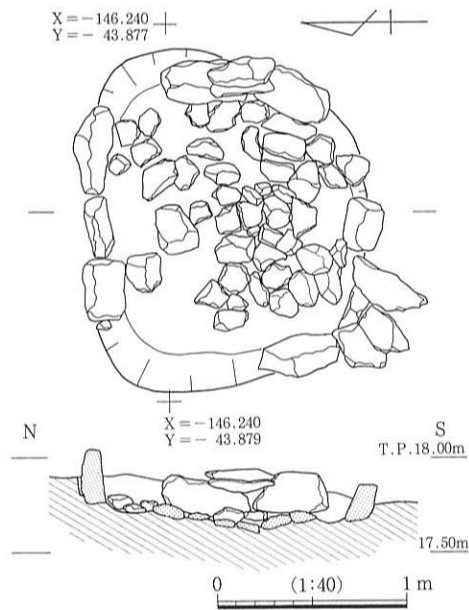
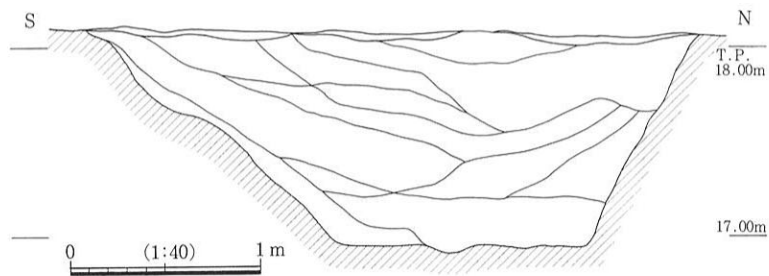


図27 1 A 調査区 炉床平面・立面図



埋土は10YR 3/1 黒褐色～10YR 5/3 にぶい黄褐色 砂まじりシルト
 (いずれも10YR 7/3 にぶい黄褐色 シルトをブロック状に含む)

図28 4 A 調査区 溝11断面図

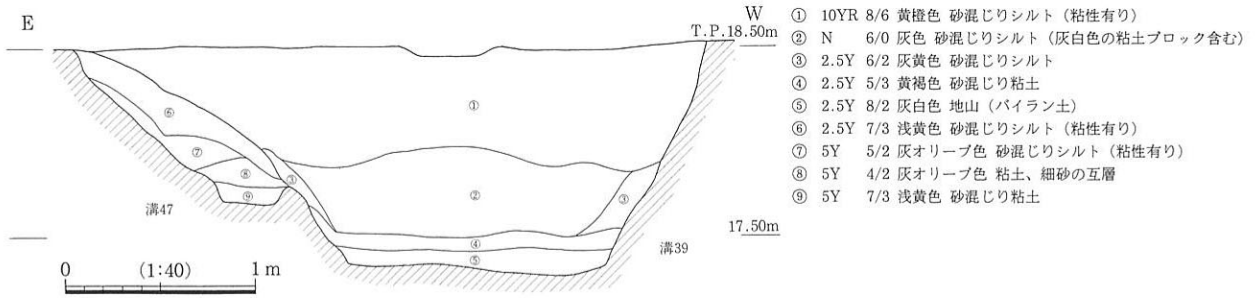


図29 4 A調査区 溝39・47断面図

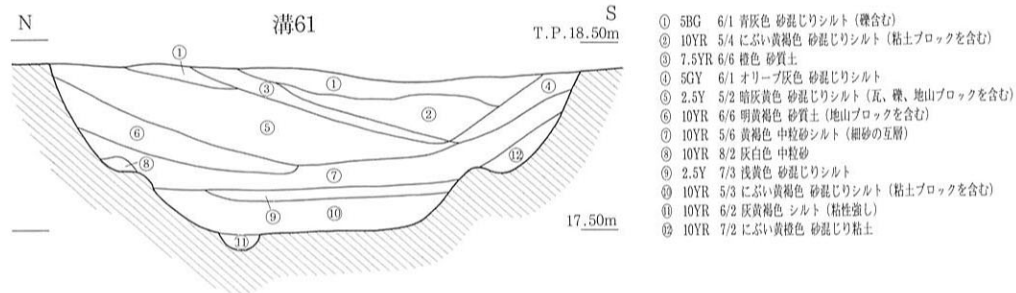
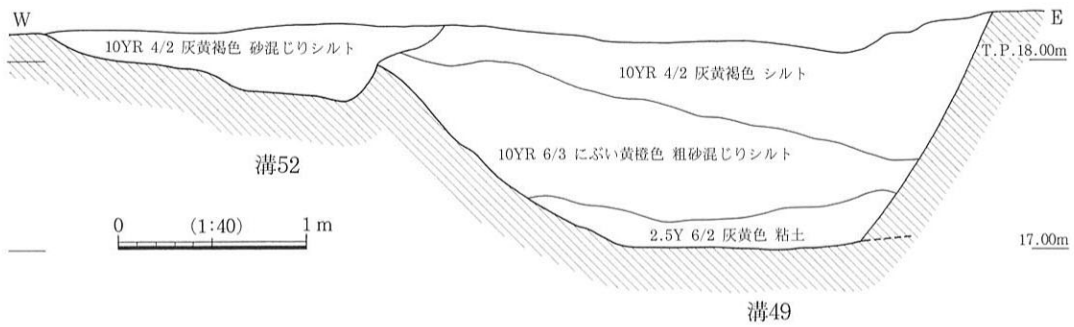
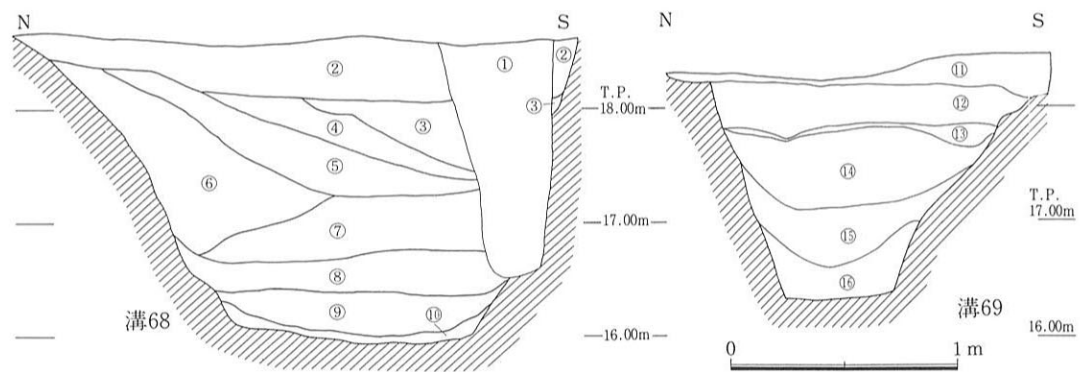


図30 4 A調査区 溝49・61断面図



- | | | | | | |
|---|-----------|-----------------------------|----------|------------------------|------------------------------------|
| ① | 試掘坑 | ⑨ | 10GY 7/1 | 明緑灰色 粗・中・細混じりシルト (互層状) | |
| ② | 10YR 5/2 | 灰黄褐色 粗砂混じり中砂 | ⑩ | 5G 7/1 | 明緑灰色 中・細砂混じりシルト |
| ③ | 10YR 7/6 | 明黄褐色 粗・中砂 (シルトブロック含む) | ⑪ | 2.5Y 5/2 | 暗黄褐色 粗砂混じりシルト |
| ④ | 10Y 4/1 | 灰色 粗砂混じりシルト (1~3 cm大の礫含む) | ⑫ | 5Y 5/2 | 灰オリーブ色 粗砂混じりシルト (3~5 cm大の礫含む) |
| ⑤ | 7.5Y 5/1 | 灰色 粗砂混じりシルト (シルトブロック含む) | ⑬ | 10Y 6/1 | 灰色 中・細砂 (一部シルトの箇所あり) |
| ⑥ | 2.5GY 6/1 | オリーブ灰色 細砂混じりシルト (シルトブロック含む) | ⑭ | 10GY 5/1 | 緑灰色 粗砂混じりシルト (シルトブロック、1~5 cm大の礫含む) |
| ⑦ | 7.5GY 6/1 | 緑灰色 シルト混じり細砂 | ⑮ | 10YR 6/6 | 明黄褐色 粗砂混じり中砂 |
| ⑧ | N 6/0 | 灰色 中・細砂混じりシルト (シルトブロック含む) | ⑯ | 2.5Y 8/3 | 淡黄色 粗砂・シルト混じり中砂 |

図31 4 A調査区 溝68・69断面図

んでいる。

4 A 溝39・51・52 (247・255・256) 溝47に並行するかたちで掘削されている。溝39は上端幅2.5～3.0m、下端幅1.5m、深さ1.2mを数える。長さは北西から南東に向けてはしる部分で8m、北東から南西にのびる部分では13mを測る。東側の壁（傾斜角45～50度）は西側の壁（傾斜角60度）に比べて緩やかに作られている。北端は礫が多量に出土した土坑224に切られており、屈曲点は溝46と切り合い関係を持つ。溝39の埋土も他の溝と同様に黄褐色の砂混じりシルトである。出土遺物の傾向も他の溝と変わらず肥前系などの陶磁器、小礫が多量に含まれている。18世紀前半のものが主体である。

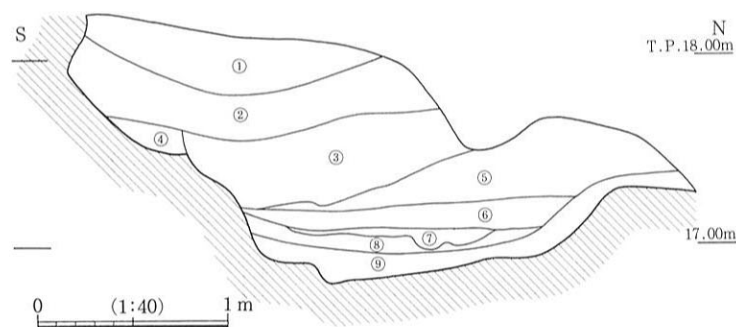
4 A 溝51 (255) 上端幅1.5m、下端幅1.0m、深さ0.2～0.8mを測る。断面形は逆台形である。調査区の中央より北側では遺存状態が悪く僅かに基底層が検出されたに過ぎない。

4 A 溝52 (256) 調査区北端付近で溝50と繋がり、調査区の南端付近で南東に向け屈曲するようである。結果として「Σ」の字状になると思われる。溝50・52の規模は上端幅2.0m、下端幅1.5m、深さ0.2mである。断面形は逆台形を呈する。他の溝に比べて非常に浅いことが特徴的である。埋土および出土遺物は他の溝と同様である。

4 A 溝49・61 (253・258) 調査区の東側で検出された溝49は南北方向にのびている。上端幅3.5m、下端幅2.0m、深さ1.3mを測り、断面形は逆台形である。埋土および出土遺物は他の溝と同様である。

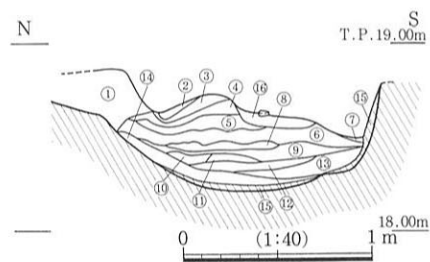
溝61は調査区の東寄りの場所で検出された。北側から南に向けまっすぐのび、調査区の南東隅で西に向けて屈曲する。「J」字状を呈する。規模は上端幅が3.0m、下端幅が1.8～2.0m、深さが1.0mである。この溝の西端部分は2段に掘り込まれ、断面形は逆「凸」の字状を呈する。それ以外の部分は逆台形である。壁は両壁とも同じような傾斜で掘られている。埋土は黄褐色の砂混じりシルトで、瓦、小礫を多く含んでいる。出土遺物には肥前系を主体とする18世紀前半の陶磁器、瓦などがあり、木製品はほとんどみられない。

4 A 溝68・69 (261・262) 溝68は調査区の南東隅に位置する。東西方向に走り、東端は調査区外にの



- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| ① 10YR 5/4 にぶい黄褐色 粗砂混じり中砂 | ⑥ 7.5GY 6/1 緑灰色 中砂 (シルトブロック含む) |
| ② 5YR 4/2 灰褐色 粗砂混じり中砂 | ⑦ N 8/0 灰白色 細砂 |
| ③ 2.5Y 6/4 にぶい黄色 粗砂混じり細砂 | ⑧ 2.5GY 5/1 オリーブ灰色 シルト |
| ④ N 4/0 灰色 礫混じりシルト | ⑨ N 5/0 灰色 中砂 |
| ⑤ 5Y 6/2 灰オリーブ色 粗砂混じり細砂 | |

図32 5 C 調査区 溝13断面図



- | |
|---------------------------------|
| ① 10YR 7/8 黄褐色 砂混じりシルト粘土 (4～5層) |
| ② N 3/0 暗灰色 シルト (わずかに炭、焼土を含む) |
| ③ N 2/0 黒色 炭 |
| ④ N 3/0 暗灰色 シルト |
| ⑤ N 3/0 暗灰色 炭を多く含むシルト |
| ⑥ 7.5Y 3/1 オリーブ黒色 細砂混じりシルト |
| ⑦ 2.5Y 7/6 明黄褐色 細砂混じりシルト |
| ⑧ 2.5Y 6/3 にぶい黄色 粗砂混じりシルト |
| ⑨ 5YR 5/8 明赤褐色 微細焼土、シルト (炭を含む) |
| ⑩ 10YR 6/8 明黄褐色 砂混じり粘土 |
| ⑪ 5Y 5/3 灰オリーブ色 微細焼土、シルト (炭を含む) |
| ⑫ 10YR 4/1 褐灰色 シルト粘土 |
| ⑬ 5Y 5/1 灰色 砂混じり粘土 |
| ⑭ 10YR 5/6 黄褐色 粗砂混じりシルト |
| ⑮ 10YR 8/4 浅黄褐色 砂質シルト (11層) |
| ⑯ 10Y 5/1 灰色 シルト (炭を含む) |

図33 5 C 調査区 土坑55断面図

びる。長さ15m以上、幅5.0m、深さ2.7mを測り、断面は北壁は下部でテラスを有し、南壁の立ち上がりは急である。埋土は最下層が中・細砂及びグライ化したシルト層の堆積である。上層の堆積は礫やシルトブロックを多く含む粗・中砂およびシルト層が北から南へと傾斜する。溝の最下層および下層から出土した遺物は近世陶磁器、瓦、石製硯、砥石、板材、加工痕の見られる竹などである。

溝69は溝68の北側約7mに位置する。溝68とほぼ並行して掘削されており、やはり東端は調査区外へのびる。規模は溝68に比べてやや小さく、長さ14m以上、幅3.4m、深さ2.2mを測る。断面は逆台形を呈する。埋土は礫やシルトブロックを含む粗・中・細砂およびシルト層である。遺物は近世陶磁器、瓦、竹材、切断痕のある牛の角があげられる。

4 A 溝70 (263) 調査区の東部を南北方向に走り、南端は調査区外へのびる。長さ17m以上、幅0.6m、深さ0.3mを測る断面箱形を呈する。溝の底から直径30cm、深さ数cmの柱穴が数基検出された。

4 A 溝71 (264) 14トレンチのから延びる平面「J」の字状を呈する溝61の東肩部分で、南北方向にのび南端で西へカーブする。遺物は近世陶磁器、瓦、金属滓などである。

5 C 溝13 (346) 5 C 調査区の北東に位置し、屈曲しながら南北にはしる。規模は残存長で26.3m、幅2.4m、深さ0.6mである。

5 C 土坑55 (363) 5 C 調査区の西端に位置する。平面形は東西に長い隅丸の方形を呈し、規模は東西3.3m、南北1.8mを測る。埋土は炭または焼土を含むシルトを薄い互層として複数にもつ。「寛永通寶」を出土した。

6 A 土坑165 (439) 6 A 調査区南西隅に位置する。南北方向に軸をあわせた長方形の土坑（規模は南北3.7m、東西2.5m）であり、内部にやはり南北方向に軸をもち面を西にもった石列を伴っている。残

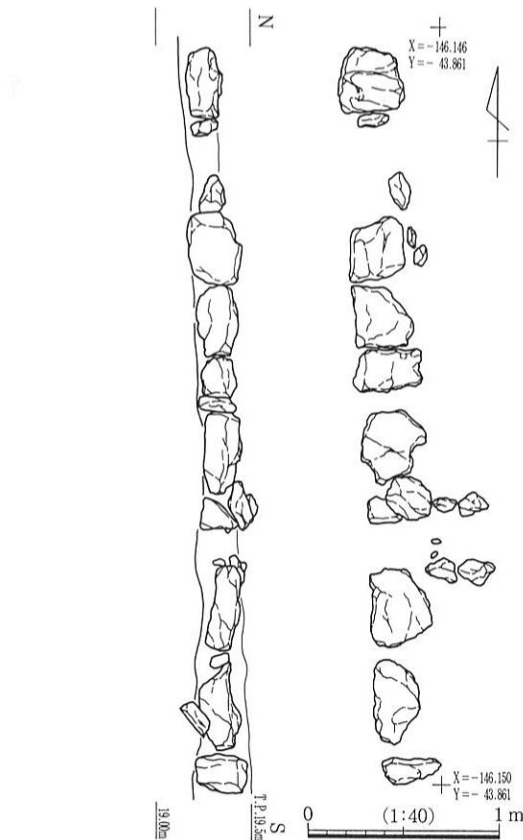


図34 6 A 調査区 土坑165内石列平面・立面図

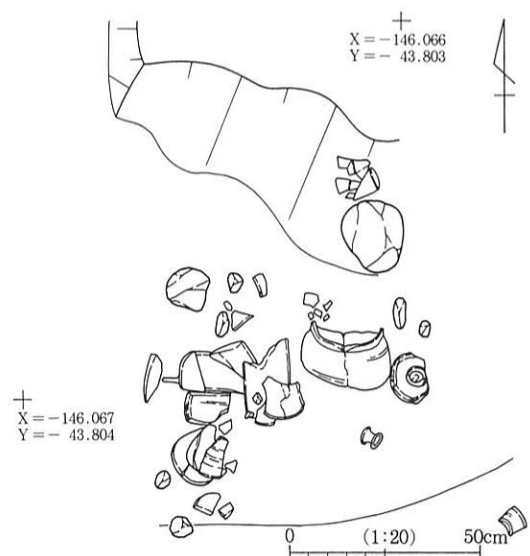


図35 2 C 調査区 土坑38平面図

存する石列の長さは4mである。

2 C 土坑38 (147) 2 C 調査区の北東に位置する。周囲をコンクリートの基礎で削平され、わずかに土坑の中心部のみが残されていた。深さは0.4mである。礫混じりの黒色土から土師器・土瓶・徳利・碗などの近世雑器および、瓦・土人形などと共に、「下川福(?) 太郎」の墨書をもつ、高台付き土師器鉢が出土した。

2 B 土坑2 (136) 2 B 調査区中央北よりに位置する。東西方向に長い廃棄土坑としてとりあげたが、基盤層がこの位置を境に南から北へ下降しているため、その地形を利用して設けられた整地層の可能性もある。幅は7.5mで最深部は検出面から0.8mを測る。底部は平坦で最上面には木製品が大量にみられた。なおこの土坑からとして一部、豊臣期と古代の包含層遺物を取りあげており、遺物の掲載はそれを考慮しておこなっている。

2 D 調査区では北半部から東部際に平面方形および不整形の廃棄土坑が広がり、南半部には北東—南西を軸とする溝と小規模な土坑が散在する。

2 D 調査区南部の杭列は、検出された長さ、東西41m南北6mで、建物の中心はさらに南へ広がる。杭は約0.5m間隔で打たれ、頭部を欠損してなお4～5m残存しているものもみられた。戦前に建てられた元兵舎の基礎である。

2 D 溝2 (136) 2 D 調査区の南西部に位置する。北東—南西を軸として、西部で北へ屈曲して調査区外へ延びる。規模は長さ約30.2m、幅は上端が2.5mで斜面はほぼ垂直に立ち上がる。溝の東端も方形に終熄している。埋土は砂礫・粘土などが混濁した状況であり、遺物は瓦破片のほか僅少である。なお、東端部から重圏文軒丸瓦が出土した。

2 D 土坑13・14 (160・161) 2 D 調査区の北に位置し、北東—西南西を南辺の軸とした方形の落ち込みである。規模は南辺の距離が24.2m、深さは0.1～0.2mを測る。1 B 調査区の南部で包含層としてとりあげた部分につながる。埋土は礫・砂混じりの混濁した粘土およびシルトであり、18世紀後半以降の陶磁器類が出土している。

3 A 調査区では西端部で谷町筋へ下がる斜面が、中央部では大形の土坑および地下式貯蔵穴が確認されたが、東部は道路の下で現代の攪乱を受けており、西部には溝と小規模な土坑が散在するのみであった。

3 A 土坑88 (190) 3 A 調査区南中央に位置する。南北に長い方形の土坑である。規模は南北5.5m、東西2m、深さ1mである。西半部は削平されているが、土坑の底部から廃棄された瓦の集積と樽が検出された。また土坑壁の底部際には、横板組の痕跡が残されていた。

3 A 土坑100・106 (193・194) 3 A 調査区の中央東よりに位置する不定形な土坑であり、特に土坑100は複数の土坑が重複して掘り広げられて形成されたことが、その形状から推測される。埋土からは近世陶磁器・瓦片が混濁した状態で多量に出土した。3 A 土坑97・98 (191・192) についても同様な検出状況を示している。

なお調査区西端の崖部斜面からは、東西方向の溝が数条と3 A 土坑55 (183) などの廃棄土坑が確認されており、同時に3層の一部にあたる黒灰色シルト層の斜面全体から多量の遺物が検出されている。

4 A 調査区 3層上面からは南北方向に1本、東西方向に1本の道路状遺構が確認され、それに伴う柵列跡と側溝が検出された。そのほか、焼土坑や土坑などが確認されている。

道路状遺構になると考えられる部分は4 A 溝2・3 (7・8)、4 A 溝4・5 (9・10) の間で、砂

利や瓦を敷き詰め、堅く叩き締められている。前者（道路1）は幅4m、長さ30m以上で、後者（道路2）は幅6m、長さ70m以上である。道路1上からは轍が検出された。なお、道路1は2回以上の造り替えが確認されている。

道路の側溝と思われる4A溝3・4・5（8・9・10）はそれぞれ幅約0.5m、深さ0.1mである。道路に伴う柵列の柱穴は直径0.3～0.5m、深さ約0.5mを測り、直径約0.1mの木柱痕を残すものがある。また、4A道路2（22）東側柵列の東側にも柵列が一条確認された。長さは60m以上あり、他の柵列よりも柱間の長い柵列であった。また、東西方向にも堅く叩き締められた青灰色土が幅3m、長さ20mにわたって確認された。これも道路状遺構（道路3）と考えられる。道路3にも柵列と側溝が伴う。

道路3と4A溝3・4・5の交点には、幅5～7cmの角材を24～25本並べた簀の子状の痕跡があり、簡単な橋状の施設に対比される。さらに、道路2の中央付近からは焼土坑が検出された。土坑は長さ1.8m、幅0.5～0.75m、深さ0.1～0.2mを測る。土坑内からは石や瓦、鉄製品、鉄片が出土している。また、土坑の周辺からは焼けて堅く締まった面が約4.5m四方にみられる。土坑の南西には炭溜りも確認されている。

溝は南北方向に直線的にのびるもの、逆「く」の字に曲がるもの、斜行するもの、東西方向にはしるものと多彩である。

4A溝10（241） 上端幅1.0m、下端幅0.3m、深さ0.8mを測り、断面形は逆台形を呈する。トレンチの北端中央を北西から南東に向かってはしり、トレンチの中央やや北寄りの位置で屈曲し南西に向かう。トレンチの南端で溝11によって切られている。北西から南東にかけてはしる部分の長さは11m、北東から南西に向かってはしる部分の長さは16mを測る。埋土は黄褐色の砂混じりシルトで瓦、肥前系などの陶磁器、小礫などを含んでいる。陶磁器は18世紀前半の資料が中心である。

トレンチの西端でまとまって検出された南北方向にはしる溝4条は幅0.3～0.9m、深さ0.4～0.65mを測り、断面形は縦長長方形を呈する。長さは8～32mを測る。埋土は暗褐色～黄褐色の砂混じりシルトである。近世陶磁器を僅かに含んでいる。

土坑には不定形なものと同径1～1.5m程度の円形を呈するものとがみられる。前者には大きなもので長辺6m以上、短辺4.5m以上の隅丸方形を呈するものがある。この不定形の土坑は埋土が褐色の砂混じりシルトで握り拳～人頭大の礫や陶磁器などを含んでいる。これらの土坑は廃棄土坑と考えられる。特に土坑104からは微細な炭とともに肥前系を中心とした多くの陶磁器が出土した。18世紀の資料が主体である。

後者の土坑は4A土坑143・144・145・154（280～283）などであり、トレンチ中央やや東寄りの位置で20基まとまって検出された。これらの土坑は上端直径1～1.5m、下端直径0.4～0.6m、深さ0.5～0.8mを測り、挿鉢状を呈する。この土坑群はほぼ同心円上に並んでいる。埋土からはほとんど遺物が出土していない。性格は明確にし得なかった。

4A溝60（257） やや南に振るものの東西方向にはしる溝である。東端はトレンチ中央東寄りのところで終結し、西側は調査区北側に向かって屈曲する。上端幅は3.0m、下端幅は1.8m、深さ1.0mを測る。断面形は逆台形である。確認された長さは14.5mである。埋土は上層に地山ブロックを含んだ黄褐色の砂混じりシルトがあり、下層には青灰色粘土および粘土と砂の互層状の堆積がみられた。また、溝東端の部分では埋土中に多量の炭が集中する部分がみられた。

4A溝64（260） 北西から南東に向かってはしる幅の細い溝である。南東側は現代の攪乱によって切

られ確認できなかった。規模は上端幅1.0m、下端幅0.4m、深さ0.5mである。埋土は溝60・61などと同じである。

4 A 土坑264 (292) トレンチの東端中央部に位置する廃棄土坑である。平面精査の段階では攪乱により分断された1基の土坑と考えていたが、掘り進めた結果、長辺1m以上、短辺1.1m、深さ0.5mの土坑と長辺2m以上、短辺1.7m、深さ0.6mの別々の土坑である可能性が高いことがわかった。近世陶磁器、土器、土人形、羽口などが多量に出土した。

4 A 土坑272 (294) トレンチの北東部に位置する。長径1.6m、短径1.3m、深さ0.2mを測る不正形な円形を呈する。土坑内より多量の近世陶磁器とともに貝殻が出土した。

4 A 土坑273 (295) 4 A 土坑272 (294) の北北西約2mに位置し、直径1.4m、深さ0.6mを測り、壁はほぼ直に掘り込まれている。埋土中には炭が含まれており、多量の近世陶磁器が出土した。土坑278は長辺1.4m、短辺1.2m、深さ0.3mの方形を呈す。その南東隅は溝68と接しており、断面観察の結果4 A 溝68 (261) より新しいことを確認した。

4 A 井戸10 (239) 中央部やや北よりに位置し、直径1.9mを測る。上層は近・現代の攪乱による削平を受けていた。底は検出面より5m以上掘り下げたが到達しなかった。また、井戸は木製の井戸枠が使用されている。井戸枠は長さ2～3m、幅30cm、厚さ10cmの板材を桶状に巡らす。埋土内から近世陶磁器が若干出土している。

4 A ピット208 (234) 東半中央部分に位置する。規模は後世の攪乱によって明らかではないが、埋土内より、銭貨が17枚重なった状態で出土した。そのうちの1枚は寛永通寶である。

4 A 溝68 (261) の南辺及び西辺を巡るように深さ10～20cmの掘り込みがある。埋土は褐色中・細砂で底部は一定ではなく凹凸がみられる。断面観察の結果この掘り込みは溝68より古いことが判明した。但し、4・5層の盛土の一部である可能性も指摘される。

なお、4 A 溝69 (262) の北側の4・5層中から、焼土塊、炭、羽口、金属滓が出土した。

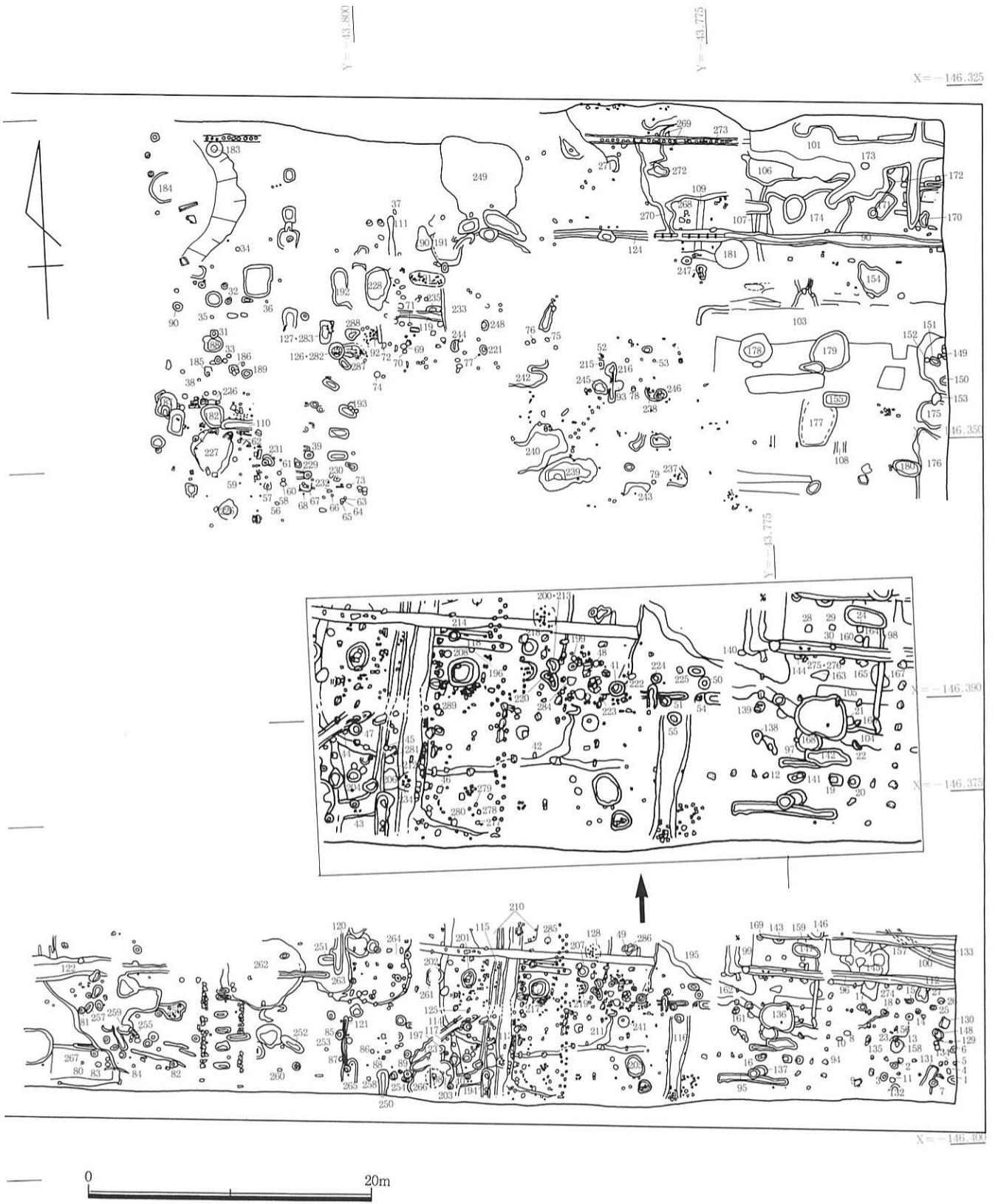


図36 遺構配置図 (5 A 調査区)

表5 遺構掲載番号表(5A調査区) 1

| 番号 | 遺構名 | 時期 | X座標 | Y座標 | 深さ | | | | | | |
|----|------------------|----|---------|--------|------|-----|------------------|----|---------|--------|------|
| 1 | 5Aピット003 | 江戸 | -146396 | -43761 | 0.12 | 68 | 5Aピット138 | 江戸 | -146352 | -43805 | 0.05 |
| 2 | 5Aピット004 | 江戸 | -146395 | -43765 | 0.11 | 69 | 5Aピット140 | 江戸 | -146342 | -43797 | 0.27 |
| 3 | 5Aピット005 | 江戸 | -146395 | -43766 | 0.05 | 70 | 5Aピット141 | 江戸 | -146342 | -43797 | 0.13 |
| 4 | 5Aピット006 | 江戸 | -146395 | -43762 | 0.10 | 71 | 5Aピット144 | 江戸 | -146340 | -43797 | 0.14 |
| 5 | 5Aピット007 | 江戸 | -146395 | -43761 | 0.08 | 72 | 5Aピット145 | 江戸 | -146342 | -43799 | 0.11 |
| 6 | 5Aピット008 | 江戸 | -146394 | -43761 | 0.12 | 73 | 5Aピット147 | 江戸 | -146352 | -43802 | 0.54 |
| 7 | 5Aピット009 | 江戸 | -146396 | -43763 | 0.15 | 74 | 5Aピット155 | 江戸 | -146344 | -43800 | 0.39 |
| 8 | 5Aピット010 a | 江戸 | -146392 | -43769 | 0.06 | 75 | 5Aピット167 | 江戸 | -146342 | -43787 | 0.17 |
| 9 | 5Aピット010 b | 江戸 | -146396 | -43768 | 0.13 | 76 | 5Aピット168 | 江戸 | -146342 | -43788 | 0.18 |
| 10 | 5Aピット011 | 江戸 | -146393 | -43769 | 0.10 | 77 | 5Aピット177 | 江戸 | -146343 | -43792 | |
| 11 | 5Aピット012 | 江戸 | -146396 | -43766 | 0.12 | 78 | 5Aピット179 a | 江戸 | -146345 | -43782 | 0.07 |
| 12 | 5Aピット013 | 江戸 | -146393 | -43776 | 0.10 | 79 | 5Aピット198 | 江戸 | -146352 | -43780 | 0.23 |
| 13 | 5Aピット014 | 江戸 | -146393 | -43765 | 0.10 | 80 | 5Aピット245 | 江戸 | -146391 | -43823 | 0.21 |
| 14 | 5Aピット015 | 江戸 | -146391 | -43764 | 0.09 | 81 | 5Aピット246 | 江戸 | -146388 | -43822 | 0.39 |
| 15 | 5Aピット016 | 江戸 | -146390 | -43764 | 0.10 | 82 | 5Aピット247 | 江戸 | -146392 | -43816 | 0.30 |
| 16 | 5Aピット017 | 江戸 | -146394 | -43775 | 0.26 | 83 | 5Aピット248 | 江戸 | -146392 | -43819 | 0.22 |
| 17 | 5Aピット018 | 江戸 | -146391 | -43767 | 0.12 | 84 | 5Aピット249 | 江戸 | -146392 | -43821 | 0.60 |
| 18 | 5Aピット019 | 江戸 | -146391 | -43764 | 0.20 | 85 | 5Aピット251 | 江戸 | -146391 | -43804 | 0.77 |
| 19 | 5Aピット020 | 江戸 | -146394 | -43773 | 0.09 | 86 | 5Aピット252 | 江戸 | -146392 | -43802 | 0.38 |
| 20 | 5Aピット022 | 江戸 | -146394 | -43772 | 0.13 | 87 | 5Aピット253 | 江戸 | -146392 | -43804 | 0.16 |
| 21 | 5Aピット023 | 江戸 | -146391 | -43772 | 0.12 | 88 | 5Aピット254 | 江戸 | -146392 | -43801 | 0.17 |
| 22 | 5Aピット024 (ピット27) | 江戸 | -146392 | -43772 | 0.10 | 89 | 5Aピット255 | 江戸 | -146394 | -43799 | 0.05 |
| 23 | 5Aピット025 | 江戸 | -146392 | -43766 | 0.06 | 90 | 5A仮土坑139 | 江戸 | -146339 | -43813 | 0.82 |
| 24 | 5Aピット028 (ピット36) | 江戸 | -146387 | -43771 | 0.14 | 91 | 5A瓦溜まり01 | 江戸 | -146337 | -43796 | |
| 25 | 5Aピット029 | 江戸 | -146391 | -43762 | 0.11 | 92 | 5A瓦溜まり02 | 江戸 | -146341 | -43800 | |
| 26 | 5Aピット030 | 江戸 | -146390 | -43762 | 0.03 | 93 | 5A瓦溜まり06 | 江戸 | -146345 | -43782 | |
| 27 | 5Aピット031 (土坑36) | 江戸 | -146390 | -43763 | 0.16 | 94 | 5A建物01 | 江戸 | -146394 | -43770 | |
| 28 | 5Aピット033 | 江戸 | -146387 | -43774 | 0.12 | 125 | 5A建物02 | 江戸 | -146386 | -43795 | |
| 29 | 5Aピット034 | 江戸 | -146387 | -43773 | 0.11 | 95 | 5A溝004 | 江戸 | -146395 | -43776 | 0.06 |
| 30 | 5Aピット035 | 江戸 | -146388 | -43773 | 0.08 | 96 | 5A溝005 | 江戸 | -146389 | -43768 | 0.09 |
| 31 | 5Aピット084 | 江戸 | -146341 | -43811 | 0.28 | 97 | 5A溝007 | 江戸 | -146393 | -43775 | 0.13 |
| 32 | 5Aピット085 | 江戸 | -146338 | -43810 | 0.11 | 98 | 5A溝008 | 江戸 | -146389 | -43771 | 0.04 |
| 33 | 5Aピット086 | 江戸 | -146342 | -43810 | 0.44 | 99 | 5A溝009 (溝29) | 江戸 | -146387 | -43776 | 0.30 |
| 34 | 5Aピット089 | 江戸 | -146335 | -43809 | 0.25 | 100 | 5A溝010 | 江戸 | -146387 | -43763 | 0.10 |
| 35 | 5Aピット090 | 江戸 | -146339 | -43810 | 0.17 | 101 | 5A溝011 (溝30・113) | 江戸 | -146330 | -43767 | 0.64 |
| 36 | 5Aピット092 | 江戸 | -146339 | -43806 | 0.23 | 102 | 5A溝014 | 江戸 | -146336 | -43766 | 0.31 |
| 37 | 5Aピット093 | 江戸 | -146332 | -43798 | 0.42 | 103 | 5A溝020 | 江戸 | -146342 | -43766 | 0.91 |
| 38 | 5Aピット094 | 江戸 | -146343 | -43812 | 0.59 | 104 | 5A溝024 | 江戸 | -146392 | -43772 | 0.34 |
| 39 | 5Aピット097 | 江戸 | -146349 | -43805 | 0.48 | 105 | 5A溝026 | 江戸 | -146390 | -43772 | 0.21 |
| 40 | 5Aピット107 (未登録) | 江戸 | -146393 | -43796 | 0.06 | 106 | 5A溝031 | 江戸 | -146331 | -43768 | 0.28 |
| 41 | 5Aピット108 (土坑218) | 江戸 | -146389 | -43793 | 0.06 | 107 | 5A溝032 | 江戸 | -146334 | -43772 | 0.17 |
| 42 | 5Aピット110 | 江戸 | -146392 | -43787 | 0.01 | 108 | 5A溝035 | 江戸 | -146350 | -43767 | 0.14 |
| 43 | 5Aピット111 | 江戸 | -146394 | -43795 | 0.48 | 109 | 5A溝037 | 江戸 | -146334 | -43776 | 0.06 |
| 44 | 5Aピット112 | 江戸 | -146391 | -43796 | 0.04 | 110 | 5A溝059 | 江戸 | -146347 | -43810 | |
| 45 | 5Aピット113 | 江戸 | -146391 | -43794 | 0.24 | 111 | 5A溝060 | 江戸 | -146334 | -43798 | |
| 46 | 5Aピット114 | 江戸 | -146393 | -43792 | 0.04 | 112 | 5A溝063 | 江戸 | -146386 | -43790 | 0.12 |
| 47 | 5Aピット116 | 江戸 | -146391 | -43796 | 0.06 | 113 | 5A溝064 (溝65) | 江戸 | -146390 | -43793 | 0.13 |
| 48 | 5Aピット117 | 江戸 | -146388 | -43784 | | 114 | 5A溝066 | 江戸 | -146390 | -43796 | 0.11 |
| 49 | 5Aピット118 | 江戸 | -146386 | -43784 | 0.12 | 115 | 5A溝067 | 江戸 | -146389 | -43793 | |
| 50 | 5Aピット119 | 江戸 | -146389 | -43779 | 0.13 | 116 | 5A溝068 | 江戸 | -146394 | -43781 | 0.13 |
| 51 | 5Aピット120 | 江戸 | -146390 | -43787 | 0.10 | 117 | 5A溝069 | 江戸 | -146393 | -43797 | 0.30 |
| 52 | 5Aピット122 | 江戸 | -146343 | -43784 | 0.15 | 118 | 5A溝070 | 江戸 | -146387 | -43789 | 0.07 |
| 53 | 5Aピット123 | 江戸 | -146343 | -43780 | 0.11 | 119 | 5A溝074 | 江戸 | -146340 | -43796 | 0.08 |
| 54 | 5Aピット124 | 江戸 | -146390 | -43779 | 0.15 | 120 | 5A溝090 | 江戸 | -146385 | -43804 | 0.20 |
| 55 | 5Aピット125 | 江戸 | -146390 | -43780 | 0.14 | 121 | 5A溝094 | 江戸 | -146392 | -43804 | 0.06 |
| 56 | 5Aピット126 | 江戸 | -146353 | -43807 | 0.12 | 122 | 5A溝096 | 江戸 | -146385 | -43822 | 0.50 |
| 57 | 5Aピット127 | 江戸 | -146351 | -43808 | 0.09 | 123 | 5A溝100 | 江戸 | -146393 | -43799 | 0.20 |
| 58 | 5Aピット128 | 江戸 | -146351 | -43807 | 0.11 | 124 | 5A溝114 | 江戸 | -146335 | -43780 | 0.38 |
| 59 | 5Aピット129 | 江戸 | -146351 | -43809 | 0.07 | 126 | 5A鍛冶炉3 (炉3) | 江戸 | -146342 | -43802 | |
| 60 | 5Aピット130 | 江戸 | -146351 | -43807 | 0.09 | 127 | 5A鍛冶炉4 (炉4) | 江戸 | -146341 | -43803 | |
| 61 | 5Aピット131 | 江戸 | -146350 | -43808 | 0.14 | 128 | 5A土器溜まり1 | 江戸 | -146386 | -43786 | |
| 62 | 5Aピット132 | 江戸 | -146348 | -43810 | 0.06 | 129 | 5A土坑007 | 江戸 | -146393 | -43762 | 0.11 |
| 63 | 5Aピット133 | 江戸 | -146352 | -43802 | 0.01 | 130 | 5A土坑008 | 江戸 | -146392 | -43762 | 0.15 |
| 64 | 5Aピット134 | 江戸 | -146352 | -43802 | 0.02 | 131 | 5A土坑009 | 江戸 | -146395 | -43763 | 0.17 |
| 65 | 5Aピット135 | 江戸 | -146353 | -43803 | 0.03 | 132 | 5A土坑010 | 江戸 | -146396 | -43766 | 0.41 |
| 66 | 5Aピット136 | 江戸 | -146352 | -43803 | 0.01 | 133 | 5A土坑011 | 江戸 | -146387 | -43762 | 0.06 |
| 67 | 5Aピット137 | 江戸 | -146351 | -43805 | 0.08 | 134 | 5A土坑016 | 江戸 | -146395 | -43762 | 0.09 |
| | | | | | | 135 | 5A土坑017 | 江戸 | -146393 | -43767 | 0.10 |

表5 遺構掲載番号表(5A調査区)2

| | | | | | | | | | | | |
|-----|-----------------|----|---------|--------|------|-----|-----------------|----|---------|--------|------|
| 136 | 5A土坑018 | 江戸 | -146391 | -43773 | 0.06 | 204 | 5A土坑195 | 江戸 | -146393 | -43796 | 0.08 |
| 137 | 5A土坑019 | 江戸 | -146395 | -43775 | 0.54 | 205 | 5A土坑196 | 江戸 | -146394 | -43784 | 0.23 |
| 138 | 5A土坑020 | 江戸 | -146392 | -43776 | 0.22 | 206 | 5A土坑197 | 江戸 | -146393 | -43794 | 0.40 |
| 139 | 5A土坑022 | 江戸 | -146390 | -43776 | 0.13 | 207 | 5A土坑199 | 江戸 | -146387 | -43787 | 0.18 |
| 140 | 5A土坑023 | 江戸 | -146390 | -43775 | 0.15 | 208 | 5A土坑204 | 江戸 | -146387 | -43791 | 0.38 |
| 141 | 5A土坑024 | 江戸 | -146394 | -43775 | 0.14 | 209 | 5A土坑205 | 江戸 | -146387 | -43790 | 0.26 |
| 142 | 5A土坑025 | 江戸 | -146394 | -43774 | 0.08 | 210 | 5A土坑207 | 江戸 | -146385 | -43793 | 0.46 |
| 143 | 5A土坑026 | 江戸 | -146385 | -43773 | 0.18 | 211 | 5A土坑210 | 江戸 | -146390 | -43790 | 0.14 |
| 144 | 5A土坑028 | 江戸 | -146388 | -43774 | | 212 | 5A土坑211 | 江戸 | -146392 | -43793 | 0.40 |
| 145 | 5A土坑031 | 江戸 | -146389 | -43767 | 0.95 | 213 | 5A土坑212 | 江戸 | -146389 | -43786 | 0.05 |
| 146 | 5A土坑032 | 江戸 | -146385 | -43770 | 0.11 | 214 | 5A土坑213 | 江戸 | -146386 | -43790 | |
| 147 | 5A土坑033 | 江戸 | -146386 | -43771 | 0.56 | 215 | 5A土坑214 | 江戸 | -146344 | -43784 | |
| 148 | 5A土坑035 | 江戸 | -146393 | -43762 | 0.09 | 216 | 5A土坑215 | 江戸 | -146345 | -43782 | 0.51 |
| 149 | 5A土坑039 | 江戸 | -146345 | -43769 | 0.28 | 217 | 5A土坑216 | 江戸 | -146389 | -43790 | 0.47 |
| 150 | 5A土坑040 | 江戸 | -146346 | -43770 | 0.33 | 218 | 5A土坑217 | 江戸 | -146387 | -43786 | 0.01 |
| 151 | 5A土坑041 | 江戸 | -146345 | -43760 | 0.57 | 219 | 5A土坑219 | 江戸 | -146388 | -43787 | 0.01 |
| 152 | 5A土坑042 | 江戸 | -146345 | -43761 | 0.23 | 220 | 5A土坑220 | 江戸 | -146389 | -43786 | |
| 153 | 5A土坑043 | 江戸 | -146347 | -43760 | 0.06 | 221 | 5A土坑221 | 江戸 | -146343 | -43792 | |
| 154 | 5A土坑045 | 江戸 | -146339 | -43764 | 0.35 | 222 | 5A土坑224 | 江戸 | -146389 | -43783 | 0.27 |
| 155 | 5A土坑048 | 江戸 | -146347 | -43767 | 0.39 | 223 | 5A土坑225 | 江戸 | -146389 | -43794 | 0.27 |
| 156 | 5A土坑050 | 江戸 | -146392 | -43765 | 0.33 | 224 | 5A土坑226 | 江戸 | -146389 | -43781 | 0.05 |
| 157 | 5A土坑051 | 江戸 | -146386 | -43766 | 0.24 | 225 | 5A土坑227 | 江戸 | -146388 | -43780 | 0.13 |
| 158 | 5A土坑052 | 江戸 | -146393 | -43765 | 0.21 | 226 | 5A土坑228 | 江戸 | -146353 | -43811 | 0.48 |
| 159 | 5A土坑053 | 江戸 | -146386 | -43771 | 0.19 | 227 | 5A土坑229 | 江戸 | -146348 | -43812 | 0.66 |
| 160 | 5A土坑054 | 江戸 | -146387 | -43771 | 0.15 | 228 | 5A土坑230 | 江戸 | -146338 | -43799 | 0.46 |
| 161 | 5A土坑057 | 江戸 | -146391 | -43775 | 0.15 | 229 | 5A土坑231 | 江戸 | -146350 | -43805 | 0.47 |
| 162 | 5A土坑058 | 江戸 | -146389 | -43776 | 0.22 | 230 | 5A土坑232 | 江戸 | -146351 | -43803 | 0.31 |
| 163 | 5A土坑059 | 江戸 | -146389 | -43773 | 0.15 | 231 | 5A土坑233 | 江戸 | -146350 | -43807 | 0.08 |
| 164 | 5A土坑060 | 江戸 | -146388 | -43771 | 0.20 | 232 | 5A土坑234 | 江戸 | -146352 | -43803 | 0.01 |
| 165 | 5A土坑061 | 江戸 | -146388 | -43771 | 0.20 | 233 | 5A土坑235 | 江戸 | -146340 | -43794 | 0.49 |
| 166 | 5A土坑063 | 江戸 | -146391 | -43771 | 0.18 | 234 | 5A土坑237 | 江戸 | -146393 | -43793 | 0.02 |
| 167 | 5A土坑064 | 江戸 | -146389 | -43771 | 0.19 | 235 | 5A土坑239 | 江戸 | -146339 | -43795 | 0.35 |
| 168 | 5A土坑065 | 江戸 | -146392 | -43774 | 0.30 | 236 | 5A土坑243 | 江戸 | -146345 | -43811 | 0.21 |
| 169 | 5A土坑066 | 江戸 | -146385 | -43774 | | 237 | 5A土坑253 | 江戸 | -146352 | -43779 | 0.15 |
| 170 | 5A土坑068 | 江戸 | -146335 | -43761 | 0.41 | 238 | 5A土坑254 | 江戸 | -146346 | -43780 | 0.12 |
| 171 | 5A土坑069 | 江戸 | -146334 | -43763 | 0.13 | 239 | 5A土坑255 | 江戸 | -146352 | -43786 | 0.64 |
| 172 | 5A土坑070 | 江戸 | -146332 | -43763 | 0.27 | 240 | 5A土坑256 | 江戸 | -146349 | -43788 | 0.64 |
| 173 | 5A土坑071 | 江戸 | -146331 | -43765 | 0.18 | 241 | 5A土坑261 | 江戸 | -146391 | -43784 | 0.32 |
| 174 | 5A土坑072 | 江戸 | -146334 | -43769 | 0.23 | 242 | 5A土坑262 a | 江戸 | -146344 | -43789 | 0.44 |
| 175 | 5A土坑076 | 江戸 | -146349 | -43760 | 0.33 | 243 | 5A土坑262 b | 江戸 | -146353 | -43782 | 0.61 |
| 176 | 5A土坑077 | 江戸 | -146353 | -43761 | 0.28 | 244 | 5A土坑263 | 江戸 | -146342 | -43794 | 0.20 |
| 177 | 5A土坑078 | 江戸 | -146349 | -43769 | 0.34 | 245 | 5A土坑264 | 江戸 | -146354 | -43784 | 0.26 |
| 178 | 5A土坑079 | 江戸 | -146343 | -43768 | 0.30 | 246 | 5A土坑265 | 江戸 | -146346 | -43780 | 0.17 |
| 179 | 5A土坑080 | 江戸 | -146344 | -43767 | 0.16 | 247 | 5A土坑282 | 江戸 | -146338 | -43776 | 0.10 |
| 180 | 5A土坑081 | 江戸 | -146352 | -43763 | 0.27 | 248 | 5A土坑295 | 江戸 | -146341 | -43792 | 0.14 |
| 181 | 5A土坑083 | 江戸 | -146346 | -43774 | 0.14 | 249 | 5A土坑322 | 江戸 | -146331 | -43792 | |
| 182 | 5A土坑136 (土坑169) | 江戸 | -146346 | -43811 | 0.40 | 250 | 5A土坑327 | 江戸 | -146394 | -43801 | 0.80 |
| 183 | 5A土坑138 | 江戸 | -146327 | -43810 | 0.65 | 251 | 5A土坑333 | 江戸 | -146385 | -43805 | 0.75 |
| 184 | 5A土坑147 | 江戸 | -146330 | -43810 | 0.76 | 252 | 5A土坑337 | 江戸 | -146391 | -43808 | 0.35 |
| 185 | 5A土坑167 | 江戸 | -146343 | -43811 | 0.12 | 253 | 5A土坑339 | 江戸 | -146392 | -43805 | 0.21 |
| 186 | 5A土坑168 | 江戸 | -146343 | -43810 | 0.22 | 254 | 5A土坑340 | 江戸 | -146394 | -43801 | 0.26 |
| 187 | 5A土坑173 | 江戸 | -146345 | -43815 | 0.51 | 255 | 5A土坑342 | 江戸 | -146390 | -43819 | 0.18 |
| 188 | 5A土坑174 | 江戸 | -146341 | -43811 | 0.35 | 256 | 5A土坑343 | 江戸 | -146388 | -43816 | 0.58 |
| 189 | 5A土坑176 | 江戸 | -146344 | -43809 | 0.40 | 257 | 5A土坑345 | 江戸 | -146388 | -43822 | 0.24 |
| 190 | 5A土坑178 | 江戸 | -146334 | -43796 | | 258 | 5A土坑346 | 江戸 | -146394 | -43802 | 0.08 |
| 191 | 5A土坑179 | 江戸 | -146334 | -43794 | | 259 | 5A土坑347 | 江戸 | -146390 | -43819 | 0.24 |
| 192 | 5A土坑181 | 江戸 | -146338 | -43802 | 0.34 | 260 | 5A土坑348 | 江戸 | -146393 | -43809 | 0.12 |
| 193 | 5A土坑182 | 江戸 | -146346 | -43801 | | 261 | 5A土坑350 | 江戸 | -146387 | -43798 | 0.14 |
| 194 | 5A土坑183 | 江戸 | -146394 | -43794 | | 262 | 5A土坑362 (土坑363) | 江戸 | -146386 | -43810 | 1.29 |
| 195 | 5A土坑184 | 江戸 | -146386 | -43779 | 0.60 | 263 | 5A土坑364 (中層) | 江戸 | -146386 | -43804 | 1.15 |
| 196 | 5A土坑185 | 江戸 | -146395 | -43784 | 0.24 | 264 | 5A土坑365 (上層) | 江戸 | -146386 | -43802 | 0.87 |
| 197 | 5A土坑186 | 江戸 | -146392 | -43797 | | 265 | 5A土坑367 | 江戸 | -146393 | -43804 | 0.29 |
| 198 | 5A土坑187 (土坑188) | 江戸 | -146394 | -43798 | | 266 | 5A土坑371 | 江戸 | -146394 | -43799 | |
| 199 | 5A土坑189 | 江戸 | -146388 | -43785 | 0.39 | 267 | 5A土坑373 | 江戸 | -146388 | -43815 | 0.99 |
| 200 | 5A土坑190 | 江戸 | -146388 | -43786 | 0.33 | 268 | 5A土坑397 | 江戸 | -146331 | -43777 | 0.73 |
| 201 | 5A土坑192 | 江戸 | -146387 | -43795 | 0.40 | 269 | 5A土坑398 | 江戸 | -146329 | -43778 | 0.40 |
| 202 | 5A土坑193 | 江戸 | -146387 | -43797 | 0.04 | 270 | 5A土坑399 | 江戸 | -146334 | -43778 | 0.39 |
| 203 | 5A土坑194 | 江戸 | -146394 | -43796 | 0.20 | 271 | 5A土坑401 | 江戸 | -146330 | -43782 | 0.30 |

表5 遺構掲載番号表（5A調査区）3

| | | | | | |
|-----|----------------|----|---------|--------|------|
| 272 | 5A土坑424 | 江戸 | -146331 | -43779 | 0.26 |
| 273 | 5A布掘り溝 | 江戸 | -146328 | -43779 | 0.12 |
| 274 | 5A胞衣壺 1 | 江戸 | -146388 | -43765 | |
| 275 | 5A胞衣壺 2 | 江戸 | -146388 | -43774 | |
| 276 | 5A胞衣壺 3 | 江戸 | -146388 | -43774 | |
| 277 | 5A胞衣壺 4（土坑200） | 江戸 | -146395 | -43790 | 0.03 |
| 278 | 5A胞衣壺 5（土坑201） | 江戸 | -146394 | -43789 | 0.03 |
| 279 | 5A胞衣壺 6（土坑202） | 江戸 | -146394 | -43789 | |
| 280 | 5A胞衣壺 7（土坑203） | 江戸 | -146395 | -43791 | 0.01 |
| 281 | 5A胞衣壺 8（土坑198） | 江戸 | -146392 | -43793 | |
| 282 | 5A炉03 | 江戸 | -146342 | -43802 | |
| 283 | 5A炉04 | 江戸 | -146341 | -43803 | |
| 284 | 5A炉05 | 江戸 | -146389 | -43785 | |
| 285 | 5A炉06 | 江戸 | -146385 | -43789 | |
| 286 | 5A炉07 | 江戸 | -146386 | -43784 | |
| 287 | 5A炉08 | 江戸 | -146342 | -43801 | |
| 288 | 5A炉09 | 江戸 | -146341 | -43801 | |
| 289 | 5A磚列建物 | 江戸 | -146387 | -43790 | |

A-2、5A調査区の遺構

土坑22・23（139・140） 調査区の南東に位置する、共に直径50cm、深さ50cmの平面円形の土坑で、埋土からは多量の瓦が出土した。このうち土坑22は底に木製桶を埋めており、埋土の状況から土坑23とあわせて便所遺構の可能性はある。

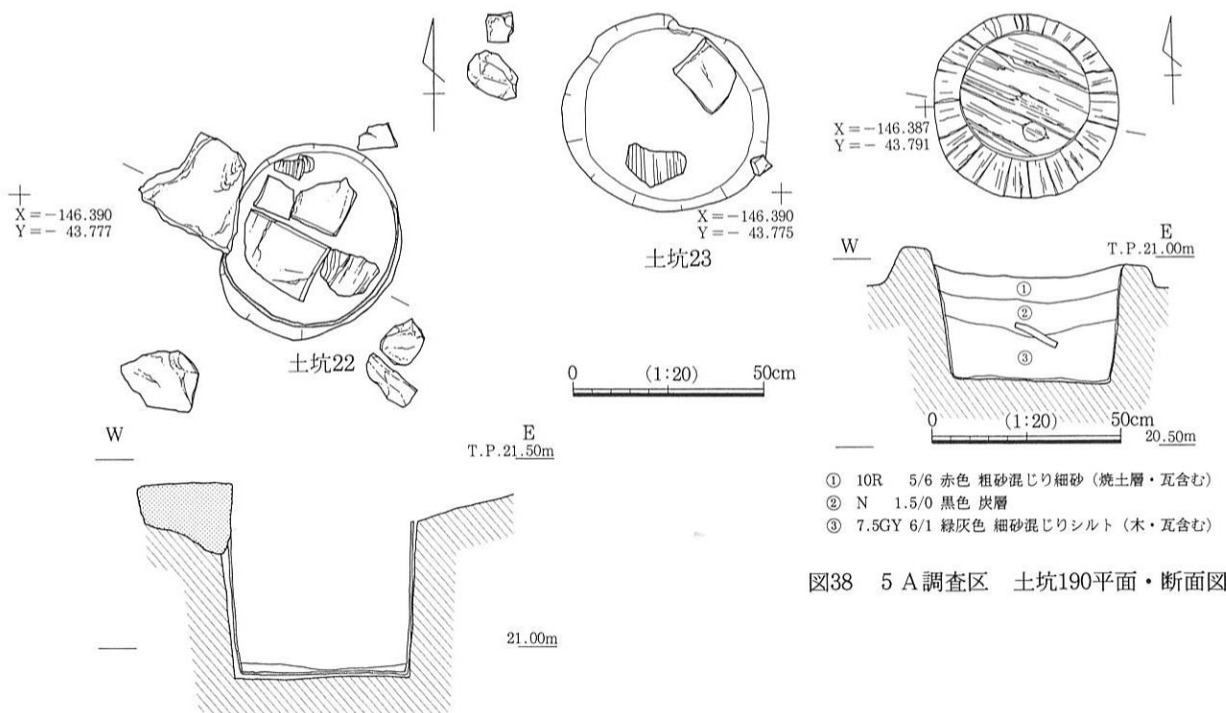


図37 5A調査区 土坑22・23平面・断面図

図38 5A調査区 土坑190平面・断面図

土坑190 (200) 調査区の南中央に位置する。埋桶遺構である。規模は上端の直径が50cm、残存する深さは30cmである。埋土上層に焼土と瓦を含んでる。

礎石建物 調査区の南に位置する。調査区の南東隅では、その北側2/3の範囲で炭混じりの焼土層が広がり、この焼土層を掘り込んで多数の礎石が検出された。礎石群の範囲は、南北7m、東西35m以上で、北に側溝をもつ道路遺構を配する。路面は堅く締まっており、幅2.3m、長さ15m以上を測る。

これらの礎石群から想定される建物は、北の道都に面して東西に連なる長屋構造になるが、その建物が、一連のものか複数の棟から構成されるかは不明である。

建物1 (94) はこれらの礎石群の東部を地区さす。範囲は南北7m、東西15mにおよび、最大で南北8間、東西13間の建物が建つことになる。ただし柱間の距離は南北が1~0.9mではほぼ一定である一方で、東西は1~0.9mと1.6mの2規格がみられ、1.6mの間隔を建物と建物の間とすれば、この礎石群は1~0.9mの柱間をもつ東西5間、南北7間の建物を単位としていた可能性も指摘できる。

なおこれらの礎石群のうち、東の礎石群は炭混じりの焼土層を基盤層としており、それを除去すると、北側へ向かって落ちる幅7.5m以上の段状地形になり、その段を埋める形で炭、焼土、焼け石が多量に出土した。なお特に、段状遺構の斜面部分を中心として焼け石を含む多量の石が廃棄されていた。

建物2 (125) は礎石群の西端に位置する。南北2間以上の礎石の並びが確認できるが、重複して礎石と判別できない礫の集積もみられる。礎石間の距離は南北が約1m、東西は東から1mずつを隔て、最も西の礎石列は約1.5mの距離をもつ。

炉3 (282) 調査区の北中央に位置する。平面円形の炉で直径約1m、深さ15cmを測る。内部には炭層がみられ、底面には瓦、礫が敷かれていた。

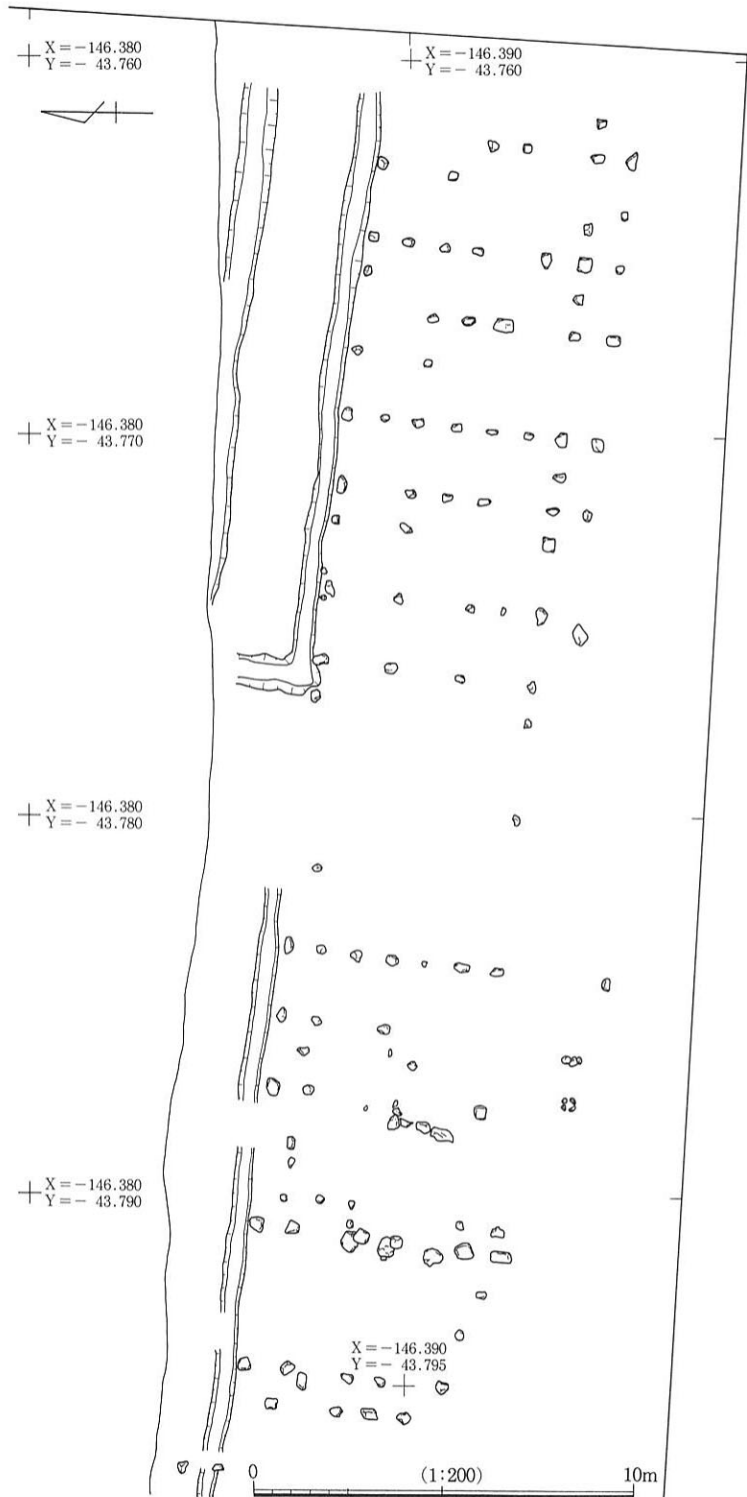


図39 5 A 調査区 礎石建物平面図

炉 4 (283) 調査区の北中央に位置する。平面不整長方形（南北0.9m、東西0.5m）を呈する焼土面が存在し、その南寄りの部分に直径45cmの炭溜まりがみられる。この炉は11層を2段に掘り窪め、そこに炭や鉄滓・焼土を含んだシルト粘土を貼り、防湿を施した下部構造の上に築かれている。

両者とも埋土に多くの炭を含み、微細な鉄滓や鍛造剥片がみられることから鍛冶炉と思われる。

炉 5 (284) 調査区の南中央東よりに位置する。長辺が0.4mの隅丸台形を呈する。皿状に窪んだ内部から炭と瓦が出土している。

炉 8 (287) 調査区北中央に位置する。平面長方形を呈し、南北0.8m、東西1.6m、深さ0.2mを測る。火床の部分は確認された範囲のほぼ中央に位置し、南北0.3m、東西1mを測る。

炉 9 (288) 調査区北中央に位置する。南北0.8m、東西1m、深さ0.3mを測り平面長楕円形を呈する。埋土に多量の炭がみられるが壁、床ともに焼け面が確認できないことから、炉ではなく炭溜まり土坑の可能性もある。両者とも11層を10cmほど掘り窪め、その周囲に粘土を10cm程度貼って炉としている。

胞衣壺 1・2 (274・275) 調査区の南東に位置する。礎石群の東部地区で北の道路遺構沿いにあたる。胞衣壺 1は正置で、胞衣壺 2は倒置である。共に明確な掘り方は確認されなかった。なお、礎石群の西部地区からも胞衣壺がまとめて出土している（胞衣壺 3～8）。

以下詳細図掲載以外の遺構について述べる。

土坑31 (145) は調

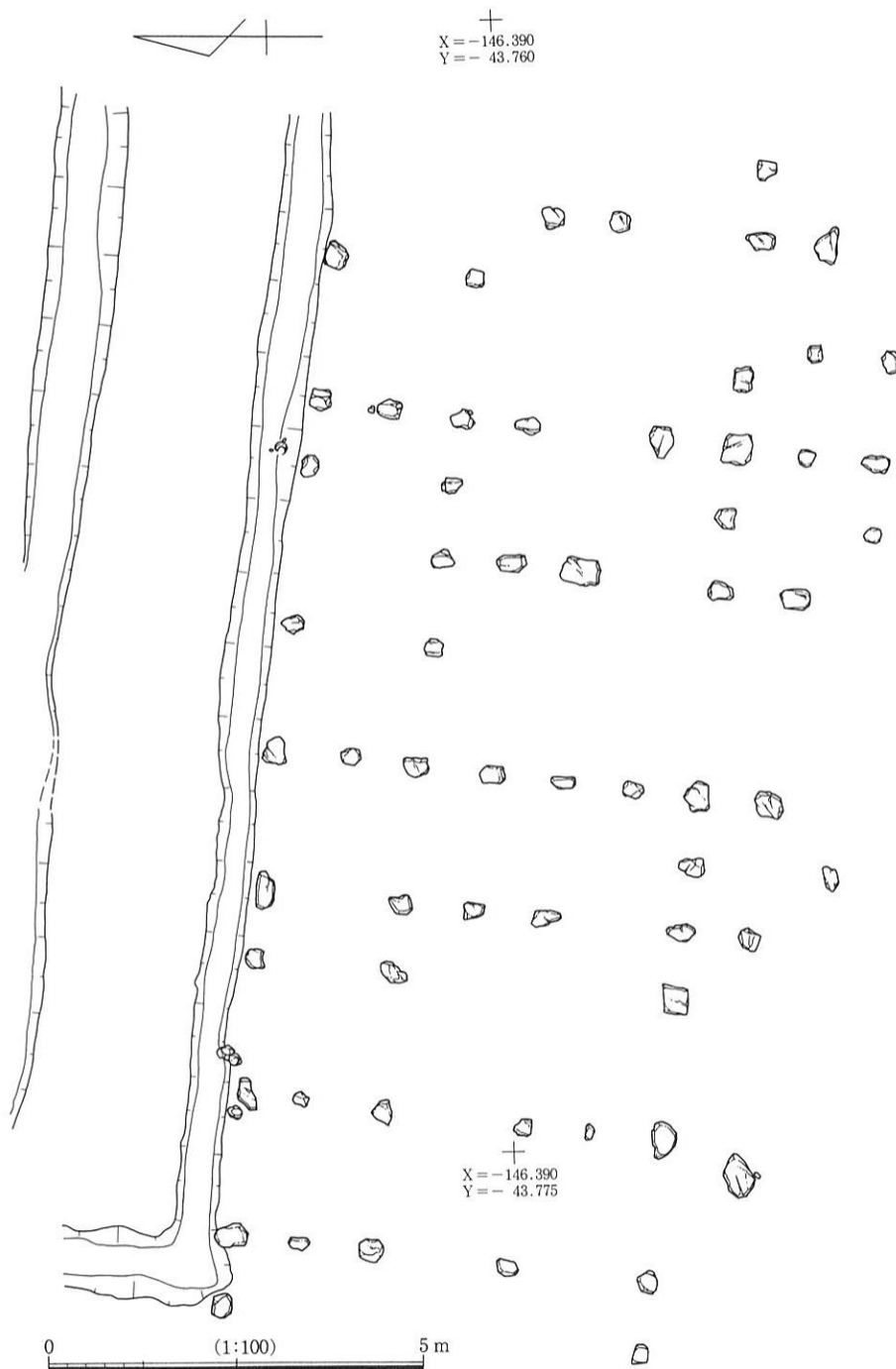


図40 5 A調査区 建物1平面図



図41 5 A 調査区 建物2 平面図

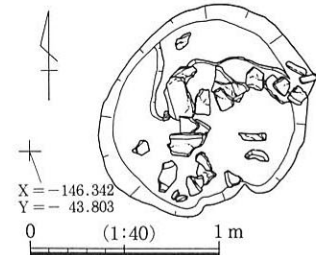
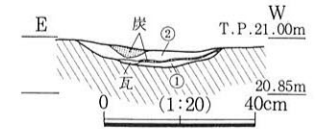
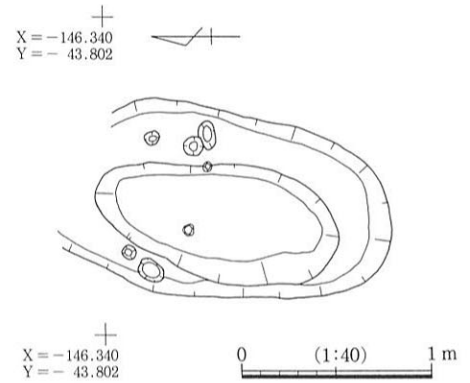


図42 5 A 調査区 炉3 平面図



- ① 5YR 5/3 にぶい赤褐色 シルト (被熱面)
- ② 7.5YR 5/3 にぶい褐色 シルト

図43 5 A 調査区 炉5 断面図



- ① N 2/0 黒色 炭層
- ② 2.5YR 5/6 明赤褐色 細砂混じりシルト (焼土層)
- ③ 2.5Y 7/4 浅黄 粘土 (炭・焼土・瓦を含む、粘土を貼っている)
- ④ 10YR 5/6 黄褐色 シルト (焼土層)
- ⑤ N 2/0 黒色 炭層
- ⑥ 10YR 6/8 明黄褐色 細砂混じりシルト (11層)

図44 5 A 調査区 炉4 平面・断面図

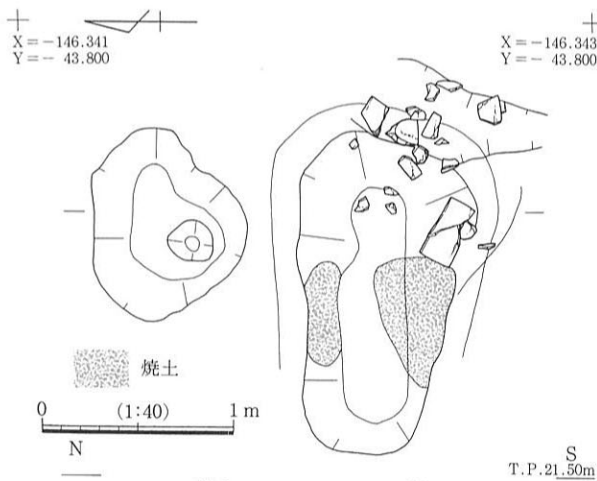


図45 5 A 調査区 炉8・9 平面・断面図

- ① 7.5YR 7/8 黄褐色 粘土ブロック含む 炭 (N2黒色)
- ② 10YR 3/1 黒褐色 砂混じりシルト (炭を多く含む)
- ③ 10YR 4/3 にぶい黄褐色 砂混じりシルト
- ④ 7.5YR 5/8 明褐色 粗砂混じり粘土 (古代の包含層か?)
- ⑤ 7.5YR 6/8 橙色 砂混じり粘土シルト (砂・瓦を含む)
- ⑥ 10YR 5/2 灰黄褐 シルト (炭を多く含む)
- ⑦ N 2/0 黒色 シルト (炭を多く含む)
- ⑧ 7.5YR 6/6 橙色 砂混じりシルト粘土
- ⑨ 7.5YR 6/3 にぶい黄色 粗砂混じりシルト
- ⑩ 5YR 6/8 橙色 シルト粘土 (11層地山)

査区の南部に位置する。東に接する大阪市立中央体育館地点での調査成果と照らし合わせて、江戸時代後期の粘土取り穴とされる。これより西に続く土坑210 (211)、土坑363 (262)、土坑364 (263)、土坑365 (264) とあわせて、大量の近世陶磁器を出土した。それぞれの土坑の規模は5～10mであるが、調査区の南部ではこれらの土坑が断続的に40m以上続く。なお先述の礎石群は、これらの土坑が埋められた後に、その整地層を基盤層として設けられている。

土坑235 (233) は調査地北半中央に位置し、一辺5 m程を測る巨大な粘土取り穴である。埋土から多量の瓦、近世陶磁器が出土した。

土坑254 (238)・土坑264 (245)・土坑265 (246) では礫が多量に廃棄されている。

土坑255 (239)・土坑256 (240) は調査区の北半南端中央に位置する。規模は長軸4 mほどの大形のもので、深さは1 m近い。埋土に瓦、礫、近世陶磁器を多量に含む。粘土取り穴かと考えられる。

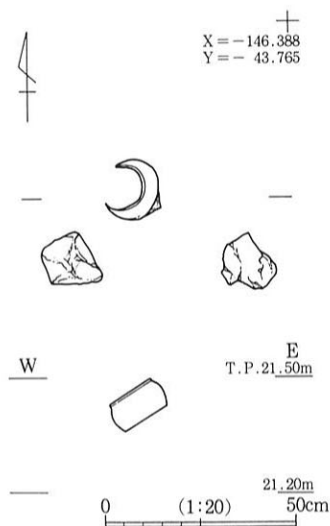


図46 5 A 調査区 胞衣壺 1 平面・立面図

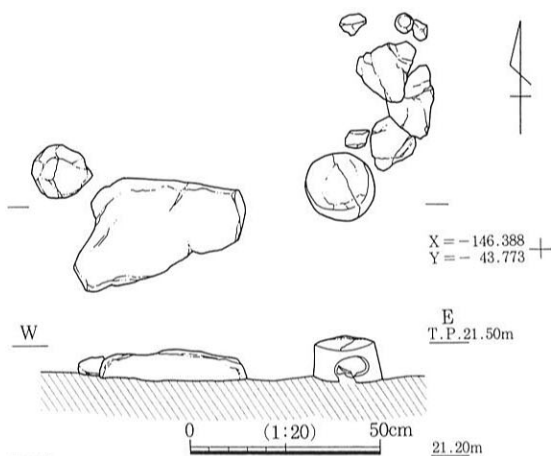


図47 5 A 調査区 胞衣壺 2 平面・立面図

B、遺物

江戸時代以降の遺物には、土器・陶磁器・漆器・木製品・金属製品・石製品・土製品・瓦などがみられる。出土状況は大半は廃棄土坑中であり、セットとしての同時存在は有効性が乏しく、またそれらの用途を復原する手がかりも少ないものとなっている。ただし廃棄土坑の分布には、その供給源が機能していた時の位置を反映する部分もあると考えられ、その点が今後の課題として残される。

ここでは廃棄土坑の中でも比較的一括性の高いと思われる資料を選び、説明を加える。なおこれまでの作業において豊臣期の遺物を優先的に選別してきたため、包含層資料の場合、江戸時代以前の遺物も共に提示していることがある。

a、漆器・土器・陶磁器

① 4 A 溝11

9は肥前系陶器皿である。内底面は釉が掻き取られ、高台は削りだして竹節状を呈する。10は京焼系皿である。全面に施された黄灰色の釉に貫入が著しい。11は黄灰色の薄い釉に細かな貫入がみられ、底部外面にへら描きを有する。13は磁器染付皿であり、釉下に化粧土をはさみ、細かな貫入と青黒いコバルトの発色をみる。高台は露胎となっている。14は肥前系染付皿である。外面の唐草の省略が著しい。

なおこの遺構ではほかに1690年～18世紀前半の有田型紙刷り、中国製赤絵および幕末の肥前系染付がみられる。

② 1 A 土坑 2

17・19は18世紀後半、16は1780～1810年代頃の広東碗並行期の蓋である。20は1780～1810年代頃の肥前、22は18世紀前半～中葉の肥前磁器であり上質で特殊な器形を呈する。25は18世紀後半の肥前、26は1820年代頃で緑絵の具の焼き継ぎがある肥前系端反り碗、27は18世紀後半の蓋付きの身である。腰の張った体部と外反りの高台を特徴とする。29は18世紀前半～中葉の肥前皿、30は18世紀前半～中葉、33は18世紀の白磁、お歯黒用うがい碗、34・35は18世紀中葉～末である。

23・28・31・36は青磁染付である。いずれも18世紀後半で、36は18世紀後半の筒江窯の可能性はある。

21・32は18世紀後半頃の波佐見系染付と白磁碗、37は18世紀後半～19世紀初頭の広東碗の古い時期に並行する肥前系の仏飯器である。

ほかにこの遺構からは18世紀前半の陶胎染付、筒江窯の青磁染付、樋口窯で宝文様を施したもの、底部外面に「奇玉珍元」を記した鉢、昆虫文様、清朝磁器に類似した内外面につながる龍のモチーフを施したものなどがある。時期は18世紀後半～19世紀初頭を中心とする。

③ 1 B 土坑 1

57・58・59・60・61・62は波佐見系の皿である。

15は18世紀前半の肥前、63は18世紀前半、64は1690～1730年代頃の有田で山形の波文に特徴がある。65は18世紀前半の肥前、66は18世紀前半、67には1690年～18世紀前半の古手のコンニャク印判がみられる。底部外面のコンニャク印判は珍しい。68は1690～1730年代頃の肥前、73は17世紀末～18世紀前半の肥前蓋もの磁器、70・75は18世紀前半の肥前陶胎染付、77は1690年～18世紀前半の有田である。

この遺構からは、ほかに吉田窯、南川原窯ノ辻窯などの製品もみられ、時期は17世紀末～18世紀前半までに比定される。

④ 1 B 土坑 2

80は1840～60年代頃であり太い筆で粗いタッチの文様が描かれた染付磁器。

81は18～19世紀初頭の肥前系、84は18世紀前半～中葉の肥前、86は18世紀前半～中葉の肥前、88は1820～60年代頃の端反り碗の蓋、90は18世紀末～19世紀前半、91は19世紀前半であり呉須の発色は江戸後期の特徴である青黒い色を呈する。2重枠取りの「宣徳年製」銘をもちウィローパターンの山水文を描く。92～94は1820年～幕末の肥前系端反り碗、95は19世紀初頭～幕末の肥前、96は19世紀初頭から幕末、97は1820年～幕末の肥前系端反り碗、99は19世紀前半で有田以外の肥前系広東形碗、100・101は19世紀初頭～幕末の肥前系である。

60・79・82・83・89は波佐見系染付磁器である。79は18世紀後半～19世紀初頭、82は18世紀後半。

80・85・98は瀬戸美濃系である。85は18～19世紀初頭で内底面に五弁花を簡略した文様を配する呉須絵陶器。98は19世紀の端反り碗で胎土は瀬戸美濃系だが、焼成は関西系窯の可能性が強い。

なおこの遺構からは、ほかに瀬戸美濃窯で広東碗の流れをくむ帆掛船と18世紀後半の波佐見系の特徴を模倣した製品、焼き継ぎのある有田の色絵碗などがみられ、時期は19世紀で幕末までの頃に比定される。

⑤ 1 B 土坑 3

102は67と同製品。104は18世紀前半～中葉の肥前、103は19世紀～幕末、105は1780年～幕末で口錆を施し、いずれも呉須はこの時期に特徴的な青黒色を呈する。

⑥ 4 A 土坑226

131は陶器蓋である。外面に重ね焼の痕跡を有する。134は鉄釉の瘦瓶である。底部外面に砂目が巡る。135は青緑色釉の施された小瓶である。136は磁器小壺である。高台以外に薄い黄灰色の釉が施されている。137は陶器小盃である。内面と体部上半に薄い灰色釉が施される。139は磁器染付の碗である。高台内面に「大明年製」の銘をもちコバルトの発色は薄青黒を呈する。140は肥前系青磁大皿である。口縁端部はわずかに外反し、内面に片切彫りで草文が描かれている。

⑦ 4 A 土坑264

141は京焼系筒形容器である。142は備前窯系の匣鉢である。143は土師器灯明受皿である。油溝は半月状で轆轤を使用しており、底部は糸切りを行う。底部以外は透明釉を施す。144はロクロ成形の土師器皿である。胎土は緻密で白色を呈する。外面に薄い灰緑釉が施され底部外面に墨書がみられる。145は陶器小鉢である。薄い褐色の釉が畳付き以外の全面にみられ、体部外面中位に一条の凸線が巡り、1カ所で靱痕がみられる。146は肥前系の青磁染付鉢である。見込みには蘇鉄と縁側が描かれ、裏銘は二重角に渦福である。147は土師器蓋である。輪花状の鏝を有し、型押しで葵文と桐文の陽文を施す。なおこの遺構からは他に1780～1810年頃の鬢付油を入れる瓶、仏飯器、波佐見系、瀬戸美濃系、焼き継ぎなどがみられる。

⑧ 5 A 調査区土坑31

148～231・261～263・306・312は5 A 調査区土坑31からの出土である。土坑31は、調査区東南にひろがる大形の土坑であり、形態的には円形または隅丸方形の土坑の連続した状態を示す。層位的には豊臣期の遺構面を切り、2枚の焼土層には含まれた礎石建物群の基盤層を構成する一部にあたる。なお同様な遺構の性格については、隣接する大阪府中央体育館での調査により粘土採掘土坑との指摘がなされている。

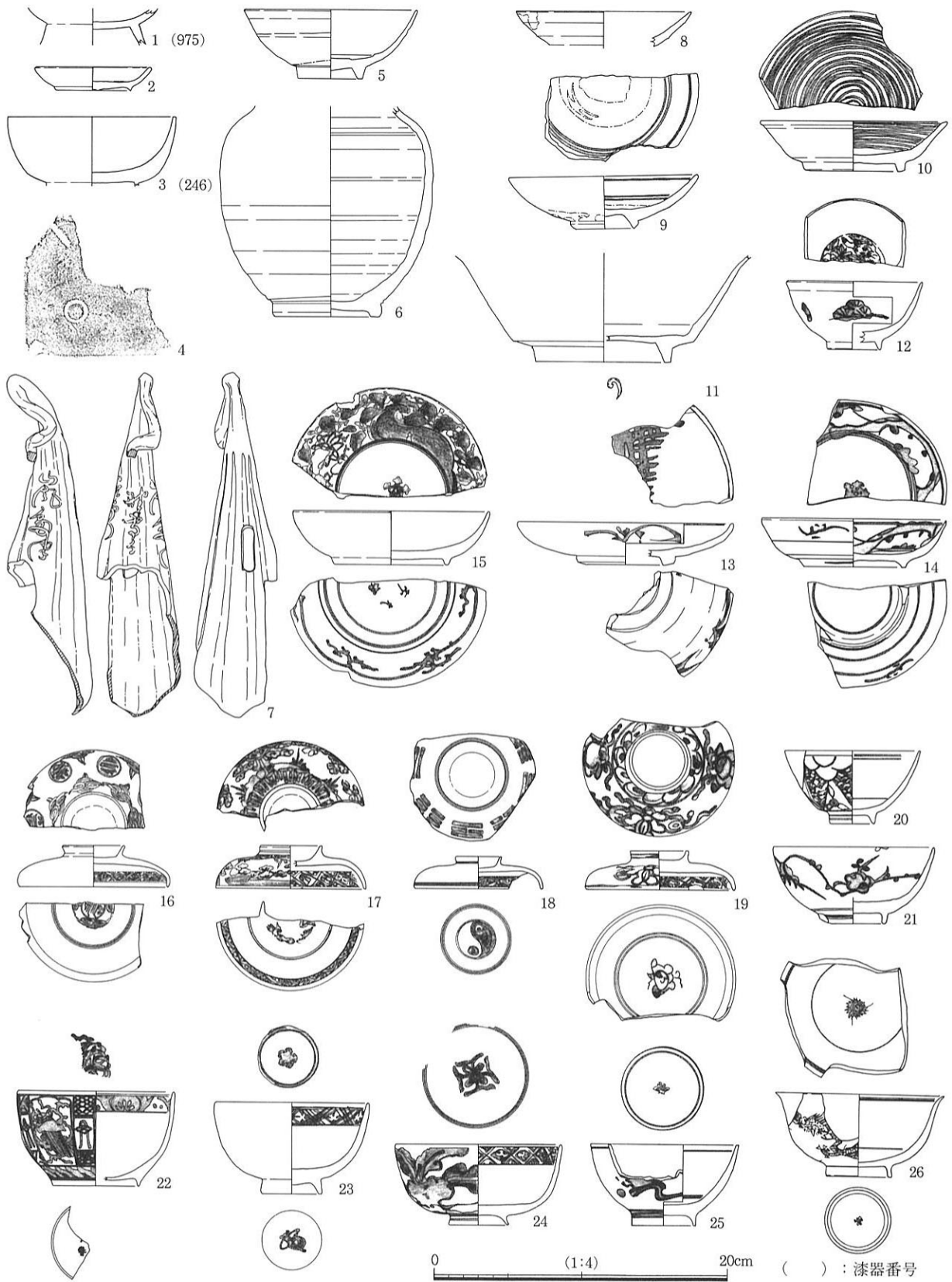


図48 漆器・陶磁器・土器 1

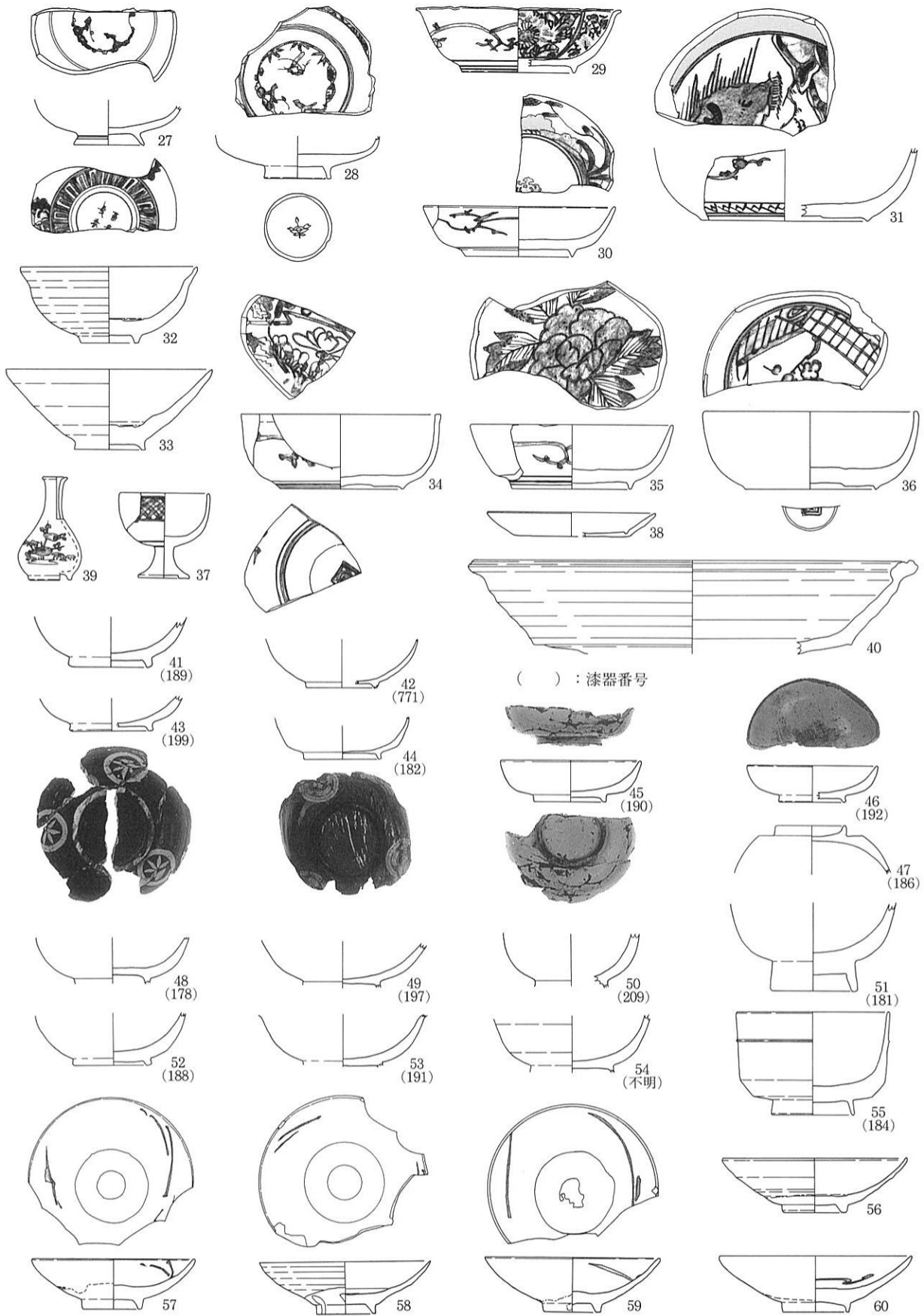


图49 漆器·陶磁器·土器 2



図50 漆器・陶磁器・土器 3

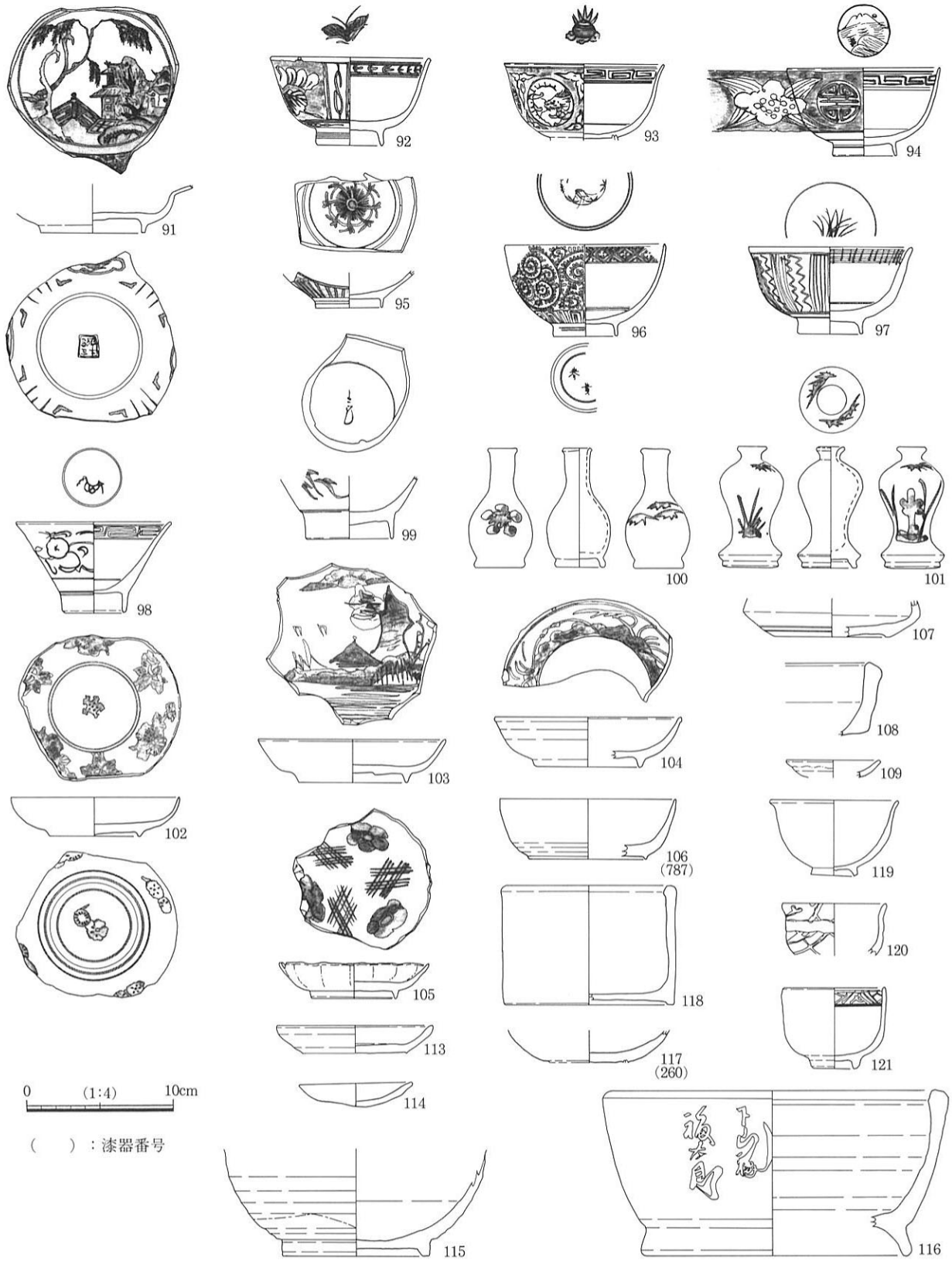


图51 漆器·陶磁器·土器4

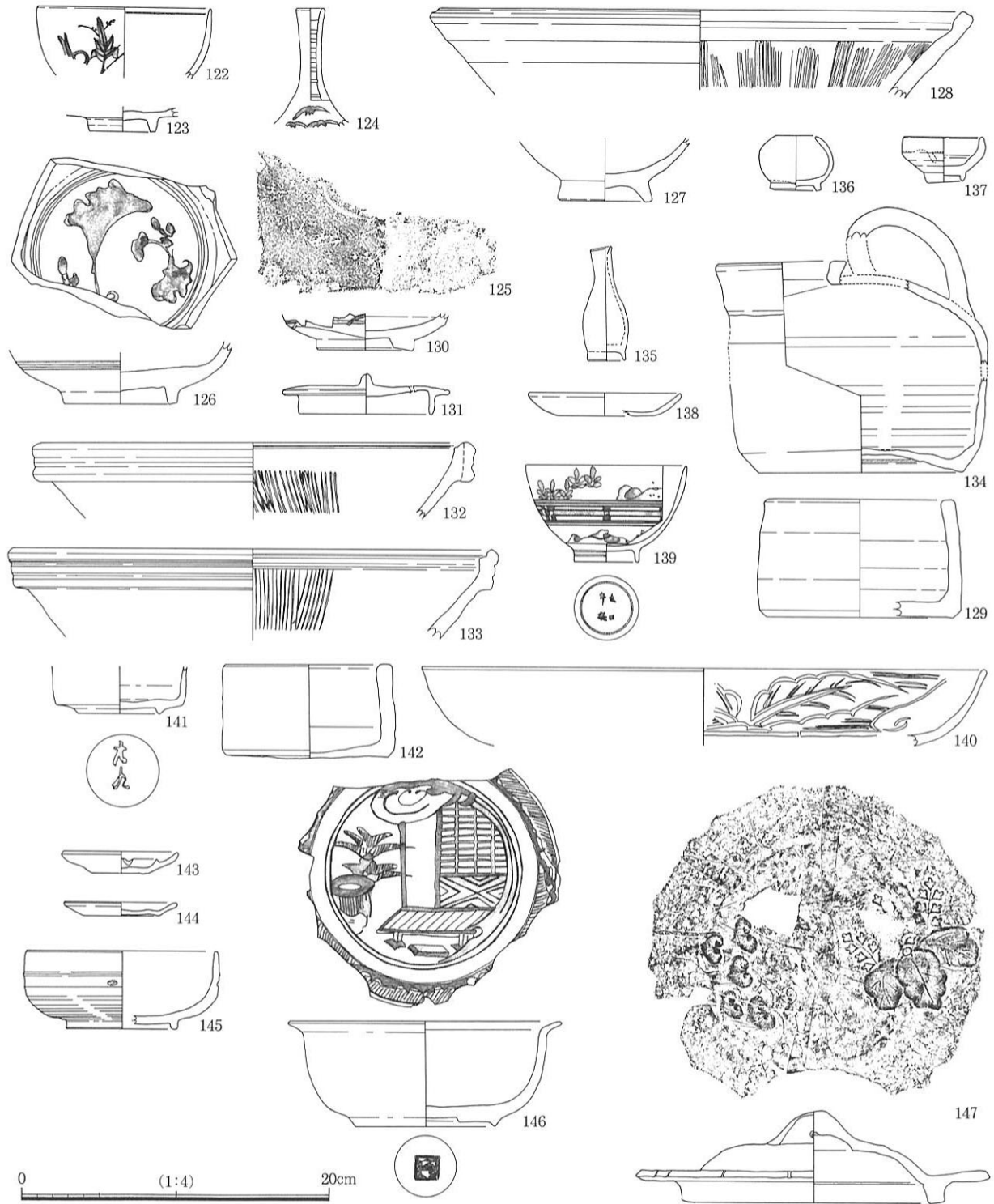


図52 漆器・陶磁器・土器 5

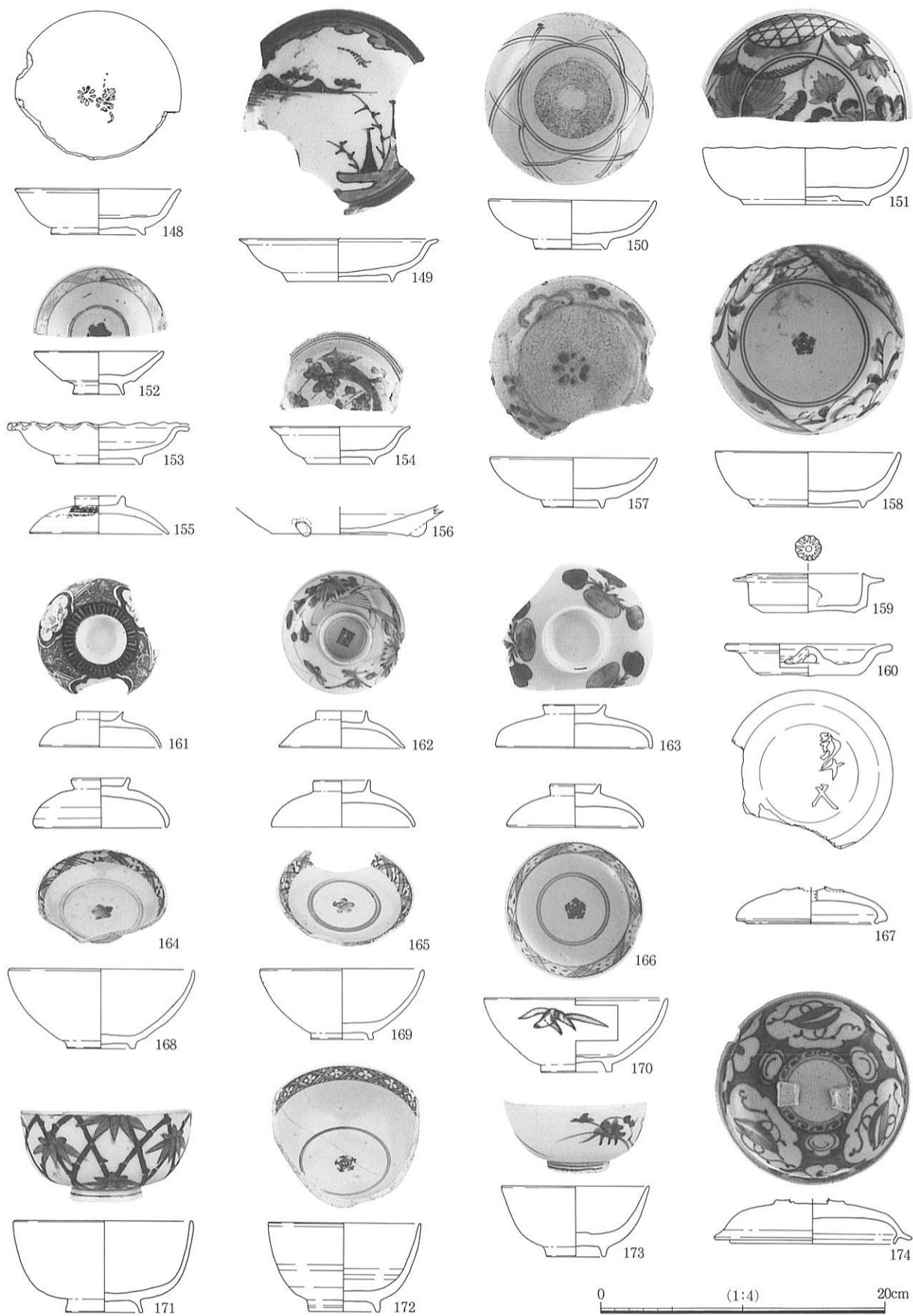


图53 漆器·陶磁器·土器6

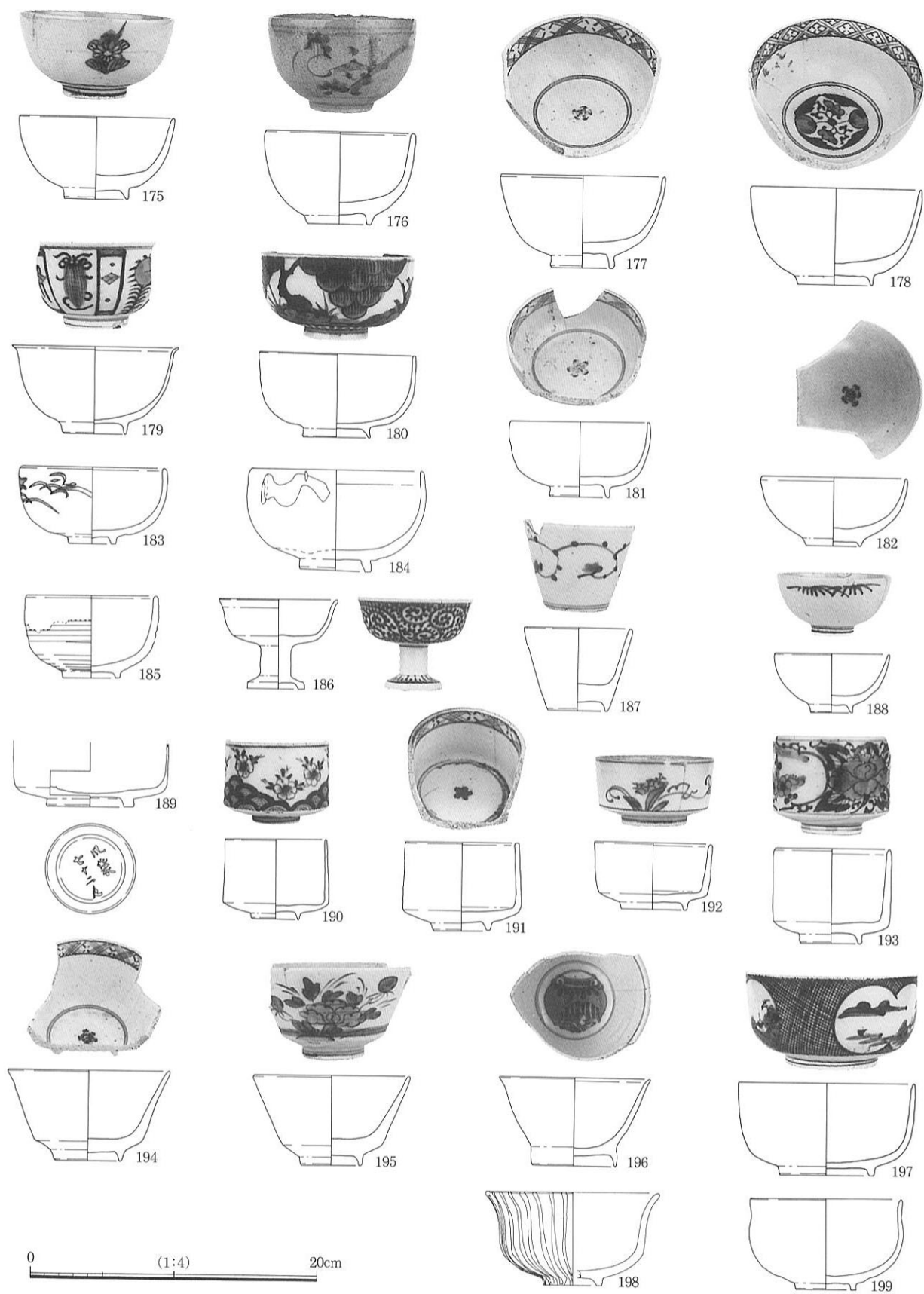


図54 漆器・陶磁器・土器 7

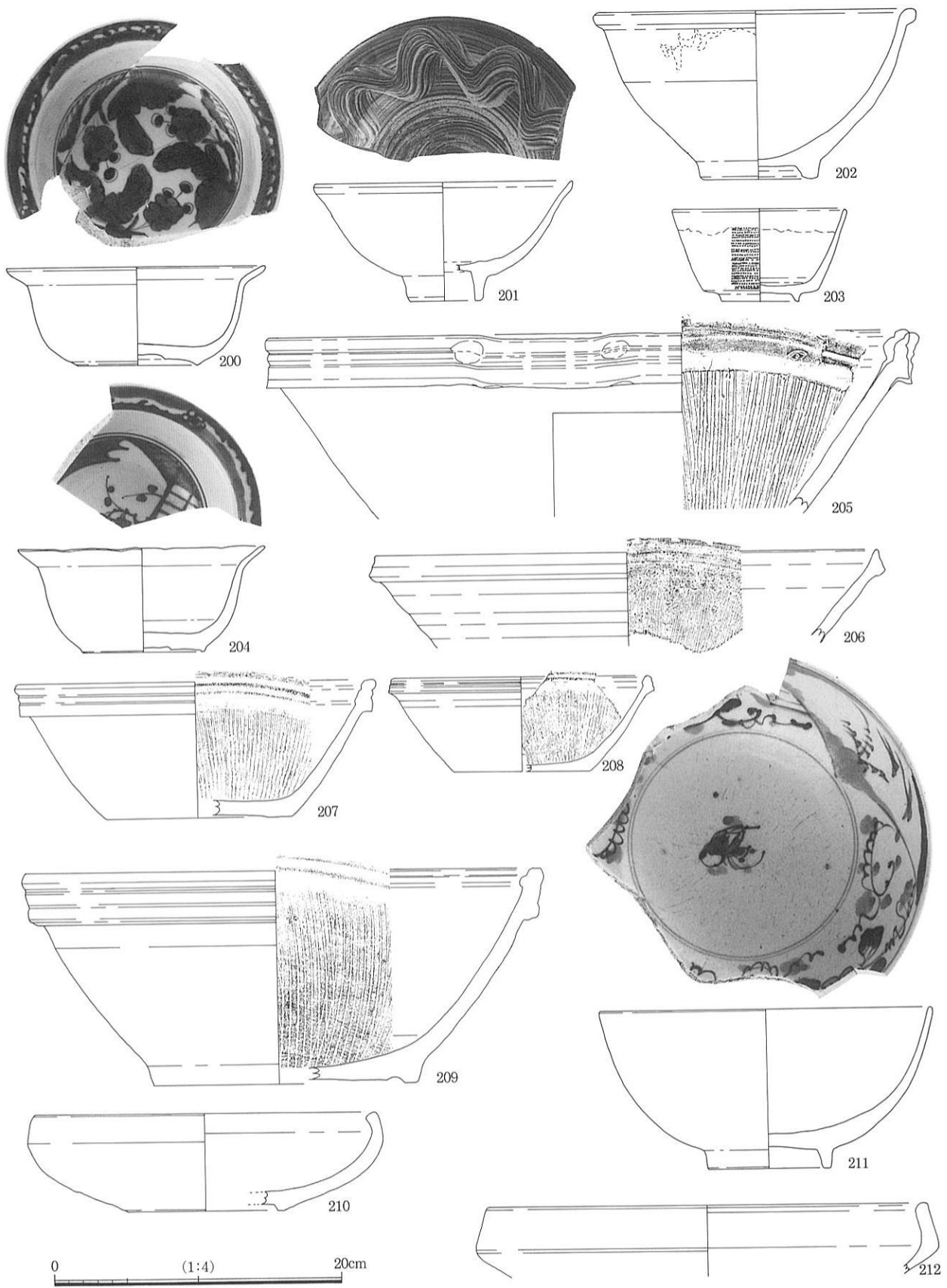


图55 漆器·陶磁器·土器 8

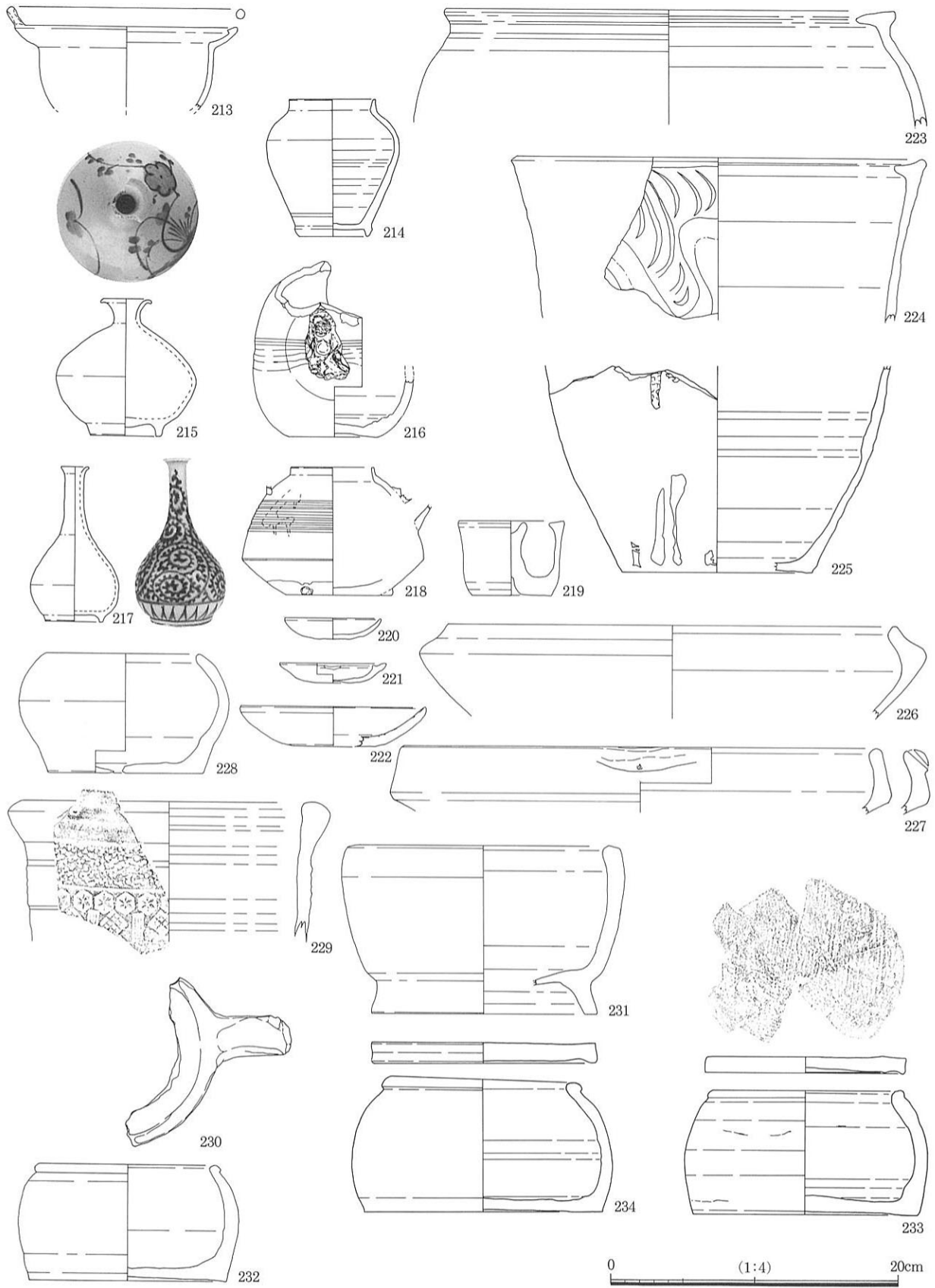


図56 漆器・陶磁器・土器 9

とりあげた遺物は、土器・陶磁器・石製品・金属製品の多岐におよび、その破片数は756を数える。
 149～151・154・157・158・161～163・171・173～176・179・180・182・186～188・190・192・193・
 195～197・211は染付磁器である。161～163・174は蓋でいずれもつまみを持つ。162は薄い青色の釉が
 施され、中国製の可能性がある。161は色絵である。163は内面にも同様の蕪を配する。174は受け部の
 一部を削り取っている。149～151・154・157・158皿である。154・158・151は外面に唐草を描く。157
 は陶胎で文様も粗雑であり、151の口縁端部は平坦に仕上げられている。

171・173・175・176・179・180・182・186～188・190・192・193・195～197・211は杯・碗類である。
 法量は大きく大小に分けられるが、大形はさらに器形と連動して細分することができる。器形はいわゆる丸碗形で体部が内彎してそのまま立ち上がるもの（182・188・173・175）、深碗形で体部下半の張るもの（171・180・197）と同器形で口縁部の外反するもの（179）、直口形で体部が直線的に外上方へのびるもの（195・196）、および筒形（190・192・193）に分けられ、190は陶胎染付の特徴的な器形を示す。196は外面に唐子を、179は内底面に宝文様を外底面に角文字を、211は外面に唐草文、底部に寿を配し、171の内底面は松竹梅である。

148・153・155・156・159・160・168～170・183～185・189・198・199・201～203・205～210・213・
 216・218・223・224・261は陶器類である。155と203はセットであり外面に透明度の高い釉を施し、共に口縁部のみ褐色の釉をかける。262は志野釉で外面に方格の文様を施す。263は京焼き系の灰黄色釉である。159は褐釉、160は志野釉、185は体部下半に複数の段を配し内面と上半は灰釉、下半は鉄釉である。183・184共に暗灰黄色の釉が施され、鉄および藍で文様が描かれる。183は京焼き系であろう。198は志野釉に外面は縦位の鉄とコバルトの線が描かれる。168・169は黄灰色の釉が斑に発色している。

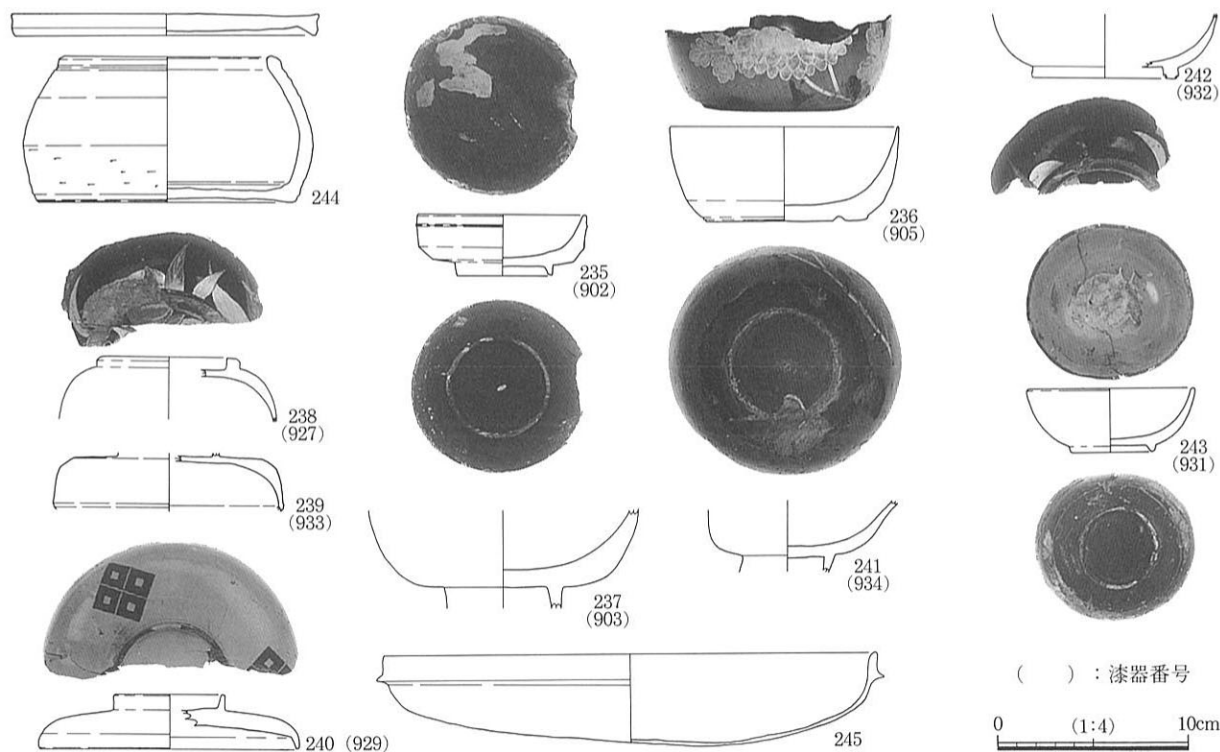


図57 漆器・陶磁器・土器10

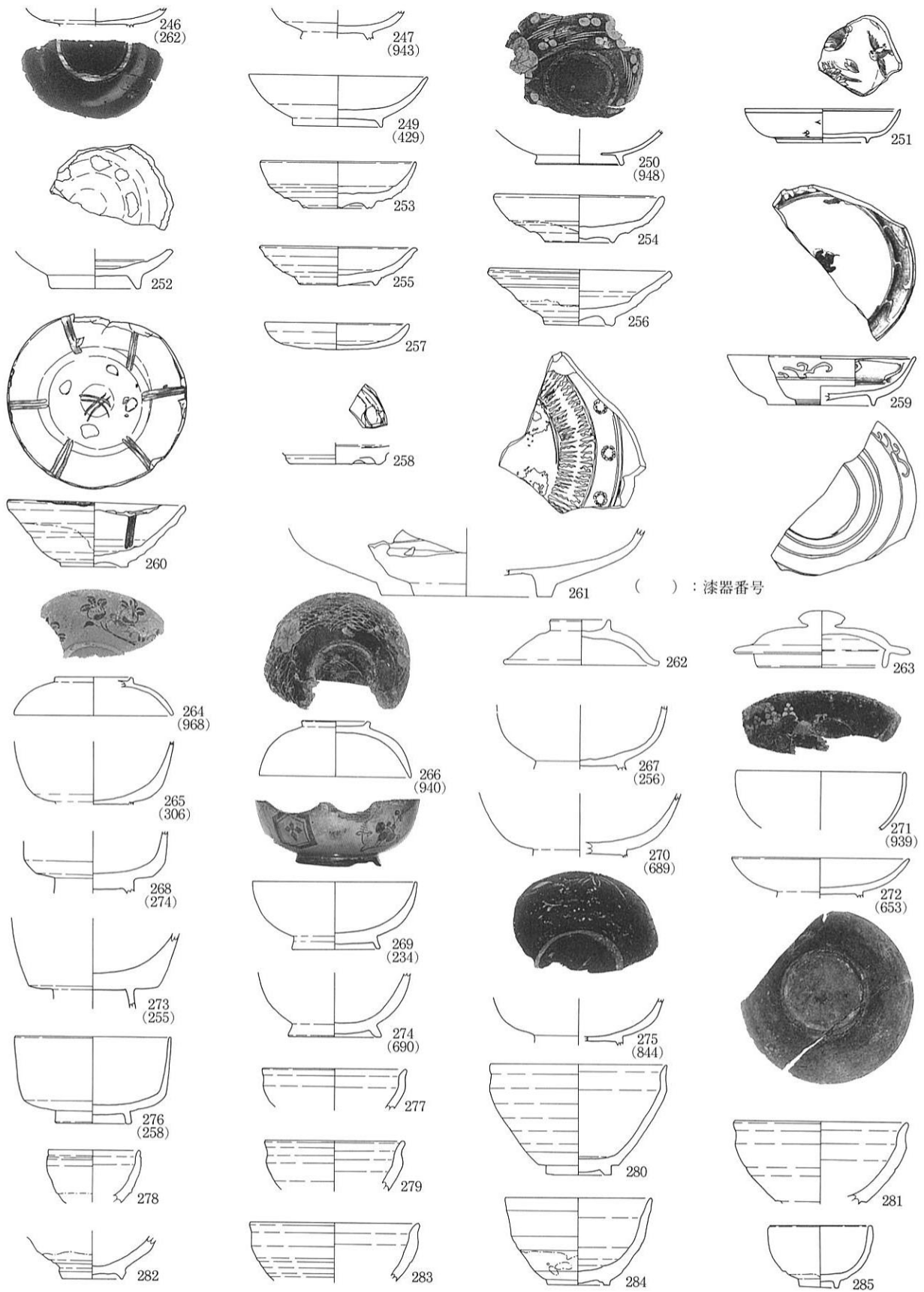


図58 漆器・陶磁器・土器（包含層）11

189は京焼き系で内面に3カ所の目跡がある。148・153・170・199・210・224・306はいずれも灰釉であり、210・224は瀬戸・美濃系の特徴をもつ。202・216・213の胎土は暗赤色で細密であり、202は内面も全面に施釉されている。218・156は鉄釉で218は土瓶形の底部であろう。223は灰褐色の胎土をもち口縁部外面に暗緑色の降灰釉を残す。206は丹波系播鉢、205・207・208・209は畿内系播鉢と考える。

212・219～222・226～229・230・231土器類である。219～222はいずれも灯火具であり、褐色の釉が薄く施されている。ロクロ成形である。228は土師器小壺であるが、表面には薄くススが吸着している。212・226・227は焙烙形であるが、226は内外面共に磨きが施されている。229・231は火鉢類であろう。229は瓦質焼成で外面に多様な印文を施す。

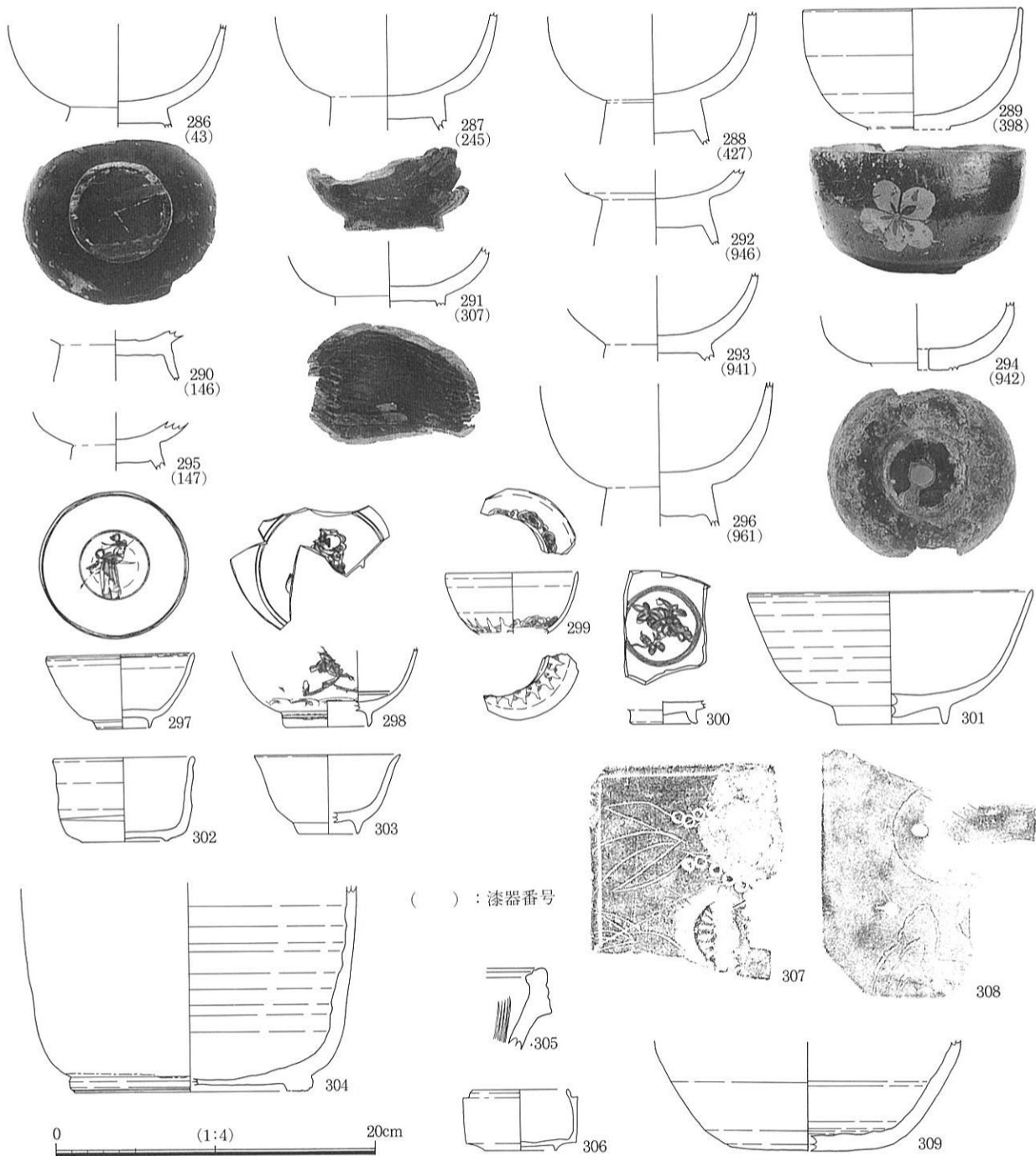


図59 漆器・陶磁器・土器（包含層）12

b、焼塩壺

焼塩壺は今回の調査対象範囲内で505点を個別登録している。出土状況下における時期区分で見れば、このうち三の丸築造以降で徳川氏による大坂城再築以前とされるものが174点、三の丸築造以前とされるものが6点、それ以外の資料が江戸時代およびそれ以降の時期に属する。

ここでは身と蓋に分けて、主に形態の面から全ての時代資料について分類と個々の説明をおこなう。

①身

粘土板を内型に巻き付けてつくる円筒形（II群）（I～O類）と手捏ね成形により丸みをおびたもの（I群）（A～H類）に大きく分かれる。

このうちI群は大きさで大・中・小の3段階に分けられそれぞれ大がE～G類、中がB～E・H類、小がA類である。

A類は高さが8.2cm以下で、丸みを帯びた底部から直線的な体部が立ち上がり、ややくびれた頸部につながる。頸部先端は外反気味に尖る。

B類は高さが9.2cm以下で、底部際は丸みを帯び、体部は上半が径を減少させるものなど、緩やかなカーブをみせ、丁寧に調整され、明瞭なくびれの頸部につながる。頸部先端は丸く仕上げられている。

C類は高さが9.0cm以下で、頸部のくびれがB類より明瞭ではない。底部外面に圧痕がみられる。

D類は高さが9.0cm以下で、頸部のくびれがさらに明瞭さを欠き、成形はヨコナデではなく粗い指押さえによっている。

E類は高さが9.0cm前後および10.0cm前後であり、頸部の明瞭なくびれを欠き、全体に円筒形を呈する。頸部のくびれの痕跡は頸部内面のヨコナデに残る。

F類は高さが9.5cm以下で、直径が7cmに満たない細身のものである。頸部のくびれは弱く、すぼまった形を呈する。端部は尖る。体部は凹凸が激しく、成形は粗い。

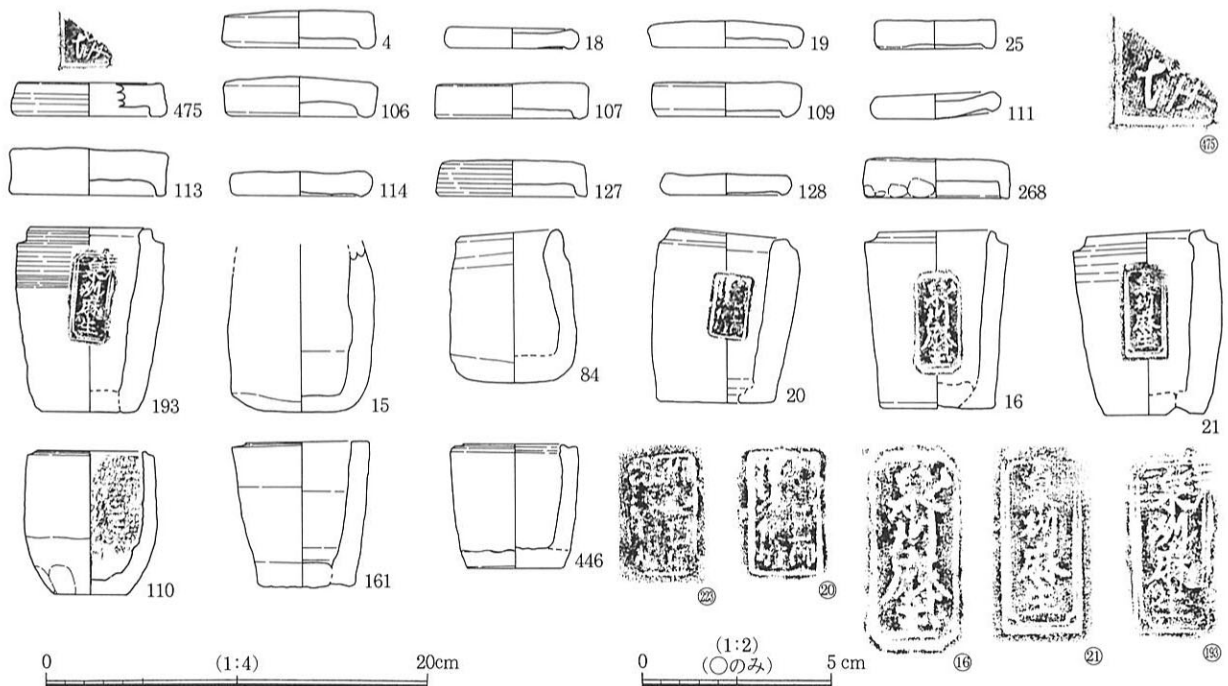


図60 焼塩壺 1

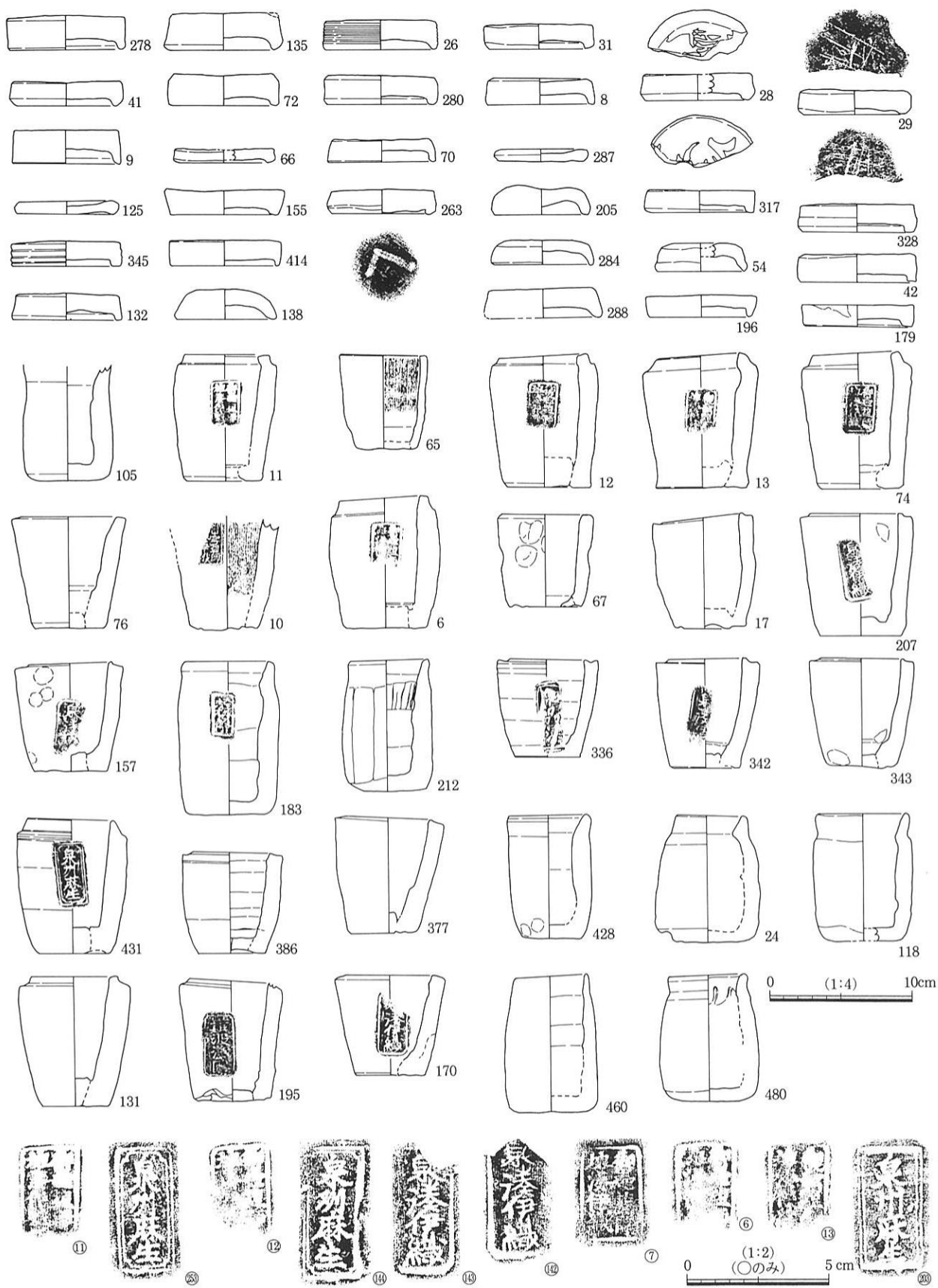


图61 焼塩壺 2

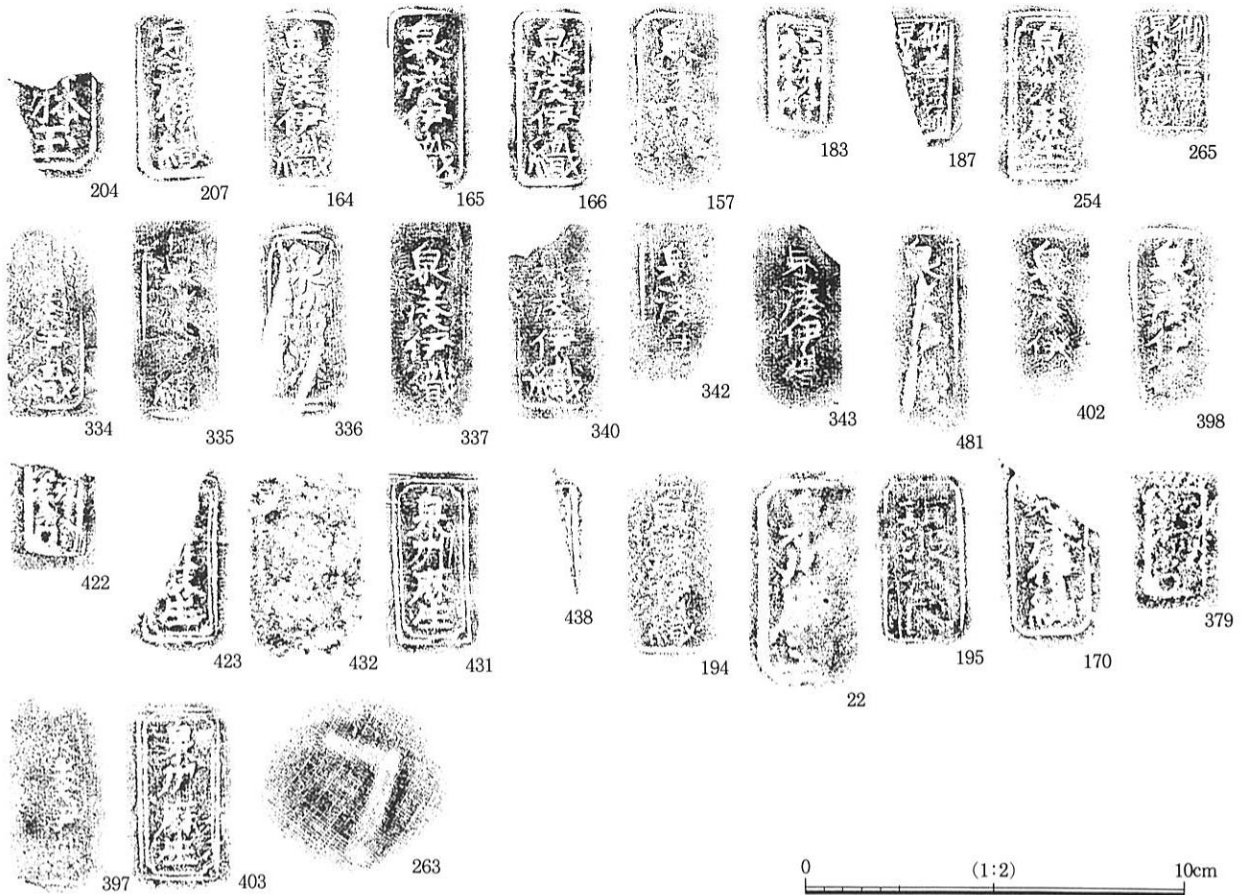


図62 焼塩壺 3

G類は高さが9～10cm程度で、直径が7cm程度のものである。くびれは明瞭さを欠き、胴部との境はなだらかに続く。また端部は丸く仕上げられる。

H類は高さが1点を除き8cm代にある。いずれもこれまでの分類に該当しない特徴をもつ。

104はB類に類似するが、B類は一般に口縁部の内側が斜め内方に下降し、断面が三角形状を呈するのに対して、この製品は当該部分が垂直に降下しており、その点で成形が丁寧なものとなっている。

51は器高に対する直径の比率が低く、また器壁も厚い。胴部は上方へ向かい直径を減少させる。口縁部は、胴部上端から段をもって成形され、明瞭なくびれはみられない。

137は平底で底部と胴部の境に丸みをもたない。胴部は中位から斜めに内方へ傾斜しそのまま口縁部につながる。段及びくびれはない。

84はA類に類似するが、頸部のくびれはほとんど見られず、その成形は指押さえによる。

15は胴部中央に焼成前の小穴（球状）をもつ。使用痕跡は不明である。

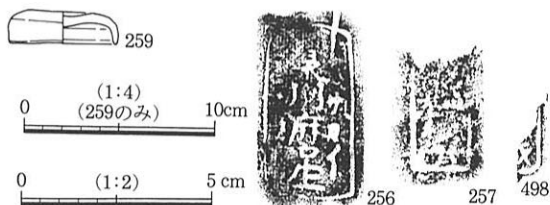


図63 焼塩壺 4

II群は基本的に口縁部の内端に成形される受け部立ち上がりの形状と規模を分類の指標とした。基本的にI類からM類へ向かって立ち上がりの発達する傾向をみることができる。

I類は高さが7cm前後である。器壁も薄く、立ち上

がりは僅かである。胴部の底部際は丸みを帯びて下方へすぼまる。

J類は高さが8 cm以下で、口縁部の立ち上がりは僅かである。底部外面に充填粘土がみられる。

K類は高さが8 cm程度で、口縁部の立ち上がりは低いが明瞭に付けられている。底部の充填粘土は底部外面を広く覆う。

L類は高さが9 cm以下で、口縁部内側に、厚さ3 mm程度の立ち上がりが設けられる。底部充填粘土の貼り込みは粗く、指押さえによる凹凸が見られる。

M類は立ち上がりの最も発達した形態である。高さが10 cm以下、直径8 cm以下を測る。口縁部に段をもった明瞭な立ち上がりをもつ。立ち上がりの高さと厚さは、共に5～10 mm程である。また胴部が内彎ぎみで立ち上がりも内傾するものもみられる。

N類は高さが7 cm代で、口縁部上面が凹線状に成形され、その結果内側が立ち上がりとして突出する。底部外面は丁寧に調整され、充填粘土の痕跡は見にくい。

O類は胴部が下半で緩やかな稜をもって内傾するもので、口縁部は凹線状の調整により、僅かに立ち上がりが認められる。

②蓋

手捏ね（I群）と内面に布痕が残る型作り（II群）に分けられ、それぞれ前者がA～C、後者がD～Q類である。

手捏ね（I群）は直径が大（A・B）小（C）に分けられ、それぞれA・Bは7 cm前後、Cは6 cm以下である。またAとBの違いは側面と天井部の境のナデにより、Aはより丁寧なナデが施されている。

型作り（II群）のうち、D～L類は器壁の厚さでD・E類（1 cm未満）とそれ以外（1 cm以上）に分けられ、F～L類は内面の側面へのカーブが角をもつものともたないもので2分される。またD・F・H・J類は天井部と側面の境が角をもつもので、E・G・I・K類は当該部分が丸く仕上げられたものである。なおH・I類は下面丸みをおびて内傾するものおよび当部位に面取り状の調整を受けたものである。さらにL類はK類と形態を共通にするが、とくに胎土の精良な一群を独立させた。

M類は断面形が逆「ハ」字状を呈するもので、そのほかの特徴はF類と共通する。

N類は断面形が「ハ」字状を呈するもので、内面と側面との境はゆるやかにつながり、下面の外端はH・I類同様の特徴をもつ。

O類は断面形が「ハ」字状を呈するもので、内面と側面との境に角をもち、側面の器壁が厚く、下面が膨らむ特徴をもつ。

P類はJまたはF類の形態で、側面の外面に平行沈線が施されている。

Q類は形態の特徴以外に、墨書・スタンプなどを施された一群である。

R類は胴部が球形などこれまでの分類に該当しない一群である。焼塩壺でない可能性も考慮したい。

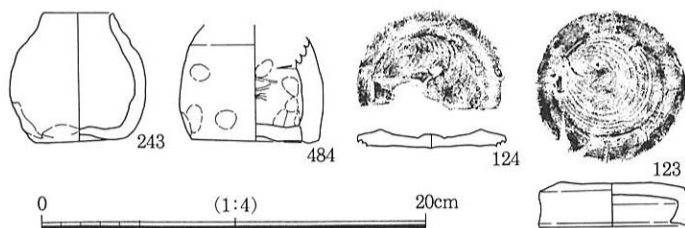


図64 特殊土製品

そのほか特徴的な例を補足する。

蓋では205は上面が丸みを帯び、厚手の皿を逆にして真ん中をへこませたような形態である。8は逆凹字形の断面を呈し上面は平坦である。上面と側面にナデが施され、内面に布目圧痕が見られる。296は8とほ

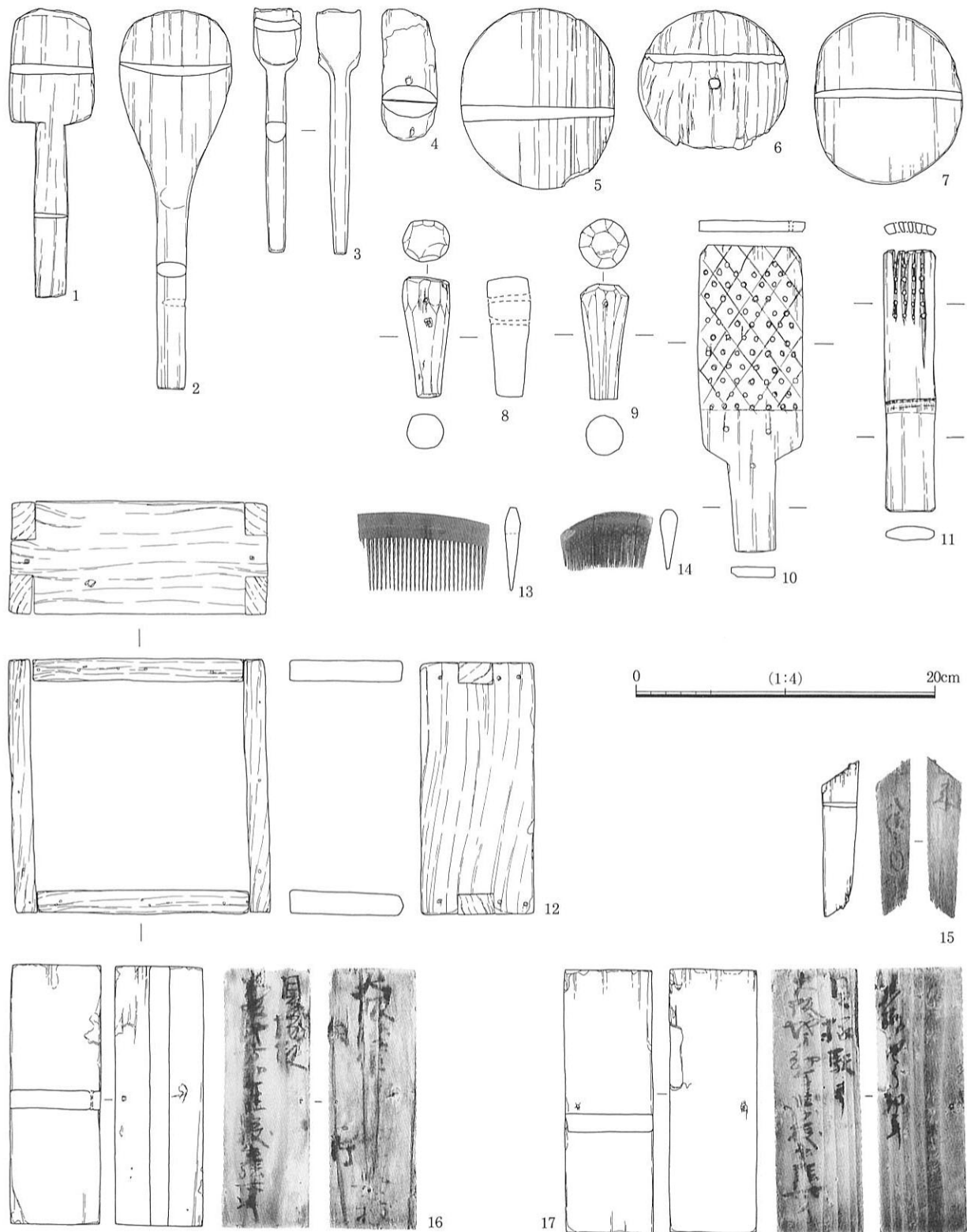


図65 木製品 1

ぼ同様の形態であるが、皿状部分の深さがやや浅くなっている。125は円盤状で内面に布目圧痕を残す蓋である。上面には指押えの痕跡がはっきりとみられる。155は8と同様な形態であるが、側面がやや内傾している。内面には布目圧痕が見られる。123は逆凹字形に近い断面ではあるが、ロクロ成形の蓋であり、上面には糸切り痕を残す。皿状部分が深く、器壁は他のものより薄い。

身では243は小型で胴部が膨らんだ短頸壺状をしている。器厚は非常に薄い。2は小型で器厚がきわめて厚いコップ形をしている。92は筒形で口縁部がややすぼまる形態の身である。口縁部は指頭とナデで調整されている。12は粘土板1枚による板作りであり、口縁部に蓋受けが作り出されたコップ形をしている。『御壺塩師堺湊伊織』のスタンプがみられる。193は12と同様の形態であるが、胴部の一部の仕上げにロクロを用いている。『泉州麻生』のスタンプがみられる。343・157も12と同様の形態であるが、口縁部の蓋受け部分が退化し痕跡的になったものである。やや小型化しているのが分かる。それぞれ『泉湊伊織』のスタンプがみられる。

377は蓋受けの痕跡がわずかにみられる程度である。スタンプはみられない。195は板作りであるが、『難波浄因』のスタンプがみられる。207は『泉湊伊織』のスタンプのある板作りの身である。

c、木製品

江戸時代以降の出土状況に属する資料は63点が個体登録されている。

1～4・18は杓子・匙類であり、4は柄である。1は先端を削りだしその一角が使用により減っている。柄は端部が欠損している。2には「清」または「晴」に似た焼き印がある。3・4・18には漆が施されており、4は断面に分離線がみえる。

5～7は蓋または曲物の底板であり、6の中央には穿孔がみられる。8・9・19・20は栓である。一方の端部が細くなるように多角形に削りだし、頭部近くに穿孔をほどこす。なお19・20には穿孔がみられず、成形も断面が円形の整ったものとなっている。

10・11はブラシ状の製品である。11は竹を素材としている。共に身部分に複数の孔を穿ち、竹櫛などを差し込んでいる。工具であろうが用途は不明である。10には背面に斜格子の搔線をもつ。

13・14・21・22は櫛であり、21は合成樹脂、22は身を覆っていた金属部である。

25は竹製品であり、一方の表面に偏って2～4mm間隔の刻みをもつ。

15～17・23は墨書資料である。15は24とともに荷札の可能性が考えられる。それ以外の資料について

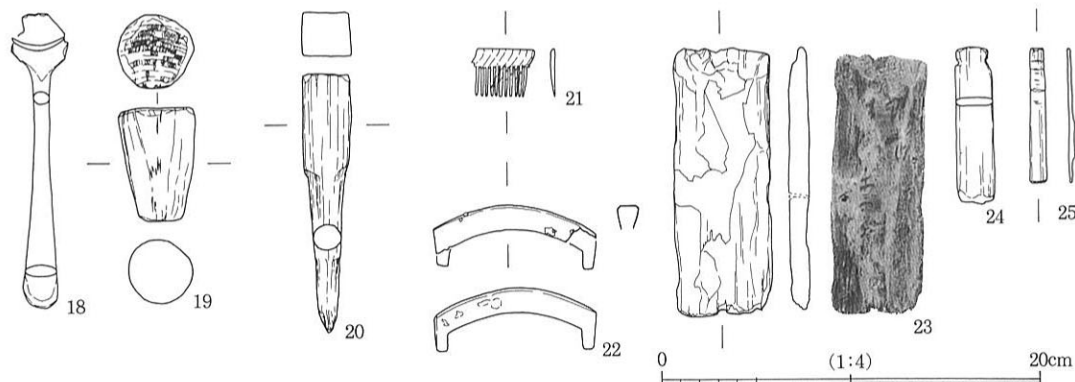


図66 木製品 2

は、方形で釘痕をもつ以外製品を特定する要素をもたない。

d、下駄

今回の調査対象範囲内で524点の下駄が個体登録された。出土状況下における時期区分で見れば、このうち三の丸築造以降で徳川氏による大坂城再築以前とされるものが192点、三の丸築造以前とされるものが216点、それ以外の資料が江戸時代およびそれ以降の時期に属する。

ここでは主に形態の面から全ての時代資料について分類と個々の説明をおこなう。

分類は、歯の成型法 (A)、前歯の位置と形および前壺との関係 (B)、後歯と後壺の関係 (C)、歯の形 (D)、下駄の平面形 (E) を基準とした。

それぞれ歯の成型法 (A) は、一木作り (I) と組み合わせ作り (II) に分けられ、一木作りはさらに前後の歯が独立したもの (1)、前歯が先端につながるもの (2)、後歯が後端につながるもの (3)、両歯共端部につながるもの (4) に分けられる。

裏形とした前歯の位置と形および前壺との関係 (B) は、前壺が前歯の外に位置するもの (1) と、前壺が前歯の内側に位置するもの (2) と、前歯を内側にくり抜きその位置に前壺を穿ったもの (3)、前壺が前歯の中に位置するもの (4)、その他 (5) に分けられる。なお2～4の前歯は大部分が先端につながるA-I-1であり、(3)のくり抜きの形状には、台形・半円形などがみられる。

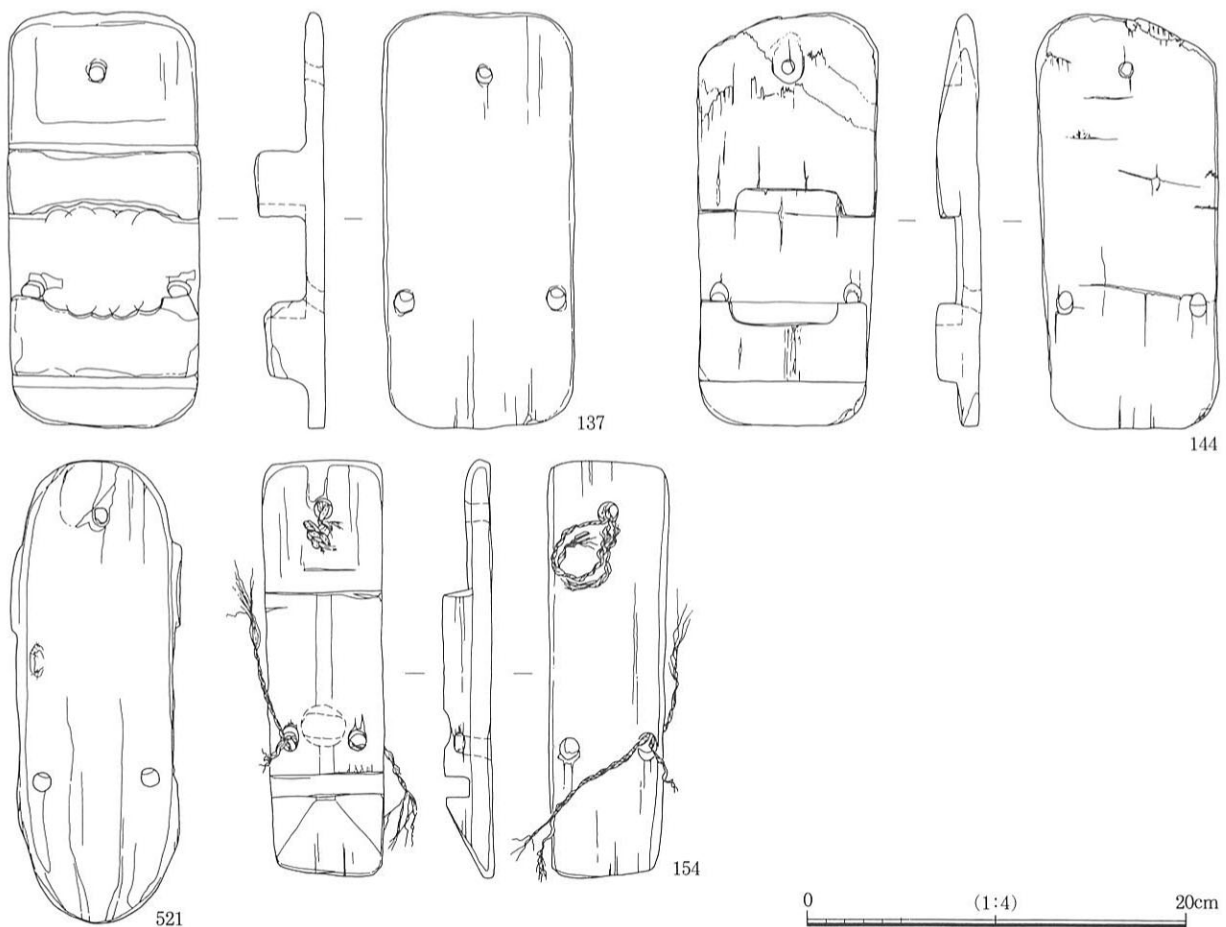


図67 下駄

またその他としては、歯と壺との位置関係は（1）であるが、歯の内側に波型または角型のくり抜きのあるもの、紐穴の部分に四角のくり抜きのあるもの、前壺部分の裏側が半円状に削られているもの、平面形は下駄状であるが歯をもたないもの、などがみられる。

後歯と後壺の関係（C）は後歯に対して後壺が内側のもの（1）と外側のもの（2）に分けられる。歯の形（D）は立面が長方形（1）と台形（2）に分けられる。下駄の平面形（E）は隅をもたない丸形状（小判形を含む）（1）と台形および長方形などの方角の隅をもつもの（2）に分かれる。

なお具体的な分類の対照は観察表を参照されたい。以下特徴的な資料について説明を補足する。

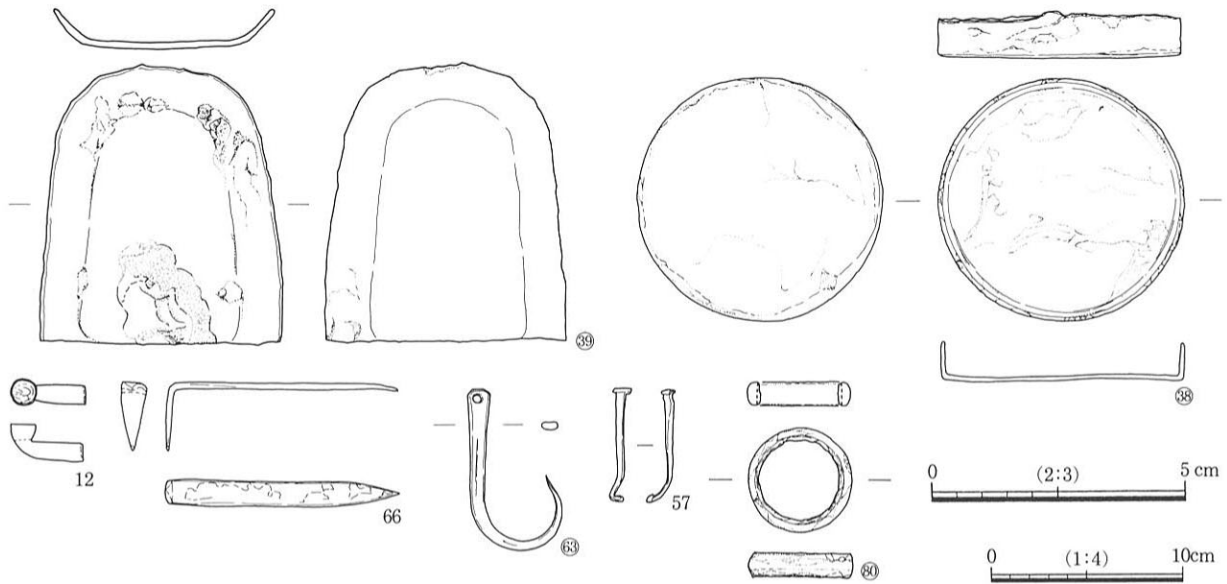


図68 金属製品 1

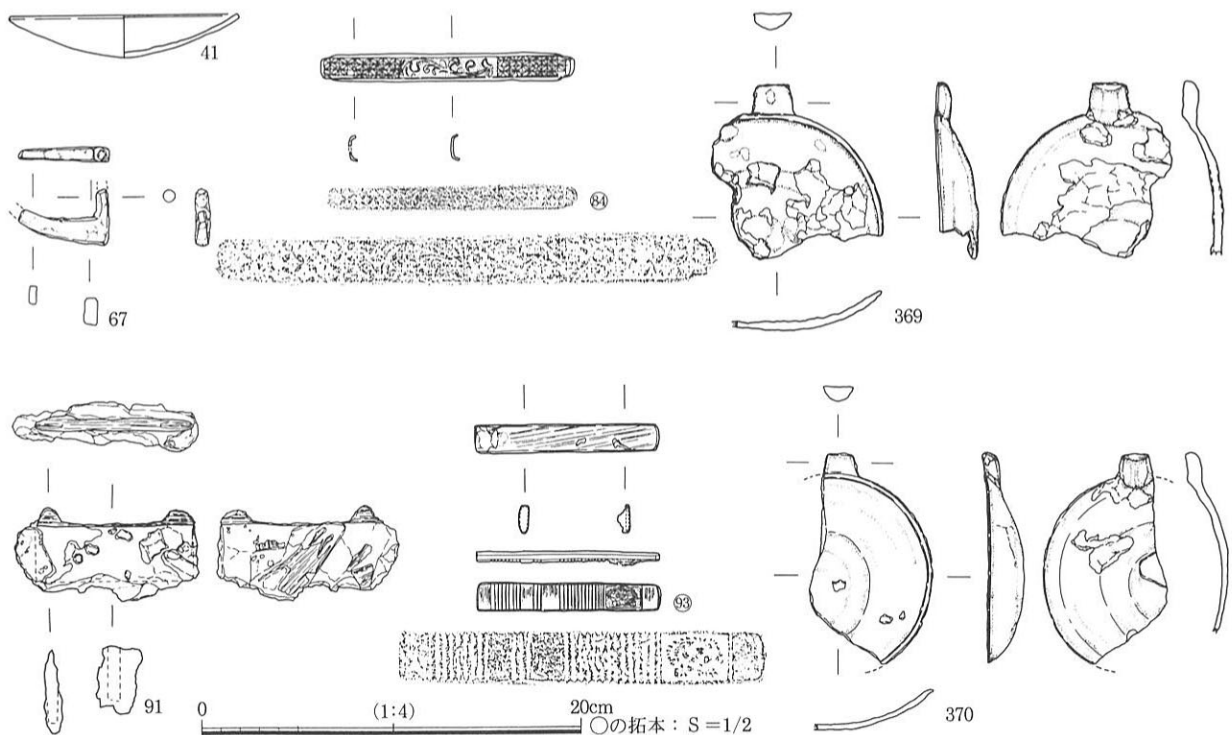


図69 金属製品 2

71は後歯の高さが5.8cmを測る。歯は下方へ広がるバチ形である。前の歯には欠損を修理した釘穴が残る。また歯の付け根には鋸の挽痕が残る。歯の側面及び台の表に黒色漆が残存している。

137の歯は丸刀状の工具でくり抜いて作られた痕跡が側面に波形に残る。類例は12点以上みられる。

391は前歯の残存高2.8cm、後歯の高さ0.7cmを測る。漆が全面に施されている。

389は歯の高さが1.7cmである。台の平面形は隅丸の長方形である。歯の接地面積は71・400と比べ倍以上あり、その幅の広い前歯の中央を四角くくり抜いて前壺を設けている。

390は組合せ式の下駄である。台の断面は裏面中央部の平坦面から両端へ向かって傾斜する面をもつ六角形であり中央部2カ所に貫通するほぞ穴がうがたれている。歯の立面形は下方へ広がる台形である。前壺の左側には数条の沈線が見られ、指痕が残る。

400は著しい摩滅により歯の残存高が1.5cmを測る。台の平面形は前端幅8.6cm、後端幅7.3cmの細長い台形をしている。歯は直線的に垂下し、付け根には鋸の挽痕が残る。

e、金属製品

金属12は銅製のキセルの雁首である。

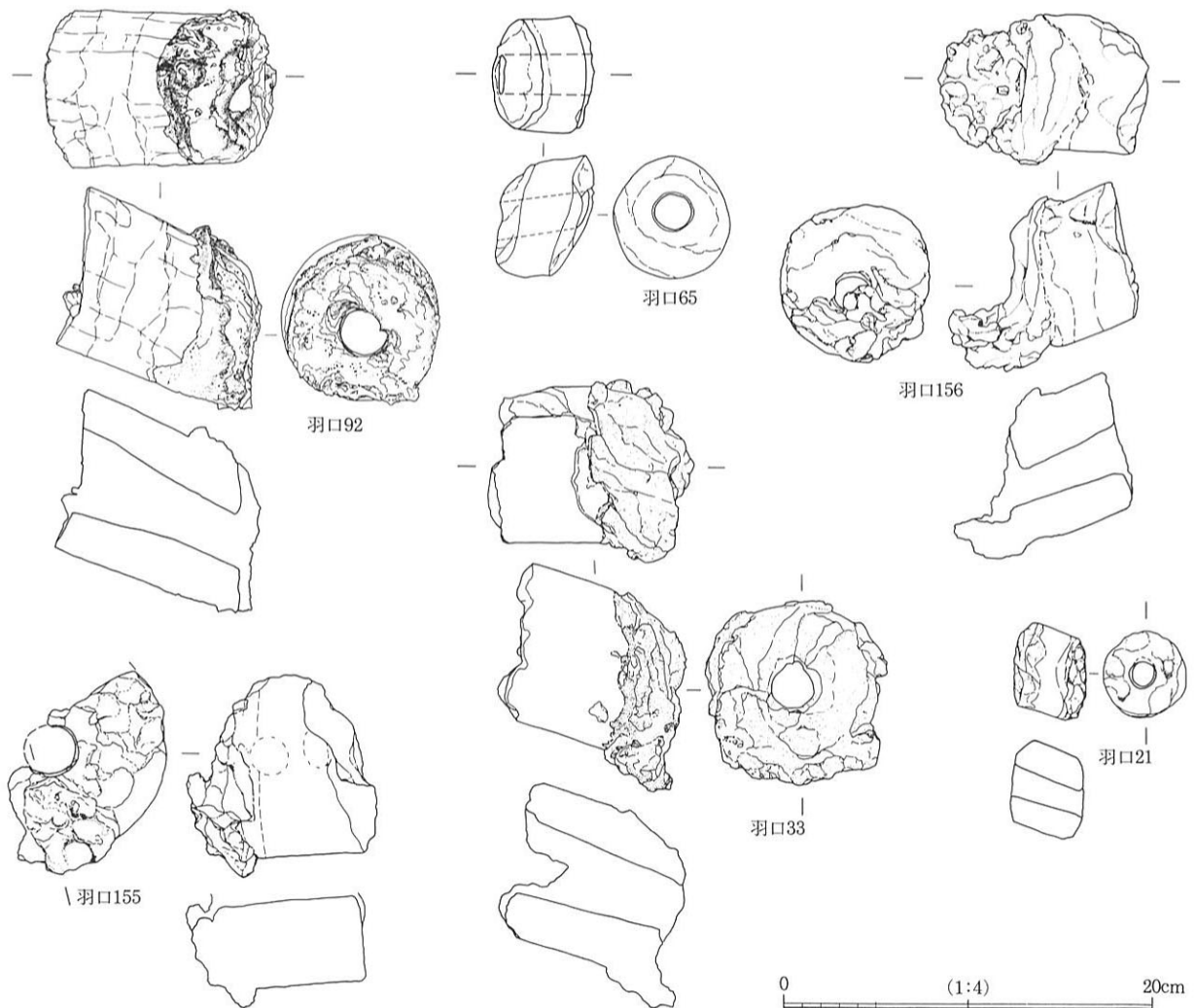


図70 羽口

金属38は平面円形を呈する蓋状の容器である。

金属39は銅製の皿状の容器である。下端を欠いており、現状では平面「U」の字状を呈する。

金属41は鉄製の皿である。口縁端部はシャープに仕上げられており、面取り状になっている。鏝の状態や割れ面の状況から铸造品と考えられる。

金属57は断面方形を呈し、頭部を四角く作り出す鉄製の釘である。使用により、先端が折れ曲がっている。

金属63は平面「し」の字状を呈する真鍮製の吊り具である。頭部は丸くおさめ、小孔を穿つ。一方、先端部は鋭利に尖らせているが、かえしは持たない。大きさやかえしの無いことから釣り針とは考えにくく、吊り具としておきたい。

金属66は鉄製の留め具である。一端を折り曲げており、両端部は鋭利に尖らせてある。形態から鋸もしくはペグなどの留め具と考えたい。

金属67は平面「L」の字状を呈する鉄製品である。本体部分の断面形は長方形を呈し、先細りになっていく。なお、先端部は折れている。上方に立ち上がる部分は断面不整形円形を呈する。鍛造品である。楔などのような性格を考えておきたい。

金属80は鉄製の円環である。円形のを固定するタガ的なものであろう。

金属84は銅製の飾り金具である。中央に唐草状の文様を、その両側に有軸の木葉文を施す。唐草状の文様は小さな点が施された地文の上にみられる。なお、木葉文が施された後に両端部近くに釘孔（径0.2cm）を1カ所ずつ穿孔する。

金属91は鉄製の「鋸形」火打ち金である。非常に鏝膨れが著しい。山形を呈する打ち込み部に木質が遺存することから木製の握り部があったことが判る。火打ち金とセットになる火打ち石は当該期の遺構や包含層から多数出土している。それらは緑灰色やペパーミントグリーン色を呈したチャート様の石材である。

金属93は小柄の柄である。銅製の铸造品であろう。断面は扁平な蒲鉾形を呈し、平坦になった側には

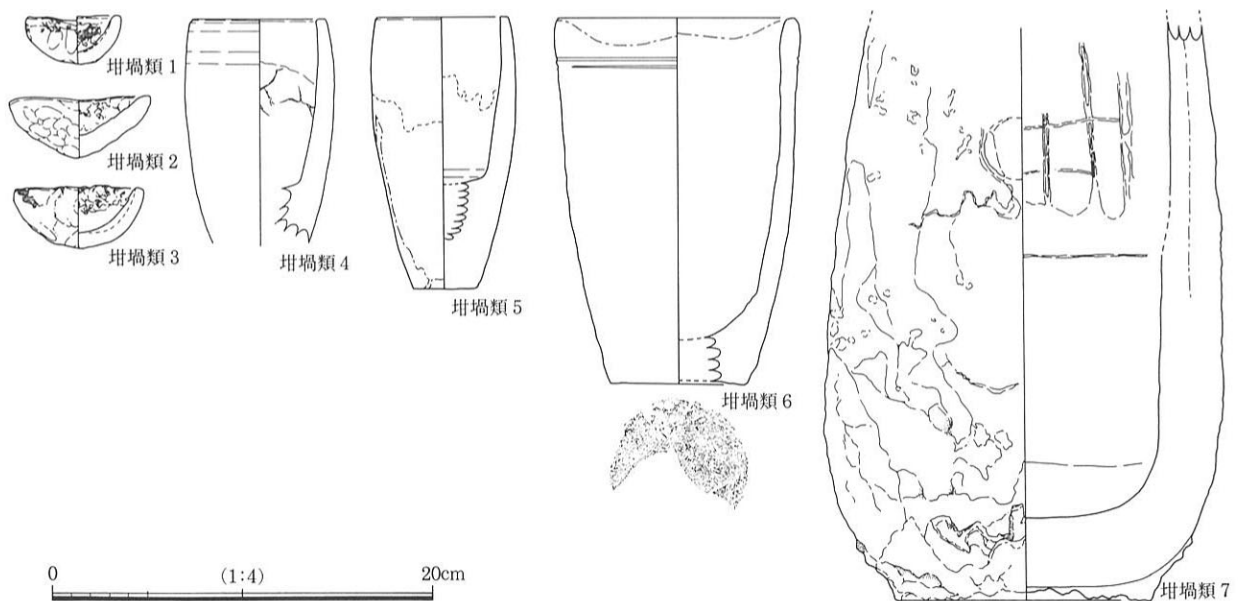


図71 埴埴類

斜方向の研磨痕が見られる。一方、彎曲面側には基部側から1・14・3・9本の幅0.1cmの沈線が刻まれ、さらには長さ1.7cm・幅1.2cmの方形区画内に伏せた龍を陽鑄している。方形区画内には細かな点が多数陽鑄されており、これが地文となっている。

金属369・370は鉄製の柄付き皿である。369・370の両者ともに柄と皿が一体成形である鑄造品。ともに錆による剥落が著しい。皿部は平面正円形を呈し、369は口縁端部を丸く収め、370はやや下方に垂れ

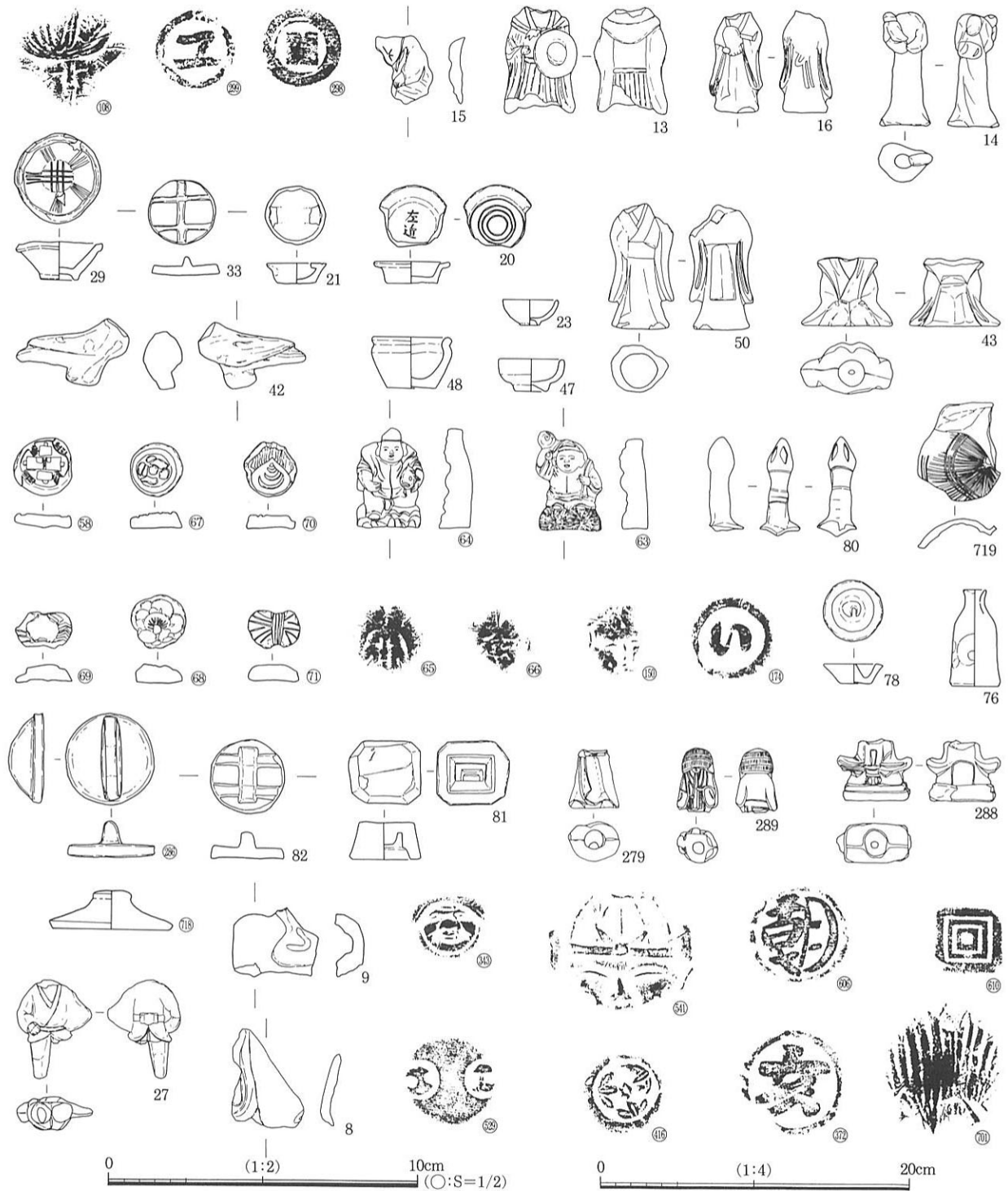


図72 土人形 1

るように尖り気味に位上げている。柄は断面蒲鋒形を呈しており、長さは369が1.6cm・370が1.1cmとさほど長いものではない。この部分を持つとすればかろうじて摘むことは出来るものの安定が悪い。従って何らかの柄を取り付けて使用したものと想定しておきたい。なお、同種のものが豊臣前・後期からも出土している。

f、羽口

いずれも鍛冶用の羽口であろう。形態は円筒形を呈する。胎土には石英・長石などを多く含み、粗いものを使用。概して器壁は厚く、通風孔径は2cm前後に統一されている。外面には丁寧なナデ調整を施している。

33・92・155・156は炉壁に据えられた部分から炉内に突出した先端部にかけての部位である。33の先端にはガラス質になった滓が厚く付着し、先端部下端に垂れ下がる。挿入角度は18度である。92の先端にもガラス質になった滓が付着している。挿入角度は20度である。156は先端部下端には分厚い滓が形成されており、通風孔を塞ぐようになったために使用不能となったものである。挿入角度は24度である。21・65は先端部である。使用による欠落が著しい。なお21は、他のものに比べて細身で通風孔径も1.3cmと小さい。



図73 土人形 2

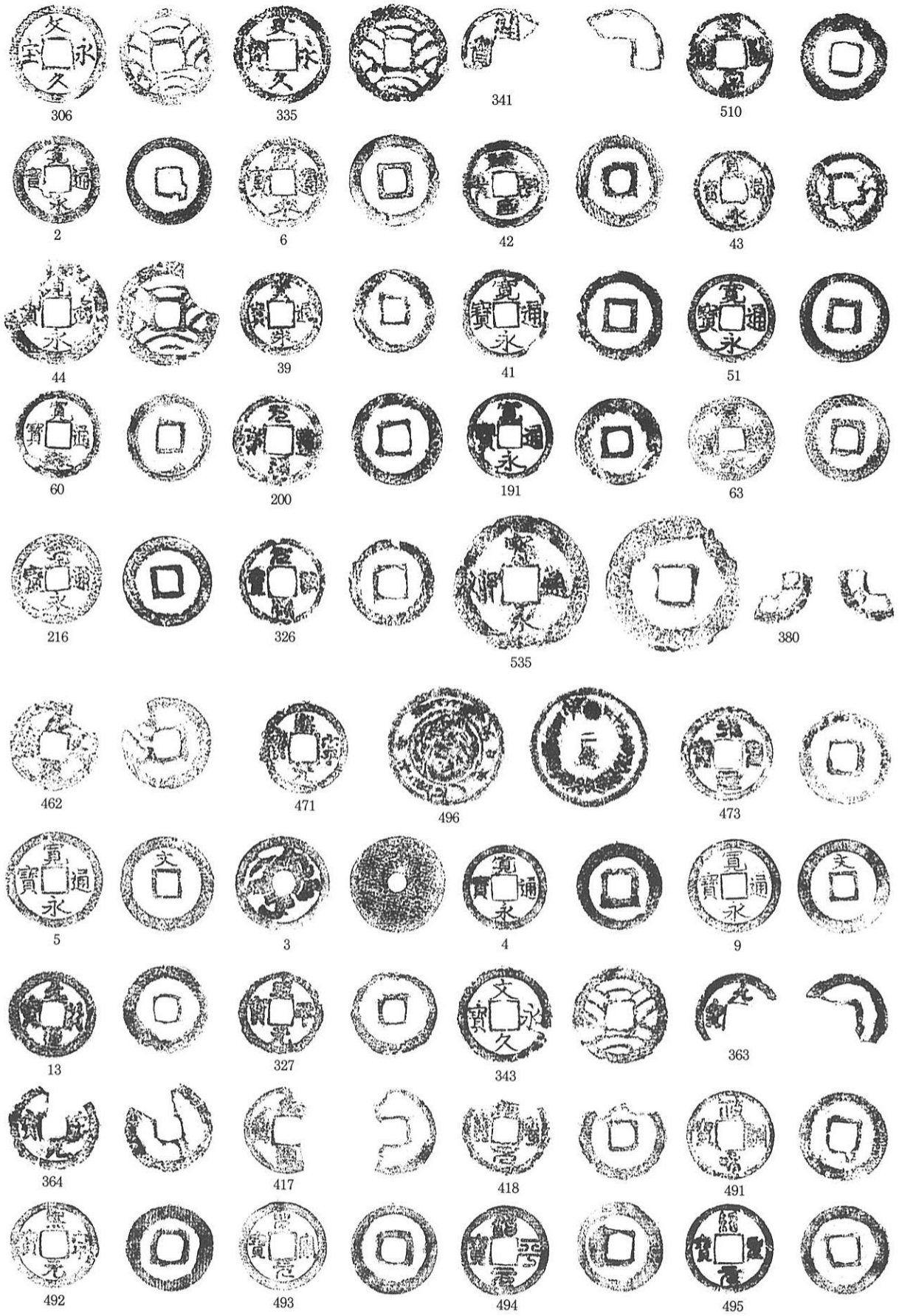


図74 銭1

g、埴塼類

1～3は半球形の土製埴塼、4～7は紡錘形の埴塼である。

1は約3/5の残存である。胎土には砂粒を含み粗い。内面と口縁部にガラス質のスラグが付着する。2は底が尖り気味で平面形も歪みがみられる。砂粒が多く内面に薄く赤色化したスラグが付く。3も赤色化したガラス質の滓が、とくに口縁部内面に厚く付着している。

4～6は明灰褐色の粗い胎土を有し、5は外面に黄色と赤色の融解したガラスが付着する。内面には金属滓らしきものは認められない。6は未使用品であろう。口縁部の一部が灰色に変色している。

7は砂粒の多い暗灰色の胎土をもつ。外面に厚く赤色ガラスが融着している。内面には分割成形の際の痕跡が残る。

h、土人形・土製品

いわゆる土人形は「人形」、「土面子」、「ミニチュア土器」に分けられる。今回の調査対照範囲からは約700点が個体登録され、犬形の2点と人形の1点を除き全ては江戸時代以降の出土状況下にある。

分類は2段階に分けて行った。第1の分類項目と数は、面(5)、家具(8)、魚(10)、型(9)、建物(16)、食器(108)、神・仏(57)、人物(109)、銭(1)、太鼓(3)、鳥(26)、土面子(33)、灯火具(14)、動物(113)、遊具(3)、鈴(11)であり、その他(30)、人物・動物・食器の組み合わせて、最も多い数を占める。

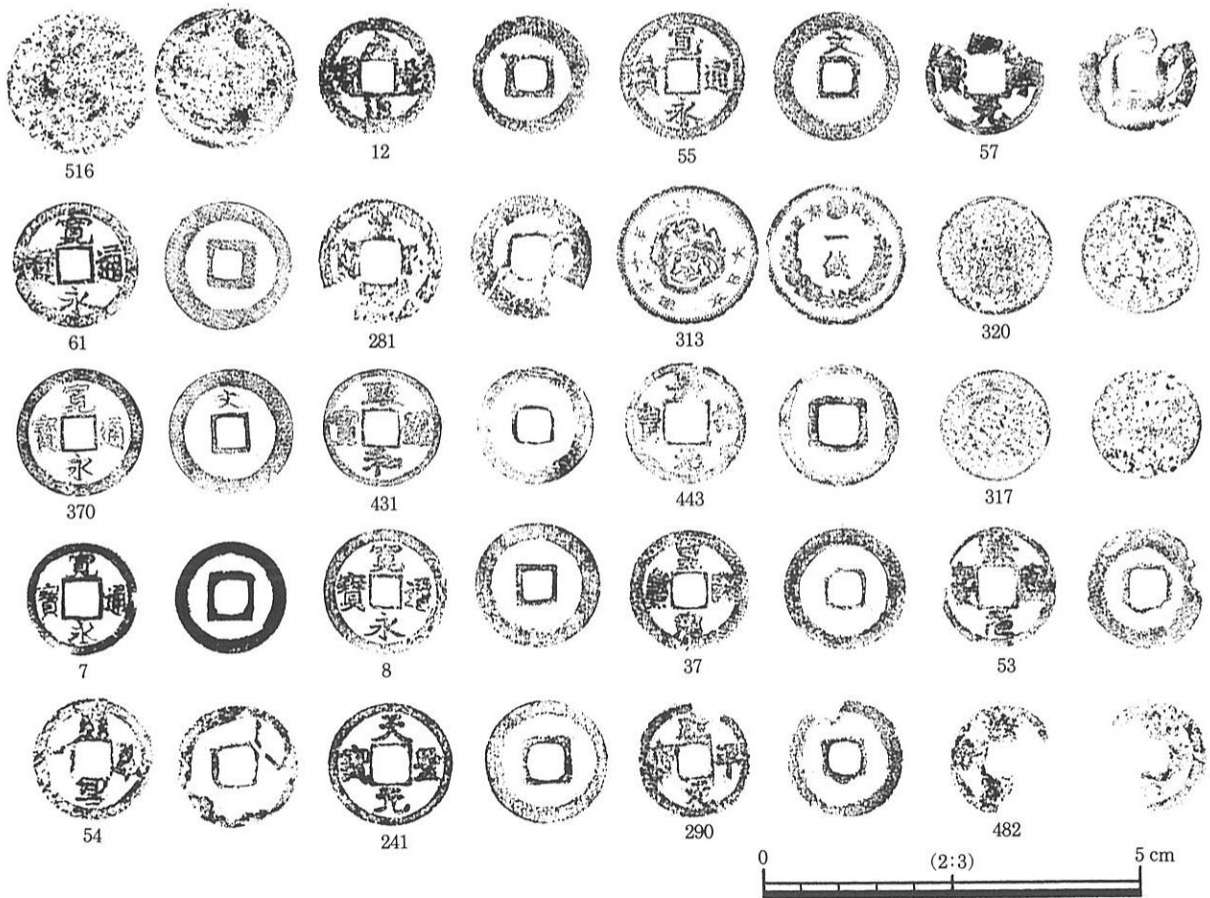


図75 銭2

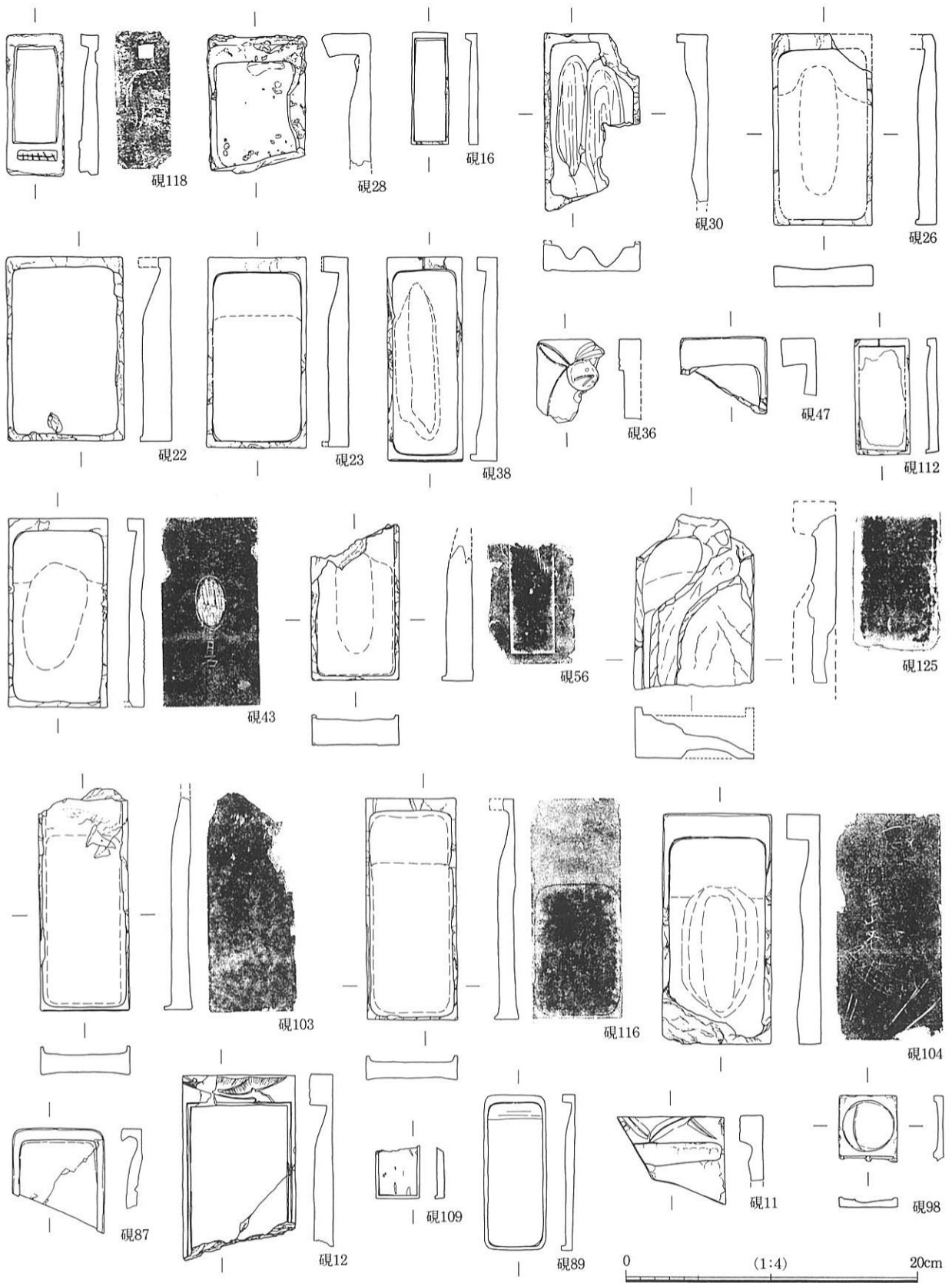


図76 硯

またこれらの第1分類の細目をみれば、家具では火鉢（1）、花器（2）、風炉（1）、竈（3）がみられ、魚では全てが鯛である。建物では家が6点、城が3点、塔が2点で、他に鳥居と灯台、水車などがある。

食器種類も量も多く、膳（1）、釜および釜蓋（18）、鍋（2）と方口鍋が2点、碗は19点で、このうち白磁碗が6点である。皿も白磁皿が1点、他は菊花の皿が6点、茶釜は2点、壺が11点、鉢が10点、挿鉢は15点、甕は2点である。時間幅は長いがこの頃の日常品組み合わせとその普及の程度を知る手がかりにはなる。

神・仏では阿弥陀が2点、大黒が5点、地藏が22、天神が10、布袋が2、福祿寿が2で地藏がとくに多く、次に天神がめだつ。

人物では火消し、花魁、虚無僧（6）、漁夫、子育て、子守、子抱き、子、西行（3）、大尽、茶坊主、

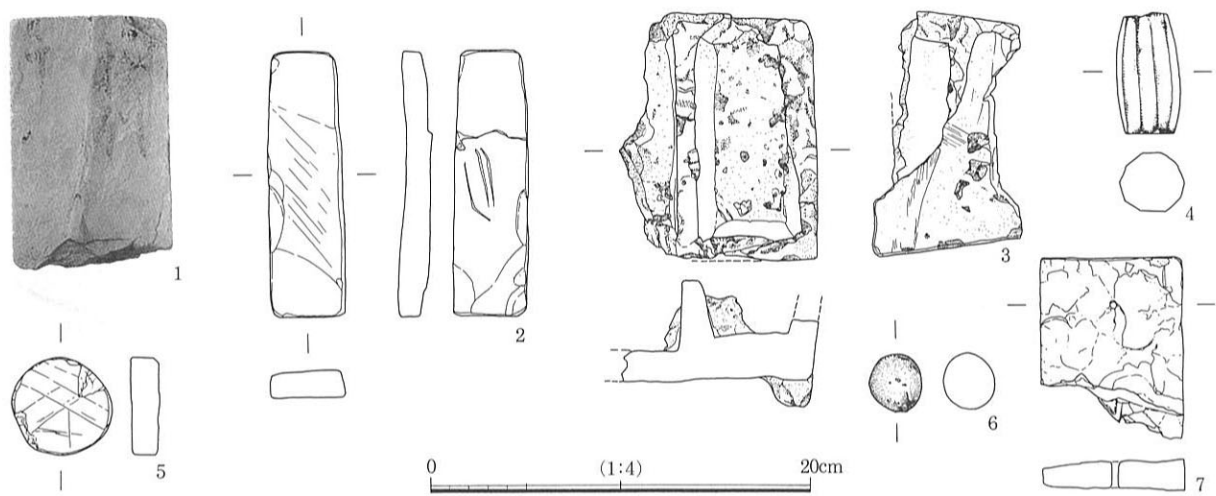


図77 石製品

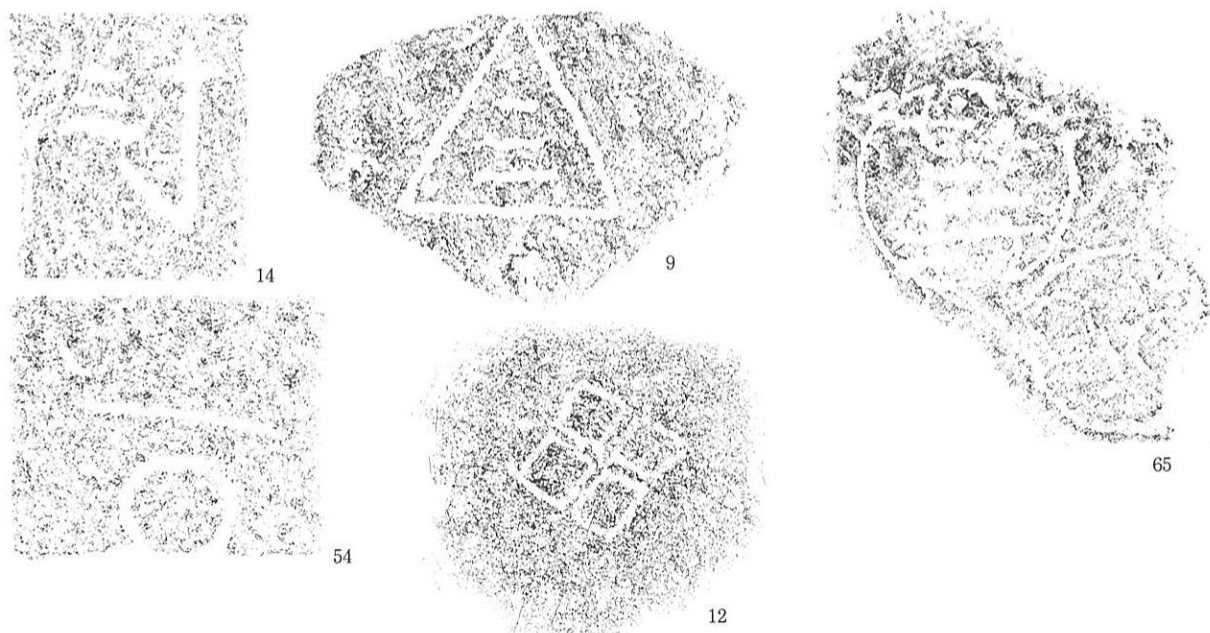


図78 石塔 1

奴、福助、力士と多数の女または男姿がみられるが、このうち虚無僧と西行を神・仏の分類に移せば、それ以外の種類はおおむね同様な数で見られることになる。なお細目は不明であるが、子供、男、女の数はそれぞれ14・17・22であり、子守、子抱きなどを含めれば、女の数はさらに増えることになる。

鳥は鶏が3、雀が3、鳩が17で、鳩がとくに多い。

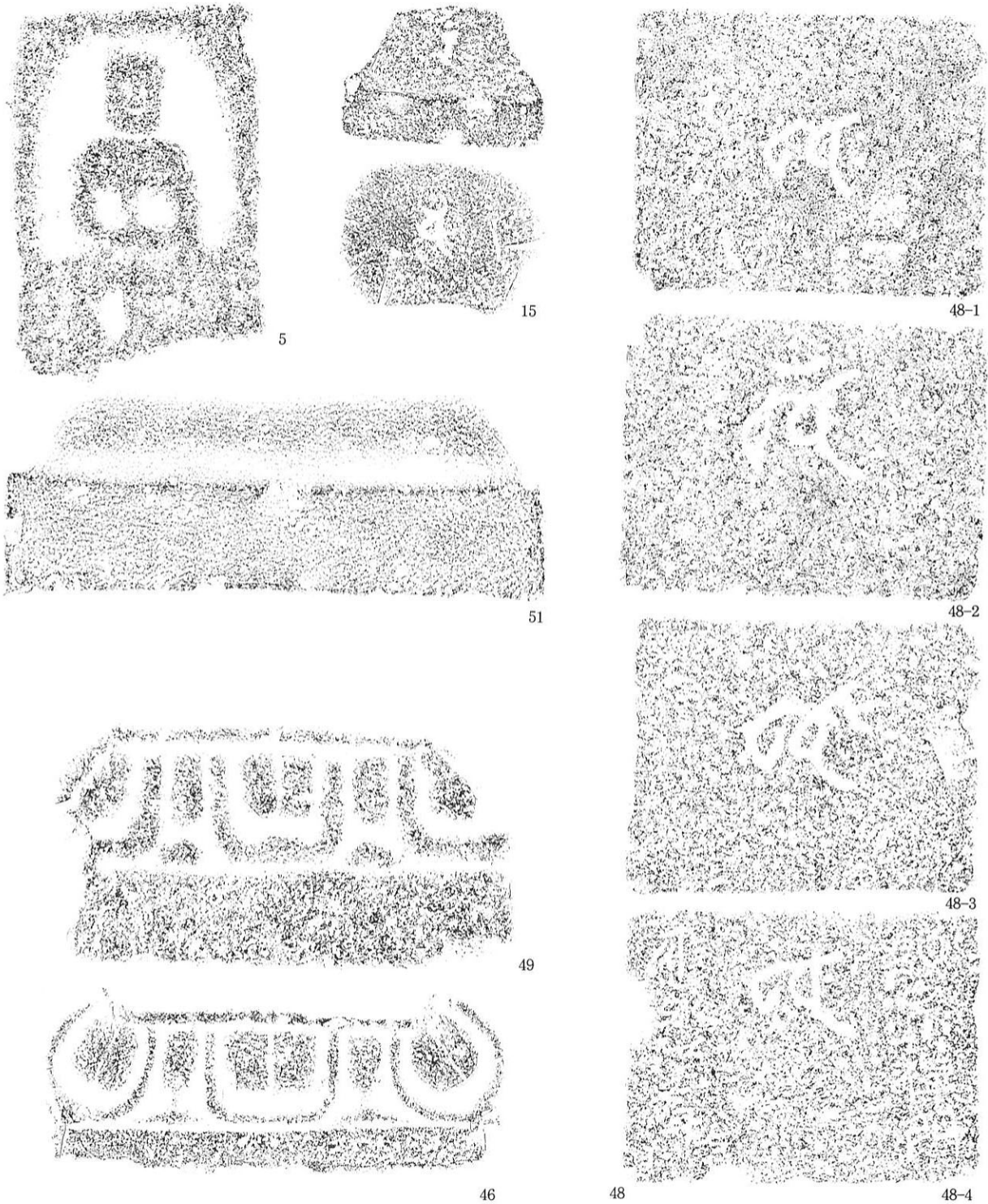


図79 石塔 2

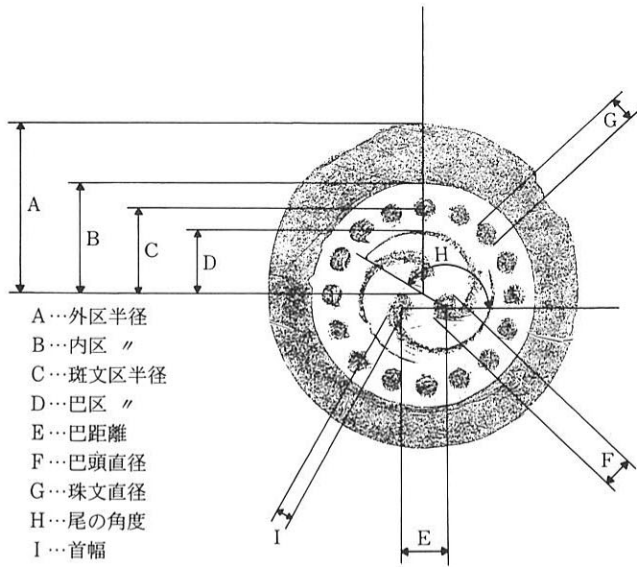


図80 軒丸瓦計測位置図

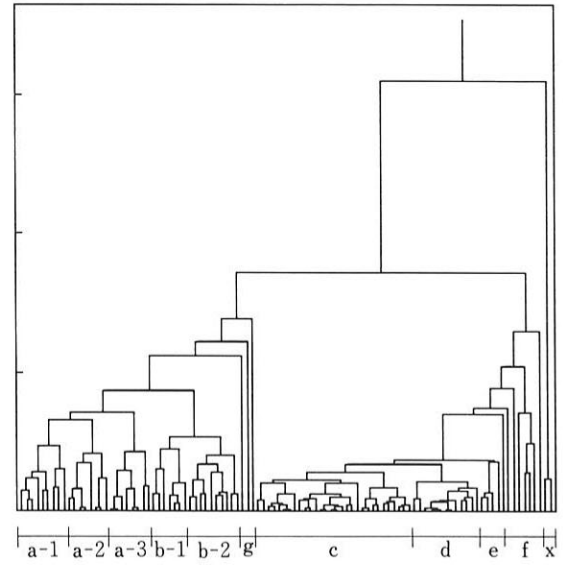


図81 巴文様の数量化によるデンドログラム

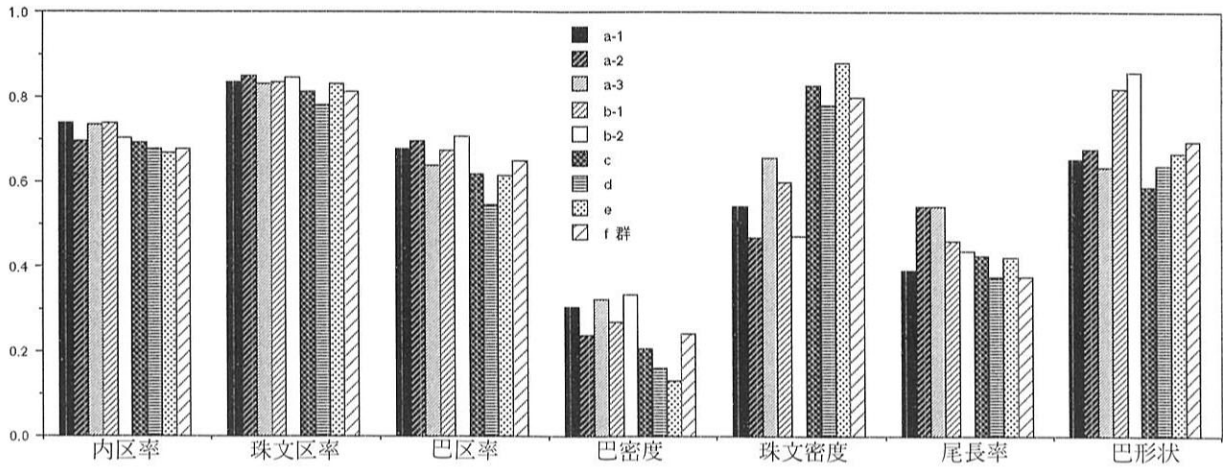


図82 巴文様属性数値の群別比較

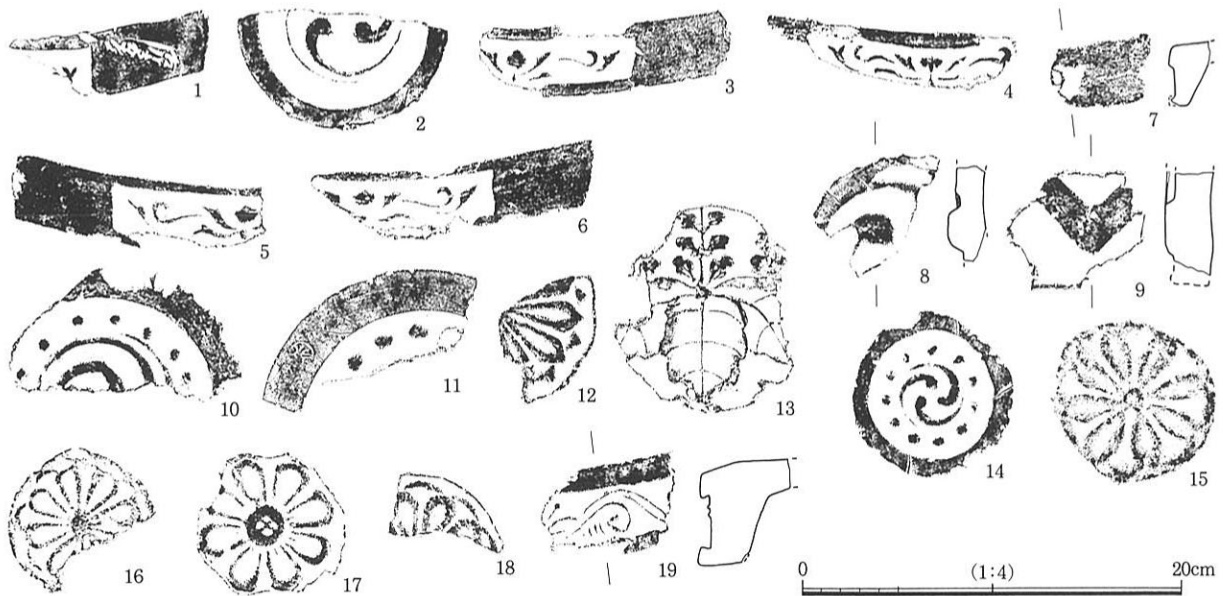


図83 瓦1

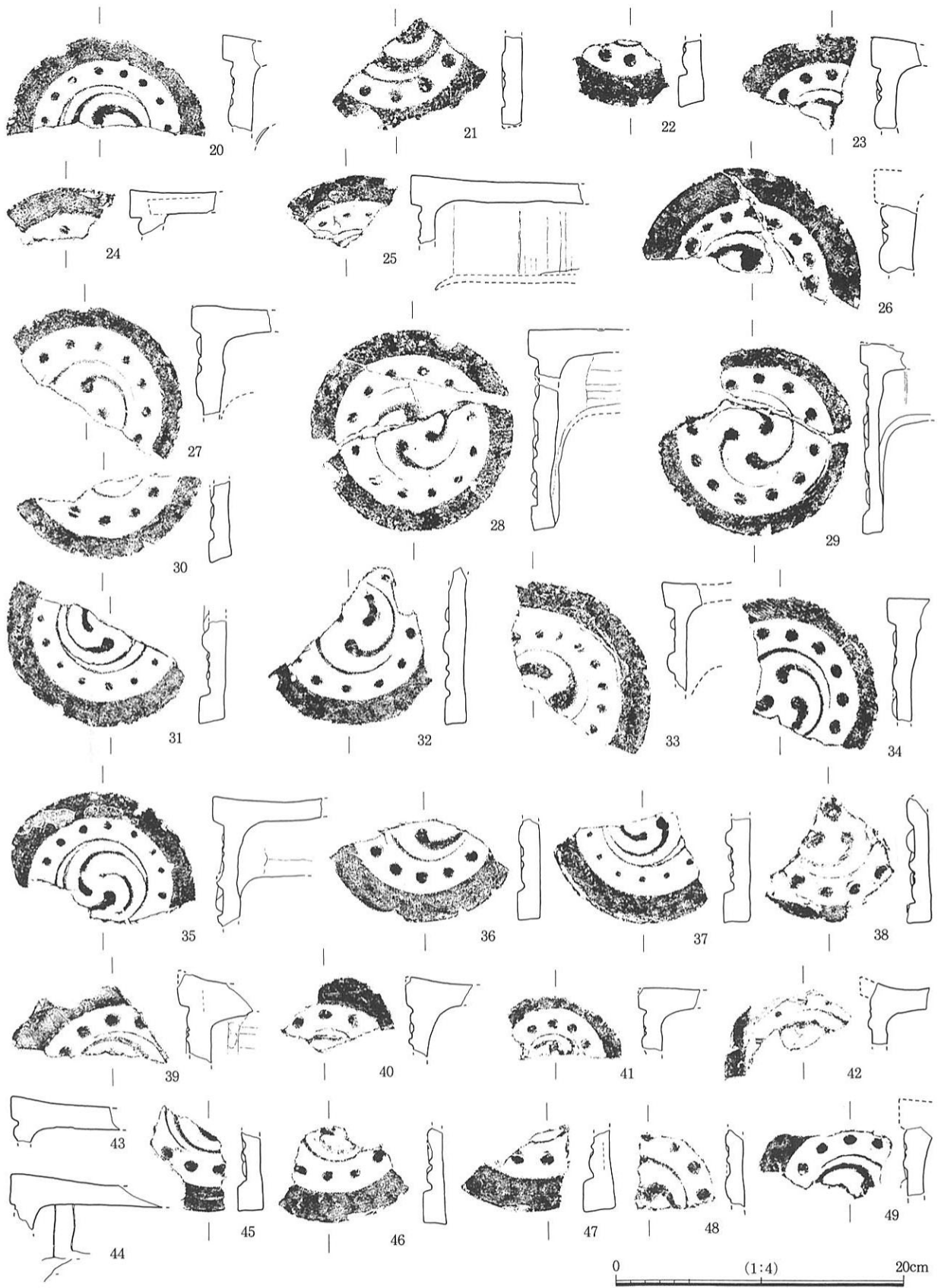


図84 瓦2

灯火具は灯籠のみであり、建物関係の分類と比べてもとくに多いことが知られる。

動物は馬が19、猿が12、亀が2、牛が26、犬が19、狐が28、兎が1、猫が4、熊が1であり、稻荷社に関わりの深い狐が最も多く、身近でバリエーションの多い馬・牛・犬がそれに次いでいる。

遊具は独楽のみである。

なお「土面子」には、俵のり大黒、恵比寿、稲形文、祇園守文、城門などがみられる。

またその他としたものの内容であるが、三足の容器、貝を飾った製品、花卉を飾った製品、袖でんぼ、船、宝珠などがみられる。

従来より土人形は、その推定される性格により、風俗物（日常生活の風俗を子供への土産や贈り物としたもので、なかには遊郭をあつかったものもみられる）、信仰物（天神信仰を代表とする）、説話物、節句物、縁起物などに分けられて整理されてきた。今回おこなった分類は、基礎データとしてこれらの



図85 瓦3

意識と無関係におこなったものであるが、たとえば子守立像が盗難よけの説話物、鯛車が女兒の初正月に贈る節句物、福助が縁起物など関係づけられるなど、本来は土人形に求められた性格をふまえて、整理される必要はある。

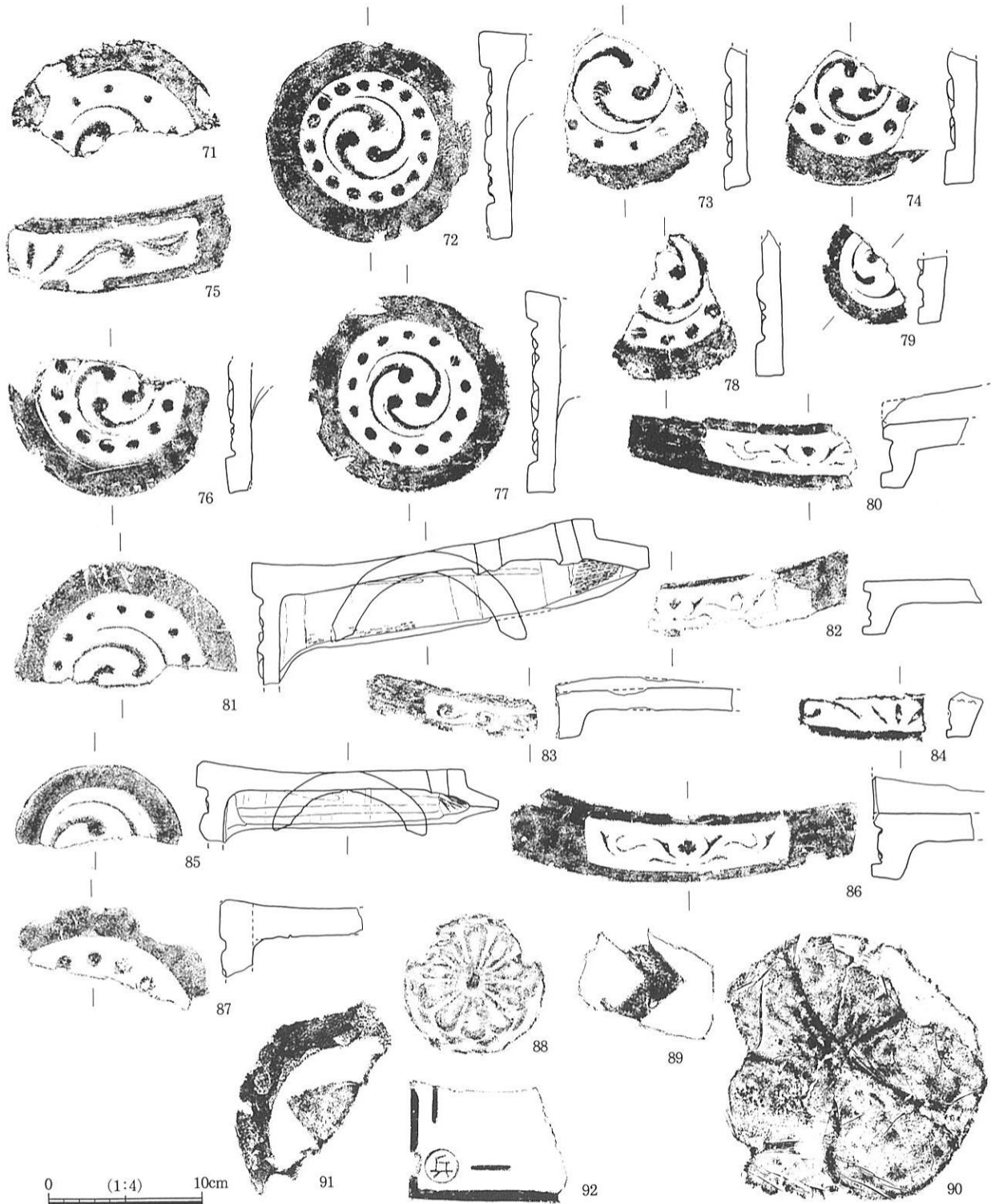


図86 瓦4

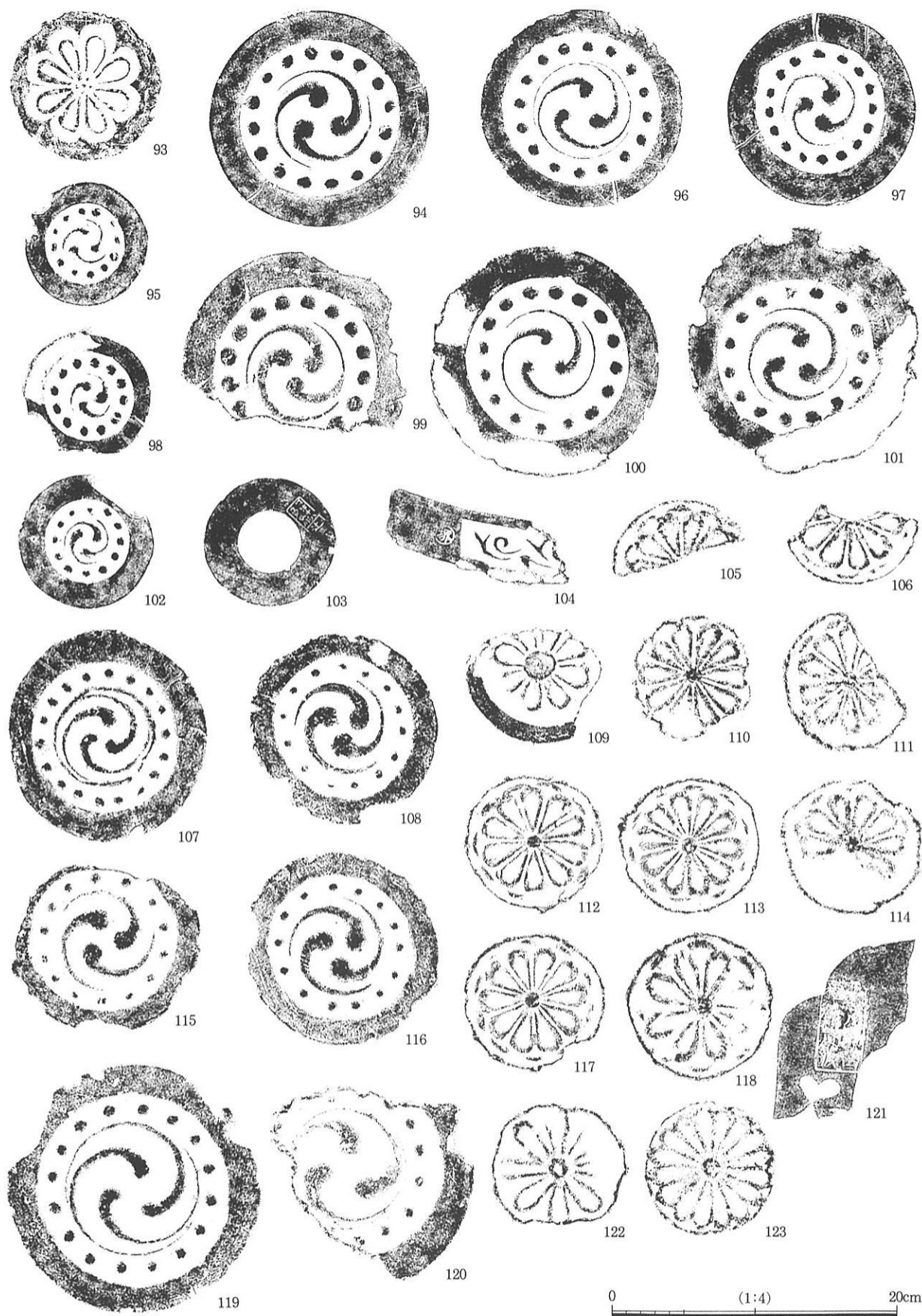


图87 瓦5

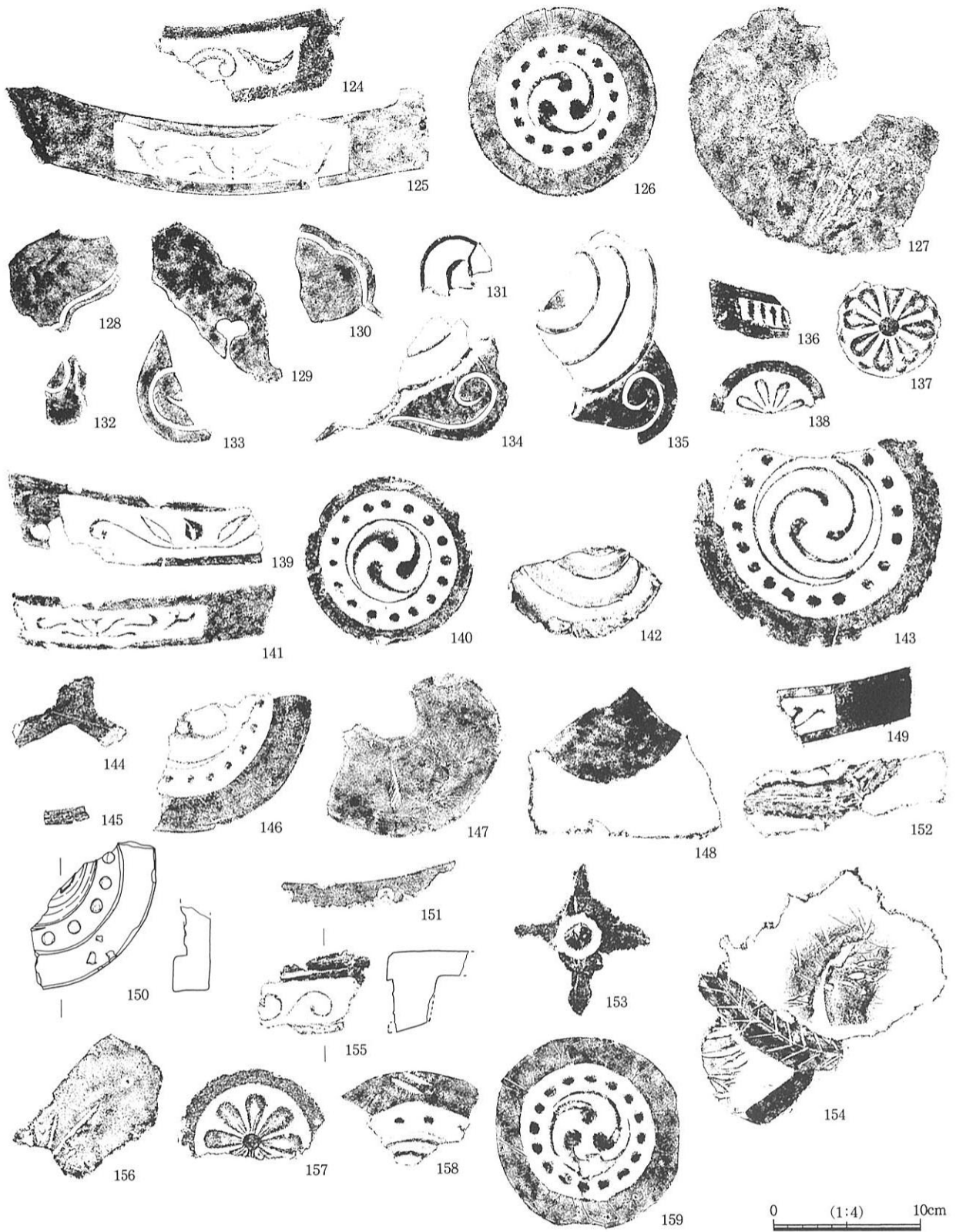


図88 瓦6

i、銭貨

当該期の包含層および遺構出土の銭貨は、14種類以上の216枚以上で、内訳は多い順に、寛永通寶162枚、元豊通寶6枚、文久永寶・熙寧元寶3枚、開元通寶・元祐通寶・政和通寶2枚、嘉祐元寶・皇宋通寶・至和元寶・治平元寶・紹聖元寶・聖宋元寶・咸平元寶1枚であり、ほかに明治以降の銭貨と不明品がみられる。

j、石製品

硯、砥石、暖房具、刻印石、石塔などがみられる。硯については観察表を参照されたい。刻印石はいずれも徳川大坂城再築に際して行われた造成盛土およびそれ以降の包含層からの出土であり、再築に際して不要となった石材と考えられる。またその事実により、徳川大坂城の再築と城下町整備の関係は、少なくともこの地点については、城下町整備が後出することが指摘できる。

各種の石塔もまた同様に現位置を移動しているものであり、礎石などに転用されたか、あるいは包含層からの出土である。

3は勺谷石製の暖房具と考える。脚付の箱形容器で内部に仕切りを設ける。一部に被熱痕がみられる。

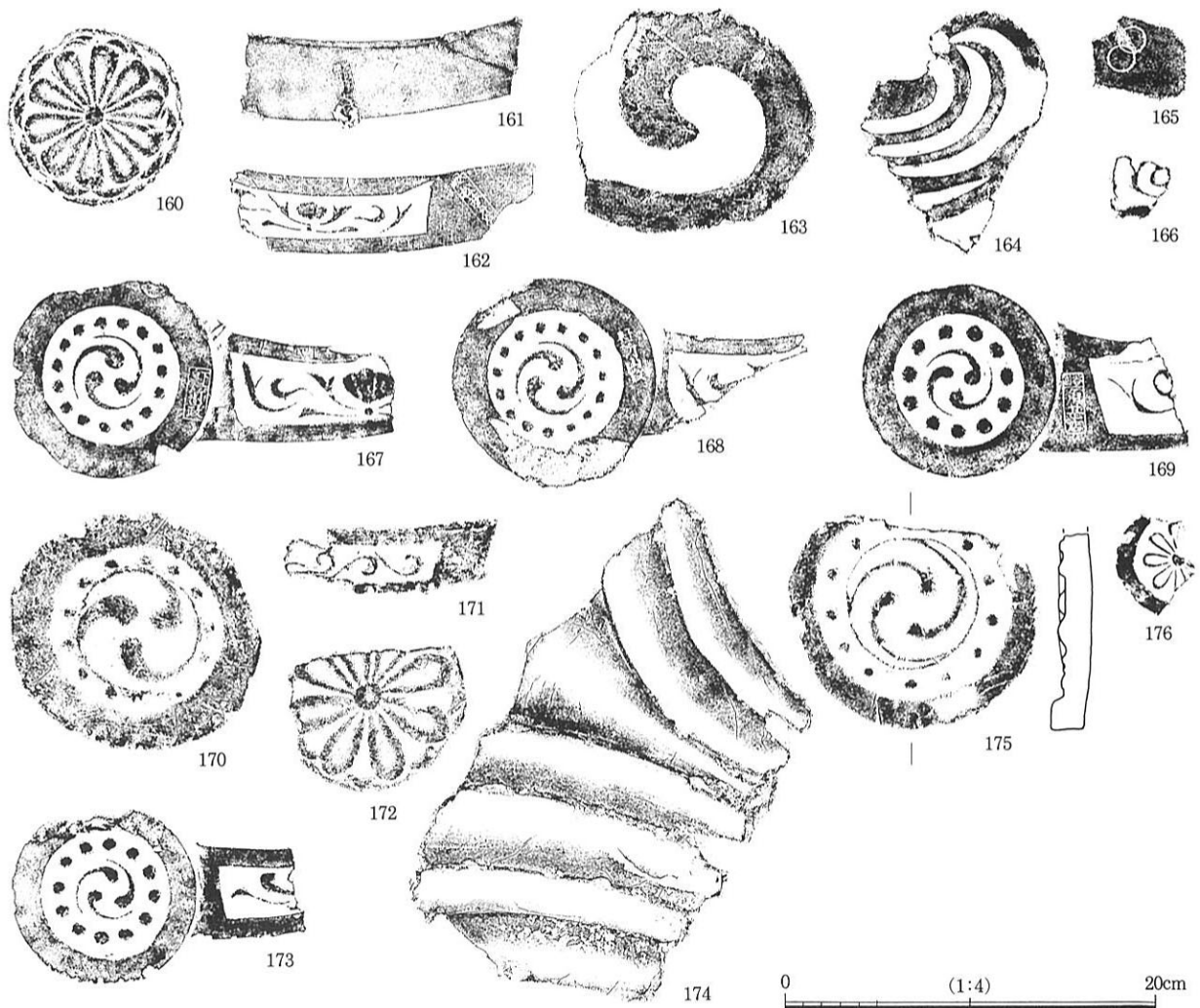


図89 瓦7

- 4 は用途不明品である。紡錘形を呈しながら外面を多角形に削りだしている。
- 5 も用途不明の円盤である。成形は比較的整っており、表面に擦痕がみられる。
- 7 は方形の石板で、表面は凹凸が激しいが、中央に穿孔をもち、形態から温石の可能性はある。

k、瓦

16世紀後半以降の瓦について、大阪では高槻城の資料を対象とした森田氏の整理を代表とするが、1

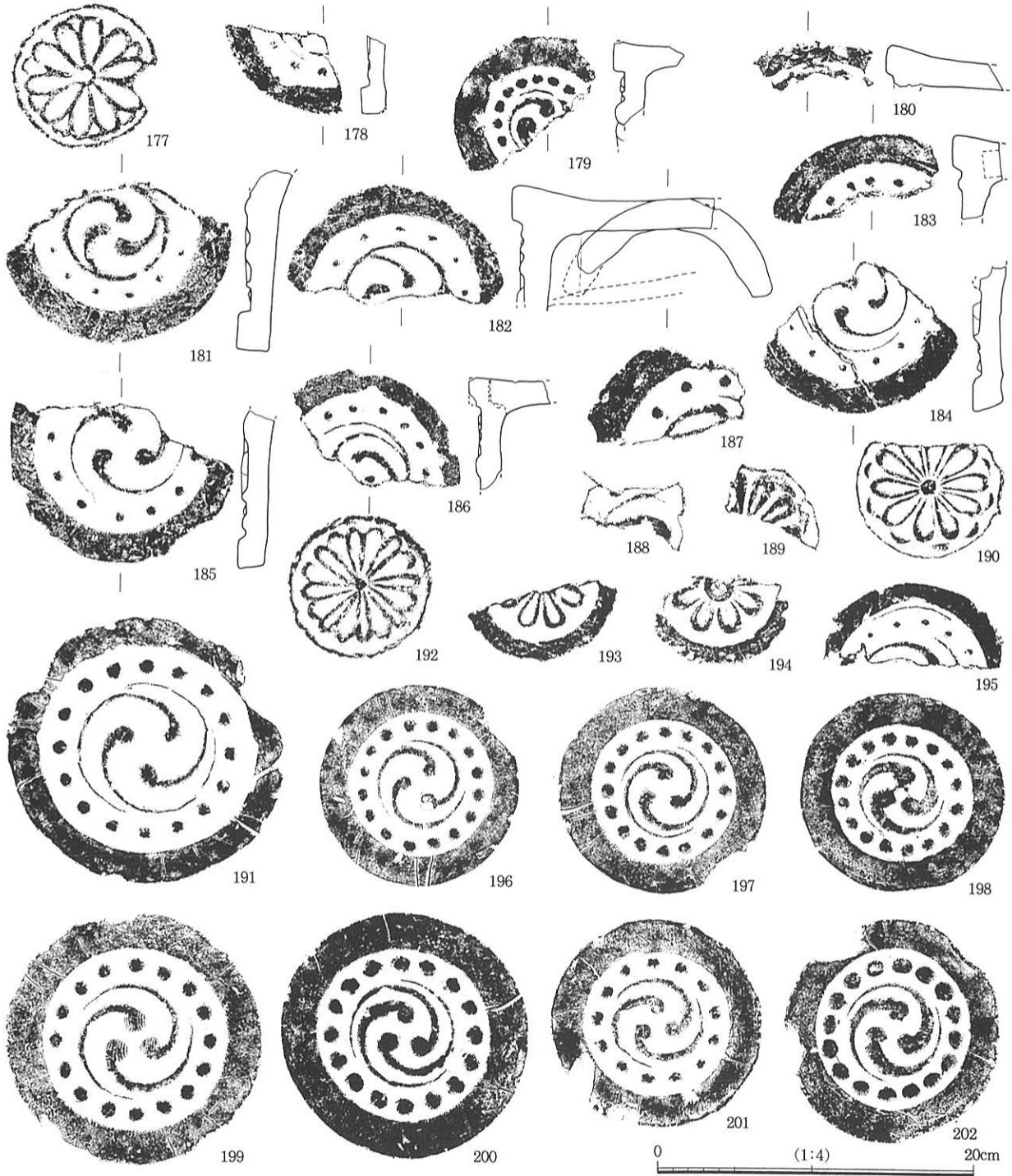


図90 瓦 (包含層) 8

A調査区からも豊臣期以降の軒瓦が502点出土し、同時期の資料として、氏の作業に補強するデータを提供できる状況がある。そこでここでは最初に、出土比率の高い軒丸瓦に絞って、その文様の分類を検討してみたい。

分類は、軒丸瓦の文様がすべて連珠巴文であるため、その文様を構成する要素を整理して数値化し、それらの属性が均等に評価される多変量解析の方法にしたがった。

以下、巴文軒丸瓦の文様を構成する要素は、軒丸瓦の直径、内区の直径、珠文が描く円の直径、巴文が描く円の直径、珠文の直径、珠文の数、巴文の形状、巴文の頭の直径、巴文の回転方向、巴文頭間の距離、巴文の尾の長さおよび圏線の有無などであり、このうち、巴文の尾の長さについては3つの巴文頭の中心点をつなぐ正三角形の1辺を基準とし、その辺と巴文頭の中心と尾の先端をつないだ辺との角度を測定した。すなわち、この角度が大きければ尾は長いことになり、小さければ、尾は短いことにな

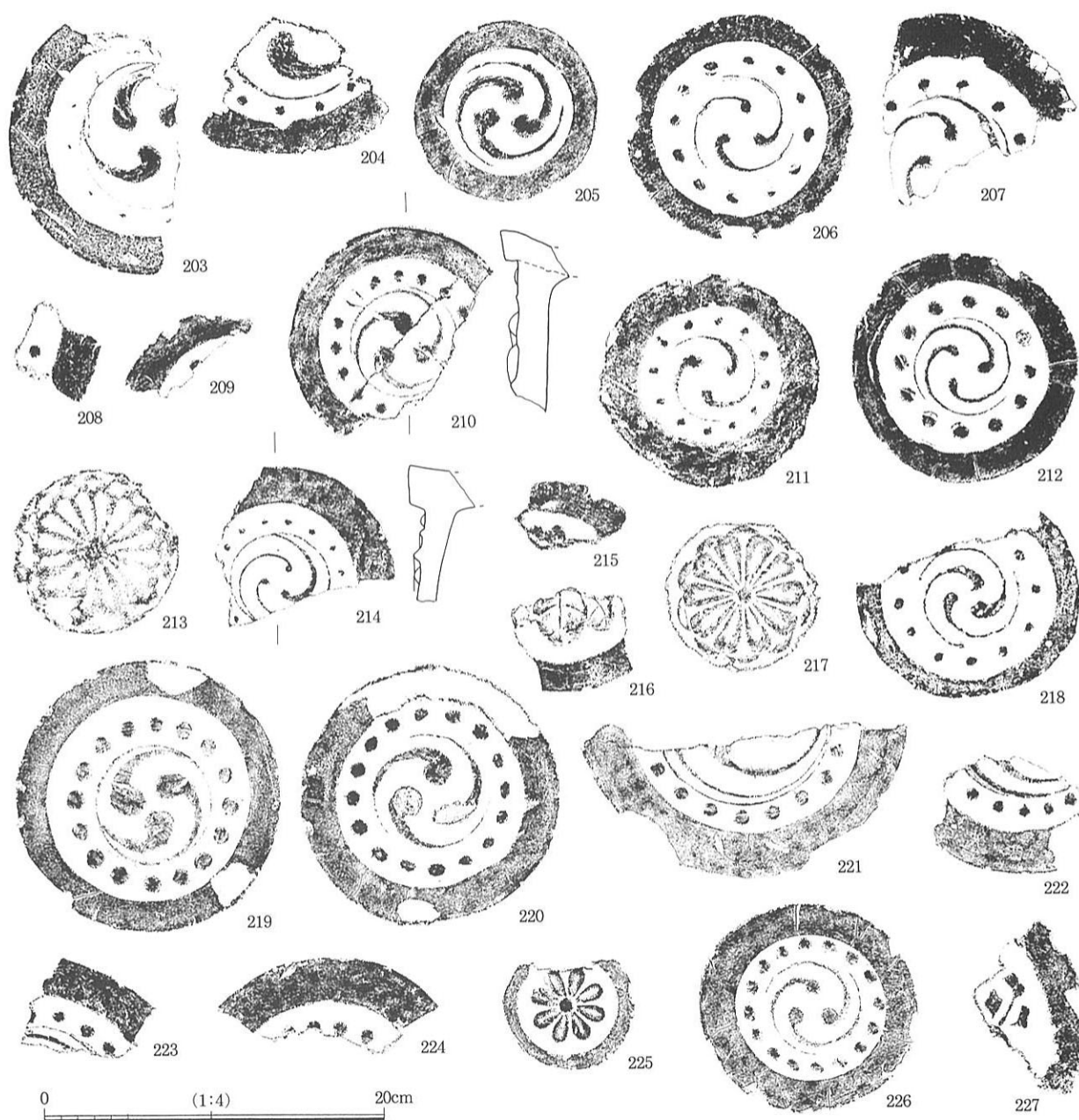


図91 瓦（包含層）9

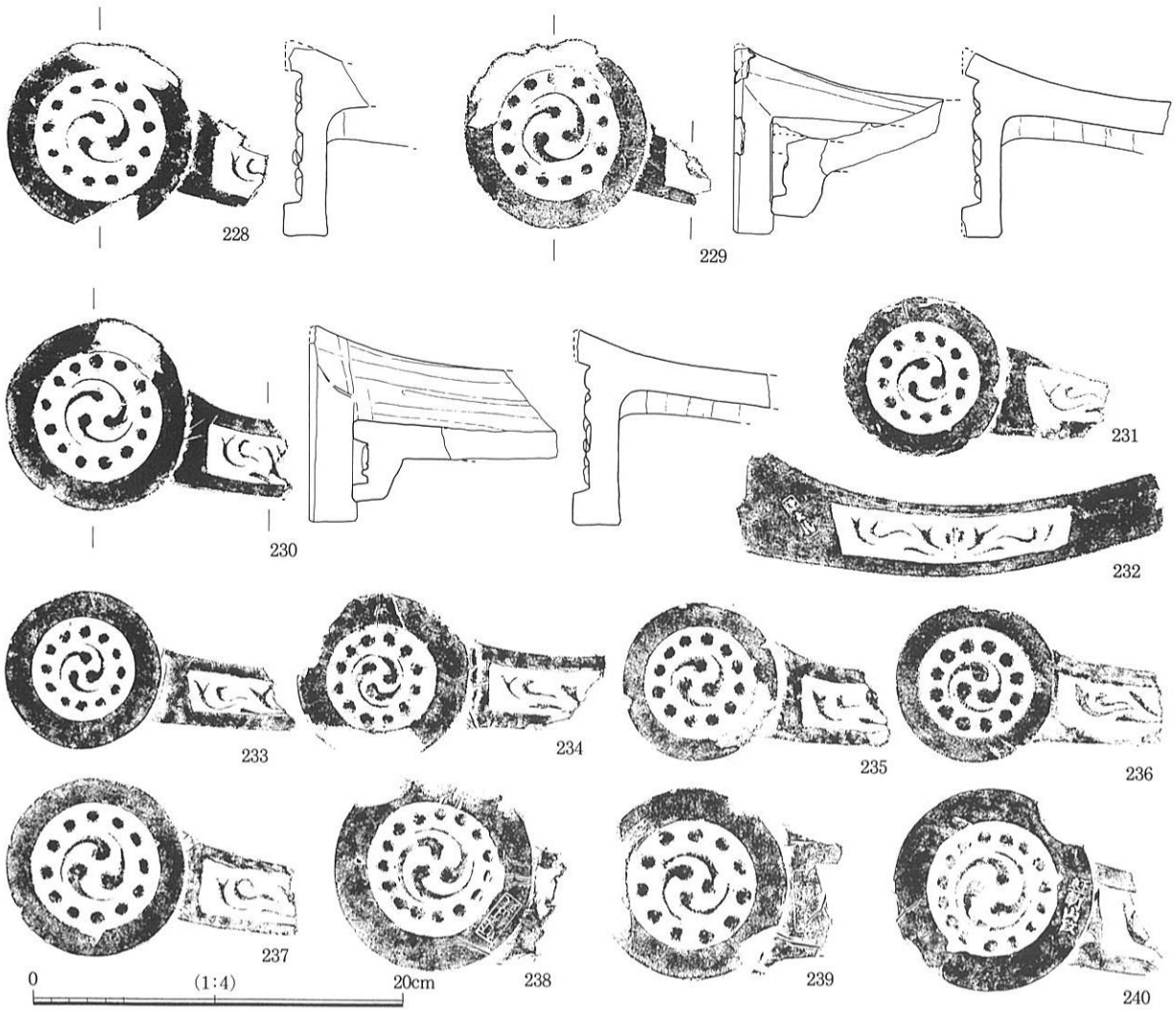


図92 瓦（包含層）10

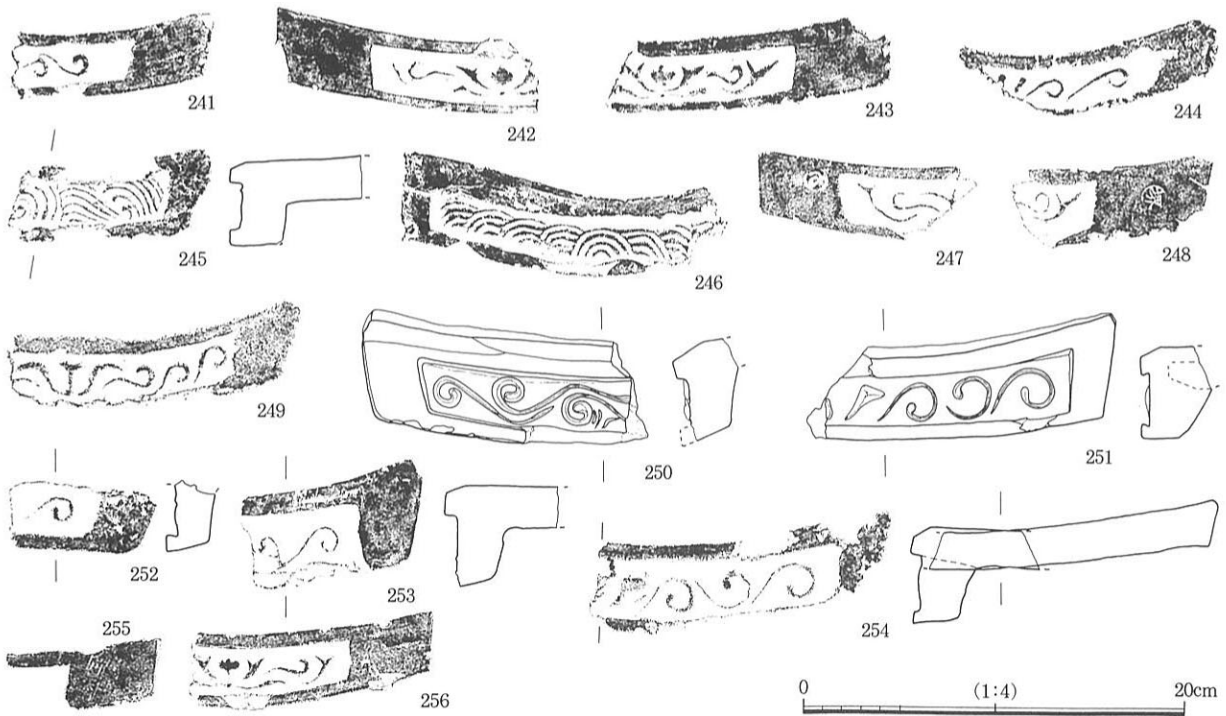


図93 瓦（包含層）11

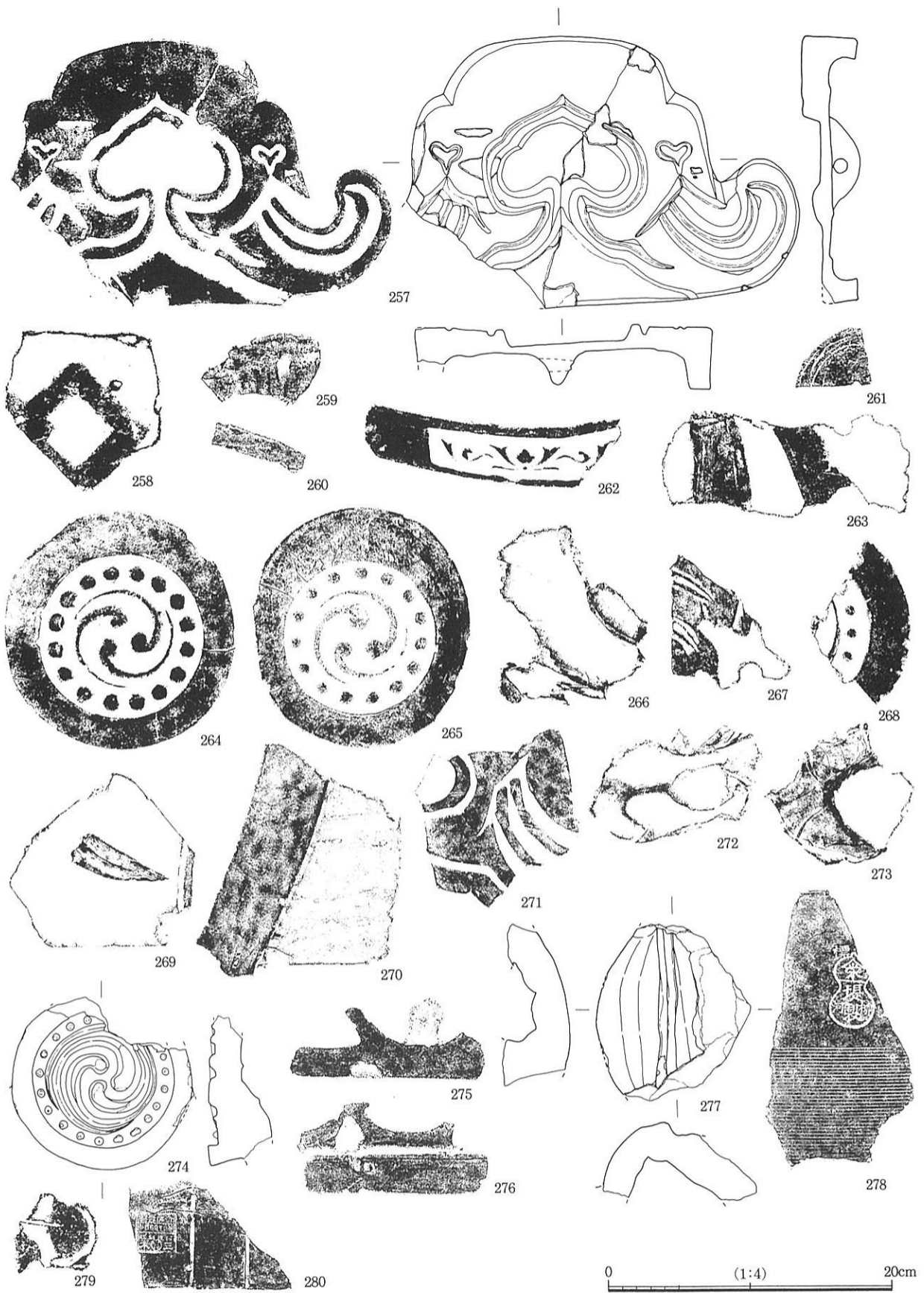


图94 瓦 (包含层) 12

る。さらに巴形状は、巴頭の直径と首部の幅の比率で表現できるものと考えた。

なおこれらの属性を数値化するに際して作成した項目は次のとおりである。

①内区率 内区径を外区径（丸瓦径）で割ったもので、瓦面全体における瓦周縁の幅の割合、または内区の割合を示す。

②珠文区率 珠文の描かれている円の径を内区径で割ったもので内区に対する比率を示す。

③巴区率 巴で描かれる円の径を内区径で割ったもので、やはり内区に対する比率を示す。

④巴密度 巴文の配置にみられる祖密を数量化したものである。巴頭間の距離と巴頭の直径が関係するものであり、ここでは前者から後者を引いた数値を前者で割った。

⑤珠文密度 珠文で描かれる円の長さのあいだに、どの程度の大きさの珠文がいくつ配されているかの比率である。

⑥くびれ率（巴文の形状） 大きく分けて首部分の有無が手掛かりとなる。形状によりグレードを付ける方法もあるが、ここでは巴頭直径と首幅の比率を算出し、その基準とした。

⑦尾長率 前記計測法により判明した角度を360度で割った数値である。

クラスター分析の結果は、a～x群に分けられる。

a群は、尾長率と珠文密度に特徴付けられる。特に尾長率はa-2・3類が卓越しており、ほかの群と比べても区別できる。珠文密度は1・3類が高い数値を示しており、2類と区別することが可能である。特徴を整理すれば、縁帯は相対的に狭く、珠文は小さく間隔をおいて配される。一方巴文は大型で、比較的近接して配される。尾は長く、圏線もみられる。

それぞれa-1類は三の丸以後47、江戸以後67・175・201に、a-2類は三の丸以後317に、a-3類は江戸以後96に該当する。

b群を細分する要素は巴密度と珠文密度であるが、その差はあまり大きくない。珠文密度は1類が高く、巴密度は逆である。特徴を整理すれば、縁帯は相対的に狭く、珠文は小さく間隔をおいて配される。一方巴文は大型で首の無い形状を特徴として、比較的近接して配される。尾は長く、圏線もみられる。

c・d・e群の違いは、クラスター分析による分類グラフのY軸のグレードにあらわれるように、a・b群の分類に比べて近似したものになっている。各群はa・b群内での細分に対比できるものでもある。

それぞれb-1類は江戸以後35と三の丸以後93に、b-2類は江戸以後32・68、三の丸以後190・225、三の丸以前83に該当する。

d群は、巴区率・珠文密度・尾長率共に低いものとなっている。すなわち巴文区が小さく珠文もまばらな文様である。なお当群には文様をもつ棧瓦が含まれている。c群とe群の違いは巴密度と巴形状にあらわれており、前者は巴の密度が高くくびれが顕著なもの、後者はその逆である。

それぞれc群は江戸以後97・198・199・264に該当し、d群は江戸以後の228・229・230に該当し、e群は江戸以後の72・99に該当する。

以上より形式的な分類をまとめれば、b群は巴形状がくびれをもたないものとして特徴づけられ、圏線が巡る文様も多くみられる。同様にa群も明確な首部を形成していない形状を基本とするが、くびれ率はb群より強いものとなっている。これに対してc群以降の巴文様は明瞭な首部を形成するものとなる。したがって巴形状にのみ着目すれば、b群はa群より古い傾向を示し、c群以降については、棧瓦をとまなうことからd群を最も新しいグループに比定することができそうである。

(2) 大坂夏の陣終結後、徳川大坂城再築直前

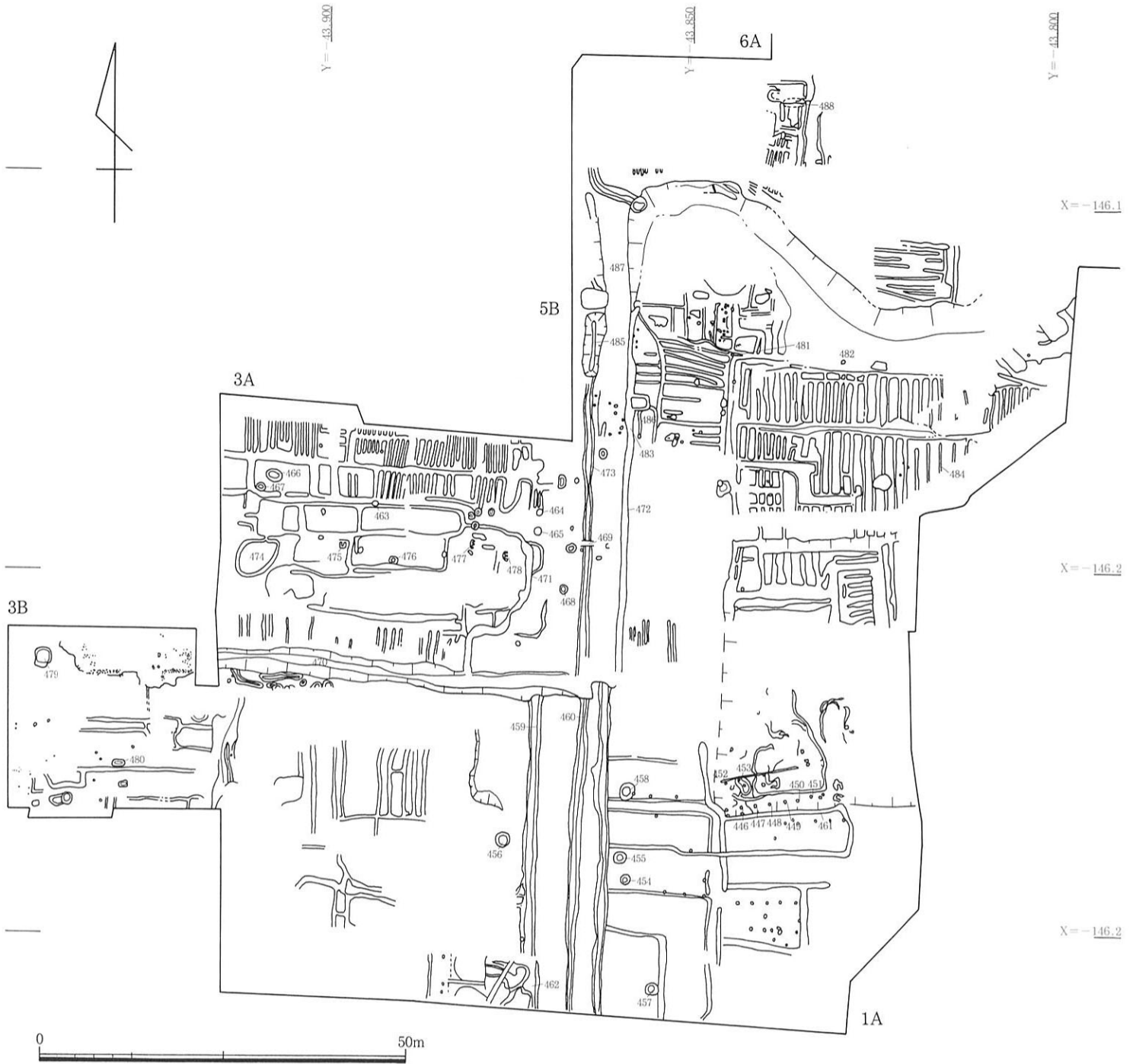


図95 遺構配置図

表6 遺構掲載番号表

| 番号 | 遺構名 | 時期 | X座標 | Y座標 | 深さ |
|-----|-------------------|----|---------|--------|------|
| 446 | 1Aピット129 | 畑 | -146232 | -43844 | 0.34 |
| 447 | 1Aピット130 | 畑 | -146232 | -43841 | 0.43 |
| 448 | 1Aピット131 | 畑 | -146232 | -43840 | 0.38 |
| 449 | 1Aピット132 | 畑 | -146231 | -43838 | 0.41 |
| 450 | 1Aピット133 | 畑 | -146231 | -43836 | 0.21 |
| 451 | 1Aピット134 | 畑 | -146231 | -43834 | 0.04 |
| 452 | 1Aピット135 | 畑 | -146227 | -43846 | 0.01 |
| 453 | 1Aピット136 | 畑 | -146226 | -43844 | 0.03 |
| 454 | 1A井戸10 | 畑 | -146242 | -43859 | |
| 455 | 1A井戸11 | 畑 | -146238 | -43861 | |
| 456 | 1A井戸14 (土坑94) | 畑 | -146237 | -43876 | |
| 457 | 1A井戸15 (土坑224) | 畑 | -146257 | -43856 | |
| 458 | 1A井戸23 (土坑316) | 畑 | -146230 | -43859 | |
| 459 | 1A溝08 (土坑187・溝55) | 畑 | -146235 | -43872 | 0.92 |
| 460 | 1A溝09 (溝30・56) | 畑 | -146239 | -43866 | 0.69 |
| 461 | 1A溝60 | 畑 | -146233 | -43835 | 0.26 |
| 462 | 1A土坑187周辺 | 畑 | -146256 | -43872 | 0.29 |
| 463 | 3A井戸08 | 畑 | -146191 | -43894 | |
| 464 | 3A井戸09 | 畑 | -146195 | -43872 | |
| 465 | 3A井戸10 | 畑 | -146192 | -43871 | |
| 466 | 3A井戸11 (井戸12・13) | 畑 | -146187 | -43976 | |
| 467 | 3A井戸22 (土坑433) | 畑 | -146189 | -43909 | |
| 468 | 3A井戸32 (土坑482) | 畑 | -146203 | -43868 | |
| 469 | 3A橋 | 畑 | -146196 | -43865 | |
| 470 | 3A溝017 | 畑 | -146213 | -43900 | |
| 471 | 3A溝046 | 畑 | -146199 | -43873 | 0.41 |
| 472 | 3A溝055 | 畑 | -146188 | -43860 | 0.37 |
| 473 | 3A溝056 | 畑 | -146193 | -43865 | 0.76 |
| 474 | 3A土坑206 | 畑 | -146198 | -43910 | 1.02 |
| 475 | 3A竈22 | 畑 | -146197 | -43898 | |
| 476 | 3A竈23 (竈24) | 畑 | -146199 | -43891 | |
| 477 | 3A竈25 | 畑 | -146197 | -43880 | |
| 478 | 3A竈26 | 畑 | -146198 | -43876 | |
| 479 | 3B井戸11 (井戸25) | 畑 | -146212 | -43939 | |
| 480 | 3B土坑017 | 畑 | -146227 | -43929 | 0.10 |
| 481 | 5B井戸15 | 畑 | -146171 | -43845 | |
| 482 | 5B井戸20 | 畑 | -146171 | -43830 | |
| 483 | 5B溝002 | 畑 | -146179 | -43859 | 0.20 |
| 484 | 5B溝019 | 畑 | -146185 | -43816 | 0.07 |
| 485 | 5B溝089 | 畑 | -146168 | -43864 | 1.40 |
| 486 | 5B土坑016 | 畑 | -146180 | -43857 | 0.15 |
| 487 | 5B道 | 畑 | -146168 | -43861 | |
| 488 | 6A溝75 | 畑 | -146135 | -43835 | |

A、遺構

この時期の特徴は、第1点が調査区の中央を南北に道がはしり、それ以外のほとんどの部分を畑が占めることであり、第2点が地形に起伏の現れるところにある。

第1点の特徴を示す最も顕著な例は3A～5B調査区で見られ、3A調査区では、中央に南北方向の道路遺構、南西部には東西方向の溝17(470)がはしり、それらをはさんだ形で畑がひろがる。

道路遺構は、溝55・56(473・472)を側溝とし、幅4.5mで、確認された長さは33mである。また溝56の中央やや北よりには幅0.8mの間隔で橋材が残されていた。

畑は道路遺構を境に東西に分かれるが、このうち東半部の鋤溝は、一部東西および南北方向の長方形区画で囲まれた中に、それぞれの区画を更に細分する形で配置されている。確認される区画の規模は、長辺15m、短辺7mである。

一方道路遺構西側には、幅5mの単位で溝17から北へ6列の区画がみられ、このうち最南の列と、北から2列が鋤溝状遺構である。なお各列を区切る溝の規模は幅0.8m、深さ0.3mを測る。

鋤溝状遺構は、幅0.2m、深さ0.1m程で、もっとも密集して検出された北端の列の場合、その密度は5mあたり6条となる。いずれも焼土の整地層が耕作土である。

また鋤溝状遺構の見られない中央の3列は、小規模の竈を伴った屋敷地群である。後述する竈(475・477・478)と堅く締まった土間状の部分および周囲を巡る溝などから推定される屋敷地の範囲と規模は、東西7m、南北5m程度を平均的なものとしており、また西端と南の列には大型の円形土坑(474)が配される。

また5B調査区では、谷部の西寄りの部分で幅1m、高さ0.2～0.3mの土手状遺構が南北方向に1本はしり、これを境にして幅0.2m・深さ0.1mの鋤溝状遺構が西側では東西方向に、東側では南北方向に整然と並ぶ。

第2点の特徴は、6A調査区から南へ5B・3A・1A調査区へひろがる景観に顕著に現れる。すなわち6A調査区と5B調査区の北端は、基盤層である11層が、現地表面より浅く、そのため検出される畑も、その深さは現地表面から1m程度に位置にある。しかし、5B調査区の南半以南は、5層が厚く堆積し、その結果この地区の面は6A調査区とは数メートルの段差をもって下位に位置する。この面は基本的に平坦で、これらより西方の地区にも続いており、この地区を南北に縦断する道路遺構も、この地形にしたがって5B調査区の西端で上り坂になっていることが、該当個所の調査で明らかになっている。

一方このような1A・3A調査区を中心とする下の平坦面において、その中でも3A調査区の東端から1A調査区の北東端の部分にあたる1A溝60(461)の北側は、さらに1m未満の比高差で下降し、東西および南北に軸を合わせた方形の区画で3段目の低位面を形成している。なお先に述べた6A調査区からの下降が基本的には自然地形に依っているのに対し、この地形はより人為的なものであったことが、さらに下層の調査によって明らかになった。

またこれらの畑に伴う小溝の排水のために、3A調査区と1A調査区の境に3A溝17(470)が設けられている。なおこの溝が当然上記の低位面の排水もうけもったものと考えられるが、該当部分が調査区の境界に位置したため、その明確な痕跡を確認するにはいたっていない。

3A竈22(475) 3A調査区の西中央に位置する。南を焚き口とした2連の竈である。残存する高さ

は約5cmで、それぞれ0.3mと0.2mの直径をもつ。残存する部分は粘土のみがみられる。

3 A 竈23 (476) 3 A 調査区の西中央で、3 A 竈22の東約7mに位置する。東に焚き口をもつ単独の竈であり、平面形は1辺約0.5mの方形を呈する。残存高も僅かであり、本来2連のもの的一部分であったかどうかは不明である。残存する部分は粘土のみがみられる。

3 A 竈25 (477) 3 A 調査区の中央で3 A 竈23の東約10mに位置する。東に焚き口をもつ2連の竈であり、直径は向かって右からそれぞれ0.2mと0.3mである。残存高は約5cmである。残存する部分は粘土のみがみられる。

3 A 竈26 (478) 3 A 調査区の中央で3 A 竈25の東約5mに位置する。規模、構造は3 A 竈25と同様である。

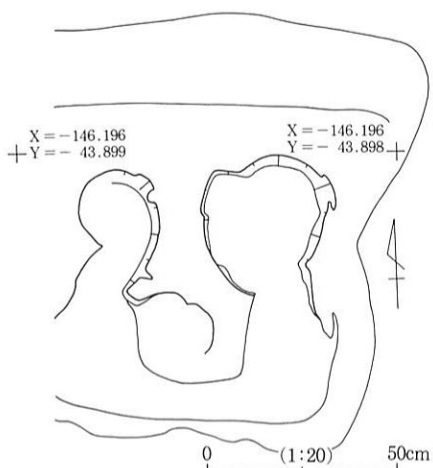


図96 3 A 調査区 竈22平面図

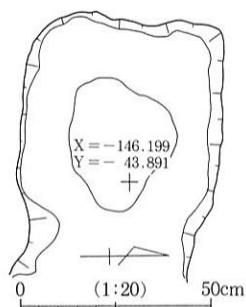


図97 3 A 調査区
竈23 (24) 平面図

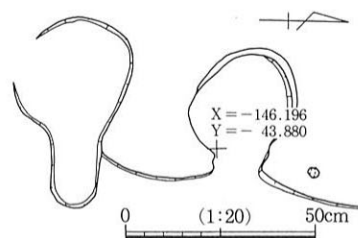


図98 3 A 調査区 竈25平面図

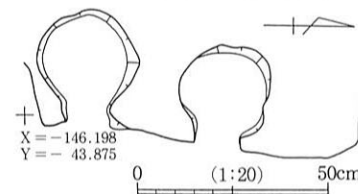


図99 3 A 調査区 竈26平面図



図100 遺構配置図 (5 A調査区を除く)

(3) 三の丸築造以降、大坂夏の陣直前

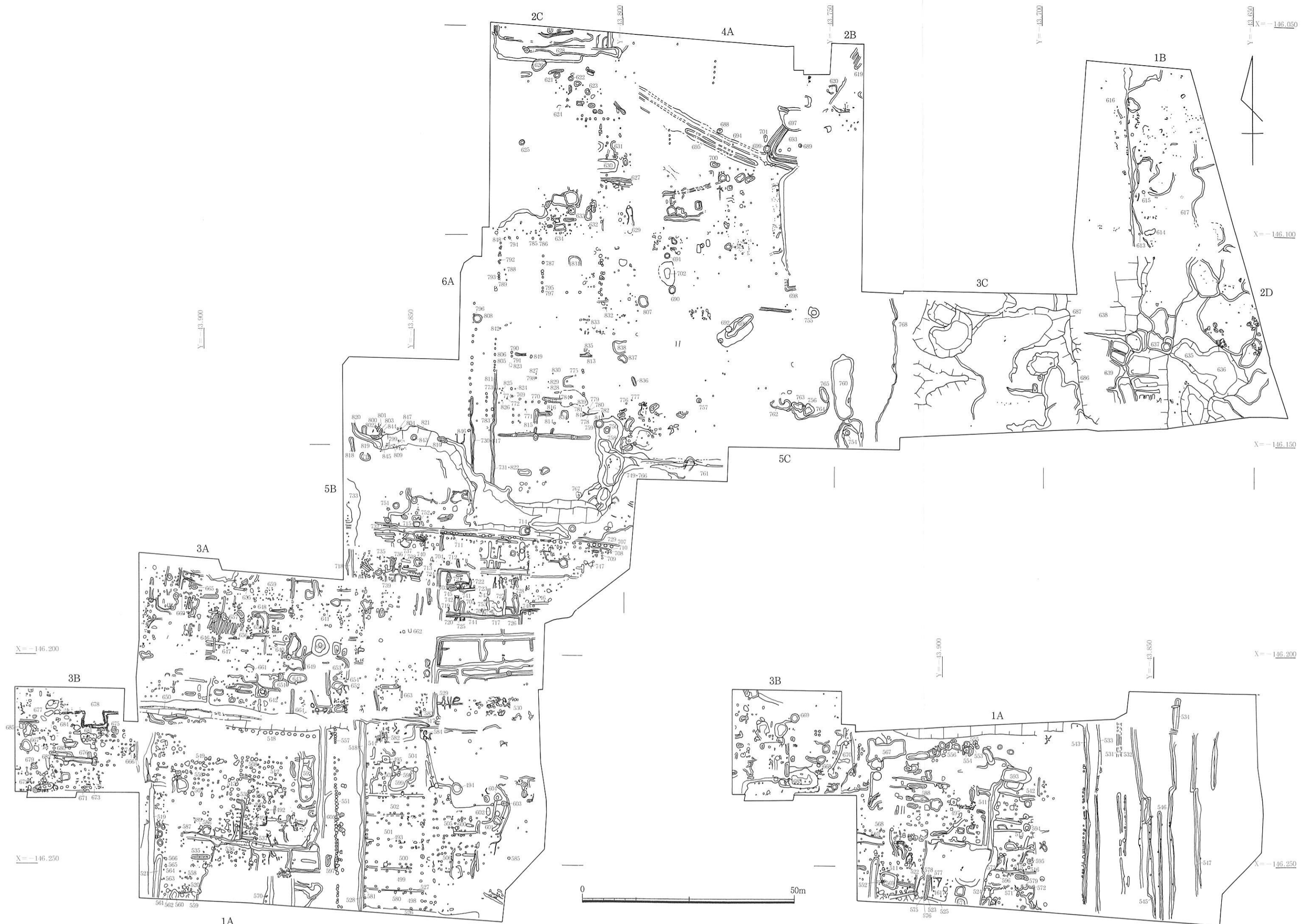


図100 遺構配置図 (5 A調査区を除く)

表7 遺構掲載番号表(5A調査区を除く) 1

| 番号 | 遺構名 | 時期 | X座標 | Y座標 | 深さ | | | | | | | |
|------|-------------|----|---------|---------|------|-----|--------------------|----|---------|--------|------|--|
| 489 | 1Aピット017 | 後期 | -146241 | -43901 | 0.30 | 555 | 1A土坑064 | 後期 | -146221 | -43889 | 0.36 | |
| 490 | 1Aピット062 | 後期 | -146235 | -43889 | 0.05 | 556 | 1A土坑067 | 後期 | -146221 | -43893 | 0.60 | |
| 491 | 1Aピット121 | 後期 | -146241 | -43893 | 0.17 | 557 | 1A土坑073 | 後期 | -146220 | -43869 | 0.55 | |
| 492 | 1Aピット124 | 後期 | -146236 | -43885 | 0.28 | 558 | 1A土坑104 | 後期 | -146253 | -43905 | 0.09 | |
| 493 | 1Aピット142 | 後期 | -146244 | -43856 | 0.32 | 559 | 1A土坑110 | 後期 | -146256 | -43902 | 0.13 | |
| 494 | 1A井戸12 | 後期 | -146232 | -43840 | | 560 | 1A土坑127 | 後期 | -146256 | -43907 | 0.51 | |
| 495 | 1A井戸22 | 後期 | -146225 | -43857 | | 561 | 1A土坑129 | 後期 | -146257 | -43909 | 0.51 | |
| 496 | 1A屋敷02 | 後期 | -146239 | -43886 | | 562 | 1A土坑131 | 後期 | -146256 | -43908 | 0.23 | |
| 497 | 1A屋敷03 | 後期 | -146235 | -43890 | | 563 | 1A土坑135 | 後期 | -146253 | -43909 | 0.33 | |
| 498 | 1A建物01 | 後期 | -146258 | -43855 | | 564 | 1A土坑136 | 後期 | -146251 | -43909 | 0.29 | |
| 499 | 1A建物02 | 後期 | -146253 | -43855 | | 565 | 1A土坑137 | 後期 | -146249 | -43909 | 0.59 | |
| 500 | 1A建物03 | 後期 | -146248 | -43855 | | 566 | 1A土坑138 | 後期 | -146248 | -43909 | 0.67 | |
| 501 | 1A建物04 | 後期 | -146241 | -43855 | | 567 | 1A土坑140 | 後期 | -146222 | -43908 | 1.00 | |
| 502 | 1A建物05 | 後期 | -146235 | -43855 | | 568 | 1A土坑144 | 後期 | -146240 | -43909 | 0.29 | |
| 503 | 1A建物06 | 後期 | -146230 | -43855 | | 569 | 1A土坑178 | 後期 | -146252 | -43907 | 0.40 | |
| 504 | 1A建物07 | 後期 | -146223 | -43855 | | 570 | 1A土坑186 | 後期 | -146257 | -43885 | 0.59 | |
| 505 | 1A建物08 | 後期 | -146241 | -43840 | | 571 | 1A土坑188周辺 | 後期 | -146254 | -43877 | 0.25 | |
| 506 | 1A建物09 | 後期 | -146247 | -43840 | | 572 | 1A土坑189 | 後期 | -146255 | -43874 | 0.56 | |
| 507 | 1A建物10 | 後期 | -146231 | -43901 | | 573 | 1A土坑190(土坑191・199) | 後期 | -146252 | -43889 | 0.19 | |
| 508 | 1A建物11 | 後期 | -146227 | -43889 | | 574 | 1A土坑192 | 後期 | -146257 | -43890 | 0.85 | |
| 509 | 1A建物12 | 後期 | -146237 | -43888 | | 575 | 1A土坑193 | 後期 | -146256 | -43890 | | |
| 510 | 1A建物13 | 後期 | -146245 | -43912 | | 576 | 1A土坑194 | 後期 | -146255 | -43890 | | |
| 511 | 1A建物14 | 後期 | -146252 | -43905 | | 577 | 1A土坑195 | 後期 | -146253 | -43899 | | |
| 512 | 1A建物15 | 後期 | -146226 | -43884 | | 578 | 1A土坑196 | 後期 | -146252 | -43899 | | |
| 513 | 1A建物16 | 後期 | -146232 | -43893 | | 579 | 1A土坑218 | 後期 | -146254 | -43875 | 0.25 | |
| 514 | 1A建物17 | 後期 | -146242 | -43876 | | 580 | 1A土坑231 | 後期 | -146256 | -43855 | 0.27 | |
| 515 | 1A建物18 | 後期 | -146249 | -43875 | | 581 | 1A土坑234 | 後期 | -146255 | -43862 | 0.28 | |
| 516 | 1A建物19 | 後期 | -146249 | -43874 | | 582 | 1A土坑237 | 後期 | -146219 | -43857 | 0.81 | |
| 1617 | 1A建物20 | 後期 | -146254 | -438955 | | 583 | 1A土坑238 | 後期 | -146214 | -43849 | 0.13 | |
| 517 | 1A溝07 | 後期 | -146215 | -43850 | 0.65 | 584 | 1A土坑241 | 後期 | -146218 | -43848 | 0.41 | |
| 518 | 1A溝10 | 後期 | -146235 | -43862 | 0.42 | 585 | 1A土坑250 | 後期 | -146248 | -43828 | 0.05 | |
| 519 | 1A溝11(溝15) | 後期 | -146240 | -43912 | 0.52 | 586 | 1A土坑278 | 後期 | -146241 | -43899 | 0.45 | |
| 520 | 1A溝14(瓦組暗渠) | 後期 | -146256 | -43904 | 0.45 | 587 | 1A土坑279 | 後期 | -146242 | -43904 | 0.25 | |
| 521 | 1A溝16 | 後期 | -146252 | -43910 | 0.28 | 588 | 1A土坑280 | 後期 | -146233 | -43901 | 0.49 | |
| 522 | 1A溝17 | 後期 | -146253 | -43911 | 0.25 | 589 | 1A土坑288 | 後期 | -146250 | -43896 | 0.08 | |
| 523 | 1A溝19 | 後期 | -146254 | -43898 | 0.60 | 590 | 1A土坑289 | 後期 | -146240 | -43894 | 0.09 | |
| 524 | 1A溝20 | 後期 | -146255 | -43888 | 0.65 | 591 | 1A土坑290 | 後期 | -146241 | -43888 | 0.57 | |
| 525 | 1A溝21 | 後期 | -146257 | -43895 | 0.10 | 592 | 1A土坑293 | 後期 | -146230 | -43875 | 0.39 | |
| 526 | 1A溝23 | 後期 | -146260 | -43850 | 0.25 | 593 | 1A土坑296 | 後期 | -146228 | -43877 | 0.99 | |
| 527 | 1A溝29 | 後期 | -146255 | -43855 | 0.05 | 594 | 1A土坑299 | 後期 | -146240 | -43875 | 0.39 | |
| 528 | 1A溝31 | 後期 | -146255 | -43863 | 0.49 | 595 | 1A土坑300 | 後期 | -146248 | -43874 | 0.49 | |
| 529 | 1A溝34 | 後期 | -146212 | -43845 | 0.56 | 596 | 1A土坑309 | 後期 | -146251 | -43882 | 0.71 | |
| 530 | 1A溝35 | 後期 | -146212 | -43828 | 0.48 | 597 | 1A土坑310 | 後期 | -146248 | -43871 | 0.08 | |
| 531 | 1A溝36 | 後期 | -146218 | -43854 | 0.08 | 598 | 1A土坑319 | 後期 | -146228 | -43854 | 0.21 | |
| 532 | 1A溝37 | 後期 | -146218 | -43853 | 0.26 | 599 | 1A土坑320 | 後期 | -146230 | -43853 | 0.49 | |
| 533 | 1A溝38 | 後期 | -146237 | -43859 | 0.16 | 600 | 1A土坑328 | 後期 | -146240 | -43837 | 0.20 | |
| 534 | 1A溝40(溝74) | 後期 | -146235 | -43840 | 0.40 | 601 | 1A土坑329 | 後期 | -146239 | -43831 | 1.07 | |
| 535 | 1A溝46 | 後期 | -146248 | -43900 | 0.24 | 602 | 1A土坑331(土坑338) | 後期 | -146237 | -43833 | 0.86 | |
| 536 | 1A溝47 | 後期 | -146244 | -43895 | 0.14 | 603 | 1A土坑332 | 後期 | -146235 | -43829 | 0.93 | |
| 537 | 1A溝48 | 後期 | -146245 | -43886 | 0.78 | 604 | 1A土坑333 | 後期 | -146234 | -43831 | 0.48 | |
| 538 | 1A溝49 | 後期 | -146239 | -43891 | 0.06 | 605 | 1A土手1 | 後期 | -146235 | -43868 | | |
| 539 | 1A溝52 | 後期 | -146245 | -43897 | 0.65 | 606 | 1A道路1 | 後期 | -146246 | -43896 | | |
| 540 | 1A溝53 | 後期 | -146243 | -43891 | 0.24 | 607 | 1B井戸1 | 後期 | -146060 | -43675 | | |
| 541 | 1A溝57 | 後期 | -146238 | -43883 | 0.56 | 608 | 1B井戸2 | 後期 | -146060 | -43672 | | |
| 542 | 1A溝58 | 後期 | -146232 | -43876 | 0.25 | 609 | 1B井戸3 | 後期 | -146081 | -43665 | | |
| 543 | 1A溝61 | 後期 | -146237 | -43861 | 0.41 | 610 | 1B井戸4 | 後期 | -146082 | -43679 | | |
| 544 | 1A溝62 | 後期 | -146223 | -43860 | 0.09 | 611 | 1B井戸5 | 後期 | -146084 | -43671 | | |
| 545 | 1A溝70 | 後期 | -146238 | -43849 | 0.35 | 612 | 1B井戸6 | 後期 | -146077 | -43669 | | |
| 546 | 1A溝73 | 後期 | -146249 | -43844 | 0.14 | 613 | 1B土坑4 | 後期 | -146099 | -43677 | 0.04 | |
| 547 | 1A溝75 | 後期 | -146242 | -43835 | 0.49 | 614 | 1B土坑5 | 後期 | -146099 | -43675 | 0.01 | |
| 548 | 1A柵列1 | 後期 | -146218 | -43885 | | 615 | 1B土坑6 | 後期 | -146089 | -43677 | 0.44 | |
| 549 | 1A柵列2 | 後期 | -146228 | -43900 | | 616 | 1B堀1 | 後期 | -146080 | -43685 | | |
| 550 | 1A柵列3 | 後期 | -146234 | -43878 | | 617 | 1B堀2 | 後期 | -146095 | -43668 | | |
| 551 | 1A柵列4 | 後期 | -146240 | -43869 | | 618 | 2B井戸2 | 後期 | -146075 | -43751 | | |
| 552 | 1A石組7 | 後期 | -146253 | -43909 | | 619 | 2B土坑6 | 後期 | -146059 | -43744 | | |
| 553 | 1A土坑062 | 後期 | -146221 | -43888 | 0.41 | 620 | 2B土坑7 | 後期 | -146065 | -43750 | 0.06 | |
| 554 | 1A土坑063 | 後期 | -146222 | -43890 | 0.20 | 621 | 2C井戸02 | 後期 | -146061 | -43816 | | |
| | | | | | | 622 | 2C井戸04 | 後期 | -146062 | -43812 | | |

A-1、5A調査区以外の遺構

1Aと3B調査区で2面、それ以外の調査区で1面確認された。全体の地形は基本的に先の、徳川大坂城築造以前の時期と同様であり、大きく6A調査区を中心とする高位面と1A・3A調査区を中心とする低位面に分かれる。さらに本遺構面の場合、調査区全体の東部地区にあたる1B・2D・3C調査区で堀を中心とする遺構が検出され、3C調査区の西縁を境界としてこの地区もまた6A・2C・4A調査区より標高を下げた低位面であったことがわかった。ただしこの地区の堀以外の遺構は、後述するように5層埋積以前の段階におこなわれた激しい削平により、ほとんど明らかにしえない。また6A調査区を中心とする高位面の遺構は、江戸時代以降の再開発により大半失われている。

その結果、この時期の状況は、厚い5層の埋積で残された、1A・3A調査区を中心とした低位面によって語られることになる。以下、図化された主な遺構を中心に説明をすすめる。

3A井戸2 (642) 3A調査区の溝17に近い調査区南部の中央よりに位置する。検出面で確認された平面形は一辺2.5mの方形であり、一段下がって東側に段を持つ隅丸方形の井戸掘方が現れる。掘方の規模は一辺2.3mである。井戸枠は基本的に方形の横板組であるが、上部は北・西面が石組、南・東面が横板組で、最上部は石組となっている。石組は直径20～25cmの自然石を積んだもので、中には石仏を切断して転用したものもみられる。規模は内法で1辺0.6mである。なお検出面から4mで底に達し、底部には直径50cmの桶が据えてあった。

5C井戸2 (755) 5C調査区の北西に位置する。掘り方の平面形は長径3m、短径2mの不整形円形である。井戸の内径は1m、深さは検出面から1.9m以上を測る。井戸枠は下部が縦板組みで上部には瓦と石をめぐらす。

1A溝14 (520) 1A調査区の南西隅位置する瓦組の導水管である。東は0.5m程の比高差をもつ1A土坑110 (559)につながり、西は礫の詰められた1A土坑127 (560)につながる。溝の傾斜はほとんどなかったが、丸瓦の組み方から東から西へ導水したことが考えられる。なお源流にあたる1A土坑110は、直径1mの壁の直立した円形の土坑であり、内部に木製品などの容器の据えられていた可能性が高い。

1A溝15・16 (519・521) 1A調査区の南西隅に位置する、共に軸を南北にもち、南はトレンチ外へ延び溝15の北端は調査区の北部に達する前で終結している。規模は幅1.1m、深さ0.4mを測る。断面形は逆台形で、埋土は中央部が淡褐色の砂、南部の上層は青灰色の粘土ブロックの集積した5層に類似した土である。なお溝15の南部から宝塔の軸部が出土している。焼け瓦と、丹波・備前・瀬戸・美濃・中国製磁器など多数の遺物を出土した。

溝16は溝15と接しながら後出して流れる。幅1.8m、深さ0.4mである。1A石組7 (552)の排水を受ける。

3A溝17 (470) 3A調査区の南～1A調査区の北に位置する。この場所は、後述するような三の丸築造以前にあった東西方向の開析谷の最上層にあたり、本遺構はその埋積に際してこの位置に残され、設けられた排水用の溝である。本調査区内での最大幅は4.5m、深さは1.5mである。基本的には素掘りの溝であるが、北壁には杭と竹または細枝を組み合わせた土留めが施されており、その痕跡が僅かに残されていた。

埋土は上層が5層であり、最下層に薄い黒色粘土が見られる。また下層より廃棄された瓦が大量に検

出された。

3 B 池 1 (678) 3 B 調査区の北側東寄りで検出された。南に長さ約13m、高さ約2 m (最大高) の石垣を持ち、石垣中央部は南に約3 m突出する。この突出部分は北から南に向けて緩やかに上っており、石垣の高さも0.75mほどである。池の西端には石垣は築かれておらず、排水用の水路が北西に向かって取りついている。池の東端は調査区外に延びており不明である。

石垣は長さ0.5～1 m、幅0.2～0.4mの切り石や角礫を240～250個程使用し構築されている。また、その中には石臼も3個含まれている。石垣は東側が最大5段に、中央部が2～3段、西側が最大4段に積まれている。石垣の基礎は粘質土を基盤にして大形の石を中心に平石で幅厚く構築される。上部になるほど石垣の幅は薄くなる。裏込めには粘土と細砂が使用され、石垣各の段毎に厚く盛られている。粘土は石の間にも充填されている。

使用されている石材は大半が花崗岩であり、安山岩が1個含まれている。花崗岩は生駒産のものが主流を占め、瀬戸内産が1個、六甲山産が4個みられる。これらの石の中には火を受けた痕跡を持つものや切り石でも割れたものが存在する。

池1は豊臣時代後期の早い段階には埋没しその機能を失っていた。埋土には粘土が厚く堆積し、腐食物がかなりみられる。出土遺物は陶磁器、播鉢、塩壺、下駄、漆器、箸、銭、骨など多岐にわたっており、出土量も多い。また、西側石垣の石の間から人間の頭骨頂部が検出されている。

なお、遺構の性格であるが、南側屋敷地の北への拡張に伴う土留めのための石垣を利用して廃棄場所としての機能を持つようになったものと思われる。結果として多量の腐食物の堆積がみられ、池状の遺構として捉えられることから、今回は池1として報告した。

1 A 土坑63 (554) 1 A 調査区の北西部に位置する。平面形が南北方向に長い楕円を呈し、東端はトレンチ外へのびる。規模は長軸が1.2m、短軸が0.9m、深さは0.2mを測る。埋土には炭化物を含み、唐津碗と下駄が出土した。

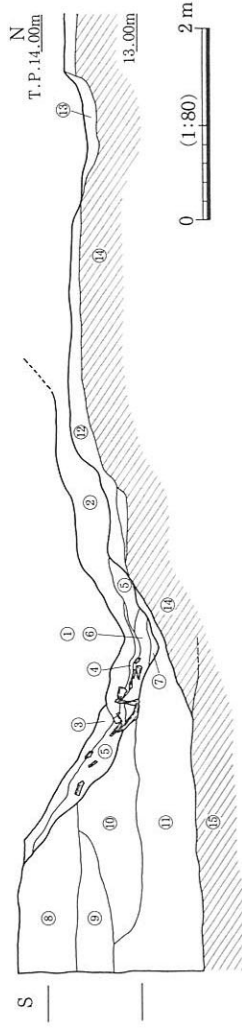
1 A 土坑64 (555) 1 A 調査区の北西部に位置する。平面形が東西方向に長い長楕円を呈し、規模は長軸が1.5m、短軸が0.95m、深さは0.2mを測る。埋土は上層に炭が堆積し、下層は砂混じりのシルトである。一個体の志野向付が三分して出土した。

そのほかこれらの周辺に土坑群が集中して重複しながら確認された。いずれも隅丸長方形から長楕円を平面形とし、軸は一定しない。規模は大小があるが、およそ長軸で1.6m、深さは0.2から0.5mを測るものが多い。埋土は7a層に似た灰褐色の砂混じりシルトであるが、中には炭化物の層を薄い間層とするものもある。

2 C 土坑53 (630) 2 C 調査区の南東部に位置する。大半が建物の地下部分により削平されており、確認された長さは5 m、幅は3 m、深さは1.5mである。遺構の平面形は東西に長い方形であり、このうち東壁が垂直に立ち上がり、南北の辺は平行してのびるため、溝の東端部分と考える。

埋土はブロック混じりの褐色シルトと炭化物を多量に含む焼土および炭の互層であり、最上層には、この溝が放棄された際に投棄された割石が2個体落ち込んでいる。炭層は2層が切り合い、中央部分では層厚0.3mの厚い堆積となる。遺物は炭層を中心として土師器、陶磁器、瓦、漆器碗などの木製品がみられ、種子を含む植物遺体も集中して検出された。

2 C 土坑65 (633) 2 C 調査区の南中央に位置する。埋土に礫を含む1辺1.8mのほぼ正方形の平面形をもつ。深さは0.25mである。2次堆積である須恵器、土師器のほか、塩壺、漆器碗、備前播鉢、瀬戸・



- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| ① 砂混じりブロック (5層) | ⑩ 10YR 6/6 明黄褐色 細砂 |
| ② 10YR 3/1 黒褐色 粘土ブロック 細砂 (瓦を含む) | ⑪ 5Y 6/1 灰色 細砂~微砂 |
| ③ 10YR 4/1 灰褐色 細砂 (瓦を含む) | ⑫ 5Y 6/1 灰色~5Y 4/1 灰色 細砂 |
| ④ 10YR 3/1 黒褐色 粘土 | ⑬ 5Y 3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック |
| ⑤ ③より暗い細砂 | ⑭ 5Y 6/2 灰オリーブ色 細砂 |
| ⑥ 10YR 3/1 黒褐色 粘土 | ⑮ 2.5Y 2/1 黒色 粘土 |
| ⑦ 10YR 1.7/1 黒色 粘土 | |
| ⑧ 7.5YR 5/6 明褐色 砂礫ブロック | |

図106 1 A調査区 溝7断面図

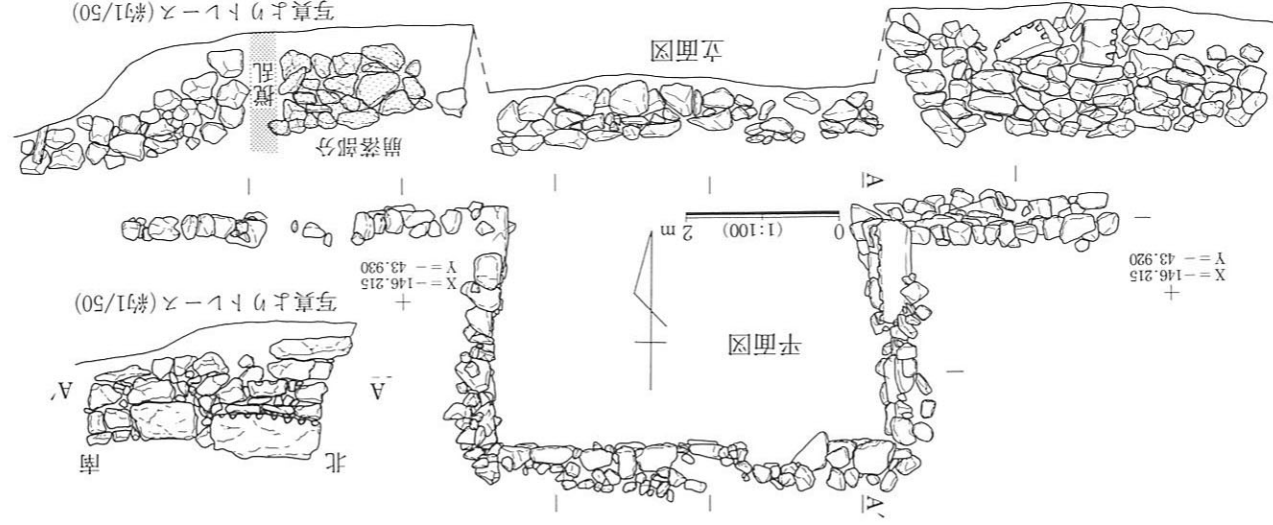
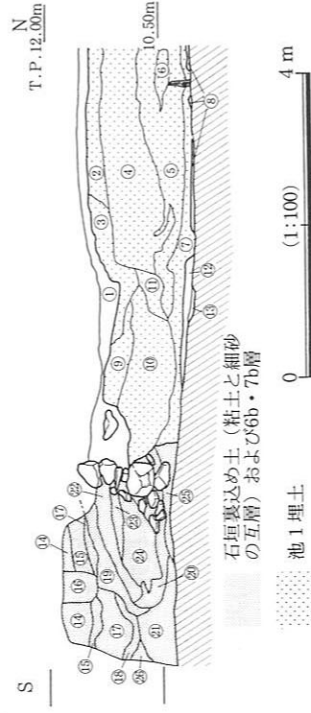


図107 3 B調査区 池1平面・立面図



石垣裏込め土 (粘土と細砂の互層) および6b・7b層

池1埋土

- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| ① 5YR 3/4 暗赤褐色 泥土 | ⑪ 5Y 6/1 灰色 粘土 |
| ② N 5/1 灰色 粘土 | ⑫ ①+② 混じり |
| ③ ①+② 混じり | ⑬ 10BG 6/1 青灰色 粘土、粗砂ブロック |
| ④ 5Y 8/4 淡黄色 粘質土 (粗砂と中粒砂含む、粘土ブロック) | ⑭ 5Y 7/1 灰白色 細砂 |
| ⑤ 10BG 6/1 青灰色 粘土、粗砂ブロック | ⑮ 10Y 5/1 灰色 シルト含む砂質土 |
| ⑥ 5Y 7/1 灰白色 細砂 | ⑯ N 3/1 暗灰色 砂質土 (非常に硬くしまっている) |
| ⑦ 10Y 5/1 灰色 シルト含む砂質土 | ⑰ 2.5GY 5/1 オリーブ灰色 粘土 (①をわずかに含む) |
| ⑧ N 3/1 暗灰色 砂質土 (非常に硬くしまっている) | ⑱ 2.5GY 5/1 オリーブ灰色 粘土 (①を含む) |
| ⑨ 2.5GY 5/1 オリーブ灰色 粘土 (①をわずかに含む) | ⑲ ④+⑤ |
| ⑩ ④+⑤ | ⑳ 2.5GY 5/1 オリーブ灰色 砂質土 |
| | ㉑ 10Y 5/1 灰色 砂質土 |
| | ㉒ 2.5Y 4/2 暗灰黄色 粘質土 |
| | ㉓ 7.5GY 7/1 明緑灰色 細砂 |
| | ㉔ ④+⑤ |
| | ㉕ 5BG 6/1 青灰色 粘土と細砂 |
| | ㉖ 10GY 5/1 緑灰色 粘土 |
| | ㉗ 10GY 5/1 緑灰色 粘土 |
| | ㉘ 10GY 5/1 緑灰色 粘土 |
| | ㉙ N 4/1 灰色 粘土 |
| | ㉚ 5GY 5/1 オリーブ灰色 粘土と細砂 |
| | ㉛ 10BG 5/1 青灰色 シルト混じり細砂 |
| | ㉜ 2.5GY 5/1 オリーブ灰色 粘質土 |
| | ㉝ 10Y 5/1 灰色 粘質土 |
| | ㉞ 5BG 6/1 青灰色 シルト混じり細砂 |

図108 3 B調査区 池1断面図

遺構の北半部は三の丸築造に伴う盛土を基盤層としており、それゆえその構築された時期は当然三の丸築造以降にあたるわけであるが、一方でこの遺構の埋土を基盤層にして、6 a層除去後の遺構面が形成されているため、この遺構の帰属する細部の時期は、大坂夏の陣を遡るそれ以前にあたることになる。

漆器、下駄、陶磁器、焼塩壺、金箔瓦、飾り瓦などが出土している。

1 A 建物 1～7 (498～504) 1 A 調査区の中央東よりに位置する。いずれも東西に長い2×4間または5間程度の掘立柱建物である。西側の辺は軸をあわせ、南北に連続して建てられている。また個々の建物は柱穴際に平行する溝をもっており、それらの溝は西進して、上層の遺構面で南北に調査区を縦断する道路遺構の側溝を構成した1 A 溝10 (518) につながる。

なおこの溝と一部の柱穴が6 a層上面での精査で確認されている。いわゆる雨落ち溝を伴った連続建物であり、その一部は他の建物が廃絶した後も残り、畑の区画または仮屋として利用されていた可能性がある。

各建物の規模と構造は、建物1が東西14.4mで4間と東に1間の庇、南北が3.85mで2間、建物2が東西13.4mで5間、南北が4.2mで2間、建物3が東西13.3mで5間、南北が4mで2間、建物4が東西13.3mで5間、南北が3.7mで2間、建物5が東西13.5mで北面が4間、南面が5間、南北が3.75mで2間、建物6が東西11mで5間、南北が4.2m、建物7が東西9.8mで5間、東西が3.6mである。

建物6・7はその東に3段目の低位面をもつため、同一面での平坦部が狭い部分、東西方向に制限が加えられている。

1 A 建物 8・9 (505・506) 3 A 調査区の南東にあたり、さきの建物3～5の東に位置する。共に東西に長い掘立柱建物で、それぞれの規模と構造は建物8が東西8.6mで4間、南北3.9mで2間、建物9が東西11.6mで6間、南北3.7mで2間である。ただし建物9の柱穴の配置はこれまでの建物にくらべて整っていない。

なおこれらの建物と重複して南北方向に複数の溝が流れている。これらの溝と建物との先後関係については、1 A 溝70

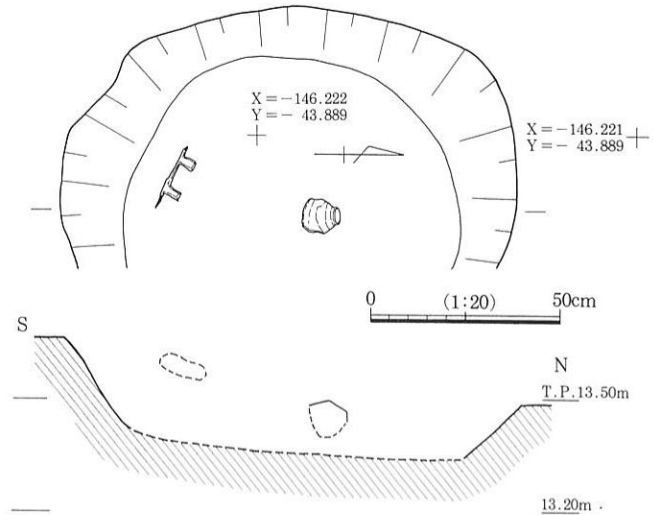


図109 1 A 調査区 土坑63平面・断面図

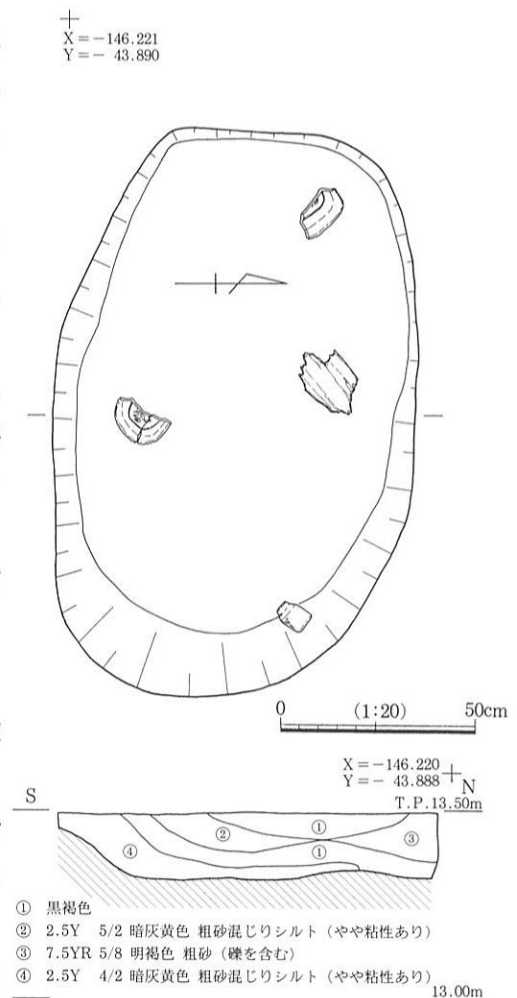


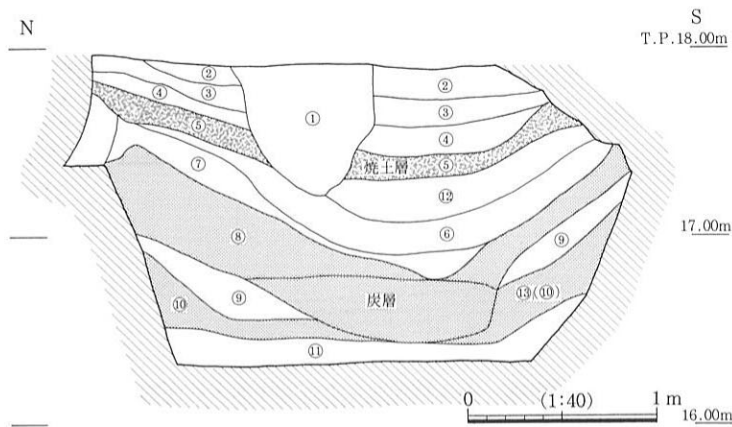
図110 1 A 調査区 土坑64平面・断面図

(545) が建物 8・9 を構成する柱穴を切って流れているように観察された点、三の丸を築造して溝だけを走らせたような空間利用が考えにくい点から、概要報告段階では建物群の廃絶した後に複数の溝が流れたと考えた。

しかし、これらの遺構検出当初の記録を再検討した結果、5層除去後に見られたのは建物の雨落ち溝と一部一致する溝および一部の建物の柱穴であり、複数の南北溝の多くは6層とした黒色の土壌化された層を除去した後に明確になったことが確認され、特に1A溝70については建物群の廃絶後であったならば不必要な、建物配置と連動した流れを示していることも再確認された。

したがって本報告においてはこの所見を重視し、この現象が見せかけでないことを前提として、建物群を溝群の後に位置づけることにしている。

ただし先に述べたの1A溝70が1A建物8・9を構成した可能性のある柱穴に後出する点はこれまでの所見と矛盾するものであり、建物1～7と建物8・9が同時に存在していなかった可能性は残る。いずれにしてもこのような景観は三の丸が築造された1598年から大坂夏の陣のおこなわれた1615年の短期間にうみだされたものであり、その実態については大坂城をとりまく様々な事象を含めて総合的に考える必要がある。今後の課題としたい。



- ① 10YR 4/2 灰黄褐色 砂質シルト (礫・瓦・炭化物多く含む、割石の落。盛土。)
- ② 10YR 4/3 にぶい黄褐色 シルト (炭化物・小礫多く含む)
- ③ 10YR 6/4~6/6 にぶい黄褐色~明黄褐色 砂質シルト (黄色粘土ブロック・礫含む)
- ④ 10YR 4/4 褐色 シルト (土師器片含む)
- ⑤ 10YR 4/1 褐灰色 シルト (焼土 土師器片 炭化物多く含む)
- ⑥ 10YR 6/1~5/1 褐灰色 砂質土 (小・中礫多く含む、下に瓦・炭化物含む)
- ⑦ 10YR 5/6 黄褐色 シルト (密、瓦含む)
- ⑧ 10YR 2/1 黒色 粘質シルト (黄色シルトが帯状に入る、下に木片多く含む、横に灰色粘土、炭化物を含む)
- ⑨ 5Y 6/1 灰色 シルト
- ⑩ 10YR 2/1 黒色 粘質シルト (有機物が炭化している)
- ⑪ 10Y 6/1 灰色 粘土 (微砂含む、瓦含む)
- ⑫ 10YR 5/4 にぶい黄褐色 シルト (黄色粘土ブロック炭化物、瓦、含む)
- ⑬ N 6/0 灰色 粘土 (微砂含む)

図111 2C調査区 土坑53断面図

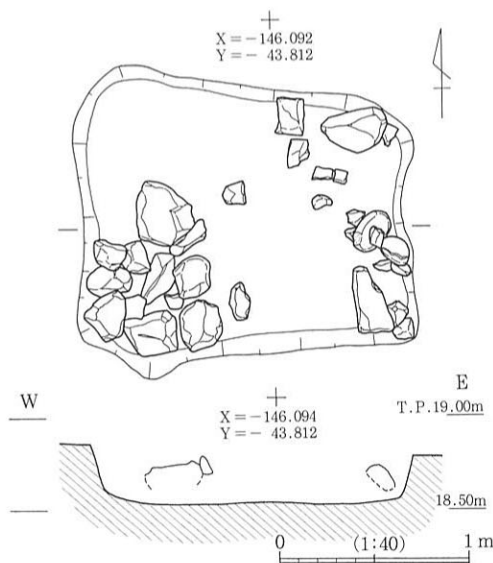


図112 2C調査区 土坑65平面・断面図

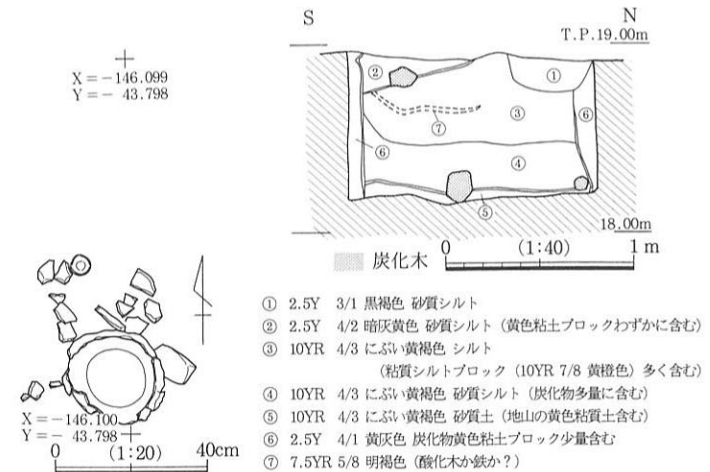


図113 2C調査区 羽釜周辺平面図

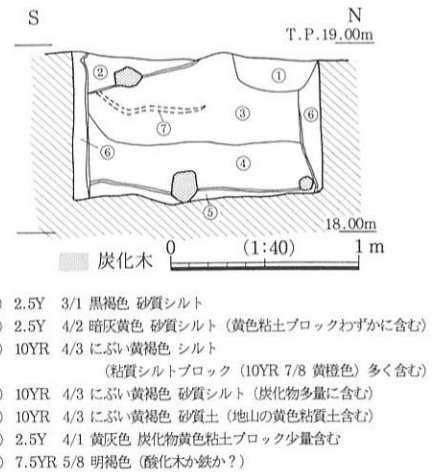


図114 2C調査区 土坑67断面図

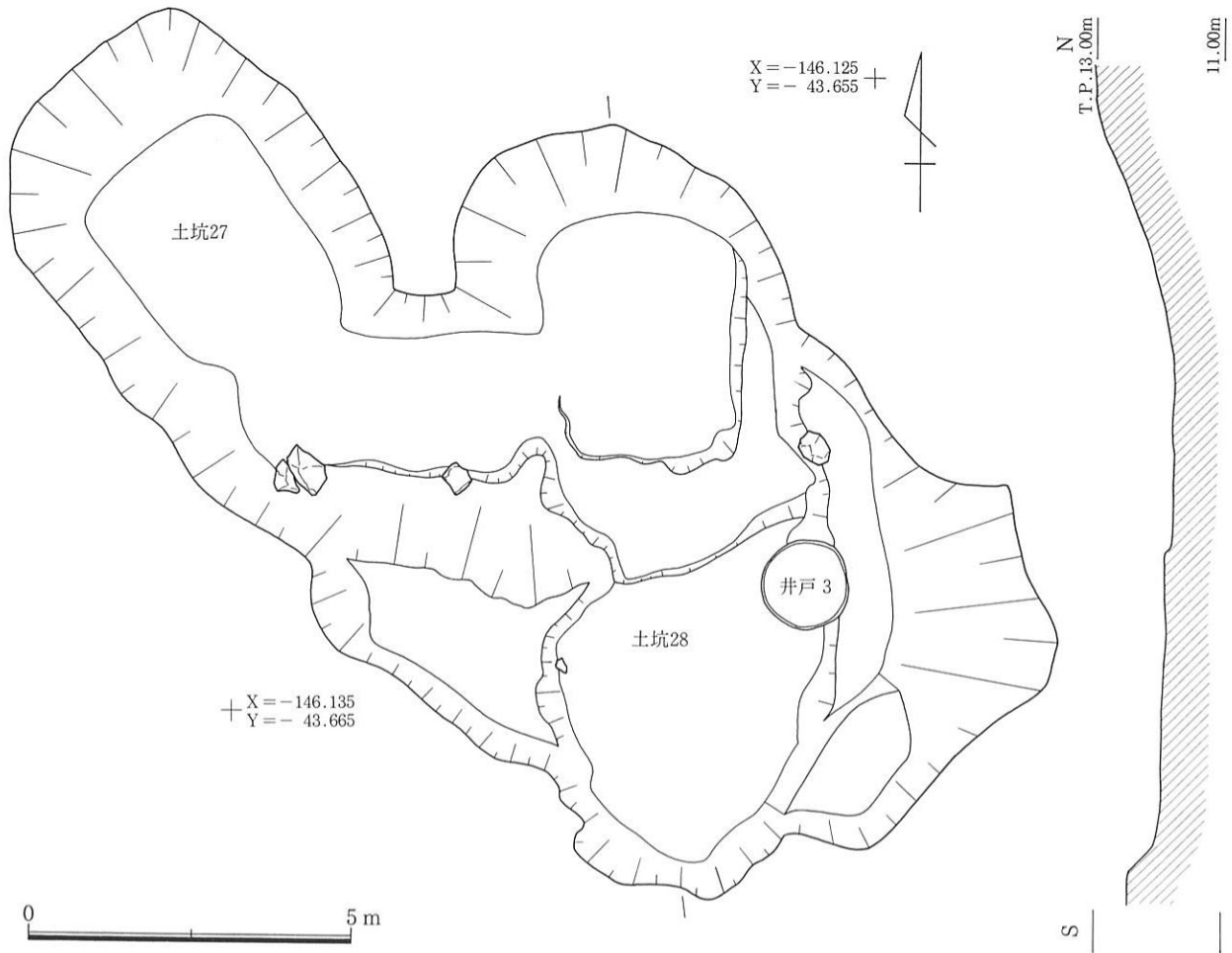


図115 2D調査区 土坑27・28平面・断面図

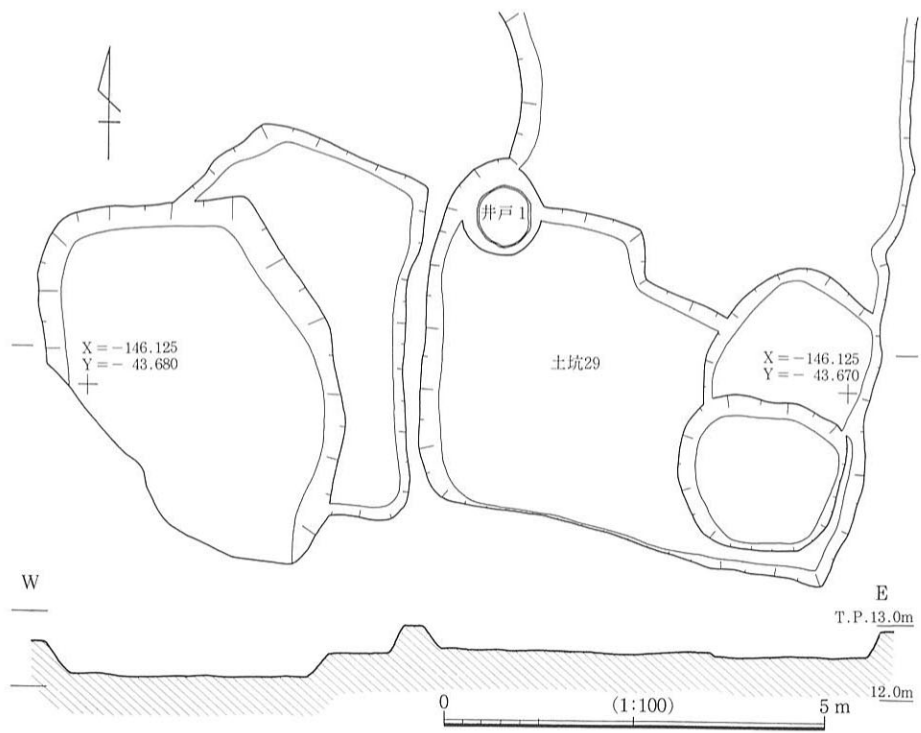


図116 2D調査区 土坑29平面・断面図

査区の西半部に位置する。このうち建物10～12（507～509）と建物15・16（512・513）は礎石建物であり、建物13（510）・14（511）・17～19（514～516）は掘立柱建物である。

礎石建物は1 A 調査区の北西部で6 a 層である焼土層を除去後に、大半は礎石が抜かれ、その据えられた跡として検出された。建物12を中心として、その北側に建物11と15が北面を同じ軸に合わせて東西にならび、建物12の西側に建物10と16がやはり北面をほぼ同じ軸にあわせて東西にならぶ。各々の規模と構造は、建物10が南北3.6mで3間、東西は現状で2.2mを測り2間以上、建物11は南北4.2mで4間、東西4.4mで4間の正方形、建物12は南北9.2mで5間、東西5.2mで、4間以上、建物15は北面に礎石が残っており、東西3.8mで4間、南北4 mで4間、建物16は南北5 mで4間、東西3.8mで3間である。

1 A 建物13（510）は1 A 調査区の南西隅に位置する。この地区は調査区の中程から谷に下降するが、この建物はその傾斜面に近い8層上面で検出され、軸は北からやや東へ振る。時期は古代に遡る可能性

がある。規模と構造は、南北が6.1mで3間以上、東西が4 mで2間である。

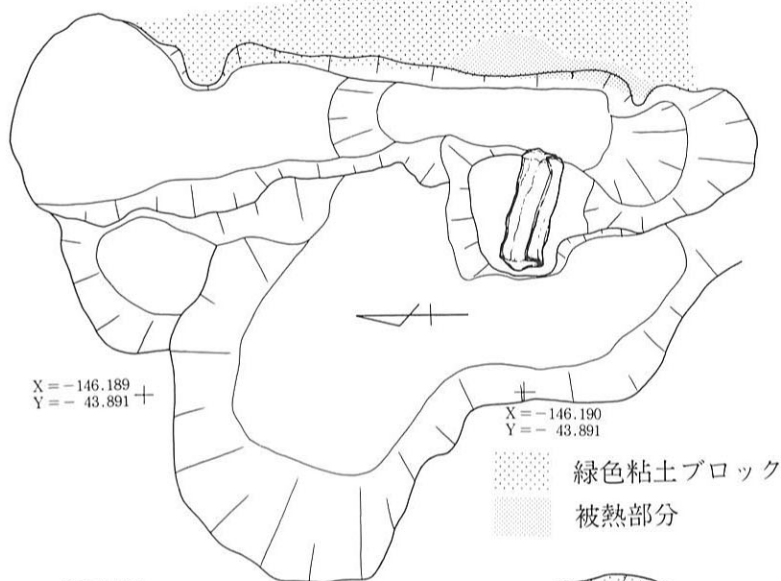
1 A 建物14（511）は1 A 調査区の南西隅で建物13の南東に位置し、後述する1 A 石組7に先行する。南面は調査区外にのび、東面は確認されていないため、塀である可能性も残る。現状で南北8.5mで5間、東西5.2mで3間である。柱穴内に柱根を残すものが多い。

1 A 建物17～19（514～516）は調査区南中央に位置する。いずれも8層上面からの検出であり、三の丸築造以前に遡る可能性もある。それぞれの規模と構造は、建物17が南北6 m、東西4.6mの2×2間、建物18が南北5.8 mで3間以上、東西が3.5mで2間以上、建物19が1間1.2～1.5mである。

1 A 柵列1～3（548～550）

1 A 調査区の北西に位置する、柵列1は調査区の北西際を東西に走る3 A 溝17（470）の南肩に設けられたもので、確認された長さは21mにおよぶ。東端は

検出状況



掘削後

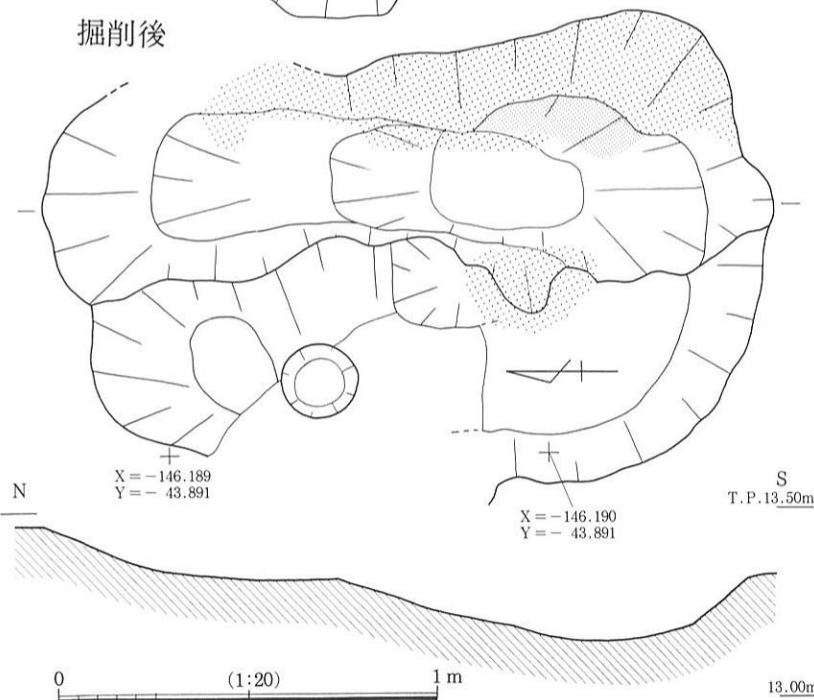


図117 3 A 調査区 土坑185平面・断面図

南北に縦断する道路遺構の西側溝である1 A 溝 8 (459) でとまり、西端は3 B 池におよぶものと推定される。柱間は1.4mである。柵列2・3は柵列1と平行して、その南西に位置する。建物10・16の北を遮る形で設けられ、それぞれ確認された長さは10.5mと6 mである。

1 A 柵列 4 (551) 1 A 調査区の中央を南北にはしる。確認された長さは42m以上であり、南は調査区外へのび、北は3 A 調査区でその延長の一部と思われる柱穴が確認されている。軸が2列みられるところから、建て替えの可能性もあるが、柱穴の最短距離は0.9mを測る。なお、この位置は柵列の廃棄された後、土手状の小起伏を呈し、その北端からは樹痕も検出されている。

5 B ピット列 (711) 5 B 調査区のほぼ中央に位置し、高位面を降りた崖際を東西にはしる。調査区内で2列認められ、北側の列は長さ40、柱間が約1.5m、南側の列が長さ40m、柱間が1.7~2 mを測る。北側の列は5 B 溝98 (732) と切り合っており、本来は南側のピット列と溝98の組み合わせの段階と、北側のピット列だけの段階の2時期を考える必要がある。

3 B 建物11 (676) 3 B 調査区の中央に位置する。礎石建物であり、東面の一部に礎石列が、南面に礎石抜き取り穴が並び、西面に石列の排水溝がはしる。柱間数は確定できないが、規模は東西11m、南北6 mと考えられる。全体に被熱が著しい。残存する礎石の間隔は東面で1 mを測り、後述する3 B 建物 8 (673) と同様に礎石と礎石の間には布掘り状の溝が掘られ、平瓦または丸瓦を2枚平行にたてた壁基礎が設けられている。その痕跡は南面でも確認でき、さらに一部は同様の施設が2列になった構造も推測できる。

建物内の北東隅と南西隅から埋甕遺構が検出された。南西隅は東西4 m、南北1 mの長方形土坑の一部をさらに2カ所掘りくぼめたもので、備前窯甕の底部が残存していた。北東隅は東西3.5m、南北2.5mの土坑に8個の備前窯甕が置かれ、さらに南東隅に2個分の土坑が掘られ、そのうちの1カ所のみ甕が据えられていた。

1 A 屋敷 2 (496) 1 A 調査区の中央西よりに位置する。6 a 層である焼土を除去して検出された。土間と礎石群から構成され、特定の建物を限ることのできない出土状況が示されたため、これらを一括に屋敷 2 としてとらえた。屋敷 2 を構成する遺構としては、1 A 溝 49 (538)

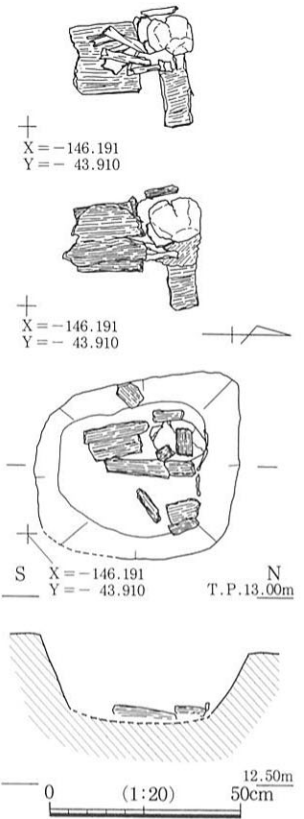


図118 3 A 調査区 土坑208平面・断面図

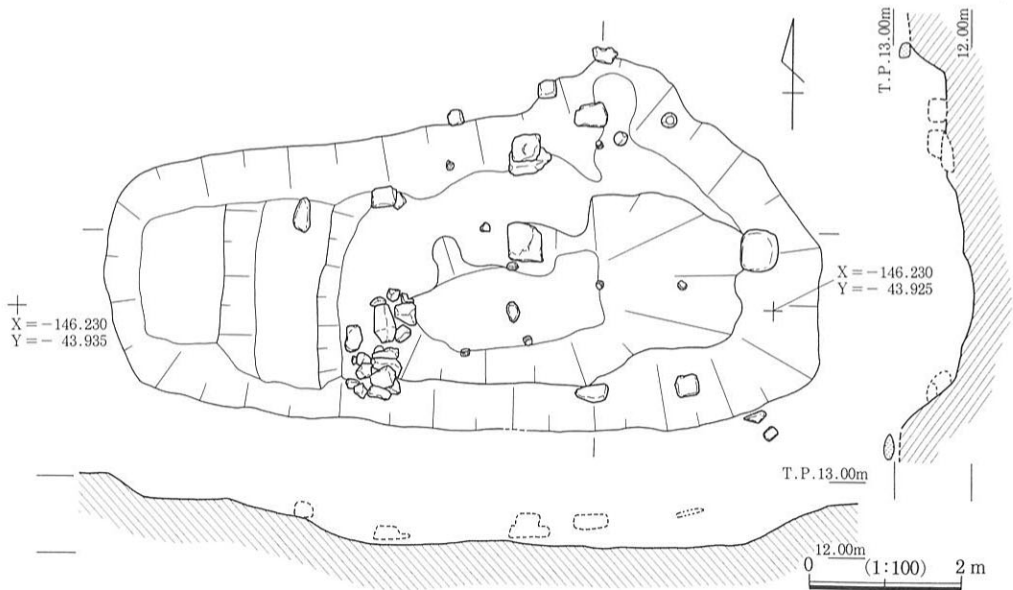


図119 3 B 調査区 土坑38平面・断面図

の西側で小規模な礎石列が南北方向を軸に二列並ぶ。礎石は一辺0.3m程であり、その中の一点ある。礎石はさらに西へ延びる可能性があるが、建築物の復原にはいたっていない。なお二列に並ぶ西には枡形の墨書も残されていた。礎石の間隔は1mで礎石列の間隔は0.6mで側の礎石列を切る形で1 A溝47(536)につながる瓦組の暗渠がみられるため、この面で少なくとも二回以上の建て替えのあったことになる。

1 A溝49の東側は、3×6m程の範囲で、締まった黒色シルトによる2面の堆積が認められた。また、その周辺に瓦も多く分布しており、この建物が、瓦屋根と土間をもっていたことを示している。

主な遺物としては、1 A溝48(537)から、漆器、羽子板、扇の骨と考えられる加工木、基石、肥前系陶器碗、中国製染付、瀬戸・美濃窯挿鉢などが出土している。

その他に、1 Aピット62(490)の付近から頭蓋骨が1点出土した。出土状況は、焼土整地層(6 a

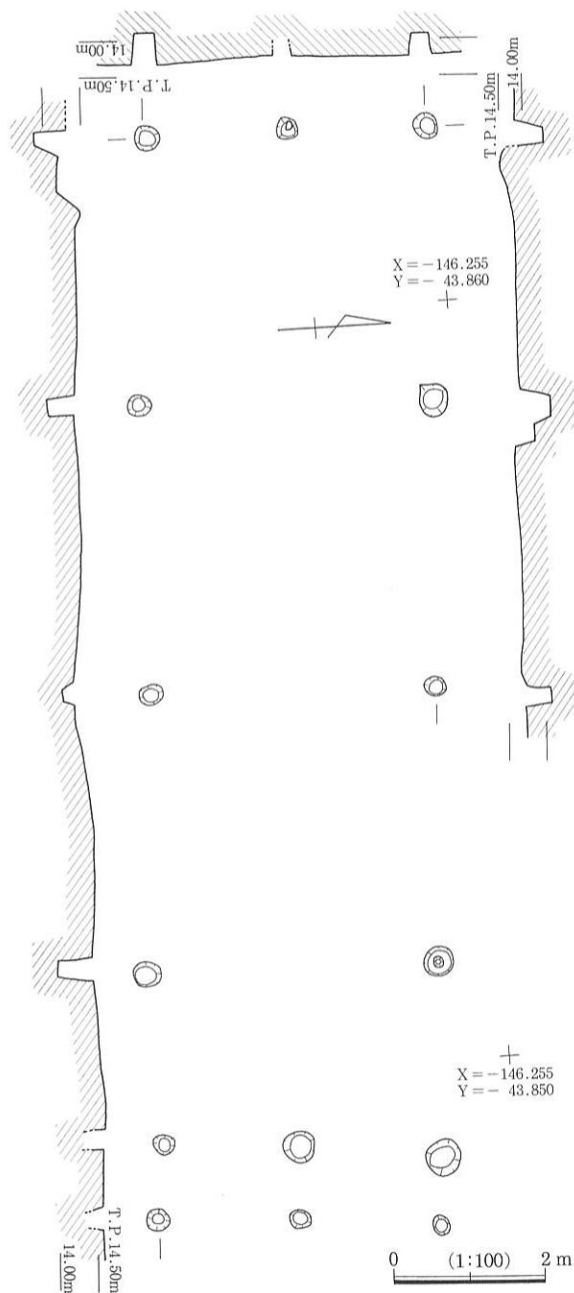


図120 1 A調査区 建物1平面・断面図

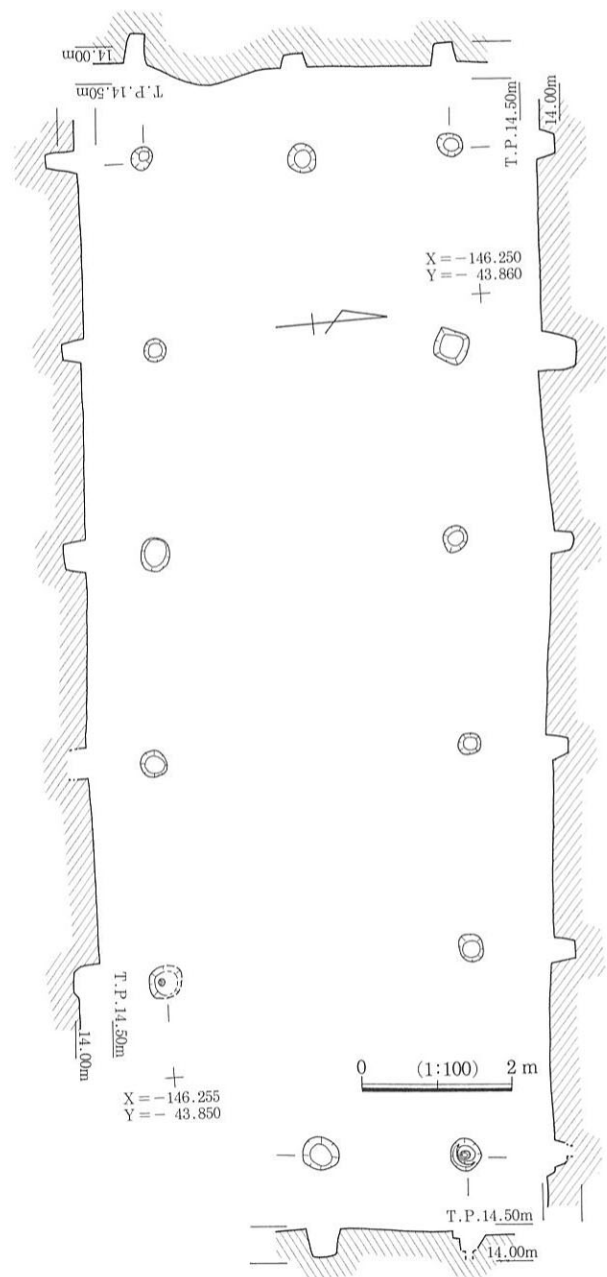


図121 1 A調査区 建物2平面・断面図

層)を除去後、土間状の黒色シルトに載る腐植物混じりの黒色土を掘削途中であり、頭蓋骨は前頭部左側に打撃痕をもっている。なお下顎骨はみられなかった。

1 A 屋敷 3 (497) 1 A 屋敷 2 の北で、1 A 屋敷 2 の基盤層となった黒色シルトの除去後の検出である。1~2 段の L 形石積みとその周辺から、30 個体を越える栄螺、鮑などの集積が検出されたため、屋敷 3 としてとらえた。遺物は主に石積みの北側から出土し、漆器椀、下駄、多量の箸、瀬戸・美濃窯の志野・織部を含む国産陶磁器と中国磁器などである。

1 A 土坑 288 (589) と溝 52 (539) 1 A 調査区の南西に位置する。溝 52 は、南北方向を軸としており、最大幅 2 m、深さ 0.8 m を測る。この溝は北端が 1 A 調査区と 3 A 調査区の間位置する谷につながり、南端は先述の 1 A 土坑 110 に接する溝とつながり、さらに調査区外へのびる。出土遺物には、瀬戸・美濃窯志野向付、アカニシ、軒平瓦、青磁碗、丹波窯鉢、土師器皿、瓦器皿、下駄、金箔軒平瓦、羽釜、

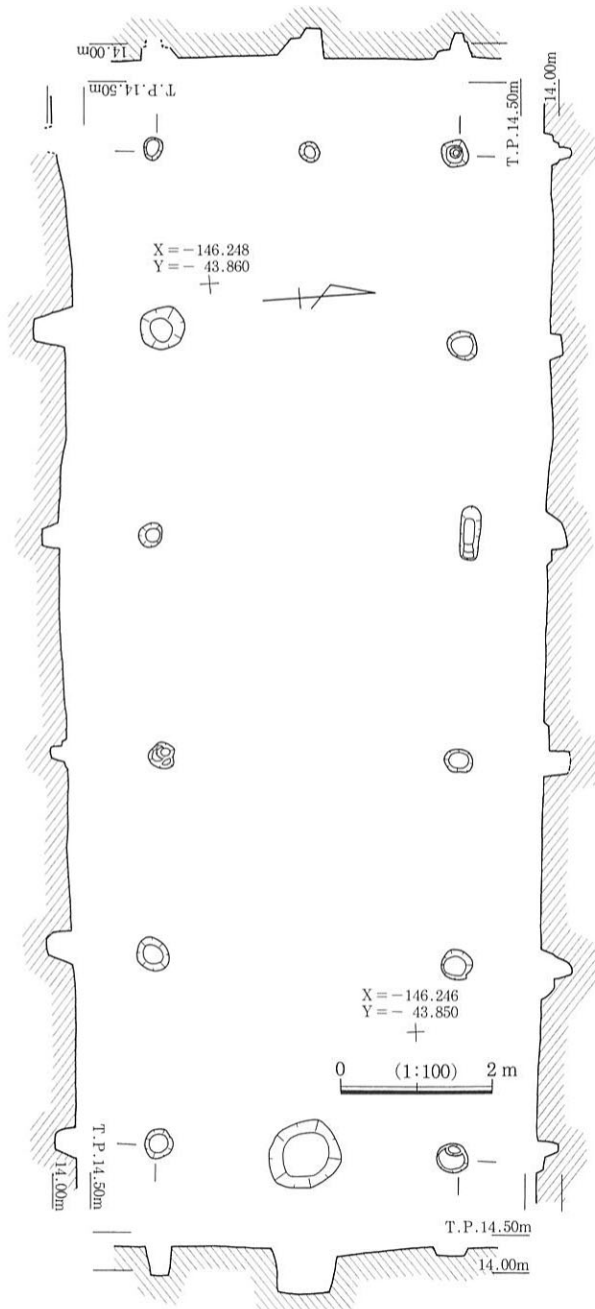


図122 1 A 調査区 建物 3 平面・断面図

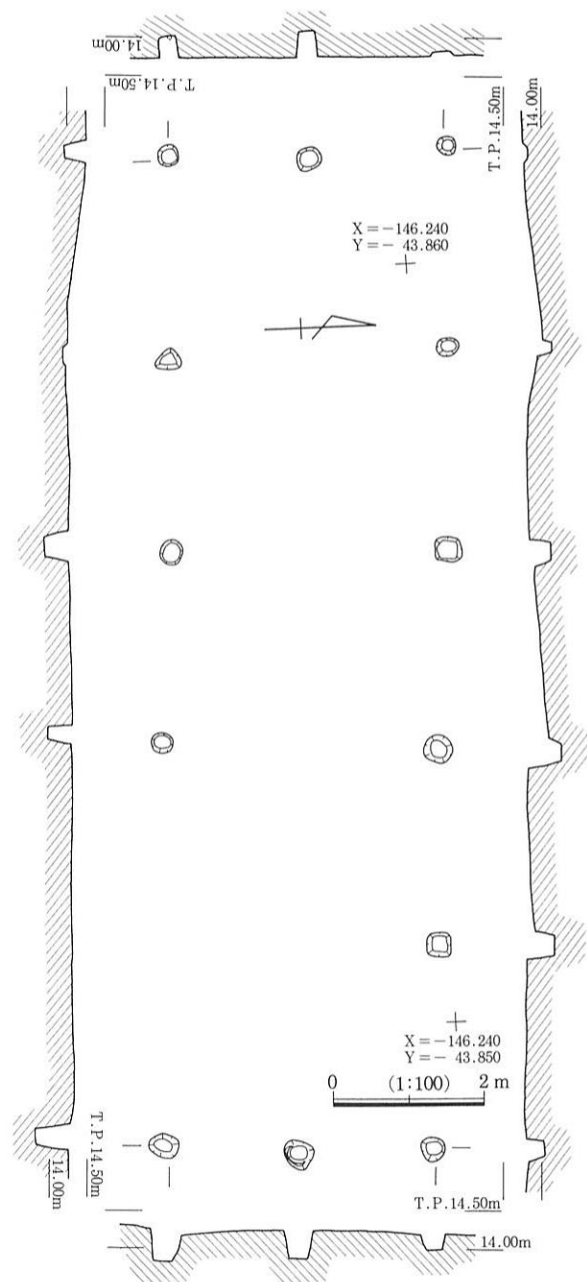


図123 1 A 調査区 建物 4 平面・断面図

瀬戸・美濃窯天目碗、漆器碗、瀬戸・美濃窯丸皿、白磁端反皿、中国製染付、備前窯插鉢・甕、瀬戸・美濃窯志野皿、肥前系陶器壺・胎土目皿、焼塩壺、火鉢、土師器墨書「せいしゅ」皿などが出土しており、少量ではあるが土師器皿の一括廃棄もみられた。

この溝は、谷の存在していた時期に機能している点で、谷の埋積が終了する三の丸完成以前に比定されることは明らかである。しかしこの溝の東側の基盤層がやはり造成盛土によるものであるため（1 A溝52から1 A溝53（540）の東側までの間は、青白色の細砂を主とする造成盛土を基盤層としており、この地点での11層は、さらに1.3m下に存在する。旧地形においてこの間は幅約13mの堀状の景観を呈する。）この溝の時期を三の丸築造以前の古い段階におくことはできない。この状況の理解としては、三の丸築造が一気に進められたのであるならば、その完成以前の新しい段階（1595年の惣構整備）に位置づけるか、あるいは三の丸築造が段階的におこなわれた場合はその中の一時期に比定されることになる。

なお、溝52出土遺物とした中には、その上層の遺物も含まれている可能性があり、これらをもって瀬戸・美濃窯の編年問題との対比はできない。

1 A土坑288と1 A土坑289は、溝52の東に約10m隔てて2連配置された瓦組の排水枡である。0.75×0.9

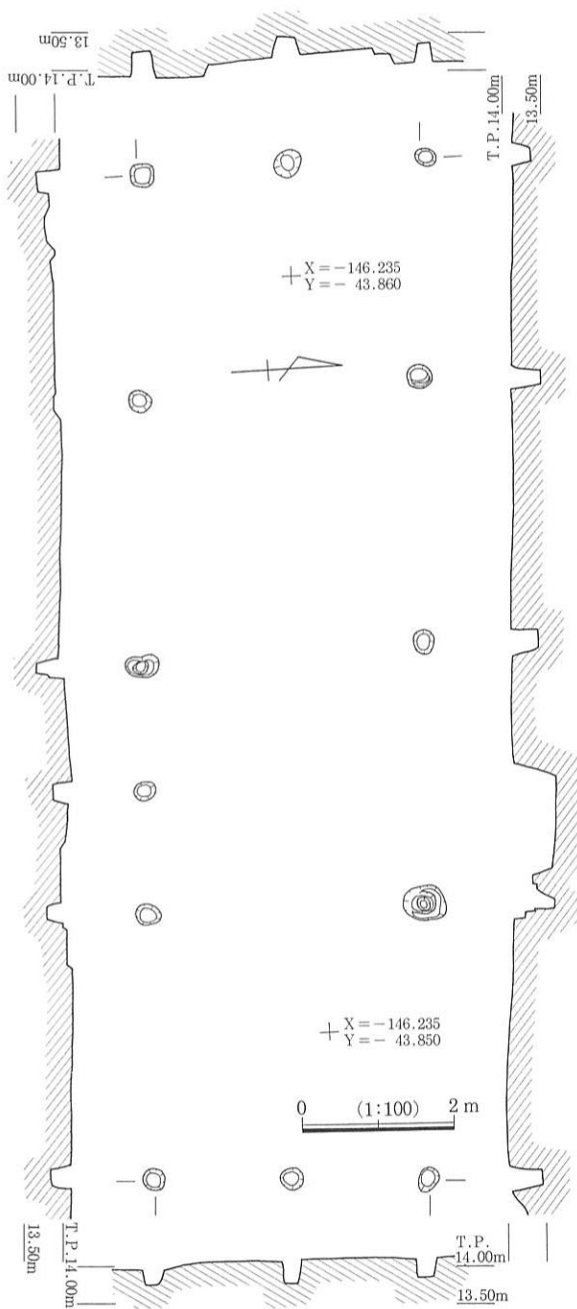


図124 1 A調査区 建物5 平面・断面図

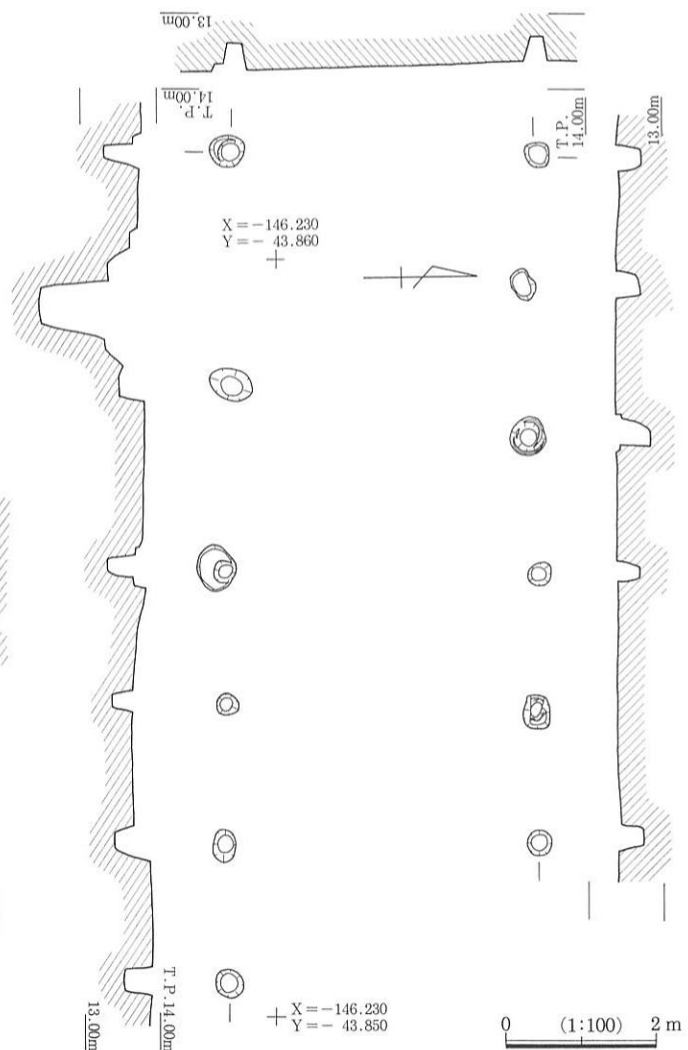


図125 1 A調査区 建物6 平面・断面図

mの方形の枡形に平瓦を立て、底面も平瓦を敷いている。また枡の西は中央から丸瓦を組んだ地下式の導水管をつなぎ溝52にその先端をだしている。導水管の上は瓦を粗く敷いた道である。

6 Aピット133 (772)・ピット412 (798) 6 A調査の中央南よりに位置する。共に土師器皿の埋納ピットである。ピット133の土師器皿内には土師器片以外に残存固体はみつからなかった。また共に、これらが建物を構成するピットであるかどうかは、他遺構の残存が乏しく確定できていない。

6 A瓦溜まり3 (810) 6 A調査区の南西端に位置する。考察編参照。

1 A石組7 (552) 1 A調査区の南西隅に位置する。1 A溝16につながる礫の集積および丸瓦を組んだ導水施設である。集石の規模は直径1mのほぼ円形で導水部の丸瓦は3組まで残っていた。

4 A建物1・谷1 (693・697) 自然地形を利用し、11層を大きく2～3段にカットして比高差1～2mの段差をもつ。底面には土坑が2基がみられ、壁に沿って幅1m弱、深さ0.1mの浅い溝が巡る。性格は不明であるが、出土遺物には少量の陶磁器と木片などがみられ、建物を配置するための造成遺構と考えた。また、この段状遺構(4 A建物1)の東側から2 B調査区で検出された谷の谷頭がみつかり、肩部分から6～7世紀頃の須恵器、土師器が少量出土した。

2 D堀1・2 (638・639)

2 D堀1は2 D調査区の西部に位置する。1 B調査区で検出された1 B堀1に続くもので、軸はほぼ南北に一致している。トレンチ北壁から約20mの位置で南壁に達し、1 B堀1からの延長距離は約65mである。11層を基盤層としたもので、石垣は確認されなかった。斜面の傾斜は、東面が42度前後、南面

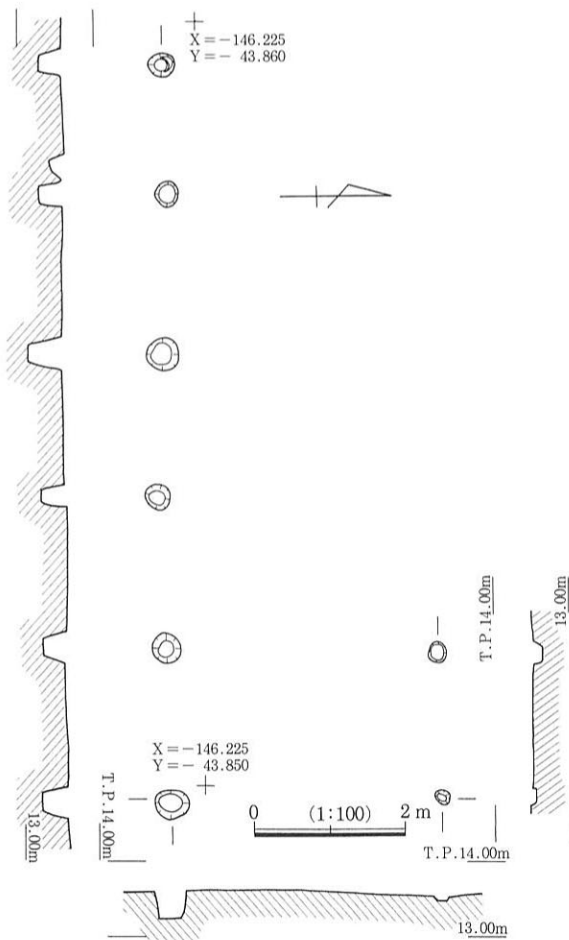


図126 1 A調査区 建物7平面・断面図

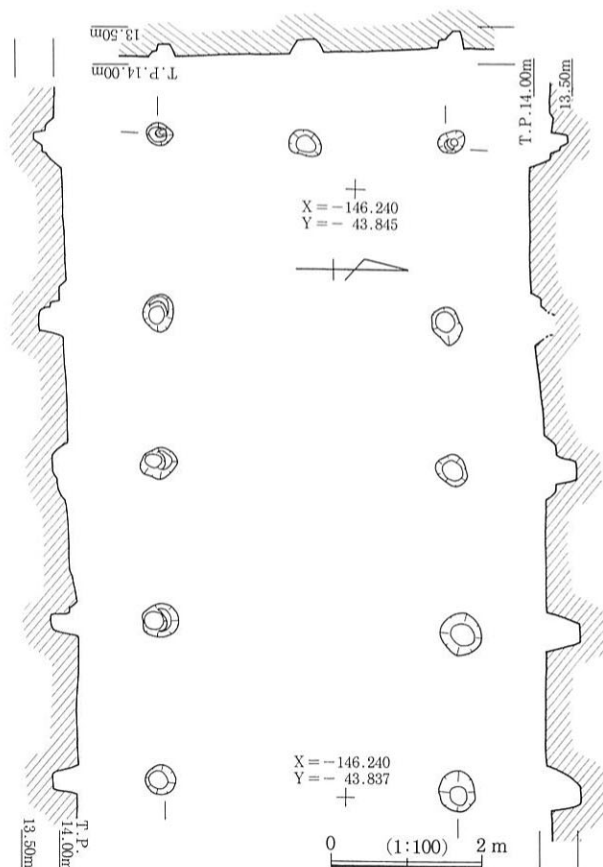


図127 1 A調査区 建物8平面・断面図

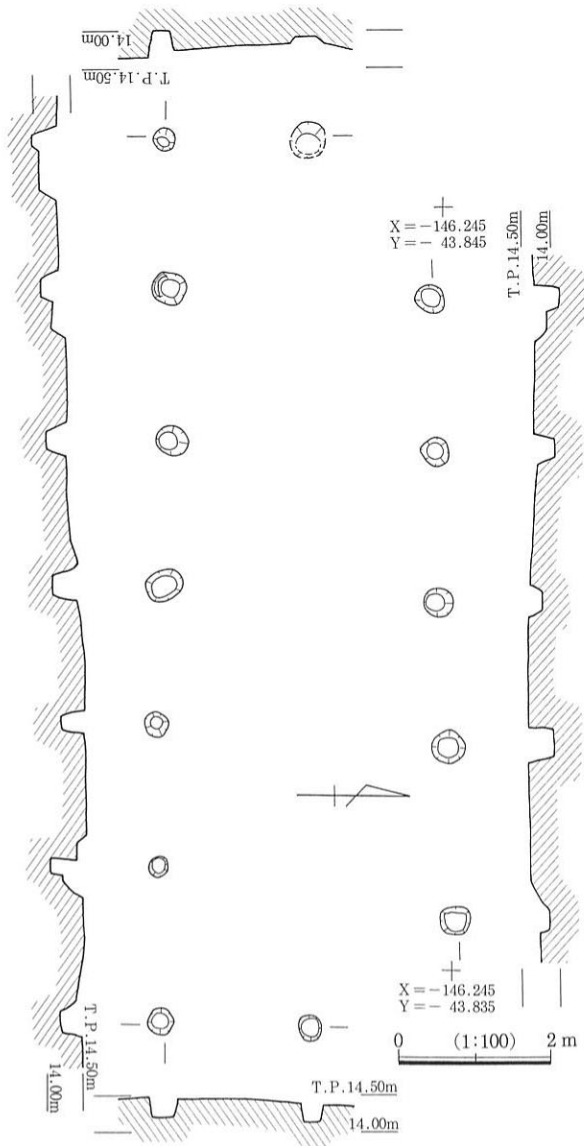


図128 1 A調査区 建物9平面・断面図

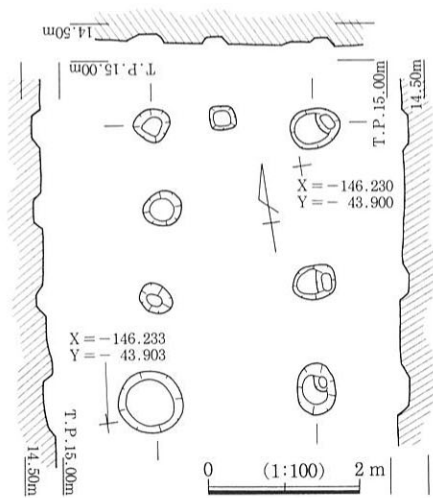


図129 1 A調査区 建物10平面・断面図

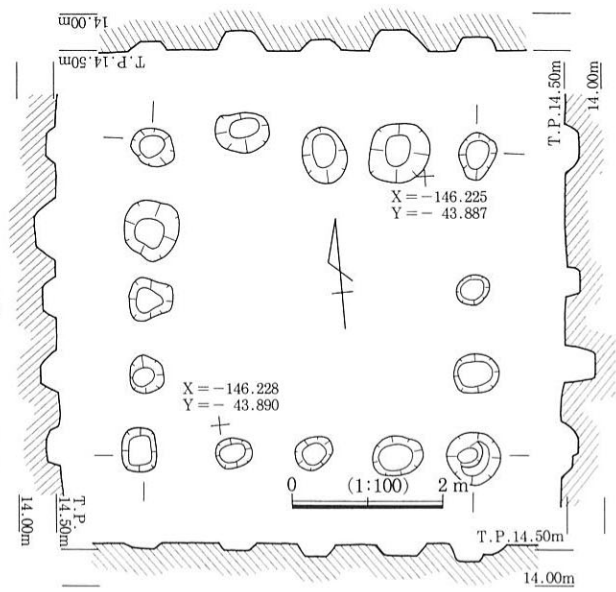


図130 1 A調査区 建物11平面・断面図

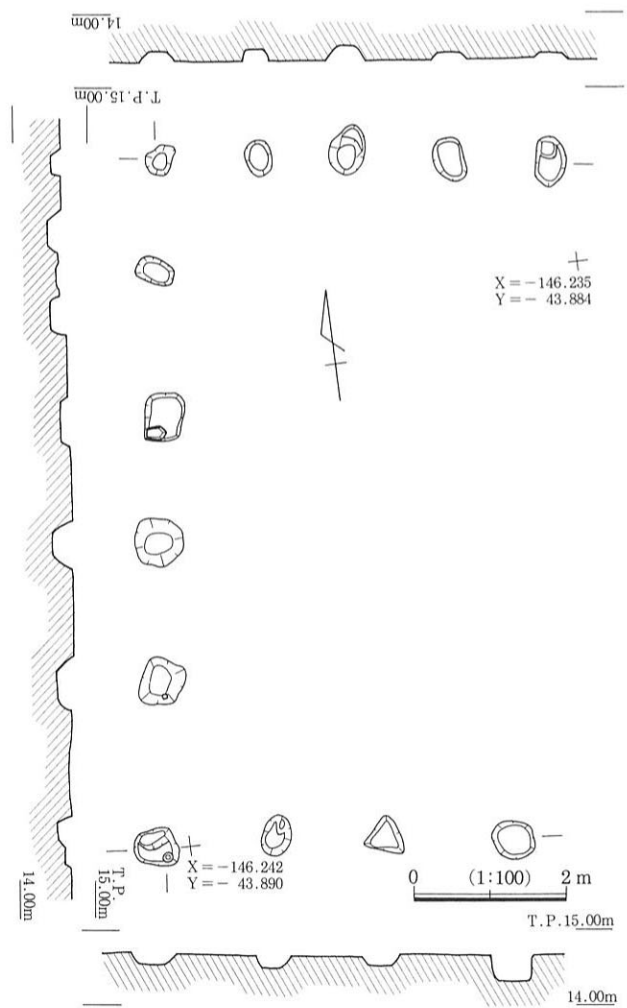


図131 1 A調査区 建物12平面・断面図

がほとんど垂直である。比高差は東面の最高位置で4 m、南面で1.8mを測る。検出された部分での底部は、階段状に北へ下降する状況がみられ、さらに緩やかに西への下降も続いている。また、調査区の西端で壁の立ち上がりは確認されていない。

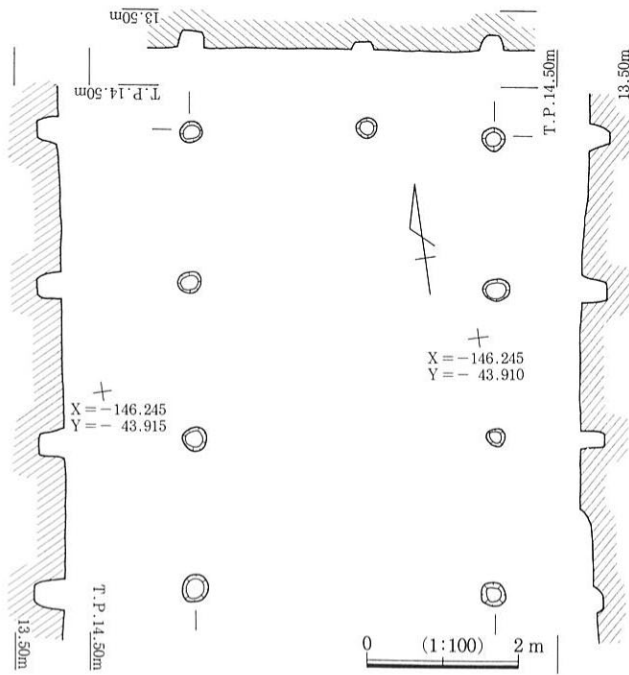


図132 1 A 調査区 建物13平面・断面図

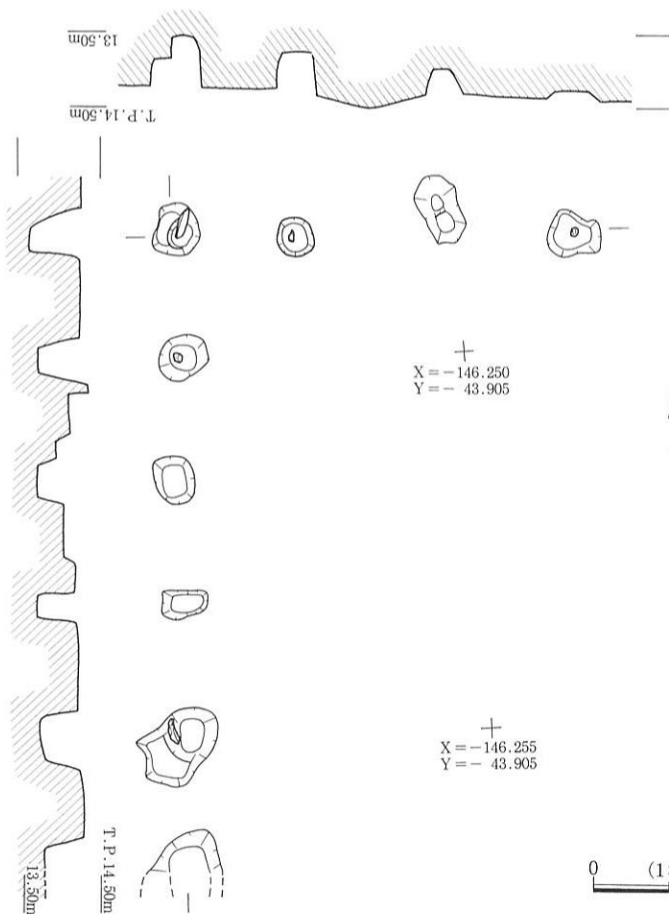


図133 1 A 調査区 建物14平面・断面図

埋土は6 b層の下で砂層および緻密な黒色粘土層(7層)と灰色シルト層(8層)に分けられる。6 b層は一時に埋められたものであるが、

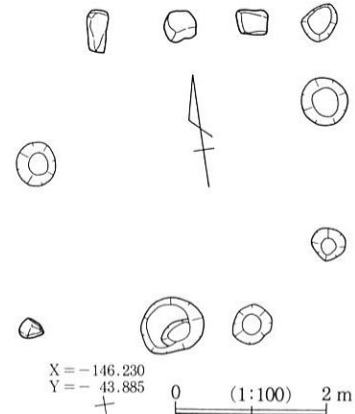


図134 1 A 調査区 建物15平面・断面図

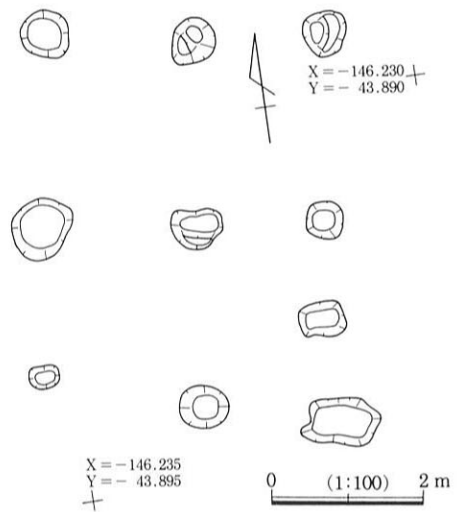


図135 1 A 調査区 建物16平面・断面図

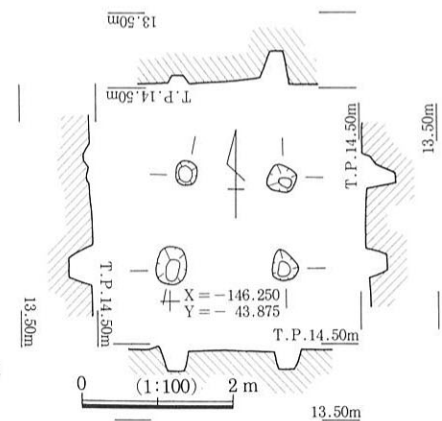


図138 1 A 調査区 建物19平面・断面図

7層は上部の層厚が薄いものの斜面全体にみられ、明確ではないが複数の堆積面をもっている。堀が機能していた期間に徐々に堆積した状況を示す。8層は11層を供給源とし、7層に比べて空隙度のある密度の粗い層である。堀1では階段状に下降した下部で確認された。

遺物は北側斜面部の7層上部（砂層）から金箔飾り瓦の一部、南側斜面部の7層から明代染付などが出土している。

2 D堀2は調査区の南西を占める。堀2の東肩は、堀1の東辺から東へ7 m移動した位置で南北方向

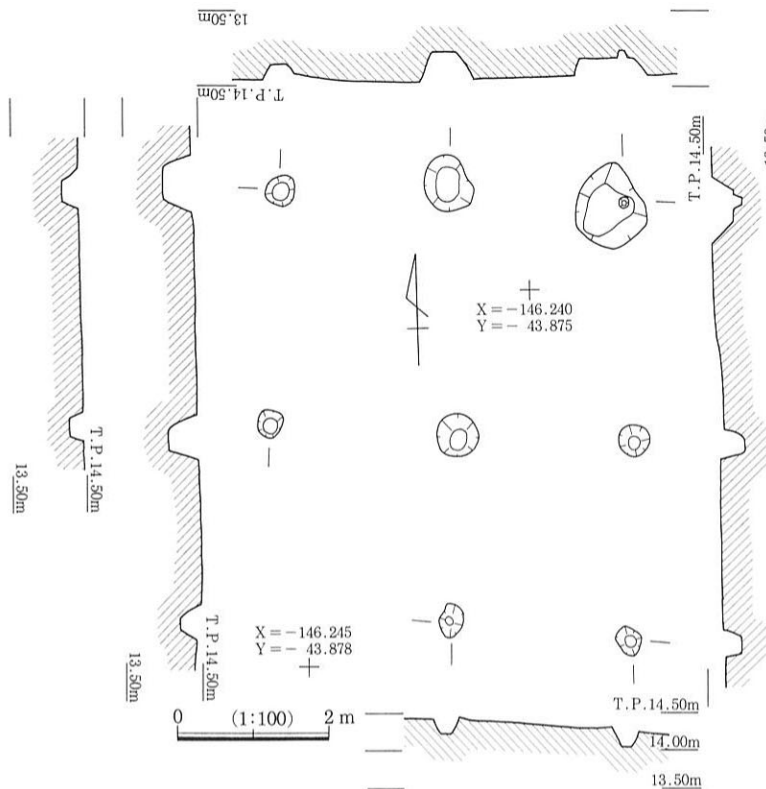


図136 1 A 調査区 建物17平面・断面図

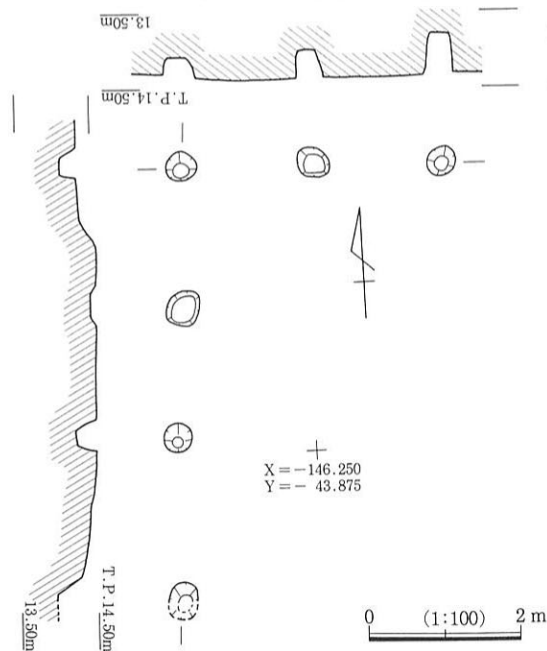


図137 1 A 調査区 建物18平面・断面図

に軸を一致している。トレンチ南壁から約20mの位置で北壁に達し、北壁はやや北に振る角度で西へのびる。

11層を基盤層とし、石垣は確認されなかった。斜面の傾斜は、東面が26度前後、北面がほとんど垂直である。比高差は東面の最高位置で2 m、南面で0.8mを測る。検出された部分での底部は、複数の障壁がみられ、面積の狭い南東部の区画を除き、それぞれの底部は基本的に平坦なものとなっている。また、トレンチの西南端で壁の立ち上がりを確認しているが、部分的なため、それが堀2の規模を示すものか、障壁の単位であるかどうかは確定できない。

障壁で画された部分は11区画検出された。ただし、障壁の規模により

大小の区別が可能で、大区画は23㎡程度、小区画はおおむねそれを細分した形になっている。障壁の規模は多様であり、規模は幅（上端・下端）、比高差が0.94mである。

埋土は6 b層の下で砂層および緻密な黒色粘土層（7層）と灰色シルト層（8層）に分けられる。6 b層は一時に埋められたものであるが、7層は上部の層厚が薄いものの斜面全体にみられ、明確ではないが複数の堆積面をもっている。堀が機能していた期間に徐々に堆積した状況を示す。8層は11層を供給源とし、7層に比べて空隙度のある密度の粗い層である。堀2では小区画を構成する障壁の西側部分にのみ確認された。また7層上面は凹凸やオーバーハングのみられる乱れた状態となっていた。

遺物は7層上面から焼塩壺、肥前系陶器皿、漆器椀など、7層中から肥前系陶器碗などが出土し、8層中から木地椀

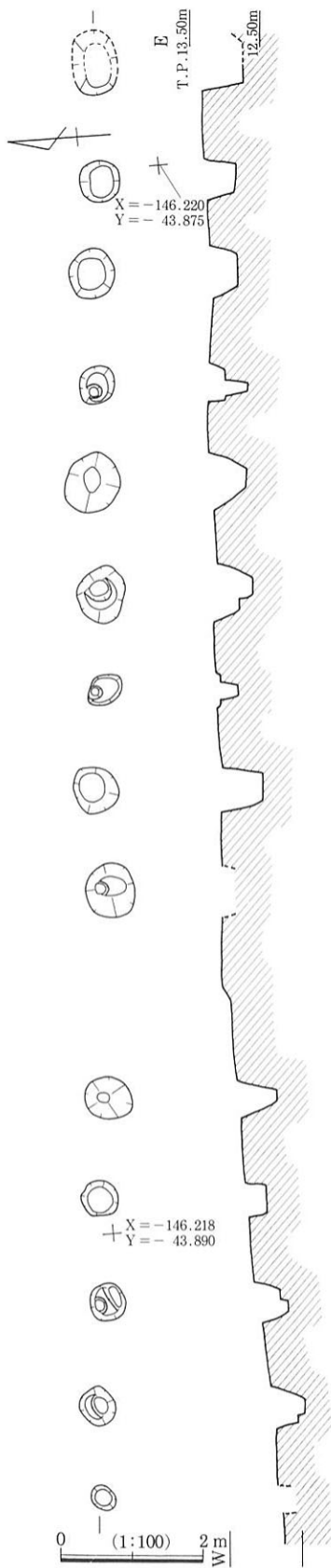


図139 1 A調査区
柵列1平面・断面図

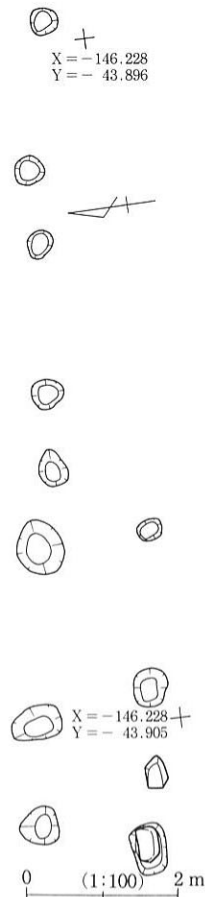


図140 1 A調査区 柵列2平面図

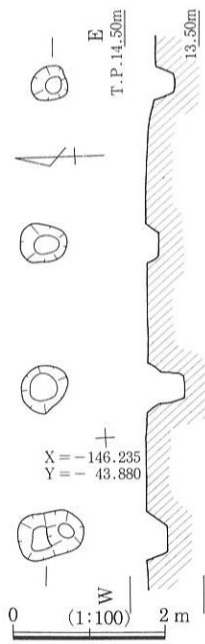


図141 1 A調査区 柵列3平面・断面図

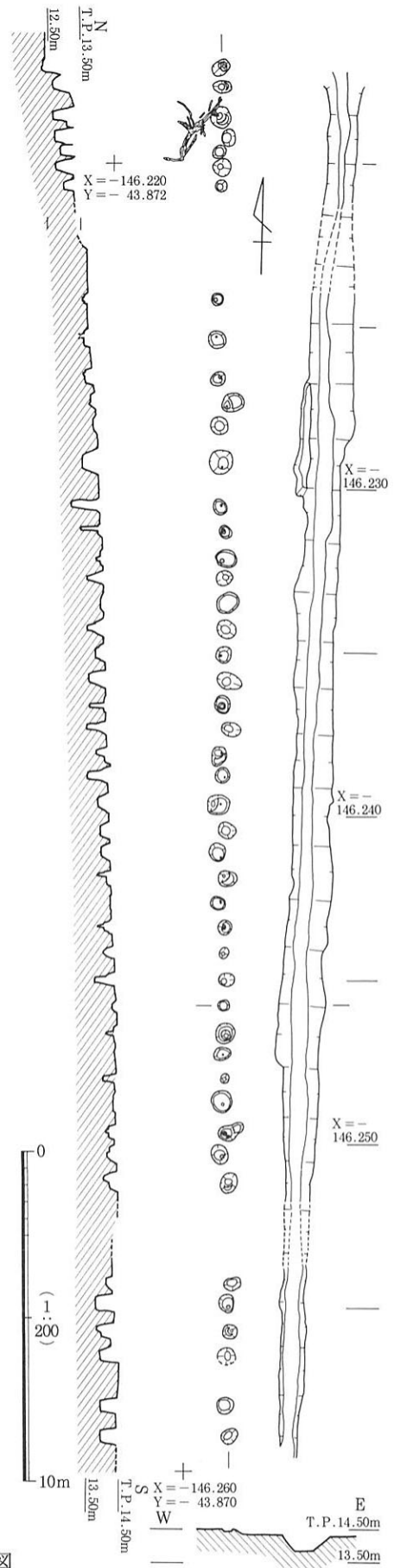


図142 1 A調査区 柵列4平面・断面図

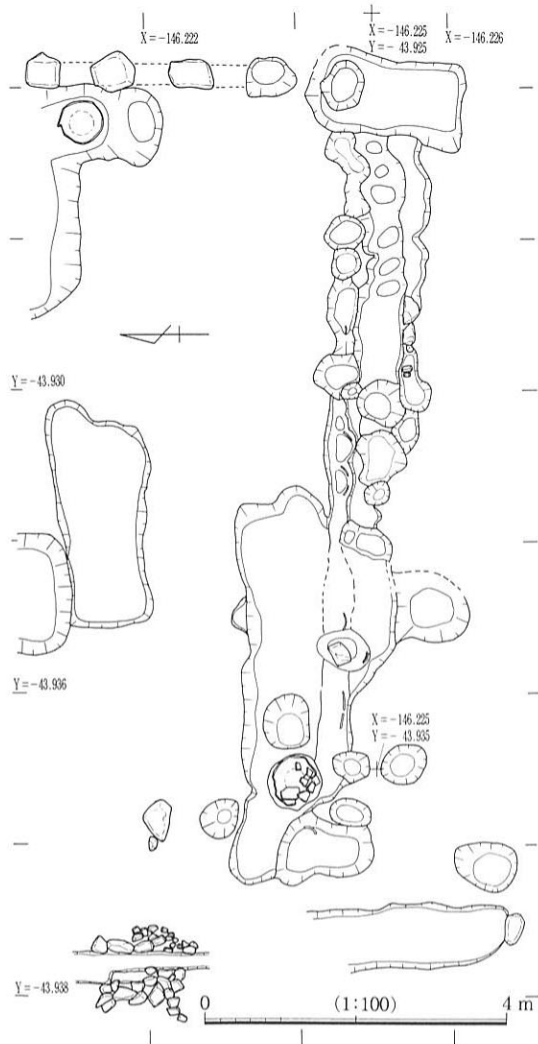


图143 3 B調査区 建物11平面図

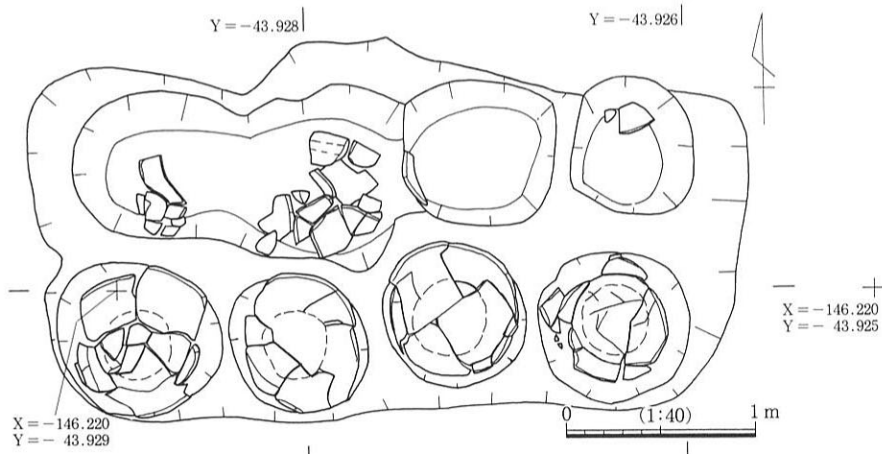


图144 3 B調査区 建物11埋壺平面図

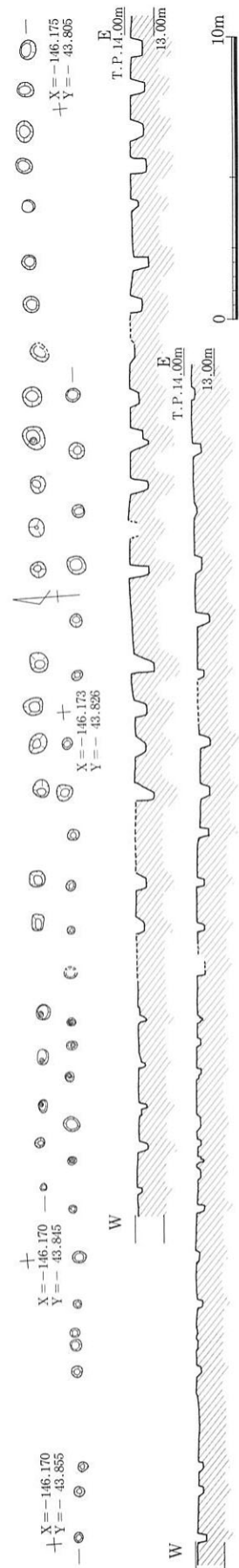


图145 5 B調査区 ピット列平面・断面図



図146 1 A調査区 屋敷2 平面図

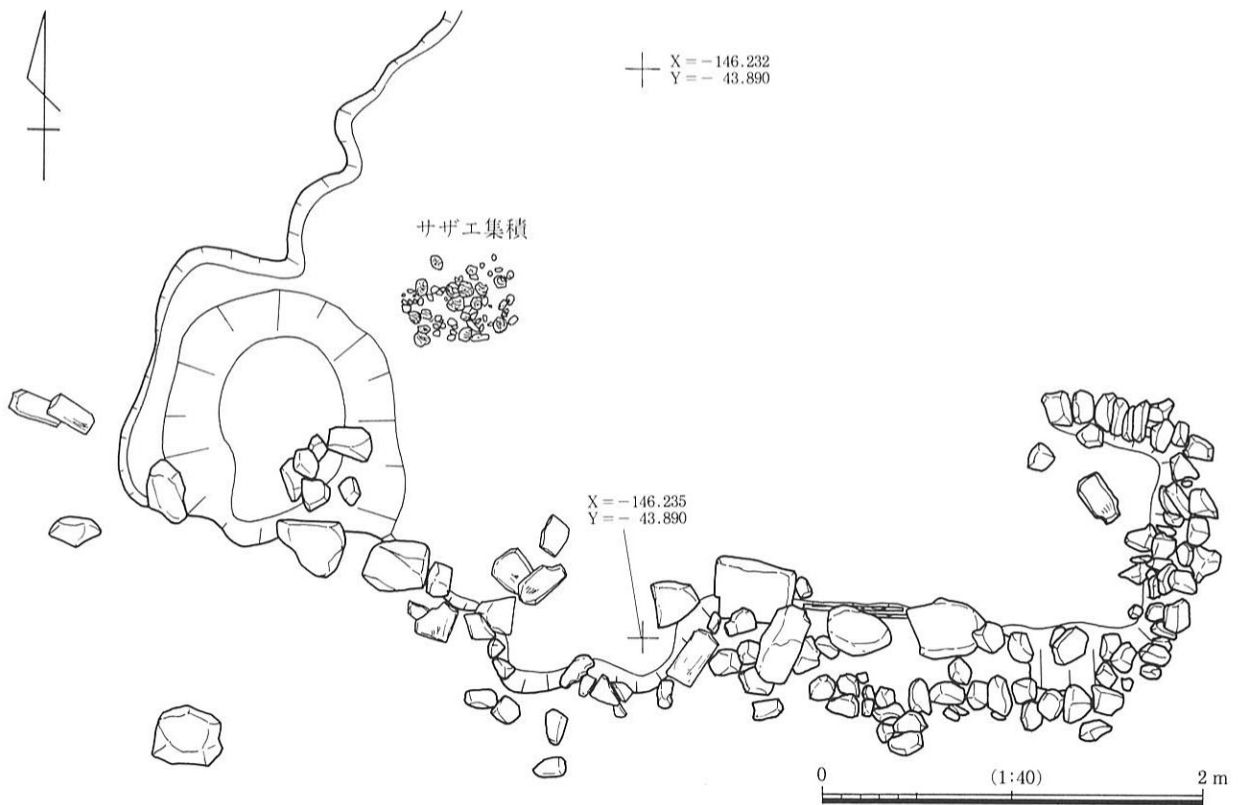


図147 1 A調査区 屋敷3 平面図

が出土した。なお、8層除去後に2D井戸4（890）が検出されている。

以下、詳細図未掲載の遺構について調査区毎に説明を加える。

1A土坑140（567） 1A調査区の北西隅に位置する。6層を掘削後に検出され、約40㎡の範囲から数百本ののぼる箸を中心に漆器、中国磁器、国産陶器などが出土した。

1A溝21（525） 1A調査区の南西に位置する。1A溝52につながる東西方向の溝で、導水管と思われる丸瓦が1点、溝の西端で検出された。さきの1A土坑288との関係がうかがわれる。

1A建物20（1617） 1A調査区の南西で1A溝21の北に位置する。いずれも小規模なピットで、直径は0.30m程度である。溝19と軸をあわせて4×2間以上の規模が推定できる。

1A土坑190～192（573・574） 1A調査区の南中央に位置する。南北に連なる土坑である。上層の堆積が連続していたため当初1A溝20（524）としていたが、調査の過程で分割され個々の遺構となった。いずれもいわゆる廃棄土坑であり、特に土坑192からは、数百本ののぼる箸を中心に漆器、中国磁器、国産陶器などが出土している。なお瀬戸美濃窯製品では灰釉丸皿を出土しているが、志野はみられない。

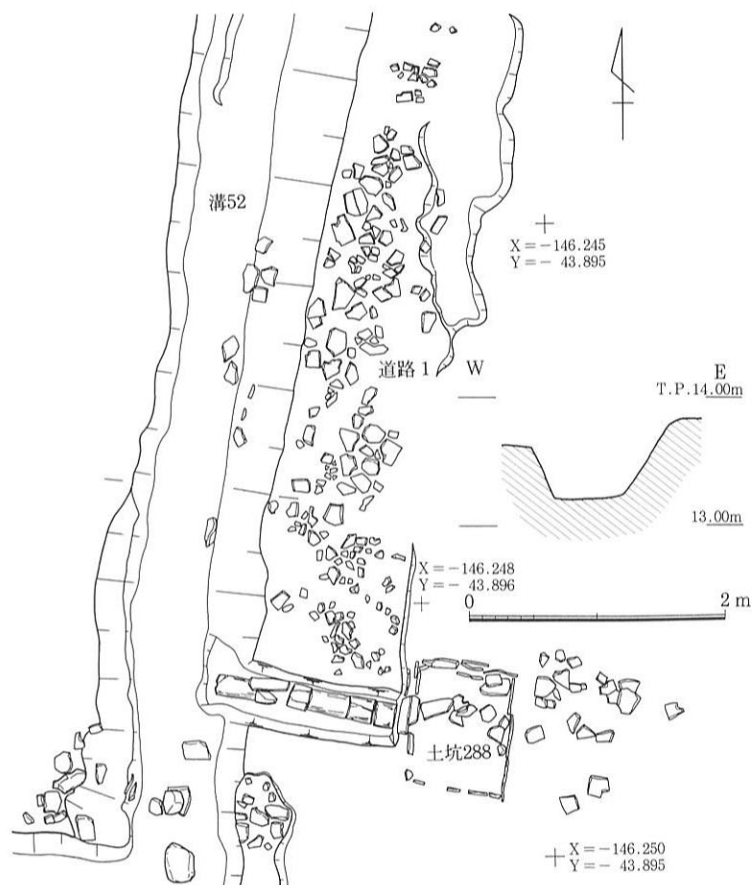


図148 1A調査区 土坑288・道路1・溝52平面・断面図

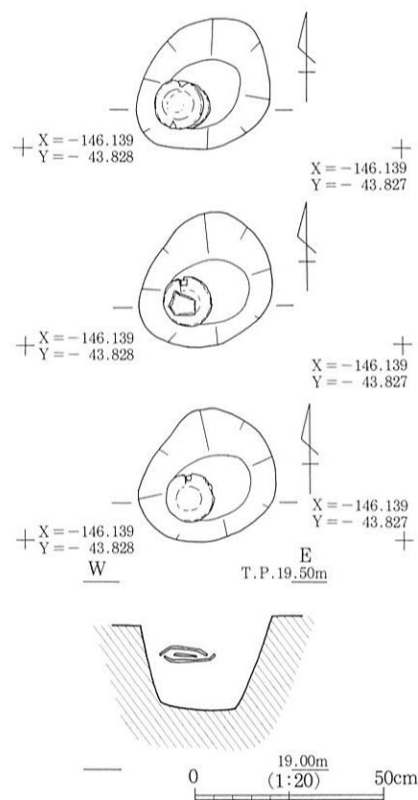


図149 6A調査区
ピット133平面・断面図

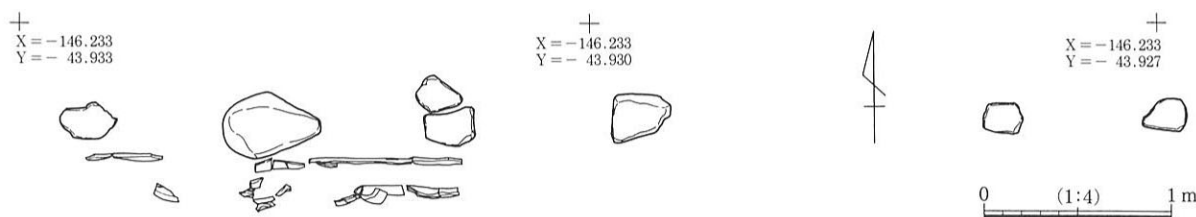


図150 3B調査区 瓦列1平面図

なお土坑190・192の東側は、6 a層上面で幅4.3mの範囲で焼土の堆積がみられ、その下層から土坑218が検出された。1 A土坑218 (579) は北半をトレンチ外へ延ばす楕円の土坑であり、下層から下駄と杓が完形で出土した。

1 A土坑219 (872) 1 A調査区の南東に位置し、1×1.2mの正円に近い平面形を呈し、馬または牛の腰骨が完形で出土している。

1 A調査区の北東部は1 A溝7 (517) が東へ進み、溝34 (529) と交差し、その北西隅から木樋を設置した土坑238 (583) と南西隅から平石と平瓦で埋桶をはさんだ土坑241 (584) が検出されている。

1 A調査区の中央部では、6 a層上面で南北に土手状の高まりをみせたその両脇を走るA溝8・9 (459・460) と、その西に位置する1 A土坑293 (592) と1 A土坑296 (593) から、焼土とあわせて多量の遺物が出土した。土坑293は南北10m、東西5.5mを測る隅丸長方形の大形の廃棄土坑であり、黒色砂混じりシルトを埋土とする。

主な遺物としては、溝8・9から景德鎮窯の海馬文小鉢、瓶子、唐草文小碗、鷺と水文、芙蓉手の皿、「玉堂佳器」銘の碗、ネジ花文の碗、福建・広東系では芙蓉手大皿、赤絵皿、瀬戸・美濃窯では織部向付、志野丸皿、および瓦器插鉢、軒丸瓦、肥前系陶器大皿・碗・向付・壺、焼塩壺、備前窯插鉢、土師器皿、漆器碗などが、土坑293から福建・広東系では唐草文碗、景德鎮窯の銭文、かぎ花文碗、瀬戸・美濃窯志野菊皿・織部向付・灰釉丸皿、瓦器插鉢、土師器鍋、魚住窯甕 (13世紀)、肥前系陶器壺・碗・皿、土師器大和型釜、瓦器插鉢・甕、下駄、漆器碗などが、土坑296から景德鎮窯の唐草文碗、瀬戸美濃菊皿、志野、土師器皿、唐津皿、碗、壺、塩壺、漆器碗、備前鉢などが出土した。

1 A調査区の井戸はいずれも縦板材を枠としたもので、直径は井戸9 (75)・10 (454) が1m、井戸11 (455) が1.5m、井戸12 (494) が2.3m、井戸23 (458) の直径は検出面で2mをはかる。主な出土遺物としては、井戸10から白磁碗、肥前系陶器皿、井戸11から土師器皿、瀬戸窯香炉、備前窯插鉢、中国製染付碗など、井戸12では上層の掘削であるが、土師器皿、備前窯插鉢、瀬戸・美濃窯天目碗などと共に、「扇に月丸紋」軒丸瓦片が出土した。

1 A調査区の東部では、1辺2mほどの隅丸方形を呈する土坑324 (882) と土坑318 (880) が検出され、土坑318から青磁碗と平瓦が、土坑324から赤色漆を塗った軒丸瓦とともに、底部をわずかに押し上げたいわゆる「へそ皿」の系列にある土

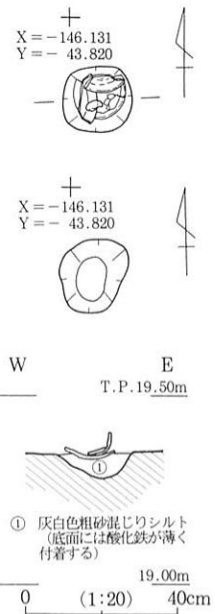


図151 6 A調査区
ピット412平面・断面図

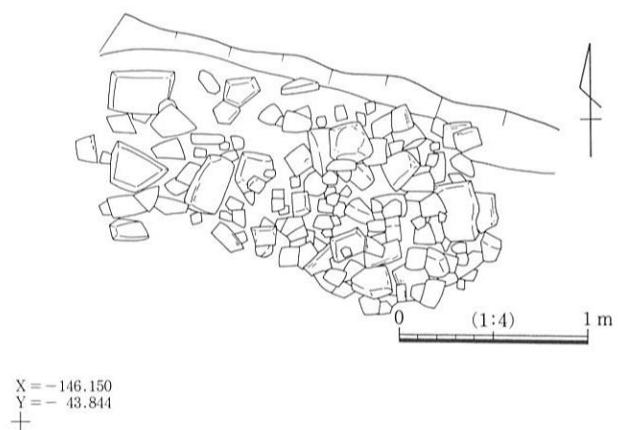


図152 6 A調査区 瓦溜まり3平面図

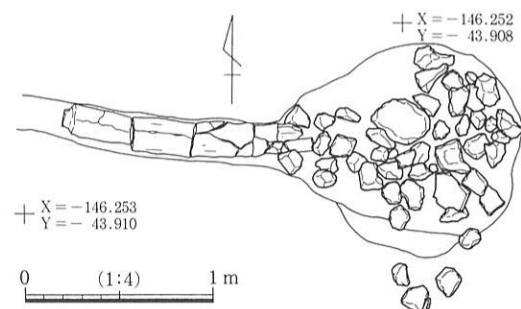


図153 1 A調査区 石組7平面図

師器皿が出土した。またその東北部は、1 A 溝70 (545) の東約1.5mを段とし、南は1 A 土坑332 (603) 付近から緩やかに下降していくが、1 A 土坑333 (604) の東部分には、8層に類似した明褐色砂層がみられ、その上面に堆積した炭化材に混じって「扇に月丸紋」軒丸瓦片が出土している。

一方東北部の中央は7 a 層の掘り下げにより白色の砂層があらわれ、これを基盤層とした南北方向の溝が3条検出される。なおこの白色砂層から金箔瓦、「扇に月丸紋」瓦などが出土した。

2 B 井戸 1 (131) 2 B 調査区の北端に位置する。縦板を組み合わせた木枠井戸で、直径は0.7mである。瓦や陶磁器が出土した。

2 B 井戸 2 (618) 2 B 調査区の北部に位置する。素掘りで検出面での直径は1 mを測る。下駄・箸・漆器などの多量の木製品と土器・陶磁器が出土している。

2 B 井戸 3・4 (132・133) 2 B 調査区の北部に位置する。検出面での直径はそれぞれ3 m、0.8mを測るが、遺物は出土していない。

2 B 土坑 7 (620) 調査区の北端に位置する。北東～南西を長軸とする不整形の土坑である。規模は長軸2.8m、短軸2 mを測る。検出面からの深さは約0.15mで底面はほぼ平坦である。出土遺物には細片が多いが、瓦器碗や土師器釜、瓦などがみられる。

2 C 井戸 9 (625) 2 C 調査区の西中央に位置する。直径1.2mを測る素掘りの井戸である。埋土は炭層と粘土ブロックなどで、一時に埋められた様子である。遺物は土師器皿・釜、肥前系陶器碗・皿・向付、刷毛の柄、波切車文をもつ木片、漆器碗および多量の動物遺体である。

3 B 調査区では建物および建物跡と推定される状況が6カ所で確認された。

3 B 建物 7 (672) は調査区の南西隅に位置する。礎石建ちである。南北5間、東西2間以上の構造で規模は南北5.5mである。なお礎石の状況からほとんど同じ位置にあって2時期にわたり建てられたことが知られる。また建物1の東側は、南北が建物1と同じ幅で、東西6 mにわたり強く締まった被熱

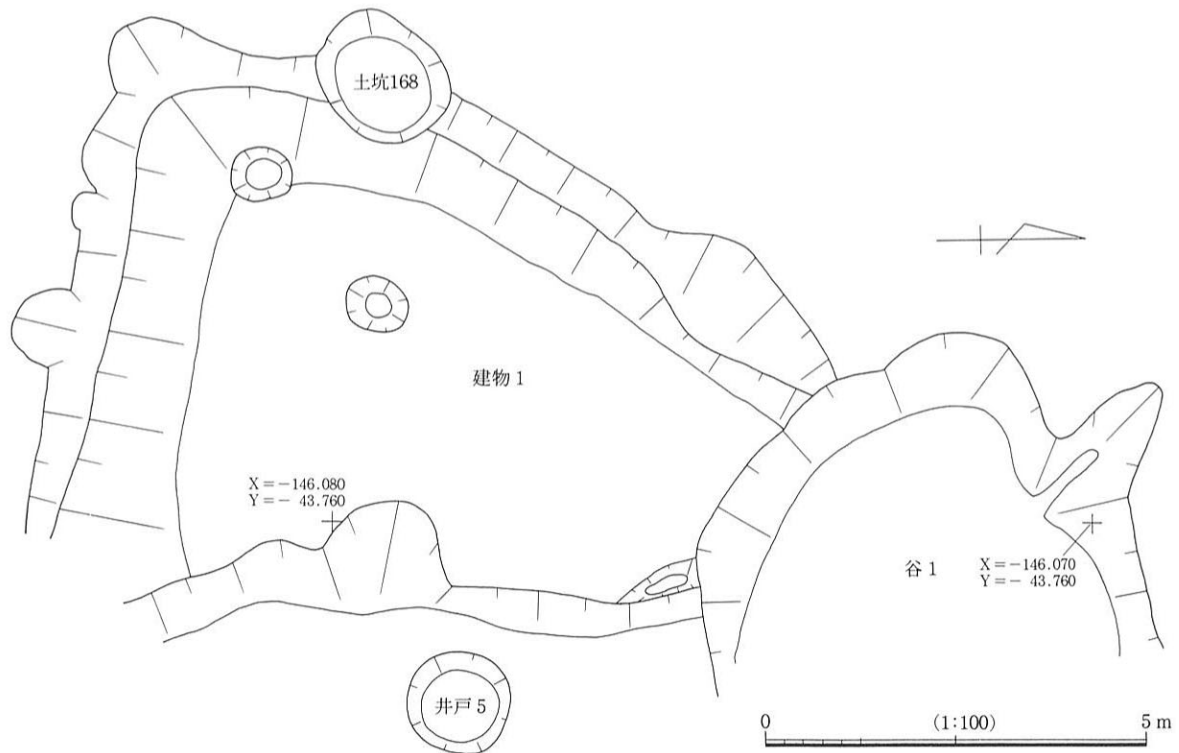


図154 4 A 調査区 建物1・谷1平面図



図155 2 D調査区 堀2 平面図

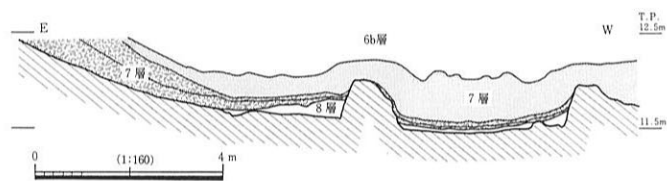


図156 2 D調査区 堀2 横断面図

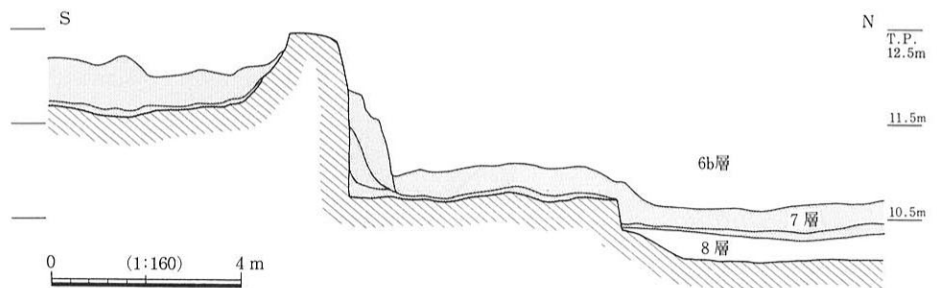


図157 2 D調査区 堀1 縦断面図

面となっており、さらにこの面を切るかたちで円形の土坑が連続して並んでいる。なお土坑の埋土は大部分が焼土であった。

3 B 建物 8 (673) は調査区の南端中央に位置する。礎石建ちである。建物の北端のみの検出で、一部削平されながら東西 7 m の規模が確認できた。残存する礎石の間隔は 1 m であり、礎石と礎石の間は布掘り状に溝が掘られ、平瓦を 2 枚平行に建てた壁基礎が設けられている。

3 B 建物 9 (674) は調査区の東部中央に位置する。礎石建ちである。3 間×3 間の総柱が推定され、規模は東西 3 m、南北 3 m を測る。

3 B 建物 10 (676) は建物 3 の北西に位置する。3×3 m 範囲で礎石抜き取り穴の一部を確認した。

3 B 建物 12 (677) は焼土の堆積とピットの分布から推定しているものである。

なお建物 10 と 11 の間には瓦組導水管が設けられ、北側の 3 B 池 1 につながっている。

4 A 段状遺構 (698) 4 A 調査区の東側で検出された。長さ 21 m 以上にわたり、比高差 1.6 m の東へ向かって落ちる段である。遺構の北端は北東に向かって彎曲し調査区外へのびている。北側・西側の壁ともに急な傾斜となっている。埋土は上層に褐色の砂混じりシルト (層厚 1.2 m) が、中層に青灰色粘質土 (層厚 0.2 m) が、下層には青灰色砂 (層厚 0.2 m) が堆積していた。遺物は竹などの自然遺物や木製品、瓦などが僅かに出土している。この遺構の東側の部分が調査区外へひろがるために、溝 (堀?) な

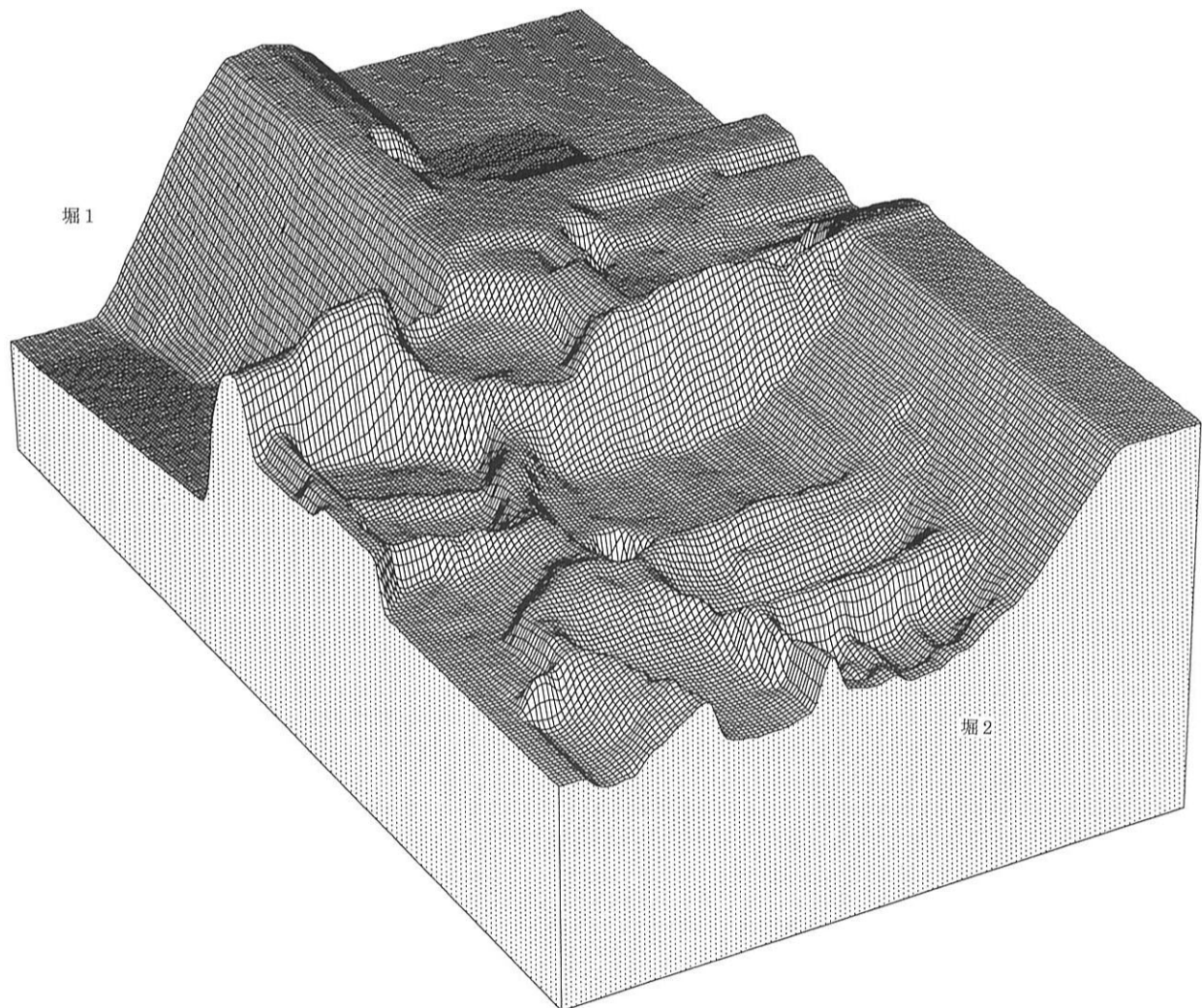


図158 2 D 調査区 景観復原

のかは判断しがたい。

4 A 井戸 7 (690) 4 A 調査区の西側のほぼ中央で検出された。直径1.7mを測り、素掘りである。検出面から-3.6mで湧水がみられた。井戸埋土の最下層である腐植物を含む黒色シルトから多量の木製品（へら、木刀状のもの、箸など）、瓦が出土した。陶磁器は少なかったが土師器の皿が10数点出土した。これら以外に漆器が少量みつまっている。

4 A 井戸 8 (691) 4 A 調査区の北西隅で検出された。直径1.2mを測り、素掘りである。検出面から-3.5mで湧水があった。出土遺物が非常に少なく所属時期を決定しがたい。

4 A 土坑254 (702) 井戸7・8間で検出された。土坑の北端、西端、東端は現代の攪乱に切られており、検出した形状は小判型を呈している。規模は残存部で南北長4.5m、東西幅3m、深さ0.2~0.3mである。浅い皿状を呈している。埋土は赤褐色の砂混じりシルトで微細な炭を多く含んでいた。出土遺物には多量の鉄滓、土師質の盤、銭貨1点（元豊通寶）がある。出土した鉄滓の総重量は4.1kgである。これらの鉄滓は炭を噛んでおり、碗形滓も数点含まれている。全て鍛冶滓であろう。

4 A 溝72 (696) 4 A 調査区の南に位置する。長さ6.0m以上、幅2.2m、深さ0.6mを測るがその形は不定形である。溝の埋土は灰オリーブ色粘土で基盤層のシルトブロックを含む。埋土内から備前窯の大甕や瓦、土師器の盤などと共に多量の炭、焼土塊、少量の金属滓が出土した。

4 A 井戸11 (692) 調査区の南東に位置する。素掘りで規模は直径1.2m、深さ3.8mを測る。埋土は上層には4・5層の整地層と青灰色粘土層が存在し、下層は腐食物を多く含む黒色中・細砂シルトが堆積していた。下層からは箸、下駄、篋、曲物をはじめとする木製品や土師器の盤が多数出土した。また、金属製の架け仏（阿弥陀如来座像）が出土した。規模は高さ6.1cm、台座部分の幅3.9cm、重さ約32gを測る。

6 A 土坑98 (838) 調査区の東中央に位置する。平面形は直径4m程の円形を、断面は挿鉢状を呈する。中位に被熱面を持ち、炭および焼土を埋土としていた。豊臣期の遺構である。

6 A 土坑93 (834) 調査区の南中央に位置する。東西7m、南北4mに黒色土が土間状にひろがっており、一部では平瓦が複数敷かれた形での出土も認められた。

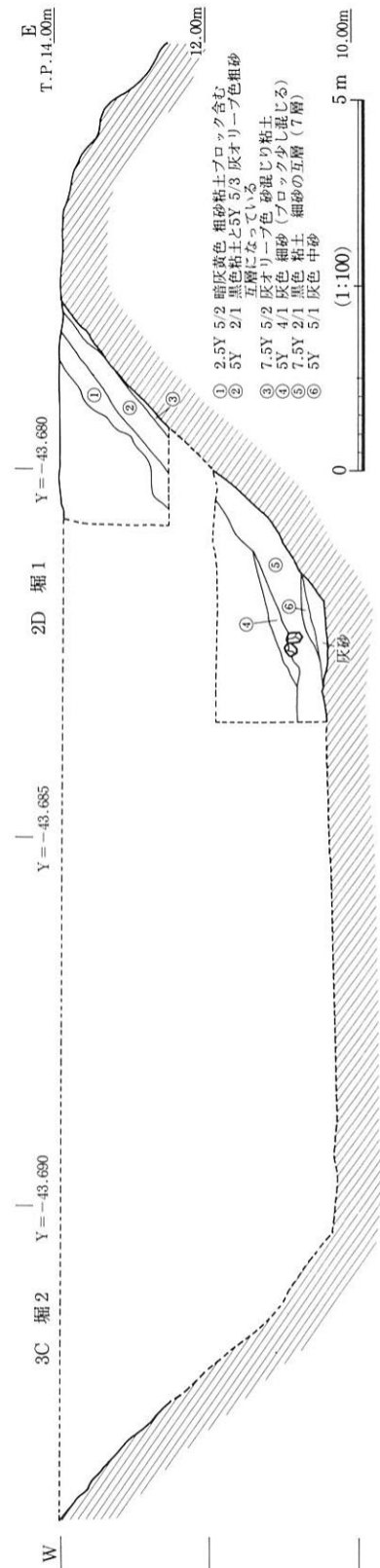


図159 掘1・3C調査区 掘2横断面

Y = -43.800

Y = -43.775

三の丸築造以降、大坂夏の陣直前

X = -146.325

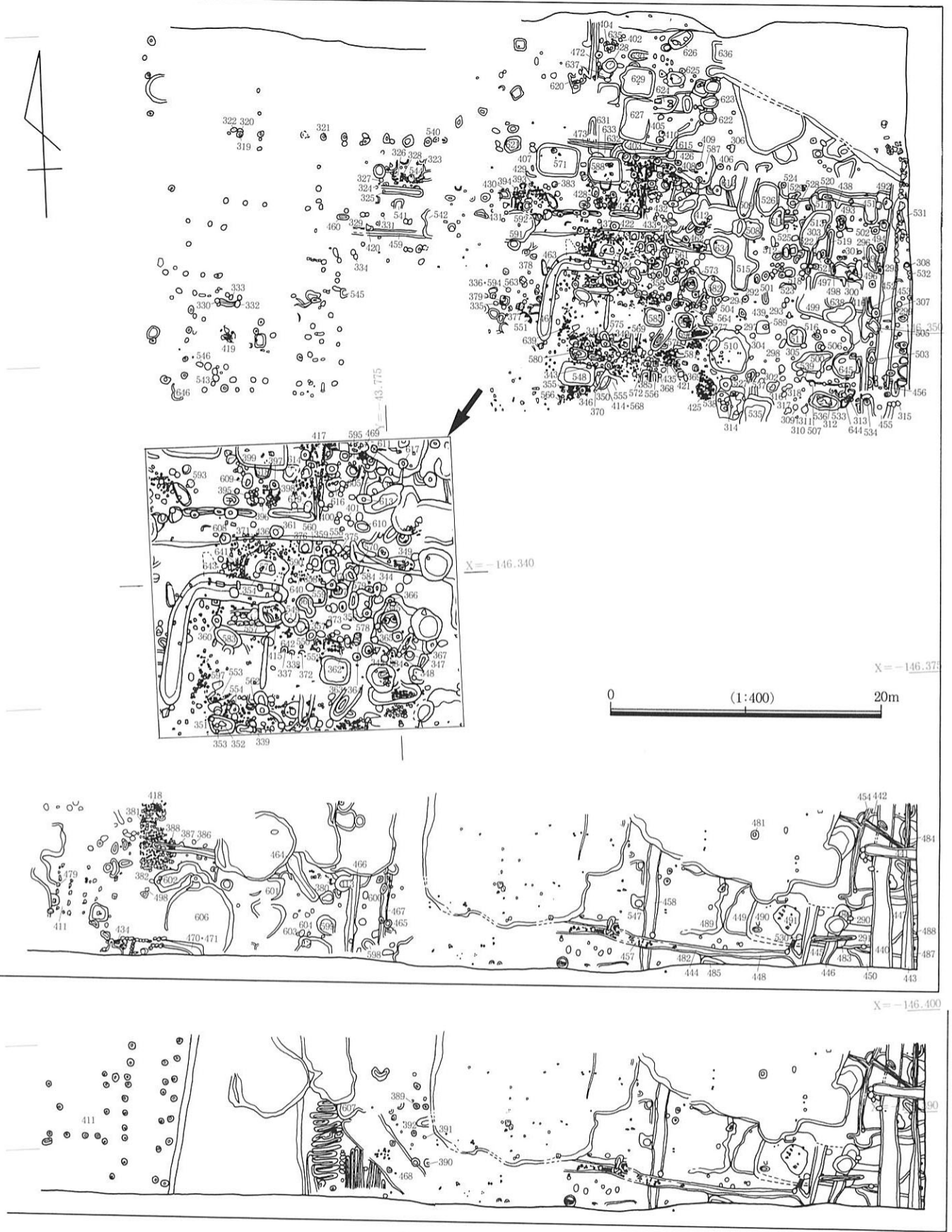


図160 遺構配置図 (5 A 調査区)

表8 遺構掲載番号表(5A調査区)1

| 番号 | 遺構名 | 時期 | X座標 | Y座標 | 深さ | 357 | 5Aビット219 | 豊臣 | -146345 | -43779 | 0.35 |
|-----|-----------------|----|---------|--------|------|-----|------------------|----|---------|--------|------|
| 290 | 5Aビット037 | 豊臣 | -146394 | -43767 | 0.20 | 358 | 5Aビット221 | 豊臣 | -146344 | -43778 | |
| 291 | 5Aビット038 | 豊臣 | -146395 | -43765 | 0.32 | 359 | 5Aビット222 | 豊臣 | -146342 | -43779 | 0.28 |
| 292 | 5Aビット042 | 豊臣 | -146347 | -43771 | 0.13 | 360 | 5Aビット225 | 豊臣 | -146345 | -43786 | 0.02 |
| 293 | 5Aビット043 | 豊臣 | -146348 | -43768 | 0.23 | 361 | 5Aビット226 | 豊臣 | -146341 | -43781 | 0.33 |
| 294 | 5Aビット045 | 豊臣 | -146347 | -43773 | 0.13 | 362 | 5Aビット227 | 豊臣 | -146347 | -43778 | 0.11 |
| 295 | 5Aビット046 | 豊臣 | -146345 | -43761 | 0.10 | 363 | 5Aビット228 | 豊臣 | -146346 | -43777 | |
| 296 | 5Aビット047 | 豊臣 | -146345 | -43762 | 0.17 | 364 | 5Aビット229 | 豊臣 | -146347 | -43777 | 0.17 |
| 297 | 5Aビット049 | 豊臣 | -146349 | -43772 | 0.17 | 365 | 5Aビット230 | 豊臣 | -146346 | -43776 | 0.38 |
| 298 | 5Aビット050 | 豊臣 | -146352 | -43769 | 0.21 | 366 | 5Aビット231 | 豊臣 | -146345 | -43775 | 0.20 |
| 299 | 5Aビット051 | 豊臣 | -146349 | -43762 | 1.12 | 367 | 5Aビット232 | 豊臣 | -146347 | -43775 | 0.32 |
| 300 | 5Aビット052 | 豊臣 | -146345 | -43764 | 0.02 | 368 | 5Aビット233 | 豊臣 | -146352 | -43778 | 0.16 |
| 301 | 5Aビット053 | 豊臣 | -146345 | -43764 | 0.06 | 369 | 5Aビット234 | 豊臣 | -146352 | -43776 | 0.06 |
| 302 | 5Aビット055 | 豊臣 | -146353 | -43769 | 0.07 | 370 | 5Aビット236 | 豊臣 | -146353 | -43783 | 0.03 |
| 303 | 5Aビット056 | 豊臣 | -146344 | -43766 | 0.05 | 371 | 5Aビット237 | 豊臣 | -146342 | -43781 | 0.09 |
| 304 | 5Aビット058 | 豊臣 | -146350 | -43771 | 0.14 | 372 | 5Aビット238 | 豊臣 | -146347 | -43780 | |
| 305 | 5Aビット061 | 豊臣 | -146351 | -43767 | 0.16 | 373 | 5Aビット260 | 豊臣 | -146345 | -43778 | 0.10 |
| 306 | 5Aビット062 | 豊臣 | -146336 | -43772 | 0.06 | 374 | 5Aビット261 | 豊臣 | -146344 | -43778 | 0.23 |
| 307 | 5Aビット064 | 豊臣 | -146350 | -43760 | 0.27 | 375 | 5Aビット262 | 豊臣 | -146343 | -43778 | 0.07 |
| 308 | 5Aビット065 | 豊臣 | -146345 | -43760 | 0.46 | 376 | 5Aビット264 | 豊臣 | -146342 | -43779 | 0.09 |
| 309 | 5Aビット066 | 豊臣 | -146355 | -43767 | 0.13 | 377 | 5Aビット265 | 豊臣 | -146347 | -43788 | 0.06 |
| 310 | 5Aビット067 | 豊臣 | -146356 | -43768 | 0.11 | 378 | 5Aビット266 | 豊臣 | -146345 | -43787 | 0.24 |
| 311 | 5Aビット068 | 豊臣 | -146355 | -43767 | 0.37 | 379 | 5Aビット267 | 豊臣 | -146347 | -43789 | 0.19 |
| 312 | 5Aビット069 | 豊臣 | -146354 | -43765 | 0.18 | 380 | 5Aビット268 | 豊臣 | -146389 | -43805 | |
| 313 | 5Aビット070 | 豊臣 | -146355 | -43764 | 0.36 | 381 | 5Aビット269 | 豊臣 | -146384 | -43818 | 0.48 |
| 314 | 5Aビット076 | 豊臣 | -146354 | -43773 | 0.19 | 382 | 5Aビット270 | 豊臣 | -146387 | -43817 | 0.10 |
| 315 | 5Aビット078 | 豊臣 | -146355 | -43763 | 0.58 | 383 | 5Aビット271 | 豊臣 | -146338 | -43785 | 0.23 |
| 316 | 5Aビット079 | 豊臣 | -146354 | -43768 | 0.08 | 384 | 5Aビット272 | 豊臣 | -146347 | -43776 | 0.27 |
| 317 | 5Aビット080 | 豊臣 | -146354 | -43769 | | 385 | 5Aビット273 | 豊臣 | -146352 | -43779 | 0.17 |
| 318 | 5Aビット081 | 豊臣 | -146355 | -43768 | | 386 | 5Aビット274 | 豊臣 | -146385 | -43814 | 0.26 |
| 319 | 5Aビット083 | 豊臣 | -146344 | -43808 | 0.29 | 387 | 5Aビット275 | 豊臣 | -146386 | -43815 | 0.09 |
| 320 | 5Aビット088 | 豊臣 | -146343 | -43808 | 0.03 | 388 | 5Aビット276 | 豊臣 | -146386 | -43816 | 0.13 |
| 321 | 5Aビット095 | 豊臣 | -146344 | -43802 | 0.46 | 389 | 5Aビット278 | 豊臣 | -146388 | -43798 | 0.09 |
| 322 | 5Aビット098 | 豊臣 | -146343 | -43808 | 0.21 | 390 | 5Aビット279 | 豊臣 | -146392 | -43799 | |
| 323 | 5Aビット148 | 豊臣 | -146336 | -43795 | 0.32 | 391 | 5Aビット280 | 豊臣 | -146390 | -43798 | |
| 324 | 5Aビット149 | 豊臣 | -146337 | -43798 | 0.16 | 392 | 5Aビット281 | 豊臣 | -146390 | -43799 | 0.08 |
| 325 | 5Aビット150 | 豊臣 | -146338 | -43798 | 0.08 | 393 | 5Aビット283 | 豊臣 | -146339 | -43786 | 0.05 |
| 326 | 5Aビット151 | 豊臣 | -146337 | -43797 | 0.11 | 394 | 5Aビット287 | 豊臣 | -146338 | -43788 | 0.01 |
| 327 | 5Aビット152 | 豊臣 | -146337 | -43798 | 0.23 | 395 | 5Aビット288 | 豊臣 | -146339 | -43782 | 0.28 |
| 328 | 5Aビット153 | 豊臣 | -146337 | -43797 | 0.17 | 396 | 5Aビット289 | 豊臣 | -146340 | -43781 | 0.03 |
| 329 | 5Aビット157 | 豊臣 | -146340 | -43799 | 0.34 | 397 | 5Aビット291 | 豊臣 | -146339 | -43781 | 0.30 |
| 330 | 5Aビット158 | 豊臣 | -146346 | -43810 | 0.34 | 398 | 5Aビット293 | 豊臣 | -146340 | -43780 | 0.28 |
| 331 | 5Aビット159 | 豊臣 | -146340 | -43798 | 0.08 | 399 | 5Aビット294 | 豊臣 | -146338 | -43782 | 0.13 |
| 332 | 5Aビット160 | 豊臣 | -146346 | -43809 | 0.53 | 400 | 5Aビット296 | 豊臣 | -146341 | -43777 | 0.14 |
| 333 | 5Aビット161 | 豊臣 | -146345 | -43809 | 0.21 | 401 | 5Aビット297 | 豊臣 | -146341 | -43777 | 0.19 |
| 334 | 5Aビット162 | 豊臣 | -146343 | -43800 | 0.22 | 402 | 5Aビット323 | 豊臣 | -146328 | -43780 | 0.23 |
| 335 | 5Aビット184 | 豊臣 | -146347 | -43789 | 0.08 | 403 | 5Aビット324 | 豊臣 | -146336 | -43779 | 0.60 |
| 336 | 5Aビット185(土坑357) | 豊臣 | -146346 | -43789 | 0.11 | 404 | 5Aビット325 | 豊臣 | -146328 | -43781 | 0.37 |
| 337 | 5Aビット186 | 豊臣 | -146347 | -43781 | 0.11 | 405 | 5Aビット326 | 豊臣 | -146334 | -43777 | 0.42 |
| 338 | 5Aビット187 | 豊臣 | -146347 | -43780 | 0.13 | 406 | 5Aビット327 | 豊臣 | -146337 | -43773 | 0.46 |
| 339 | 5Aビット188 | 豊臣 | -146351 | -43782 | 0.22 | 407 | 5Aビット328 | 豊臣 | -146336 | -43786 | 0.24 |
| 340 | 5Aビット189 | 豊臣 | -146350 | -43782 | 0.08 | 408 | 5Aビット329 | 豊臣 | -146337 | -43776 | 0.17 |
| 341 | 5Aビット190 | 豊臣 | -146351 | -43781 | 0.24 | 409 | 5Aビット330 | 豊臣 | -146337 | -43774 | 0.53 |
| 342 | 5Aビット191 | 豊臣 | -146347 | -43776 | 0.19 | 410 | 5Aビット331 | 豊臣 | -146335 | -43777 | 0.28 |
| 343 | 5Aビット193 | 豊臣 | -146351 | -43782 | 0.06 | 411 | 5Aビット群 | 豊臣 | -146388 | -43820 | |
| 344 | 5Aビット194 | 豊臣 | -146345 | -43776 | 0.07 | 412 | 5A井戸1(土坑323) | 豊臣 | -146341 | -43774 | |
| 345 | 5Aビット195 | 豊臣 | -146345 | -43776 | 0.06 | 413 | 5A井戸2 | 豊臣 | -146389 | -43803 | |
| 346 | 5Aビット196 | 豊臣 | -146353 | -43783 | 0.25 | 414 | 5A井戸3(土坑299) | 豊臣 | -146353 | -43786 | |
| 347 | 5Aビット197 | 豊臣 | -146348 | -43774 | 0.19 | 415 | 5A井戸4(土坑309) | 豊臣 | -146345 | -43781 | |
| 348 | 5Aビット199 | 豊臣 | -146347 | -43775 | 0.07 | 416 | 5A井戸5 | 豊臣 | -146348 | -43763 | |
| 349 | 5Aビット200 | 豊臣 | -146343 | -43775 | 0.11 | 417 | 5A瓦組導水管2 | 豊臣 | -146339 | -43778 | |
| 350 | 5Aビット202 | 豊臣 | -146352 | -43782 | 0.25 | 418 | 5A瓦敷3 | 豊臣 | -146385 | -43817 | |
| 351 | 5Aビット203 | 豊臣 | -146350 | -43784 | 0.09 | 419 | 5A瓦溜まり03(瓦溜まり04) | 豊臣 | -146346 | -43809 | |
| 352 | 5Aビット204 | 豊臣 | -146354 | -43784 | 0.25 | 420 | 5A瓦溜まり05 | 豊臣 | -146341 | -43799 | |
| 353 | 5Aビット205 | 豊臣 | -146351 | -43784 | 0.16 | 421 | 5A瓦溜まり07 | 豊臣 | -146351 | -43777 | |
| 354 | 5Aビット206 | 豊臣 | -146343 | -43782 | 0.02 | 422 | 5A瓦溜まり08 | 豊臣 | -146343 | -43781 | |
| 355 | 5Aビット209 | 豊臣 | -146353 | -43785 | 0.09 | 423 | 5A瓦溜まり09 | 豊臣 | -146343 | -43777 | |
| 356 | 5Aビット213 | 豊臣 | -146345 | -43778 | 0.15 | 424 | 5A瓦溜まり10 | 豊臣 | -146343 | -43780 | |

表 8 遺構掲載番号表（5 A 調査区）2

| | | | | | | | | | | | |
|-----|--------------------|----|---------|--------|------|-----|------------------|----|---------|--------|------|
| 425 | 5A瓦溜まり11 | 豊臣 | -146354 | -43774 | | 493 | 5A土坑097 | 豊臣 | -146342 | -43764 | 0.21 |
| 426 | 5A瓦溜まり12 | 豊臣 | -146337 | -43776 | | 494 | 5A土坑098 | 豊臣 | -146344 | -43761 | 0.12 |
| 427 | 5A瓦溜まり13 | 豊臣 | -146339 | -43780 | | 495 | 5A土坑099 | 豊臣 | -146345 | -43762 | 0.08 |
| 428 | 5A瓦溜まり14 | 豊臣 | -146339 | -43782 | | 496 | 5A土坑100 | 豊臣 | -146345 | -43763 | |
| 429 | 5A瓦溜まり15 | 豊臣 | -146339 | -43786 | | 497 | 5A土坑101 | 豊臣 | -146346 | -43765 | 0.18 |
| 430 | 5A瓦溜まり16 | 豊臣 | -146339 | -43787 | | 498 | 5A土坑102 | 豊臣 | -146345 | -43765 | 0.14 |
| 431 | 5A瓦溜まり17 | 豊臣 | -146340 | -43788 | | 499 | 5A土坑103 | 豊臣 | -146348 | -43765 | 0.50 |
| 432 | 5A瓦溜まり18 | 豊臣 | -146339 | -43778 | | 500 | 5A土坑104 | 豊臣 | -146352 | -43767 | 0.29 |
| 433 | 5A瓦溜まり19 | 豊臣 | -146340 | -43778 | | 501 | 5A土坑105 | 豊臣 | -146347 | -43765 | 0.13 |
| 434 | 5A瓦溜まり20 | 豊臣 | -146393 | -43820 | | 502 | 5A土坑106 | 豊臣 | -146342 | -43761 | 0.38 |
| 435 | 5A瓦列 1 | 豊臣 | -146352 | -43777 | | 503 | 5A土坑107 | 豊臣 | -146351 | -43762 | 0.28 |
| 436 | 5A瓦列 2 | 豊臣 | -146342 | -43781 | | 504 | 5A土坑109 | 豊臣 | -146347 | -43773 | 0.30 |
| 437 | 5A建物10 | 豊臣 | -146343 | -43783 | | 505 | 5A土坑110 | 豊臣 | -146350 | -43762 | 1.04 |
| 438 | 5A建物11 | 豊臣 | -146343 | -43765 | | 506 | 5A土坑111 | 豊臣 | -146351 | -43766 | 0.27 |
| 439 | 5A建物12 | 豊臣 | -146350 | -43774 | | 507 | 5A土坑112 | 豊臣 | -146354 | -43766 | 0.03 |
| 440 | 5A溝021 | 豊臣 | -146390 | -43763 | 1.44 | 508 | 5A土坑113 | 豊臣 | -146342 | -43771 | 0.35 |
| 441 | 5A溝022 | 豊臣 | -146388 | -43762 | 0.37 | 509 | 5A土坑114 | 豊臣 | -146340 | -43771 | 0.18 |
| 442 | 5A溝023 a | 豊臣 | -146387 | -43763 | 0.16 | 510 | 5A土坑115 | 豊臣 | -146351 | -43773 | 0.31 |
| 443 | 5A溝023 b | 豊臣 | -146391 | -43762 | 0.34 | 511 | 5A土坑116 | 豊臣 | -146350 | -43768 | 0.14 |
| 444 | 5A溝027 | 豊臣 | -146395 | -43776 | 0.12 | 512 | 5A土坑117 | 豊臣 | -146344 | -43768 | 0.34 |
| 445 | 5A溝028 | 豊臣 | -146394 | -43767 | 0.02 | 513 | 5A土坑118 | 豊臣 | -146343 | -43766 | 0.44 |
| 446 | 5A溝034 | 豊臣 | -146395 | -43767 | 0.11 | 514 | 5A土坑119 | 豊臣 | -146341 | -43769 | 0.43 |
| 447 | 5A溝036 | 豊臣 | -146394 | -43765 | 0.17 | 515 | 5A土坑120 | 豊臣 | -146344 | -43772 | 0.22 |
| 448 | 5A溝039 | 豊臣 | -146395 | -43775 | 0.12 | 516 | 5A土坑121 | 豊臣 | -146350 | -43766 | 0.09 |
| 449 | 5A溝040 | 豊臣 | -146392 | -43774 | 0.12 | 517 | 5A土坑122 | 豊臣 | -146340 | -43765 | 0.11 |
| 450 | 5A溝043 | 豊臣 | -146396 | -43763 | 0.03 | 518 | 5A土坑123 | 豊臣 | -146345 | -43767 | 0.24 |
| 451 | 5A溝044 | 豊臣 | -146341 | -43763 | 0.12 | 519 | 5A土坑124 | 豊臣 | -146343 | -43765 | 1.11 |
| 452 | 5A溝045 | 豊臣 | -146346 | -43761 | 0.14 | 520 | 5A土坑125 | 豊臣 | -146340 | -43765 | 0.22 |
| 453 | 5A溝046 | 豊臣 | -146348 | -43762 | 0.07 | 521 | 5A土坑126 | 豊臣 | -146344 | -43766 | 0.04 |
| 454 | 5A溝047 | 豊臣 | -146388 | -43765 | 0.08 | 522 | 5A土坑127 | 豊臣 | -146344 | -43767 | 0.44 |
| 455 | 5A溝048 | 豊臣 | -146355 | -43761 | 0.32 | 523 | 5A土坑128 | 豊臣 | -146346 | -43768 | 0.33 |
| 456 | 5A溝051 | 豊臣 | -146355 | -43763 | | 524 | 5A土坑129 | 豊臣 | -146341 | -43768 | 0.21 |
| 457 | 5A溝072 | 豊臣 | -146394 | -43781 | 0.11 | 525 | 5A土坑130 | 豊臣 | -146342 | -43768 | 0.20 |
| 458 | 5A溝073 | 豊臣 | -146391 | -43780 | 0.21 | 526 | 5A土坑131 | 豊臣 | -146340 | -43769 | 0.24 |
| 459 | 5A溝076 | 豊臣 | -146340 | -43797 | 0.11 | 527 | 5A土坑132 | 豊臣 | -146353 | -43771 | 0.20 |
| 460 | 5A溝077 | 豊臣 | -146340 | -43801 | 0.16 | 528 | 5A土坑134 | 豊臣 | -146341 | -43768 | 0.27 |
| 461 | 5A溝082 (溝83) | 豊臣 | -146344 | -43785 | 0.61 | 529 | 5A土坑135 | 豊臣 | -146340 | -43767 | 0.24 |
| 462 | 5A溝098 | 豊臣 | -146343 | -43776 | 0.12 | 530 | 5A土坑137 | 豊臣 | -146394 | -43769 | |
| 463 | 5A溝099 | 豊臣 | -146344 | -43786 | 0.04 | 531 | 5A土坑139 (仮土坑138) | 豊臣 | -146342 | -43759 | 0.30 |
| 464 | 5A溝101 | 豊臣 | -146389 | -43806 | 1.14 | 532 | 5A土坑140 | 豊臣 | -146346 | -43759 | 0.20 |
| 465 | 5A溝102 | 豊臣 | -146392 | -43800 | 0.06 | 533 | 5A土坑152 | 豊臣 | -146354 | -43765 | 0.01 |
| 466 | 5A溝103 | 豊臣 | -146391 | -43803 | 0.31 | 534 | 5A土坑153 | 豊臣 | -146355 | -43753 | 0.30 |
| 467 | 5A溝104 | 豊臣 | -146391 | -43800 | 0.03 | 535 | 5A土坑154 | 豊臣 | -146355 | -43771 | 0.76 |
| 468 | 5A溝105 | 豊臣 | -146392 | -43802 | 0.38 | 536 | 5A土坑155 | 豊臣 | -146355 | -43766 | 0.05 |
| 469 | 5A溝106 | 豊臣 | -146337 | -43776 | 0.27 | 537 | 5A土坑158 | 豊臣 | -146354 | -43770 | 0.40 |
| 470 | 5A溝109 | 豊臣 | -146388 | -43816 | | 538 | 5A土坑159 | 豊臣 | -146354 | -43774 | 0.54 |
| 471 | 5A溝110 (瓦組導水管・石列溝) | 豊臣 | -146393 | -43816 | 0.08 | 539 | 5A土坑160 | 豊臣 | -146353 | -43767 | |
| 472 | 5A溝115 | 豊臣 | -146329 | -43782 | 0.25 | 540 | 5A土坑180 | 豊臣 | -146335 | -43794 | 0.13 |
| 473 | 5A溝116 | 豊臣 | -146335 | -43782 | 0.15 | 541 | 5A土坑240 | 豊臣 | -146339 | -43797 | 0.29 |
| 474 | 5A棚列 1 | 豊臣 | -146335 | -43779 | | 542 | 5A土坑244 | 豊臣 | -146341 | -43794 | 0.51 |
| 475 | 5A棚列 2 | 豊臣 | -146352 | -43776 | | 543 | 5A土坑246 | 豊臣 | -146351 | -43811 | 0.08 |
| 476 | 5A棚列 3 | 豊臣 | -146347 | -43761 | | 544 | 5A土坑249 | 豊臣 | -146347 | -43795 | 0.15 |
| 477 | 5A石列 3 | 豊臣 | -146345 | -43782 | | 545 | 5A土坑250 | 豊臣 | -146345 | -43801 | 0.35 |
| 478 | 5A礎石 1 | 豊臣 | -146389 | -43818 | | 546 | 5A土坑251 | 豊臣 | -146350 | -43812 | 0.18 |
| 479 | 5A礎石 2 | 豊臣 | -146388 | -43824 | | 547 | 5A土坑257 | 豊臣 | -146391 | -43781 | 0.09 |
| 480 | 5A礎石群 b | 豊臣 | -146389 | -43822 | | 548 | 5A土坑269 | 豊臣 | -146352 | -43784 | 1.37 |
| 481 | 5A土坑027 | 豊臣 | -146387 | -43773 | | 549 | 5A土坑270 | 豊臣 | -146346 | -43780 | 0.17 |
| 482 | 5A土坑074 | 豊臣 | -146396 | -43777 | 0.12 | 550 | 5A土坑271 | 豊臣 | -146346 | -43780 | 0.25 |
| 483 | 5A土坑082 | 豊臣 | -146395 | -43767 | 0.09 | 551 | 5A土坑272 | 豊臣 | -146348 | -43788 | 0.10 |
| 484 | 5A土坑084 | 豊臣 | -146387 | -43761 | 0.27 | 552 | 5A土坑273 | 豊臣 | -146347 | -43778 | 0.04 |
| 485 | 5A土坑085 | 豊臣 | -146396 | -43776 | 0.05 | 553 | 5A土坑275 | 豊臣 | -146349 | -43784 | 0.15 |
| 486 | 5A土坑086 | 豊臣 | -146393 | -43766 | 0.24 | 554 | 5A土坑276 | 豊臣 | -146350 | -43787 | 0.21 |
| 487 | 5A土坑088 | 豊臣 | -146396 | -43761 | 0.07 | 555 | 5A土坑277 | 豊臣 | -146353 | -43782 | 0.42 |
| 488 | 5A土坑090 | 豊臣 | -146394 | -43761 | 0.02 | 556 | 5A土坑278 | 豊臣 | -146353 | -43778 | 0.10 |
| 489 | 5A土坑091 | 豊臣 | -146392 | -43797 | 0.21 | 557 | 5A土坑279 | 豊臣 | -146345 | -43782 | 0.11 |
| 490 | 5A土坑094 | 豊臣 | -146393 | -43772 | 0.04 | 558 | 5A土坑281 | 豊臣 | -146342 | -43778 | 0.06 |
| 491 | 5A土坑095 | 豊臣 | -146393 | -43770 | 0.04 | 559 | 5A土坑283 | 豊臣 | -146345 | -43779 | 0.08 |
| 492 | 5A土坑096 | 豊臣 | -146341 | -43761 | 0.55 | 560 | 5A土坑284 | 豊臣 | -146343 | -43779 | 0.22 |

表8 遺構掲載番号表(5A調査区)3

| | | | | | | | | | | | |
|-----|-----------------|----|---------|--------|------|-----|---------|----|---------|--------|------|
| 561 | 5A土坑285 | 豊臣 | -146343 | -43778 | 0.20 | 629 | 5A土坑415 | 豊臣 | -146331 | -43778 | 0.35 |
| 562 | 5A土坑286 | 豊臣 | -146349 | -43782 | 0.22 | 630 | 5A土坑416 | 豊臣 | -146329 | -43778 | 0.17 |
| 563 | 5A土坑288 | 豊臣 | -146345 | -43788 | 0.14 | 631 | 5A土坑417 | 豊臣 | -146336 | -43782 | 0.45 |
| 564 | 5A土坑289 | 豊臣 | -146349 | -43774 | 0.08 | 632 | 5A土坑418 | 豊臣 | -146336 | -43780 | 0.07 |
| 565 | 5A土坑292 | 豊臣 | -146345 | -43777 | 0.14 | 633 | 5A土坑419 | 豊臣 | -146336 | -43781 | 0.15 |
| 566 | 5A土坑293 | 豊臣 | -146354 | -43785 | 0.17 | 634 | 5A土坑421 | 豊臣 | -146343 | -43773 | 0.24 |
| 567 | 5A土坑296 | 豊臣 | -146344 | -43778 | 0.07 | 635 | 5A土坑422 | 豊臣 | -146328 | -43780 | 0.06 |
| 568 | 5A土坑299(井戸3) | 豊臣 | -146352 | -43782 | | 636 | 5A土坑423 | 豊臣 | -146329 | -43772 | 0.13 |
| 569 | 5A土坑300 | 豊臣 | -146350 | -43780 | 0.04 | 637 | 5A土坑425 | 豊臣 | -146330 | -43781 | 0.19 |
| 570 | 5A土坑301 | 豊臣 | -146344 | -43777 | 0.07 | 638 | 5A土坑426 | 豊臣 | -146348 | -43765 | 0.36 |
| 571 | 5A土坑302 | 豊臣 | -146336 | -43785 | 0.22 | 639 | 5A土師皿群1 | 豊臣 | -146348 | -43785 | |
| 572 | 5A土坑304 | 豊臣 | -146352 | -43778 | 0.34 | 640 | 5A土師皿群2 | 豊臣 | -146343 | -43780 | |
| 573 | 5A土坑305 | 豊臣 | -146346 | -43775 | 0.20 | 641 | 5A土師皿群3 | 豊臣 | -146343 | -43782 | |
| 574 | 5A土坑306 | 豊臣 | -146343 | -43781 | 0.77 | 642 | 5A土師皿群4 | 豊臣 | -146346 | -43780 | |
| 575 | 5A土坑307 | 豊臣 | -146350 | -43782 | 0.24 | 643 | 5A土師皿群5 | 豊臣 | -146343 | -43784 | |
| 576 | 5A土坑308 | 豊臣 | -146350 | -43775 | | 644 | 5A炉01 | 豊臣 | -146355 | -43764 | |
| 577 | 5A土坑310 | 豊臣 | -146347 | -43775 | 0.04 | 645 | 5A炉02 | 豊臣 | -146354 | -43764 | |
| 578 | 5A土坑312 | 豊臣 | -146345 | -43777 | 0.11 | 646 | 5A炉10 | 豊臣 | -146352 | -43814 | |
| 579 | 5A土坑313 | 豊臣 | -146345 | -43777 | 0.16 | | | | | | |
| 580 | 5A土坑314 | 豊臣 | -146351 | -43784 | 0.12 | | | | | | |
| 581 | 5A土坑315 | 豊臣 | -146351 | -43776 | | | | | | | |
| 582 | 5A土坑316 | 豊臣 | -146346 | -43772 | 0.56 | | | | | | |
| 583 | 5A土坑317 | 豊臣 | -146346 | -43783 | 0.14 | | | | | | |
| 584 | 5A土坑318 | 豊臣 | -146345 | -43776 | 0.11 | | | | | | |
| 585 | 5A土坑319 | 豊臣 | -146348 | -43778 | 0.55 | | | | | | |
| 586 | 5A土坑320 | 豊臣 | -146349 | -43776 | 0.53 | | | | | | |
| 587 | 5A土坑321 | 豊臣 | -146336 | -43774 | 0.73 | | | | | | |
| 588 | 5A土坑324 | 豊臣 | -146337 | -43781 | 0.07 | | | | | | |
| 589 | 5A土坑352 | 豊臣 | -146347 | -43777 | 0.30 | | | | | | |
| 590 | 5A土坑353 | 豊臣 | -146344 | -43780 | 0.07 | | | | | | |
| 591 | 5A土坑354 | 豊臣 | -146341 | -43789 | 0.53 | | | | | | |
| 592 | 5A土坑355 | 豊臣 | -146340 | -43786 | 0.17 | | | | | | |
| 593 | 5A土坑356 | 豊臣 | -146339 | -43785 | 0.11 | | | | | | |
| 594 | 5A土坑357(ピット185) | 豊臣 | -146346 | -43789 | | | | | | | |
| 595 | 5A土坑358 | 豊臣 | -146338 | -43777 | 0.12 | | | | | | |
| 596 | 5A土坑360 | 豊臣 | -146349 | -43785 | 0.15 | | | | | | |
| 597 | 5A土坑361 | 豊臣 | -146349 | -43784 | | | | | | | |
| 598 | 5A土坑366 | 豊臣 | -146394 | -43802 | 0.18 | | | | | | |
| 599 | 5A土坑368 | 豊臣 | -146392 | -43804 | 0.33 | | | | | | |
| 600 | 5A土坑370 | 豊臣 | -146389 | -43800 | 0.12 | | | | | | |
| 601 | 5A土坑372 | 豊臣 | -146389 | -43808 | 0.27 | | | | | | |
| 602 | 5A土坑374 | 豊臣 | -146388 | -43815 | 0.46 | | | | | | |
| 603 | 5A土坑375 | 豊臣 | -146392 | -43806 | 0.06 | | | | | | |
| 604 | 5A土坑376 | 豊臣 | -146393 | -43806 | 0.02 | | | | | | |
| 605 | 5A土坑378 | 豊臣 | -146339 | -43776 | 0.18 | | | | | | |
| 606 | 5A土坑379 | 豊臣 | -146391 | -43814 | 0.65 | | | | | | |
| 607 | 5A土坑381 | 豊臣 | -146388 | -43804 | 0.35 | | | | | | |
| 608 | 5A土坑382 | 豊臣 | -146342 | -43783 | 0.11 | | | | | | |
| 609 | 5A土坑383 | 豊臣 | -146339 | -43782 | 0.50 | | | | | | |
| 610 | 5A土坑384 | 豊臣 | -146341 | -43776 | 0.37 | | | | | | |
| 611 | 5A土坑385 | 豊臣 | -146338 | -43776 | 0.55 | | | | | | |
| 612 | 5A土坑386 | 豊臣 | -146339 | -43775 | 0.08 | | | | | | |
| 613 | 5A土坑387 | 豊臣 | -146340 | -43776 | 0.44 | | | | | | |
| 614 | 5A土坑388 | 豊臣 | -146338 | -43780 | 0.38 | | | | | | |
| 615 | 5A土坑389 | 豊臣 | -146337 | -43777 | 0.58 | | | | | | |
| 616 | 5A土坑390 | 豊臣 | -146339 | -43778 | 0.01 | | | | | | |
| 617 | 5A土坑391 | 豊臣 | -146338 | -43774 | 0.22 | | | | | | |
| 618 | 5A土坑392 | 豊臣 | -146338 | -43781 | 0.37 | | | | | | |
| 619 | 5A土坑393 | 豊臣 | -146339 | -43779 | 0.35 | | | | | | |
| 620 | 5A土坑404 | 豊臣 | -146332 | -43781 | 0.43 | | | | | | |
| 621 | 5A土坑406 | 豊臣 | -146335 | -43788 | 0.27 | | | | | | |
| 622 | 5A土坑408 | 豊臣 | -146334 | -43773 | 0.45 | | | | | | |
| 623 | 5A土坑409 | 豊臣 | -146333 | -43773 | 0.32 | | | | | | |
| 624 | 5A土坑410 | 豊臣 | -146333 | -43776 | 0.35 | | | | | | |
| 625 | 5A土坑411 | 豊臣 | -146331 | -43776 | 0.32 | | | | | | |
| 626 | 5A土坑412 | 豊臣 | -146328 | -43775 | 0.31 | | | | | | |
| 627 | 5A土坑413 | 豊臣 | -146334 | -43779 | 0.39 | | | | | | |
| 628 | 5A土坑414 | 豊臣 | -146330 | -43780 | 0.47 | | | | | | |

A-2、5A調査区の遺構（三の丸築造以前も含む）

この時期の遺構面は最大で3面確認された。しかしいずれの面も断続的であり、また1A～3A調査区で確認されたような著しい盛土もみられないため、どの面が三の丸築造以前で、どの面が以降に比定されるかの、明確な判断はできなかった。そこでここでは、一部については検出層順の解説も加えるが、基本的にはこの時期一括の遺構群として説明をおこない、その詳細については後日の検討を待つことにしたい。

溝21 (440) 調査区の南半東端に位置する。軸を南北とし、幅約1.8m、長さ12.5m、深さ1.3mを測る。断面形はほぼ逆台形を呈し、西側は2段に掘り込まれている。多くの瓦が出土した。

溝45 (452) 調査区の北半東端に位置する。南延長上に溝21が位置する。南北を軸とし、規模は幅1.3m、長さ15m、深さ0.7～0.8mを測る断面逆台形の溝である。溝内には多量の焼けた瓦、焼土が廃棄されており、この瓦の中から特殊な飾り瓦が出土した。

また溝45の東肩の北側部分には石列が付属する。この石列は人頭大の角礫を使

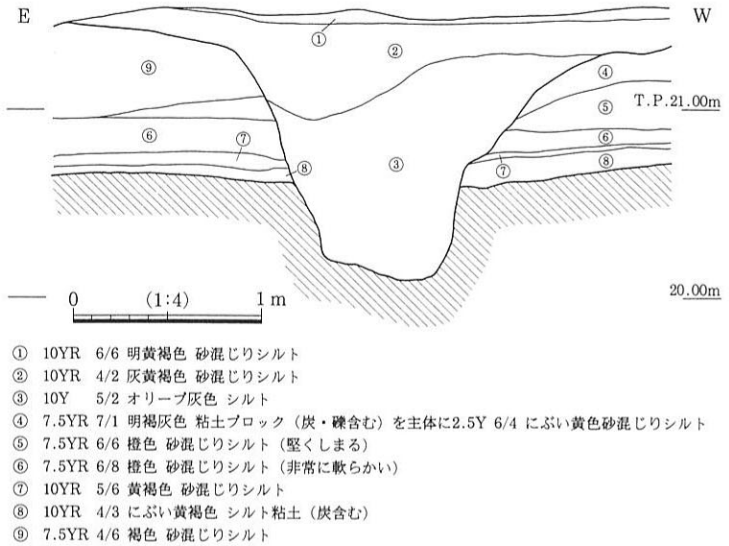


図161 5A調査区 溝21断面図

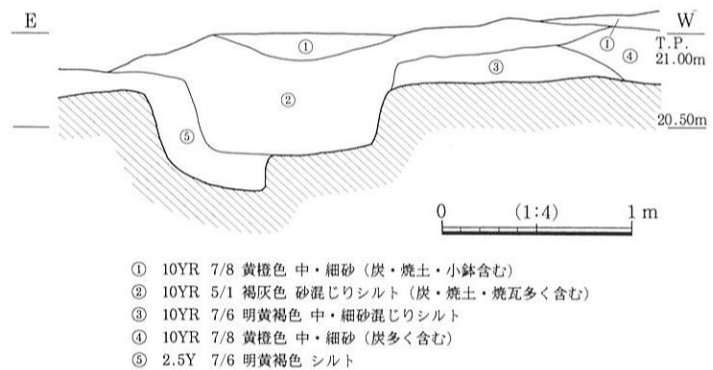


図162 5A調査区 溝45断面図

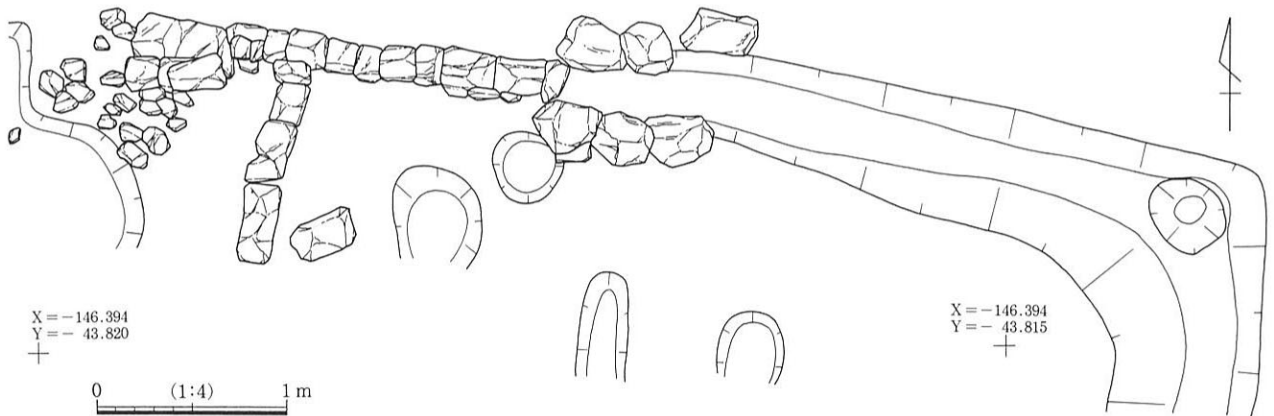


図163 5A調査区 溝110平面図

用し構築されており、2カ所に東へのびる排水溝の石組が取り付く。堆積の層順では豊臣期でも新しい段階に比定される。

溝110 (471) 調査区の南半西端に位置する。東西方向からやや北に軸を振った溝で、その西半部に石組の側壁と、さらにその先端に丸瓦で組んだ導水管を伴う。また東端は南へ折れる。規模は全長が6mで、石組部分が1m、瓦組部分が2mである。

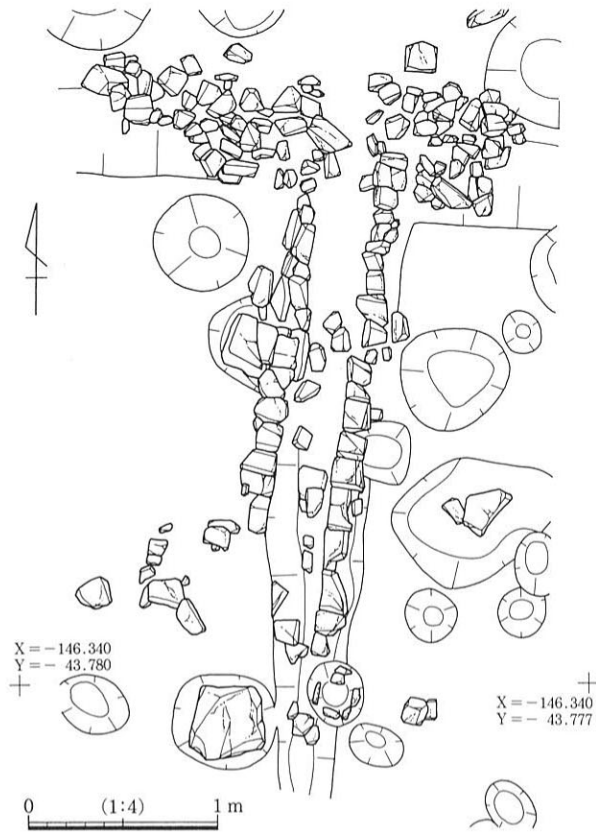


図164 5 A 調査区 瓦組導水管 2 平面図

瓦組導水管 2 (417)・溝106 (469) 調査区の北半東に位置する。南北方向を軸とし、側壁を平瓦で土留めしている。残存する規模は、長さが約3m、幅は0.3mであり、北端で、東西軸の溝106 (469) につながる。溝106は長さ5m、幅0.8m、深さ0.2mを測り、断面形は逆台形を呈する。埋土は砂で、土師器皿を多く含んでいる。堆積の層順では豊臣期でも古い段階に比定される。

土坑94・95 (490・491) 調査区南半の東に位置する。炭、焼土が多量に検出され、とくに炭集中部から羽口、鉄滓、釘などの鉄器生産関連遺物が出土した。鍛冶関連遺構の可能性が考えられる。規模は東西5m、南北3.7mである。また、土坑の東肩部分には焼けた礫が1個置かれており、出土遺物や土坑との関係から考えて金床石かと思われる。

土坑94・95 (490・491) 調査区南半の東に位置する。炭、焼土が多量に検出され、とくに炭集中部から羽口、鉄滓、釘などの鉄器生産関連遺物が出土した。鍛冶関連遺構の可能性が考えられる。規模は東西5m、南北3.7mである。また、土坑の東肩部分には焼けた礫が1個置かれており、出土遺物や土坑との関係から考えて金床石かと思われる。

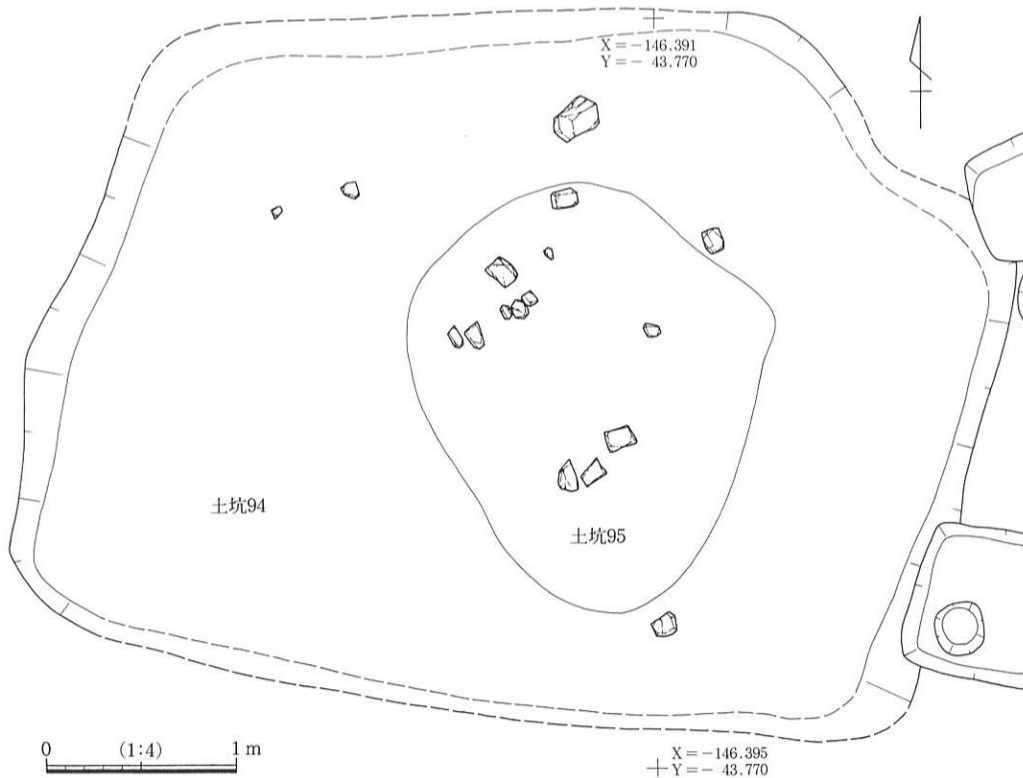
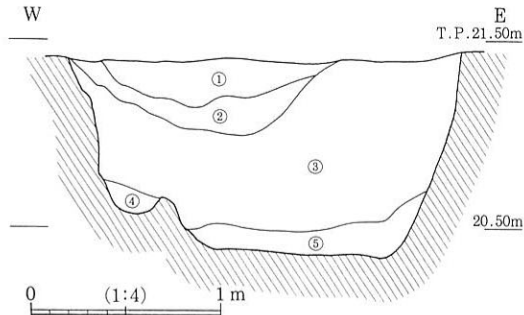
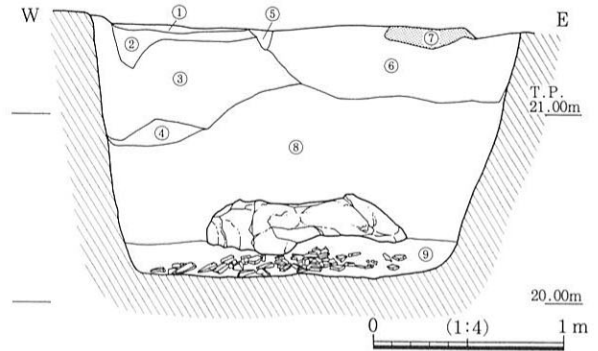
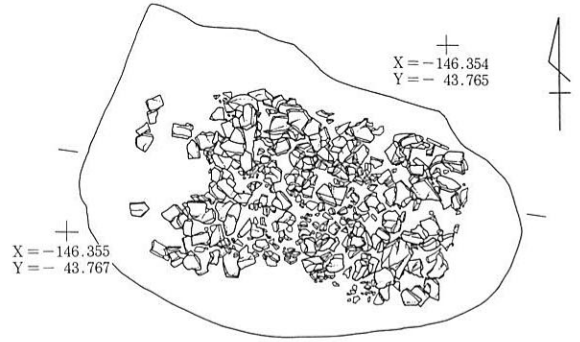


図165 5 A 調査区 土坑94・95平面図



- ① 7.5YR 6/8 橙色 細砂混じりシルト
- ② 10YR 5/1 褐色灰 シルト (炭・焼土瓦を含む)
- ③ 5YR 5/2 灰褐色 シルト混じり細砂 (炭・焼土を含む)
- ④ 5YR 5/6 明赤褐色 細砂混じりシルト (炭・焼土瓦を含む)
- ⑤ 10YR 6/4 にぶい黄褐色 シルト混じり細砂 (炭・焼土瓦を含む)

図166 5 A 調査区 土坑154断面図



- ① 10YR 5/1 褐色灰 砂質土 (堅くしまっている)
- ② 7.5YR 6/6 橙色 細砂混じりシルト
- ③ 瓦が充満
- ④ 7.5YR 5/1 褐色灰 シルト
- ⑤ 10R 5/6 赤色 細砂
- ⑥ 2.5YR 5/4 にぶい赤褐色 細砂混じりシルト (瓦と焼土を多く含む)
- ⑦ N 2/0 黒色 炭層
- ⑧ 瓦が充満
- ⑨ 10YR 5/4 にぶい黄褐色 シルト

図167 5 A 調査区 土坑155平面・断面図

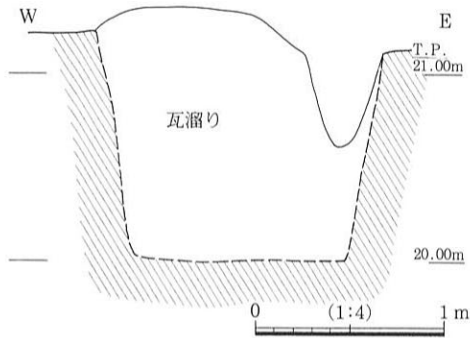
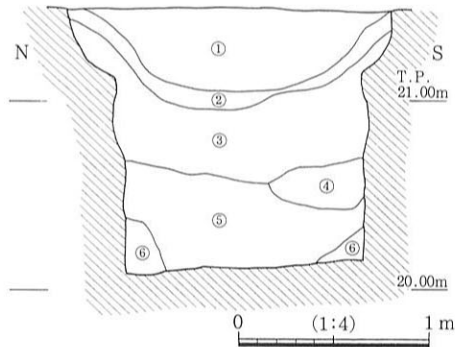


図168 5 A 調査区 土坑159断面図



- ① 2.5Y 5/3 黄褐色 粗砂混じりシルト (炭・焼土を含む)
- ② 10YR 6/6 明黄褐色 粗砂混じりシルト (炭・焼土を含む)
- ③ 2.5Y 6/2 灰黄色 細砂混じりシルト (炭・瓦・土器・2cm大の礫を含む)
- ④ 10YR 6/4 にぶい黄褐色 シルト (焼土塊を含む)
- ⑤ N 5/0 灰色 細砂混じりシルト (2cm大の礫・瓦を含む)
- ⑥ 10YR 5/3 にぶい黄褐色 シルト混じり細砂

図169 5 A 調査区 土坑269断面図

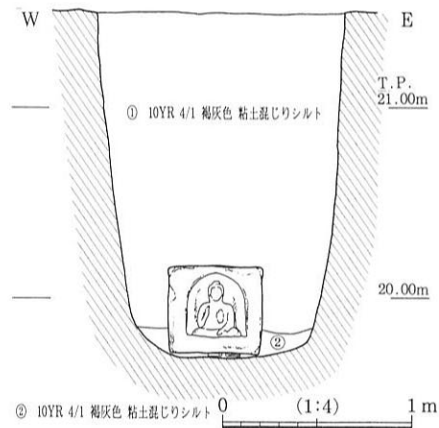
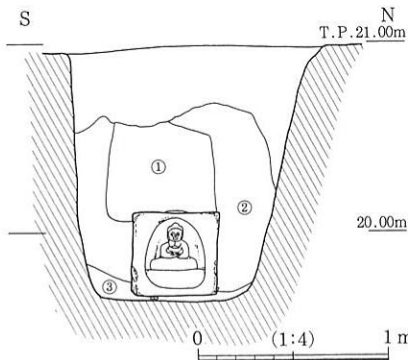
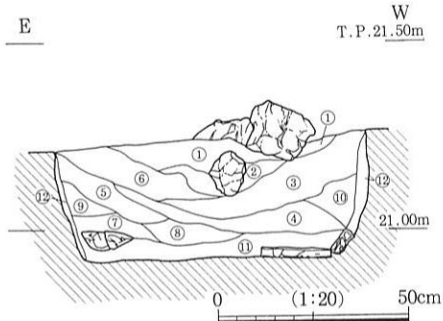


図170 5 A 調査区 土坑299断面図



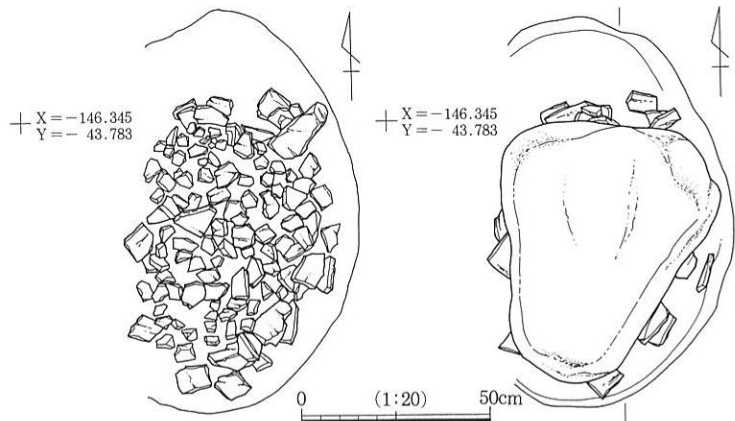
- ① 2.5YR 5/4 粗砂混じり細砂 (粘性あり、炭・瓦・焼土を含む)
- ② 瓦が充満
- ③ 10YR 5/3 中砂混じりシルト (粘性強い、炭混じる)

図171 5 A調査区 土坑316断面図



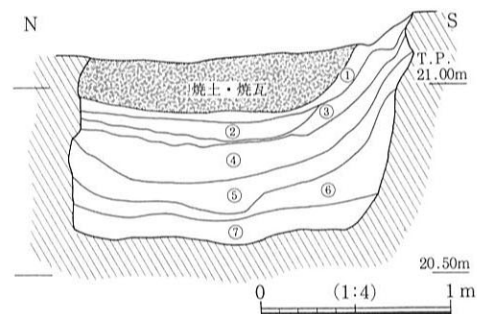
- ① 2.5Y 4/1 黄灰色 粘質シルト (焼土塊 (φ2~3cm) 炭を多く含む)
- ② 2.5Y 6/1 黄灰色 中粒砂混粘質シルト (僅かに炭を含む)
- ③ 5Y 7/4 浅黄色 中粒砂 (堅くしまる)
- ④ 7.5Y 4/2 灰オリーブ色 砂混粘土
- ⑤ 5Y 7/3 浅黄色 中粒砂 (堅くしまる)
- ⑥ 5Y 5/2 灰オリーブ色 細砂とシルトの互層
- ⑦ 2.5Y 5/4 黄褐色 砂混シルト粘土
- ⑧ 2.5Y 5/2 暗灰黄色 砂混粘土 (瓦含む)
- ⑨ 5Y 6/3 オリーブ黄色 中・粗砂混シルト
- ⑩ 5Y 6/3 オリーブ黄色 中・粗砂混シルト
- ⑪ 5Y 4/2 灰オリーブ色 粘土 (瓦、骨を含む、水分多く軟らかい)
- ⑫ 2.5Y 3/1 黒褐色 粘質シルト

図173 5 A調査区 土坑393断面図



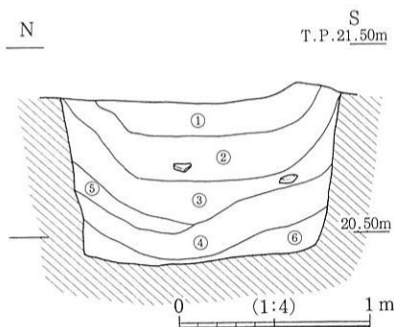
- ① 瓦・焼土・炭が充満
- ② 10YR 6/6 明黄褐色 粗砂混じりシルト (粘性あり)
- ③ 2.5Y 5/3 黄褐色 シルト混じり粗・中砂 (瓦を多く含む)

図172 5 A調査区 土坑309平面・断面図



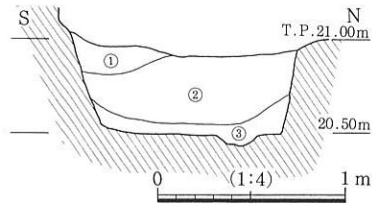
- ① 10YR 6/6 明黄褐色 シルト
- ② 10YR 2/1 黒色 炭混じりシルト
- ③ 10YR 6/8 明黄褐色 粘土
- ④ 10YR 4/6 褐色 シルト混じりあった埋土
- ⑤ 10YR 5/1 褐色 炭層 (南側に10YR 5/1 褐色粗砂をはさむ)
- ⑥ 10YR 5/1 褐色 粗砂 (炭層と互層)
- ⑦ 10YR 4/1 褐色 炭混じり粘土

図174 5 A調査区 土坑324断面図



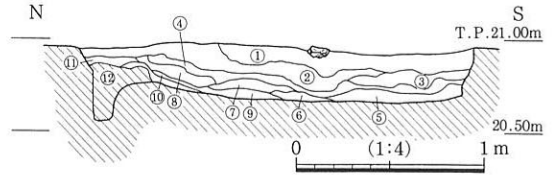
- ① 10YR 6/4 にぶい黄橙色 堅くしまった細砂混じりシルト
- ② 10YR 7/8 黄橙色 砂混じりシルト (炭・瓦を含む)
- ③ 2.5Y 4/1 黄灰色 砂混じりシルト (多量の炭・焼土・土師皿・瓦・貝を含む)
- ④ 2.5Y 5/1 黄灰色 粘質シルト (微細な炭粉・焼土・灰を含む)
- ⑤ 2.5Y 6/1 黄灰色~7/1 灰白色 細砂と中粒砂 (灰を含む)
- ⑥ 5Y 7/1 灰白色~7/2 灰白色 細砂・中粒砂・シルトの互層状 (炭・瓦・土師皿を含む一部に灰状のものがみられる)

図175 5 A調査区 土坑404断面図



- ① 10YR 5/6 黄褐色 細砂混じりシルト (粘性あり)
- ② 10YR 4/1 褐灰色 中砂混じり細砂 (やや粘性あり)
- ③ 7.5YR 5/6 明褐色 シルト

図176 5 A 調査区 土坑423断面図



- ① 2.5Y 5/3 黄褐色 砂混じりシルト (瓦・焼土塊・炭を含む)
- ② 10YR 6/6 明黄褐色 砂混じりシルト (炭・焼土塊を含む)
- ③ 10YR 6/3 にぶい黄褐色 シルト (炭を含む)
- ④ 10YR 3/1 黒褐色 灰・炭を含む
- ⑤ 10YR 5/2 灰黄褐色 シルト (炭を含む)
- ⑥ 10YR 7/8 黄褐色 粘質シルト
- ⑦ 7.5YR 3/1 黒褐色 砂混じりシルト (細かい炭を多く含む)
- ⑧ 10YR 6/8 明黄褐色 砂混じりシルト (やや粘質あり)
- ⑨ 10YR 6/3 にぶい黄褐色 砂混じりシルト (細かい炭を含む)
- ⑩ 10YR 7/6 明黄褐色 砂混じり粘質シルト
- ⑪ 10YR 5/4 にぶい黄褐色 粘質シルト
- ⑫ 10YR 6/8 明黄褐色 粘質土 (11層)

図177 5 A 調査区 土坑415断面図



土坑155

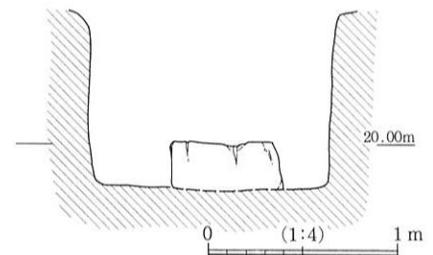
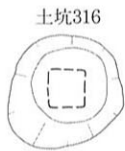
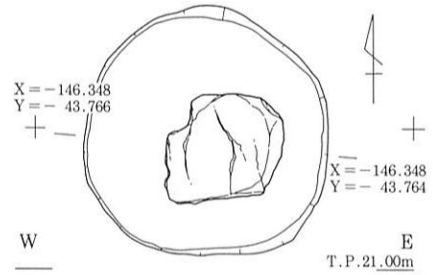


図178 5 A 調査区 土坑426平面・断面図

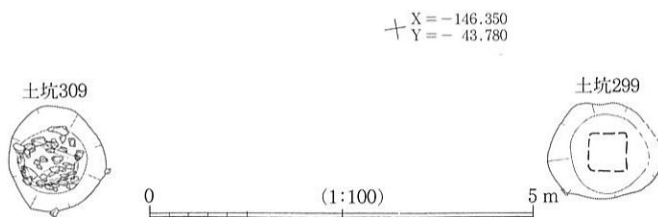


図179 5 A 調査区 建物12平面図

土坑154 (535) は調査区の北半東より南端に位置する。南北幅2 m、東西幅2 mの不定形土坑で深さは1.1mを測る。埋土には灰、焼土、炭を含み、瓦、豊臣期の陶磁器などが出土している。

土坑155 (536) 調査区の北半南東に位置する。平面形は長軸2.3m、短軸1.4mの長楕円形を呈し、深さは1.4mを測る。検出面から1.2mの深さまでは瓦と焼土が充満しており、その下から縦0.9m、横0.7m、厚さ0.3mの平石が検出された。また石の下には安定を保つため平瓦が敷かれた状態でみつまっている。石の上部に堆積していた瓦の中から「桐」紋の家紋瓦や飾り瓦、一石五輪塔などが出土している。

土坑159 (538) 調査区の北半中央東に位置する。平面形は直径1.5m、深さ1.5mの大型の土坑である。瓦が充満しており、土坑155と類似した状況である。飾り瓦が出土している。底面に花崗岩の切り石を据えている。石の大きさは幅54cm、奥行54cm、高さ42cmを測り、ほぼ立方体を呈する。石の四側面には東西南北を意味する梵字「𑖀」・「𑖁」・「𑖂」・「𑖃」が刻まれている。

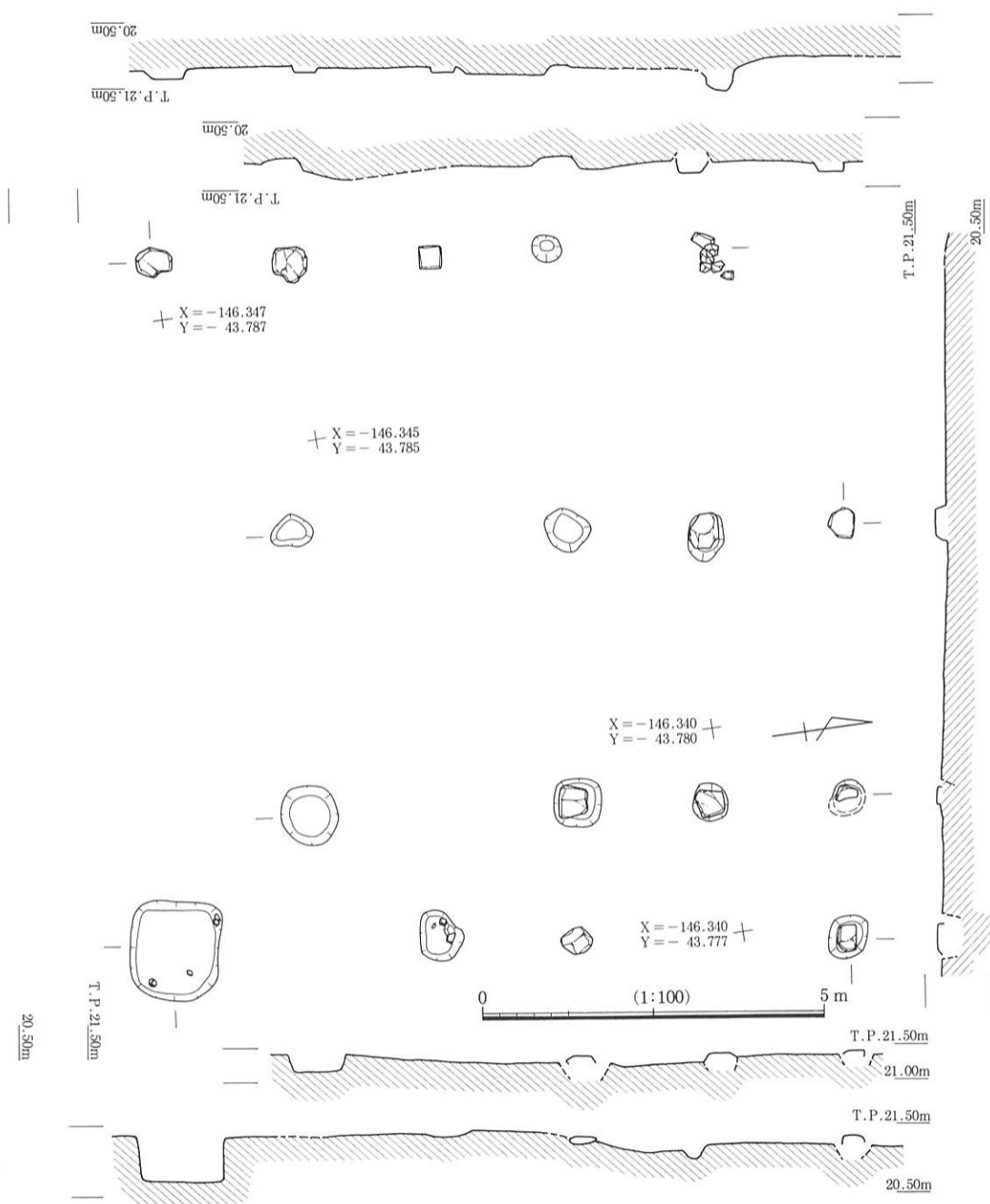


図180 5 A調査区 建物10平面・断面図

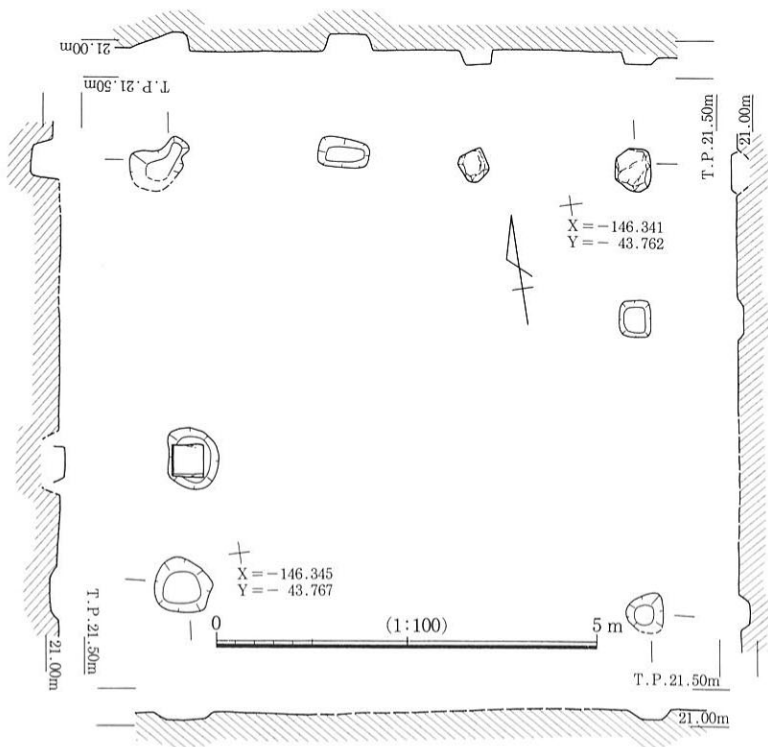


図181 5 A調査区 建物11平面・断面図

土坑269 (548) 調査区の北半中央南部分に位置する。平面方形を呈し、2段に掘り込まれている。規模は東西2.3m、南北1.6m、深さ1.4mである。埋土には焼土・炭・礫・瓦などを多量に含んでいた。

土坑299 (568) 調査区の北半中央東に位置する。規模は直径1.3m、深さ1.8mを測る。底面には花崗岩の切り石を据えている。石の大きさは幅48cm、奥行48cm、高さ46cmの立方体を呈する。石の上面中央には直径6cm、深さ7cmの軸受けの小穴が穿たれている。また、四側面には仏が1体ずつ刻まれている土坑316 (582) 調査区の北半東に位置する。規模は直径1.5m、深さ1.3mを測る。底面には花崗岩の切り石を据えている。

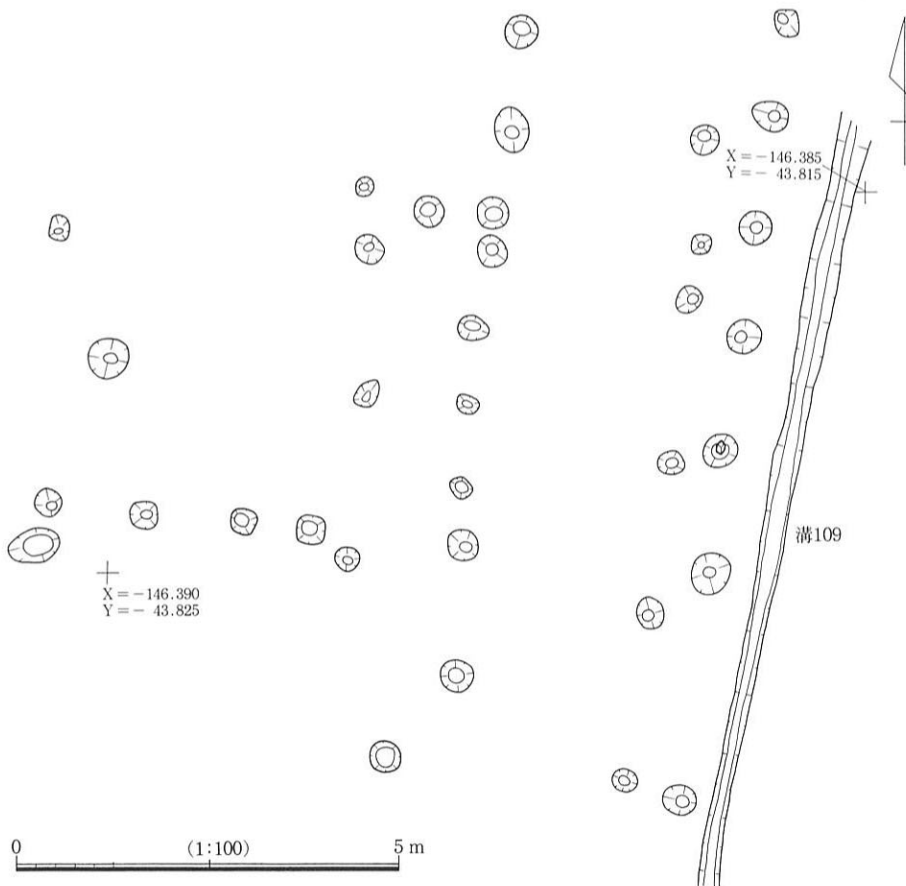


図182 5 A調査区 ピット群・溝109平面図

石の大きさは幅、奥行、高さとも45cmを測り、立方体を呈する。石の上面中央には直径7cm、高さ3cmの突起が作りだされている。四側面には仏が1体ずつ刻まれている。

土坑309 (415) 調査区の北半中央に位置する。規模が直径1.3m、深さ1.5mの土坑である。底面に平石が据えられている。石の下には安定を保つために瓦や粗砂を入れている。石の大きさは最大幅58cm、奥行68cm、厚さ12cmを測る。

土坑393 (619) 調査

区の北半北東に位置する。平面方形を呈する。規模は東西0.8m、南北1m、深さ35cmを測る。壁際には厚さ3～5cmの板材の痕跡が残る。底面から8cmの厚さで水分を多く含んだ粘質シルトがみられ、これに瓦、骨を含む。

土坑324 (588)・土坑404 (620)・土坑415 (629)・土坑423 (636) 調査区北半の北中央に位置する。土坑324は東西2.5m、南北1.8mを、土坑404は1辺1mほどを、土坑415は1辺2mほどを測る、土坑423は南北1.3mで東西は東が削平されているため0.5m以上を測る方形の土坑である。また土坑415は上部が削平され、とくに浅いものとなっている。

この地区では近接してこれら同様な形状と規模の遺構（ほかに土坑302・413）が集中して形成されており、これらはいずれも埋土に炭、灰、焼土を多量に含み、土師器皿を包含することを特徴としている。
土坑426 (638) 調査区北半の北東に位置する。規模は直径1.3m、深さ1.3mを測る。内部には検出面から約1.1mの深さまで瓦・炭・焼土が充填されており、土坑底面中央に長辺60cm、短辺50cm、厚さ20～30cmの花崗岩が置かれ、また石の下には安定を保つため平瓦が敷かれている。

建物12 (439) 調査区の北半東部に位置する。実際に建物になるかどうかは不明である。土坑155・土坑159 (瓦溜まり11)・土坑299・土坑426・土坑316・土坑309から構成され、個々の土坑の説明はさきに述べたとおりである。土坑間の距離は、南北が西から7.4、7.5、6.9m、東西は南面が西から8、9m、北面が西から8、8.5mである。いずれも土坑の底に平石または石塔の一部を据え（その下部には瓦片を詰めている）、埋土上層は全て焼けた瓦である。その状況からは、焼け瓦が入る前は空間であり、少なくとも土砂などで埋まっていた可能性の少ないことがうかがわれる。また焼け瓦の埋没状況には、顕著な、とくに縦方向への層離面は無く、そのため、焼け瓦の一部が柱掘り方の埋め戻し土であり、柱の抜き取り痕にその一部と、あらたな焼け瓦が埋没したとも考えにくいものとなっている。

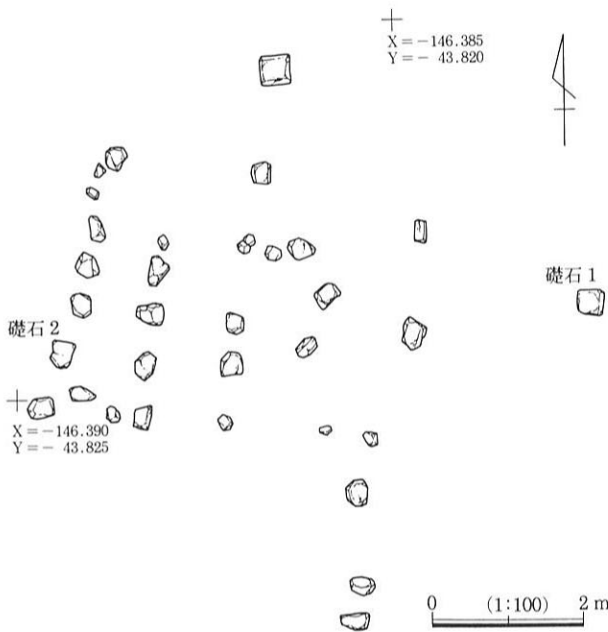


図183 5 A調査区 礎石群平面図

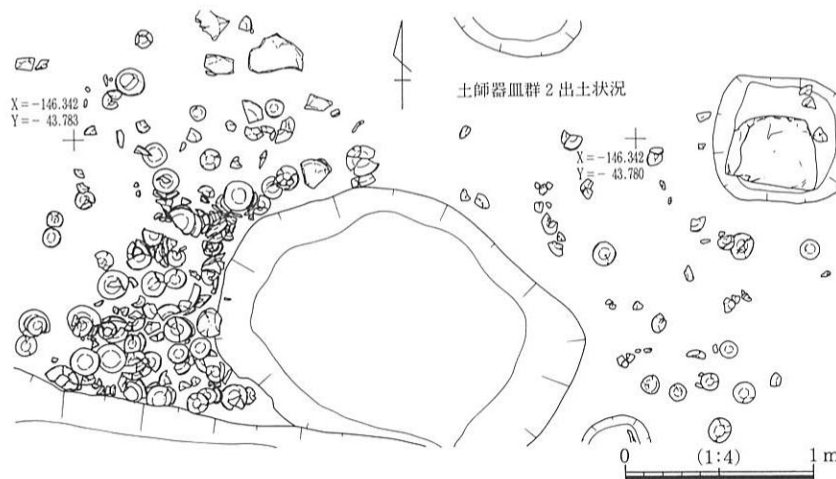


図184 5 A調査区 土師器皿群平面図

建物10 (437) 調査区の北半東部に位置する。東西、南北共に10mまで復原できる礎石建物である。ただし、南北軸が柱間約2mの5間であるのに対し、東西軸は柱間が、西から4・4・2mの3間となっている。東に縁をもつ建物の一部かもしれない。

建物11 (438) 調査区の北

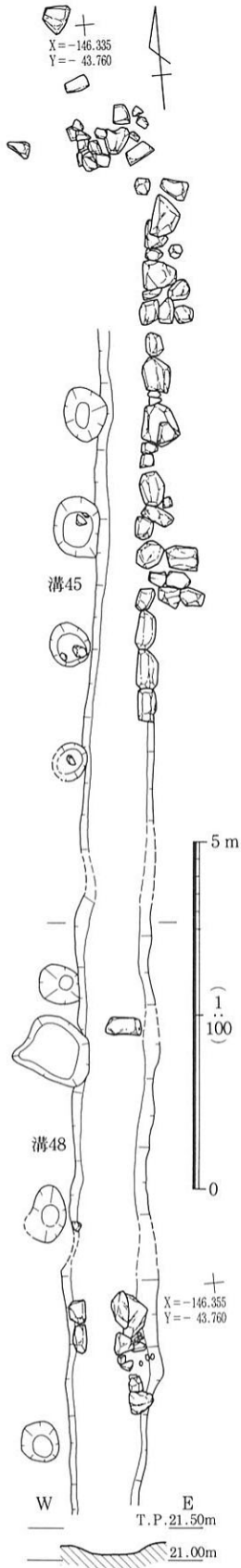


図185 5 A調査区 溝45・溝48・礎石平面・断面図

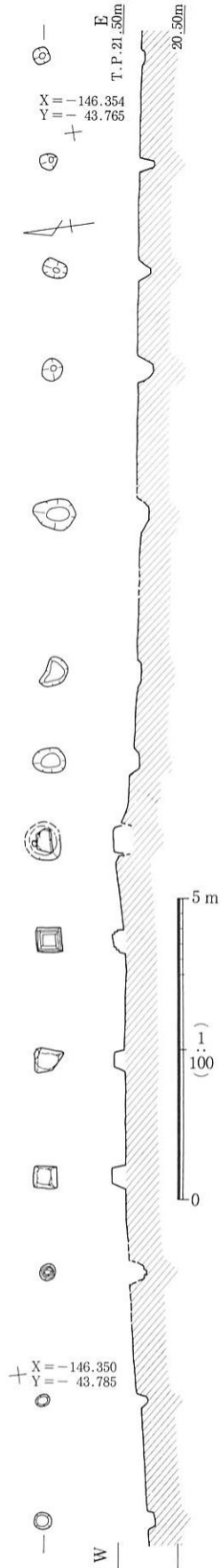


図186 5 A調査区 柵列平面・断面図

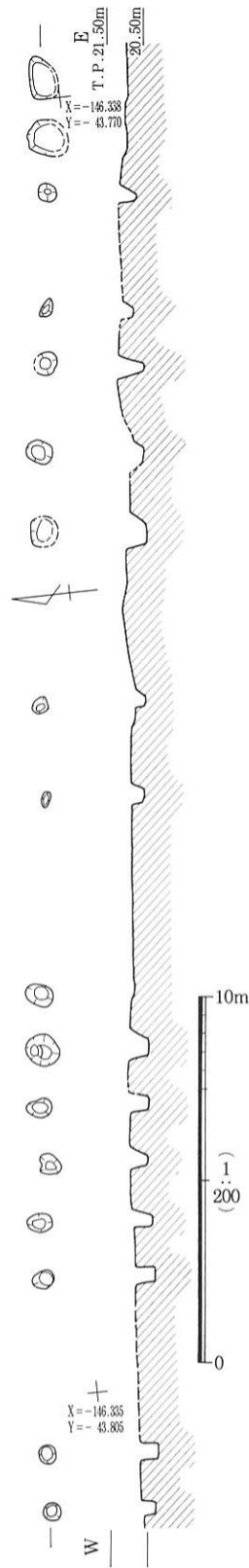


図187 5 A調査区 柵列平面・断面図

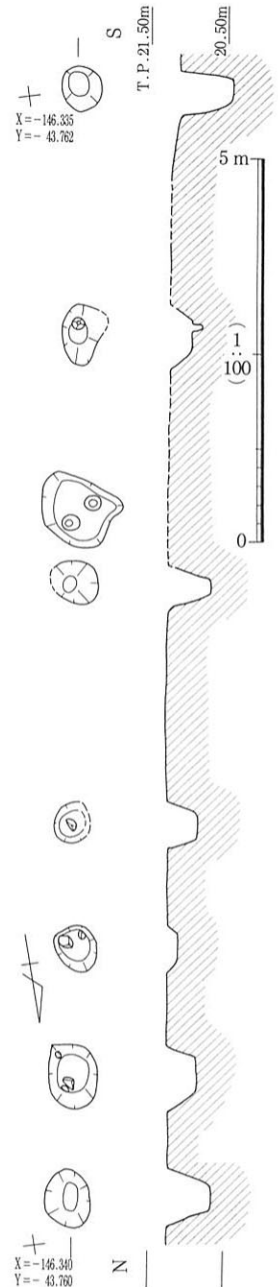


図188 5 A調査区 柵列平面・断面図

半東部に位置する。東西、南北共に6mまで復原できる3×3間の礎石建物である。柱間の距離は約2mである。

ピット群 (411)・溝109 (470) 調査区の南半で西端に位置する。南北軸からやや東へ角度を振る形で2条から一部3条にならぶピット列と、その東で3間程度の小屋の復原される可能性の高いピット群から構成される。なお溝109はこれらのピット群の東に位置する。豊臣期あるいはそれ以前の時期の可能性はある。

礎石群 (480) 調査区の南半で西端に位置する。いずれも小規模な礎石であるが、南北4間、東西4間程度には復原できる。柱間の距離は、東西1、南北0.7mである。堆積の層順からは豊臣期でも古い段階に比定される可能性がある。

土師器皿群 1～5 (639～643) 調査区の北半東に位置し、基盤層上面での出土である。土師器皿は大半のものが正置で出土しており、重なった状態も認められることから一定範囲内に複数枚重ねて廃棄したものと考えられる。土師器皿には丹塗、漆塗のものがあり、口縁部に油煙が付着するものもみられる。また、土師器皿群の分布域には炭化物がかなり集中して検出されているが皿には二次焼成を受けた痕跡は認められない。

溝48 (455) 調査区北半の東端に位置し、幅1.2m、深さ0.3mを測る。溝45につながる溝で、その東

岸には人頭大の角礫が配されている。瓦、焼土が廃棄されている。

柵列 いずれも調査区北半の北部または東部に位置する。石塔を転用した礎石を伴うものと、掘立柱式のものの2種類がみられ、礎石をとまなう場合は、柱間が1.6～1.7m、掘立柱式の場合約1.5mを測る。なおそれぞれ建物10の周囲を囲む関係にあっている。

石列 3 (477) 調査区の北半東に位置する。規模は長さ30～50cm、幅20cm、厚さ20cmほどで、角礫および石仏や宝塔の転用材を東西方向に6個並べている。また、石列の北側には礎石群がみられ建物の存在が確認できるが、この礎石は中央部やや西寄りにもまとまっ

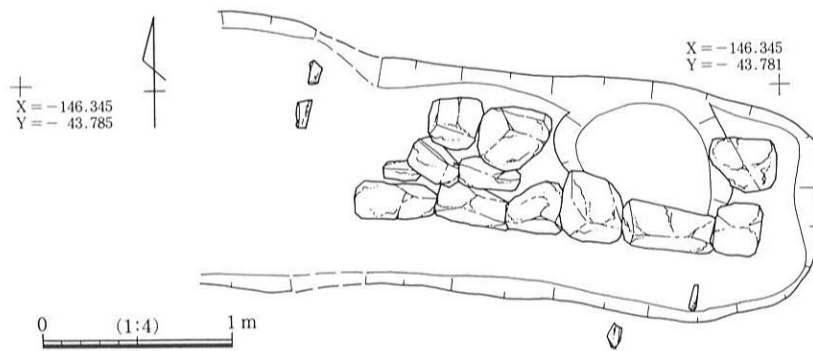


図189 5 A調査区 石列3平面図

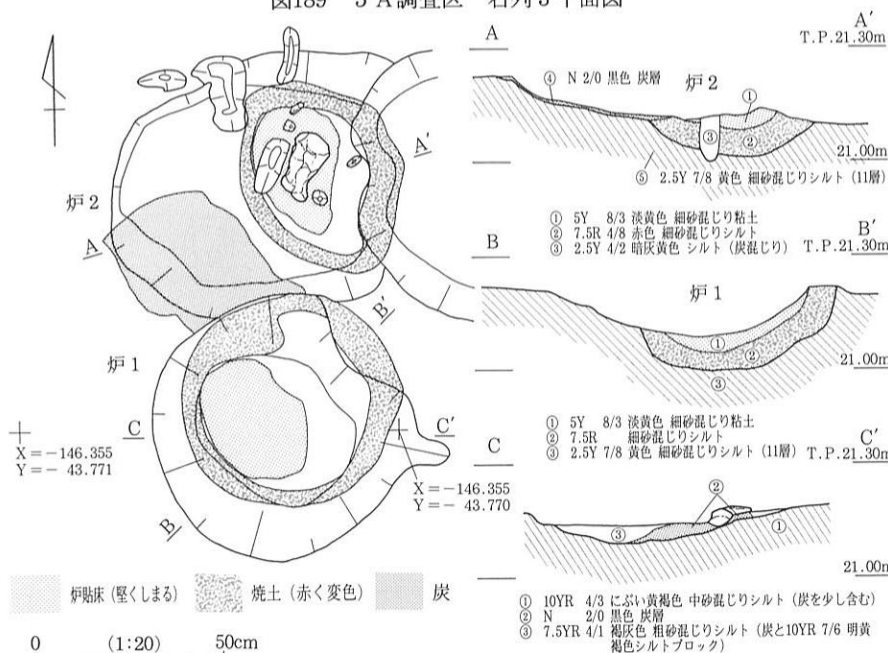


図190 5 A調査区 炉1・2平面・断面図

ており、石列3を南の辺として、この地区に複数の建物があったことが復原できる。なお、検出順において豊臣期でも新しい段階に比定され、建物10は、この石列と重複している可能性がある。

炉1・2 (644・645) 調査区の北半東南に位置する。二つの炉は切り合っており、炉1が新しく、炉2が古い。炉1は直径0.7m、深さ8cmの浅い皿状を呈し、床面は堅く焼締まっている。

炉2は直径0.65m、深さ20cmを測る。床面東側部分が堅く焼締まっている。炉2の床面には直径5cm前後、深さ10cm前後の小穴が数個みられる。両者とも炉内から鉄滓や粒状滓、鍛造剥片が検出されていることから鍛冶炉の可能性が高い。

瓦敷3 (418) 調査区の南半西に位置する。豊臣期の新しい段階の包含層を除去する過程で、東西2.5m、南北5mの範囲で検出された。平瓦を中心として、西にやや傾斜して敷き詰めた状態で残っていた。出土状況からはこの瓦敷きが地表に露出して機能していたような痕跡は見られず、豊臣期のある時期における、造成過程でおこなわれた工法の一つかもしれない。

以下詳細図の無い遺構について説明を加える。

溝36 (447) 調査区の南半東部に位置する。土坑94 (490) などに切られているが溝40 (449) に接続すると思われ、最大幅3.5m、長さ15m、深さ0.2mを測る。

溝39 (448) 調査区の南半南端に位置する。東西方向を軸として、規模は幅1m、長さ7.5m、深さ0.3mを測る。断面形は逆台形を呈する。溝36と溝39からは金箔瓦が出土している。

溝83 (461) 調査区北半の東部に位置し、東西を軸として、その西端で南に折れる。規模は幅1.2m、深さ0.6mを測る。検出した長さは東西方向に4m、南北方向に6mである。断面形は逆台形である。溝内部には焼土、瓦が多量に廃棄されていた。

溝98 (462) 調査区北半北東隅に位置する。北西から南東にはしる。幅0.6m、長さ3.3mを測る。東端には一辺20cm前後の角礫が集中している。性格は不明である。

土坑91 (489) 調査区南半の東に位置する。規模は南北約5m、東西3.5m以上の平面方形を呈する浅い土坑である。埋土は黄褐色の砂質土で多くの瓦を含んでいる。溝40につながる可能性がある。

土坑239 (235) 調査区の北半東に位置する。平面方形を呈し、南側は溝74 (119) に切られる。規模は東西0.9m、南北0.3m、深さ0.4mを測る。西壁際に板材の痕跡が残る。埋土は炭を多く含む黄褐色シルトでこれには土師器皿が多量に含まれている。



図191 5 A調査区 瓦敷3平面図

B、遺物

三の丸築造以降の遺物は、今回の調査対象範囲の全ての地点から出土している。その種類は多彩で、土器・陶磁器は言うに及ばず、木製品、金属製品、石製品など量的にみても豊富である。ただし帰属する実年代を詳細に見れば、1629年に徳川氏が大坂城を再築する以前で大坂夏の陣集結後の時期（いわゆる畑の時代）と、1598年に三の丸が築造されて以降、大坂夏の陣までの期間の大きく2時期に分けられ、さらに後者の期間にも、関ヶ原の戦い、大坂冬の陣など大坂城をとりまく社会情勢に変化を与えた要素は含まれており、それを裏付けるかのように、1 A 調査区などではこの時期に複数の生活面のあったことが明らかになっている。

しかしながら一般的にみて、豊臣期最後の生活面である大坂夏の陣によって焼亡した面とそれ以外の生活面との識別は困難な場合が多く（その間に明確な層をはさんでいる場合が少ないこと。部分的な場合の多いこと）、結果的には、この時期に複数の生活面があったとしても、最終的に大坂夏の陣で廃棄された遺物によって、この時期の様相が代表されるものとなっている。

なお今回の報告で言えば、1 A 溝52内の資料は、限りなく三の丸築造時期に近い時期の遺物を含むはずであり、堆積関係によって1 A 屋敷2に先行する1 A 屋敷3も同様に古い段階の資料をしめすことになる。ただし連続して拡大している都市遺跡において、いずれの資料についても、その中に三の丸築造以前の時期の資料も含んでいることは自然であり、その点もこの時期の資料の検討を複雑なものとしている要素となっている。

a、漆器・土器・陶磁器

① 4 A 井戸 2

13～15は肥前系陶器皿である。13の体部は高台脇から緩やかなカーブをもって立ち上がり、口縁部は斜め上方に開く。口縁部は輪花状を呈する。体部外面下半には回転ヘラケズリを施し、体部外面上半～内面には回転ナデ調整を施す。体部内面及び外面下半まで灰白色の釉が施される。14は高台脇から腰部にかけて緩やかに立ち上がり、体部中央で屈曲し口縁部は外へ開く。高台及び体部外面下半の大部分が露胎となる。釉はオリーブ色を呈する。15の釉はオリーブ灰色を呈する。

16は肥前系陶器の向付である。底部際にくびれ部をもち、体部は輪花状に整形されている。底部外面は露胎である。透明釉が施され、部分的に白濁を呈する。口縁端部が黒色で彩られ、外面には草文を配する。

17は備前窯甕である。口縁部外面にはナデによる3段の凹線がみられる。

18は備前窯挿鉢である。口縁部の断面は丸みをもった方形を呈する。口縁部内面に段を有し、内面には二条の凹線が巡る。卸目は幅2 mmの7本単位である。

19は大和型の土師器釜である。球形の胴部と外折する口縁部から構成され、端部は短く上方へつまみ上げられる。内外面共にナデ調整を施し色調は淡黄橙色を呈する。外面下半には煤が付着する。

② 4 A 井戸 7

21～24は土師器の皿である。

21・22はロクロ成形の小皿であり、底部外面に糸切り痕を残す。強い回転ナデにより体部外面は中位

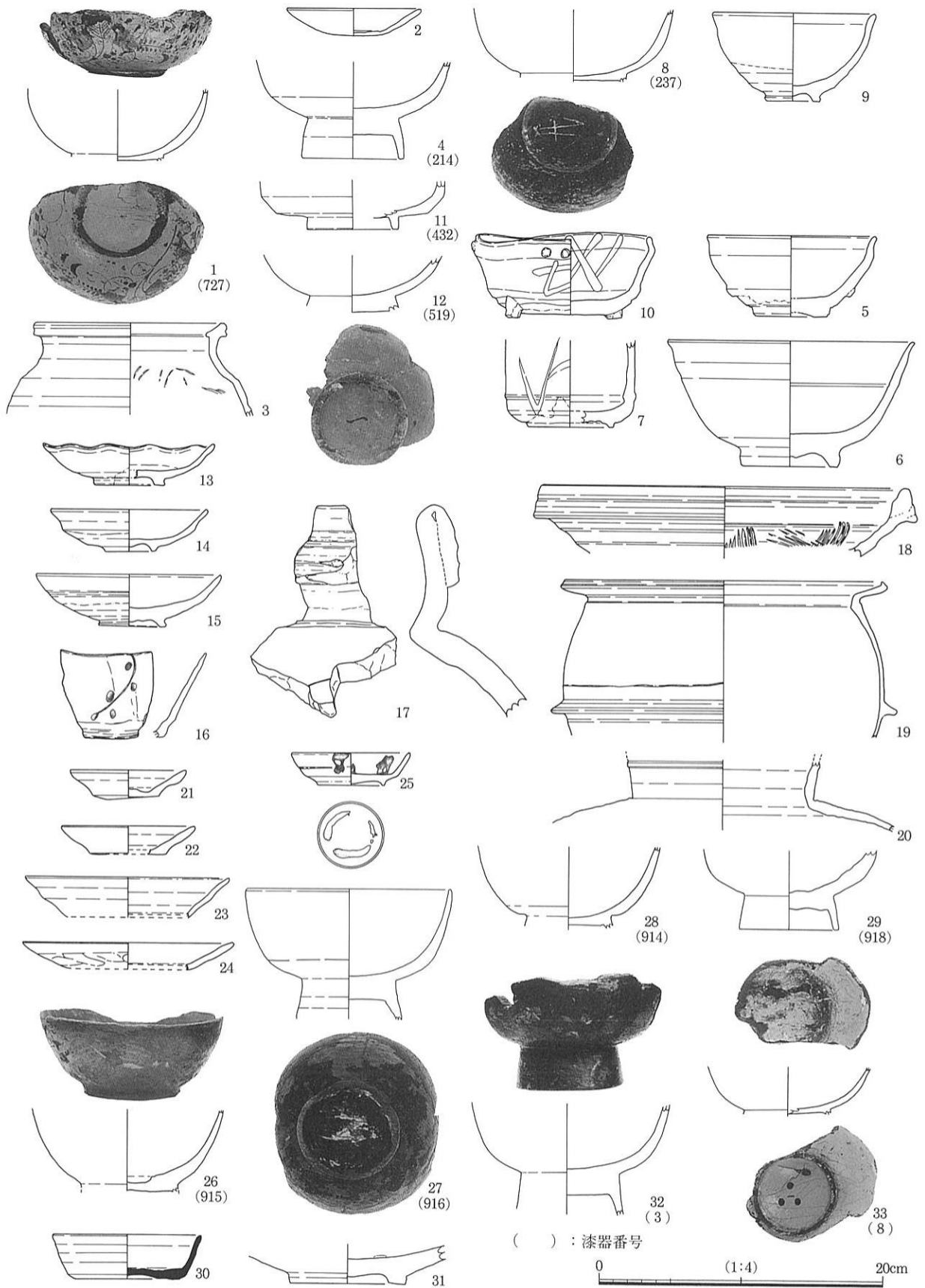


図192 漆器・陶磁器・土器 1

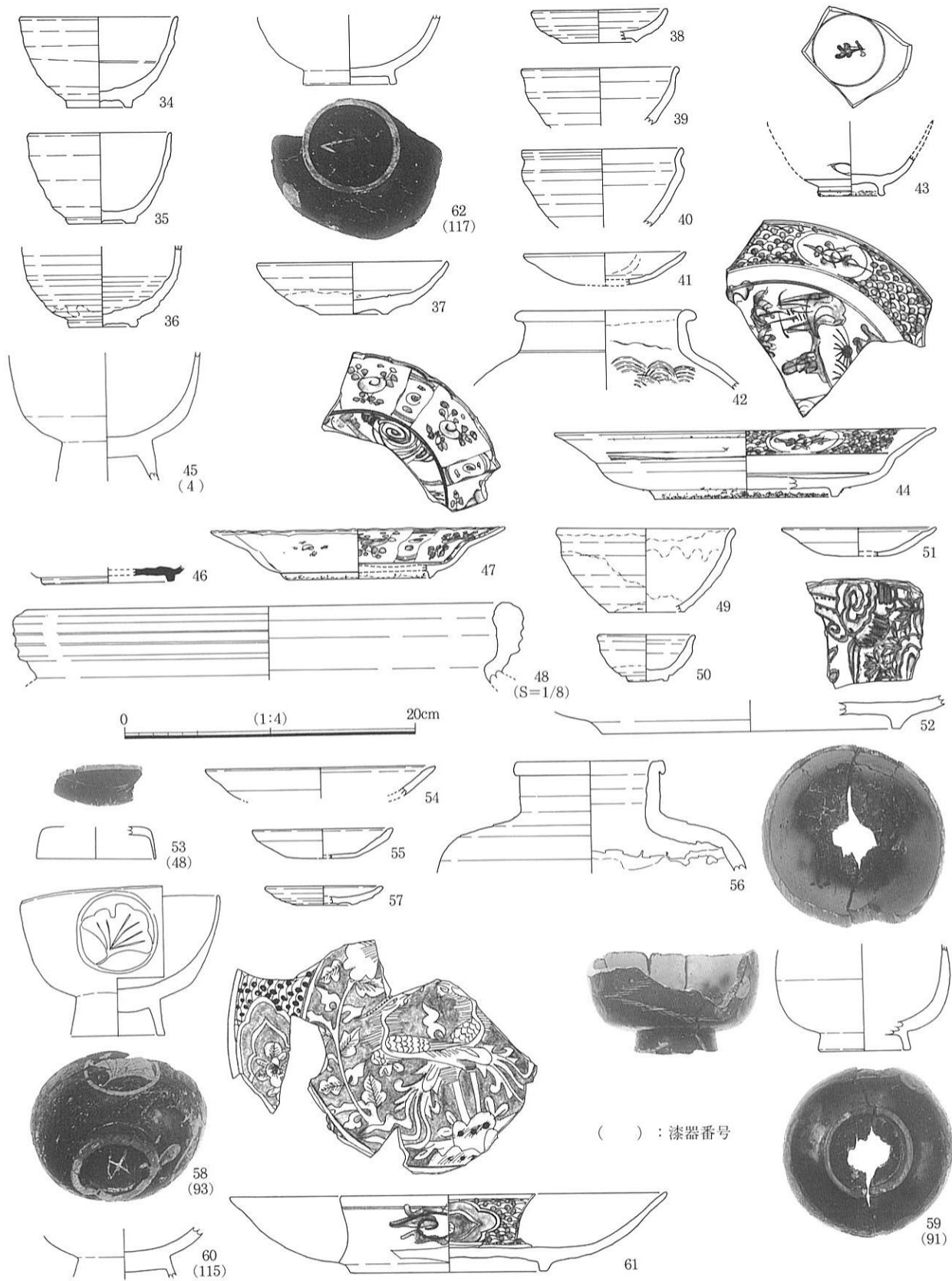


图193 漆器·陶磁器·土器 2

で屈曲し、端部は尖り気味に仕上げられる。21は口縁部に油煙が付着している。23・24は手捏ね成形の京都型皿である。体部は直線的に外上方へ開き口縁端部につまみ上げの痕跡をわずかに残す。内面と体部上半が横ナデ、下半は指押えが施されている。

25は鉄釉の瀬戸・美濃窯皿である。底裏には輪トチンの痕が残る。

③ 1 A 溝52

61は中国製染付磁器皿である。内底面に鳳凰文を配し、体部には花文を飾る。胎土は粗く部分的に褐色を呈する。釉は厚くコバルトの発色も暗い。

63～68・70～73は瀬戸・美濃窯製品である。63～65は灰釉丸皿である。全面施釉で64は淡い緑色を呈するガラス質の釉が内底面に厚く溜まる。また底部外面には輪トチンがみえる。66～68は小天目碗である。66は外面の体部下半が鉄化粧である。70～73は天目碗である。70と71の体部下半には鉄化粧が施され、とくに71のそれは厚い。71は大窯2期に遡る可能性がある。70は鉄釉、71は鉄と飴の交錯した状況、73は飴釉である。

69は土師器釜形土器である。胎土は精良で砂粒はほとんど見られない。淡い明褐色の焼き上がりで、外面の上半にうすく炭素の吸着が認められる。底部外面はヘラ削りであり、使用痕跡は不明である。

74～80は土師器皿である。口縁端部のつまみあげを顕著に残すものと、その省略が進み、体部外面へのナデもほとんど失われているものの2つの特徴をしめす。74は口縁部のナデ調整が失われ、端部のつまみ上げもみられないが、その他の特徴はいわゆるへそ皿と共通しており、その系列の末端に位置づけられる可能性がある。80は最も京都の特徴に忠実、75は次に京都の特徴をもつが在地、その他はいずれも在地系の京都型皿である。

④ 3 B 池 1

106・108・116・119は挿鉢である。108は瓦質焼成によるもので内面に横方向の磨きが施されている。平らな底部から直線的な体部が立ち上がり、口縁部はやや内側に寄る形で丸みをもって仕上げられている。106は備前窯、116は瀬戸・美濃窯、119は丹波窯である。口縁部内面に浅い段が、端面には浅い凹線がみられる。

99・104は瀬戸・美濃窯製品である。104の天目碗は褐色の強い飴釉が施され、露胎部には鉄化粧がない。99は灰釉皿である。口縁部を外反させ底部際と高台を露胎としている。釉は暗黄緑色を呈する。

101・105は肥前系陶器である。105は片口の鉢であり暗灰褐色を呈する器壁に丸紋が描かれている。

114は備前窯甕、110は肥前系陶器壺である外面全体と胴部内面に灰緑色の釉が施されている。

111～113・115は土師器皿である。

111は底部が突出したいわゆるへそ皿形態を呈する。112は直径の小さな底部から体部が屈曲気味にのびるもので、内面のナデ調整により底部際に凹線状の痕跡が残る。共に外面のナデは口縁端部のみである。

113・115は広い底部と短い体部から構成される。115の体部は断面が紡錘形を呈し、口縁部内面が外折する形で仕上げられている。また口縁端部にはつまみあげの痕跡がみられる。なお共に口縁部外面のナデは体部中位まで施されている。

100は瀬戸・美濃窯志野の向付、102は瀬戸・美濃窯黄瀬戸の向付である。

109は大和型土師器土釜、107は土師器焙烙である。

なおこの遺構からは、他に金属製品としては鉄鍋の体部と底部（金属186・187）が、木製品として、

漆器碗各種、漆塗箸、漆塗曲物、漆塗蓋、人面、刷毛、下駄各種（歯を釘で補修したもの、組下駄、先端に歯を釘で付けたもの、足形の残る漆下駄、1分割3.08cmで10目盛り記された尺（木製品123）、造作などの記号を残した材（木製品109）、および墨書を記した資料も多数出土している。

⑤ 1 A 土坑296

165は瀬戸・美濃窯灰釉皿である。胎土は緻密で釉調は暗い緑色を呈する。碁笥底であり、底部外面以外は釉が施されている。166は瀬戸・美濃窯灰釉皿である。口縁部内面の2箇所青緑の釉が溜まる。そのほかの釉は黄瀬戸釉に似る。体部下半はヘラケズリによって稜を削りだしている。

169は中国製染付磁器碗である。底部内面に「尚」、体部外面に「信」「忠」「弟」ともう1字を描く。釉は厚く。コバルトの発色はにぶい。

172は瀬戸・美濃窯飴釉の天目碗である。体部下半は鉄化粧をほどこす。

180は肥前系陶器杯である。高台とその周辺以外を淡灰色の釉で覆う。高台は三日月高台で薄く低い。

⑥ 2 C 土坑53

下層の炭層を中心として土器・陶磁器類・木製品・瓦などが30コンテナ程度出土した。

186・190は陶器皿であり、186は肥前系、190は瀬戸・美濃窯の製品である。共に胎土は緻密であり、186は褐色、190は灰色の胎土に黄褐色の釉が施される。186は緑色の灰釉である。

187は肥前系陶器杯である。胎土は褐色を呈し、緑色の灰釉が施される。

188は瀬戸・美濃窯小碗である。胎土はやや粗く灰色を呈し、灰白色の釉が施される。志野。

191・194は肥前系陶器碗である。191は紫黒色の釉が施され、194には厚い緑色の灰釉が施される。

192は肥前系陶器香炉である。高台は半月形に削られる。胎土は緻密で淡灰色を呈し、釉は底部を除く外面に施される。色調は濃い緑色である。

193は丹波窯の盤である。高台が付き歪みにより、復原では底部がやや突出する。胎土は細密で色調は暗褐色を呈し、暗赤灰色の降灰釉が残る。

195は備前窯挿鉢である。挿鉢目は6～8本を単位として縦方向と斜め方向に施され、内面の一部に黒色の残滓？が付着している。

196は瀬戸・美濃窯黄瀬戸向付である。淡褐色の緻密な胎土で、薄い黄色釉が施される。

197・198・199は土師器皿である。199は口縁端部に煤が付着する。口縁部外面のナデは、197が端部のみであるほかは約1cmの幅をもつ。

201は肥前系陶器鉢である。胎土は灰褐色で釉は灰緑色の灰釉である。内底面の一部に釉が届いていない。

202は肥前系陶器壺である。釉は外面と内面の肩部裏側までおよぶ。色調は紫灰色に発色し、内面には同心円文の当て具痕が残る。胎土は緻密である。

203は信楽窯の水指であり、長石の噴出が著しい。

204・205は土師器壺である。共に外面に平行条線の叩きが施されている。204は肩部であり、叩きは右下がりに施され、頸部はナデ消している。

206は土師器大和型釜である。強く外折した後内折して端部をつくりだす口縁部を特徴とする。胎土は精良で色調は明褐色である。

⑦ 4 A 土坑168

219・221・223・224は肥前系陶器である。

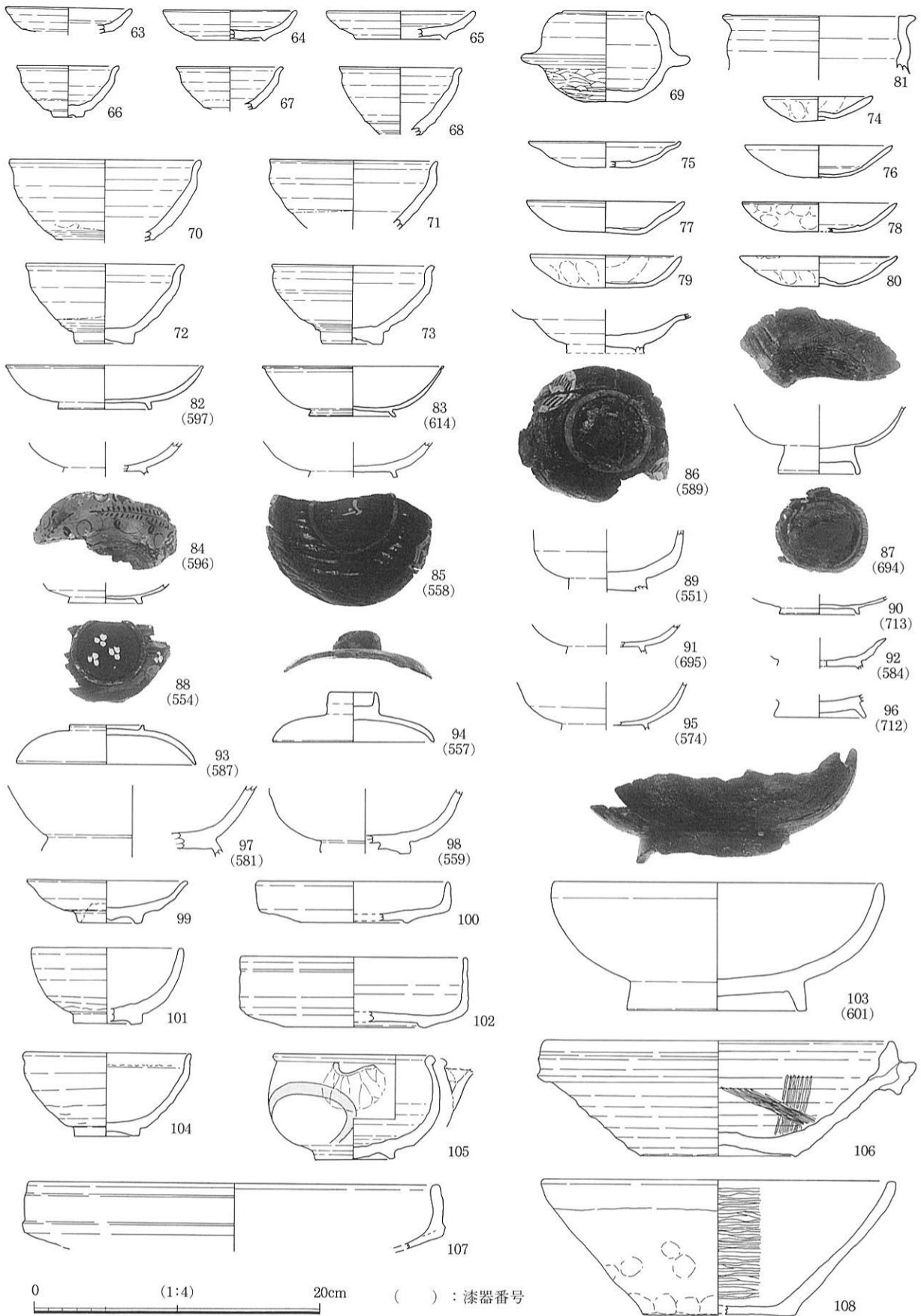


図194 漆器・陶磁器・土器 3

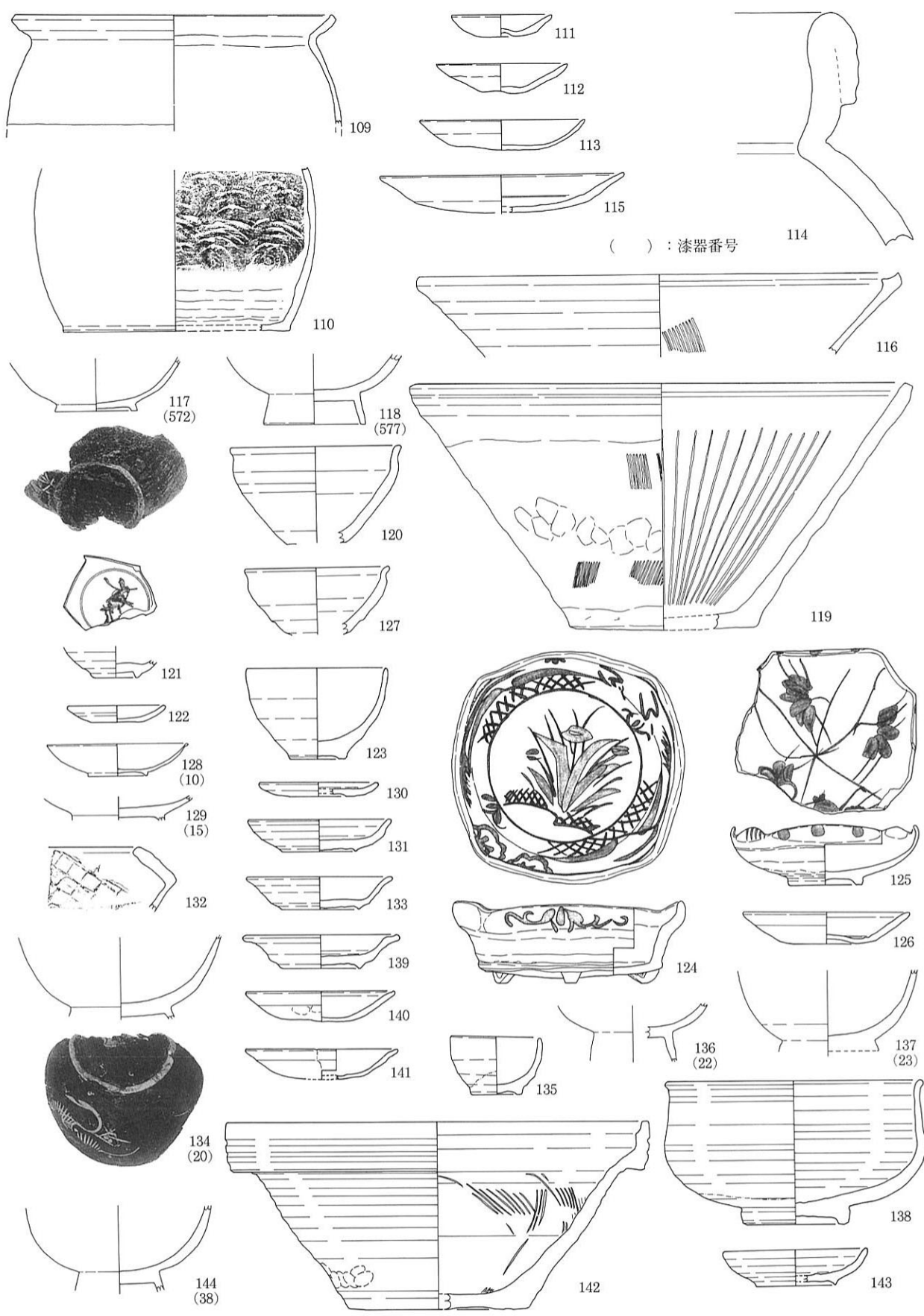


图195 漆器·陶磁器·土器4

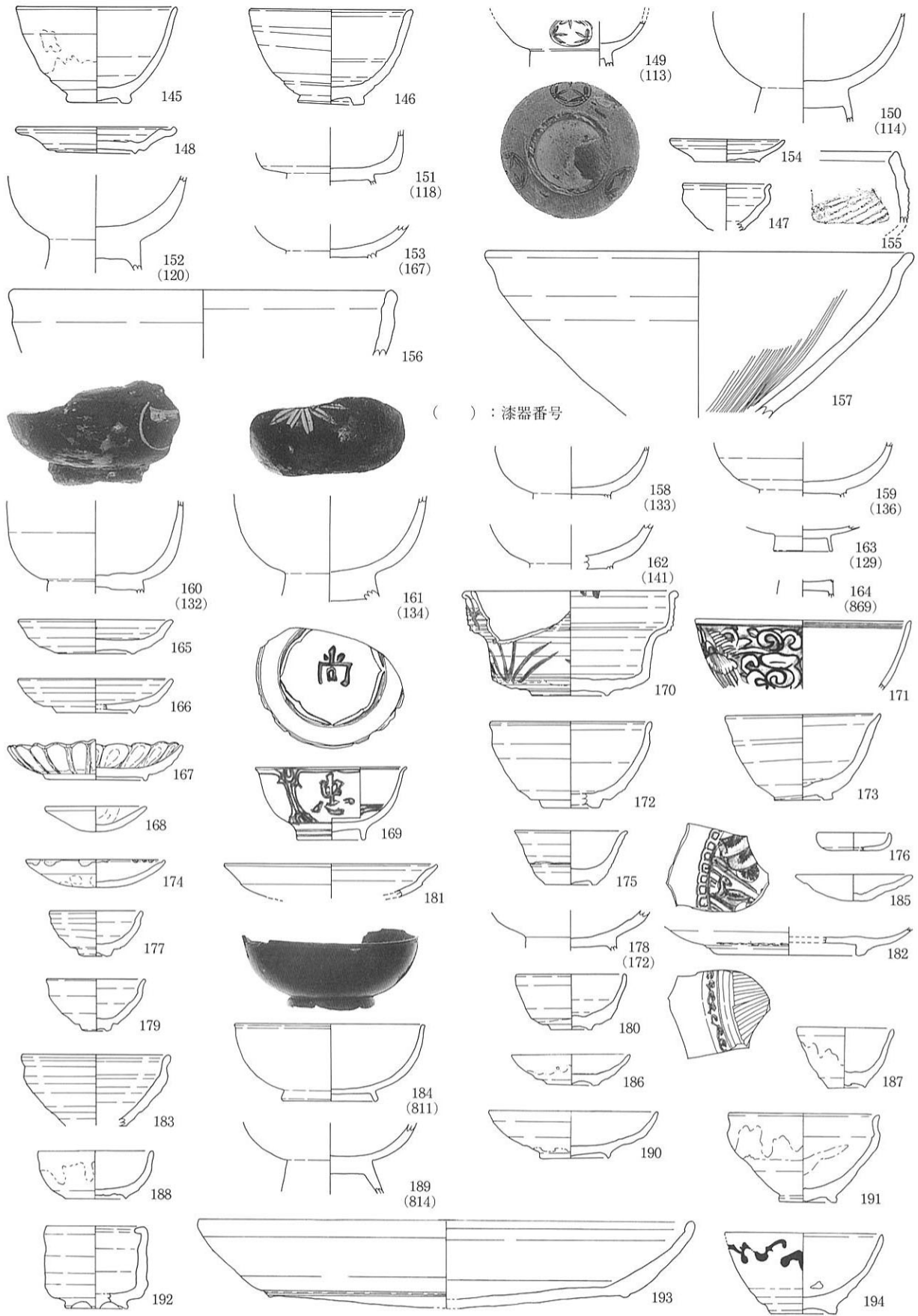


図196 漆器・陶磁器・土器 5

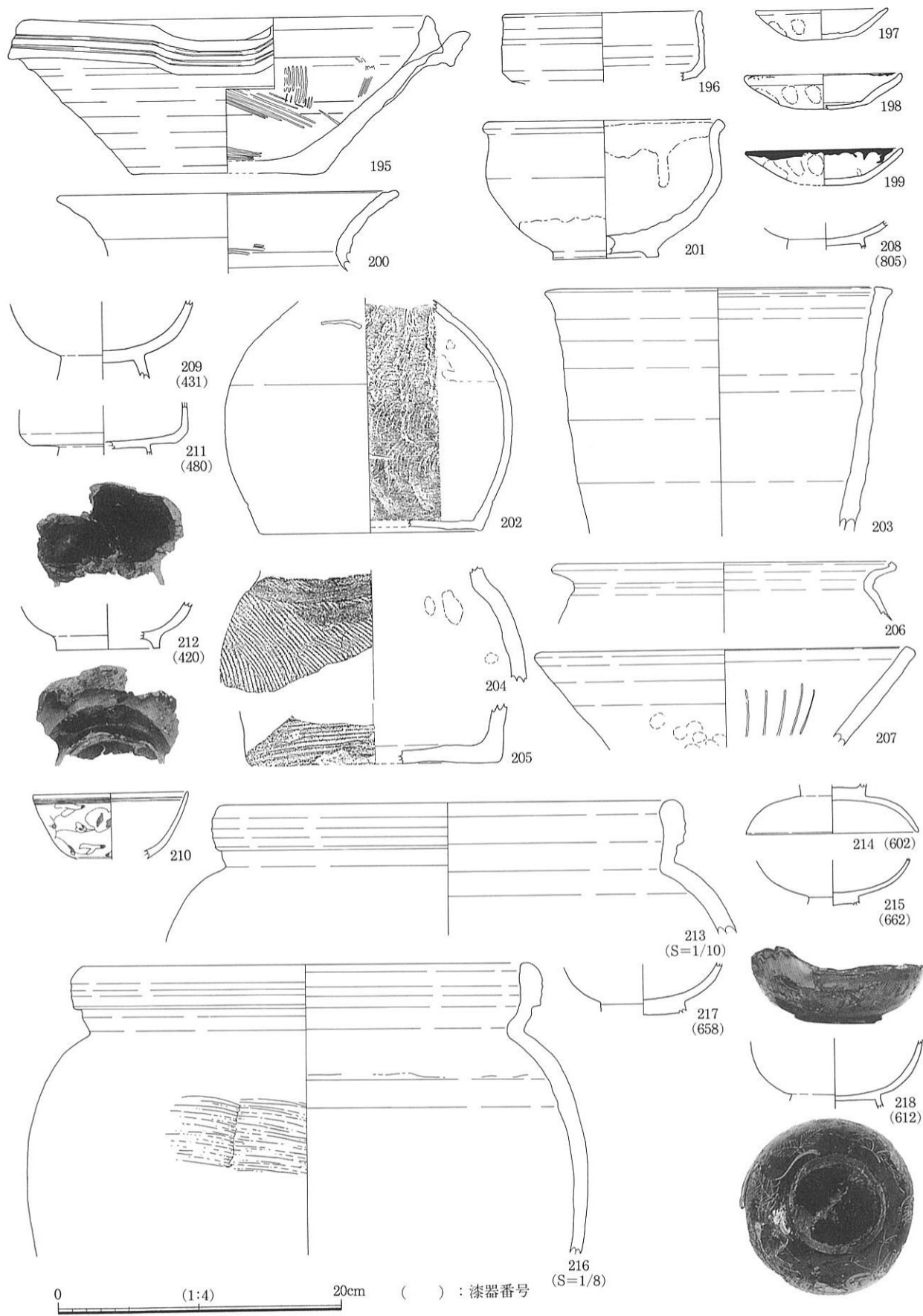


图197 漆器·陶磁器·土器 6

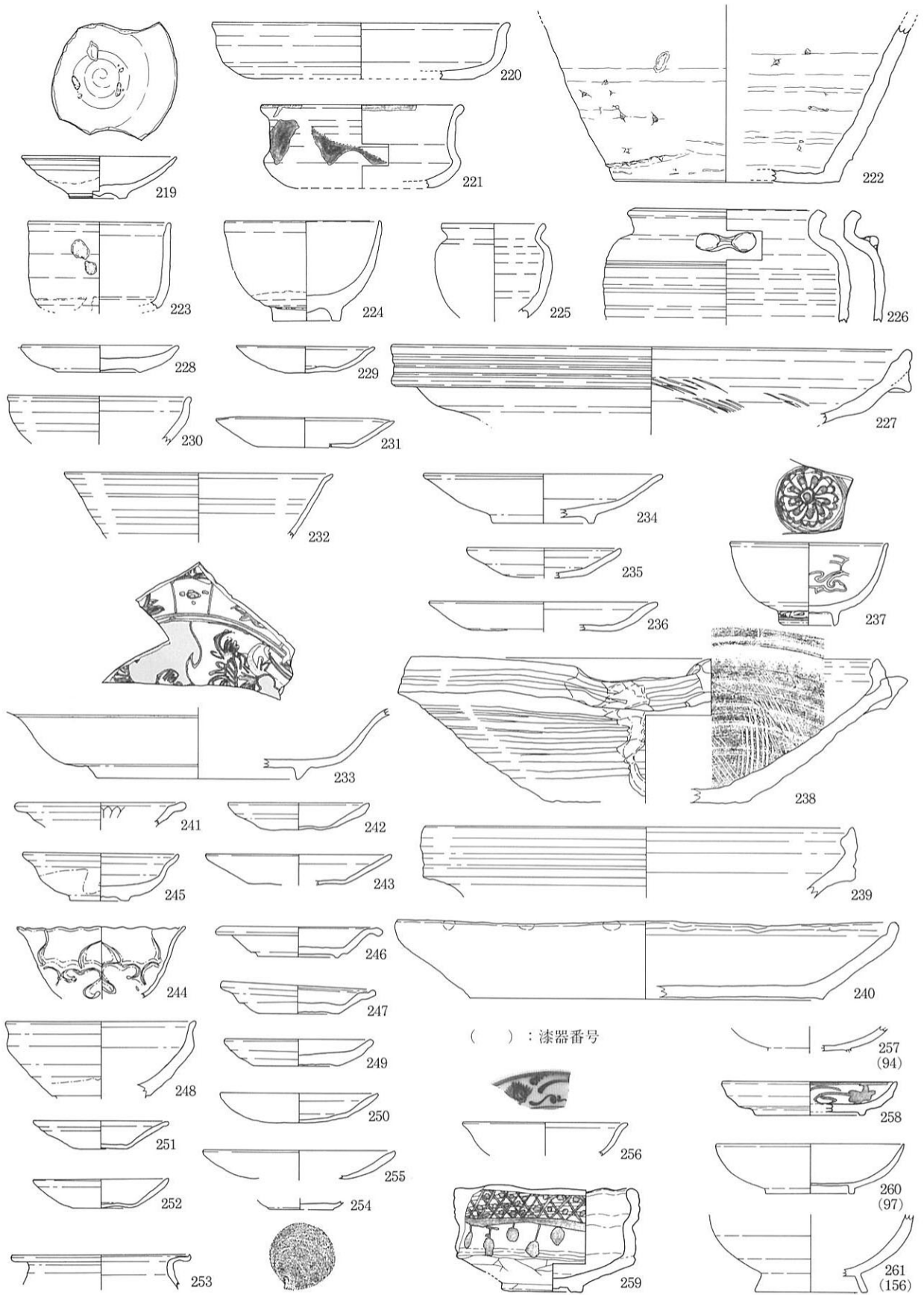


図198 漆器・陶磁器・土器 7

219は胎土目の皿であり一部に貫入のみられる灰色の釉が施されている。221は灰黄緑色の釉に鉄で文様を描いた向付である。223は鉄釉の筒型向付である。224は三日月高台で暗灰緑色釉が施されている。

225～227は備前窯製品である。225は小壺であり、内面に赤色顔料が付着している。226はいわゆる種壺形を呈し形骸化した耳が3カ所に付く。被熱の痕跡がみられる。227は挿鉢である。内面の段が鈍いのと対象的に外面の下端の突出が目立っている。

220は陶器皿形である。被熱が著しいため、全面施釉の痕跡は認められるものの、釉調は不明で、胎

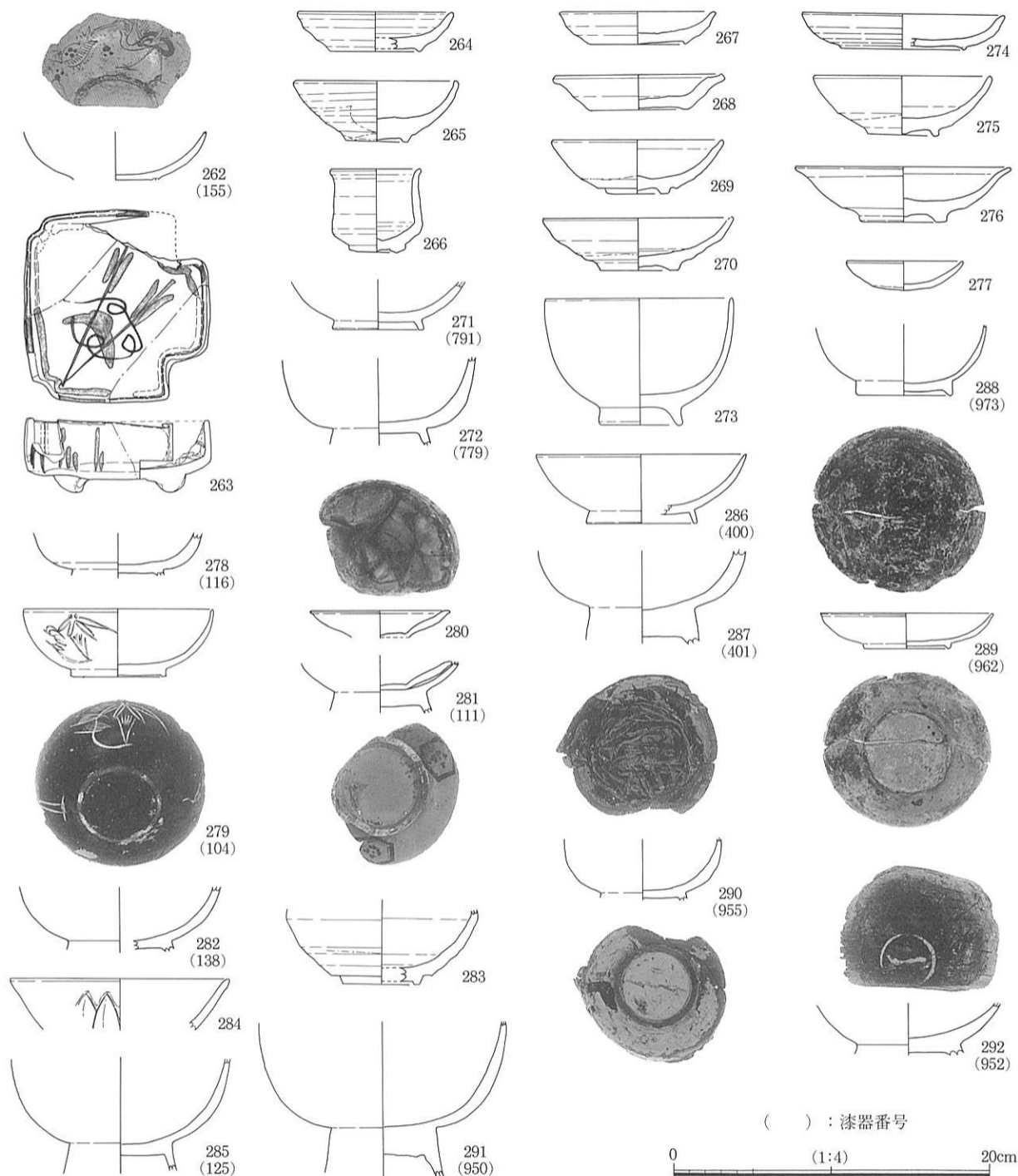


図199 漆器・陶磁器・土器 8

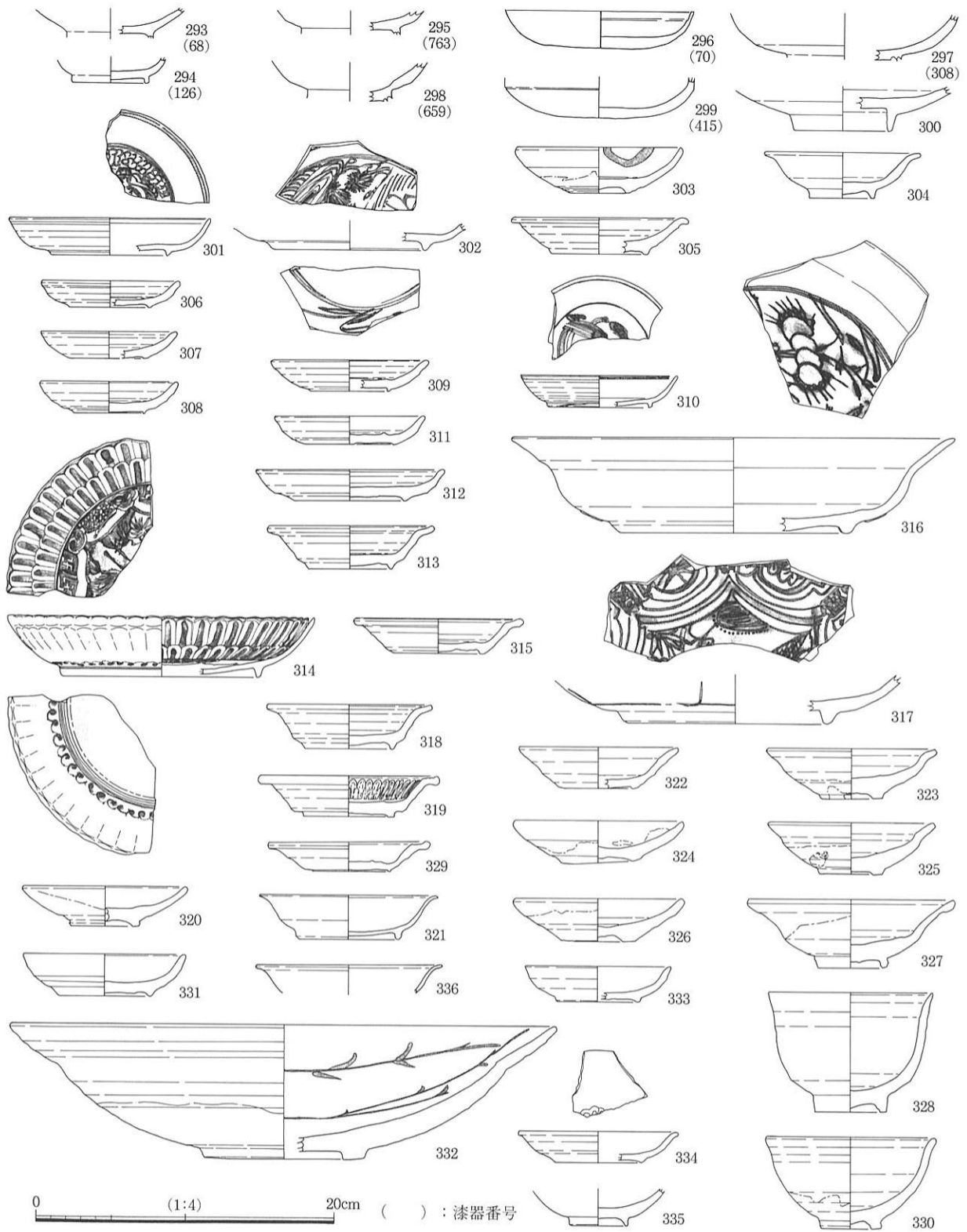


図200 漆器・陶磁器・土器（包含層）9

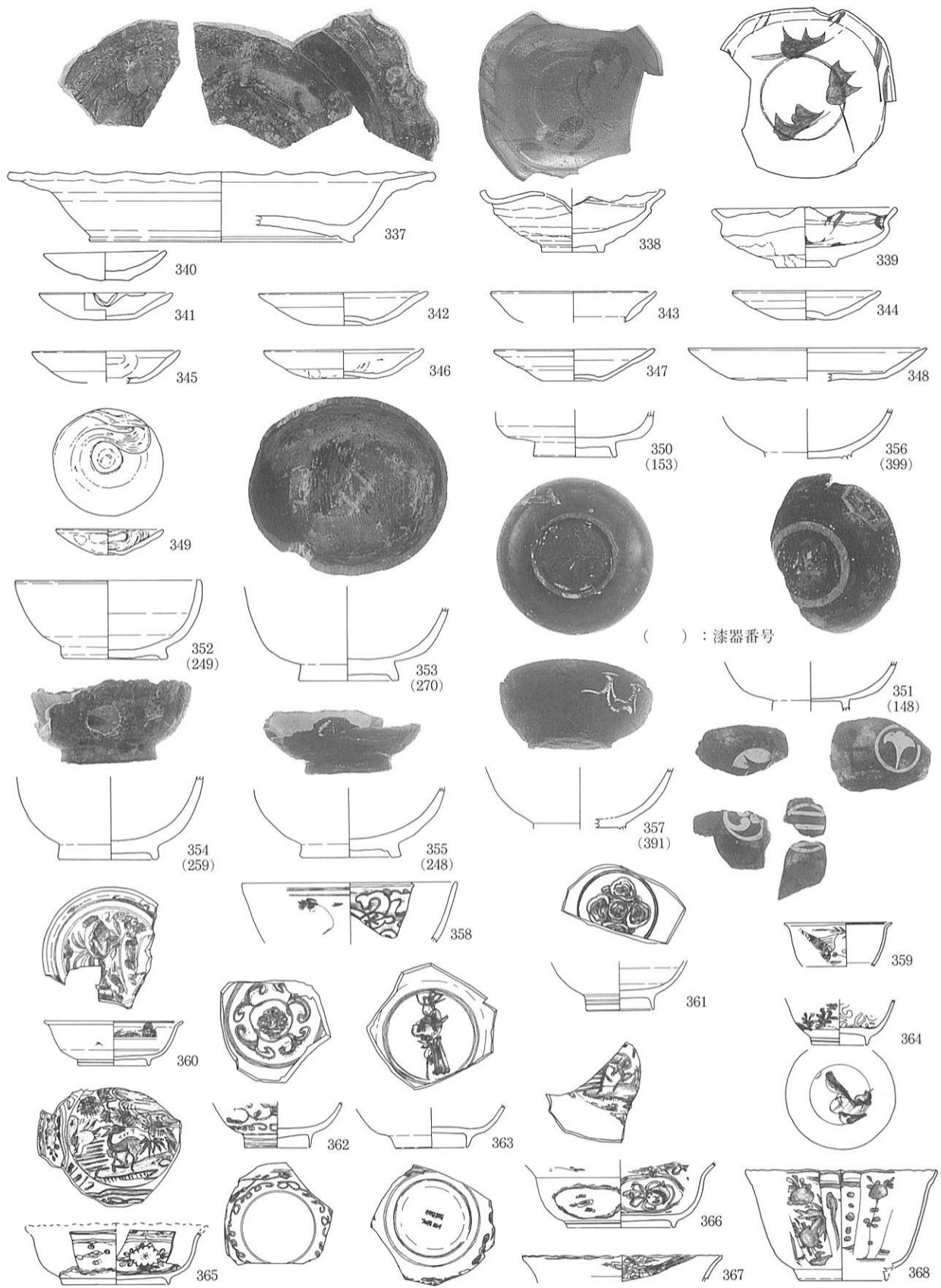


图201 漆器·陶磁器·土器（包含層）10

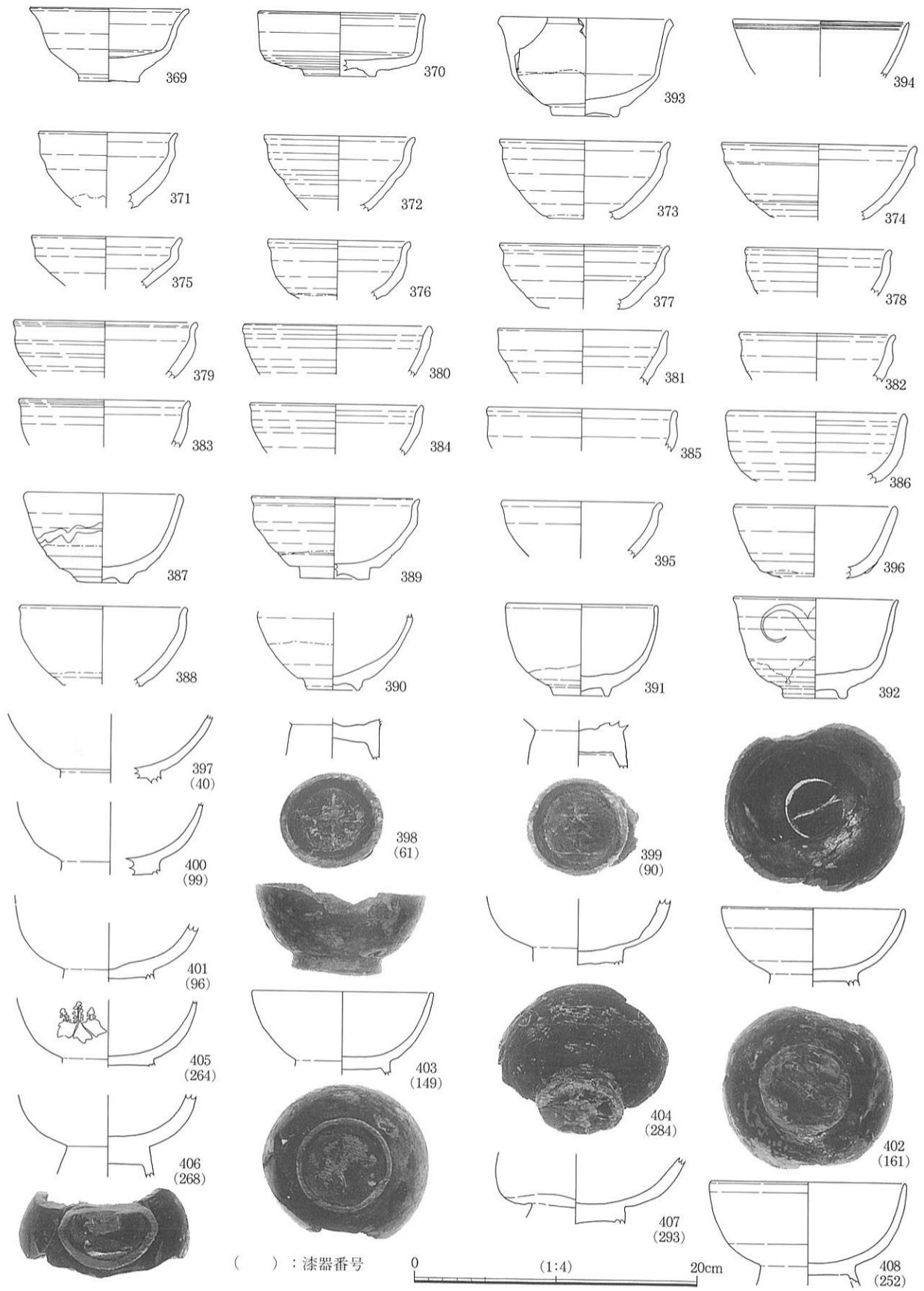


図202 漆器・陶磁器・土器（包含層）11

土も酸化により土師質化している。

⑧ 5 A 土坑302

228・230は瀬戸・美濃窯灰釉丸皿と天目碗である。229・231は土師器皿で、229の口縁部にはつまみあげが施され、231の外面のナデは体部上半におよぶ。

232は白磁碗で体部外面の凹凸が著しい。233は中国製染付皿で高台内面に粗い砂を多く付着させている。

⑨ 5 A 土坑324

234は白磁皿で内面と高台に重ね焼きの痕跡が残る。

235・236は土師器皿である。235の口縁端部は内傾しており、外面には端部のみナデ調整が施される。236は端部のつまみあげは無いがナデは外面の体部上半にみえる。

237は中国製染付磁器碗で内面は型押しである。238は備前窯の製品である。

⑩ 5 A 土坑404

241・246は瀬戸・美濃窯灰釉皿、242・243は土師器皿で243には灯芯の痕跡が残る。共に外面のナデ

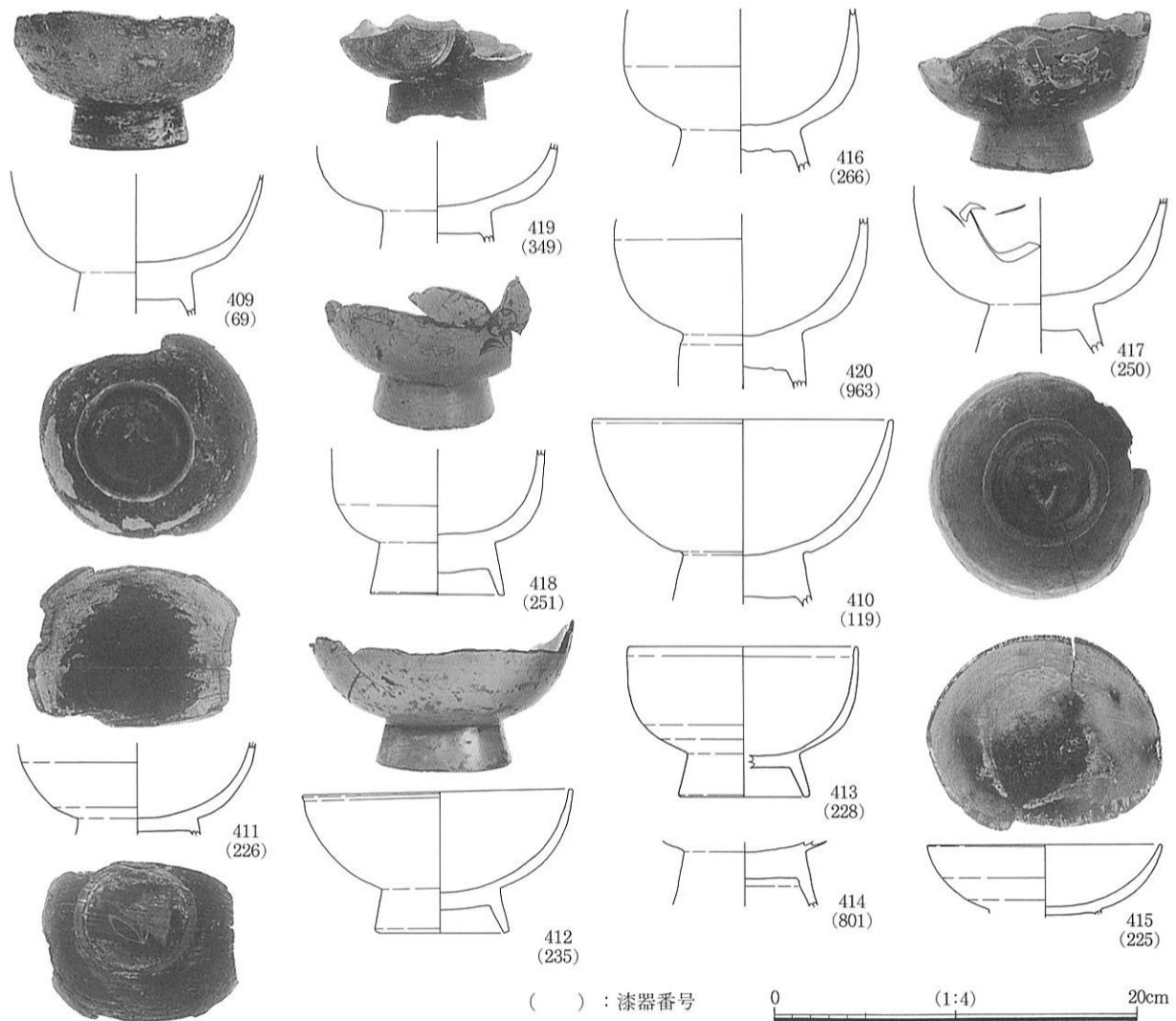


図203 漆器・陶磁器・土器（包含層）12

は口縁部際にみられる。244は白磁碗である。

① 5 A 土坑408

245は肥前系陶器皿であり、暗緑色の灰釉が施される。

② 5 A 土坑413

247～249は瀬戸・美濃窯灰釉皿と天目碗であり、249は全面施釉、247は底部内面中央部のみ無釉となっている。

250～252・254は土師器皿であり、254はロクロ成形である。いずれも口縁端部のつまみ上げは無く、外面のナデも端部のみとなっている。253は大和形土師器釜である。255は土師器灯明皿であり、摩滅が著しいが端部につまみあげの痕跡が残る。

③ 1 A 屋敷 3

263は瀬戸・美濃窯織部向付である。凸形の平面形の2隅に緑釉をほどこし、その中間部分に鉄絵で草花文?を描いている。内面3カ所にトチンを残す。

264は瀬戸・美濃窯灰釉丸皿である。底部内面に輪トチンを残し、ガラス質の透明釉が全面に施されている。

266は肥前系陶器杯である。口縁部に向かって僅かに径を縮小させる筒形を呈し、口縁部は外折して丸みをもって仕上げられている。胎土は橙色で釉は薄い灰白色である。完形。

④ 2 D 堀 1

276・274・277は堀 1 埋土の 6 b 層出土である。276は唐津系陶器皿である。白濁色の釉が施され、砂

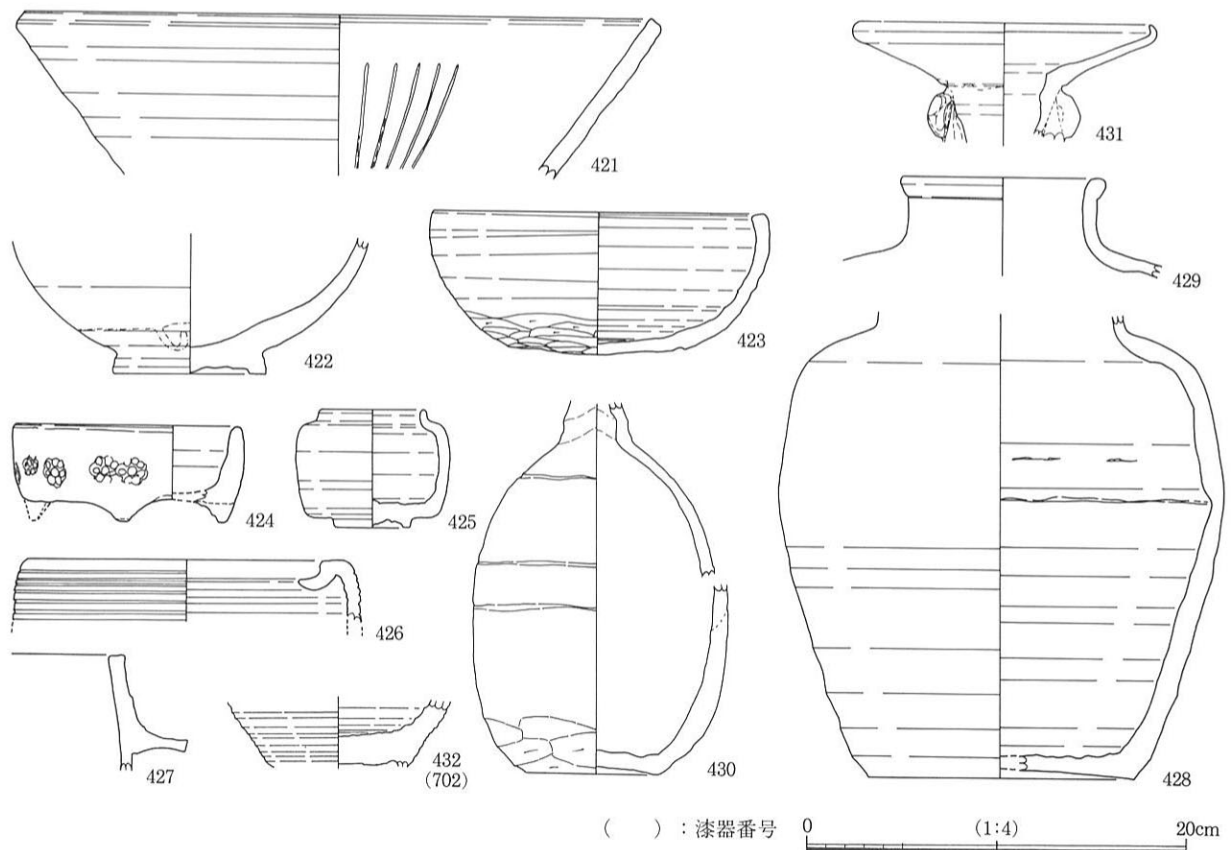


図204 漆器・陶磁器・土器（包含層）13

目積みの目跡が内面に3箇所残る。274は瀬戸・美濃窯志野丸皿である。長石釉が厚く施され、全面施釉である。275は肥前系陶器皿で釉は深灰緑を呈し、底部内面の周縁に段をもつ。

277は土師器皿であり、外面のなで調整は口縁端部のみに施されている。

⑮包含層ほか

中国製染付磁器は福建・広東系または漳州窯系と呼ばれる一群と景德鎮窯系の製品に分ければ、前者は316・468・471・501・511であり、碗には、唐草文および動物、植物文がみえる。

皿には芙蓉手、鳳凰文などがみられ、634~640はいわゆる呉須赤絵であり、被熱が著しい。

一方景德鎮窯系の製品では(314・360~363・365・366・368・608~629)、314は型押し輪花皿、361は銭文、363は唐人物、608は海馬文、610は竹に虎、611はねじ花、616は外面に折れ枝で内面に山水の雲を配した皿、617と618は、碁笥底で外面に瑠璃釉を施した製品、619は宝文様、620は「玉堂佳器」銘がみられる。

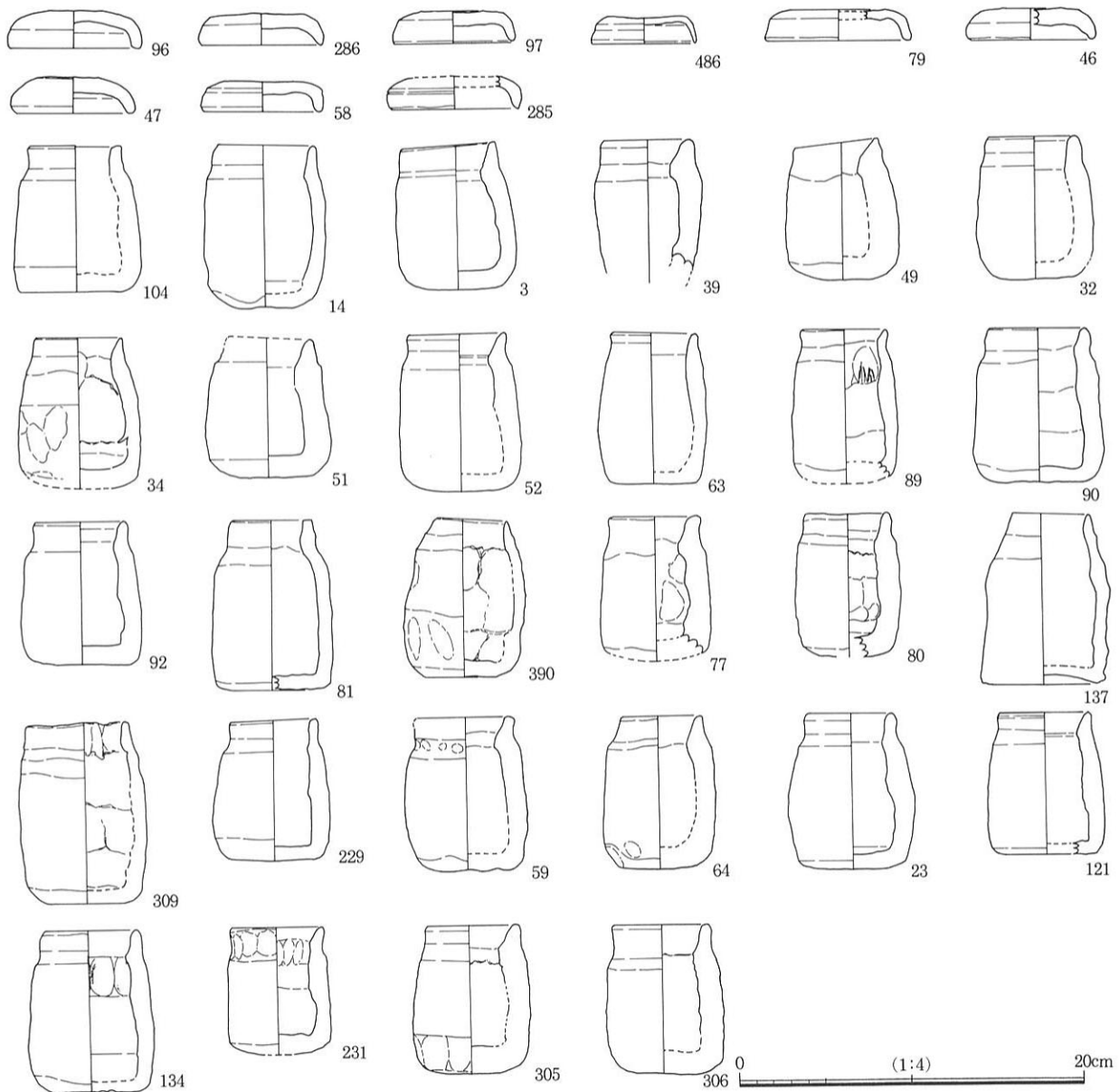


図205 焼塩壺

336は中国製の白磁端反皿である。

337は華南三彩の盤である。底部外面を含めた全面に黄緑～明緑色の釉が薄く施されている。胎土はやや砂質系であるが精良で、断面が黄灰色を呈するものの還元焰により焼成されており、緑釉の剝離面からみえる器壁は灰色を呈する。内面に線描きとスタンプで草花文が描かれている。高台は削り出しによる。

341は土師器皿で口縁部に煤が付着している。また一部を注口状に成形し、とくに煤の付着が著しい。

347・348は土師器皿で共に灯芯の跡が残る。348の口縁部内面には平坦面が形成される。349はへそ皿の最末期であろう。

369は白磁坏である。胎土は灰色で、釉も灰色を呈し、平高台の部分を除く全面に粗く施される。

428は信楽窯または肥前系陶器壺である。外面は灰色の釉が厚く覆い、内面には長石の噴出が散見できる。釉調は肥前系陶器の灰釉に似るが、内面の叩きは見られず、一方信楽窯製品で器壁を透さないほどの釉色も寡聞にして知らない。

453・500は青磁碗である。いずれも底部内面に印花を施す。

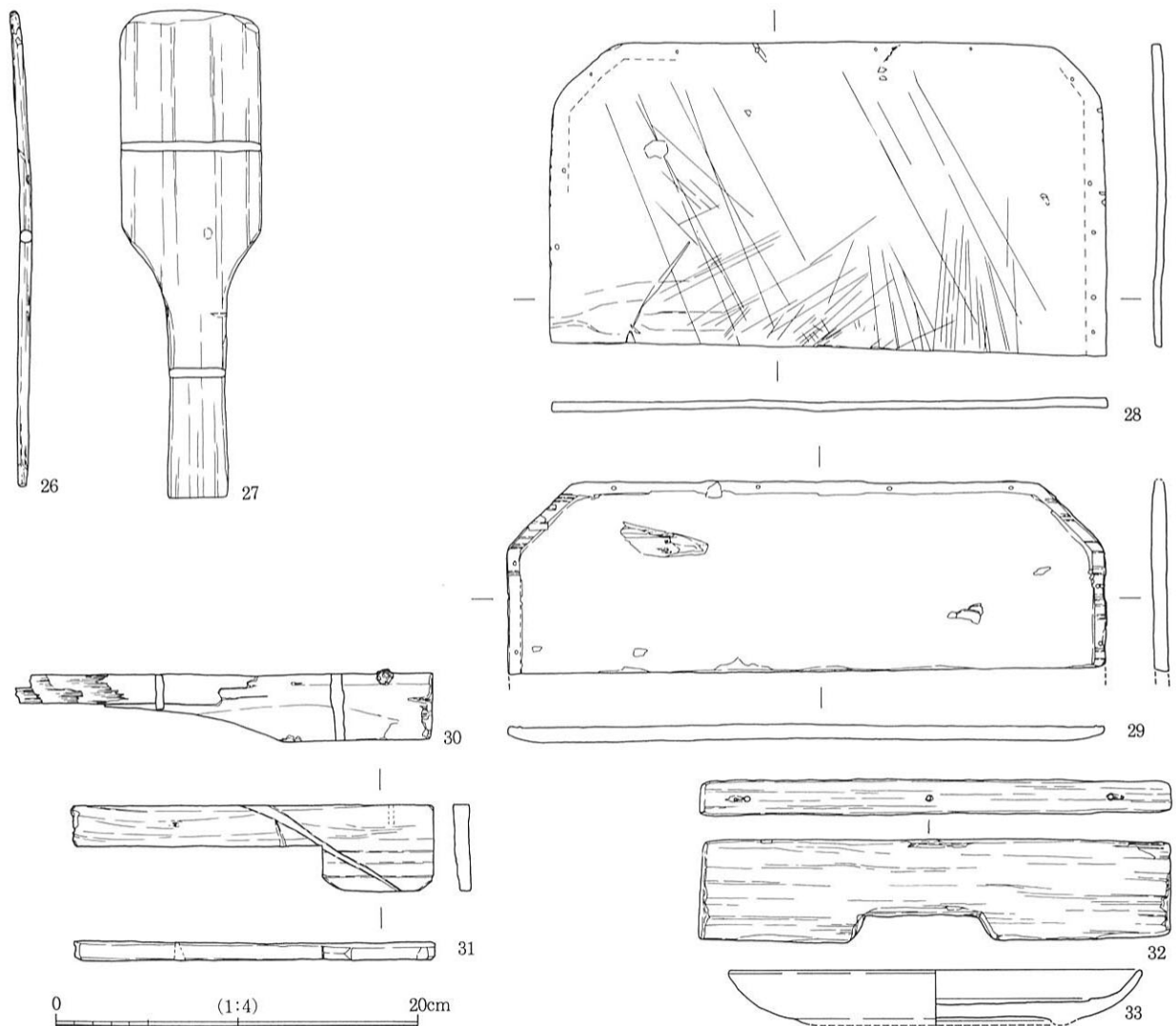


図206 木製品 1

495・496は瀬戸・美濃窯織部鉄釉水滴である。兎と思われる動物を模しており、頭部と尾部に織部を、胴部に飴釉を施している。

521は壺である。緑灰色の厚い釉の下に唐草紋様が彫り込まれている。

516は香炉である。比較的粗い胎土で灰色の釉が不均一に内外面全体を覆う。また畳付き部には砂が付着している。

なお、622・265はいわゆる饅頭心の系列にある碗で、623・624は基筒底の皿、626は十字花文系の皿である。

586・587は肥前系陶器挿鉢である。口縁部外面に鉄釉が施される。挿り目の単位は8条みえる。

590は肥前系陶器壺と考える。外面に薄い灰色釉がのこり、内面に当て具痕はみられない。色調は褐色である。

591は肥前系または朝鮮系陶器壺である。外面には濃い緑色の釉が施され、内面には当て具痕が残る。

642は白磁の水滴である。頭部を欠損するため断定はできないが、牛などの動物を模したものである。

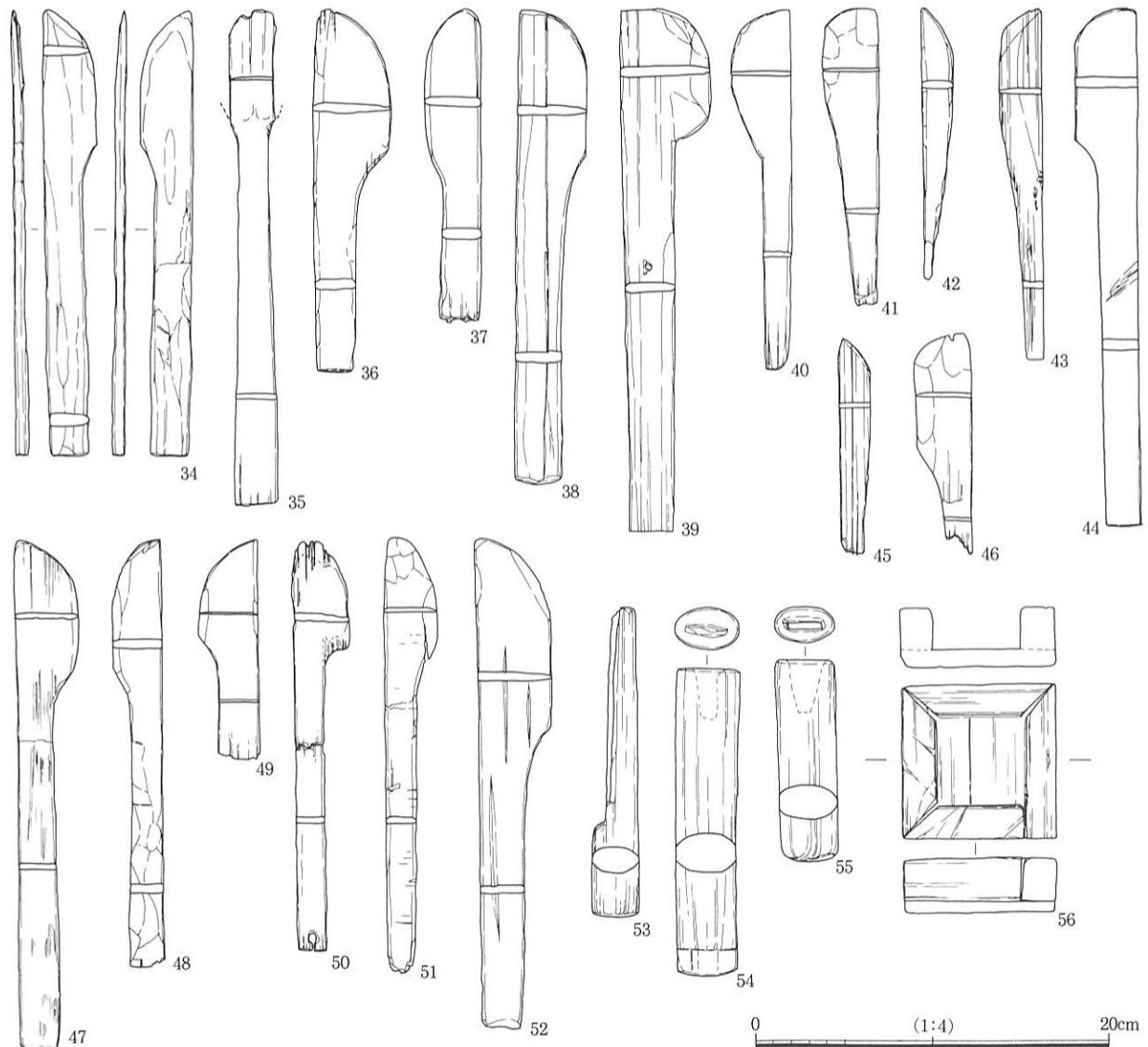


図207 木製品 2

また627～629は中国製染付磁器で瓶子形の製品である。

667は備前窯盤である。碁笥底で体部外面はヘラ削りによって成形している。内面はナデにより、口縁部以外の体部内面には漆が付着している。

668は黒色土器A類坏である。いわゆる河内の胎土をもち、内面に細かな磨きが施される。低い高台をもち、10世紀中頃に比定される。

670は瀬戸・美濃窯鉄釉茶入れと考える。糸切りの残る底部から紡錘形の体部が立ち上がる。体部下半から底部外面には鉄化粧が施される。内面も全面施釉である。また体部外面には輪花状に6条の分割沈線が描かれる。

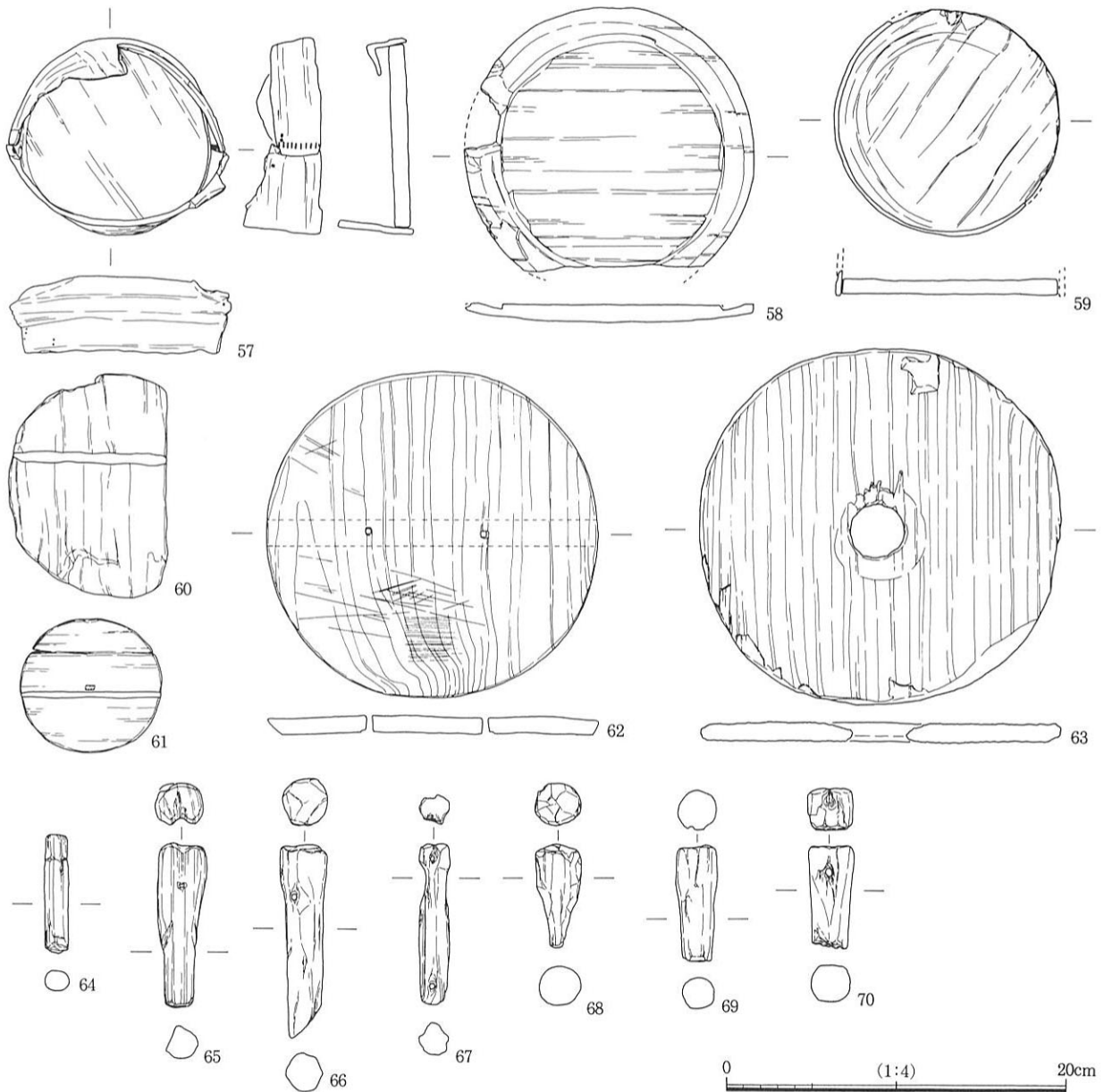


図208 木製品 3

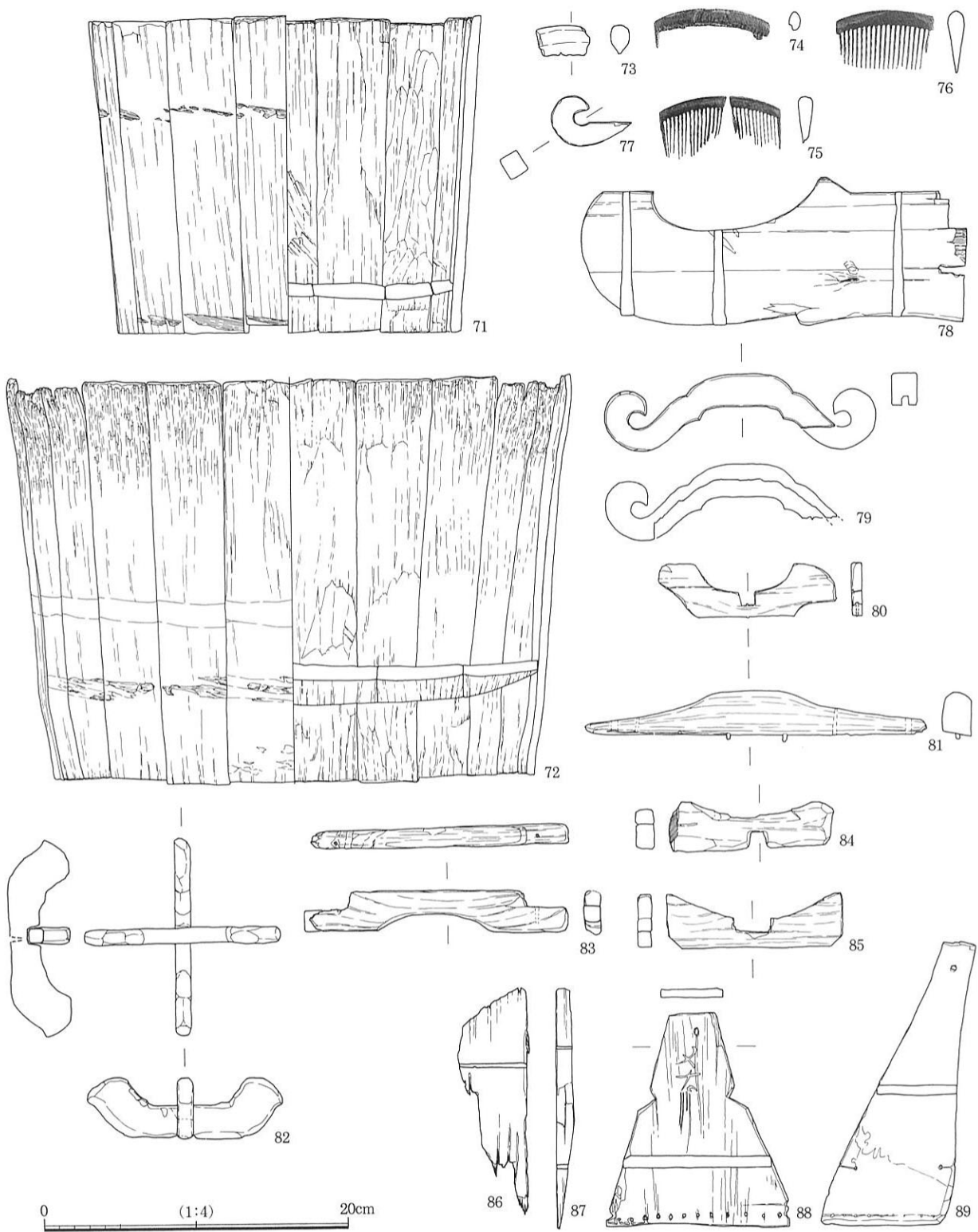


图209 木製品 4

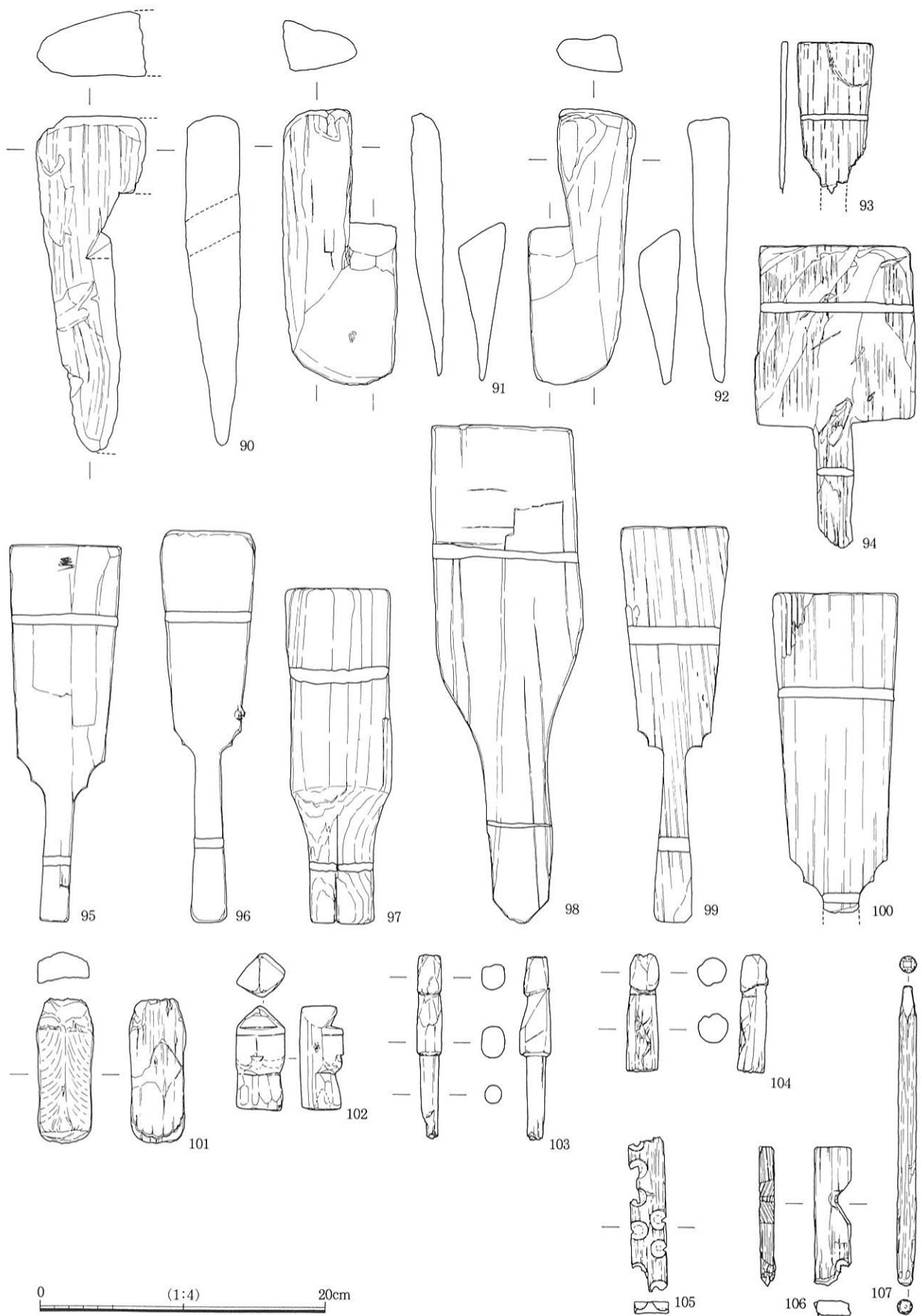


図210 木製品 5

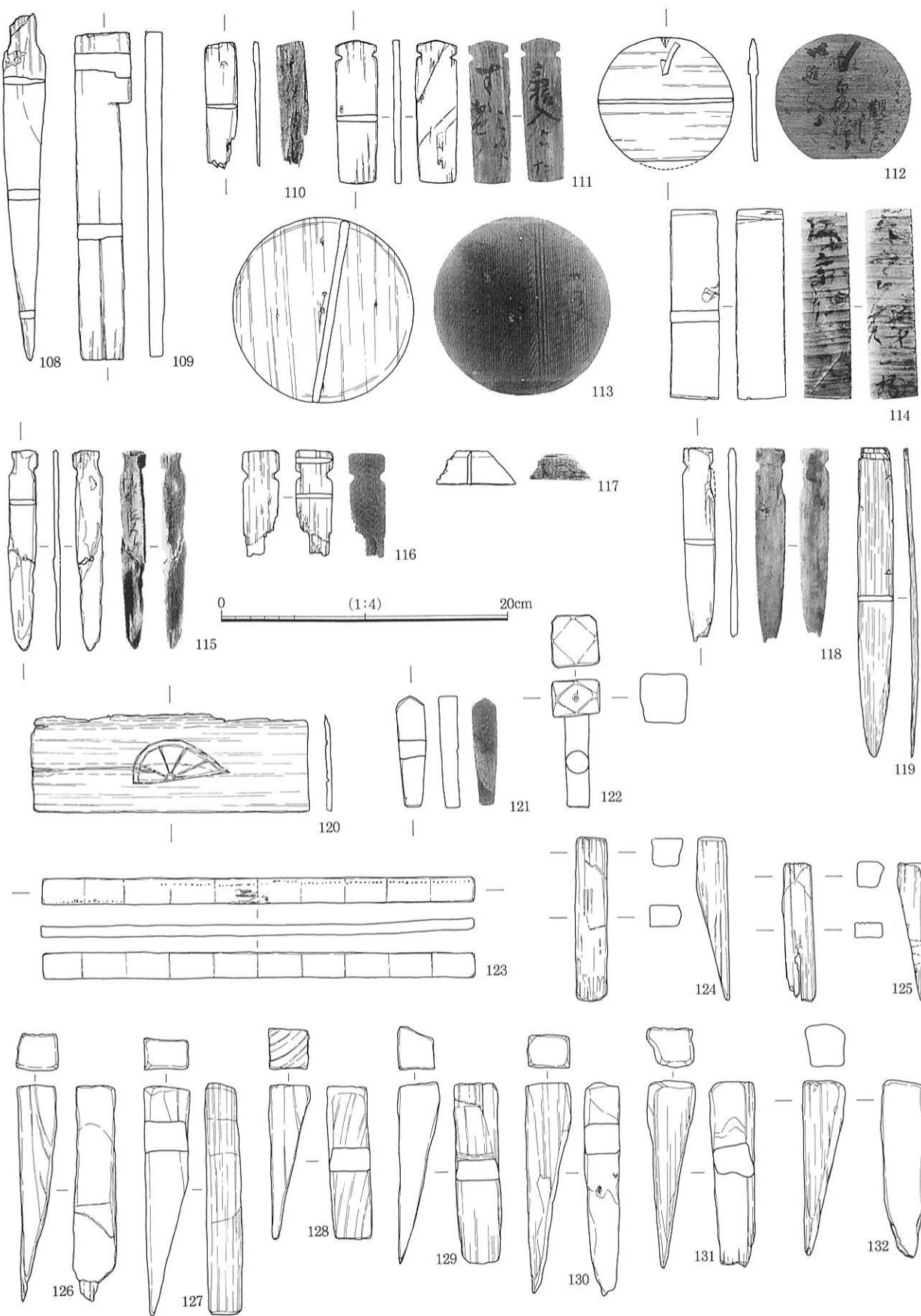


图211 木製品6

b、木製品

種類は羽子板、発火具、曲物（蓋）、柿経、櫛、鋏、刷毛、杓子、人形、栓、膳、灯火具、縄、篋、楔、箒などおよび、荷札をはじめとする各種墨書資料である。

26は箸、27・35杓子である。26は漆製品であり、色調は黒色を呈する。また両端ともに漆は剝離している。27は身の先端に両面からの削りと使用によると思われるつぶれがみられる。杓子の可能性が高い。35は身の両側が欠損している。

28・29は縁の付く膳であり、29は外面に黒色漆が、内面に褐色の漆が残る。また28は表面に多数の沈線がみられる。縁は共に木または竹釘により接合されている。

30～32は膳の脚である。30・31は端部を欠損する。30は上面に釘による錆が残り、31・32にはその孔が観察できる。

33は漆器の大皿である。黒色漆を施し、内面に赤色漆で文様を描いている。また内面の一部と高台内に焼けた痕跡がみられる。

34・36～52は篋である。基本的には両面から削りだし、さらに先端を尖らせて、その部分での作業を意図したものと、側面のみ削りだして、先端を利用した用途の考えられないものの2種類がみられる。

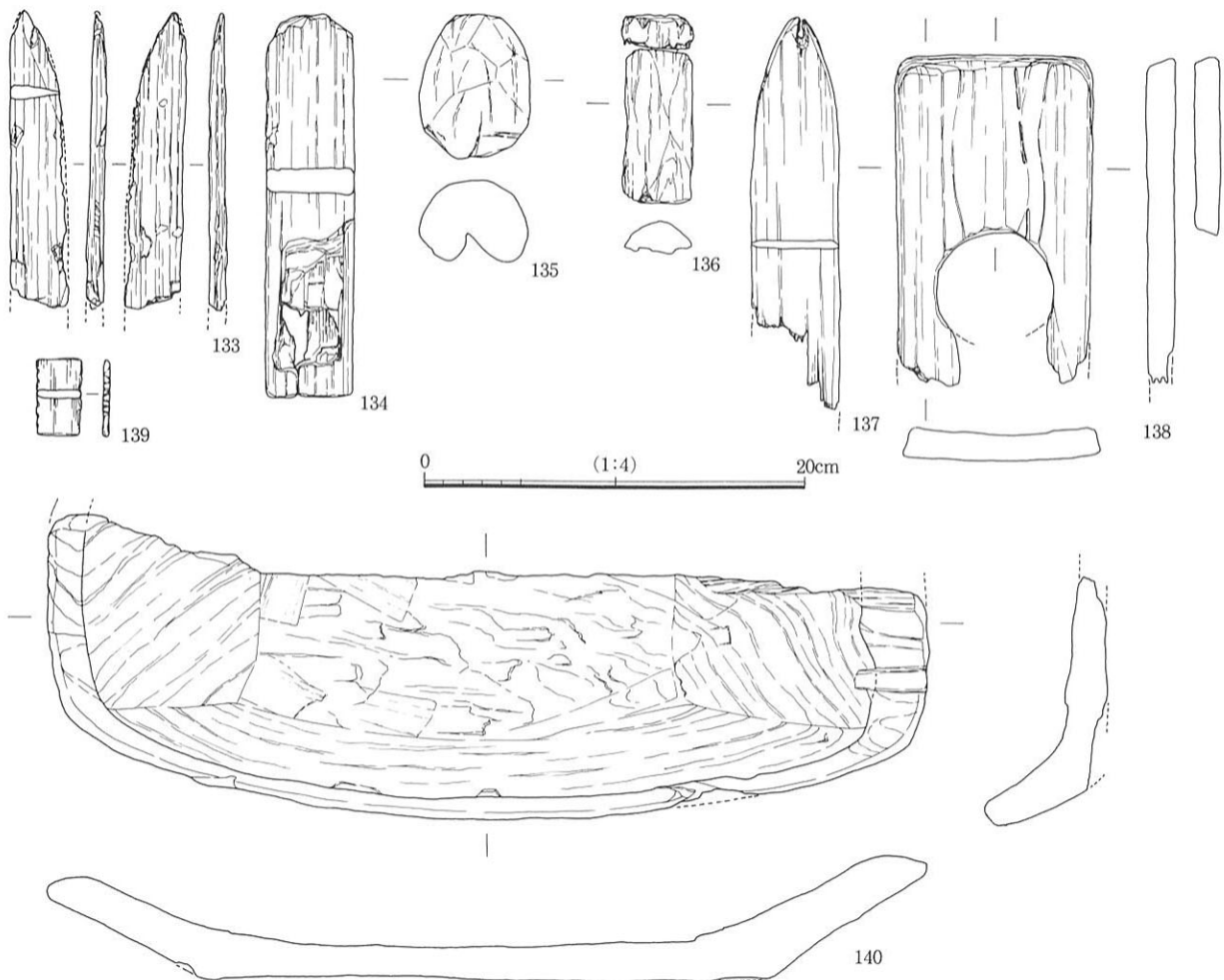


図212 木製品7

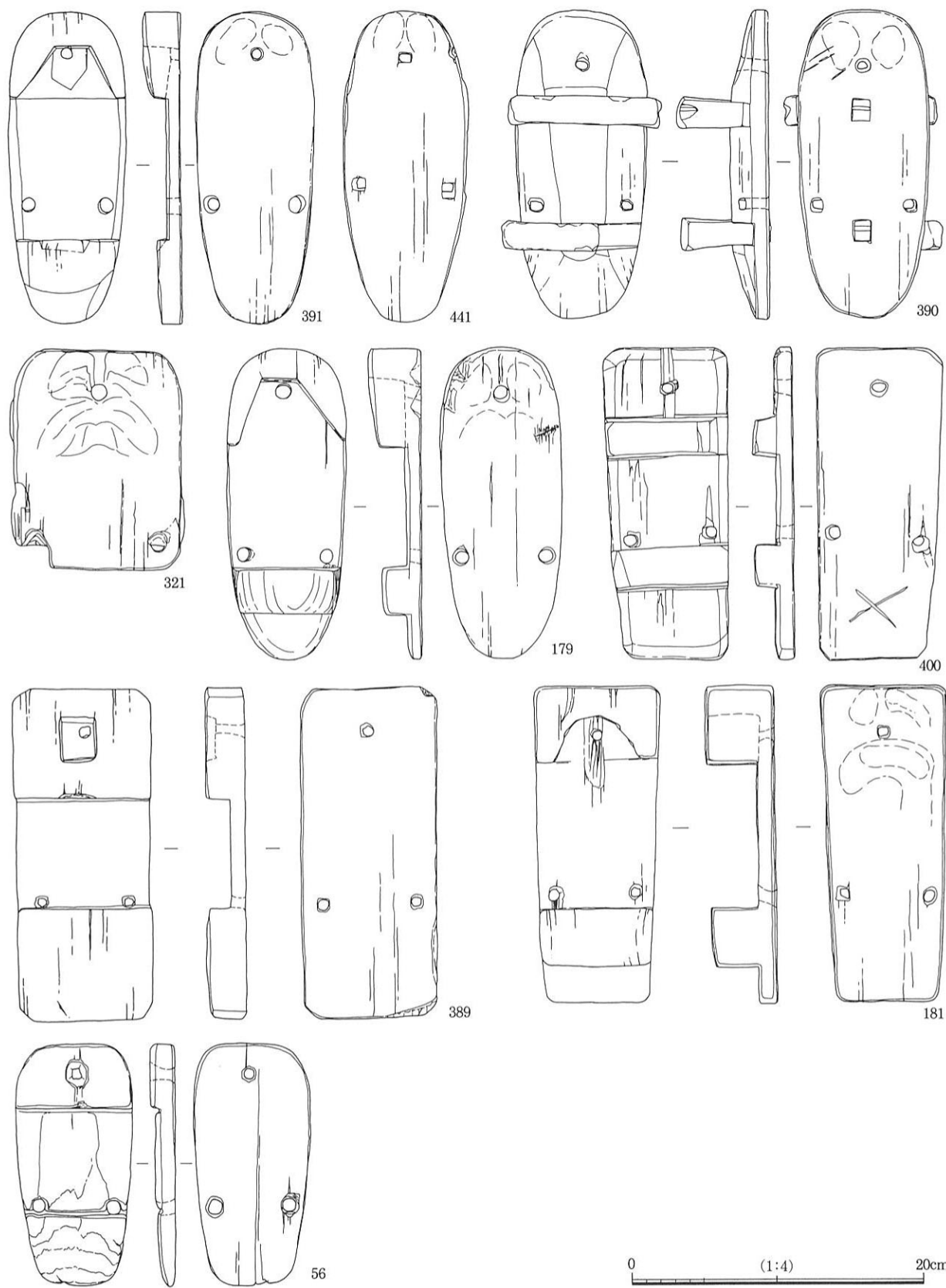


图213 下駄

40は断面がほとんど長方形に近く、刃部の削りだしは少ない。41は側面より先端に面を持ち刃部を丁寧
に作り出している。42は磨耗が著しい。43は側面の削りだしがほとんどみられず、斜めにカットした先
端に刃部を作り出している。44は刃部を顕著に作り出しておらず、断面は方形を呈する。ただし先端の
彎曲部には磨滅がみられる。45は顕著な刃部はみられないが磨耗は激しい。46は側面と先端を共に刃部
として削りだす。49は著しく薄く、刃部は側面のみである。52は側面にも刃部をつくっているが、先端
が多くの使用痕跡を残す。

53～55は柄であり、いずれも木製の刀身の痕跡を残す。

56は釘で接合された方形の組み物であるが、性格は不明である。

57～63は曲物および蓋類である。58は漆製品であり、裏面の段部分を除き黒色漆が施されている。59・
60は底板、61・62は蓋板と考える。59は底の表面に薄く漆が残っており、また外周との接合に用いた木
製または竹釘が一部残る。61は中心部に樹皮を下降したつまみの一部が残る。63は中心部に直径3cmの
孔をもっており、さらにその周辺が磨耗している。

64は人形と考える。一端の近くに切り込みによるくびれをもち、さらにその直下に未完通の小孔を穿つ。

65～70は栓と考える。71・72は桶であり、72は図化されていないが、タガは共に2段である。なお底
板の位置は現位置を保っていない。

77～79は家具または建築部材の一部と考えられ、77と79は接合して完形品になる。漆製品である。

80は蓋の把手、83は組み合わせ式の台または脚と考えられ、80・82・84・85は組み合わせ式の灯明台
である。

86～89は箆および刷毛であり、86・87共に漆が付着して86は柄が87は身のほとんどを欠損している。
88は薄い漆が表面に塗られており、柄部分に線刻の文字が描かれ、身の先端近くには連続する小孔に平
行して糸で締めた痕跡がのこる。共に1枚板を割って刷毛先を挟み込んでいる。89は身の大半に漆が付
着している。刷毛先の固定は基本的に糸綴じで一部に補強の木または竹釘が用いられている。また身
の中位にも同様な目的で使用された小孔がみられる。

90～92は縦に二分割された鍬先状の木製品である。

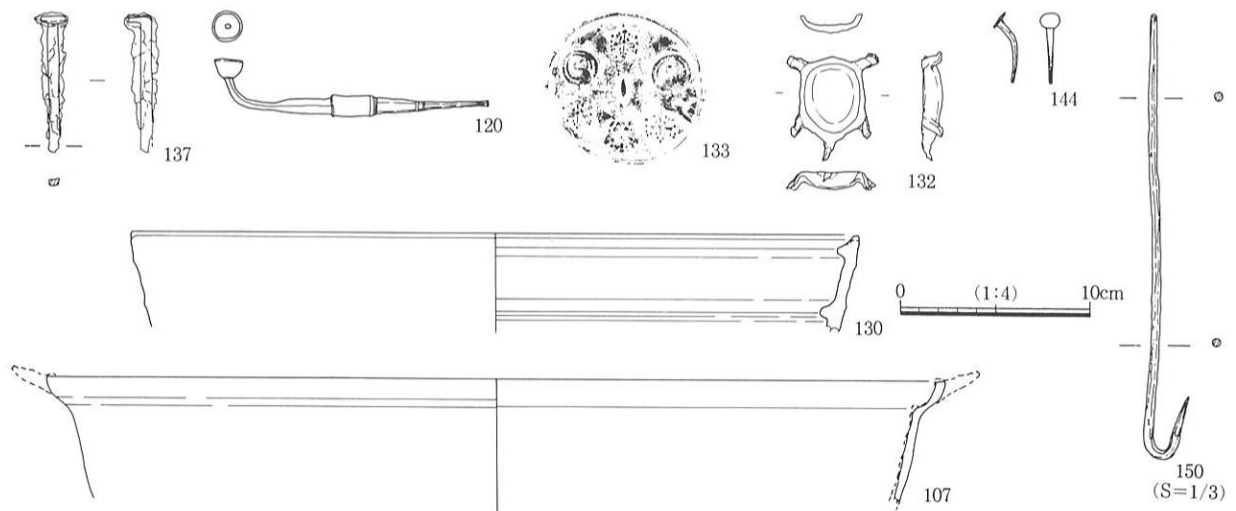


図214 金属製品 1

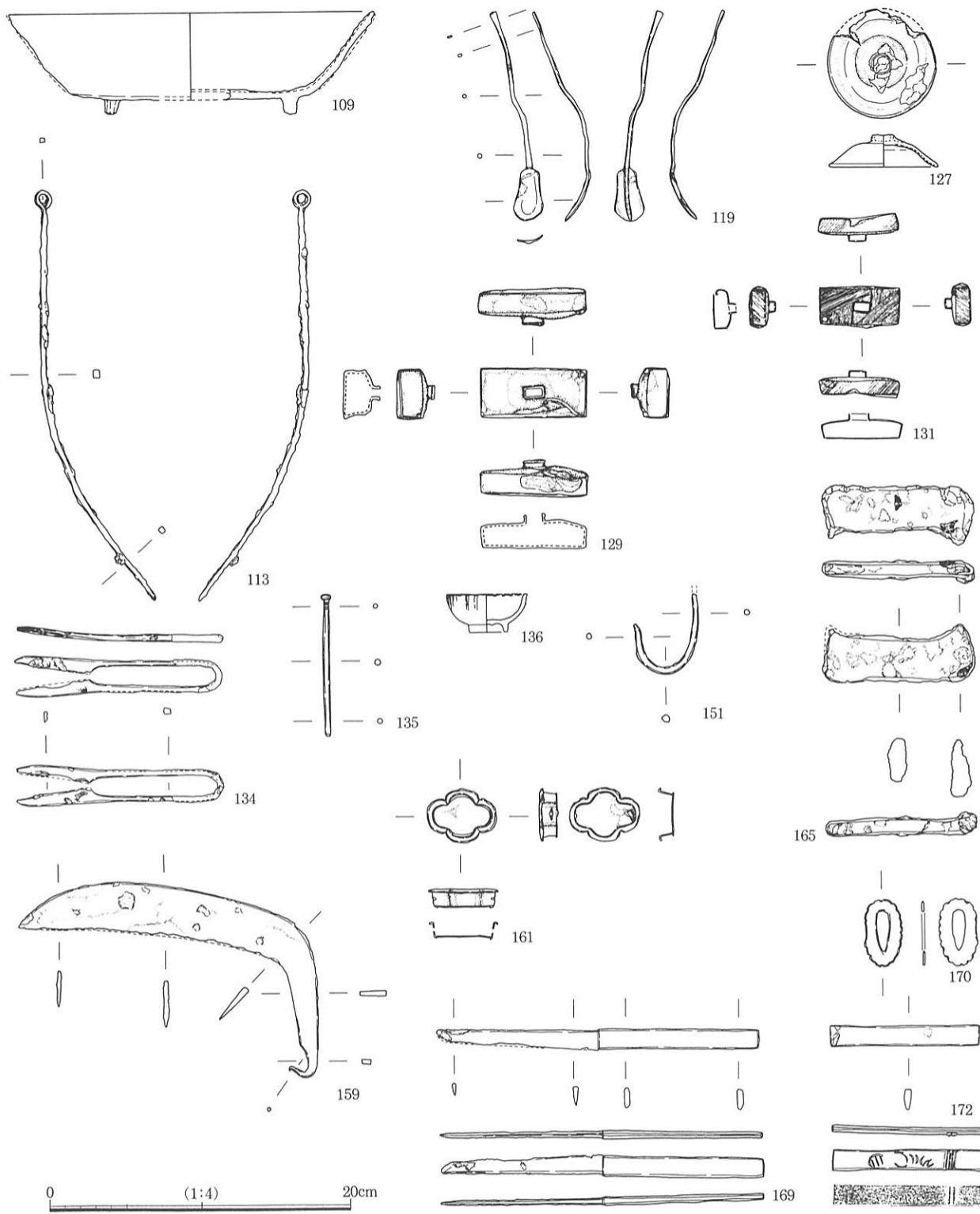


图215 金属製品2

93～100は羽子板または羽子板状木製品である。93は柄を欠損している。身の両側下端に2段の削りこみをおこなう。また身の先端の一方が削られている。94の身は正方形に近い形を呈している。断面は左右の端部が共通せず、一方のみ丸みが強い。95は身の上端に墨書を残す。下端から柄にかけて2段の削りこみをおこなう。96は細身の形態を呈する。柄は端部にむかってわずかに幅を広げる。

97は身幅のとくに広い形態を呈する。断面はわずかに彎曲し、柄部分はさらに厚みを減じている。手桶の柄部分の可能性はある。

98は長方形の身から直線的に斜めに柄につながる。断面は柄にむかって薄くなる。

99は身の下端に2段の削りこみをもつ。柄は端部に向かって幅広くなり端部は丸みを持って成形される。100も同様であるが柄を欠損する。表面に打痕をみせる。

106・105は火鑽臼、107は火鑽杵である。臼は焦げ痕の残る直径1.0cm、深さ0.9cm程の穴が1cm以下の間隔で見られる。杵は上端が断面四角形に削りだされ、下端には焦げ痕が残る。軸の最大径は1.2cmである。

108・119は荷札形、109は切り込みをもった木製品である。

122は漆塗り木製品である。円筒部分は木地のままであるが、立方体の部分は菱形面が黒色漆、それ以外の面が赤色漆である。また中央に貫通孔をもつ。性格は不明である。

123は3.1cmを単位とする全長30.25cmで掻線により10等分され、さらに列点により10に細分される。

124～132は楔状木製品である。規模はほぼ共通し、かならず1面が斜めに切り落とされている。

133は片刃の刀形である。背は断面形が丸みを帯びて仕上げられている。

134は一部に方形の抉りをもつもの、135は毬状、136は人形状、137は卒塔婆の下端に似る形態を示す。

138は断面が弧を描き、樽の一部である可能性も考えられる。

140は大形の鉢状木製品である。高台は無く、白木で隅丸方形を呈し浅く広がった断面をもつ。

c、金属製品

金属107・130は鉄鍋である。107は受け口状になっており、底部に向け緩やかなカーブを描く。130は口縁部から底部に向け真っ直ぐすばまり、内面に2条の突帯を巡らせる。

金属109は鉄製の鉢である。内面は酸化土砂の付着、外面は剥落が著しく遺存状況は良くない。底部には多角柱状の足が付き、その位置関係から3足あったものと考えられる。

金属113は金箸である。全体的に錆膨れが著しい。錆の状況から鍛造品と考えられる。円環を呈する頭部と断面方形を呈する本体部からなる。頭部は本体の頭部側を約4cmほど鍛打し、やや薄い板状にしたものを円形に曲げて作り出している。

金属119は銅製の匙である。全体的に捻れが著しい。匙部分は僅かな括れがあり、先端部は丸く収められる。深さはそれ程無く僅かに彎曲している程度である。柄部分は頭部から1/4が扁平に、残りが丸く作られている。柄が丸くなり始める付近に5条の細線を刻んでいる。

金属120は真鍮製の煙管である。羅宇がみられず吸い口に直接雁首を挿入した形で出土した。

金属127は銅製の蓋である。口縁部に大きな欠損部が認められ、その影響によってひび割れ、ひずみが生じている。また、摘み部には酸化土砂の付着が著しく形状がはっきりしない。内面には炭化物状の黒色付着物がほぼ全面に見られる。

金属129・131は銅製の水滴である。129は上面から側面にかけて大きな凹みがみられる。底板以外の部分は注水部も含めて1枚の薄い銅板を折り曲げて製作されている。出水部は内面側から穿孔している。131も129と同様な製作方法が取られているが注水部は別作りとなっており、後から本体に接合している。131の本体部には長軸に対して平行・直行・斜方向の3パターンの研磨が施され研ぎ分けによる文様効果を得ようとしたものと思われる。

金属132は亀形青銅製品である。甲羅を蓋とした容器の身にあたる。頭部を欠損し、身内部には腐食した植物遺体が付着する。

金属134は鋏である。刃こぼれが著しい。両面の刃部の付け根付近にそれぞれ「大」・「道？」といった文字が細い線で印刻されている。

金属135は銅製の簪であろう。頭部は円盤状を呈し、本体部分は断面円形を呈する棒状である。頭部直下に4条の非常に浅い沈線が巡る。

金属136は銅製の小椀である。口縁端部に28箇所以上の刻み目を入れ、それから垂下するように体部外面に沈線状の細線を施す。但し、緑青などの影響によって外面が荒れていることもあり明確な本数は確認できない。紅皿のようなものであろうか。

金属137は鉄製の釘である。断面方形を呈し、頭部を「L」字状に曲げて作る。先端部は欠損している。

金属144は銅製の釘である。頭部から1cmのところで屈曲する。頭部は丸く作られている。

金属150・151は吊り具である。150は鈎状部分の先端を鋭く仕上げている。151は銅製の鋳造品であろう。鈎状の先端は丸く収められる。

金属159は鎌である。刃部は緩やかに内彎する。柄の末端は鈎状になっている。また、柄には目釘孔が存在しないことから木製の柄に挟み込み、紐などで固定して使用したものと考えられる。

金属161は銅製品である。平面花菱形を呈する。長軸方向の左右両側に目釘孔状の小孔（孔径0.2cm）が穿たれている。長軸方向の側面下端に作り出された2箇所のツメで底板を挟み込んで製作されている。性格は明確ではないが襖などの引き手であろうか。

金属165は「鏝形」の火打ち金である。全体的に錆が著しい。一方の打ち込み部を欠損している。

金属169は銅柄付き小柄である。刃部の欠損著しい。柄は1側面を平坦に、他面をやや丸みを持たせて作成される。

金属170は銅製の切羽である。周囲は輪花状に作られる。

金属172は銅製の小柄の柄である。1側面の基部側には2本の幅0.2cmの突線が陽鑄され、中央部には弧状を呈するものや短突線が陽鑄される。後者の模様は明瞭ではない。

金属176は銅製の懸け仏である。両手を体部前面右肩下の位置で組む。印の形は不明。脇腹や左膝あたりで衣類の襷状のものが細い線で陰刻される。顔は目が細い線で陰刻され、鼻は三角形に僅かに隆起する。口は表現されていない。蓮華座は仏から見て右側部分が剝落する。蓮弁は2条の細い線で陰刻されており、5弁あったものと推定される。また、蓮華座の下端には2条の細い線が巡っている。なお、仏腹部の裏面には取り付け用の突起（幅0.2・長さ0.6・高さ0.9cm）が作り出されている。

金属177（銭537）は慶長丁銀である。表面に大黒像と「寶常是」の極印がうたれ、半分以上が切り遣いされている。また周縁部にも切り遣いの痕跡がみられる。現存で長さ3.9cm、幅3.9cm、厚さ3mmを測る。

室町時代末期以降、関西では灰吹銀が用いられていたが、品位がまちまちで取引に不便なため、徳川氏が慶長6年（1601）に「常是」をうった丁銀に統一した。丁銀は初期には切り遣いされていたが、元

和期以降は切り遣いされなくなった。元の形はなまこ形で、量目は一定でなく30～50匁くらいある。慶長丁銀は銀の純成分が80%で、最も純度の高いものとされる。

金属371は椀形滓である。

金属372は鉄製の柄付き皿である。柄と皿が一体成形された铸造品。皿部分は平面正円形を呈し、内面の口縁部直下に幅0.2cmの浅い沈線が1条巡る。口縁端部はやや尖り気味に仕上げられている。また、底部外面には幅0.2cm・高さ0.2cmの高台状の突線が1条巡る。柄部分には酸化土砂や炭化物の付着が著しく、形態が判然としない。他の類例から考えると断面は蒲鉾形を呈し、長さ2cm弱のものが想定される。

d、羽口

羽口には1・10・93などのように器壁の厚い一群と87のように薄い一群がある。また、形態的にも基部から先端部にかけて真っ直ぐ伸びる円柱状を呈する1・93と先端部から基部にかけて「ハ」の字状に開く10・87の2種がある。概して前者のほうが通風孔径が1cmほど大きい傾向が窺える。1・10・93の胎土には長石・石英などを多く含み。粗いものが使われ、87は長石・石英が含まれるが、精良なものが使用される。

羽口1は炉内に突出した部分でガラス質になった滓が付着する。先端下部には滓の剥がれた痕跡が観察でき、上部には炉壁材とそれに付着するガラス質滓が立ち上がる。外面は丁寧なナデ調整が施される。通風孔径が3.5cmと大きく、鍛冶用の羽口と思われる。挿入角度は15度である。

羽口10は炉壁に据えられた部分から炉内に突出した先端部にかけての部位である。先端ほぼ全面にガラス質状の滓が付着し、下端には分厚い椀形滓が形成される。この滓が通風孔を塞ぐことになり廃棄されたものである。外面は丁寧なナデ調整が施される。鍛冶用の羽口であろう。挿入角度は11度である。

羽口76は先端部の破片である。ガラス質状の付着が観察できる。通風孔径の大きさから铸造用かと考えられる。

羽口87は小型の羽口で先端にガラス質になった滓が薄く付着する。外面は強いナデ調整が施され、面取り状になっている。鍛冶用の羽口であろう。

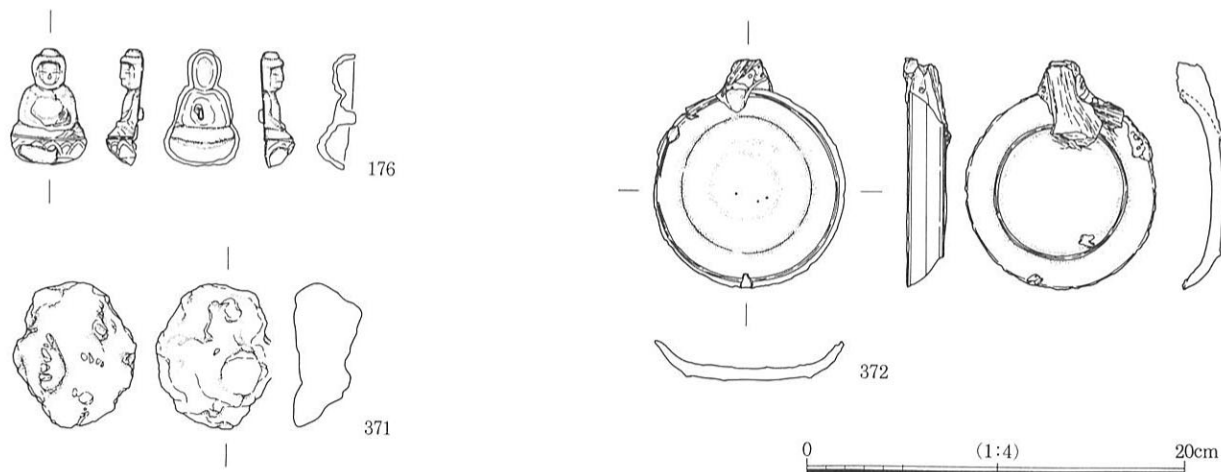


図216 金属製品3

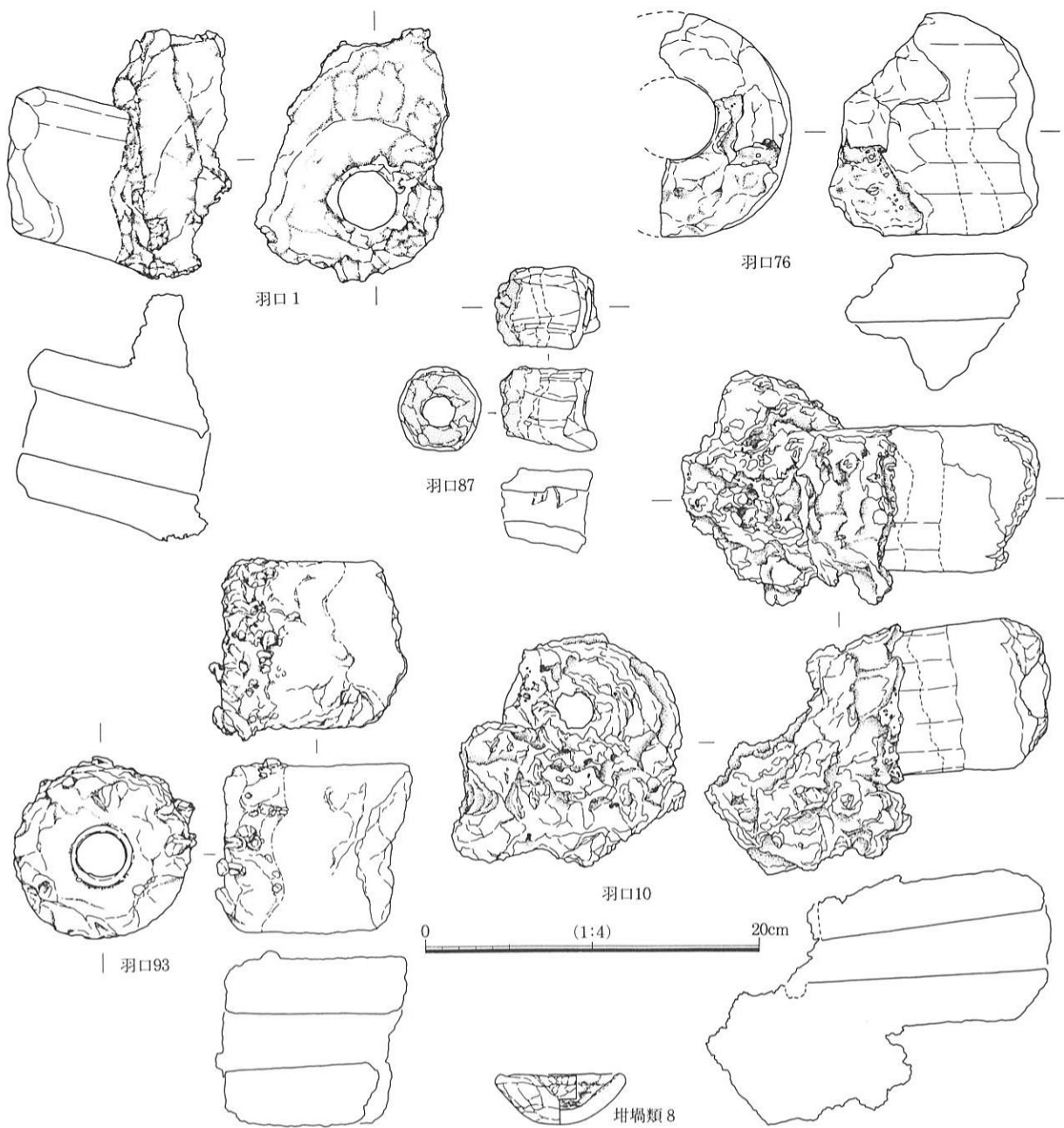


图217 羽口・埴塼類

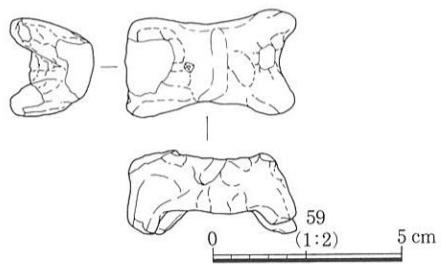


图218 土人形

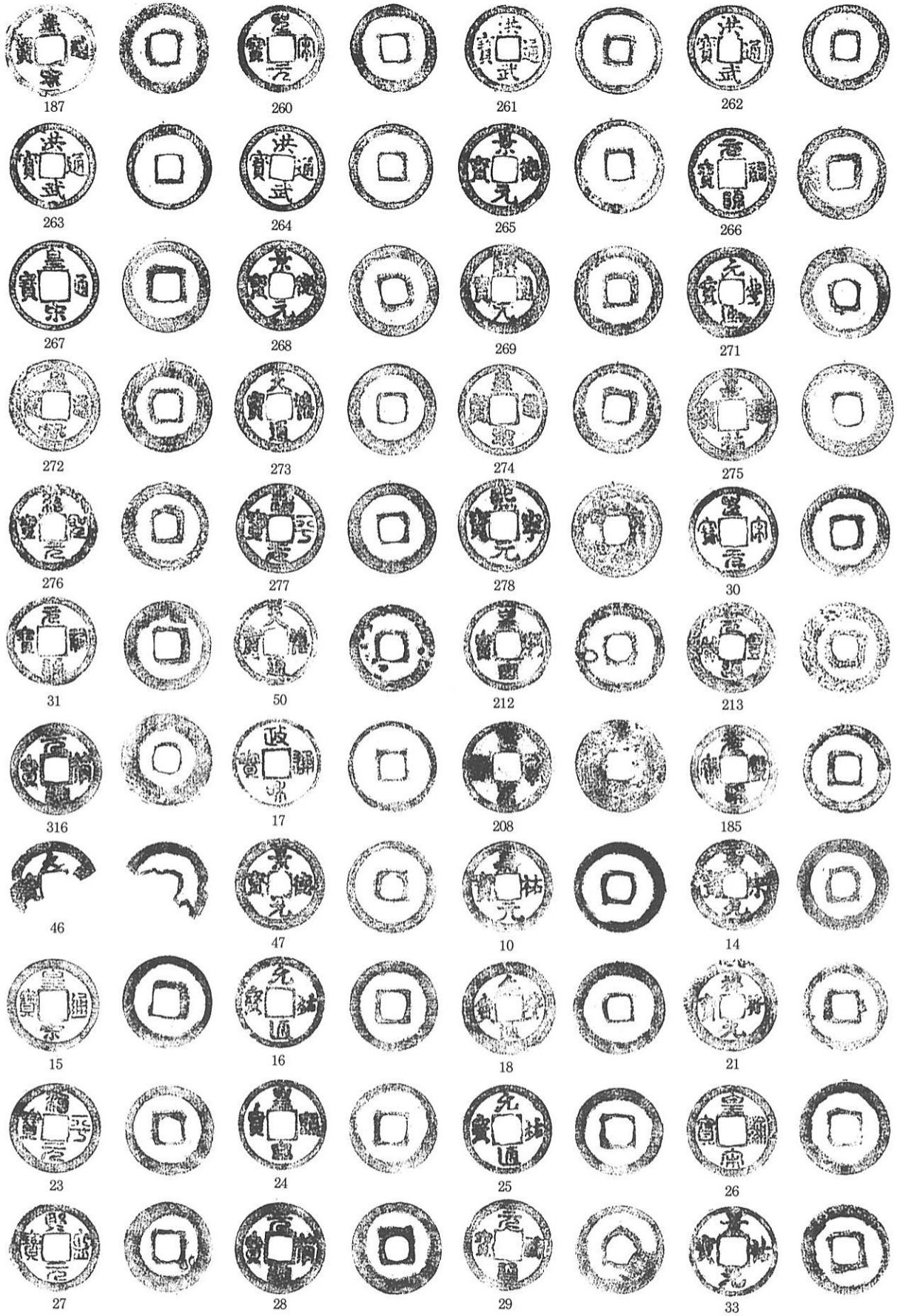


図219 銭1

羽口93は炉壁に据えられた部分から炉内に突出した先端部にかけての部位である。先端にはガラス質状の滓が付着する。76・93共に外面には丁寧はナデ調整が施される。通風孔の大きさから铸造用かと考えられる。

e、坩堝類

坩堝類8は2 B井戸2出土である。手捏ねにより半球形の断面をつくりだしている。内面にガラス化した滓が部分的に付着している。酸化色は褐色である。口縁部の一端に幅1.2cmの注口をつくりだし、その部分が融解金属と滓で埋まっている。

f、土人形

土人形56は手捏ねによる四足獣である。胎土は細密で色調は灰褐色を呈する。頭部を欠損しているが、類例により犬の可能性が高い。

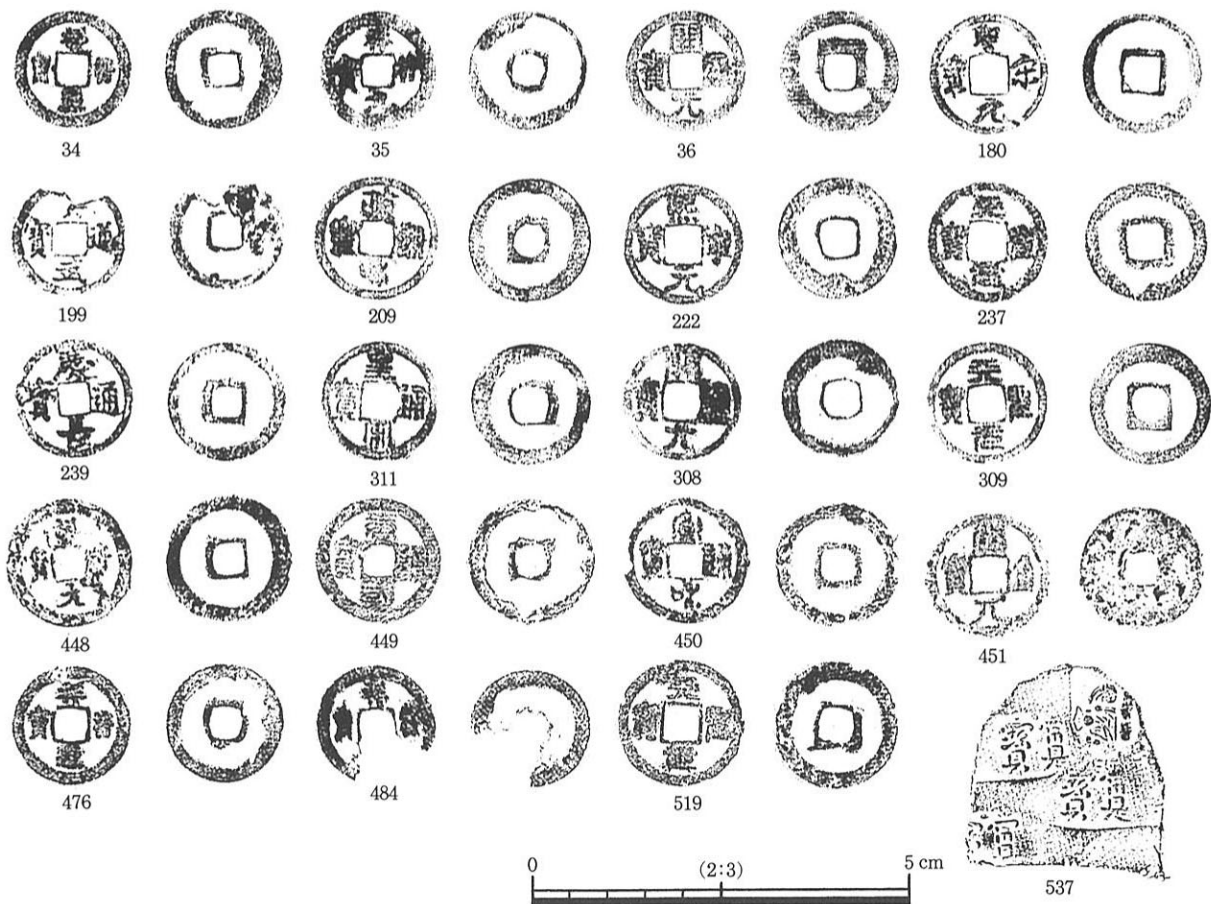


図220 銭2